令和　　2　　年度

津山圏域消防組合日本原分署新築工事　設計書

参　　考

設計者	検算者	主査	参事	課長

位置　　奈義町　　滝本　　地内

工種・事業量

鉄骨造２階建て　延べ床面積：408.64㎡

本工事は、津山圏域消防組合から津山市に委託された業務である。

入札設計書（見積参考資料）

この入札設計書は、特記仕様書、仕様書、施工条件明示、図面、目的物の性能・　規格、構造物等の設計計算書を除き見積参考資料として、入札参加者の迅速、適正かつ確かな工事費の見積りと積算の技術力向上のための一資料であり、請負契約上の拘束力を生じるものではない。

監督員	津山市　総務部　財産活用課　（氏名）　　曽和　卓弥

建設リサイクル法　対象外　工事

工 事 番 号　R2　FM工第　1　号

様式15号

入札金額内訳書

１工　事　名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事
２工事場所	奈義町　滝本　地内

住所又は所在地	
商号又は名称	
代表者氏名	

工　種	単位	金額(円)	摘　要
(A)　直接工事費	1式		Ⅰ+Ⅱ+Ⅲ+Ⅳ+Ⅴ
Ⅰ　総合仮設	1式		
Ⅱ　建築主体工事	1式		
Ⅲ　外構工事	1式		
Ⅳ　電気設備工事	1式		
Ⅴ　機械設備工事	1式		
(B)　共通仮設費	1式		
(C)　現場管理費	1式		
(D)　一般管理費	1式		
工事価格			(A)+(B)+(C)+(D)

※ 上記工事価格と入札金額は、一致すること。

工　種	単位	金額(円)	摘　要
Ⅰ　総合仮設工事	1式		
小計	1式		
Ⅱ　建築主体工事			
1　直接仮設工事	1式		
2　土工事	1式		
3　地業工事	1式		
4　鉄筋工事	1式		
5　コンクリート工事	1式		
6　型枠工事	1式		
7　鉄骨工事	1式		
8　組積工事	1式		
9　防水工事	1式		
10　タイル工事	1式		
11　木工事	1式		
12　屋根及びとい工事	1式		
13　金属工事	1式		
14　左官工事	1式		
15　建具及びガラス工事	1式		
16　塗装工事	1式		
17　内外装工事	1式		
18　ユニット及びその他工事	1式		
小計	1式		1～18計

工　種	単位	金額(円)	摘　要
Ⅲ　外構工事			
1　構内舗装工事	1式		
2　囲障工事	1式		
3　一般側溝工事	1式		
4　金属工事	1式		
5　フラッグポール工事	1式		
6　雑基礎工事	1式		
小計	1式		1～6計
Ⅳ　電気設備工事			
1　幹線動力設備工事	1式		
2　電灯コンセント設備工事	1式		
3　弱電設備工事	1式		
小計	1式		1+2+3

工　種	単位	金額(円)	摘　要
Ⅴ　機械設備工事			
1　衛生設備器具	1式		
2　給水設備	1式		
3　排水設備	1式		
4　給湯設備	1式		
5　消火器設備	1式		
6　ガス設備	1式		
7　合併浄化槽設備	1式		
8　空調設備	1式		
9　換気設備	1式		
10　次亜水設備	1式		
小計	1式		1～10計

施工条件明示事項（特記仕様）		
工　　程		① 工期を厳守すること。 ② 工事の着手に先立ち、事前調査を十分に行い、施工計画書を作成し、監督員・監理者の承認を受けること。 ③ 入札決定後、早急に工程表を作成し、監督員・監理者・津山圏域消防組合と協議の後、工程を決定すること。
施 工 時 間		① 原則昼間施工とし、8：30～17：00 を厳守すること。 ② 地域の行事等、監督員・監理者・津山圏域消防組合の指示する日時は作業を中止すること。
用 地 関 係		① 工事場所近接の民地所有者・隣接住民との協議を密にし、トラブルにならぬようにすること。 ② 工事車両については敷地内の指定する場所に駐車すること。駐車スペースの不足分は、請負業者にて確保すること。 ③ 自衛隊駐屯地の近くであるため、監督員及び奈義町と協議を密にし、工事利用スペースについて事前に検討を行うこと。
環境対策	騒音・振動	① 作業機械は、低騒音型及び排出ガス対策型とすること。 ② 騒音・粉塵等の発生に対して綿密な工法を計画し実施すること。 ③ 騒音に配慮し、ﾌﾞﾚｰｶｰの使用は出来るだけ控えた工法を検討すること。
	大気・排水	① 汚染された排水等が付近の川、側溝などへ流出しないよう注意のこと。 ② 粉じんを制御するため、散水等は十分注意すること。
	周 辺 道 路	① 敷地への出入りに際し、前面道路を汚さぬよう留意すること。 ② 同じく敷地境界側溝コンクリ―ト蓋、擁壁、生垣等を破損、汚損しないよう留意すること。
安 全 対 策		① 工事期間は、事前に工事予告板・工事看板を配置し、周辺への連絡・周知を徹底すること。 ② 材料搬出入時には車両通行・歩行者に注意して搬出入すること。 ③ 工事進入路等に状況に応じて敷き鉄板、土嚢等を敷き階段、水路・マンホール等の養生をすること。 ④ 周辺住民が工事エリア内に侵入できないよう、また動線が重ならないように仮設計画、安全対策をすること。 ⑤ 国道沿いカーブの工事であるため、工事仮設物等によって見通しが悪くならないようにするなど、車両・歩行者の安全な通行を常に確保すること。 ⑥ 屋根上・足場上からの落下物等がないよう注意すること。 ⑦ 敷地前面道路付近工事の際や、大型車両搬入の際には、適宜交通誘導員を合計 30 人以上配置し施工を行うこと。
工 事 用 道 路		① 敷地内・周辺道路に関して安全対策を講じること。 ② 前面道路を使用・占用する場合・通行制限を行う場合には、それに応じた届出書(警察署・国交省・奈義町へ各提出)を事前に作成し、各許可を得ること。 ③ 工事完了後は速やかに完工届等を提出し、本工事の完了検査までに各手続きを終了させておくこと。

仮　　設		① 近隣住宅・隣接敷地・自衛隊駐屯地などへ影響の出ないよう、仮設を検討すること。 ② 仮設水道・電気等は請負業者にて準備すること。 ③ 建物および付属する設備の試運転等、引き渡しまでの期間内の水道・光熱費はすべて請負業者の負担とする。
残土・廃棄物		① 工事等で生じた産業廃棄物は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき適正に処分すること。 ② 建設リサイクル法を厳守し、分別解体及び特定建設資材の再資源化を行うこと。 ③ 場内に廃材を仮置きする場合は分別ボックスを設置し適切に分別すること。 ④ 事前に廃棄物処分計画書を提出し、承認を得た後、着工すること。 ⑤ 産業廃棄物におけるマニフェストシステムの実施を行い、工事完了時にＥ票の写し及び集計表を提出すること。(電子マニフェストの採用も認める)
支障物件	電　気	① 着工前に、中国電力と協議を行い、必要に応じ適切な措置をとること。 ② 敷地境界上部を複数の架空線が通っているため、留意し施工を行うこと。
	ガ　ス	① 着工前に、工事に支障ないか調査を行い、必要に応じ適切な措置をとること。
	水　道	① 着手前に、奈義町地域整備課と協議を行い、必要な手続き・措置をとること。
	電　話	① 着工前に、工事に支障ないか調査を行い、必要に応じ措置をとること。
	その他	① 着工前に、工事に支障ないか調査を行い、必要に応じ措置をとること。
そ　の　他		① 敷地内外の工作物等を破損した場合は、無償で現状復旧をすること。 ② 施工中に工事対象外の部分に損害が発生した場合は、請負業者の責任において修理・弁償等の保証を行うこと。 ③ 原則、数量変更に伴う増減契約変更はしない。 ④ 運搬時、積載オーバーしないこと。 ⑤ 工事に伴う官公庁等の手続きは延滞なく請負業者で費用等を含め行うこと。 ⑥ 工事用車両の搬入ルート、各敷地・隣接建物の現状について、着手前に必ず現地確認のこと。 ⑦ 上下水道工事は奈義町の指定工事店による施工とし、着工前後の書類手続きを請負業者にて遅延なく行い、工期内に奈義町の所定の工事完了手続きを行うこと。 ⑧ 設計工期は約 7.0 ヶ月間とする。 ⑨ 請負業者は資材の調達にあたり、県内産建設資材、県内取扱店からの購入に努めること。

工　　費					
設計金額		(消費税額)			
		(消費税抜)			

工事内訳書

	名　　称	種類・形状	数量	呼称	単価	金　額		備　考
	直接工事費		1.0	式				
	共通費							
	共通仮設費		1.0	式				
	現場管理費		1.0	式				
	一般管理費		1.0	式				
	合　計（工事価格）		1.0	式				
								消費税率(%)
	消費税相当額		1.0	式				10.0%
	総　合　計		1.0	式				

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
	直接工事費集計						
Ⅰ	総合仮設		1.0	式			
Ⅱ	建築主体工事		1.0	式			
Ⅲ	外構工事		1.0	式			
Ⅳ	電気設備工事		1.0	式			
Ⅴ	機械設備工事		1.0	式			
	小　　計		1.0	式			

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
I	総合仮設						
	仮囲い	シート張り H=2000	1.0	式			
	キャスターゲート	W6.0*H1.8　2箇所	1.0	式			
	交通誘導員	大型車両入場時	1.0	式			
	竣工調書		1.0	式			
	竣工写真	津山市建築工事施工管理業務報告要領による	1.0	式			
	室内濃度測定	資料採取費、材料費等、分析費、報告書作成費を含む。	1.0	式			
	計						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
Ⅱ	建築主体工事						
1	直接仮設工事		1.0	式			
2	土工事		1.0	式			
3	地業工事		1.0	式			
4	鉄筋工事		1.0	式			
5	コンクリート工事		1.0	式			
6	型枠工事		1.0	式			
7	鉄骨工事		1.0	式			
8	組積工事		1.0	式			
9	防水工事		1.0	式			
10	タイル工事		1.0	式			
11	木工事		1.0	式			
12	屋根及びとい工事		1.0	式			
13	金属工事		1.0	式			
14	左官工事		1.0	式			
15	建具及びガラス工事		1.0	式			
16	塗装工事		1.0	式			
17	内外装工事		1.0	式			
18	ユニット及びその他工事		1.0	式			
	次頁に続く						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
	前頁より						
	計						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
1	直接仮設工事						
	遣り方		1.0	式			
	墨出し		1.0	式			
	養生	躯体､仕上	1.0	式			
	清掃･片付け	施工中	1.0	式			
	外部足場	枠組本足場 W900 手すり先行 12m 未満	1.0	式			
	垂直養生	養生シート張り	1.0	式			
	安全手摺	枠組足場用	1.0	式			
	内部足場	脚立	1.0	式			
	内部足場	棚足場 H5000	1.0	式			
	階段足場		1.0	式			
	鉄骨建て方足場	高所作業車10m 自走式ﾘﾌﾄ(ﾌﾞｰﾑ型) 重機回送費 共	1.0	式			
	小　　計						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
2	土工事						
	根切り		359	m3			
	床付		135	m3			
	埋戻し	根切土流用	218	m3			
	現場発生土　運搬･処分	場外任意処分	142	m3			
	重機回送費	ﾊﾞｯｸﾎｳ等	1.0	式			
	小　　計						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
3	地業工事						
	(地業)						
	基礎下 再生砕石	t120	4.2	m3			
	土間下 再生砕石	t120	27.4	m3			
	防湿シート	ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｨﾙﾑ t0.15	221	m2			
	断熱材敷込	ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ t25　3種B	156	m2			
	(地盤改良)						
	地盤改良	柱状改良　SSコラム　施工管理費、品質管理費含む	1.0	式			
		六価クロム溶出試験、事前配合試験ほか					
		頭部モールドコア、全長コアボーリングほか					
	小　　計						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
4	鉄筋工事						
	異形鉄筋	SD295A　　D10	2.3	t			
	異形鉄筋	SD295A　　D13	11.5	t			
	異形鉄筋	SD295A　　D16	0.8	t			
	異形鉄筋	SD345　　D19	2.2	t			
	異形鉄筋	SD345　　D22	6.6	t			
	ｶﾞｽ圧接	D19+19	60.0	か所			
	ｶﾞｽ圧接	D22+22	206	か所			
	鉄筋加工組立		22.5	t			
	鉄筋運搬費		22.5	t			
	ｽｸﾗｯﾌﾟ控除		▲ 0.6	t			
	踏面 溶接金網	φ3.2-50角	4.6	㎡			
	踊場 溶接金網	φ3.2-50角	3.5	㎡			
	溶接金網敷込		8.1	㎡			
	小　　計						

	名　　称	種 類・形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
5	コンクリート工事						
	捨てｺﾝｸﾘｰﾄ	FC-18 S15	6.8	m3			
	鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ	基礎部 FC-24 S15	149	m3			
	鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ	地上部 FC-21 S18	16.6	m3			
	打設手間	捨てｺﾝｸﾘｰﾄ	6.8	m3			
	打設手間	鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ 基礎部	149	m3			
	打設手間	鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ 地上部	16.6	m3			
	ポンプ圧送	基本料金(捨て基礎部、地上部)	3.0	回			
	ポンプ圧送	圧送料金 捨てｺﾝｸﾘｰﾄ	6.8	m3			
	ポンプ圧送	圧送料金 鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ 基礎部	149	m3			
	ポンプ圧送	圧送料金 鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ 地上部	16.6	m3			
	構造体強度補正		1.0	式			
	小　　計						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
6	型枠工事						
	普通型枠	基礎部	427	m2			
	普通型枠	地上部	4.4	m2			
	打放型枠	B種　基礎部	28.40	㎡			
	打放型枠	B種　地上部	32.80	㎡			
	型枠運搬費		493	m2			
	打継目地棒	20×10	58.9	m			
	誘発目地棒	20×10	10.0	m			
	(外部)						
	打放補修	吹付下	34.1	㎡			
	打放補修	塗膜防水下	3.4	㎡			
	打放補修	素地	8.8	㎡			
	(内部)						
	打放面補修	塗床下	2.2	㎡			
	打放面補修	素地	12.7	㎡			
	小　　計						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
7	鉄骨工事						
	(主体鉄骨)						
	H形鋼	SS400 H-200×100×5.5×8	2.5	t			
	H形鋼	SS400 H-244×175×7×11	0.5	t			
	H形鋼	SS400 H-250×125×6×9	2.3	t			
	H形鋼	SS400 H-300×150×6.5×9	1.2	t			
	H形鋼	SS400 H-350×175×7×11	2.8	t			
	H形鋼	SS400 H-400×200×8×13	4.5	t			
	H形鋼	SS400 H-450×200×9×14	2.5	t			
	H形鋼	SS400 H-488×300×11×18	2.7	t			
	H形鋼	SS400 H-500×200×10×16	2.3	t			
	H形鋼	SS400 H-125×125×6.5×9	0.2	t			
	H形鋼	SS400 H-250×250×9×14	1.8	t			
	等辺山形鋼	SS400 L-100×100×7	0.1	t			
	角形鋼管	STKR400 □-100×100×2.3	4.0	t			
	角形鋼管	BCR295 □-300×300×12.0	1.3	t			
	角形鋼管	BCR295 □-300×300×16.0	6.5	t			
	次頁に続く						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
	前頁より						
	棒鋼	SS400 M-16	0.5	t			
	平鋼	SS400 FB-6×50	0.1	t			
	軽量ﾘｯﾌﾟ溝形鋼	SSC400 LC-100×50×20×2.3	1.5	t			
	鋼板	SS400 PL-6	0.6	t			
	鋼板	SS400 PL-9	1.7	t			
	鋼板	SS400 PL-12	0.6	t			
	鋼板	SS400 PL-19	0.1	t			
	鋼板	SN490C PL-22	1.0	t			
	錆止塗装	鉛･クロムフリー錆止めペイント JIS K 5674 工場2回塗	1,093	㎡			
	ﾄﾙｼｱ形高力ﾎﾞﾙﾄ	S10T M16×35	166	本			
	ﾄﾙｼｱ形高力ﾎﾞﾙﾄ	S10T M16×40	9.0	本			
	ﾄﾙｼｱ形高力ﾎﾞﾙﾄ	S10T M20×45	406	本			
	ﾄﾙｼｱ形高力ﾎﾞﾙﾄ	S10T M20×50	63.0	本			
	ﾄﾙｼｱ形高力ﾎﾞﾙﾄ	S10T M20×55	159	本			
	ﾄﾙｼｱ形高力ﾎﾞﾙﾄ	S10T M20×60	562	本			
	ﾄﾙｼｱ形高力ﾎﾞﾙﾄ	S10T M20×65	67.0	本			
	ﾄﾙｼｱ形高力ﾎﾞﾙﾄ	S10T M20×70	383	本			
	普通ﾎﾞﾙﾄ	M10×40	61.0	本			
	次頁に続く						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
	前頁より						
	普通ﾎﾞﾙﾄ	M12×40	1,315	本			
	普通ﾎﾞﾙﾄ	M8×40	11.0	本			
	ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄ	QL99-50	134	㎡			
	ﾃﾞｯｷ流れ止め	H130	55.7	m			
	ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ	M16×320	8.0	本			
	ﾍﾞｰｽ下均しﾓﾙﾀﾙ	285×145×T50	2.0	か所			
	ﾍﾞｰｽ下均しﾓﾙﾀﾙ	300×300×T50	2.0	か所			
	ｼﾞｬｽﾄﾍﾞｰｽ	J-300-16	6.0	か所			
	ｼﾞｬｽﾄﾍﾞｰｽ	J-300-12	2.0	か所			
	工場溶接費		660	m			
	溶接試験費	工場全数、超音波探傷試験(自社検査)、第三者検査立会費共	1.0	式			
	ｽｸﾗｯﾌﾟ控除		▲ 1.3	t			
	工場製作費	鉄骨加工組立	39.6	t			
	鉄骨運搬		39.6	t			
	現場建方費		39.6	t			
	ﾄﾙｼｱ形高力ﾎﾞﾙﾄ本締め		39.6	t			
	アンカーボルト埋込み	A種	8.0	本			
	建方重機費	階段鉄骨　共	1.0	式			
	次頁に続く						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
	前頁より						
	溶融亜鉛めっき処理	ホースリフター受鉄骨 HDZ55	2.0	t			
	同上 運搬費		1.0	式			
	(階段鉄骨)						
	等辺山形鋼	SS400 L-100×100×7	0.1	t			
	鋼板	SS400 PL-4.5	0.1	t			
	鋼板	SS400 PL-6	0.01	t			
	鋼板	SS400 PL-9	0.01	t			
	鋼板	SS400 PL-12	0.5	t			
	錆止塗装	鉛･クロムフリー錆止めペイント JIS K 5674 工場2回塗	42.2	㎡			
	ﾄﾙｼｱ形高力ﾎﾞﾙﾄ	S10T M16×45	5.0	本			
	ﾄﾙｼｱ形高力ﾎﾞﾙﾄ	S10T M20×50	5.0	本			
	ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ	M16×320	4.0	本			
	ﾍﾞｰｽ下均しﾓﾙﾀﾙ	300×200×T50	2.0	か所			
	工場溶接費		2.5	m			
	溶接試験費	工場全数、超音波探傷試験(自社検査)、第三者検査立会費共	1.0	式			
	ｽｸﾗｯﾌﾟ控除		▲ 0.02	t			
	工場製作費	鉄骨加工組立	1.1	t			
	次頁に続く						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
	前頁より						
	鉄骨運搬		1.1	t			
	現場建方費		1.1	t			
	ﾄﾙｼｱ形高力ﾎﾞﾙﾄ本締め		1.1	t			
	アンカーボルト埋込み	A種	4.0	本			
	小　　計						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
8	組積工事						
	（ 内部 ）						
	壁 ALC版	t100	58.6	㎡			
	壁 ALC版足元金物	L-50×50×6	8.6	m			
	壁 ALC版取付金物	L-65×65×6	11.2	m			
	壁 ALC版開口補強金物	L-65×65×6	25.0	m			
	内部ｺｰｷﾝｸﾞ		58.6	㎡			
	荷場･及び場内運搬費		1.0	式			
	機械器具損料		1.0	式			
	発電機損料		1.0	式			
	ﾛｯｸｳｰﾙ詰め		1.0	式			
	残材処理費		1.0	式			
	小口運賃		1.0	式			
	小　　計						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
9	防水工事						
	（ 外部 ）						
	ﾊﾞﾙｺﾆｰ 床 FRP系塗膜防水	大泰化工 コンパック工法 R-2同等	7.7	㎡			
	ﾊﾞﾙｺﾆｰ 立上り FRP系塗膜防水	大泰化工 コンパック工法 R-2同等	3.4	㎡			
	ﾊﾞﾙｺﾆｰ 笠木 FRP系塗膜防水	大泰化工 コンパック工法 R-2同等	5.6	m			
	打継目地 ｼｰﾘﾝｸﾞ	PU-2 20×10	58.9	m			
	誘発目地 ｼｰﾘﾝｸﾞ	PU-2 20×10	10.0	m			
	屋根取合 ｼｰﾘﾝｸﾞ	MS-2 15×10	75.4	m			
	笠木取合 ｼｰﾘﾝｸﾞ	MS-2 15×10	72.2	m			
	庇取合 ｼｰﾘﾝｸﾞ	MS-2 15×10	20.0	m			
	金物取合 ｼｰﾘﾝｸﾞ	MS-2 15×10	81.6	m			
	ﾄﾞﾚｲﾝ取合 ｼｰﾘﾝｸﾞ	MS-2 10×10	0.2	m			
	金属ｻﾝﾄﾞｲｯﾁﾊﾟﾈﾙt35 入隅 ｼｰﾘﾝｸﾞ	MS-2 15×10	2.5	m			
	金属ｻﾝﾄﾞｲｯﾁﾊﾟﾈﾙt35 竪目地 ｼｰﾘﾝｸﾞ	MS-2 20×10	30.4	m			
	金属ｻﾝﾄﾞｲｯﾁﾊﾟﾈﾙt35 RC取合 ｼｰﾘﾝｸﾞ	PU-2 15×10	15.2	m			
	金属ｻﾝﾄﾞｲｯﾁﾊﾟﾈﾙt35+16 取合ｼｰﾘﾝｸﾞ	MS-2 30×15	33.0	m			
	建具枠廻りｼｰﾘﾝｸﾞ	MS-2 15×10	135	m			
	二重水切下ｼｰﾘﾝｸﾞ	MS-2 15×10	20.8	m			
	次頁に続く						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
	前頁より						
	（ 内部 ）						
	面台取合 ｼｰﾘﾝｸﾞ	SR-2 10×10	29.8	m			
	流し前 ｼｰﾘﾝｸﾞ	SR-2 10×10	6.4	m			
	小　　計						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
10	タイル工事						
	（ 外部 ）						
	ﾎﾟｰﾁ床 磁器質ﾀｲﾙ	150角 屋外床用耐凍害品	4.8	㎡			
	ﾎﾟｰﾁ床 段鼻磁器質ﾀｲﾙ	150角用 屋外床用耐凍害品	1.6	m			
	ﾎﾟｰﾁ　ｽﾛｰﾌﾟ床 磁器質ﾀｲﾙ	150角 屋外床用耐凍害品	3.8	㎡			
	ﾎﾟｰﾁ　ｽﾛｰﾌﾟ床 段鼻磁器質ﾀｲﾙ	150角用 屋外床用耐凍害品	1.6	m			
	（ 内部 ）						
	床 磁器質ﾀｲﾙ	150角 屋外床用耐凍害品	3.8	㎡			
	巾木 磁器質ﾀｲﾙ	150角　H150　ﾎﾞｰﾄﾞ面 屋外床用耐凍害品	4.3	m			
	小　　計						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
11	木工事						
	（ 外部 ）						
	金属ｻﾝﾄﾞｲｯﾁﾊﾟﾈﾙ 出隅壁 胴縁下地	桧 竪胴縁18×90+18×45	15.9	m			
	金属ｻﾝﾄﾞｲｯﾁﾊﾟﾈﾙ 壁壁 胴縁下地	桧 横胴縁18×45 @606	43.1	㎡			
	（ 内部 ）						
	床 転し床組		29.4	㎡			
	床下 壁床 木胴縁下地		4.5	㎡			
	床 ﾗﾜﾝ合板	t5.5	7.4	㎡			
	床 構造用合板	t28.0	29.4	㎡			
	床 構造用合板貼手間	t28.0	29.4	㎡			
	SW脱衣･洗濯ｽﾍﾟｰｽ ﾗｲﾆﾝｸﾞ 耐水合板	t12.5+12.5	1.8	㎡			
	壁しな合板	t5.5	1.6	㎡			
	ｴｱｺﾝ壁 取付下地補強	ﾗﾜﾝ合板 t12 W900×H600	4.0	か所			
	仮眠室1～6 上り框	桧 W100×H120	10.8	m			
		A-11.27					
	畳寄せ	桧	24.5	m			
	仮眠室1～6 柱	桧 105×105	5.0	本			
		背割部 電気BOX埋込後 ﾊﾟﾃ処理					
	次頁に続く						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
	前頁より						
	仮眠室1～6 間柱	桧 25×105	2.0	本			
		背割部 電気BOX埋込後 ﾊﾟﾃ処理					
	階段室 手摺壁天端	桧積層材t25 W150	4.2	m			
	風除室 掲示板周囲 見切	桧積層材 W20×D25	5.2	m			
		A-11.25					
	出動準備室 三方枠	桧積層材t25 W1000×H2375	1.0	か所			
		A-11.23					
	AD雑 額縁	桧積層材t25	20.9	m			
	AW雑 額縁	桧積層材t25	61.1	m			
	WD1 木製建具枠(片引き)	W1565(建具巾835)×H2000	1.0	か所			
	WD2 木製建具枠(片引き)	W1900(建具巾1000)×H2000	1.0	か所			
	WD3 木製建具枠(片開き)	W650×H2000	1.0	か所			
	WD4 木製建具枠(片開き)	W900×H2000	1.0	か所			
	WD5 木製建具枠(片引き)	W1700(建具巾900)×H2000	1.0	か所			
	WD6 木製建具枠(片開き)	W800×H2000	1.0	か所			
	WD7 木製建具枠(片引き)	W1320(建具巾900)×H2000	1.0	か所			
	WD8 木製建具枠(片開き)	W800×H2000	1.0	か所			
	WD9 木製建具枠(片開き)	W800×H2000	1.0	か所			
	次頁に続く						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
	前頁より						
	WD10 木製建具枠(片引き)	W1700(建具巾900)×H2000	1.0	か所			
	WD11 木製建具枠(片引き)	W1700(建具巾900)×H2000	1.0	か所			
	WD13 木製建具枠(片引き)	W1700(建具巾900)×H2000	1.0	か所			
	WD14 木製建具枠(片開き)	W800×H2000	1.0	か所			
	WD15 木製建具枠(片引き)	W1620(建具巾900)×H2000	1.0	か所			
	小　　計						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
12	屋根及びとい工事						
	屋根 立葺き	ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板t0.5	155	㎡			
		裏貼:ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｫｰﾑt4.0 ｺﾞﾑｱｽ防水ｼｰﾄt1.0					
		淀川製鋼所: ﾖﾄﾞﾙｰﾌ瓦棒400同等					
	屋根 野地板	木毛ｾﾒﾝﾄ板t25	155	㎡			
	屋根 水上～壁取合水切	ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板t0.5	13.4	m			
	屋根 軒先水切	ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板t0.5	13.4	m			
	屋根 軒先唐草	ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板t0.5	13.4	m			
	屋根 ｹﾗﾊﾞ水切	ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板t0.5	1.1	m			
	屋根 ｹﾗﾊﾞ～壁取合水切	ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板t0.5	22.0	m			
	軒先 化粧ｷｬｯﾌﾟ		13.4	m			
	屋根 破風板	ｶﾗｰ繊維混入ｾﾒﾝﾄ	1.1	m			
		ｹｲｶﾙ押出成形板H210					
	屋根 鼻隠し	ｶﾗｰ繊維混入ｾﾒﾝﾄ	13.4	m			
		ｹｲｶﾙ押出成形板H210					
	屋根 軒樋	ｶﾗｰ塩ﾋﾞ製　前高165	13.4	m			
	屋根 落し口	φ100用	2.0	か所			
	車庫屋根 折版葺き	ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板t0.8	25.2	㎡			
	次頁に続く						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
	前頁より						
	車庫屋根 折版葺き	ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板t0.8	122	㎡			
		H166 裏貼:不燃ﾍﾞﾌt4.0					
		淀川製鋼所: ﾖﾄﾞﾙｰﾌ166ﾊｾﾞ同等					
	車庫屋根 ﾀｲﾄﾌﾚｰﾑ		81.9	m			
	車庫屋根 妻用ﾀｲﾄﾌﾚｰﾑ		26.6	m			
	車庫屋根 軒先面戸		11.7	m			
	車庫屋根 水上面戸		11.7	m			
	車庫屋根　軒先 折版　尾垂れ加工		11.0	m			
	車庫屋根 軒先水切	ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板t0.5	11.0	m			
		H150					
	車庫屋根 軒先～壁取合水切	ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板t0.5	0.7	m			
	車庫屋根 ｹﾗﾊﾞ包み	ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板t0.5	15.2	m			
		W90×H275+50					
	車庫屋根 ｹﾗﾊﾞ～壁取合水切	ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板t0.5	11.4	m			
		W90×H100					
	車庫屋根　水上 化粧ﾌﾚｰﾑ		11.7	m			
	次頁に続く						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
	前頁より						
	車庫屋根 軒樋	ｶﾗｰ塩ﾋﾞ製 前高165	11.0	m			
		ｽﾁｰﾙ芯入大型雨樋 ｽﾃﾝﾚｽ吊り金具共					
		ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ: 大型雨樋ｴｱﾛｱｲｱﾝEIDE同等					
	車庫屋根 落し口	φ100用	2.0	か所			
	ﾊﾞﾙｺﾆｰ ﾙｰﾌﾄﾞﾚｲﾝ	ｽﾃﾝﾚｽφ75 横引型	1.0	か所			
		塗膜防水用					
	ﾊﾞﾙｺﾆｰ 呼び樋	ｶﾗｰVU φ75	0.9	m			
		ｽﾃﾝﾚｽ掴み金物共					
	竪樋	ｶﾗｰVU φ100	26.5	m			
		ｽﾃﾝﾚｽ掴み金物共					
	ﾊﾟﾗﾍﾟｯﾄ裏 角波ｻｲﾃﾞｨﾝｸﾞ	ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板t0.4 竪貼	11.2	㎡			
		淀川製鋼所:ﾖﾄﾞｽﾊﾟﾝ1F型 目地無同等					
	屋根 天井 廻縁	ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板t0.5	13.4	m			
	ﾊﾞﾙｺﾆｰ 天井 廻縁	ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板t0.5	6.8	m			
	小　　計						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
13	金属工事						
	（ 外部 ）						
	天井 軽鉄天井下地	25型 直貼用	14.3	㎡			
	ﾊﾞﾙｺﾆｰ 手摺	アルミ 段笠木手摺 H1100 立格子 L=5,600	1.0	式			
	ﾊﾞﾙｺﾆｰ 腰水切	ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板t0.5	6.0	m			
	壁 腰水切	ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板t0.5	58.9	m			
	屋根 笠木	ｶﾗｰｱﾙﾐ W200	36.1	m			
		捨て笠木: ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板t0.5					
		ABC商会:RD-Aﾀｲﾌﾟ(ｶﾗｰ)同等					
	ﾊﾞﾙｺﾆｰ 壁～天井取合見切	ｱﾙﾐ ABC商会:ｱﾝﾀﾞｰﾗｲﾝ70同等	5.6	m			
	ｱﾙﾐ庇	L2500×D1500竪樋45角ｽﾃﾝｶﾗｰｾｯﾄ	1.0	か所			
		排水管ｶﾊﾞｰ共共和:AD-Rｽﾃﾝｶﾗｰ同等					
	ｱﾙﾐ庇	L4000×D950共和:AF95ｽﾃﾝｶﾗｰ同等	1.0	か所			
	次頁に続く						

	名　　称	種 類・形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
	前頁より						
	ﾎﾟｰﾁ手摺	ｽﾃﾝﾚｽ H750 L2600	1.0	か所			
		支柱:42.7φ×t1.5 ナカ工業:ｽﾘﾑ目地ﾀｲﾌﾟ					
		0-40Gsl同等					
	ｵｰﾊﾞｰｽﾗｲﾀﾞｰ枠	ｽﾃﾝﾚｽW500 W9300×H4000 9300× 4000	1.0	か所			
	ﾊﾞﾙｺﾆｰ 物干金物	2個/組	1.0	か所			
		川口技研:ZAN-0650-ST同等					
	壁 金属ｻｲﾃﾞｨﾝｸﾞ	t16 縦貼	43.1	㎡			
		取付金物・目地ｼｰﾘﾝｸﾞ共 ｹｲﾐｭｰ:ｼﾝﾌﾟﾙｼﾘｰｽﾞ16					
		ｽﾏｰﾄｽﾊﾟﾝ柄(寒冷地用)同等					
	金属ｻﾝﾄﾞｲｯﾁﾊﾟﾈﾙ 出隅ｶﾊﾞｰ	出隅ﾍﾞｰｽ共	15.9	m			
		ｹｲﾐｭｰ:ｼﾝﾌﾟﾙｼﾘｰｽﾞ16 ｽﾏｰﾄｽﾊﾟﾝ柄(寒冷地用)同等					
	金属ｻﾝﾄﾞｲｯﾁﾊﾟﾈﾙ 足元 端面ｶﾊﾞｰ		5.9	m			
	壁 金属ｻﾝﾄﾞｲｯﾁﾊﾟﾈﾙ	t35 横貼	408	㎡			
		取付金物・目地ｼｰﾘﾝｸﾞ共					
		ｱｲｼﾞｰ工業:断熱ｳﾞｧﾝﾄﾞNZ35同等					
	次頁に続く						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
	前頁より						
	金属ｻﾝﾄﾞｲｯﾁﾊﾟﾈﾙt35 出隅ｺｰﾅｰ加工	捨て板共	26.3	m			
	金属ｻﾝﾄﾞｲｯﾁﾊﾟﾈﾙt35 入隅	捨て板	2.5	m			
	金属ｻﾝﾄﾞｲｯﾁﾊﾟﾈﾙt35 足元ｽﾀｰﾀｰ	NZ35S	59.0	m			
	金属ｻﾝﾄﾞｲｯﾁﾊﾟﾈﾙt35 建具･開口上端　ｽﾀｰﾀｰ	NZ35S	23.7	m			
	金属ｻﾝﾄﾞｲｯﾁﾊﾟﾈﾙt35 竪　かん合部ﾊﾟｯｷﾝS		60.7	m			
	（ 内部 ）						
	鉄骨面軽鉄壁胴縁下地		18.7	㎡			
	梁型 軽鉄胴縁下地		8.2	㎡			
	外壁面 軽鉄壁下地	W100　@300	134	㎡			
	外壁面･ALC面 軽鉄壁下地	W65　@300	621	㎡			
	ﾗｲﾆﾝｸﾞ 軽鉄壁下地	W65　@300	16.4	㎡			
	梁型 軽鉄壁下地	W65　@300	6.3	㎡			
	壁 軽鉄壁下地開口補強	W100　W1900×H2000	1.0	か所			
	壁 軽鉄壁下地開口補強	W100　W800×H2000	1.0	か所			
	壁 軽鉄壁下地開口補強	W65　W600×H1620	6.0	か所			
	次頁に続く						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
	前頁より						
	壁 軽鉄壁下地開口補強	W65 W650×H2000	1.0	か所			
	壁 軽鉄壁下地開口補強	W65 W700×H1930	2.0	か所			
	壁 軽鉄壁下地開口補強	W65 W710×H2000	1.0	か所			
	壁 軽鉄壁下地開口補強	W65 W800×H1940	2.0	か所			
	壁 軽鉄壁下地開口補強	W65 W800×H2000	4.0	か所			
	壁 軽鉄壁下地開口補強	W65 W835×H2000	1.0	か所			
	壁 軽鉄壁下地開口補強	W65 W850×H2100	1.0	か所			
	壁 軽鉄壁下地開口補強	W65 W860×H2000	1.0	か所			
	壁 軽鉄壁下地開口補強	W65 W900×H2000	7.0	か所			
	壁 軽鉄壁下地開口補強	W65 W1000×H2000	2.0	か所			
	壁 軽鉄壁下地開口補強	W65 W1200×H1020	1.0	か所			
	壁 軽鉄壁下地開口補強	W65 W1500×H1370	1.0	か所			
	壁 軽鉄壁下地開口補強	W65 W1700×H2340	1.0	か所			
	壁 軽鉄壁下地開口補強	W65 W1800×H1300	1.0	か所			
	壁 軽鉄壁下地開口補強	W65 W1800×H1650	4.0	か所			
	壁 軽鉄壁下地開口補強	W65 W1800×H600	1.0	か所			
	壁 軽鉄壁下地開口補強	W65 W1840×H2540	1.0	か所			
	下り壁 軽鉄壁下地	W65	1.2	㎡			
	次頁に続く						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
	前頁より						
	天井軽鉄天井下地	19型 直貼用	250	㎡			
	天井軽鉄天井下地	19型 化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ用	128	㎡			
	天井点検口	ｱﾙﾐ 450*450 目地タイプ	14.0	箇所			
	天井 軽鉄天井下地開口補強	19型 450*450	14.0	箇所			
	天井 軽鉄天井下地開口補強	19型 空調機下地	6.0	箇所			
	天井 軽鉄天井下地開口補強	19型 ふところ高1.5～3.0m	22.0	㎡			
	WC 面台	ｽﾃﾝﾚｽt1.5 HL 120×25	1.0	か所			
		W120 L1700 A-11.38					
	WC 面台	ｽﾃﾝﾚｽt1.5 HL 120×25	1.0	か所			
		W120 L800 A-11.38					
	WC小 面台	ｽﾃﾝﾚｽt1.5 HL 120×25	1.0	か所			
		L600 A-11.38					
	WC多目的室 面台	ｽﾃﾝﾚｽt1.5 HL 120×25	1.0	か所			
		L2100+1200 A-11.38					
	仮眠室7SW脱衣･洗濯ｽﾍﾟｰｽ面台	ｽﾃﾝﾚｽt1.5 HL 120×25	1.0	か所			
		L1260 A-11.38					
	救急消毒室 面台	ｽﾃﾝﾚｽt1.5 HL 120×25	1.0	か所			
		L1350 A-11.38					
	次頁に続く						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
	前頁より						
	救急消毒室 面台	ｽﾃﾝﾚｽt1.5 HL 120×25	1.0	か所			
		L4100 A-11.38					
	食堂･調理室 面台	ｽﾃﾝﾚｽt1.5 HL 120×25	1.0	か所			
		L800 A-11.38					
	洗面･洗濯室面台	ｽﾃﾝﾚｽt1.5 HL 120×25	1.0	か所			
		L1000 A-11.38					
	WC SK内金物	ｽﾃﾝﾚｽφ25 Sｶﾝ5ヶ所	1.0	か所			
		A-11					
	WC 雑巾掛け	ｽﾃﾝﾚｽφ5.0 L300	1.0	か所			
		A-11					
	梁型 ｺｰﾅｰｶﾞｰﾄﾞ	ﾅｶ工業 ｾﾌﾃｨｰｺｰﾅｰCl同等	4.0	か所			
	仮眠室7 ｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸｽ	ｱﾙﾐ W120×H80	10.2	m			
		三洋工業:ｻﾝｱﾙﾋﾞ CB-120同等					
		A-11.25					
	階段室 階段滑り止め	W25	20.5	m			
		ﾅｶ工業 S-37L同等 A-11.22					
	階段室 壁付手摺	ﾅｶ工業 ｽﾘﾑ目地ﾀｲﾌﾟ	6.1	m			
		0-34Vsl同等 A-11.22					
	次頁に続く						

	名　　称	種 類・形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
	前頁より						
	階段室 壁付手摺(R付)ｺｰﾅｰ共	L250	1.0	か所			
		ナカ工業 ｽﾘﾑ目地ﾀｲﾌﾟ 0-34Vsl同等					
	救急消毒室物干金物	430×400　2個/1組	1.0	か所			
		川口技研 ZP-104同等					
	事務室 ｽｸﾘｰﾝ吊ﾌｯｸ	L1800	3.0	か所			
		ｱｽﾞﾜﾝ ﾒﾃﾞｨﾌｯｸMF-6065S同等					
	脱衣所 上り框	ｽﾃﾝﾚｽ　W50×H100	1.8	m			
	ホール 吊りカーテンレール	ｼﾝｸﾞﾙ	0.8	m			
	木製建具　沓摺	ｽﾃﾝﾚｽ	8.5	m			
	壁 腰水切	ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板t0.5	2.0	m			
	仮眠室床鋼製束	H400	29.4	㎡			
	小　　計						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
14	左官工事						
	（ 外部 ）						
	床 ﾊﾞﾙｺﾆｰ ｺﾝｸﾘｰﾄ金鏝押え	塗膜防水下	7.7	㎡			
	笠木 ﾊﾞﾙｺﾆｰ ｺﾝｸﾘｰﾄ金鏝押え	W300 塗膜防水下	5.6	m			
	腰壁天端 ｺﾝｸﾘｰﾄ金鏝押え	W150	64.9	m			
	犬走 床 ｺﾝｸﾘｰﾄ金鏝押え	仕上	9.6	㎡			
	事務室勝手口 床 ｺﾝｸﾘｰﾄ金鏝押え	仕上	5.2	㎡			
	車庫勝手口 床 ｺﾝｸﾘｰﾄ金鏝押え	仕上	1.4	㎡			
	車庫入口 床 ｺﾝｸﾘｰﾄ金鏝押え	仕上	25.5	㎡			
	ﾎｰｽﾘﾌﾀｰ基礎 床 ｺﾝｸﾘｰﾄ金鏝押え	仕上	4.5	㎡			
	ﾎﾟｰﾁ床 下地ﾓﾙﾀﾙ塗	ﾀｲﾙ下	5.0	㎡			
	ﾎﾟｰﾁ ｽﾛｰﾌﾟ床 下地ﾓﾙﾀﾙ塗	ﾀｲﾙ下	4.1	㎡			
	ﾎﾟｰﾁ 手摺壁 ﾓﾙﾀﾙ塗		2.7	㎡			
	ﾎﾟｰﾁ 手摺壁天端 ﾓﾙﾀﾙ塗	W200	5.4	m			
	建具枠詰めﾓﾙﾀﾙ	防水剤入	15.5	m			
	目地切	4×25	7.1	m			
	次頁に続く						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
	前頁より						
	（ 内部 ）						
	床 ｺﾝｸﾘｰﾄ金鏝押え	ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ下	53.6	㎡			
	床 ｺﾝｸﾘｰﾄ金鏝押え	ﾌﾟﾗ木ﾚﾝ下	2.8	㎡			
	床 ｺﾝｸﾘｰﾄ金鏝押え	仕上	120	㎡			
	床 ｺﾝｸﾘｰﾄ金鏝押え	貼物下	157	㎡			
	床 ｺﾝｸﾘｰﾄ金鏝押え	UB･SW下	3.8	㎡			
	床 ｺﾝｸﾘｰﾄ金鏝押え	鋼製束下	29.4	㎡			
	ALC足元 ｺﾝｸﾘｰﾄ金鏝押え	W100	8.6	m			
	床 目地切	4×25	49.0	m			
	床 ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ	t10　OAﾌﾛｱ下	53.6	㎡			
	踏面 ﾓﾙﾀﾙ塗	貼物下	4.6	㎡			
	踊場 ﾓﾙﾀﾙ塗	貼物下	3.5	㎡			
	床 下地ﾓﾙﾀﾙ塗	ﾀｲﾙ下	3.8	㎡			
	油庫　釜場 防水ﾓﾙﾀﾙ塗	300×300×H300　A-11	1.0	か所			
	建具枠詰めﾓﾙﾀﾙ		10.7	m			
	小　　計						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
15	建具及びガラス工事						
	(アルミ)						
	AD1 片開き戸	外部三方ｱﾙﾐ額縁 W800×H1940	1.0	か所			
	AD3 片引き自動ﾄﾞｱ+FIX段窓	外部三方ｱﾙﾐ額縁 W1700×H2340	1.0	か所			
	AD3' ｴﾝｼﾞﾝ装置	W1700×H2340	1.0	か所			
	AD4 ﾗﾝﾏFIX付片引き半自動ﾄﾞｱ	外部三方ｱﾙﾐ額縁　自閉装置 W1840×H2340	1.0	か所			
	AD5 片開き戸	外部三方ｱﾙﾐ額縁 W800×H1940	1.0	か所			
	AD6 片引きﾄﾞｱ	内部三方ｱﾙﾐ枠 W850×H2100	1.0	か所			
	AW1 引違い窓	外部三方ｱﾙﾐ額縁　可動網戸 W1800×H1300　内外額縁	1.0	か所			
	AW3 引違い窓	外部三方ｱﾙﾐ額縁　可動網戸 W1800×H1650	4.0	か所			
	AW4 片開き窓	外部三方ｱﾙﾐ額縁　開き網戸 W450×H900	1.0	か所			
	AW5 引違い窓	外部三方ｱﾙﾐ額縁　可動網戸 W1500×H1370	1.0	か所			
	AW6 引違い窓	外部三方ｱﾙﾐ額縁　可動網戸 W1200×H1020	1.0	か所			
	AW7 FIX+片開き段窓	外部三方ｱﾙﾐ額縁　可動網戸 W600×H1620	6.0	か所			
	取付調整費		1.0	式			
	次頁に続く						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
	前頁より						
	(鋼製建具)						
	SD1 片開き戸	W800×H2000	1.0	か所			
	SD2 親子扉	スチール製片開きフラッシュ親子戸 (ガラリ付)、1,200*2,000	1.0	か所			
	SD3 片引き戸	W1100×H2000	1.0	か所			
	SD4 両開き戸	W1500×H2000	1.0	か所			
	SD5 片開き戸	スチール製片開きフラッシュ戸、 900*2,000　強化フロートガラス　5ミリ	1.0	か所			
	取付運搬調整費		1.0	式			
	(軽量鋼製建具)						
	LSD1 片引き戸	W1000×H2000	1.0	か所			
	取付運搬調整費		1.0	式			
	(オーバースライダー)						
	OS1 電動ｵｰﾊﾞｰｽﾗｲﾀﾞｰ	W9300×H4000 鉄骨支持材は主体鉄骨に含む。	1.0	か所			
	取付運搬調整費		1.0	式			
	次頁に続く						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
	前頁より						
	(トイレブース)						
	TB1 ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ	W3038×H2020	1.0	か所			
	取付運搬調整費		1.0	式			
	(ガラス)						
	型板ｶﾞﾗｽ	0.2m2以下 F4.0　W60×H1400	7.0	枚			
	型板ｶﾞﾗｽ	0.2m2以下 F4.0　W60×H60	7.0	枚			
	複層ｶﾞﾗｽ	FL3+A6+F4　2.0m2以下	7.2	㎡			
	複層ｶﾞﾗｽ	FL3+A6+FL3　2.0m2以下	21.6	㎡			
	強化ｶﾞﾗｽ	FG5.0　2.0m2以下	8.3	㎡			
	ｶﾞﾗｽｼｰﾘﾝｸﾞ	両面実長	340	m			
	ｶﾞﾗｽｸﾘｰﾆﾝｸﾞ		37.6	㎡			
	衝突防止ﾏｰｸ	2個/組	12.0	か所			
	ﾊﾟﾈﾙ施工費		3.0	枚			
	(木製建具)						
	WD1 片引き戸	W835×H2000	1.0	か所			
	WD2 片引き戸	W1000×H2000	1.0	か所			
	次頁に続く						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
	前頁より						
	WD3 片開き戸	W650×H2000	1.0	か所			
	WD4 片開き戸	W900×H2000	1.0	か所			
	WD5 片引き戸	W900×H2000	1.0	か所			
	WD6 片開き戸	W800×H2000	1.0	か所			
	WD7 片引き戸	W710×H2000	1.0	か所			
	WD8 片開き戸	W800×H2000	1.0	か所			
	WD9 片開き戸	W800×H2000	1.0	か所			
	WD10 片引き戸	W900×H2000	1.0	か所			
	WD11 片引き戸	W900×H2000	1.0	か所			
	WD13 片引き戸	W900×H2000	1.0	か所			
	WD15 片開き戸	W860×H2000	1.0	か所			
	F1 3枚連動引戸	W2200×H2000	5.0	か所			
	取付運搬調整費	金物含む	1.0	式			
	小　　計						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
16	塗装工事						
	（ 外部 ）						
	壁 複層塗材E	凹凸模様 吹付 透湿性	31.4	㎡			
	ｾﾒﾝﾄ系下地調整塗材	CM-2	31.4	㎡			
	ﾊﾞﾙｺﾆｰ 鼻先 複層塗材E	凹凸模様 吹付	2.7	㎡			
	ｾﾒﾝﾄ系下地調整塗材	CM-2	2.7	㎡			
	屋根 天井 EP塗	ｹｲｶﾙ板面	4.7	㎡			
	ﾊﾞﾙｺﾆｰ 天井 EP塗	ｹｲｶﾙ板面	9.6	㎡			
	ﾊﾞﾙｺﾆｰ DP塗	鉄部 手摺面	12.9	㎡			
	（ 内部 ）						
	階段室(手摺壁天端) CL塗	天端及びｺｰﾅｰ面取面15 細物	4.2	m			
	出動準備室(三方枠) CL塗	ｺｰﾅｰ面取面t15 細物	5.8	m			
	風除室(掲示板見切) CL塗	素地ごしらえ 細物 B種	5.2	m			
	CL塗	木部 額縁(細物)面	86.7	m			
		素地ごしらえ 細物 B種					
	CL塗	木製建具小口面(細巾)	144	m			
	CL塗	木製建具枠面(細巾)	97.7	m			
	次頁に続く						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
	前頁より						
	壁 EP塗	ALC版面	45.1	㎡			
	壁 EP塗	ｹｲｶﾙ板面 素地ごしらえB種	147	㎡			
	天井 EP塗	ｹｲｶﾙ板面 素地ごしらえB種	156	㎡			
	SOP塗	鉄骨階段面 素地ごしらえB種	17.9	㎡			
		錆止め塗装共					
	SOP塗	鉄骨面 素地ごしらえB種	61.3	㎡			
		錆止め塗装共					
	仮眠室1～6(上り框) 2-UC塗	木部 細物	10.8	m			
	小　　計						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
17	内外装工事						
	（ 外部 ）						
	天井屋根 ｹｲｶﾙ板	t8.0 底目	4.7	㎡			
	天井ﾊﾞﾙｺﾆｰ ｹｲｶﾙ板	t8.0 底目	9.6	㎡			
	ﾊﾟﾗﾍﾟｯﾄ裏 透湿防水ｼｰﾄ		11.2	㎡			
	金属ｻﾝﾄﾞｲｯﾁﾊﾟﾈﾙ 透湿防水ｼｰﾄ		43.1	㎡			
	（ 内部 ）						
	床 厚膜型ｴﾎﾟｷｼ樹脂系塗床	防滑工法 ABC商会:ｹﾐｸﾘｰﾄE同等	16.1	㎡			
	巾木 厚膜型ｴﾎﾟｷｼ樹脂系塗床	H200 防滑工法 ABC商会:ｹﾐｸﾘｰﾄE同等	10.8	m			
	床 薄膜型ｳﾚﾀﾝ樹脂防塵塗料	ｺｰﾃｨﾝｸﾞ工法 ABC 商会:ｶﾗｰﾄｯﾌﾟU同等	21.5	㎡			
	床 複層ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙFS	t2.0	98.1	㎡			
	踏面 複層ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙFS	t2.0	4.6	㎡			
	踊場 複層ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙFS	t2.0	3.5	㎡			
	蹴上 複層ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙFS	t2.0 ﾌﾟﾚｰﾄ面	4.1	㎡			
	床 置敷ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ	t5.0 500×500 防災製品	53.6	㎡			
	次頁に続く						

	名　　称	種 類・形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
	前頁より						
	床 複層ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙFT	t2.0　300×300	21.6	㎡			
	床 ｸｯｼｮﾝﾌﾛｱ	t1.8	2.8	㎡			
	床 OAﾌﾛｱ	樹脂製 ｷﾀｲ製作所:H70S同等	53.6	㎡			
	床 ﾌﾟﾗ木ﾚﾝ	3A　ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞt20共	2.8	㎡			
	床 畳敷	1帖物	12.0	帖			
	床 畳敷	半帖物	6.0	帖			
	巾木 ｿﾌﾄ巾木	H75	200	m			
	壁 石膏ﾎﾞｰﾄﾞ	t12.5	515	㎡			
	壁 ｹｲｶﾙ板	t10.0	63.5	㎡			
	壁 ｹｲｶﾙ板	t8.0+8.0	83.6	㎡			
	壁 耐水石膏ﾎﾞｰﾄﾞ	t12.5	195	㎡			
	壁 ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ		436	㎡			
	壁 ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ	不燃	99.9	㎡			
	壁 化粧ｹｲｶﾙ板	t6.0	33.4	㎡			
	壁 画鋲両用掲示板ｸﾛｽ		1.6	㎡			
	壁 化粧ｹｲｶﾙ板	t6.0　下地:耐水PB12.5	67.3	㎡			
	化粧ｹｲｶﾙ板 見切	塩ﾋﾞ	2.6	m			
	次頁に続く						

	名　　称	種 類・形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
	前頁より						
	キッチン前壁 メラミン不燃化粧板	t3.0	4.2	㎡			
	キッチン前　メラミン化粧板壁 見切	塩ビ	5.4	m			
	間仕切壁 グラスウール充填	t50　24kg/m3	75.2	㎡			
	下り壁 ビニルクロス		1.2	㎡			
	下り壁 石膏ボード	t12.5	1.2	㎡			
	天井 ケイカル板	t6.0　底目	156	㎡			
	天井 ビニルクロス		71.9	㎡			
	天井 ビニルクロス	不燃	21.6	㎡			
	天井 化粧石膏ボード	t9.5 (T)	119	㎡			
	天井 化粧石膏ボード	t9.5 (NC)	8.4	㎡			
	天井 石膏ボード	t12.5	21.6	㎡			
	天井 耐水石膏ボード	t9.5	71.9	㎡			
	天井 グラスウール敷込	t100　24kg/m3	125	㎡			
	廻縁	塩ビ　突付	399	m			
	梁型 ビニルクロス		14.5	㎡			
	梁型 石膏ボード	t12.5	14.5	㎡			
	小　　計						

	名　　称	種 類・形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
18	ユニット及びその他工事						
	（ 外部 ）						
	館名サイン	カラーステンレスt20	1.0	か所			
		W200×H200(8文字) W400×H400(5文字)					
		ステンレス脚接着剤及び両面テープ取付					
	竣工看板	乳白色アクリル板t3.0	1.0	式			
		W110×H150 彫込文字着色					
		両面テープ及び接着剤併用取付 化粧カバー透明アクリル板t3.0					
		W110×H150					
	電動式ホースリフター	ホース収納5本×2×2列	1.0	式			
		計20本掛け 流通産業:					
		FHD200型(分割昇降式)同等					
	同上 楊重機費		1.0	式			
	小屋裏換気 ベントキャップ	ステンレス φ150	18.0	か所			
		屋外換気口スリムタイプ ナスタ:KS-8620SHD-MLG同等					
	次頁に続く						

	名　　称	種 類・形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
	前頁より						
	（ 内部 ）						
	WC多目的室 ﾋﾟｸﾄｻｲﾝ	200×200 突出し	1.0	か所			
		杉田エース ﾊﾟﾌﾞﾘｯｸｻｲﾝPU-04T 同等					
		A-11					
	食堂・調理室 ｼｽﾃﾑｷｯﾁﾝ	L2100×D600×H2360	1.0	か所			
		吊戸棚: L1350×D400×H500					
		換気ﾚｼﾞｽﾀｰ: L750×D600×H600					
		ｶｳﾝﾀｰ:ｽﾃﾝﾚｽ 水栓:ｼﾝｸﾞﾙﾚﾊﾞｰ混合栓					
		加熱機器:ﾎｰﾛｰﾄｯﾌﾟｺﾝﾛ3口 ﾚﾝｼﾞﾌｰﾄﾞ・ｶﾗｰ:深型ﾚﾝｼﾞﾌｰﾄﾞ					
		(ｼﾛｯｺﾌｧﾝ) ｶｳﾝﾀｰ高さ:H850					
		ｸﾘﾅｯﾌﾟ ｺﾙﾃｨﾍﾞｰｼｯｸﾀｲﾌﾟ Sｼﾘｰｽﾞ 加熱機器ｶﾞｽ同等					
		A-11.37					
	救急消毒室 流し台	ｽﾃﾝﾚｽ L1500×D750×H950	1.0	か所			
		一層ｼﾝｸ:SUS304 ﾄｯﾌﾟ(ｼﾝｸ):SUS304 t1.2					
		No.4仕上 水切:SUS304 t1.2					
	次頁に続く						

	名　　称	種 類・形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
	前頁より						
		No.4仕上 化粧板:SUS304 t0.6					
		No.4仕上 ｽﾉｺ板:SUS304 t1.0					
		No.4仕上 排水口ｺﾞﾑﾘﾝｸﾞ付 脚:SUS304 t1.0 φ38					
		ｱｼﾞｬｽﾄ:SUS304 排水金具:ﾎﾟﾘﾌﾟﾛﾋﾟﾚﾝ					
		50A φ186ｷﾝｸﾞﾄﾞﾚﾝ ｵｰﾊﾞｰﾌﾛｰ:塩ﾋﾞ					
		金具:SUS304 付属品:50A排水ﾎｰｽ0.8m					
		A-11.38					
	浴室 ﾕﾆｯﾄﾊﾞｽ1616	L1670×D1670×H2584	1.0	か所			
		HSV1616UN ﾌﾗｯﾄ床 ｺﾛｶﾞｼ TOTO:ｻｻﾞﾅHSｼﾘｰｽﾞNﾀｲﾌﾟ同等					
		天井ﾊﾟﾈﾙ:化粧鋼板複合 ﾊﾟﾈﾙ(ﾓｰﾙ式)					
		点検口450(絞り点検口・ 落下防止用紐付)					
		色・柄:ﾎﾜｲﾄ HDHNS 壁ﾊﾟﾈﾙ:HQﾊﾟﾈﾙ					
		色・柄:ﾌﾞﾘｴﾎﾜｲﾄ 正面ｱｸｾﾝﾄﾊﾟﾈﾙ:HQﾊﾟﾈﾙ					
		色・柄:ﾌﾞﾘｴﾋﾟﾝｸ 床ﾊﾟﾈﾙ:ｶﾗﾘ床					
		色・柄:ﾗｲﾄｸﾞﾚｰ CFF02 CXA01					
		ふろふた:ｼｬﾜｰ一式ふろふた 色・柄:ﾎﾜｲﾄ					
		ｶｳﾝﾀｰ:お掃除ﾗｸﾗｸｶｳﾝﾀｰ W730					
	次頁に続く						

	名　　称	種 類・形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
	前頁より						
		収納棚:着脱可能ﾀｲﾌﾟ 樹脂製2個					
		鏡:お掃除ﾗｸﾗｸ鏡 縦長ﾐﾗｰﾂﾒ式 W298×H600					
		A-11.37					
	浴室 ﾕﾆｯﾄﾊﾞｽ枠	ﾄﾞｱ枠:ｱﾙﾐｱﾙﾏｲﾄ処理	1.0	か所			
		色・柄:ｼﾙﾊﾞｰ 特記:付枠用取付ﾈｼﾞUB支給					
		ﾈｼﾞ取付及び付枠別途 HDHNS					
	仮眠室7 SW ｼｬﾜｰﾕﾆｯﾄ0812	L870×D1300×H2467	1.0	か所			
		JSV0812UL ｺﾛｶﾞｼ TOTO:ｼｬﾜｰﾙｰﾑ0812Lﾀｲﾌﾟ同等					
		天井ﾊﾟﾈﾙ:化粧鋼板ﾊﾟﾈﾙ (ﾓｰﾙ式) 点検口450					
		(絞り点検口・落下防止用 紐付石膏ﾎﾞｰﾄﾞ2枚貼り)					
		壁ﾊﾟﾈﾙ:HQﾊﾟﾈﾙ 色・柄:ﾍﾞｰｼｽﾎﾜｲﾄ					
		床ﾊﾟﾈﾙ:FRP ｶﾗﾘ床(単色) 色・柄:ﾎﾜｲﾄ(≒NW1)					
		ｼﾞｮｲﾝﾄﾎﾞｯｸｽ:ｴｺﾉﾐｰｼﾞｮｲﾝﾄ WJ3107相当品					
		特記:ｼﾞｮｲﾝﾄﾎﾞｯｸｽまでの 配線及びｼﾞｮｲﾝﾄﾎﾞｯｸｽ内の					
		結線別途 特記:以降接続別途					
		ﾀｵﾙ掛:ｽﾃﾝﾚｽﾊﾟｲﾌﾟφ13 L300 色・柄:ﾎﾜｲﾄ(≒NW1)					
	次頁に続く						

	名　　称	種 類・形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
	前頁より						
	仮眠室7 SW ｼｬﾜｰﾕﾆｯﾄ枠	ﾄﾞｱ枠:ｱﾙﾐｱﾙﾏｲﾄ処理	1.0	か所			
		色・柄:ｱｲﾎﾞﾘｰ 特記:付枠用ﾈｼﾞ UB支給・ﾈｼﾞ取付及び付枠別途)					
	仮眠室1～6 K1 布団収納棚	L850×D800×H2020　搬入・取付費共	6.0	か所			
		外装:ﾎﾟﾘ合板 内装:ﾎﾟﾘ合板					
		天板:ﾅﾗ集成材(UC塗装品) 底板:ﾎﾟﾘ合板					
		棚板・幕板:ﾎﾟﾘ合板 木口:ｾｰﾌﾃｨｴｯｼﾞt2					
		金物:ｽﾗｲﾄﾞ丁番・ 通気孔付取手(ABS樹脂)					
		感知式耐震ﾗｯﾁ(上部扉) 下地補強					
		A-11.35					
	2F仮眠室1　布団収納棚 袖 ﾊﾟﾈﾙ	850*800*2020 同上仕様　搬入・取付費共	1.0	か所			
	出動準備室 防火衣ﾛｯｶｰ	L700×D650×H2100	1.0	か所			
		2人用 塗装:粉体焼付塗装					
		天板:ﾒｯｷ鋼板t1.2mm 名札差・ｾﾙ・紙付					
		上部裏板:ﾒｯｷ鋼板t1.0mm 上部側板:ﾒｯｷ鋼板t1.2mm					
		縦仕切板:ﾒｯｷ鋼板t1.2mm 側板=袋板・縦仕切板=袋板					
		ﾒｯｷ鋼板t0.8mm ﾊﾞｯｸﾙ付ﾍﾞﾙﾄ					
		回転ﾊﾟﾈﾙ板:ﾒｯｷ鋼板t1.0 (t30m/m).一部ﾊﾟﾝﾁﾝｸﾞﾒﾀﾙ					
		(φ5×P8 60°　千鳥) 小物入受け皿:					
		ﾒｯｷ鋼板t1.2mm 下部天板・側板:					
	次頁に続く						

	名　　称	種 類・形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
	前頁より						
		ﾒｯｷ鋼板t1.2mm 下部仕切板:ﾒｯｷ鋼板t1.0mm					
		上下調整用ｱｼﾞｬｽﾀｰﾎﾞﾙﾄ M10 ﾕﾆｸﾛﾒｯｷ					
		ｽﾃﾝﾚｽ帽子掛:75×72 各面4ヶ所					
		ｽﾃﾝﾚｽﾌｯｸ:SUS304ﾍｱｰﾗｲﾝ 壁固定用金具:SPHCt3.2					
		4-M5ﾋﾞｽ止 下地補強材:ｺﾝﾊﾟﾈt12					
		裏板:ﾒｯｷ鋼板t0.8mm 靴入ﾄﾚｰ:SUS304 t0.6mm					
		A-11.36					
	出動準備室 K-2 帽子・ﾍﾙﾒｯﾄ掛	2100×1530	1.0	か所			
		表面材:ﾎﾟﾘ合板 木口:ﾎﾟﾘ合板					
		金物:杉田ｴｰｽ SUS L型帽子掛28ヶ所					
		ﾅﾝﾊﾞｰ:ｶｯﾃｨﾝｸﾞｼｰﾄ45mm程度 ﾋﾞｽ固定(化粧ｷｬｯﾌﾟ)					
		下地補強 A-11.35					
	洗面・洗濯室 洗面用具収納棚	L2580×D350×H1650	1.0	か所			
		(8列2段) 塗装:粉体焼付塗装					
		天板:SECCt0.8 側板:SECCt0.8					
		底板:SECCt0.8 裏板:SECCt0.8					
		縦中仕切板・横中仕切板: SECCt0.8					
	次頁に続く						

	名　　称	種 類・形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
	前頁より						
		扉板:SECCt0.8 扉補強:SECCt0.8					
		底貼板:SECCt0.8 ﾂﾏﾐ・名札差・ﾗｯﾁ:					
		合成樹脂 蝶番:SPCCt1.6					
		ﾀｵﾙ掛け金具:ｽﾃﾝﾚｽ 先端ｺﾞﾑ製HM-250V同等					
		ﾀｵﾙ掛受座:ｽﾁｰﾙ角ﾊﾟｲﾌﾟ 100×50×2.3					
		露受裏板:SECCt0.8 4辺ﾍﾐﾝｸﾞ加工					
		壁固定M6ﾋﾞｽ止 4-M6ﾋﾞｽ塞ぎｷｬｯﾌﾟ付					
		下地補強材:ｺﾝﾊﾟﾈt12 A-11.36					
	風除室 埋込式消火器ﾎﾞｯｸｽ	W325×H693	1.0	か所			
		本体:ﾎﾞﾝﾃﾞ鋼板焼付塗装 手掛部:上下ﾌﾀ有					
		ﾏｸﾞﾈｯﾄｷｬｯﾁ・ﾏｸﾞﾈｯﾄｷｬｯﾁ受 ｽﾗｲﾄﾞﾋﾝｼﾞ					
		M3ｽﾀｯﾄﾞ+ﾅｯﾄ固定 本体取付ﾋﾞｽ下孔5.5					
		UNI0N15号刻印凹0.3 引手開口:40×40					
		(ｺｰﾅｰR2面取) ST-45-BLK					
		字体:消火器(ﾓﾘｻﾜ新ｺﾞR) 英文:(MSPｺﾞｼｯｸ)					
		色:(住友3M 7725-22 ﾏｯﾄﾌﾞﾗｯｸ)					
		扉:ﾎﾞﾝﾃﾞ鋼板焼付塗装 対応ｼｰﾙ:ST-45-BLK					
		対応ﾌﾞﾗｹｯﾄ:BRN-0030 ﾎﾞｯｸｽ型ﾌﾞﾗｹｯﾄ:BRN-0030-B					
		切ｶｷ:W271×D202×H682 U指定色(本体・扉):					
	次頁に続く						

	名　　称	種 類・形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
	前頁より						
		ﾎﾟｰﾗﾙﾎﾜｲﾄCN90(2分艶) U指定色(引手内部)ﾚｯﾄﾞ					
		2005年C版 C05-40X (5R4/12)2分艶					
		表示ｽﾃｯｶｰは製品に貼付済 ユニオン UFB-1F-2720同等					
		A-11.25					
	床置型消火器ﾎﾞｯｸｽ		3.0	か所			
		本体:ﾎﾞﾝﾃﾞ鋼板 ﾒﾗﾐﾝﾎﾟｰﾗﾙﾎﾜｲﾄ焼付塗装					
		ｺﾞﾑｼｰﾄ:天然ｺﾞﾑﾌﾞﾗｯｸ 文字表示ｽﾃｯｶｰ:ST-41/赤					
		(大)ﾌﾟﾘﾝﾀｯｸ ユニオン UFB-3F-307PWH同等					
		A-11.39					
	小　　計						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
Ⅲ	外構工事						
1	構内舗装工事		1.0	式			
2	囲障工事		1.0	式			
3	一般側溝工事		1.0	式			
4	金属工事		1.0	式			
5	フラッグポール工事		1.0	式			
6	雑基礎工事		1.0	式			
	計						

	名　　称	種 類・形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
1	構内舗装工事						
	鋤取り		266.0	m3			
	現場発生土 運搬・処分	場外任意処分	266.0	m3			
	ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装(一般部)	t150 A-5-15	970	㎡			
		ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物(再生材) ﾌﾟﾗｲﾑｺｰﾄPK-3					
		路盤再生ｸﾗｯｼｬﾗﾝ RC-40					
	砂利敷き	B種 t=60	132	㎡			
	コンクリート縁石	150*150*600	6.2	m			
	歩車道境界ﾌﾞﾛｯｸ	B種 (両面R) 基礎共	29.0	m			
	歩車道境界ﾌﾞﾛｯｸ	B種 (片面R) 基礎共	12.0	m			
	出入口両ｻｲﾄﾞ 歩車道境界ﾌﾞﾛｯｸ	B種 L600	2.0	か所			
	区画線	W100 U型区画線用	21.2	m			
	区画線	W100 ﾃﾞﾙﾀﾏｰｷﾝｸﾞ用	26.4	m			
	車止めﾌﾞﾛｯｸ	来客用 W600×D150×H100	3.0	か所			
		2個/1組 固定ﾀｲﾌﾟ 再生ｺﾞﾑﾁｯﾌﾟ製品・ｱﾝｶｰ					
	小　　計						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
2	囲障工事						
	東側･西側･北側ﾌｪﾝｽ ﾒｯｼｭﾌｪﾝｽ	H800	112	m			
	ﾌｪﾝｽ基礎	H400	112	m			
	小　　計						

	名　　称	種 類・形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
3	一般側溝工事						
	【敷地内】						
	隣地境排水側溝 上ぶた式U型側溝	W150	101	m			
	東西南車通行部排水側溝	W250 3種(PU3 JIS A5372)	46.2	m			
	東西南車通行部排水側溝	3種　250角(PC3) 指定部	29.5	m			
	東西南車通行部排水側溝	T-25 ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟﾀｲﾌﾟ　かさ上げｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ	10.0	m			
	構内溜桝 溜桝	730×730　既製品道路用	3.0	か所			
	構内溜桝 ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ蓋	500角　T-25	3.0	か所			
		道路用ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ蓋 500滑り止め加工固定式					
	小　　計						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
4	金属工事						
	電柱保護ﾊﾞﾘｶｰ ｺｰﾅｰｱｰﾁ型ﾊﾞﾘｶｰ	φ60.5 W600×D600×H650	2.0	か所			
	ﾊﾞﾘｶｰ基礎		4.0	か所			
	小　　計						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
5	フラッグポール工事						
	フラッグポール ロープ型旗ポール	アルミ H9000	1.0	か所			
	ロープ型旗ポール基礎	W600×D600×H650	1.0	か所			
	小　　計						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
6	雑基礎工事						
	合併浄化槽土工	仮設、掘削、残土処分、購入土、砕石事業、底板コンクリート工事、矢板工事含む	1.0	か所			
	小　　計						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
Ⅳ	電気設備工事						
1	幹線動力設備工事		1.0	式			
2	電灯コンセント設備工事		1.0	式			
3	弱電設備工事		1.0	式			
	計						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
1	幹線動力設備工事						
A	一般回路	幹線･動力設備工事	1.0	式			
B	発電機回路	幹線･動力設備工事	1.0	式			
	小　　計						
2	電灯コンセント設備工事						
A	一般回路		1.0	式			
B	発電機回路		1.0	式			
	小　　計						
3	弱電設備						
A	一般回路		1.0	式			
B	情報	(住宅用火災報知設備)	1.0	式			
	小　　計						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
1	A一般回路	幹線動力設備工事					
	電線	EM-IE2.0　　PFﾅｲ	11.5	m			
	〃	EM-IE8°　　PFﾅｲ	26.5	m			
	〃	EM-IE14°　　PFﾅｲ	13.5	m			
	ケーブル	EM-EEF2.0-3c　　ｺﾛｶﾞｼ	4.1	m			
	〃	EM-EEF2.0-3c　　PFﾅｲ	5.2	m			
	〃	EM-CE2° -3ｃ　　PFﾅｲ	8.3	m			
	〃	EM-CE3.5° -4ｃ　　ｺﾛｶﾞｼ	11.4	m			
	〃	EM-CE3.5° -4ｃ　　PFﾅｲ	21.5	m			
	〃	EM-CE5.5° -2ｃ　　PFﾅｲ	21.2	m			
	〃	EM-CE5.5° -3ｃ　　ｺﾛｶﾞｼ	8.3	m			
	〃	EM-CE5.5° -4ｃ　　ｺﾛｶﾞｼ	112	m			
	〃	EM-CE5.5° -4ｃ　　PFﾅｲ	27.6	m			
	〃	EM-CET22°　　ｶﾝﾅｲ	48.2	m			
	〃	EM-CET60°　　ｶﾝﾅｲ	48.1	m			
	〃	EMS-7CFB　　ｶﾝﾅｲ	110	m			
	電線管	CPE25　　ﾛｼｭﾂ	49.1	m			
	〃	HIVE16　　ｲﾝﾍﾟｲ	23.2	m			
	〃	PF16　　ｲﾝﾍﾟｲ	5.2	m			
	次頁に続く						

	名　　称	種 類・形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
	前頁より						
	電線管	PF22　　ｲﾝﾍﾟｲ	8.3	m			
	〃	PF28　　ｲﾝﾍﾟｲ	8.3	m			
	〃	FEP30　　ﾏｲｾﾂ	172	m			
	〃	FEP50　　ﾏｲｾﾂ	46.0	m			
	〃	FEP80　　ﾏｲｾﾂ	38.0	m			
	〃	ZGP28　　ﾛｼｭﾂ	72.0	m			
	〃	ZGP42　　ﾛｼｭﾂ	10.0	m			
	〃	ZGP54　　ﾛｼｭﾂ	10.0	m			
	配管接続材	30CP2(28)-BOX	5.0	箇所			
	〃	50CP2(42)-BOX	1.0	箇所			
	〃	63CP2(54)-BOX	1.0	箇所			
	プルボックス	300×300×200SUS	1.0	個			
	〃	200×200×100SUSWP	1.0	個			
	ボックス類	ｱｳﾄﾚｯﾄBOX　4角中浅カバー付き	1.0	個			
	コンクリート柱	10-19-350　建柱車	1.0	式			
	支線	38°	1.0	式			
	ハンドホール	H2-6　8K	1.0	基			
	〃	H2-9　8K	1.0	基			
	埋設標柱	コンクリート	6.0	本			
	次頁に続く						

	名　　称	種 類・形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
	前頁より						
	埋設表示シート	ポリエチレン ダブル	26.2	m			
	接地極銅覆鋼棒	ED/ELB Φ14×1500	4.0	本			
	接地埋設表示板	黄銅製	2.0	枚			
	区画貫通処理		1.0	箇所			
	露出コンセント	3P20A×1	1.0	個			
	照明器具	J)NNY24921LE9	1.0	台			
	〃	N)NNY22125KLE9	1.0	基			
	TVアンテナマスト	側壁(金具共)SUS	1.0	本			
	UHFアンテナ	20素子	1.0	本			
	引込開閉器盤	LM-0	1.0	面			
	電灯・動力盤	LM-1	1.0	面			
	複合防災盤	上部ダクト付き	1.0	面			
	保安基盤	T-0	1.0	面			
	チャイムユニット	親機(事務室総合盤内組込)	1.0	台			
	トイレ呼び出装置	ナースコール1窓(事務室総合盤内組込)	1.0	台			
	警報装置	5窓(事務室総合盤内組込)	1.0	台			
	リレーユニット	(事務室総合盤内組込)	1.0	個			
	土工事		1.0	式			
	小　　計						

	名　　称	種 類・形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
1	B発電機回路	幹線・動力設備工事					
	電線	EMIE5.5° PFナイ	2.4	m			
	ケーブル	EMCE5.5° -2c PFナイ	40.1	m			
	〃	EMCEE1.25° -5c コロガシ	19.9	m			
	〃	EMCEE1.25° -5c PFナイ	4.1	m			
	〃	EMCED22° コロガシ	39.8	m			
	〃	EMCED22° PFナイ	8.2	m			
	電線管	HIVE16 マイセツ	2.4	m			
	〃	FEP30 マイセツ	35.6	m			
	〃	FEP50 マイセツ	16.8	m			
	プルボックス	300×300×200SUSWP	1.0	個			
	区画貫通処理		1.0	箇所			
	土工事		1.0	式			
	埋設標柱	コンクリート	1.0	本			
	埋設表示シート	ポリエチレン ダブル	4.1	m			
	接地極銅覆鋼棒	ED Φ14×1500	1.0	本			
	接地埋設表示板	黄銅製	1.0	箇所			
	小　　計						

	名　　称	種 類・形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
2	A一般回路	電灯コンセント設備工事					
	電線	EMIE1.6　　ｺﾛｶﾞｼ	134	m			
	〃	EMIE1.6　　PFナイ	7.2	m			
	ケーブル	EMEEF1.6-2c　　ｺﾛｶﾞｼ	97.0	m			
	〃	EMEEF1.6-2c　　PFナイ	22.6	m			
	〃	EMEEF1.6-3c　　ｺﾛｶﾞｼ	110	m			
	〃	EMEEF1.6-3c　　PFナイ	13.2	m			
	〃	EMEEF2.0-2c　　ｺﾛｶﾞｼ	69.6	m			
	〃	EMEEF2.0-2c　　PFナイ	102	m			
	〃	EMEEF2.0-3c　　ｺﾛｶﾞｼ	224	m			
	〃	EMEEF2.0-3c　　PFナイ	289	m			
	〃	EMEEF2.0-3c　　ｺﾛｶﾞｼ	84.0	m			
	〃	EMCE5.5° -2c　　ｺﾛｶﾞｼ	6.5	m			
	〃	EMCE5.5° -2c　　PFナイ	11.5	m			
	電線管	EP19　　ﾛｼｭﾂ	1.0	m			
	〃	GP16　　ﾛｼｭﾂ	1.5	m			
	〃	PF16　　ﾛｼｭﾂ	14.0	m			
	〃	PF16　　ｲﾝﾍﾟｲ	382	m			
	〃	PF22　　ｲﾝﾍﾟｲ	9.2	m			
	次頁に続く						

	名　　称	種 類・形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
	前頁より						
	電線管	FEP50　　ﾏｲｾﾂ	11.5	m			
	プルボックス	150×150×100SUSWP	1.0	個			
	〃	200×200×100SUSWP	1.0	個			
	ボックス類	ジョイントボックス	4.0	個			
	〃	スイッチボックスSB-1	18.0	個			
	〃	スイッチボックスSB-2	4.0	個			
	〃	アウトレット4角中浅カバー付き	93.0	個			
	シリーングフィッチング	G16	1.0	個			
	ロスナイスイッチ（支給品）取り付け		2.0	箇所			
	人感センサー親器		3.0	台			
	人感センサー親器　換気連動		1.0	台			
	人感センサー子器　換気連動		1.0	台			
	スイッチ	1P15A×1　　ﾈｰﾑ	11.0	組			
	〃	1P15A×1　(ｵﾝﾋﾟｶ)　　ﾈｰﾑ	1.0	組			
	〃	1P15A×2　　ﾈｰﾑ	2.0	組			
	〃	1P15A+1P15A(ｵﾝﾋﾟｶ)　ﾈｰﾑ	1.0	組			
	〃	2P15Ax1(両切り)　　ﾈｰﾑ	1.0	組			
	コンセント	2P15Ax1	6.0	組			
	次頁に続く						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
	前頁より						
	コンセント	2P15Ax2	20.0	組			
	〃	2P15A抜止E付x2	36.0	組			
	〃	2P15AELKX2+ET	2.0	組			
	〃	2P15AELKX3	1.0	組			
	〃	2P15AELKX2+ETWP	5.0	組			
	〃	2P15A E付x1+ETWP	11.0	組			
	〃	WK4104K（給湯機用）	2.0	組			
	〃	WK4105（凍結防止ヒータ用）	2.0	組			
	照明器具	A)LSS9-4-23	14.0	台			
	〃	AG)LSS9-4-23+FK41534	3.0	台			
	〃	B)LSS9-4-48	6.0	台			
	〃	C2)XLW452AENZLE9	4.0	台			
	〃	D1)XLX450SENTLE9	7.0	台			
	〃	F1)LRS1-13LE9	13.0	台			
	〃	F2)LRS1-17LE9	7.0	台			
	〃	G)LGB52094LE1	1.0	台			
	〃	H)XLJ4100LE9	1.0	台			
	〃	I)LGWC80290LE1	4.0	台			
	〃	K)NNF20298K	1.0	台			
	次頁に続く						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
	前頁より						
	照明器具	0)XLX200AENJLE9	1.0	台			
	小　　計						

	名　　称	種 類・形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
2	B発電機回路	電灯コンセント設備工事					
	電線	EMIE1.6　　PFナイ	127	m			
	ケーブル	EMEEF1.6-2c　　ｺﾛｶﾞｼ	47.6	m			
	〃	EMEEF1.6-2c　　PFナイ	21.2	m			
	〃	EMEEF1.6-3c　　ｺﾛｶﾞｼ	55.2	m			
	〃	EMEEF1.6-3c　　PFナイ	8.0	m			
	〃	EMEEF2.0-3c　　ｺﾛｶﾞｼ	9.9	m			
	〃	EMEEF2.0-3c　　PFナイ	5.2	m			
	〃	EMCE5.5° -3c　　PFナイ	11.9	m			
	〃	AMAE1.2-2c　　ｺﾛｶﾞｼ	42.0	m			
	〃	AMAE1.2-2c　　PFナイ	9.2	m			
	電線管	PF16　　ｲﾝﾍﾟｲ	72.8	m			
	〃	PF22　　ｲﾝﾍﾟｲ	10.6	m			
	〃	FEP30　　ﾏｲｾﾂ	11.9	m			
	〃	CPE25　　ﾛｼｭﾂ	30.9	m			
	ボックス類	スイッチボックスSB-1	12.0	個			
	〃	アウトレットボックス4角中浅カバー付き	12.0	個			
	アクセスポイント用BOX	収納ボックス(樹脂　w400x300x130)	1.0	個			
	次頁に続く						

	名　　称	種 類・形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
	前頁より						
	リモコンスイッチ	1L	12.0	組			
	〃	2L	1.0	組			
	〃	3L	4.0	組			
	〃	4L	1.0	組			
	〃	6L	2.0	組			
	〃	8L	1.0	組			
	〃	32L	1.0	組			
	コンセント	2P15AELKX2 （赤）	6.0	組			
	OAフロアーコンセント	2P15A_E付x2	6.0	組			
	OAタップ	2P15AE×6	6.0	組			
	照明器具	A)LSS9-4-23	6.0	台			
	〃	B)LSS9-4-48	4.0	台			
	〃	D)LSS6-4-48	7.0	台			
	〃	E)XLX460CENTLE9	4.0	台			
	〃	F1)LRS1-13LE9	6.0	台			
	〃	F2)LRS1-17LE9	9.0	台			
	〃	J)NNY24921LE9	2.0	台			
	〃	P) 電光表示器 両面型	1.0	台			
	小　　計						

	名　　称	種 類・形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
3	A一般回路	弱電設備					
	ケーブル	EMAE1.2-2c　PFナイ	39.4	m			
	〃	EMAE1.2-2c　ｺﾛｶﾞｼ	10.3	m			
	〃	EMAE1.2-3c　PFナイ	42.7	m			
	〃	EMAE1.2-3c　ｺﾛｶﾞｼ	116	m			
	〃	EMS-5C-2FB　ｺﾛｶﾞｼ	12.2	m			
	〃	EMS-5C-2FB　PFナイ	5.2	m			
	〃	EMS-7C-2FB　PFナイ	19.4	m			
	電線管	CPE25　ﾛｼｭﾂ	38.8	m			
	〃	PF16　ｲﾝﾍﾟｲ	77.9	m			
	〃	FEP30　ﾏｲｾﾂ	9.7	m			
	〃	FEP50　ﾏｲｾﾂ	36.4	m			
	ボックス類	ｽｲｯﾁﾎﾞｯｸｽSB-1	4.0	個			
	〃	アウトレットボックス4角中浅	8.0	個			
	防雨入線カバー	ﾘﾓｺﾝｹｰﾌﾞﾙ用(WP91319)	3.0	個			
	チャイム用熱線式感知		1.0	台			
	直列ユニット	CS-7F-R	2.0	組			
	電気錠施錠ボタン	参考：AVLN3（IDEC）	2.0	組			
	次頁に続く						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
	前頁より						
	非常呼び出し釦	ひも付き	1.0	個			
	復帰ボタン		1.0	個			
	廊下表示灯		1.0	個			
	スピーカ	天井埋込　att付き	14.0	台			
	〃	天井埋込	5.0	台			
	〃	トランペットSP(15W)	2.0	台			
	〃	アッテネータ	5.0	組			
	小　　計						

	名　　称	種 類・形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
3	B情報(住宅火災報知含む)	弱電設備					
	電線	EMIE5.5° PFナイ	15.5	m			
	ケーブル	EMEEF2.0-3c PFナイ	8.0	m			
	〃	EMEEF2.0-3c ｺﾛｶﾞｼ	10.7	m			
	〃	EMAE1.2-2c PFナイ	4.0	m			
	〃	EMAE1.2-2c ｺﾛｶﾞｼ	28.8	m			
	〃	EMAE1.2-4c ｺﾛｶﾞｼ	13.2	m			
	〃	EMEBT0.4-2P PFナイ	20.3	m			
	〃	EMEBT0.4-2P コロガシ	53.5	m			
	〃	EMMEE-S0.75-2c PFナイ	18.4	m			
	〃	EMMEE-S0.75-2c ｺﾛｶﾞｼ	27.4	m			
	〃	EMUTP(ｶﾃｺﾞﾘｰ5e)0.5-4P PFナイ	12.6	m			
	〃	EMUTP(ｶﾃｺﾞﾘｰ5e)0.5-4P ｺﾛｶﾞｼ	47.3	m			
	〃	10D-FB ｺﾛｶﾞｼ	30.5	m			
	〃	10D-FB 管内	28.9	m			
	電線管	CPE19 ﾛｼｭﾂ	23.2	m			
	〃	CPE31 ｲﾝﾍﾟｲ	28.9	m			
	〃	PF16 ｲﾝﾍﾟｲ	40.6	m			
	〃	PF22 ｲﾝﾍﾟｲ	36.2	m			
	次頁に続く						

	名　　称	種 類・形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
	前頁より						
	電線管	PF28　　ｲﾝﾍﾟｲ	92.3	m			
	ボックス類	アウトレットボックス4角中浅	17.0	個			
	プルボックス	200×200×100SUSWP	1.0	個			
	カバープレート	ケーブル取り出しプレート	2.0	枚			
	情報ｺﾝｾﾝﾄ8P8C	OA用	3.0	組			
	電話ﾓｼﾞｭﾗｼﾞｬｯｸ6P4C	OA用	3.0	組			
	電話ﾓｼﾞｭﾗｼﾞｬｯｸ6P4C		5.0	組			
	無線端末	OA用(自在型)	1.0	組			
	無線端末用	大穴プレート	6.0	枚			
	住宅用火災警報器	親機	1.0	個			
	住宅用火災警報器	子機	6.0	個			
	放送用アンプ		1.0	個			
	分配器	2分配	1.0	個			
	増幅器	33／43db共用型	1.0	個			
	小　　計						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
V	機械設備工事						
1	衛生器具設備		1.0	式			
2	給水設備		1.0	式			
3	排水設備		1.0	式			
4	給湯設備		1.0	式			
5	消火器設備		1.0	式			
6	ガス設備		1.0	式			
7	合併浄化槽設備		1.0	式			
8	空調設備		1.0	式			
9	換気設備		1.0	式			
10	次亜水設備		1.0	式			
	計						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
1	衛生器具設備						
	腰掛便器	CFS497BY TCF5523AUPS 付属品共	1.0	組			
	腰掛便器	CFS497BY TCF586AUS 付属品共	2.0	組			
	小便器	UFH500 TG600PN 付属品共	2.0	組			
	洗面器	L250D T6PM1 付属品共	1.0	組			
	洗面器	L250D TENA40A 付属品共	1.0	組			
	洗面器	L210D TENA40A 付属品共	1.0	組			
	洗面器	LSA125AA 付属品共	1.0	組			
	洗面化粧台	LDA756BEURA LMA752EC	1.0	組			
	洗面化粧台	LDSWB060BAGEN1A	1.0	組			
	化粧鏡	YM4560A	3.0	枚			
	化粧鏡	YM3580AC	1.0	枚			
	化粧鏡	YM3545A	1.0	枚			
	ﾊﾝﾄﾞﾄﾞﾗｲﾔｰ	TYC320W	1.0	台			
	汚物流し	SKL330HNFP 付属品共	1.0	組			
	手洗器	LSL570APR	1.0	組			
	手すり	T112CL9 付属品共	1.0	組			
	手すり	T112HK7R 付属品共	1.0	組			
	次項へ続く						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
	前項より						
	横水栓(洗濯機用)	TW11GR	3.0	個			
	ｼﾝｸﾞﾙﾚﾊﾞｰ混合水栓	TKS05316J	1.0	個			
	ｱﾝｸﾞﾙ止水栓	TL347CU	2.0	個			
	散水栓	T28KUNH13　B-3共	3.0	個			
	小　　計						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
2	給水設備						
	【屋外給水】						
	耐衝撃性硬質塩化ﾋﾞﾆﾙ管	HIVP 屋外埋設 40	12.0	m			
	耐衝撃性硬質塩化ﾋﾞﾆﾙ管	HIVP 屋外埋設 20	47.9	m			
	土工事		1.0	式			
	埋設標示テープ		1.0	式			
	埋設標示		1.0	式			
	ゲート弁	10K 40A	1.0	個			
	ゲート弁	10K 20A	1.0	個			
	弁 桝	VC-1	1.0	組			
	弁 桝	VC-P	1.0	組			
	量水器取付費	40mm	1.0	式			
	量水器桝	40mm用 小窓付	1.0	組			
	直結止水栓	40mm	1.0	個			
	次項へ続く						

	名　　称	種 類・形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
	前項より						
	【屋内給水】						
	塩ビライニング鋼管	SGP-VD　屋内一般　40A	5.0	m			
	塩ビライニング鋼管	SGP-VD　屋内一般　25A	1.0	m			
	ステンレス鋼管	SUS(拡管)　屋内一般　25A	8.0	m			
	ステンレス鋼管	SUS(拡管)　屋内一般　20A	78.0	m			
	ステンレス鋼管	SUS(拡管)　便所　25A	10.0	m			
	ステンレス鋼管	SUS(拡管)　便所　20A	15.0	m			
	凍結防止ヒーター	給水管用	3.0	式			
	ボール弁	20A　給湯器用	3.0	個			
	ゲート弁	10K　25A	2.0	個			
	ゲート弁	10K　20A	1.0	個			
	可とう継手	SUS　20×300L	3.0	個			
	保温工事		1.0	式			
	スリーブ費		1.0	式			
	小　　計						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
3	排水設備						
	【屋外排水】						
	硬質塩化ビニル管	VU 屋外埋設 150	37.0	m			
	硬質塩化ビニル管	VU 屋外埋設 125	34.0	m			
	硬質塩化ビニル管	VU 屋外埋設 100	18.0	m			
	硬質塩化ビニル管	VP 屋外埋設 65	12.0	m			
	土工事		1.0	式			
	穴明補修		1.0	式			
	塩ビ製小口径ｲﾝﾊﾞｰﾄ桝	100-200 90Y 塩ビ蓋 410H	1.0	組			
	塩ビ製小口径ｲﾝﾊﾞｰﾄ桝	100-200 90Y 塩ビ蓋 430H	1.0	組			
	塩ビ製小口径ｲﾝﾊﾞｰﾄ桝	100-200 90Y 塩ビ蓋 470H	1.0	組			
	塩ビ製小口径ｲﾝﾊﾞｰﾄ桝	100-200 90Y 塩ビ蓋 580H	1.0	組			
	塩ビ製小口径ｲﾝﾊﾞｰﾄ桝	100-200 90Y 塩ビ蓋 590H	1.0	組			
	塩ビ製小口径ｲﾝﾊﾞｰﾄ桝	100-200 45L 塩ビ蓋 530H	1.0	組			
	塩ビ製小口径ｲﾝﾊﾞｰﾄ桝	100-200 45L 塩ビ蓋 680H	1.0	組			
	ﾎﾟﾘﾌﾟﾛﾋﾟﾚﾝ製ｲﾝﾊﾞｰﾄ桝	100-300 90L ﾚｼﾞｺﾝ密閉蓋 400H	1.0	組			
	ﾎﾟﾘﾌﾟﾛﾋﾟﾚﾝ製ｲﾝﾊﾞｰﾄ桝	125-300 45L ﾚｼﾞｺﾝ密閉蓋 700H	1.0	組			
	ﾎﾟﾘﾌﾟﾛﾋﾟﾚﾝ製ﾄﾗｯﾌﾟ桝	100-350 ﾚｼﾞｺﾝ密閉蓋 350H	2.0	組			
	ﾎﾟﾘﾌﾟﾛﾋﾟﾚﾝ製ため桝	300φ 耐圧ﾚｼﾞｺﾝ蓋水封蓋 300H	1.0	組			
	ﾎﾟﾘﾌﾟﾛﾋﾟﾚﾝ製ため桝	300φ 耐圧ﾚｼﾞｺﾝ蓋水封蓋 370H	2.0	組			
	次項へ続く						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
	前項より						
	ﾎﾟﾘﾌﾟﾛﾋﾟﾚﾝ製ため桝	300φ　耐圧ﾚｼﾞｺﾝ蓋水封蓋　485H	1.0	組			
	ﾎﾟﾘﾌﾟﾛﾋﾟﾚﾝ製ため桝	300φ　耐圧ﾚｼﾞｺﾝ蓋水封蓋　490H	1.0	組			
	ﾎﾟﾘﾌﾟﾛﾋﾟﾚﾝ製ため桝	300φ　耐圧ﾚｼﾞｺﾝ蓋水封蓋　655H	1.0	組			
	ﾄﾗｯﾌﾟ桝	350×350　ﾚｼﾞｺﾝ密閉蓋　300H	1.0	組			
	点検桝	TC-1	1.0	組			
	【屋内排水】						
	硬質塩化ビニル管	VP　屋内一般　125	7.0	m			
	硬質塩化ビニル管	VP　屋内一般　100	21.0	m			
	硬質塩化ビニル管	VP　屋内一般　75	11.0	m			
	硬質塩化ビニル管	VP　屋内一般　65	23.0	m			
	硬質塩化ビニル管	VP　屋内一般　50	16.0	m			
	硬質塩化ビニル管	VP　屋内一般　40	10.0	m			
	硬質塩化ビニル管	VP　便所　100	9.0	m			
	硬質塩化ビニル管	VP　便所　75	4.0	m			
	硬質塩化ビニル管	VP　便所　65	2.0	m			
	硬質塩化ビニル管	VP　便所　50	13.0	m			
	硬質塩化ビニル管	VP　便所　40	7.0	m			
	通気-硬質塩化ビニル管	VP　便所　50	6.0	m			
	(次項へ続く)						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
	(前項より)						
	通気-硬質塩化ビニル管	VP 便所 40	11.0	m			
	保温工事		1.0	式			
	スリーブ費		1.0	式			
	掃除口金物	COA-100	6.0	個			
	掃除口金物	COA-80	2.0	個			
	掃除口金物	COA-65	5.0	個			
	掃兼ドレン	CODD-50	4.0	個			
	通気金物	ｱﾙﾐ製 露出 50A	1.0	個			
	流し排水トラップ	T14AA-50	1.0	個			
	【敷地外排水】						
	硬質塩化ビニル管	VP 屋外埋設 200	19.0	m			
	土工事	表層砕石仕上げ	1.0	式			
	穴明補修		1.0	式			
	小　　計						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
4	給湯設備						
	ステンレス鋼管	SUS(拡管) 屋内一般 25A	3.0	m			
	ステンレス鋼管	SUS(拡管) 屋内一般 20A	45.0	m			
	追い炊き配管 被覆銅管	12.7φ	33.0	m			
	保温工事		1.0	式			
	スリーブ費		1.0	式			
	ボール弁	20A 給湯器連結用	1.0	個			
	可とう継手	SUS 20×300L 給湯j機用	3.0	個			
	小　　計						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
5	消火器設備						
	ABC粉末消火器	10型	4.0	本			
	小　　計						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
6	ガス設備						
	配管用炭素鋼鋼管	SGP白　屋内一般　32A	24.0	m			
	配管用炭素鋼鋼管	SGP白　屋内一般　20A	15.0	m			
	塗装費		1.0	式			
	スリーブ費		1.0	式			
	LPG集合装置	50kgﾎﾞﾝﾍﾞ4本立　構成品共	1.0	組			
	ｶﾞｽﾒｰﾀｰ取付費		1.0	式			
	ガス給湯器	給湯専用屋外壁掛形　ｴｺｼﾞｮｰｽﾞ　16号	1.0	台			
		付属品共					
	ガス給湯器	給湯専用屋外壁掛形　ｴｺｼﾞｮｰｽﾞ　24号	1.0	台			
		付属品共					
	ガスふろ給湯器	屋外壁掛形ﾌﾙｵｰﾄ　ｴｺｼﾞｮｰｽﾞ　24号	1.0	台			
		付属品共					
	ﾒｰﾀｰｺｯｸ	32A	1.0	個			
	ﾎﾞｰﾙﾊﾞﾙﾌﾞ	20A　給湯器用	3.0	個			
	可とう継手	SUS　20×300L	3.0	個			
	ガス栓	単口　15A×9.5φ　ﾋｭｰｽﾞ付	1.0	個			
	小　　計						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
7	合併浄化槽設備						
	【本体据付･接続工事】						
	浄化槽本体及び設備機器		1.0	式			
	本体据付工事		1.0	式			
	配管工事･機器取付工事		1.0	式			
	電気設備工事	二次側	1.0	式			
	試運転調整費	掲示板、雑材料含む	1.0	式			
	運搬費		1.0	式			
	【合併浄化槽土工】	Ⅲ外構工事に含む					
	小　　計						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
8	空調設備						
	ﾊﾟｯｹｰｼﾞ型空調機	PAC-1　天井ｶｾｯﾄ4方向	1.0	組			
		QC=10.0kw　QH=11.2kw　付属品共					
	ﾊﾟｯｹｰｼﾞ型空調機	PAC-2　天井ｶｾｯﾄ4方向	1.0	組			
		QC=5.6kw　QH=6.3kw　付属品共					
	ﾊﾟｯｹｰｼﾞ型空調機	PAC-3　天井ｶｾｯﾄ4方向	2.0	組			
		QC=3.6kw　QH=4.0kw　付属品共					
	ﾊﾟｯｹｰｼﾞ型空調機	PAC-4　天井埋込ﾋﾞﾙﾄｲﾝ	2.0	組			
		QC=5.6kw　QH=6.3kw　付属品共					
	冷媒用被覆銅管	9.52/15.88	29.0	m			
	冷媒用被覆銅管	6.35/12.70	126	m			
	冷媒用被覆銅管	6.35/9.52	25.0	m			
	ケーブル	CE2ﾛ-3C	154	m			
	電線	lE　1.6	154	m			
	ケーブル	EEF　1.6-3C	25.0	m			
	ケーブル	CEES　1.25ﾛ-2C	29.0	m			
	冷媒保温外装		1.0	式			
	次項へ続く						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
	前項より						
	硬質塩化ビニル管	VP 屋内一般 40	17.0	m			
	硬質塩化ビニル管	VP 屋内一般 30	51.0	m			
	硬質塩化ビニル管	VP 屋内一般 25	18.0	m			
	硬質塩化ビニル管	VP 屋内一般 20	4.0	m			
	保温工事		1.0	式			
	スリーブ費		1.0	式			
	土工事		1.0	式			
	スパイラルダクト	200φ	15.0	m			
	器具ボックス	0.5t	2.0	m2			
	保温工事		1.0	式			
	消音内貼		1.0	式			
	多層ｺｰﾝ吹出口	E2＃20(SED付)	6.0	個			
	小　　計						

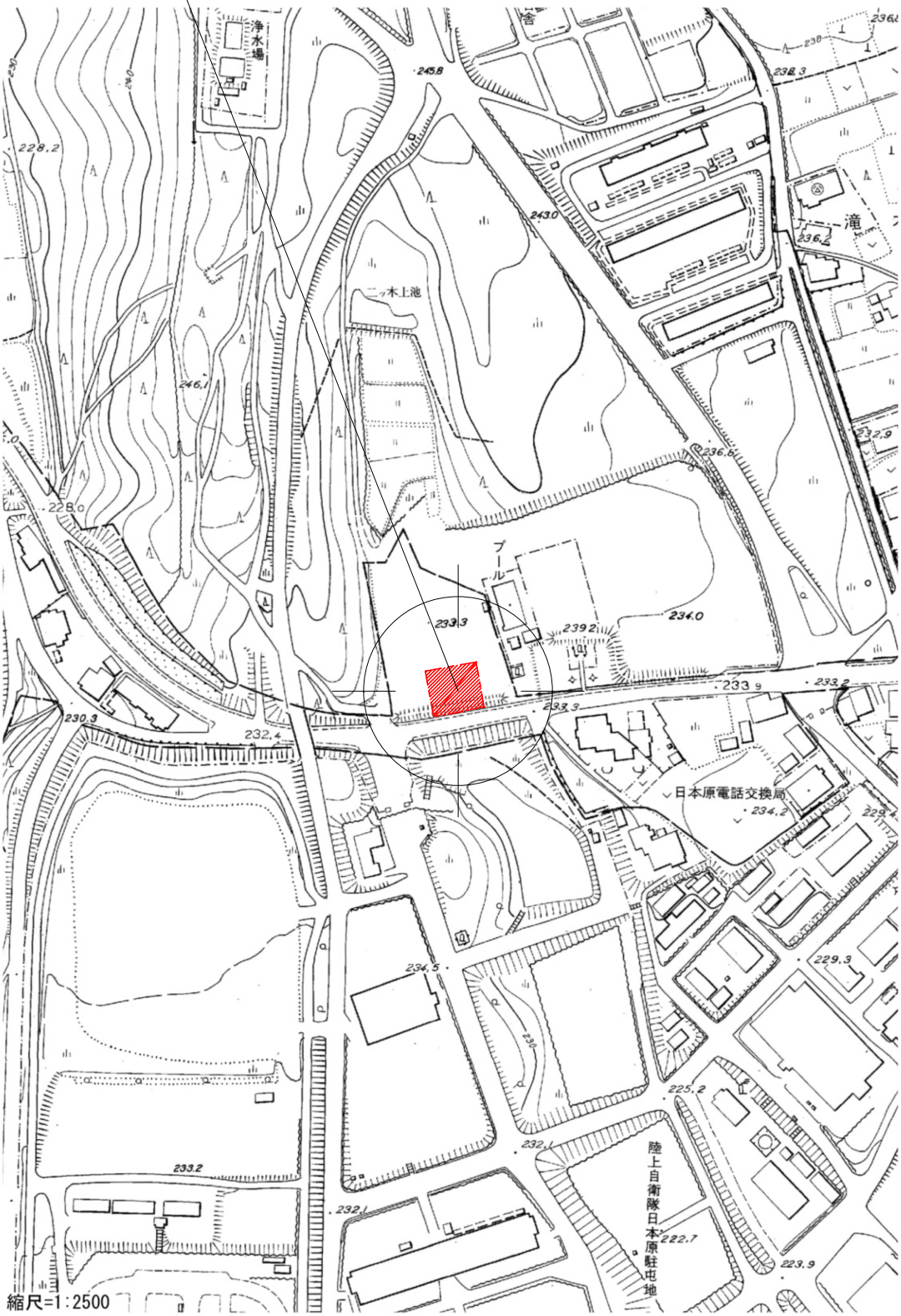
	名　　称	種 類・形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
9	換気設備						
	全熱交換ユニット	HEU-1　天井埋込カセット	1.0	台			
		280m3/h(強)90m3/h(24hr)					
		付属品共					
	全熱交換ユニット	HEU-2　天井埋込カセット	2.0	台			
		240m3/h(強)90m3/h(24hr)					
		付属品共					
	全熱交換ユニット	HEU-3　天井埋込カセット	1.0	台			
		50m3/h(強)20m3/h(24hr)					
		付属品共					
	天井埋込換気扇	FEV-1	1.0	台			
		420m3/h(強)250m3/h(弱)					
		付属品共					
	天井埋込換気扇	FEV-2	1.0	台			
		380m3/h(強)250m3/h(弱)					
		付属品共					
	天井埋込換気扇	FEV-3	1.0	台			
		200m3/h　付属品共					
	次項へ続く						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
	前項より						
	天井埋込換気扇	FEV-4	3.0	台			
		150m3/h　付属品共					
	天井埋込換気扇	FEV-5	1.0	台			
		100m3/h　付属品共					
	天井埋込換気扇	FEV-6	4.0	台			
		50m3/h　付属品共					
	有圧換気扇	FEV-7　500φ	1.0	台			
		6,000m3/h　付属品共					
	ベンチレーター	FV-1　風力駆動強制排気装置	1.0	台			
		付属品共					
	給排気グリル（消音型）	HEU-1用　100φ	4.0	個			
	SUS製深型ﾌｰﾄﾞ（防虫網付）	150φ	10.0	個			
	SUS製深型ﾌｰﾄﾞ（防虫網付）	100φ	11.0	個			
	油庫　標識	ｱﾙﾐ製　300w×600H	2.0	枚			
	（OAダクト）						
	スパイラルダクト	150φ	10.0	m			
	スパイラルダクト	100φ	11.0	m			
	次項へ続く						

	名　　称	種 類･形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
	前項より						
	(EAダクト)						
	スパイラルダクト	150φ	24.0	m			
	スパイラルダクト	100φ	28.0	m			
	塩ビダクト	VU　100φ	1.0	m			
	鋼管ダクト	SGP白　100A	8.0	m			
	ｱﾙﾐﾌﾚｷﾀﾞｸﾄ	150φ	5.0	本			
	ｱﾙﾐﾌﾚｷﾀﾞｸﾄ	100φ	6.0	本			
	防火ダンパー	FD　100φ	1.0	個			
	スリーブ費		1.0	式			
	保温工事		1.0	式			
	断熱工事	RW50t	1.0	式			
	塗装費		1.0	式			
	小　　計						

	名　　称	種 類・形 状	数 量	呼称	単 価	計	備　考
10	次亜水設備						
	耐衝撃性硬質塩化ビニル管	HIVP　屋内一般　20	19.0	m			
	保温工事		1.0	式			
	スリーブ費		1.0	式			
	ｽｰﾊﾟｰ次亜水生成装置	HSP-SR1000S（寒冷地仕様）	1.0	台			
	ｽｰﾊﾟｰ次亜水専用自在水栓	HSP-7015,HSP-7297×各1	1.0	式			
		HSP-7299×1					
	ｽｰﾊﾟｰ次亜水専用自動水栓	HSP-V11-H（AC100V仕様）	1.0	式			
	ｽｰﾊﾟｰ次亜水設備工事	搬入・設置費、部材込み	1.0	式			
		（装置廻り2次側工事のみ）					
	ﾎﾞｰﾙﾊﾞﾙﾌﾞ	20A（樹脂製）	1.0	個			
	小　　計						

計画敷地：勝田郡奈義町　滝本　地内
勝田郡奈義町滝本1546-2



付　近　見　取　図

津山圏域消防組合消防本部		工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	図面番号	作　図	年　度
縮尺	-	図面名	付近見取図	※	Sowa	R2

津山圏域消防組合日本原分署新築工事

図　面　リ　ス　ト

No	図面名称	No	図面名称	No	図面名称	No	図面名称	No	図面名称
A－００	表紙・図面リスト	A－３１	建具表１	S－０１	新構造設計特記仕様 その１	E－０１	岡山県電気設備工事特記仕様書	M－０１	岡山県機械設備工事特記仕様書
A－０１	津山市建築工事特記仕様書１	A－３２	建具表２	S－０２	新構造設計特記仕様 その２	E－０２	津山市電気設備工事施工管理業務報告要領	M－０２	衛生設備機器器具一覧表
A－０２	津山市建築工事特記仕様書２	A－３３	部分詳細図１	S－０３	新鉄筋コンクリート構造配筋標準図(１)	E－０３	全体配置図	M－０３	配管系統図・桝リスト
A－０３	津山市建築工事特記仕様書３	A－３４	部分詳細図２	S－０４	新鉄筋コンクリート構造配筋標準図(２)	E－０４	分電盤結線図　動力	M－０４	屋外配管図
A－０４	津山市建築工事特記仕様書４	A－３５	建具枠，造作家具詳細図	S－０５	新鉄筋コンクリート構造配筋標準図(３)	E－０５	分電盤結線図　電灯	M－０５	給排水衛生設備　１階平面図
A－０５	津山市建築工事特記仕様書５	A－３６	鋼製家具詳細図	S－０６	鉄骨構造標準図(１)	E－０６	１階　幹線・動力設備平面図	M－０６	給排水衛生設備　２階平面図
A－０６	津山市共通特記仕様書１	A－３７	住設ユニット詳細図	S－０７	鉄骨構造標準図(２)	E－０７	照明器具姿図	M－０７	プロパンガス設備　１・２階平面図
A－０７	津山市共通特記仕様書２	A－３８	雑工事詳細１	S－０８	ALデッキ合成スラブ設計施工標準図	E－０８	１階　電灯設備平面図	M－０８	次亜水設備　系統図
A－０８	津山市建築工事施工管理業務報告要領	A－３９	雑工事詳細２	S－０９	ジャストベース（JE1型）柱脚工法設計施工標準図（角形鋼管仕様）	E－０９	２階　電灯設備平面図	M－０９	次亜水設備　１・２階平面図
A－０９	工事区分表	A－４０	ＯＡフロアー詳細図	S－１０	SSコラム特記仕様書	E－１０	１階　コンセント設備平面図	M－１０	合併処理浄化槽　設備図
A－１０	仕上表１	A－４１	ホースリフター組立及び各部詳細図	S－１１	伏図	E－１１	２階　コンセント設備平面図	M－１１	合併処理浄化槽　躯体図・配筋図
A－１１	仕上表２	A－４２	ホースリフター鉄骨支柱穴あけ位置図	S－１２	軸組図	E－１２	弱電設備系統図	M－１２	空調設備機器一覧表・配管系統図
A－１２	付近見取図・全体配置図	A－４３	外構配置図	S－１３	断面リスト１	E－１３	弱電機器姿図	M－１３	空調設備　１・２階平面図
A－１３	建築面積・床面積　求積図・面積表，法チェック図	A－４４	外構詳細図１	S－１４	断面リスト２	E－１４	１階　弱電設備平面図	M－１４	換気設備機器一覧表・換気計算書
A－１４	１階平面図・２階平面図	A－４５	外構詳細図２	S－１５	断面リスト３	E－１５	２階　弱電設備平面図	M－１５	換気設備　１・２階平面図
A－１５	屋根伏図	A－４６	仮設計画図						
A－１６	１階天井伏図・２階天井伏図								
A－１７	立面図								
A－１８	断面図								
A－１９	断面詳細図１								
A－２０	断面詳細図２								
A－２１	断面詳細図３								
A－２２	階段詳細図								
A－２３	１階平面詳細図								
A－２４	２階平面詳細図								
A－２５	展開図１								
A－２６	展開図２								
A－２７	展開図３								
A－２８	展開図４								
A－２９	展開図５								
A－３０	建具リスト								

令和元年度実施設計

有限会社　芦田設計

津山市建築工事特記仕様書

Ⅰ．工事概要

工事名称	津山圏域消防組合日本原分署新築工事
工事場所	岡山県勝田郡奈義町滝本1546-2
敷地面積	1,500.00㎡

床面積(㎡)

	庁舎棟　S造	棟　造	棟　造	棟　造	棟　造
2階	139.14 ㎡				
1階	269.50 ㎡				
階					
階					
階					
階					
小計	408.64 ㎡				
合計	408.64 ㎡				

建築面積(㎡)	282.19 ㎡		
消防法施行令別表第一区分	15項		
建ぺい率（指定率）	18.82%（　60%）	容積率（指定率）	27.24%（　200%）
用途地域		防火地域	・防火地域　・準防火地域　・指定なし

工事範囲
- ・建築主体工事
- ・外構工事
- ・電気設備工事
- ・機械設備工事

別途工事

Ⅱ．建築工事仕様

1．共通仕様

（1） 図面及び本特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）平成２８年版[平成２８年６月３０日改定]」（以下、「標準仕様書」という。）による。
図面、本特記仕様書及び標準仕様書に記載されていない事項は、国土交通省官房官庁営繕部制定「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）平成２８年版[平成２８年６月３０日改定]」（以下「改修標準仕様書」という。）による。

（2） 受注者は完了検査（中間検査含む）の際には、特定行政庁（建築主事等）が求める検査に必要な資料等（報告書等）を用意するものとする。

2．特記仕様

（1） 項目は番号に○印のついたものを適用する。

（2） 特記事項は○印のついたものを適用する。
◎印のつかない場合は、※印のついたものを適用する。
◎印と◎印のついた場合は共に適用する。

（3） 特記事項に記載の（　　）内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。［　　］内表示番号は、改修標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を表す

（4） 関係法令の改正等により（条例を含む）、工事内容が法令等に抵触する恐れがあることを認識した場合には、その対応等について、監督職員と協議すること。

（5） 材料及び製造所等の記載は順不同である。

章		項目	特記事項
1 一般共通事項	1	適用基準等	※建築工事標準詳細図（平成28年版）　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 （以下「標準詳細図」という） ※営繕工事写真撮影要領（平成27年版）　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
	2	電気保安技術者 (1. 3. 3)	適用する
	3	施工条件 (1. 3. 5)	○施工時間帯　・指定なし　○指定あり（別添「施工条件明示事項」による） ○施工ができない日等　・指定なし　○指定あり（別添「施工条件明示事項」による） ◎部位別の施工順序　※指定なし　・指定あり（・図示　・　　） ・工事車両の駐車場所　（※図示　・　　） ・資機材置場　（※図示　・　　） ・建設発生土仮置場　（※図示　・　　）
	4	工事安全計画書 (1. 3. 7)	建築工事安全施工技術指針及び建設公衆災害防止対策要綱を参考に、工事安全計画書を監督職員に提出する。
	5	発生材の処理等 (1. 3. 11)	・引き渡しを要するもの（　　） ・現場において再利用を図るもの（　　） ○再生資源化を図るもの ◎コンクリート塊　◎アスファルトコンクリート塊　◎建設発生木材
	6	環境への配慮 (1. 4. 1)	化学物質を放散させる建築材料等 本工事の建物内部に使用する建築材料等は、設計図書に規定する品質及び性能を有すると共に、次の1）から4）を満たすものとする。 1）合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、ＭＤＦ、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材は、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しない又は発散が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。 2）接着剤及び塗料にトルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。 3）接着剤は、可塑剤（フタル酸ジ－ｎ－ブチル及びフタル酸ジ－２－エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を除く）が添加されていない材料を使用する。 4）1）の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類等は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しない、発散が極めて少ない材料を使用したものとする また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒド放散量」は、次のとおりとする。 ホルムアルデヒド放散量　規制対象外 ①建築基準法施行令第２０条の７第１項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド発散建築材料以外の材料 ②建築基準法施行令第２０条の７第４項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料 ホルムアルデヒド放散量　第三種 ①建築基準法施行令第２０条の７第１項に定める第三種ホルムアルデヒド発散建築材料 ②建築基準法施行令第２０条の７第３項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料

7	材料の品質等 (1. 4. 2)		1）本工事に使用する材料は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。 2）本工事に使用する材料のうち、3）に指定する材料の製造業者等は、次の（1）～（6）の事項を満たすものとし、その証明となる資料（外部機関が発行する証明書の写し）を監督職員に提出して承諾を受けるものとする。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合はこの限りではない。 （1）品質及び性能に関する試験データが整備されているもの （2）生産施設及び品質の管理が適切に行われているもの （3）安定的な供給が可能であるもの （4）法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得している （5）製造又は施工の実績があり、その信頼性があるもの （6）販売、保守等の営業体制が整えられているもの（なお、システムとして機能するものにあっては、システムの構築能力があり、現場で施工体制が整えられているもの） 3）製造業者等に関する資料の提出を定める材料
8	特別な材料の工法		標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。
9	技能士 (1. 5. 2)		

工事種目	技能検定職種	技能検定作業
仮設工事	とび	○とび作業
鉄筋工事	鉄筋施工	○鉄筋組立作業
コンクリート工事	型枠施工	○型枠工事作業
	コンクリート圧送施工	○コンクリート圧送工事作業
鉄骨工事	とび	○とび作業
ＣＢ・ＡＬＣパネル工事	ブロック建築	・コンクリートブロック工事作業
	ＡＬＣパネル施工	○ＡＬＣパネル工事作業
防水工事	防水施工	・アスファルト防水工事作業 ・ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ・アクリルゴム系塗膜防水工事作業 ・合成ゴム系シート防水工事作業 ・塩化ビニル系シート防水工事作業 ・セメント系防水工事作業 ・シーリング防水工事作業 ・改質アスファルトシートトーチ工法防水工事作業 ○ＦＲＰ防水工事作業
石工事	石材施工	・石張り作業
タイル工事	タイル張り	○タイル張り作業
木工事	建築大工	○大工工事作業
屋根及びとい工事	建築板金	○内外装板金作業
金属工事	内装仕上施工	○鋼製下地工事作業
	建築板金	○内外装板金作業
左官工事	左官	○左官作業
建具工事	サッシ施工	○ビル用サッシ施工作業
	ガラス施工	○ガラス工事作業
	自動ドア施工	○自動ドア施工作業
	ガラス用フィルム施工	・建築フィルム作業
カーテンウォール工事	カーテンウォール施工	・金属製カーテンウォール工事作業
	サッシ施工	・ビル用サッシ施工作業
	ガラス施工	○ガラス工事作業
塗装工事	塗装	○建築塗装作業
内装工事	内装仕上施工	○プラスチック系床仕上げ工事作業 ・カーペット系床仕上げ作業 ○ボード仕上げ工事作業
	表装	○壁装作業
排水工事	配管	○建築配管作業
舗装工事	路面表示施工	○溶解ペイントハンドマーカー工事作業 ・加熱ペイントマシンマーカー工事作業
植栽工事	造園	・造園工事作業

10	化学物質の濃度測定 (1. 5. 9)	居室のホルムアルデヒド、スチレン、トルエン、キシレン、エチルベンゼンの室内濃度を測定し、厚生労働省が定める指針値以下であることを確認し、監督職員に報告するものとする。 パッシブ型採取機器を用いて測定を行う場合には、次の要領で測定及び分析を行う ①３０分間換気 測定対象室のすべての窓及び扉（造り付け家具、押し入れ等の収納部分の扉を含む）を開放し、３０分間換気する。 ②５時間閉鎖 ①の後、測定対象室すべての窓及び扉を５時間閉鎖する。ただし、造り付け家具、押し入れ等の収納部分の扉は開放したままとする。 ③測定 イ　②の状態のままで測定する。 ロ　測定時間は、原則として２４時間とする。ただし、工程等の都合により、２４時間測定が行えない場合は、８時間測定とする。なお、８時間測定の場合は、午後２時～３時が測定時間帯の中央となるよう、１０時３０分～１８時３０分までの時間帯で測定する。 ハ　測定回数は１回とし、複数回の測定は不要とする。 ④分析 測定対象化学物質を採取したパッシブ型採取機器を分析機関に送付し、濃度を分析する。 ⑤その他 監督員から測定方法に関する注意事項等の指示を受けるものとする。 ・厚生労働省の標準的方法による ・測定を行う室は、仮眠室(1～6)を一室、仮眠室7、倉庫、食堂・調理室、防災倉庫、事務室、以上6室とする。
11	完成写真	下記のものを監督職員に提出するものとする。（◎ 津山市建築工事施工管理業務報告要領による。）

分類・規格	撮影箇所	部数
カラー　・キャビネ版	箇所	2部
カラー　※Ｌ版	箇所	2部

※原版共カラー、電子データ化（ＣＤ－Ｒ等）
撮影者　監督員の承認する撮影業者
電子データ（200万画素以上、300dpi以上）は、ＲＧＢ（フルカラー）、ＪＰＥＧ形式最高画質とする。
電子データ等の提出形式及び方法等は監督員の指示によるものとする。

12	完成時の提出図書 (1. 7. 1~3)	完成図（ＣＡＤデータの提出（※　要　・　不要　））　表1. 7. 1 保全に関する資料（提出部数　※　1部　・　部　） 提出書類の詳細については、別途、津山市建築工事施工管理業務報告要領による。
13	施工図及び施工計画書 (1. 7. 2)	提出した施工図及び施工計画書の著作に係わる当該建物に限る使用権は、発注者に移譲するものとする。
14	設備工事との取り合い	設備機器の位置、取り合い等が検討できる施工図を提出して、監督職員の承諾を受けるものとする。
15	設計ＧＬ	※図示(全体配置図)　・（　　）
16	適用区分	建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。 風圧力風速　Ｖｏ＝　30 ｍ／ｓ 地表面粗度区分　・Ⅰ　・Ⅱ　○Ⅲ　・Ⅳ 積雪量　建築基準法施行令第８６条第３項の規定に基づく岡山県建築基準法施行細則による数値

2 仮設工事	1	足場その他 (2. 2. 4)	足場を設ける場合は、標準仕様書２．２．４（ｂ）による。
	2	監督職員事務所 (2. 3. 1)	※設けない　・設ける　㎡ 備品等は、監督職員の指示を受けて設置するものとする。
	3	工事用水	構内既存の施設　・利用できない　○利用できる（※　有償　・　無償　）
	4	工事用電力	○ 別途引き込みとする ・ 構内既存の施設を利用できる（※　有償　・　無償　）
3 土工事	1	埋戻し及び盛土 (3. 2. 3)	種別　・Ａ種　◎Ｂ種　・Ｃ種　◎Ｄ種　・建設汚泥から再生した処理土　表3. 2. 1 Ｄ種の場合は必要に応じて「セメント及びセメント系固化材を使用した改良土の六価クロム溶出試験実施要領（案）」により、監督職員と協議の上、六価クロム溶出試験を行うものとする。
	2	建設発生土の処理 (3. 2. 5)	◎構外指示の場所に処分　・構内指示の場所に敷き均し　・構内指示の場所に堆積
	3	山留めの撤去 (3. 3. 3)	存置範囲（・図示　○ 60日　　）
4 地業工事	1	共通仕様 (4. 2. 2) (4. 2. 4)	・杭基礎 支持地盤の位置及び種類（基礎ぐいの先端位置含む） ※構造図による 試験杭（　）本　位置は構造図による ○直接基礎 支持地盤の位置及び種類（ラップルコンクリートの底面位置含む） ※構造図による 地盤の平板載荷試験　※行わない ・行う（　）箇所 位置、深さ、対象地盤及び最大載荷加重は構造図による。 試験の方法、報告書の記載事項等は構造図による。
	2	既製コンクリート杭地業 (4. 2. 2) (4. 3. 1~7)	材料 ※遠心力高強度コンクリート杭（ＰＨＣ杭） ・外殻鋼管付きコンクリート杭（ＳＣ杭） ・プレストレス鉄筋コンクリート杭（ＰＲＣ杭） 寸法、継手、性能等

	符号	杭径(mm)	杭長（m）及び種別	厚さ	継手数	セット数	コンクリート強度（Ｎ／㎟）	長期設計支持力（ｋＮ／本）	備考
試験杭			上杭 中杭 下杭						
本　杭			上杭 中杭 下杭						

ＳＣ杭の鋼管　・ＳＫＫ４００　・ＳＫＫ４９０　・
ＳＣ杭の板厚　※構造図による
ＰＨＣ杭の種別　・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種
ＰＲＣ杭の種別　・Ⅰ種　・Ⅱ種　・Ⅲ種　・Ⅳ種
なお、特定埋込杭工法における杭材料はＪＩＳ又は認定条件に適合するものとする。

杭先端部形状　※開放形　・半開放形　・閉そく形
ネガティブフリクション対策
※不要　・要（構造図による）
杭の継手　・溶接継手
・機械式無溶接継手（建築基準法に基づき評定等を受けたもの）
機械式無溶接継手は評定等により定められた項目の検査を行う。
施工は評定等に記された施工管理基準によるものとする。
杭頭の処理　・切断しない　・切断する
処理方法（切断にともなう補強方法含む）　※構造図による
杭頭の中詰材料　※コンクリート（基礎コンクリートと同仕様）　・
支持地盤　※構造図による
施工方法
※特定埋込杭工法　・セメントミルク工法
・Ｈ１３国交告第１１１３号第６による支持力算定式でα＝２５０程度を採用できる工法
・Ｈ１３国交告第１１１３号第６による支持力算定式でα＝　　、β＝　　、γ＝
を採用できる工法
工法　・プレボーリング拡大根固め工法
・中堀り拡大根固め工法
・
杭周固定液の使用　・する　・しない
杭の精度
水平方向の位置ずれ　・杭径の１／４かつ１００㎜以下　・構造図による
杭の傾斜　・１／１００以内　・評定条件または認定条件による　・構造図による

	3	鋼杭地業 (4. 2. 2) (4. 3. 7) (4. 4. 1~6)	種類の記号　・ＳＫＫ４００　・ＳＫＫ４９０ 寸法、継手、性能等

	符号	杭径(mm)	杭長（m）及び種類の記号	板厚(mm)	継手数	セット数	長期設計支持力（ｋＮ／本）	備考
試験杭			上杭 中杭 下杭					
本杭			上杭 中杭 下杭					

	4	直接基礎	支持地盤の設計支持力度　・　800ｋＮ／㎡以上 支持地盤　※構造図による
	5	砂利地業 (4. 6. 2)（4. 6. 3）	材料　※再生クラッシャラン　・切込砂利及び切込砕石 厚さ及び使用範囲

厚さ	使用範囲
※６０	・図示による　・
○図示	○図示による　・

	6	捨コンクリート地業 (4. 6. 4)	材料 設計基準強度　※１８Ｎ／㎟　・　Ｎ／㎟ スランプ　※１５㎝　・１８㎝ 厚さ及び使用範囲

厚さ	使用範囲
※５０	○図示による　・
・	・図示による　・

	7	床下防湿層 (4. 6. 5)	施工範囲　◎建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下（車庫下、防災倉庫下、油庫下を除く） 防湿工法　◎ポリエチレンフィルム厚さ０．１５㎜以上（２重敷き） ・ 防湿層の位置　※図示による
	8	地盤改良	工法　・浅層混合処理工法（適用範囲、仕様及び計測、試験は構造図による） ○深層混合処理工法（適用範囲、仕様及び計測、試験は構造図による）
	9	置換コンクリート地業（ラップルコンクリート地業）	材料 コンクリートの種類　※普通コンクリート　・ 設計基準強度　※１８Ｎ／㎟　・　Ｎ／㎟ スランプ　※１５㎝　・１８㎝ 形状　※構造図による 支持地盤の長期設計支持力　・　ｋＮ／㎡ 支持地盤　※構造図による 型枠使用の有無　※有り　・無し
	10	杭残土（杭汚泥）の重金属等溶出試験	カドミウム、鉛、六価クロム、砒素、総水銀、セレンの６種類の溶出試験を行うこと。 溶出量基準及び測定方法は、Ｈ３環境庁告示第４６号による。
	11	杭残土（杭汚泥）の再資源化	１０の試験結果が基準値未満の場合は、杭残土（杭汚泥）を再資源化処理施設へ搬入するものとする。
5 鉄筋工事	1	鉄筋の種類 (5. 2. 1)	

規格の名称	種類の記号	使用箇所	呼び径（mm）	備考
※異形鉄筋	※ＳＤ２９５Ａ		○Ｄ１６以下	
(鉄筋コンクリ	※ＳＤ３４５		・Ｄ１９　○Ｄ２２　・Ｄ２５　・	
ート用棒鋼)	・		・　・　・	
	・		・　・　・	

	2	溶接金網 (5. 2. 2)	

種類	使用箇所	呼び径・寸法・形状(mm)
・溶接金網		・図示　・
・鉄筋格子		・図示　・

	3	鉄筋の継手 (5. 3. 4)	

部位	継手の方法と適用径
○基礎梁主筋	○重ね継手（Ｄ１６以下）◎ガス圧接（Ｄ１９以上）・機械式継手（　　）
・柱主筋	・重ね継手（Ｄ１６以下）※ガス圧接（Ｄ１９以上）・機械式継手（　　）
・大梁主筋	・重ね継手（Ｄ１６以下）※ガス圧接（Ｄ１９以上）・機械式継手（　　）
・小梁主筋	・重ね継手（Ｄ１６以下）※ガス圧接（Ｄ１９以上）・機械式継手（　　）
・壁	※重ね継手（Ｄ１６以下）・ガス圧接（Ｄ１９以上）・機械式継手（　　）
・	・重ね継手（　　）・ガス圧接（　　）・機械式継手（　　）
・	・重ね継手（　　）・ガス圧接（　　）・機械式継手（　　）

	4	鉄筋の継手位置 (5. 3. 4) （新鉄筋コンクリート構造配筋標準図による）	

部位	継手位置	部位	継手位置
◎基礎梁主筋	◎図示　・各部配筋参考図1. 3による	○図示	○図示　・
・柱主筋	・図示　・各部配筋参考図2. 1による	・	・図示　・
・大梁主筋	・図示　・各部配筋参考図3. 1による	・	・図示　・
・小梁主筋	・図示　・各部配筋参考図3. 4による	・	
・壁	・図示　・各部配筋参考図4. 2による	・	

	5	重ね継手の長さ (5. 3. 4) （新鉄筋コンクリート構造配筋標準図による）	

部位	重ね継手の長さ
◎基礎梁主筋	◎図示　・４０ｄと標準仕様書　表5. 3. 2のうち大きい値　・
・柱主筋	・図示　・４０ｄと標準仕様書　表5. 3. 2のうち大きい値　・
・大梁主筋	・図示　・４０ｄと標準仕様書　表5. 3. 2のうち大きい値　・
・小梁主筋	・図示　・４０ｄと標準仕様書　表5. 3. 2のうち大きい値　・
・耐力壁	・図示　・４０ｄと標準仕様書　表5. 3. 2のうち大きい値　・
・	・図示　・４０ｄと標準仕様書　表5. 3. 2のうち大きい値　・
・	・図示　・４０ｄと標準仕様書　表5. 3. 2のうち大きい値　・

	6	鉄筋の定着の長さ (5. 3. 4) （新鉄筋コンクリート構造配筋標準図による）	柱に取り付ける梁の引張り鉄筋の定着長さ ◎図示　・４０ｄと標準仕様書　表5. 3. 4のうち大きい値　・
	7	耐久上不利な箇所の最小かぶり厚さ (5. 3. 5)	

施工箇所	標準仕様書　表5. 3. 6に加える寸法（mm）
・柱、梁、壁及び庇などの外気に接する面	※１０　・
・	・

(A3=A1縮小50%)

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計 / 審査
図面名	津山市建築工事特記仕様書1　NONE		図面番号 A-1
一級建築士事務所	県知事登録第１２１５３号 （有）芦田設計	一級建築士	登録第 ９９０５３ 号　芦田圀廣

⑧ 鉄筋の定着方法、位置、長さ及び各部配筋

(5．3．4)(5．3．7)
（新鉄筋コンクリート構造配筋標準図による）

鉄筋の定着方法、位置、長さ及び余長

部位	鉄筋の定着方法、位置、長さ及び余長
○基礎接合部の補強配筋	◎図示　・各部配筋参考図1.2による
○基礎梁主筋	◎図示　・各部配筋参考図1.3による
・柱主筋	・図示　・各部配筋参考図2.1による
・柱の打増し補強	・図示　・各部配筋参考図2.2による
・大梁主筋	・図示　・各部配筋参考図3.1による
・梁の打増し補強	・図示　・各部配筋参考図3.3による
・小梁主筋	・図示　・各部配筋参考図3.4による
・片持梁主筋	・図示　・各部配筋参考図3.5による
・壁	・図示　・各部配筋参考図4.2による
・壁の交差部及び端部	・図示　・各部配筋参考図4.3による
・壁の開口部補強	・図示　・各部配筋参考図4.4による
・壁の打増し補強	・図示　・各部配筋参考図4.5による
・パラペット	・図示　・各部配筋参考図4.6による
・スラブ筋	・図示　・各部配筋参考図5.2による
・片持ちスラブ	・図示　・各部配筋参考図5.3及び5.4による
・スラブ開口部	・図示　・各部配筋参考図5.5による
・スラブ出隅部及び入隅部の補強	・図示　・各部配筋参考図5.6による
・スラブの打継ぎ補強	・図示　・各部配筋参考図5.7による
・段差のあるスラブの補強	・図示　・各部配筋参考図5.8による
・片持スラブ形階段	・図示　・各部配筋参考図6.1による
・二辺固定スラブ形階段	・図示　・各部配筋参考図6.2による
・梁貫通孔	・図示　・各部配筋参考図7.1による
・コンクリートブロック帳壁との取合い	・図示　・各部配筋参考図7.3による

各部配筋

部位	配筋方法
○直接基礎	※図示　・各部配筋参考図1.1による
○基礎接合部の補強配筋	※図示　・各部配筋参考図1.2による
○基礎梁のあばら筋	※図示　・各部配筋参考図1.4による
○帯筋組立の形	※図示 ・各部配筋参考図2.2 ※H形　・(イ)　・(ロ)　・(ハ)　・(ニ) ・W－I形　・(イ)　・(ロ)　・(ハ) ・SP形　・(イ)　・(ロ) ・丸形　・(イ)　・(ロ)
・帯筋の割付け	※図示　・各部配筋参考図2.2の図2.3による
・あばら筋の組立の形	※図示 ・各部配筋参考図3.2 ※(イ)　・(ロ)　・(ハ)　・(ニ)
・あばら筋の割付け	※図示　・各部配筋参考図3.2による
・腹筋及び幅止め筋	※図示　・各部配筋参考図3.2による
・梁の打増し補強	※図示　・各部配筋参考図3.3による
・壁の基準配筋	※図示 ・各部配筋参考図4.1 ・表4.1 ・W12　・W15A　・W15B　・W18A ・W18B　・W20A　・W20B ・表4.2 ・KW1　・KW2
・壁の交差部及び端部の配筋	※図示　・各部配筋参考図4.3による
・壁（耐震壁を除く）の開口部補強	※図示　・各部配筋参考図4.4（・A形　・B形）による
・耐震壁の開口部補強	※図示
・壁の打増し補強	※図示　・各部配筋参考図4.5による
・パラペットの配筋	※図示　・各部配筋参考図4.6による
・スラブの基準配筋	※図示 ・各部配筋参考図5.1 ・S1　・S2　・S3　・S4　・S5　・S6 ・S7　・S8　・S9　・S10　・S11 ・S12　・S13　・S14
・片持ちスラブの基準配筋	※図示 ・各部配筋参考図5.3 ・CS1　・CS2　・CS3　・CS4 ・CS5　・CS6　・CS7
・片持ちスラブ先端に壁が付く場合の配筋	※図示　・各部配筋参考図5.4による
・スラブ開口部補強	※図示　・各部配筋参考図5.5による
・スラブ出隅部及び入隅部の補強配筋	※図示　・各部配筋参考図5.6による
・スラブの打継ぎ補強配筋	※図示　・各部配筋参考図5.7による
・段差のあるスラブの補強配筋	※図示　・各部配筋参考図5.8による
・片持スラブ形階段の基準配筋	※図示 ・各部配筋参考図6.1 ・KA1　・KA2　・KA3　・KA4
・二辺固定スラブ形階段の基準配筋	※図示 ・各部配筋参考図6.2 ・KB1　・KB2　・KB3　・KB4　・KB5 ・KB6　・KB7
・梁貫通孔の配筋	※図示　・各部配筋参考図7.1による
・梁貫通孔の補強形式	※図示 ・各部配筋参考図7.2 ・表7.1 ・H1　・H2　・H3　・H4　・H5 ・H6　・H7 ・表7.2 ・M1　・M2　・M3　・M4 ・表7.3 ・MH1　・MH2　・MH3　・MH4 ・MH5　・MH6
・コンクリートブロック帳壁との取合い	※図示　・各部配筋参考図7.3による

⑨ 圧接完了後の試験

(5．4．9)

外観試験　◎行う（全圧接部）
抜取試験　◎超音波探傷試験　・引張試験

10 特殊な鉄筋継手

(5．5．2)(5．5．3)

・機械式継手
使用箇所　※構造図による
性能（H12建告第1463号に適合するもの）　・A級　・
機械式継手の種類及び工法　・（　　）
カプラー等の接合部分の相互のあき、最小かぶり厚さ　※構造図による
品質の確認方法、不良となった継手の修正方法等　※構造図による
・溶接継手
使用箇所　※構造図による
性能（H12建告第1463号に適合するもの）　・A級　・
継手の工法　・（　　）
鉄筋相互のあき　※構造図による
品質の確認方法、不良となった継手の修正方法等　※構造図による

⑥ コンクリート工事

① コンクリートの種類及び強度

（6．2．1～4）

※普通コンクリート　◎新構造設計特記仕様書による。　表6．2．1

設計基準強度 Fc(N/mm²)	気乾単位容積質量(t/m³)	スランプ(cm)	適用場所
・21 ※24 ・	2．3程度	※15 ・18	・基礎　・基礎梁　・土間スラブ ・土間コンクリート
		※18	・建物躯体（上記除く） ・
・18	2．3程度	※15 ・18	

② レディーミクストコンクリート

（6．2．1）（6．4．1～2）

◎Ⅰ類（JIS　A5308「レディーミクストコンクリート」への適合を認証されたコンクリート）
・Ⅱ類（JIS　A5308に適合したコンクリート）

③ セメントの種類

（6．3．1）

表6．3．1

セメントの種類	使用部位
※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種	
・高炉セメントB種	
・フライアッシュセメントB種	

普通ポルトランドセメントの品質は、JIS　R5210に示された規定の他、次の規定の全てに適合するものとする。ただし、無筋コンクリートに用いる場合を除く

水和熱	7日目	352J/g以下
	28日目	402J/g以下

④ 骨材の種類

（6．3．1）（6．5．4）

アルカリシリカ反応による区分
※A　・B　（※コンクリート中のアルカリ総量 Rt＝3．0kg／m³ 以下）

⑤ 混和材料

（6．3．1）

※混和剤（JIS　A6204に適合するAE剤、AE減水剤又は高性能AE減水剤とし、化学混和剤の塩化物イオン量による区分はⅠ種とする。また、防錆材を併用する場合はJIS　A6205による防錆材とする。）
・混和材（JIS　A6201に適合するフライアッシュのⅠ種、Ⅱ種、若しくはⅣ種、JIS　A6206による高炉スラグ微粉末、JIS　A6207によるシリカフューム又はJIS　A6202による膨張剤とする。）

⑥ 無筋コンクリート

（6．3．1）・（6．14．1～3）

適用箇所　・標準仕様書6．14．1(e)による
設計基準強度Fc（N／m㎡）　※18
スランプ　※15又は18
セメントの種類　※普通ポルトランドセメント又は混合セメントA種
・高炉セメントB種
・フライアッシュセメントB種

⑦ ひび割れ誘発目地打継目地

（6．6．3）（6．8．2）（9．7．3）（11．1．3）

目地寸法　※標準仕様書9．7．3による
間隔　※図示による
位置　※図示による
ひび割れ誘発目地、打継目地の深さ寸法は、打増し厚さ部で処理する

⑧ コンクリートの仕上り

（6．2．5）（6．6．6）（6．8．3）

合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ　表6．2．4

種類	適用箇所
○A種	
・B種	
・C種	

⑨ 打増し厚さ

（6．8．2）

打増し厚さ
・打放し仕上げの打増し厚さ（外部に面する部分に限る）
※20mm
・打放し仕上げの打増し厚さ（内部に面する部分に限る）
・10mm　・20mm
・外装タイル後張り面の打増し処理
※20mm
・床型枠用鋼製デッキプレートの梁側面部の打増し処理
プレートが支持される梁の側面について下記の打増しを行う
※10mm　・20mm

⑩ 型枠

（6．8．2～4）

せき板の材料　※合板（※12mm　・　）
・メッシュ型枠（使用部位　※構造図による）
・床型枠用鋼製デッキプレート（施工範囲　※構造図による　・　）
スリーブ材　※標準仕様書6．8．3(i)(2)(i)から(iv)による　・構造図による
断熱材兼用型枠
・使用する　※25mm以下かつ熱抵抗値1mh℃／kCal以上
・使用しない
メッシュ型枠
・使用する　使用部位　※図示による
・使用しない

⑪ 型枠の存置期間及び取外し

（6．8．5）

※6．8．5による

⑫ コンクリートの単位水量測定

◎行う　・行わない

(1)単位水量の測定は、150m³に1回以上及び荷下し時に品質の異常が認められた時に実施する。
(2)単位水量の上限値は、標準仕様書6.3.2(2)(iii)による。
(3)単位水量の管理目標値は次の通りとして、施工する。
1)測定した単位水量が、配合計画書の設計値（以下、「設計値」という。）±15kg/m³の範囲にある場合はそのまま打設する。
2)測定した単位水量が設計値±15を超え±20kg/m³の範囲にある場合は、その運搬車の生コンは打設してよいが、水量変動の原因を調査し、生コン製造者に改善を指示する。その後、設計値±15kg/m³以内に安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。
3)測定した単位水量が設計値±20kg/m³を超える場合は、その運搬車は打込まずに持ち帰らせるとともに、水量変動の原因を調査し、生コン製造者に改善を指示する。その後、単位水量が設計値±20kg/m³以内になるまで全運搬車の測定を行い、更に設計値±15kg/m³以内に安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。
4)3)の不合格生コンを確実に持ち帰ったことを確認する。
(4)単位水量管理についての記録を書面（配合計画書、製造管理記録、打込み時の外気温、コンクリート温度等）と写真により提出する。
(5)単位水量の測定方法は、高周波誘電加熱乾燥法（電子レンジ法）、エアメータ法又は静電容量測定法による。また、試験機関は該当コンクリート製造所以外の機関とする。

⑬ 温度補正

3／16～11／5　8℃以上　S＝3
11／6～3／15　0℃以上　S＝6

⑦ 鉄骨工事

① 鉄骨製作工場

（7．1．1）（7．1．3）

鉄骨製作工場の加工能力
※建築基準法第77条の56第1項に基づく国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた（株）日本鉄骨評価センター及び全国鉄骨評価機構（旧（社）全国鐵構工業協会）の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める次のグレードとして国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場とするものとする。
（　・Jグレード　・Rグレード　○Mグレード　・Hグレード　・Sグレード　）

② 施工管理技術者

（7．1．3）（7．1．4）（7．6．2）（7．12．2）

※適用する　・適用しない

③ 鋼材

（7．2．1）

鋼材の材質　表7．2．1

種類の記号	適用箇所	規格等
○構造図による		※JIS規格による
		※JIS規格による
		※JIS規格による

④ 高力ボルト

（7．2．2）（7．3．2）（7．4．2）

ボルトの区分
※トルシア形高力ボルト　2種（S10T）建築基準法に基づき認定を受けたもの
・JIS形高力ボルト　2種（F10T）
高力ボルトの径　※図示による
すべり係数試験　※行わない　・行う（試験方法等　※構造図による）
JIS形高力ボルトの締付けがナット回転法による回転量（ボルトの長さが呼び径の5倍を超える場合）
※図示　・　"

⑤ 溶融亜鉛めっき高力ボルト

（7．2．2）（7．3．2）（7．3．8）（7．12．4）

セットの種類　※1種（F8T相当）建築基準法に基づき認定を受けたもの
溶融亜鉛めっき高力ボルトのめっき前の孔径
・大臣認定を受けた内容による
摩擦面の処理　※ブラスト処理（表面粗度50μmRz以上）
・ブラスト以外の特殊な処理（りん酸塩処理）
すべり耐力等の確認方法　※すべり試験　・図示による

⑥ 普通ボルト

（7．2．3）（7．3．2）

ボルト及びナットの材料等
◎標準仕様書　表7．2．3（JIS付属書品）による
・標準仕様書　表7．2．3（JIS付属書品）又はJIS本体規格品（ISO規格）による
（JIS本体規格品による場合は、ボルトの種類を呼び径六角ボルト又は全ねじボルト、強毒分を4.6又は4.8の鋼製とし、ナットの種類を六角ナット-Dの鋼製とする。なお、呼び径六角ボルトの軸径の最大寸法は、ボルト径の値以下とする。）
座金　※標準仕様書　表7．2．3（d）による

⑦ アンカーボルト

（7．2．4）（表7．2．3）（7．3．2）（7．10．3）

適用
◎構造用アンカーボルト
セットの種類（JIS B1220）
・ABR400　・ABR490
形状、寸法
※構造図による
・建方用アンカーボルト
材質
・SS400　・
アンカーボルト及びナットのねじの種類の規格、ねじの等級の規格及び仕上げの程度
・標準仕様書　表7．2．3による　・
形状、寸法
※構造図による

⑧ アンカーボルトの保持及び埋込み工法

（7．2．4）（7．10．3）

構造用アンカーフレームの形状及び寸法
※図示による　・
建方用アンカーフレームの保持及び埋込み工法　表7．10．1
種別　・A種　・B種　・C種
柱底均しモルタルの厚さ及び工法の種別　表7．10．2
※標準仕様書　表7．10．2（※A種［モルタル厚さ50］　・B種［モルタル厚さ30］）による

⑨ ターンバックル

（7．2．6）

種類　建築用ターンバックル胴　※割枠式　・図示
建築用ターンバックルボルト　※羽子板ボルト　・図示
ねじの呼び　※図示による

⑩ デッキプレート

（7．2．7）（7．7．8）

工法の種別
・合成スラブ（適用箇所　※構造図による　）
・床型枠用　（適用箇所　※構造図による　）
・
材質、形状及び寸法　※構造図による
鉄骨部材への溶接方法　※構造図による
耐火認定　・有り（耐火時間　※構造図による　）　・無し

11 スタッドボルト

※頭付きスタッド（JIS　B1198）

径（呼び名）	長さ（呼び長さ）mm	使用箇所
・16	・80　・100　・120	
・19	・80　・100　・130　・150	
・22	・80　・100　・130　・150	

⑫ 柱底均しモルタル

（7．2．9）（7．10．3）

モルタルの種別
※無収縮モルタル　・
無収縮モルタルの材料及び調合
※7．2．9（b）（1）～（4）による
無収縮モルタルの品質及び試験方法
※表7．2．6による

⑬ 工作図

（7．3．2）

高力ボルト、普通ボルト及びアンカーボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等
※構造関係共通事項（鉄骨基準図　2）による
・図示による

⑭ 製作精度

（7．3．3）

◎標準仕様書7．3．3及びH12建告第1464号第二号イによる
通しダイヤフラムの許容誤差
◎ダイヤフラムをH12建告第1464号第二号イ(1)(2)に規定するただし書きの計算確認有り
補強方法
・「突合わせ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による
・全てのダイヤフラムはH12建告第1464号第二号イ(1)(2)に規定する仕様を満足すること

15 仮組

（7．3．10）

※行わない
・行う（仮組を行う範囲　※図示による）

⑯ 高力ボルト接合

スプライスプレートの材質　※鋼材の種別及び引張強さによる区分は母材と同等とする
フィラープレートの材質　※SS400とする

⑰ 溶接接合

（7．6．4）（7．6．7）

開先の形状　※構造関係共通事項（5）3．溶接継手の種類別開先標準による
・構造図による
スカラップの形状　※構造関係共通事項（6）5．鉄骨溶接施工（3）による
・構造図による
エンドタブの切除する部分　※全て　・（　　）
エンドタブ・裏あて金　※鋼材の種別及び引張強さによる区分は母材と同等とする
完全溶込み溶接部の余盛り高さ　※（社）日本建築学会「JASS　6鉄骨工事」付則6［鉄骨精度検査基準］付表3［溶接］による

⑱ 入熱、パス間温度の溶接条件

鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件　※構造関係共通事項（鉄骨基準図　9）による　・図示による
適用箇所　※　柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶込み溶接部
・図示による

⑲ 溶接部の試験

（7．6．11）

浸透探傷試験又は磁粉探傷試験　※行う（適用部位　※部分溶込み部）　・行わない
完全溶込み溶接部の超音波探傷試験　※行う　・行わない　表7．6．2～4
工場溶接の場合
AOQL　※4．0%　・2．5%

節	※全て	・	・	・	・
検査水準	※第6水準	・	・	・	・

工事現場溶接の場合
AOQL　※4．0%　・2．5%
割れの疑いのある表面欠陥においては、浸透探傷試験及び磁粉探傷試験を行う
突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査
独立行政法人建築研究所監修
「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による
・抜き取り検査1　※抜き取り検査2

⑳ 錆止め塗装

（7．8．1～4）（18．3．2）

塗料の種別
亜鉛めっき鋼面の錆止め塗料
※標準仕様書　表18．3．2のA種　・標準仕様書　表18．3．2のB種
※EP－Gの適用箇所は18．3．2　表18．3．2のC種　・
耐火被覆材の接着する面への塗装
・行う
適用箇所　※図示による　・
塗装の種別　※図示による　・
※行わない

21 耐火被覆

（7．9．2～7）

種別及び性能

種別	材料・工法	性能（耐火時間）	適用箇所（部位・部分）
・耐火材吹付け	・乾式吹付けロックウール		
	・半乾式吹付けロックウール		
	・湿式ロックウール		
・耐火板張り	・繊維混入けい酸カルシウム板		
	・		
・耐火材巻付け	・高耐熱ロックウール		
	・		
・ラス張りモルタル塗り	－		

材料及び工法は、建築基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする

性能	適用箇所（部位・部分）
・30分耐火	
・1時間耐火	
・2時間耐火	
・3時間耐火	

22 軽量形鋼構造

（7．11．2）

ボルトの接合方法　※普通ボルト接合　・

㉓ 梁貫通孔の補強

補強方法　○補強プレート　・補強トラス工法
適用箇所　・構造図による　※構造関係共通事項による

㉔ 建方精度

（7．10．2）

※（社）日本建築学会「JASS　6鉄骨工事」付則6［鉄骨精度検査基準］付表5［工事現場］による

㉕ 溶融亜鉛めっき工法

（7．12．1～6）（主要構造部及び構造耐力上主要な部分に限る）

種別等

亜鉛めっきの種別	材料	適用箇所
・A種（HDZ55）	最小板厚 6.0mm以上の形鋼、鋼板	※図示による
・B種（HDZ45）	最小板厚 3.2mm以上、6.0mm未満の形鋼、鋼板	
・C種（HDZ35）	普通ボルト・ナット類、アンカーボルト類 最小板厚 1.6mm以上、3.2mm未満の形鋼、鋼板	

⑧ コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事

1 コンクリートブロック

（8．2．2）（8．2．5）（8．3．2）（8．3．3）

表8．3．1

適用箇所	断面形状及び圧縮強さによる区分
間仕切壁、地下二重壁、外壁、塀	※空洞ブロック16　・空洞ブロックW－16
衛生配管用裏積みブロック	・空洞ブロック08　・空洞ブロック16

厚さ　※図示による　・　mm
各部の配筋　※図示による

② ALCパネル

（8．4．2～5）

表8．4．2～5

種類	厚さ(mm)	長さ(mm)	単位荷重(N／m²)	表面加工	耐火性能	工法種別
外壁用	※100・			・平　・意匠	・60分	・A種・B種
間仕切用	○100			○平　・意匠	○60分　・無	○C種・D種・E種
屋根用	※100・			・平	・30分	・F種
床用	・100 ・150				・60分　・無 ・120分	

外壁パネルの工法
建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を施工計画書として提出するものとする。
パネル幅の最小限度を300mm未満とする場合　・
外壁パネルの出隅及び入隅のパネル接合部、並びにパネルと他部材との取合い部の目地幅（mm）
※20　・
伸縮目地への耐火目地材の充填　・適用する　・適用しない

3 押出成形セメント板（ECP）

（8．5．2～5）

表8．5．2～5

	表面形状	厚さ(mm)	幅(mm)	耐火性能	取付工法の種別
・外壁	※フラットパネル	・50　・60			・A種　・B種
	・デザインパネル（図示）	・50　・60	・600		
	・タイルベースパネル	・60			
・間仕切壁	※フラットパネル	・50　・60			・B種　・C種
	・デザインパネル（図示）	・50　・60	・600		
	・タイルベースパネル	・60			

外壁パネルの工法
建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を施工計画書として提出する
パネル相互の目地幅（mm）　※長辺8、短辺15
出隅及び入隅のパネル接合目地の目地幅（mm）　※15　・
やむを得ず欠き込み等を行う場合は、下地の寸法を限度とする。ただし、欠損部分を考慮した強度を確認のうえ、施工計画書を提出する

⑨ 防水工事

1 アスファルト防水

（9．2．2～5）

アスファルトの種類　3種
防水層の下地のモルタル塗り　※適用しない　・適用する（施工範囲　※図示　・　）

屋根保護防水　表9．2．3～6

種別	施工箇所	断熱材	絶縁用シート	立上り部の保護
・A－1		※JIS A9521による押出法ポリスチレンフォーム保温板3種bA（スキン付き）又はJIS A9511によるA種押出法ポリスチレンフォーム保温板3種b（スキンあり）厚さ　※25mm・50mm・	※ポリスチレンフィルム　厚さ　0.15mm以上　・	※乾式保護材 ・コンクリート押え
・A－2				
・A－3				
・B－1				
・B－2				
・B－3				
・AI－1			※フラットヤーンクロス　70g／m㎡程度　・	
・AI－2				
・AI－3				
・BI－1				
・BI－2				
・BI－3				

防水立上がり部の保護
※乾式保護材
無石綿繊維質原料等を主原料として板状に押出成形し、オートクレーブ養生したもの（窯業系パネル）とし、寸法は図示による
品質・性能等
寸法の許容差　厚さ：－5～＋10%、幅：±1%
曲げ強さ、曲げモーメント（N・cm）（スパン50cmにおける単位幅1cmあたりの曲げモーメント）標準時450以上、凍結融解完了時（試験サイクル数）320以上（200）耐凍結融解性能（試験サイクル数：上記）試験後、著しい割れや剥離がなく外観上異常がないこと
吸水性　（20%以下）　吸水による長さ変化率（0．07%以下）
耐火性能　不燃
耐衝撃性　高さ1．0mから試験体の弱点部に500gのおもりを落としたとき、裏面に達する穴があかないこと
出荷時の含水率　10%以下

（A3=A1縮小50%）

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査	図面番号 A-2
図面名	津山市建築工事特記仕様書2　NONE				

一級建築士事務所　県知事登録第12153号
（有）　芦　田　設　計
一級建築士　登録第　99053　号　芦田國廣

屋根葺出防水　　表9．2．7～8

種別	施工箇所	断熱材	仕上げ塗料 種類	仕上げ塗料 使用量	高日射反射率 防水の適用
・Ｄ－１					・
・Ｄ－２					・
・Ｄ－３					・
・Ｄ－４			・	※製造所の指定による ・	・
・ＤＩ－１		※ＪＩＳＡ９５２１による硬質ウレタンフォーム断熱材2 種1 号若しくは2 号で透湿抵抗figを除く 規格に適合するもの又はＪＩＳＡ９５１１によるA 種硬質ウレタンフォーム保温材の保温板2種1号若しくは2号で透湿抵抗figを除く 規格に適合するもの 厚さ ※25mm ・			
・ＤＩ－２					

屋内防水　　表9．2．9

種別	施工箇所	種別	施工箇所
・Ｅ－１		・Ｅ－２	

保護層　・設ける（図示）

2 改質アスファルトシート防水
（9．3．2～3）

防水層の種別　　9．3．2～3　表9．3．1～3

種別	施工箇所	断熱材	防湿層	仕上塗材	高日射反射率 防水の適用
・ＡＳ－Ｔ１				※製造所の指定による	・
・ＡＳ－Ｔ２					・
・ＡＳ－Ｔ３					・
・ＡＳ－Ｔ４					・
・ＡＳ－Ｊ１					・
・ＡＳＩ－Ｔ１		※ＪＩＳＡ９５２１による硬質ウレタンフォーム断熱材2 種1 号若しくは2 号で透湿抵抗figを除く 規格に適合するもの又はＪＩＳＡ９５１１によるA 種硬質ウレタンフォーム保温材の保温板2種1号若しくは2号で透湿抵抗figを除く 規格に適合するもの 厚さ※25mm ・	・設ける（改質ｱｽﾌｧﾙﾄ製造所の仕様による） ・設けない		・
・ＡＳＩ－Ｊ１					・

改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※標準仕様書9．3．1から表9．3．3による ・
粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※標準仕様書9．3．1から表9．3．3による
部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※標準仕様書9．3．1から表9．3．3による ・
押え金物
※改質アスファルトシート製造所の仕様による

3 合成高分子系ルーフィングシート防水
（9．4．2～4）（表9．4．1～2）

防水層の種類

種別	施工箇所	絶縁用シートの材種	断熱材	仕上塗料	高日射反射率 防水の適用
・Ｓ－Ｆ１				※製造所の指定による	・
・Ｓ－Ｆ２					・
・Ｓ－Ｍ１				※製造所の指定による	・
・Ｓ－Ｍ２					・
・Ｓ－Ｍ３					・
・ＳＩ－Ｆ１			（材質）※標準仕様書9．4．2(c)(3)（ⅱ）による（厚さ）※25mm ・	※製造所の指定による	・
・ＳＩ－Ｆ２					・
・ＳＩ－Ｍ１			（材質）※標準仕様書9．4．2(c)(3)（ⅰ）による（厚さ）※25mm ・	※製造所の指定による	・
・ＳＩ－Ｍ２			※発泡ポリエチレンシート ・		・

Ｓ－Ｍ２及びＳ１－Ｍ２の立上り部の工法 ・接着工法 ・機械的固定工法

4 塗膜防水
（9．5．3）（表9．5．1～2）

防水層の種類

種別	施工箇所	仕上塗料	保護層	高日射反射率防水の適用
・Ｘ－１		※製造所の指定による		・
・Ｘ－２	・図示	※製造所の指定による		・
・Ｙ－１	※地下外壁防水			
・Ｙ－２	※屋内防水		・適用する・適用しない	

5 ケイ酸質系塗布防水
（9．6．1～4）（表9．6．1～2）

防水種別　※Ｃ－ＵＩ ・Ｃ－ＵＰ
規格　※ＪＡＳＳ８ Ｔ－３０１
施工箇所
記載のない事項は、主材料製造所の仕様による他、日本建築学会ＪＡＳＳ８防水工事最新版による

6 脱気装置
（9．2．3）（9．3．3）（9．5．3）

種別	種類	設置数量
D-1 D-2 D-3 D-4 DI-1 DI-2 AS-T3 AS-T4 AS-J2 ASI-T1 ASI-J1	※ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ類製造所の仕様による ・	※ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ類製造所の仕様による ・ 個／㎡
X-1	※防水層の主材料の製造所の仕様による ・	※防水層の主材料の製造所の仕様による ・ 個／㎡

7 シーリング
（9．7．2）（表 9．7．1）

下表以外は、標準仕様書表 9．7．1による
ただし、外壁タイル接着剤張りの場合のシーリングは11章に、カーテンウォールの場合のシーリングは１７章による

施工箇所	シーリング材の種類（記号）

シーリング材の目地寸法　※標準仕様書9．7．3(a)(1)～(3)による ・

10 仕上げ材料

1 石 材
（10．2．1）

種類　※天然石 ・人工石
品質　※１等品（床以外） ※２等品（床）
形状、寸法及び厚さ　※図示
石材の種類及び表面仕上げ　表10．2．1～2

施工箇所	種類（産地、名称）	仕上げの種類	表面処理・裏打ち材の有無

2 取付け金物
（10．2．2）

乾式工法用金物の種類　・スライド方式 ・ロッキング方式　表10．2．4

3 その他の材料
（10．2．3）

・石裏面処理材　（　　）
・裏打ち処理材　（　　）
・ドレンパイプの材質　（　　）
・金物固定充填材料　（　　）

11 タイル工事

1 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地
（11．1．3）

位置　※表１１．１．１による ・図示による

2 材料
（11．2．2）

タイルの形状、寸法等

主な用途による区分	形状寸法（mm）	再生材の適用	吸水率による区分 Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	うわぐすり 施ゆう	無ゆう	役物 あり	なし	色 標準	特注	耐凍害性 あり	なし	備考
屋外床 耐凍害	150×150	・	⊙	・	・	・	⊙	・	・	⊙	・	⊙	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は、あらかじめ監督員の承諾を受けること

役物使用箇所　※各部の形状は図示による

内装	（標準一体成型品以外は接着成型品とする）
外装	出隅、天端出隅、窓台、マグサ

タイルの試験張り　※行わない ・行う（　　）
タイルの見本焼き　※行わない ・行う（　　）
有機質接着剤のホルムアルデヒド放散量　※規制対象外 ・第三種

3 外部陶磁器質タイル後張り
（11．3．3）

施工箇所　※施設外壁（ホールを含む） ・図示による
適用タイル　・小口タイル ・二丁掛タイル ・
躯体表面処理　※２階以上を行う ・行わない
躯体表面処理工法の種類
※目荒し工法
高圧水洗による目荒しは、５０Ｍｐａ以上の水圧で２．５分／㎡程度とし、仕上がり面の程度は監督職員の承諾を受ける
施工箇所の躯体打増しは、図示による
・ＭＣＲ工法
ＭＣＲ工法の仕様はシート製造所若しくは販売店の仕様による
施工箇所の躯体打増し厚さ及び範囲は、図示による
下地モルタル塗り　※モルタル ・ポリマーセメントモルタル ・行わない
ポリマーセメントモルタルの調合は、１５．２．３（ｄ）による
工法　※密着張り ・改良圧着張り ・改良積上張り ・モザイクタイル張り　表11．3．2

4 内部陶磁器質タイル後張り
（11．3．3）

施工箇所　※便所等 ・図示による
適用タイル　・内装陶器質タイル ・５０角モザイクタイル ・
下地モルタル塗り　※モルタル ・ポリマーセメントモルタル ・行わない
ポリマーセメントモルタルの調合は、１５．２．３（ｄ）による
工法　※壁タイル接着剤張り ・改良積上げ張り ・　表11．3．2

12 木工事

1 表面仕上げ
（１２．１．４）

表面仕上げの種別	適用箇所
・Ａ種	
※Ｂ種	建具枠、額縁等
・Ｃ種	

2 製 材
（12．2．1）

⊙「製材の日本農林規格」による下地用針葉樹製材

施工箇所	樹 種	寸法（mm）	等級	形状	含水率	間伐材等の適用
仮眠室1～6 床下地	桧	105×105	※２級 ・		※Ａ種 ・	・

⊙「製材の日本農林規格」による造作材針葉樹製材

施工箇所	樹 種	寸法（mm）	等級	形状	含水率	間伐材等の適用
仮眠室1～6 柱、框等	桧	120×120 105×120 120× 45	１等		※Ａ種 ・	・

・「製材の日本農林規格」による広葉樹製材

施工箇所	樹 種	寸法（mm）	等級	形状	含水率	間伐材等の適用
			※１等 ・		※Ａ種 ・	・

・「製材の日本農林規格」以外の製材

施工箇所	樹 種	寸法（mm）	材面の品質	防虫処理	難燃処理	含水率	間伐材等の適用
			（ ）造作材の場合（※Ａ種 ・Ｂ種）	・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない	※Ａ種 ・Ｂ種	・

・代用樹脂を使用できない箇所（　　）

3 造作用集成材
（12．2．1）

ホルムアルデヒド放散量　※規制対象外 ・
・「集成材の日本農林規格」による造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法（mm）	見付け材面の品質	間伐材等の適用
			※１等 ・２等	
			※１等 ・２等	
			※１等 ・２等	

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材

施工箇所	化粧薄板の樹種	芯 材の樹種	寸法（mm）	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	間伐材等の適用
					※１等 ・２等	

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり構造用集成柱

施工箇所	化粧薄板の樹種	芯 材の樹種	寸法（mm）	化粧薄板の厚さ(mm)	間伐材等の適用

⊙「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法（mm）	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
建具枠、額縁等	桧	図示		※１５％以下	・

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集成材

施工箇所	化粧薄板の樹種	芯 材の樹種	寸法（mm）	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
						※１５％以下	・

・「集成材の日本農林規格」以外の構造用集成柱

施工箇所	化粧薄板の樹種	芯 材の樹種	寸法（mm）	見付け材面の品質	化粧薄板の厚さ(mm)	含水率	間伐材等の適用
						※１５％以下	・

4 造作用単板積層材
（12．2．1）

ホルムアルデヒド放散量　※規制対象外 ・
「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材

施工箇所	厚さ（mm）	表面の化粧加工	防虫処理	間伐材等の適用
		・有り（加工 ・天然木化粧加工・塗装加工） ・無し（等級： ）	・適用する ・適用しない	・

「単板積層材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材

施工箇所	厚さ（mm）	表面の化粧加工	防虫処理	含水率 ※14%以下	間伐材等の適用
		・有り（加工・天然木化粧加工・塗装加工） ・無し（ ）	・適用する ・適用しない		・

5 床張り用合板等
（12．2．1）

ホルムアルデヒド放散量　※規制対象外 ・
・普通合板

施工箇所	厚さ（mm）	表板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理	間伐材等の適用
	※5.5 ・		※1類 ・2類	広葉樹 ※2等以上 ・1等 針葉樹 ※C-D以上 ・	・適用する ・適用しない	

⊙構造用合板

施工箇所	厚さ（mm）	等級	表板の樹種名	接着の程度	板面の品質	有効断面係数比	防虫処理	強度等級	間伐材等の適用
仮眠室1～6 床	※12 ⊙28	※2級以上 ・1級		※１類 ・特類	※C-D以上 ・		・適用する ・適用しない	・適用する（ ） ・適用しない	

・パーティクルボード

施工箇所	厚さ（mm）	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分
	※15 ・		※13タイプ ・	※P又はM ・	

・構造用パネル

施工箇所	厚さ（mm）	等級
		・１級 ・２級 ・３級 ・４級

6 接 着 剤
（12．2．2～3）

接着剤は可塑剤（難揮発性の可塑剤を除く）が添付されていないものとする。
ホルムアルデヒド放散量　◎F☆☆☆☆

7 防腐・防蟻処理
（12．3．1～2）

・防腐、防蟻処理が不要な樹種による製材及び集成材
適用部位：（　　）

・薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理

適用部位	保存処理性能区分
	・Ｋ２ ・Ｋ３ ・Ｋ４
	・Ｋ２ ・Ｋ３ ・Ｋ４
	・Ｋ２ ・Ｋ３ ・Ｋ４

・薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理

適用部位	処理の方法
	※標準仕様書１２．３．１（３）（ⅱ）①～④による
	※標準仕様書１２．３．１（３）（ⅱ）①～④による
	※標準仕様書１２．３．１（３）（ⅱ）①～④による

・ボード原料接着材への薬剤混入による防腐、防蟻処理
適用部位（　　）

13 屋根及びとい工事

1 長尺金属板葺
（13．2．2～3）

施工箇所	板及びｺｲﾙの種類	塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号	厚さ（mm）	屋根葺形式	備考
	※JIS G 3322の屋根用ｺｲﾙ ・			⊙心木なし瓦棒葺 ・立平葺 ・嵩掛葺 ・横葺 ・	

下葺材料　・アスファルトルーフィング 940
⊙ 改質アスファルトルーフィング下葺材
（・一般ﾀｲﾌﾟ ・複層材ﾀｲﾌﾟ ⊙粘着層付ﾀｲﾌﾟ）
断熱材　⊙有り（種別：ポリエチレンフォーム　厚さ(mm)：4.0　防火性能：　時間）
・無し
工法
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応する工法
雪止め ・設置する（図示）

2 折板葺
（13．3．2～3）

（13.2.2）(13.3.2、3)（表 13.2.1）

施工箇所	形式	山高、山ﾋﾟｯﾁによる区分 山高	山ﾋﾟｯﾁ	耐力による区分	材料による区分	厚さ（mm）	軒先面戸板	耐火性能
	・重ね形 ⊙はぜ締め形 ・かん合形	166	500	（ ）種	※鋼板製 ・ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金板製		⊙有り ・無し	⊙30分 ・無し
	・							

材料　板及びコイルの種類（　　）
塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号（　　）
断熱材　⊙有り（種別：不燃ペフ　厚さ(mm)：4.0　防火性能：　時間）
・無し
工法
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応する工法

3 粘土瓦葺
（13．4．2～3）

施工箇所	種類 製法による区分	形状による区分	寸法による区分	大きさ	産地	役物瓦の種類	雪止め瓦
							・適用する ・適用しない
							・適用する ・適用しない

瓦桟木　材質　※杉又はひのき ・
寸法　※幅21×高さ15(mm) ・
棟補強用心材　材質　※杉又はひのき ・
寸法　※幅40×高さ30(mm) ・
工法
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応する工法
瓦桟木の留付け工法　※図示 ・
棟の工法　※標準仕様書13．4．3(d)(1)～(3)による ・

4 とい
（13.5.2～3）（表 13.5.5）

といの材種　・配管用鋼管 ⊙硬質ポリ塩化ビニル管
ロックウール保温筒及びフェノールフォーム保温筒のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外
鋼管製といの防露巻き ・適用する（工法：※標準仕様書表13.5.5による ・ ）
・適用しない
ルーフドレン

種別	施工箇所
・ろく屋根用（・縦型 ・横型）	
⊙バルコニー用	バルコニー
・バルコニー中継用	

14 金属工事

1 あと施工アンカー
（14．1．3）

引抜き耐力の確認試験　※機械的簡易引抜試験機による引張試験 ・行わない
設計用引張強度　表14．2．1

2 アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理
（14．2．2）

種 別	施工箇所
・Ａ－１種	
・Ａ－２種（・ｱﾝﾊﾞｰ ・ﾌﾞﾛﾝｽﾞ ・ﾌﾞﾗｯｸ系 ・ｽﾃﾝｶﾗｰ）	
・Ｂ－１種	
・Ｂ－２種（・ｱﾝﾊﾞｰ ・ﾌﾞﾛﾝｽﾞ ・ﾌﾞﾗｯｸ系 ・ｽﾃﾝｶﾗｰ）	
・Ｃ－１種	
・Ｃ－２種（・ｱﾝﾊﾞｰ ・ﾌﾞﾛﾝｽﾞ ・ﾌﾞﾗｯｸ系 ・ｽﾃﾝｶﾗｰ）	
・Ｄ種	

他の項目に特記されたものを除く　表14．2．2

3 鉄鋼の亜鉛めっき
（14．2．3）

表面処理方法	種 別	施工箇所（手すり、タラップ以外）
溶融亜鉛めっき	・Ａ種	
	・Ｂ種	
	・Ｃ種	
電気亜鉛メッキ	・Ｄ種	
	・Ｅ種	
	・Ｆ種	

他の項目に特記されたものを除く

4 軽量鉄骨天井下地
（14.4.2～4）（表14.4.1）

野縁等の種類
屋外（⊗ 25 形 ・ 19 形） 屋内（⊗ 19 形 ・ 25 形）
・屋外の軒天井、ピロティ天井等
工法
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応する工法
野縁受、吊りボルト及びインサートの間隔 ・図示 ・
周辺部の端からの間隔 ・図示 ・
野縁の間隔 ・図示 ・
⊙吊りボルトの間隔が900mmを超える場合
補強方法 ※図示 ・
⊙天井のふところが1．5m以上3．0m以下の場合
補強方法 ⊗標準仕様書14.4.4(h)(1)～(2)による ・図示
・天井のふところが3．0mを超える場合
補強方法 ※図示 ・
・天井下地材における耐震性を考慮した補強
補強箇所 ・図示 ・
補強方法 ※図示 ・

5 金属成形板張り
（14．6．2）（14．6．3）

表14．2．1

種別	※アルミスパンドレル ・
製法	※押出し ・ロール
寸法（mm）	板幅 板厚
表面処理	・Ｂ－１ ・Ｂ－２
伸縮継手	・設ける（図示による） ※設けない
形状	⊙図示による ・

6 アルミニウム製笠木
（14．7．2）（14．7．3）

※押出し形材　表14．7．1
部材の種類　⊙２００形（呼称肉厚は１．５以上）
・３００形（呼称肉厚は１．８以上）
・３５０形（呼称肉厚は２．０以上）
表面処理　※Ａ－１種又はＢ－１種 ・
隅角部及び突当り部等の役物　笠木製造所の仕様による
・曲げ材
材質　ＪＩＳ Ｈ４０００による
表面処理　※Ａ－１種又はＢ－１種
厚さ（mm）　・２．０ 形状は図示による
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応する工法

（A3=A1縮小50%）

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査	図面番号
図面名	津山市建築工事特記仕様書３ NONE				A 3

一級建築士事務所 県知事登録第１２１５３号
（有） 芦 田 設 計
一級建築士 登録第 ９９０５３ 号 芦田國廣

左官工事

⑦ 手すり (14．8．2)
材料の種別　⊙図示による　・配管用鋼管　・
表面処理　⊙図示による　・

⑧ タラップ (14．8．3)
材料の種別　※ステンレス（ＳＵＳ３０４）　・
表面処理　・図示による　・亜鉛めっきの場合は表１４．２．２のＣ種　・

⑨ サッシ取合い間仕切り板
※アルミニウム製（表面処理はアルミニウム製建具の項による）
・鋼板製（溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯　亜鉛の付着量Ｚ１２又はＦ１２）

⑩ エキスパンションジョイント金物
材質　※アルミニウム製
表面処理　※Ｂ－１種　・Ｂ－２種
クリアランス　・５０　・１００　・１５０　・２００
耐火性能　・図示による

① 既製目地材 (15．2．2)
・使用する（形状　※図示　・　）

② 床コンクリート直均し仕上げ (15．3．2)（15．3．3）
下表以外は表６．２．４及び１５．３．２による　表6．2．4

施工箇所	平坦さ（mm）	備考
・フリーアクセスフロア（パネル工法）範囲	１mにつき１０以下	
・フリーアクセスフロア（溝工法）範囲	３mにつき　７以下	

③ セルフレベリング材塗り (15．4．2)
・せっこう系　⊙セメント系（表15.4.1）

④ 仕上塗材仕上げ (15．5．2)
・薄付け仕上塗材　表15．5．1~2

呼び名	仕上げの形状	工法
・外装薄塗材Ｅ	・砂壁状 ・着色骨材砂壁状	吹付け

・厚付け仕上塗材

呼び名	仕上げの形状	工法	上塗材
・外装厚塗材Ｅ	・吹放し ・凸部処理	吹付け	・行う ・行わない

・複層仕上げ塗材

呼び名	仕上げの形状	工法	上塗材（耐候性 ※耐候形３種・　）	
・複層塗材ＣＥ	・凸部処理	⊙吹付け	・溶剤系	※アクリル系
・複層塗材Ｓｉ	⊙凹凸模様	・ローラー	・弱溶剤系	・シリカ系
⊙複層塗材Ｅ	・ゆず肌状		※水系	⊙ポリウレタン系
⊙複層塗材ＲＥ				・アクリルシリコン系
・可とう形複層塗材ＣＥ				・ふっ素系
・防水形複層塗材ＣＥ				
・防水形複層塗材Ｅ				
・防水形複層塗材ＲＥ				
・防水形複層塗材ＲＳ				

上塗材		
※つやあり		
・つやなし		
・メタリック		

・軽量骨材仕上塗材

呼び名	仕上げの形状	工法
・吹付用軽量塗材	砂壁状	吹付け
・こて塗用軽量塗材	平たん状	こて塗り

防火材料の指定　※屋内の壁、天井の仕上材は防火材料とする　・図示による

建物内部に使用するユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒド放散量　※規制対象外　・第三種

⑤ 所要量等の確認 (15．5．7)
※表１５．５．４及び単位面積当たりの使用量による

建具工事

① アルミニウム製建具 (16．2．2~4)
外部に面する建具の性能等級等

種別	※Ａ種	・Ｂ種	・Ｃ種
耐風圧性	※Ｓ－４	・Ｓ－５	・Ｓ－６
気密性	※Ａ－３		・Ａ－４
水密性	※Ｗ－４	・Ｗ－５	・Ｗ－５
枠見込み（mm）	⊙７０　・１００		・１００
表面処理	※Ｂ－１種　Ｂ－２種（・アンバー　・ブロンズ　・ステンカラー　・ブラック）		

防音ドアセット・防音サッシの遮音性の等級　・Ｔ－１　・Ｔ－２　・Ｔ－３
断熱ドアセット・断熱サッシの断熱性の等級　・Ｈ－１　・Ｈ－２　・Ｈ－３
耐震ドアセットの面内変形追従性の等級　・

網戸等

種類	材種	線径	網目
⊙防虫網	・合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ※ステンレス製（ＳＵＳ３１６）	０．２５mm以上	１６～１８メッシュ
・防鳥網	ステンレス製（ＳＵＳ３０４）	１．５mm	網目寸法　ピッチ１５mm

皮膜等の種類（※標準仕様書表14.2.1による　・　）
屋外に面する建具以外の表面処理　Ｃ－１種

② 鋼製建具 (16．4．2)
外部に面する建具の耐風圧性の等級　・Ｓ－４　・Ｓ－５　・Ｓ－６
防音ドアセット・防音サッシの遮音性の等級　・Ｔ－１　・Ｔ－２　・Ｔ－３
断熱ドアセット・断熱サッシの断熱性の等級　・Ｈ－１　・Ｈ－２　・Ｈ－３
耐震ドアセットの面内変形追従性の等級　・
防火戸　煙感知器連動とする　防火戸の解錠機構は別途とする
扉にラッチ受座用切込み開口補強を行う

③ 鋼製軽量建具 (16．5．2~4)
外部に面する建具の耐風圧性の等級　・Ｓ－４　・Ｓ－５　・Ｓ－６
防音ドアセット・防音サッシの遮音性の等級　・Ｔ－１　・Ｔ－２　・Ｔ－３
断熱ドアセット・断熱サッシの断熱性の等級　・Ｈ－１　・Ｈ－２　・Ｈ－３
耐震ドアセットの面内変形追従性の等級　・
防火戸　煙感知器連動とする　防火戸の解錠機構は別途とする
扉にラッチ受座用切込み開口補強を行う
戸の鋼板
※表面処理亜鉛めっき鋼板
・ビニル被覆鋼板
・カラー鋼板　表16．4．1

区分	材質
召合わせ、縦小口包み板	※鋼板　・ステンレス　・アルミニウム
扉の表面材、押縁	※鋼板　・ビニル被覆鋼板
枠類	※鋼板（くつずりはステンレス）　・製作所仕様

④ ステンレス製建具 (16．6．2~5)
外部に面する建具の耐風圧性　・Ｓ－４　・Ｓ－５　・Ｓ－６　・
防音ドアセット・防音サッシの遮音性の等級　・Ｔ－１　・Ｔ－２　・Ｔ－３
断熱ドアセット・断熱サッシの断熱性の等級　・Ｈ－１　・Ｈ－２　・Ｈ－３
耐震ドアセットの面内変形追従性の等級　・
ステンレス鋼板（屋外）　※ＳＵＳ３０４　・ＳＵＳ４３０Ｊ１Ｌ
ステンレス鋼板（屋内）　・ＳＵＳ３０４　・ＳＵＳ４３０Ｊ１Ｌ　※ＳＵＳ４３０
表面仕上げ　※ＨＬ仕上げ　・鏡面仕上げ
曲げ加工　※普通曲げ　・角出し曲げ（・ａ角　・ｂ角　・ｃ角）

⑤ 木製建具 (16．7．2~4)
建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外　・第三種
ふすまの材料　種別　※表１６．６．３のⅡ型
上張り紙　※ビニル紙　・新鳥の子
押入等の裏側　※雲花紙
縁の仕上げ　・塗り縁　・生地縁（素地）　・生地縁（ウレタンクリヤー塗装）
枠及びくつずり材料　※図示による
⊙鍵はデットボルト付とする。

⑥ 鍵 (16．8．4)
マスターキー　⊙製作する（　１組）位置について要協議のこと。・製作しない　・既存に組込む
鍵箱　⊙設ける　（　30 個用　1 組程度）設置位置サイズについて要協議のこと。　・設けない

⑦ 自動ドア開閉装置 (16．9．2~3)
センサーの種類　表16．８．１~３
※光線（反射）・マット　・熱線　・音波　・光電
・電波　⊙タッチ　・押しボタン　・ペダル　・多機能便所
取付け位置　・床面　◎天井面（埋め込み）　・壁面　・無目　○建具面

⑧ 自閉式上吊り引戸装置 (16．10．3)
自閉式上吊り引戸装置の性能　※表１６．１０．１による

⑨ 重量シャッター (16．11．2)
種類　・管理用　・外壁用防火　・屋内用防火　・防煙
防火又は防煙シャッターは、自動閉鎖装置及び随時閉鎖装置付とし、連動制御盤及び煙感知器は別途とする
耐風圧強度　管理用（　）Ｎ／㎡　外壁用（　）Ｎ／㎡
開閉機能による種類　※上部電動式（手動併用）　・上部手動式　表16．10．１
シャッターケース（防火、防煙以外）　※設ける　・設けない
障害物感知装置　※設ける　・設けない

⑩ 軽量シャッター (16．12．2~4)
開閉形式　※手動式　・上部電動式（手動併用）　表16．11．１
耐風圧強度（　）Ｎ／㎡
スラットの材質　※ＪＩＳ　Ｇ３３１２（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）又は、ＪＩＳ　Ｇ３３１８（塗装溶融亜鉛－５％アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯）
スラットの形状　※インターロッキング形　・オーバーラッピング形
シャッターケース　※設ける　・設けない
ガイドレールの材質　※ステンレス製（ＳＵＳ３０４）厚さ１．５mm（※中柱共）
座板（屋外の場合）　※ステンレス製既製品　・

⑪ オーバーヘッドドア (16．13．2)(16．13．3)
セクション材料による区分
※スチールタイプ　⊙アルミニウムタイプ　・ファイバーグラスタイプ
耐風圧性能　・５００Ｐａ　・７５０Ｐａ　⊙１０００Ｐａ　・１２５０Ｐａ　・１７００Ｐａ
開閉形式による区分　※バランス式　・チェーン式　⊙電動式
収納形式による区分　・スタンダード形　・ローヘッド形　⊙ハイリフト形　・バーチカル形
ガイドレールの材質　※溶融亜鉛めっき鋼板　・ステンレス製（ＳＵＳ３０４）厚さ２．０mm

⑫ ガラス (16．14．2)
・合わせガラス

品種	構成種類	性能
※フロート合わせガラス	※フロート板合わせガラス ・熱線吸収、フロート板合わせガラス	・Ⅰ類
・網入合わせガラス	・網入り、フロート板合わせガラス ・網入り、熱線吸収板合わせガラス	・Ⅱ－１類　・Ⅱ－２類 ・Ⅲ類

⊙強化ガラス

材料板ガラスによる種類	種類	性能
※フロートガラス	※フロート強化ガラス ・熱線吸収強化ガラス	・Ⅰ類　・Ⅱ類
・型板ガラス	※型板強化ガラス	

⊙複層ガラス

品種	断熱性	日射遮へい性
・断熱複層ガラス	・１種	Ｕ１
	・２種	Ｕ２
	・３種	・Ｕ－３－１　・Ｕ－３－２
・日射熱遮へい複層ガラス	・４種	Ｅ４
	・５種	Ｅ５

・熱線反射板ガラス

品種	色調
※熱線反射ガラス	・ブルー　・グレー
・高性能反射板ガラス	・ブロンズ　・シルバー

品種	日射遮へい性	耐久性	ガラスの種類
※熱線反射ガラス	・１種	Ａ種	
・高性能反射板ガラス	・２種	・Ａ種　・Ｂ種	
	・３種	Ｂ種	

反射皮膜面　※内面　・外面
映像調整　※行わない　・行う

・倍強度ガラス

材料板ガラスによる種類の名称	色調
※倍強度ガラス	
・倍強度熱線吸収ガラス	・グレー　・ブルー　・ブロンズ　・

表16．13．１

⑬ ガラスの留め材 (16．14．2)

建具の種類	材種
鋼製	※シーリング材　・ガスケット
アルミニウム製	※シーリング材　・ガスケット（グレイジングチャンネル形）
ステンレス製	※シーリング材　・ガスケット
木製	※シーリング材　・ガスケット

防火戸のガラス留め材は、建築基準法に基づく防火性能の認定を受けた条件による

⑭ ガラス溝の寸法、形状等 (16．14．3)
※表16．14．１による
・図示による

⑮ ガラスブロック積み (16．14．5)

表面形状	呼び寸法	厚さ	色調 クリア	色調 乳白	目地幅（mm） 平積み	目地幅（mm） 曲面積み	伸縮調整目地（mm）	防火性能
正方形	・125×125	80	・	・	※8～15	外側	※6m以下毎に	※なし
	・160×160	・95　・125	・	・	・15～25	※15以下	10～20	・あり
	・200×200	・95　・125	・	・	・	・	・図示による	
	・320×320	95	・	・		内側	・	
長方形	・250×125	80	・	・		※6以下		
	・320×160	95	・	・		・		

曲面積みの曲率半径は、ガラスブロックの幅寸法の１０倍以上とする
壁用金属枠及び補強材　・設ける　（形状　※図示による　・　）
力骨　※ステンレス鋼（ＳＵＳ３０４）径５．５mmはしご形状複筋及び単筋　・
目地部の力骨の補強方法　※ガラスブロック製造所の仕様による　・
化粧目地モルタルの色　（　）
シーリング材　※表９．６．１による　・
金属製化粧カバー　材質　・ステンレス製　・アルミニウム製
寸法　・図示による　・
形状　・図示による　・
建築基準法に基づき定める風圧力に対応した工法を施工計画として提出する

⑯ ガラス用フィルム

名称	種類	張り面	性能値
※ガラス飛散防止フィルム	第２種	※内張り　・外張り	飛散防止率　Ｄ１
・			

品質　ＪＩＳ　Ａ５７６９による。

⑰ 付属電気設備
電動シャッター、自動扉、電動オーバーヘッドドアの電動機が三相電動機０．４ｋｗ以上の場合は機器付属の操作盤内に電動機保護用遮断機及び逆相用コンデンサーを設置する

⑱ 引き戸錠
※誤作動防止装置付き

カーテンウォール工事

① カーテンウォール (17．1．3)(17．2．2~5)(17．3．2~5)
取付方法　・層間方式　・柱、梁方式　・方立方式　・スパンドレル方式
性能

耐震性能（地震力係数）		気密性	・Ａ－１　・Ａ－２ ・Ａ－３　・Ａ－４　・
水平方向（ｋＨ）	※１．０　・	耐火性	・３０分 ・１時間
垂直方向（ｋＶ）	※０．５　・	耐温度差性	・８０℃　・７０℃　・６０℃
		遮音性	・Ｔ－１　・Ｔ－２　・Ｔ－３　・Ｔ－４
水密性	・Ｗ－１　・Ｗ－２　・Ｗ－３ ・Ｗ－４　・Ｗ－５	断熱性	・Ｈ－１　・Ｈ－２　・Ｈ－３　・Ｈ－４ ・Ｈ－５

主要部材の耐風圧性能（ガラスを除く）

支点間距離（ｍ）	耐風圧性能	状態
４m以下	※たわみ量が土（１／２５０）ｘｈかつ絶対量２０mm以下であること ・	部材の脱落、ガラスの破損及び主要部材に有害な歪みが起こらないこと
４mを超える	・	

層間変位追従性

建築物の構造種別	層間変位量（ｈ＝支点間距離）	変位後の状態
鉄骨造	※土（１／２００）ｘｈ以上 ・	部材の脱落、ガラスの破損及び主要部材に有害な歪みが起こらないこと シーリングは補修程度の損傷であること
鉄筋コンクリート造 鉄骨鉄筋コンクリート造	・土（１／３００）ｘｈ以上	

その他の性能　図示による
種類　・メタルカーテンウォール
金属材料の種類（見掛り部分の仕上げ）
・アルミニウム製（・Ｂ－１　・　）
・鋼製（　）
・ステンレス製（　）
・ＰＣカーテンウォール
ゴンドラ用ガイドレール　・設置する　・設置しない
建築基準法に基づき定める風圧力に対応した工法を施工計画書として提出する

塗装工事

① 材料 (18．1．3)
建物内部に使用するユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外　・第三種

② 素地ごしらえ (18．2．2~7)

・木部	・不透明塗料塗り	（※Ａ種　・Ｂ種）	表18．２．１~７
	・透明塗料塗り	（・Ａ種　※Ｂ種）	
・鉄鋼面		（・Ａ種　・Ｂ種　※Ｃ種）	
・亜鉛めっき鋼面（鋼製建具）		（・Ａ種　・Ｂ種）	
・ﾓﾙﾀﾙ面及びﾌﾟﾗｽﾀｰ面		（・Ａ種　※Ｂ種）	
・ｺﾝｸﾘｰﾄ面及びALCﾊﾟﾈﾙ面		（・Ａ種　※Ｂ種）	
・ｺﾝｸﾘｰﾄ面及び押出成形ｾﾒﾝﾄ板面		（・Ａ種　※Ｂ種）	
・せっこうﾎﾞｰﾄﾞ面及びその他ﾎﾞｰﾄﾞ面			
	・せっこうﾎﾞｰﾄﾞの目地工法が継目処理工法	（※Ａ種　・Ｂ種）	
	・その他の場合	（・Ａ種　※Ｂ種）	

③ 錆止め塗料塗り (18．3．2)(18．3．3)　（表18．３．１）(表18．３．３）

塗装面			塗料	工程
鉄鋼面	屋内（EP-G以外）	見え掛り	Ａ種（・JIS A5625	※Ａ種　・Ｂ種
	屋外	見え隠れ	※JIS K5674）	・Ａ種　※Ｂ種
	屋内（EP-G）	見え掛り	Ｂ種（※JASS 18 M-111	※Ａ種　・Ｂ種
		見え隠れ	・JIS A5674）	・Ａ種　※Ｂ種

（表18．３．２）(表18．３．４）

塗装面			塗料	工程
亜鉛めっき鋼面	屋内（EP-G以外）	鋼製建具等	※Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種	※Ａ種　・Ｂ種
	屋外	鋼製建具等以外	・Ａ種　※Ｂ種　・Ｃ種	・Ａ種　※Ｂ種
	屋内（EP-G）	鋼製建具等	・Ａ種　・Ｂ種　※Ｃ種	※Ａ種　・Ｂ種
		鋼製建具等以外	・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種	・Ａ種　※Ｂ種

④ 仕上げ塗料塗り (18．4．1~18．14．2)

塗装の種類	塗装面	工程
⊙合成樹脂調合ペイント塗り（ＳＯＰ）	・木部（外部）	※Ａ種　・Ｂ種
	・木部（内部）	・Ａ種　※Ｂ種
	⊙鉄鋼面	・Ａ種　※Ｂ種
	・亜鉛めっき鋼面	表１８．４．３
⊙クリアラッカー塗り（ＣＬ）	木部	・Ａ種　※Ｂ種
・アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り（ＮＡＤ）	・屋内のコンクリート面	・Ａ種　※Ｂ種
	・屋内のモルタル面	・Ａ種　※Ｂ種
⊙耐候性塗料塗り（ＤＰ）	⊙屋外の鉄鋼面	表１８．７．１
	・屋外の亜鉛めっき鋼面	表１８．７．２
	・屋外のコンクリート面	・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種
	・つや有合成樹脂エマルションペイント塗り（ＥＰ－Ｇ）	・コンクリート面	・Ａ種　※Ｂ種
		・モルタル面	・Ａ種　※Ｂ種
		・プラスター面	・Ａ種　※Ｂ種
		・せっこうボード面	・Ａ種　※Ｂ種
		・	・Ａ種　※Ｂ種
		・屋内の木部	表１８．８．２
		・屋内の鉄鋼面	・Ａ種　※Ｂ種
		・屋内の亜鉛めっき鋼面	表１８．８．４
	⊙合成樹脂エマルションペイント塗り（ＥＰ）	・コンクリート面	・Ａ種　※Ｂ種
		・モルタル面	・Ａ種　※Ｂ種
		・プラスター面	・Ａ種　※Ｂ種
		⊙ケイカル、せっこうボード面	・Ａ種　※Ｂ種
		⊙ＡＬＣ面	・Ａ種　※Ｂ種
	・合成樹脂エマルション模様塗料塗り（ＥＰ－Ｔ）	・屋内のコンクリート面	・Ａ種　※Ｂ種
		・屋内のモルタル面	・Ａ種　※Ｂ種
		・屋内のプラスター面	・Ａ種　※Ｂ種
		・屋内のせっこうボード面	・Ａ種　※Ｂ種
	⊙ウレタン樹脂ワニス塗り（ＵＣ）	木部	・Ａ種　※Ｂ種
	・オイルステイン塗り（ＯＳ）	木部	表１８．１３．１
	・木材保護塗料塗り（ＷＰ）	木部	・Ａ種　※Ｂ種
	・マスチック塗材塗り	・コンクリート面	・Ａ種　・Ｂ種
		・押出成型ｾﾒﾝﾄ板面	・Ａ種　・Ｂ種
		・モルタル面	・Ａ種　・Ｂ種
		・ＡＬＣパネル面	・Ａ種　・Ｂ種

合成樹脂調合ペイント塗りの塗料の種別　※１種　・

内装工事

① 接着剤 (19．2．2)
壁紙施工用でん粉系接着剤、ユリア樹脂等を用いた接着剤のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外　・第三種
接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする

② ビニル床シート、ビニル床タイル及びゴム床タイル (19．2．2)(19．2．3)
ビニル樹脂系材料の原材料
再生ビニル系材料の原材料の合計重量が製品の総重量比で１５％以上使用されているもの（ＪＩＳ　Ａ５７０５（ビニル系床材）に規定されるビニル系床材の種類で記号ＰＦに該当するものを除く）

・ビニル床シート

種類	記号	色柄	厚さ（mm）	工法
※発泡層のないもの	※ＦＳ ・ＴＳ	・プレーン ⊙マーブル ・特殊柄	⊙２．０ ※２．５	・突付け ※熱溶接
・発泡層のあるもの	・ＨＳ ⊙ＫＳ	・プレーン ⊙マーブル ・絨物	⊙１．８	・突付け ⊙熱溶接

⊙ビニル床タイル

種類	記号	色柄	厚さ（mm）
※接着形	⊙ＦＴ	・プレーン　⊙マーブル　・特殊柄	※２．０　・
	・ＴＴ	・プレーン　・マーブル　・特殊柄	・
	・ＫＴ	・プレーン　・マーブル　・特殊柄	※２．０　・
※置敷形	・ＦＯＡ	・プレーン　・マーブル　・特殊柄	・
	・ＦＯＢ	・プレーン　・マーブル　・特殊柄	・

⊙特殊機能床材（帯電防止）

種類	記号	色柄	厚さ（mm）	備考
・帯電防止床シート	・ＦＳ ・	・	・２．０ ・	帯電防止性能評価値（ＪＩＳ　Ａ１４５５） １．２以上～３．２未満
⊙帯電防止床タイル	⊙ＦＯＡ ・ＦＯＢ	・	⊙５．０	又は体積電気抵抗値（ＪＩＳ　Ａ１４５４） １×１０^{7}～１×１０^{10}Ω程度

・特殊機能床材（帯電防止以外）

種類	厚さ（mm）	寸法（mm）	材料	色柄
・誘導用床材、注意喚起用床（表面形状　ＪＩＳ　Ｔ９２５１）	・	・３００×３００　※塩ビ　・合成ゴム ・４００×４００　合成ゴム		・黄色 ・
・				

ビニル幅木の高さ（mm）　※６０　・７５
厚さ（mm）　※２．０　・
材質　※軟質　・硬質
・タイルカーペット (19．3．3，4)

③ カーペット敷き (19．3．3)(19．3．4)

パイル形状	種別	施工箇所	寸法	総厚さ(mm)	備考
※ループパイル	※第一種 ・第二種		※ 500×500	※ 6.5	
・カットパイル	・第一種 ・第二種		※ 500×500	※ 6.5	
・カット＆ループ併用	・第一種 ・第二種		※ 500×500	※ 6.5	

④ 合成樹脂塗床 (19．4．3)
⊙弾性ウレタン塗り床材　表19．4．４
仕上げの種類　※平滑仕上げ　⊙防滑仕上げ　・つや消し仕上げ
⊙エポキシ樹脂塗り床材　表19．4．５~７
仕上げの種類　・薄膜流し展べ仕上げ　・厚膜流し展べ仕上げ
・樹脂モルタル仕上げ　⊙防滑仕上げ
ユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外　・第三種

⑤ 床用防じん塗料塗 材質　水性アクリル系樹脂塗料（※標準色　・　）
仕上種別　コーティング（ローラー刷毛塗り）
塗布量　主剤２回塗りとし、総塗布量は０．２５Ｋｇ／㎡以上とする

⑥ フローリング張り (19．5．2~6)
複合フローリングのホルムアルデヒド放散量　※規制対象外　・第三種
種別・工法
・単層フローリング（・フローリングボード　・フローリングブロック　・モザイクパーケット）
・湿式工法　・乾式工法（・釘どめ工法　・接着工法）
※複合フローリング（※１種　・２種　・３種）　表層　※なら　・ヒノキ
・乾式工法（・釘どめ工法（・Ａ種　・Ｂ種　※Ｃ種）　・接着工法）
仕上げ　※ウレタン樹脂ワニス　・オイルステイン塗りのうえワックス　・生地のままワックス
間伐材等の適用　※適用する　・適用しない
間伐材等：間伐材、合板・製材工場から発生する端材等の残材、林地残材又は小径木の体積比割合が１０％以上であること
居室の内装材にあっては、ホルムアルデヒド放散量（ＪＡＳ規格による測定方法）が平均値で０．３ｍｇ／Ｌ以下かつ最大値で０．４ｍｇ／Ｌ以下であること

⑦ 畳敷き (19．6．2)
種別　・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種　◎Ｄ種　表19．６．１
Ｄ種の場合の畳床記号　・ＫＴ－Ⅰ　・ＫＴ－Ⅱ　⊙ＫＴ－Ⅲ
・ＫＴ－Ｋ　・ＫＴ－Ｎ

(A3=A1縮小50%)

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査	図面番号 A 4
図面名	津山市建築工事特記仕様書４　NONE				
一級建築士事務所	県知事登録第１２１５３号 （有）　戸　田　設　計	一級建築士	登録第　９９０５３　号	芦田國廣	

⑧ せっこうボード その他ボード及び合板張り (19．7．2)

天井及び壁に使用する材料は、建築基準法に基づく防火材料の指定又は認定を受けたもの
合板類、ＭＤＦ及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量
※規制対象外　・第三種
パーティクルボード、繊維板、木質系セメント板の原材料
合板・製材工場から発生する端材等の残材、建築解体木材、使用済み梱包材、製紙未利用低質チップ、林地残材、かん木、小径木（間伐材を含む）等の再生資源である木質材料又は植物繊維の重量比配合割合が５０％以上であること。（この場合、再生資材全体に占める体積比配合率が２０％以下の接着材、混和剤等（パーティクルボードにおけるフェノール系接着剤、木質系セメント板におけるセメント等で主要な原材料相互間を接着する目的で、使用されたもの）を計上せずに、重量比配合割合を計算することができるものとする）

目地工法の種類とせっこうボードのエッジの種類

目地処理の種類	張り方	せっこうボードのエッジの種類
○継目処理	○直張り　・上張り	※テーパーエッジ
・突付け	・直張り　・上張り　・下張り	※スクェアエッジ
・突付けＶ目地	・直張り　・上張り	※ベベルエッジ
・目透し	・直張り　・上張り	・ベベルエッジ　・スクェアエッジ

⑨ 壁紙張り (19．8．2)

建築基準法に基づく防火材料の指定又は認定を受けたもの

施工箇所	品質（製造所）	防火性能の級別
図示による	図示による	図示による

ホルムアルデヒド放散量　※規制対象外　・第三種

⑩ 断熱材打込み工法 (19．9．2)

断熱材の種類　※押出法ポリスチレンフォーム保温板２種ｂ　厚さ　※２５㎜　・
○押出法ポリスチレンフォーム保温板３種ｂ（土間下）　厚さ　※２５㎜　・
・硬質ウレタンフォーム保温板１種２号　厚さ　※２０㎜　・
・フェノールフォーム保温材Ａ種　厚さ　・

断熱補修材　・断熱材と同材
※吹付け硬質ウレタンフォーム断熱材（次項による）

11 断熱材現場発泡工法 (19．9．3)

ユリア樹脂又はメラミン脂を使用した断熱材のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外　・第三種
断熱材の種類　※Ａ種１　・Ｂ種１
厚さ　・２５　・３０　・
施工箇所　※窓回り等の断熱材補修部分、ルーフドレイン廻りの床版下等、部分的に後張りとしなければいけない箇所
・図示による
・

⑫ 断熱材の原材料 (19．9．2~3)

グラスウール：再生資源利用率は、原材料の重量比で８０％以上
ロックウール：再生資源利用率は、原材料の重量比で８５％以上
発泡断熱材　：オゾン層を破壊する物質を使用していないもの。また、長期的に断熱性能を保持しつつ、可能な限り地球温暖化係数の小さい物質が使用されているもの

⑳ ユニット及びその他の工事

① フリーアクセスフロア (20．2．2)

施工箇所	○事務室	・
工法	○置敷式	・支柱調整式
耐震性能	○1．0Ｇ　○0．6Ｇ	・1．0Ｇ　・0．6Ｇ
耐荷重性能	◎3000Ｎ　・5000Ｎ	※3000Ｎ　・5000Ｎ
パネル寸法（㎜）	○250×250	・
高さ（㎜）	○70　・	・　・
床表面仕上げ材の材質	※タイルカーペット ○帯電防止床タイル	※タイルカーペット ・帯電防止床タイル
ボーダー部及びスロープ	※メーカー仕様　・図示による	※メーカー仕様　・図示による

表面仕上材の品質・性能は、標準仕様書２０章による
配線用取り出しパネル
フリーアクセスフロア全体面積に対する設置割合　※２０～３０％　・
配線取り出し開口　※パネル１枚につき４０㎜ｘ８０㎜程度の開口１ヶ所以上　・図示
空調用吹き出し（吸い込み）パネル
※なし
・有り　（※固定式　・可変式）：　施工箇所（※図示による　・　　）
耐荷重性能（５０００Ｎ、高さ３００以上）の性能
平成元年建設省告示第１３２２号「耐震性フリーアクセスフロアの開発」の建設技術評価において評価を取得したもの、又は同等のものとする
ロードローリング性能　※適用する　・適用しない
以下（使用上有害な変形、欠け、割れ、がたつきなどの欠点がないこと）
ロードローリング試験
耐荷重性能（３０００Ｎ）：積載荷重１０００Ｎの際、最大変形量１．５㎜以下
耐荷重性能（５０００Ｎ）：積載荷重１０００Ｎ以上の際、最大変形量１．０㎜以下
（使用上有害な変形、欠け、割れ、がたつきなどの欠点がないこと）

② 可動間仕切 (20．2．3)

ＪＩＳ　Ａ６５１２によるほか、下記による
構造形式による種類　※スタッド式（・スタッド露出・スタッド内蔵）・スタッドパネル式
構成材の種類　※図示による
表面材質及び厚さ（㎜）　※鋼板０．６　・鋼板０．８　・
パネル表面仕上げ　メラミン樹脂焼付又はアクリル樹脂焼付（※常備色　・指定色）
パネル総厚さ（㎜）　・　㎜程度
遮音性の区分　・０　・１２　・２０　・２８　・３６
防火性能　・不燃

③ 移動間仕切 (20．2．4)

パネルの操作方法による種類　・製造所の仕様による　・図示による
表面材質及び厚さ（㎜）　※鋼板０．６　・
仕上げ　メラニン樹脂焼付又はアクリル樹脂焼付（※常備色　・指定色）
パネル総厚さ（㎜）　・　㎜程度
パネル圧接装置の操作方法　・製造所の仕様による　・図示による
遮音性の区分　・３６未満　・３６以上　（ＪＩＳ　Ａ６５１２に準拠する）

④ トイレブース (20．2．5)

表面材　※メラニン樹脂系化粧板　・ポリエステル樹脂系化粧板
ドアエッジ材質形状　※アルミＲエッジ　・
幅木材質形状　※ステンレス幅木　・

⑤ 階段滑止め (20．2．6)

材種　ステンレス製（ＳＵＳ３０４）（・埋込工法　※接着工法）
端部フラットエンド　※有（※タイヤと同材　・ステンレス鋼）　・無
型式　※ビニルタイヤ又は合成ゴムタイヤ入り　・
幅（㎜）　※約３５　・

⑥ 黒板及びホワイトボード (20．2．8)

・ホワイトボード　ほうろう　形状及び寸法は図示による
・黒板　※焼き付け　・　色彩　※緑　・　形状及び寸法は図示による

⑦ 鏡 (20．2．9)

取付箇所　○図示による　・（　　）
寸法（㎜）　○図示による　・
厚さ（㎜）　※５　・

⑧ 表示 (20．2．10)

・案内板　・施設案内板（※標準詳細図による　・図示による）
・各階案内板（※標準詳細図による　・図示による）
・視覚障害者用案内板（※図示による）
・室名札　※標準詳細図による　・市販品
○ピクトグラフ　標準案内図用記号　※ＪＩＳ　Ｚ８２１０による　・図示による
形状・その他　◎図示による
○施設文字　※標準詳細図による　○図示による
・切抜文字（・ステンレス製・黄銅製）　・箱文字（・ステンレス製・黄銅製）
字数（　）　文字の大きさ（　ｘ　）
・対人衝突防止表示　・図示による
・非常用進入口　・図示による
案内図用記号はＪＩＳ　Ｚ８２１０による

9 煙突ライニング (20．2．11)

煙突用成形ライニング材　適用安全使用温度　※４００℃　・６５０℃
キャスタブル耐火材　工法　・こて押さえ　・
最高温度　※４００℃　・

⑩ ブラインド (20．2．12)

形式	○横型ブラインド	・縦型ブラインド（防炎性能を有するもの）
スラットの材種	アルミニウム合金製	・アルミスラット　・クロススラット
スラットの種類	※ギア式 ・コード式 ・操作棒式	・１本操作コード式 ※２本操作コード式
スラットの幅（㎜）	※２５　・３５	・７５以上　・１００

11 ロールスクリーン (20．2．13)

操作方式　・スプリング式　・コード式（チェーン式）　・電動式
材種　・図示による　・
遮光性能　・図示による　・

12 カーテン及びカーテンレール (20．2．14)

カーテン

施工箇所	きれ地の品質等（製造所）	ひだの種類	開閉形式	カーテン操作方式
			・片引き　・引分	※手動　・電動

カーテンレール及び付属金物

施工箇所	強さによる区分	材料による区分	仕上げ	形状	カーテン用付属金物
	・１０－６０ ※１０－９０	※アルミニウム ・	※アルマイト ・	※角形 ・	

・暗幕用は３００㎜以上の召し合せの重掛けとする

⑬ 点検口

天井　材種　アルミニウム製　寸法（㎜）　◎４５０ｘ４５０　・６００ｘ６００
形式　一般型　外枠　・額縁タイプ　○目地タイプ
内枠　・額縁タイプ　・目地タイプ
枠の許容差　±０．５㎜以内　外枠と内枠のクリアランス　片側２．０㎜以内
材料の品質及び性能
外枠、内枠の材質
アルミニウム合金押出形材　ＪＩＳ　Ｈ４１００　Ａ６０６３Ｓ－Ｔ５
表面処理　表１４．２．１のＣ－１種、Ｃ－２種（外部はＢ－１種、Ｂ－２種）
外枠及び内枠のコーナーピース、吊り金物、取付ボルト
鋼板に亜鉛めっき等の防錆処理を行ったもの

床　材種　アルミニウム製　寸法（㎜）　・４５０ｘ４５０　※６００ｘ６００
形式　※屋内用一般型　・密閉形
パッキンを装着しないもの及びがたつき防止用パッキンを装着したもの
枠の許容差　±０．５㎜以内　外枠と内枠のクリアランス　片側２．０㎜以内
材料の品質及び性能
受枠材、蓋枠材、コーナーピース、底板材、底板補強材
アルミニウム合金押出形材　ＪＩＳ　Ｈ４１００　Ａ６０６３Ｓ－Ｔ５
表面処理　表１４．２．１のＡ－１種、Ａ－２種、Ｂ－１種、Ｂ－２種
開閉方式　施錠・開錠は、鍵又は開閉用ハンドル式
その他　製造所の仕様による

14 屋外掲示板

本体材質　※ステンレス製　・
照明器具　・有り　・無し
掲示板面材質　・
施錠装置　※有り　・無し
形状寸法　※図示による　・

15 鋼製書架及び物品棚

・固定式（下記以外は図示による）
鋼製書架　※ＪＩＳ　Ｓ１０３９による　・法務省型
鋼製物品庫　・ＪＩＳ　Ｓ１０４０による
・移動式　形状等は図示による

16 くつふきマット

※塩化ビニル又はゴム製（受け枠ステンレス製（ＳＵＳ３０４））ワンライン型
・硬質アルミニウム合金製（受け枠ステンレス製（ＳＵＳ３０４））
・ステンレス製（ＳＵＳ３０４）（受け枠ステンレス製（ＳＵＳ３０４））

⑰ フェンス

フェンスの種類　・ビニル被覆エキスパンドフェンス　・鋼管フェンス　○高耐候性樹脂粉体塗装フェンス
・樹脂塗装メッシュフェンス　・アルミフェンス　・防風柵（図示による）
高さ　○図示による　・

⑱ 階段手すり笠木

材質	表面仕上げ	直径（㎜）	取付箇所
○集成材	○ＣＬ　・	・６０　・４５　・４０　・	
・ステンレスパイプ	・ＨＬ　・	・６０　・４５　・４０　・	
・鋼製パイプ	・ＥＰ－Ｇ　・	・６０　・４５　・４０　・	
・ビニル製			

⑲ 天井見切り縁

材種　※アルミニウム既製品　○ビニル既製品

20 ピクチャーレール

※見切り縁兼用タイプ　・
移動フック　ヶ／ｍ　安全荷重　※１５kg以上　・

21 誘導用床材、注意喚起用床材

材種　・レジンコンクリート製（厚さ３０㎜）　・磁器質タイル製　・コンクリート製（厚さ６０㎜）
・
表面形状　ＪＩＳ　Ｔ９２５１による
寸法　※３００ｘ３００
色　※黄色　・

㉒ 旗竿

形式　○ロープ式（テーパー式）
※ハンドル式（テーパー式又は同一断面式）
材種　○アルミニウム合金　・
高さ（ｍ）　○９ｍ
旗竿受金物　※ステンレス鋼（ＳＵＳ３０４）製　・

㉓ 既製家具

合板類、ＭＤＦ及びパーティクルボード、接着剤及び塗料のホルムアルデヒド放散量
◎規制対象外　・第三種　○Ｆ☆☆☆

24 車止め柵

形式	材種	柱径・肉厚（㎜）	高さ（㎜）	備考
・上下式内蔵式（・標準品　・ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞ式）・	・ステンレス製・	・φ76.3　ｔ＝2.0・	・ＧＬ＋700・	

㉑ 排水工事

① 排水管 (21．2．1)

・遠心力鉄筋コンクリート
種類　※外圧管Ｂ形１種　・
継手　※ゴム接合　・モルタル接合
・硬質ポリ塩化ビニル管
○ＶＰ　・ＶＵ
・ＲＳ－ＶＵ
建物外での硬質ポリ塩化ビニル管であって、使用済み塩化ビニル管を原材料とする塩化ビニルが製品全体重量比で３０％以上使用されていること

② 側塊、排水桝等 (21．2．2)

・鋳鉄製ふた
型式　※水封型　・簡易密閉型　・密閉型　・中ふた付密閉型
適用荷重（安全荷重［ｋＮ］）
屋内用　・Ｔ－２用（５）　・
屋外用　・Ｔ－２用（５）　※Ｔ－６用（１５）　・Ｔ－２０用（５０）　・
鍵　・有　・無
○グレーチング

種類	形式	用　途	適用荷重	メンバーピッチ	上面形状
○鋼製	・受枠付 ○ボルト固定	・溝ふた（横断用） ・溝ふた（側溝用） ○桝ふた用 ・Ｕ字溝用	・歩行用 ・Ｔ－２用 ・Ｔ－６用 ・Ｔ－１４用 ○Ｔ－２０用	・普通目　・細目	※凹凸形 ・
・ステンレス製	・受枠付 ・ボルト固定	・溝ふた（横断用） ・溝ふた（側溝用） ・桝ふた用 ・Ｕ字溝用	・歩行用 ・Ｔ－２用 ・Ｔ－６用 ・Ｔ－１４用 ・Ｔ－２０用	・普通目　・細目	・凹凸形 ・平形

㉒ 舗装工事

① 路床 (22．2．2~5)

路床の構成　※標準詳細図による　・
盛土に用いる材料（表３．２．１による）
・Ａ種　◎Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種
・建設汚泥から再生した処理土
支持力比（ＣＢＲ）試験
◎行わない　・行う（※乱した土　・乱さない土）
締固め度の試験
・行わない　○行う（プルフローリング）
砂の粒度試験
◎行わない　・行う

② 路盤 (22．3．2~5)

路盤の構成　・標準詳細図による　○図示による
路盤材料　※再生材クラッシャラン　・クラッシャラン鉄鋼スラグ
締め固め度試験　○行わない　・行う
砂の粒度試験　○行わない　・行う

③ アスファルト舗装 (22．4．2~6)

舗装の構成　・標準詳細図による　○図示による
車道部の基層　・あり　・なし
アスファルト　※再生アスファルト　・ストレートアスファルト
骨材　※砕石　・アスファルトコンクリート再生骨材
加熱アスファルト混合物等の種類
※表層　※密粒度アスファルト混合物（１３）
・細粒度アスファルト混合物（１３）
・
・基層　・粗粒度アスファルト混合物（２０）
シールコート　※行わない　・行う
アスファルト混合物の抽出試験　※行わない　・行う

4 コンクリート舗装 (22．5．2~6)

舗装の構成　※標準詳細図による　・図示による
溶接金網　※使用する（１５０Ｘ１５０Ｘ６φ）　・使用しない
コンクリート版の厚さの試験　※行わない　・行う

5 カラー舗装 (22．6．2~6)

舗装の構成　※標準詳細図による　・図示による
車道部の基層　・あり　・なし
種類　※表層に着色した加熱アスファルト混合物
・表層の上に着色舗装又は樹脂系混合物
・表層の上に常温塗布式舗装又はニート工法による樹脂系舗装
カラー舗装に添付する着色骨材
・有色骨材（材質＜　＞）
・着色骨材（材質＜　＞）
シールコート　※行わない　・行う
アスファルト混合物の抽出試験　※行わない　・行う

6 透水性アスファルト舗装 (22．7．2~6)

舗装の構成　※標準詳細図による　・図示による
アスファルト混合物の抽出試験　※行わない　・行う

7 排水性アスファルト舗装 (22．8．2~6)

舗装の構成　※標準詳細図による　・図示による
アスファルト混合物の抽出試験　※行わない　・行う

8 ブロック系舗装 (22．9．2)(22．9．3)

舗装の構成　※標準詳細図による　・図示による
※インターロッキングブロック
材質（※コンクリート　・　　）　種類（※普通　・透水性　・植生用）
形状（・長方形　・正方形　・六角形）　厚さ（・６０　・８０　・１００）
表面加工　・ショット仕上げ　表22．8．1
クッション材　※空練りモルタル　・砂
・再生材料を用いた舗装用ブロック（焼成）
再生材料が原材料の重量比で２０％以上（複数の材料が使用されている場合は、それらの材料の合計）使用されているもの。ただし、再生材料の重量の算定において、通常利用している同一工場からの廃材の重量は除かれるものとする。重金属等有害物質の含有や、施工時及び使用時に雨水等による重金属等含有物質の溶出について、土壌の汚染に係る環境基準等に照らして問題がないもの

再生材料の原料となるもの	前処理方法
採石及び窯業廃土、無機珪砂（キラ）、鉄鋼スラグ非鉄スラグ、鋳物砂、陶磁器屑、石灰灰、建築廃材（汚泥を除く）、廃ガラス（無色及び茶色のガラスびんを除く）、紙製スラッジ、アルミスラッジ、磨き砂汚泥、石材屑	前処理方法によらず対象
都市ゴミ焼却灰	溶融スラグ
下水道汚泥	焼却灰化又は溶融スラグ化
上水道汚泥	前処理方法によらず対象
湖沼等の汚泥	

・再生材料を用いた舗装用ブロック類（プレキャスト無筋コンクリート製品）
再生材料が原材料の重量比で２０％以上（複数の材料が使用されている場合は、それらの材料の合計）使用されているもの。なお、透水性確保のために、粗骨材の混入率を上げる必要がある場合は、再生材料が原材料の重量比１５％以上使用されているものとする。
ただし、再生材料の重量の算定において、通常利用している同一工場からの廃材の重量は除かれるものとし、重金属等有害物質の含有や、施工時及び使用時に雨水等による重金属等含有物質の溶出について、土壌の汚染に係る環境基準等に照らして問題がないもの

再生材料の原料となるもの	前処理方法
都市ゴミ焼却灰	溶融スラグ化
下水道汚泥	

23 植栽及び屋上緑化工事

1 植栽地の確認 (23．1．3)

土壌の水素イオン濃度（ｐＨ）試験　・行う　※行わない
水溶性塩類（ＥＣ）の試験　・行う　※行わない

2 植栽基盤の整備 (23．2．2~4)

排水　・設置する（・暗きょ　・閉きょ　・排水層　・縦穴排水）　○設置しない
水溶性塩類（ＥＣ）の試験　・行う　※行わない
整備工法　表23．2．2
樹木　・行う（※Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種）　※行わない
芝及び地被類　※行う（※Ｂ種　・　）　・行わない
植込み用土　※現場発生土の良質土　・客土
土壌改良材
・適用する（施工箇所　植込み(サイン取付壁)　）
・パーク堆肥
製品は以下を満足すること
有機物の含有率（乾物）　：７０％以上
炭素窒素比［Ｃ／Ｎ比］　：３５以下
陽イオン交換容量［ＣＥＣ］（乾物）：７０ｍｅｑ／１００ｇ以上
ｐＨ　：５．５～７．５
水分　：５５～６５％

窒素全量［Ｎ］（現物）　：０．５％以上
りん酸全量［Ｐ２０５］（現物）　：０．２％以上
加里全量［Ｋ２Ｏ］（現物）　：０．１％以上
・汚泥発酵肥料（下水汚泥コンポスト）
「金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令」（昭和４８年総理府令第５号）の別表第一の基準に適合する原料を使用したもので、植害試験の調査の結果、害が認められないもの
ひ素：０．００５％以下　カドミウム：０．０００５％以下
水銀：０．０００２％以下　ニッケル：０．０３％以下
クロム：０．０５％以下　鉛：０．０１％以下
有機物の含有率（乾物）：３５％以上　炭素窒素比［Ｃ／Ｎ比］：２０以下
ｐＨ：８．５％以下　水分：５０％以下
窒素全量［Ｎ］（現物）：０．８％以上　りん酸全量［Ｐ２０５］（現物）：１．０％以上
アルカリ分（現物）：１５％以下（ただし、土壌の酸度を矯正する目的で使用する場合はこの限りでない）
施工箇所の土壌及び植物の性質から使用が不適な場合、及び調達困難な場合は監督職員と協議を行うものとする

3 支柱材 (23．3．2)

※丸太（間伐材）　・真竹

4 新植樹木の枯補償 (23．3．4)

枯補償の期間　※１年　・
枯補償の期間内に樹木が枯死、枝損傷、形姿不良等となった場合は、同等以上のもの再植樹するとともに、取り除いた樹木の処分を行うものとする

5 移植樹木の枯損処置 (23．3．6)

枯損処置の期間　※１年　・
枯損処置の期間内に樹木が枯した場合は、伐採及び伐根を行い、良質土で埋め戻し整地するものとする

6 屋上緑化 (23．5．2~4)

植栽基盤及び材料
・屋上緑化システム
土壌厚の厚さ　・図示による　・
排水層　・軽量骨材（層の厚さ：　）　・板状成形品
植込用土　※改良土　・人工軽量土
樹木の材種、寸法、株立数等　※図示による　・
・屋上緑化軽量システム
芝及び地被類の樹種並びに種類等　※図示による　・
見切材、舗装材、水抜き管、マルチング材等　※図示による　・

⑨ 区画線

※路面表示用塗料（ＪＩＳ　Ｋ５６６５（路面表示用塗料）による）
・１種　・２種　※３種１号
・低揮発性有機溶剤型の路面表示用塗料
水性型の路面表示用塗料であって、揮発性有機溶剤（ＶＯＣ）の含有率（塗料総質量に対する揮発性溶剤の質量の割合）が５％以下であるもの
色　※白　塗布幅　※図示による　塗布厚さ　※１．０

（A3=A1縮小50%）

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査	図面番号 A 5
図面名	津山市建築工事特記仕様書５　NONE				
一級建築士事務所	県知事登録第１２１５３号 （有）芦田設計	一級建築士	登録第 ９９０５３ 号	芦田國廣	

項目	特記事項
① 使用資材について	本工事に使用する資材については、市内産資材又は市内取扱業者から購入した資材の使用に努めるものとする。 （1）市内産の資材がある場合は、市内産の資材を優先するものとする。 （2）市内産の資材がなく、やむを得ず市外産の資材を使用する場合には、県内産の資材若しくは県内取扱業者の資材を優先するものとする。 資材を購入しようとするときは、あらかじめ購入先の名称、所在地及び資材名等を記載した主要資材購入先一覧届出書を監督職員を通じ提出するものとする。 県外産資材を県外取扱業者から購入する場合には、理由を書面にして添付するものとする。 市内産資材：①製造所の所在地が津山市内である資材。 ②法務局に登記されている本店の所在地が津山市内である業者。 市内取扱業者：法務局に登記されている本店の所在地が津山市内である業者。 なお、木材については、県内の森林で伐採された木材を原料とする木製品、若しくは、岡山県の「木材業者等登録」を受けている製材業者が製材・加工した国産材木製品を県産材とし、県内産資材として取り扱う。
② 下請負業者の選定について	本工事の施工において、やむを得ず工事の一部を下請負に付す場合、下請負の相手方は県内業者から選定するよう努めるものとする。 下請負に付そうとする場合には、あらかじめ下請負人選定一覧届出書を監督職員を通じて提出するものとする。 県外業者を下請負の相手方として選定する場合には、前記の届出書に県内業者を選定しない理由を書面にして添付するものとする。 上記において、「県内業者」とは、建設業法上の「主たる営業所」の所在地が岡山県内である業者のことをいう。
③ 施工体制台帳について	受注者は、工事の一部を下請負に付した場合、建設業法（昭和２４年法律第１００号）第２４条の７の規定により、施工体制台帳を作成し、工事現場に備えるとともに、その写しを監督職員に提出するものとする。 受注者は施工体制台帳に加えて工事担当技術者台帳を作成し、工事現場に備えるとともに監督職員に提出するものとする。なお、工事担当技術者台帳には、監理技術者、主任技術者、（下請負を含む）及び元請負の専門技術者（専任している場合のみ）の顔写真、氏名、生年月日、所属会社名、専任・非専任の別を記載するものとする。 受注者は、監理技術者、主任技術者（下請負者を含む）及び元請負者の専門技術者（専任している場合のみ）に、工事現場内において、工事名、工期、顔写真、所属会社名及び社印の入った名札等を着用させなければならない。 なお、現場での立場（監理技術者等）が明確になるよう留意するものとする。 受注者は施工体制台帳及び施工体系図に変更が生じた場合は、その都度速やかに監督職員に提出しなければならない。
④ 工事実績情報の作成・登録について	請負金額が５００万円以上の工事については、受注・変更・完成・訂正時に工事実績情報システム（コリンズ）に工事実績情報を登録するものとする。 登録に際しては、事前に「登録のための確認のお願い」を作成し、監督職員の確認を受けたうえで、「登録内容確認書」を監督職員に提出しなければならない。 登録内容確認書の提出期限は、次のとおりとする。 （1）受注・変更時の提出期限は、契約締結後１０日以内とする。 （2）完成時の提出期限は、工事完成後１０日以内とする。 （3）訂正時は、速やかに提出することとする。 請負金額のみが変更になった場合は、原則として変更登録を必要としないが、技術者の専任性の発生・解除が生じる場合には、変更登録するものとする。 変更時と完成時の間が１０日に満たない場合は、変更時の提出を省略することができる。
⑤ 監督検査の強化について	・　本工事は低入札価格調査対象工事であるが、本工事が低入札価格工事となった場合、受注者は本工事及びその他津山市発注の手持ち工事において、主要資材の確認及び不可視部分等の検査を発注者が必要と認める時点で受けなければならない。 ・　本工事が低入札価格工事とならない場合においても、工期の重複する津山市発注の手持ち工事の中に低入札価格工事がある場合は、主要資材の確認及び不可視部分等の検査を発注者が必要と認める時点で受けなければならない。 ・　その他検査に必要な書類等については、中間検査実施要領によるものとする。
⑥ 工期設定について	工期設定においては、雨天、休日等を見込み設定している。なお、休日等には、日曜日、祝日、夏期休暇及び年末年始休暇の他、作業期間内の全土曜日を見込んでいる。
⑦ 公害対策関係について	・　本工事に伴う、公害防止対策のため、次の事項を指定する。 ・施工方法　○○○○○ ・作業時間　○○○○○ ・建設機械、設備　○○○○○ ※　本工事において、次に示す一般建設機械８機種を使用する場合は、特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律（平成１７年法律第５１号）に基づく技術基準に適合する機械、または、排出ガス対策型建設機械指定要領（平成３年１０月８日付け建設省経機発第２４９号、最終改正平成１４年４月１日付け国総施第２２５号）、排出ガス対策型建設機械の普及促進に関する規定（平成１８年３月１７日付け国土交通省告示第３４８号）もしくは第３次排出ガス対策型建設機械指定要領（平成１８年３月１７日付け国総施第２１５号）に基づき指定された排出ガス対策型建設機械を使用するものとする。ただし、平成７年度建設技術評価制度公募課題「建設機械の排出ガス浄化装置の開発」、またはこれと同等の開発目標で実施された民間開発建設技術の技術審査・証明事業もしくは建設技術審査証明事業により評価された排出ガス浄化装置を装着した建設機械についても、排出ガス対策型建設機械と同等とみなすことができる。ただし、これにより難い場合は別途監督職員と協議するものとする。 ー般建設機械８機種 ○バックホウ　○トラクタショベル（車輪式）　○ブルドーザ ○発動発電機（可搬式）　○空気圧縮機（可搬式） ○油圧ユニット （以下に示す基礎工事用機械のうちベースマシンとは別に、独立したディーゼルエンジン駆動の油圧ユニットを搭載しているもの） ：油圧ハンマ、バイブロハンマ、油圧式鋼管圧入引抜機、油圧式杭圧入引抜機、アースオーガ、オールケーシング掘削機、リバースサーキュレーションドリル、アースドリル、地下連続壁施工機、全回転型オールケーシング掘削機 ○ローラ（ロードローラ、タイヤローラ、振動ローラ） ○ホイールクレーン（ラフテレーンクレーン） ※　排出ガス対策型建設機械あるいは排出ガス浄化装置を装着した建設機械を使用する場合、施工計画書に記載するとともに現場代理人は施工現場において使用する建設機械が確認できる写真撮影を行い提出するものとする。 なお、排出ガス対策型建設機械に貼付けてある「指定ラベル」についても写真撮影を行い提出するものとする。 ・　本工事箇所は、特に生活環境を保全する必要がある地域であるので、次の工種の施工に当たっては低騒音型、低振動型建設機械指定に関する規程（平成９年７月３１日付け建設省告示第１５３６号、最終改正平成１３年４月９日付け国土交通省告示第４８７号）に基づき指定されている建設機械を使用 ・地業工事（杭）ーーーー○○○○工法（又は使用機種） ・外壁改修工事ーーーー ・耐震改修工事ーーーー ※　運搬路等については、粉塵により公衆に迷惑を及ぼすことのないよう散水防塵（○回／日程度）を実施するものとする。 ・　本工事に伴う○○により事業損失が懸念されるため、その対策として次の調査を行うものとする。 ・調査の区分（　　） ・調査の時期（　　） ・調査方法（　　） ・調査範囲（　　）

機種	備考
○バックホウ　○トラクタショベル（車輪式）　○ブルドーザ ○発動発電機（可搬式）　○空気圧縮機（可搬式） ○油圧ユニット （以下に示す基礎工事用機械のうちベースマシンとは別に、独立したディーゼルエンジン駆動の油圧ユニットを搭載しているもの） ：油圧ハンマ、バイブロハンマ、油圧式鋼管圧入引抜機、アースオーガ、オールケーシング掘削機、リバースサーキュレーションドリル、アースドリル、地下連続壁施工機、全回転型オールケーシング掘削機 ○ローラ（ロードローラ、タイヤローラ、振動ローラ） ○ホイールクレーン（ラフテレーンクレーン）	ディーゼルエンジン （エンジン出力7.5kW以上260kW以下）を搭載した建設機械に限る。

項目	特記事項
⑧ 建設発生土について	本工事で発生する建設発生土については現場内で利用することとし、搬出する場合においては次の場所への搬出を見込んでいるが、工事開利用調整の状況によっては、設計変更の対象とする。また、現地において予定した土質及び土量等に変更があった場合は、違やかに監督職員と協議するものとする。 改良土プラントは次の施設で精算しているが、受注者が積算及び搬出するプラントを指定するものではない。 なお、受注者の提示するプラント（法令等に基づいた正規な場所であること）と異なる場合においても設計変更の対象としない。ただし、受注者の責によらない場合、及びエコ認定に係る新規プラントの参入があった場合については、監督職員と協議のうえ設計変更の対象とすることができる。
	種別 / 搬出量 / 搬出先 / 搬出時期（平成　年　月） ・　本工事で発生する建設発生土の内○○m3の処分先については、監督職員と協議のうえ確定し、設計変更の対象とする。
9 建設リサイクル法の特定建設資材廃棄物について	本工事から発生する特定建設資材廃棄物は、次の施設に搬入することを見込んでいる。その再資源化等費（処分費。なお、岡山県内で処理する場合には産業廃棄物処理税相当額、又は産業廃棄物の処理に係る税の条例が施行されている他の県で処理する場合には各県の産業廃棄物の処理に係る税相当額を含む。）については、見積単価を採用している。なお、運搬に先だち受入条件等を確認し、監督職員に報告するものとする。 種別 / 数量 / 位置 / 再資源化施設名称 ｺﾝｸﾘｰﾄがら類 / ｱｽﾌｧﾙﾄ・ｺﾝｸﾘｰﾄ塊 / 繊維・木くず類 上記再資源化施設で積算しているが、受注者が積算及び搬入する処理施設を指定するものではない。なお、受注者の提示する施設（法令等に基づいた正規な場所であること）と異なる場合においても設計変更の対象としない。ただし、現場条件や数量の変更等、受注者の責によらない事項についてはこの限りでない。
⑩ その他の建設副産物について	※伐木・伐根材、建設汚泥等について 本工事から発生する伐木・伐根材、建設汚泥等は、次の施設に搬入することを見込んでいる。その再資源化等費（処分費。なお、岡山県内で処理する場合には産業廃棄物処理税相当額、又は産業廃棄物の処理に係る税の条例が施行されている他の県で処理する場合には各県の産業廃棄物の処理に係る税相当額を含む。）については、見積単価を採用している。なお、運搬に先だち受入条件等を確認し、監督職員に報告するものとする。 種別 / 数量 / 位置 / 再資源化施設名称 伐木・伐根材 / ○○m3 / ○○市△△地内（運搬距離○○km） / ○○○○○　（記入例） 建設汚泥 上記再資源化施設で積算しているが、受注者が積算及び搬入する処理施設を指定するものではない。なお、受注者の提示する施設（法令等に基づいた正規な場所であること）と異なる場合においても設計変更の対象としない。ただし、現場条件や数量の変更等、受注者の責によらない事項についてはこの限りでない。 ※その他の建設副産物について 本工事から発生するその他の建設副産物は、次の施設に搬入することを見込んでいる。その処分費（岡山県内で処理する場合には産業廃棄物処理税相当額、又は産業廃棄物の処理に係る税の条例が施行されている他の県で処理する場合には各県の産業廃棄物の処理に係る税相当額を含む。）については、見積単価を採用している。なお、運搬に先だち受入条件等を確認し、監督職員に報告するものとする。 種別 / 数量 / 位置 / 施設名称 がれき類 / 廃プラスチック / 金属くず類 上記施設で積算しているが、受注者が積算及び搬入する処理施設を指定するものではない。なお、受注者の提示する施設（法令等に基づいた正規な場所であること）と異なる場合においても設計変更の対象としない。ただし、現場条件や数量の変更等、受注者の責によらない事項についてはこの限りでない。
11 建設汚泥について	本工事から発生する建設汚泥は、「建設汚泥の再生利用に関するガイドライン（国土交通省平成１８年６月）」「建設汚泥の再生利用に関する実施要領（国土交通省平成１８年６月）」により再資源化施設へ搬入する。
12 不足土について	※　本工事の不足土については、次の場所からの搬入を見込んでいるが、工事開利用調整の状況によっては、設計変更の対象とする。 改良土プラントは次の施設で精算しているが、受注者の積算及び搬入するプラントを指定するものではなく、受注者の提示するプラント（法令等に基づいた正規な場所であること）と異なる場合においても設計変更の対象としない。ただし、受注者の責によらない場合、及びエコ認定に係る新規プラントの参入があった場合については、監督職員と協議のうえ設計変更の対象とすることができる。 真砂土等の土場は次の場所で精算しているが、受注者の積算及び土場を指定するものではなく、受注者の提示する土場（法令等に基づいた正規な場所であること）と異なる場合においても設計変更の対象としない。ただし、受注者の責によらない場合、及び新材以外のものを搬入する場合については、監督職員と協議のうえ設計変更の対象とすることができる。 種別 / 数量 / 場所 / 搬出時期 第○種建設発生土 / ○○m3 / ○○市△△地内の○○工事（運搬距離○○km） / 平成○○年○月（記入例） 真砂土等 ※　本工事で使用する改良土等（エコ製品）については、品質試験結果を承認願に添付して監督職員に提出するものとする。 ※　本工事の裏込め・埋め戻しに使用する改良土等（エコ製品）の品質については、内部摩擦角○○度以上とする。
⑬ 岡山県エコ製品について	※　本工事で使用する再生加熱アスファルト混合物（いわゆる改質アスファルト混合物を除く）、再生骨材等（再生砕石、再生砂、再生割栗石）については、「岡山県エコ製品」認定製品を使用するものとする。ただし、次の場合は、別紙「資材調達結果報告」を作成のうえ監督職員と協議を行うものとする。 再生加熱アスファルト混合：工事現場から４０km及び運搬距離１．５時間の範囲内に在庫がない場合 再生骨材等：工事現場から４０kmの範囲内に在庫がない場合 ※　本工事で使用する資材のうち、○○○○については、岡山県エコ製品に認定された製品の使用に努めるものとする。設計単価は岡山県エコ製品を見込んでいるため、使用しない場合は、監督職員に報告し設計変更の対象とする。 ※　その他本工事で使用する資材については、「岡山県循環型社会形成推進条例」に基づき、循環資源を原料とした再生品をその性能、品質、安全性、数量、価格等について考慮の上、可能な範囲で積極的な使用に努めるものとする。 また、品質及び価格が同等である場合は、岡山県エコ製品の優先的な調達に努め、使用に当たっては監督職員の承諾を得ることとし、使用する場合は設計変更の対象とする。 ※　岡山県エコ製品の基準に適合しないと認められたとき、搬入された資材の搬去等を指示する場合がある。
14 アルカリ骨材反応抑制対策について	※　レディーミクストコンクリート 受注者は、高炉セメント及びフライアッシュセメントを使用したレディーミクストコンクリートを使用するときは、セメント内のスラグ及びフライアッシュ混合率を生コンクリート使用報告（承認）に記載するものとする。このとき、使用する高炉セメント及びフライアッシュセメントは、B種及びC種とする。その他のコンクリートを使用するときは、監督職員と協議し、アルカリ骨材反応抑制対策実施要領の２．１又は２．３を実施するものとする。 ※　コンクリート二次製品 受注者は、使用するコンクリート二次製品毎に、アルカリ骨材反応抑制対策実施要領の２．１の確認を行い、監督職員に報告すること。なお、高強度コンクリート使用の製品については、単位セメント量が多いためアルカリ総量が所定の値を満足しない場合があり、このときはアルカリ骨材反応抑制対策実施要領の２．３を実施し、監督職員に報告すること。さらに、この試験に用いる試料を採取するときは、受注者自らが立ち会うこと。 ※　現場練りコンクリート 受注者は、アルカリ骨材反応抑制対策実施要領の２．１、２．２、２．３のいずれかを必ず実施するものとする。
15 再生コンクリート砂について	本工事で使用するコンクリート塊から製造された再生砂は、平成３年８月２３日付け環境庁告示第４６号に規定されている測定方法に基づき、「六価クロム」の溶出試験を行い、監督職員の承諾を得た上で使用するものとする。

項目	特記事項
⑯ 建設副産物について	受注者は、建設副産物の発生量・処理状況及び再生資材等の利用状況把握に資するために、「建設副産物実態調査（センサス）」による搬出先調査の調査を作成するものとする。対象工事は、建設副産物の有無及び搬入資材の有無に関わらず、最終請負代金額１００万円以上の全ての工事とし、調査の作成については、工事完成後調査データを「建設副産物情報交換システム（ＣＯＢＲＩＳ、コブリス）」に入力し、監督職員の確認を受け、監督職員から同システムによる「確認済みマーク」の付与を受けるものとする。 受注者は、下表に該当する資材の搬入、指定副産物の搬出が生じる建設工事については、「資源有効利用促進法」（以下「リサイクル法」という。）により計画書を作成し、監督職員に提出するものとする。 再生資源利用計画書 次のような建設資材を搬入する建設工事： １．土砂・・・・・・・・・１，０００m3以上 ２．砕石・・・・・・・・・・５００ｔ以上 ３．加熱アスファルト混合物・・２００ｔ以上 再生資源利用促進計画書 次のような指定副産物を搬出する建設工事： １．土砂・・・・・・・１，０００m3以上 ２．コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、建設発生木材、建設汚泥、建設混合廃棄物＊　合計２００ｔ以上 ＊建設汚泥、建設混合廃棄物については、リサイクル法で定められている品目ではないが、調査対象となる工事の中で、これらの品目が発生する場合には、併せて調査を実施するものとする。
⑰ 建設リサイクル法について	「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（以下「建設リサイクル法」という。）」について 特定建設資材（コンクリート、コンクリート及び鉄から成る建設資材、木材、アスファルト・コンクリート）を使用する工事、又は特定建設資材廃棄物（コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、建設発生木材）が発生する工事全てを「建設リサイクル推進工事（以下「推進工事」という。）」と位置づけ、建設リサイクル法施行令第２条第１項の規定による建設工事の規模に関する基準を満たさない工事についても、建設リサイクル法の規定を準用する（但し、罰則規定は除く）。 ①　「推進工事」においては、建設リサイクル法第１２条第１項に規定する説明事項（分別解体等の方法・解体工事に要する費用・再資源化等をするための施設の名称及び所在地・特定建設資材廃棄物の再資源化等に要する費用等）について、契約書を提出する前に別に定める「通知に係る事前説明事項」の書面を監督職員に提出し協議するものとする。 ②　「推進工事」の契約書７に掲げる「別紙の通り」の「別紙」とは、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律第１３条及び特定建設資材に係る分別解体等に関する省令第４条の規定による書面」とする。 ③　受注者は、「推進工事」において「建設業の許可票」若しくは「解体工事業者登録票」の標識に下図ステッカーを貼付しなければならない。 ④　受注者は、「推進工事」において監督職員から建設リサイクル法第１１条に規定される「通知」が完了した旨の回答があるまでの間、当該工事に着手してはならない。 ⑤　受注者は、現契約が「推進工事」以外の工事で、工事着手後、現場条件等により「推進工事」となる場合は、監督職員と速やかに協議し、④と同様、監督職員からの回答があるまでの間、当該工事に着手してはならない。 ⑥　受注者は、「推進工事」において、当初契約時に記載した再資源化等施設と異なる施設で再資源化等を行う際には、監督職員と協議を行わなければならない。 ⑦　受注者は、「推進工事」における特定建設資材廃棄物の再資源化等が完了したときは、再資源化等報告書を監督職員に提出しなければならない。 「推進工事」（ステッカー）　例 通知年月日 令和　年　月　日 建設リサイクル推進工事 津山市 注）通知が終了後、監督職員が交付。
⑱ 火災保険等の時期、金額	・普通火災保険に付すべき時期及び金額 ①　工事出来形（検査済工事材料を含む）が５０％になった際に請負代金額の８０％相当額の保険に付するものとし、その後、工事出来形（検査済工事材料を含む）が８０％になった際に請負代金額相当の保険金額となるよう付するものとする。 なお、木造の対象物に対しては、工事出来形（検査済工事材料を含む）が２０％になった際に請負代金額となるよう付するものとする。 ②　初回の付保時期において請負代金額相当の保険金額を付することができるものとする。 ③　建設工事保険その他保険を付する場合は、上記①及び②に準ずるものとする。 ④　保険の期限は、工事完成時期に１４日を加えた期日までとする。ただし、工事が遅延した場合には、その期限も遅延日数に応じて延長するものとする。 ＜工事請負契約書第50条関係＞ ・修繕又は模様替等の工事は次による。 ①　請負契約の工事範囲については、請負契約金額に相当する補償額となる保険契約を対象として、工事の着手前に保険契約を締結するものとする。 ②　同一敷地内にある工事範囲外の既設建築物については、監督職員が特に必要と認めた場合を除き付さないものとする。 ③　保険の期限は、工期末日に１４日を加えた期日までとする。ただし、工事が遅延した場合には、その期限も遅延日数に応じて延長するものとする。 ＜工事請負契約書第50条関係＞
19 部分使用について	適用 発注者が、引渡し前において、受注者の承諾を得て使用する工事目的物の部分。 使用する部分（　　） 使用する時期（　　） ＜工事請負契約書第33条関係＞
20 部分引渡しについて	適用 発注者が、工事の完成に先立って部分的に引渡しを受ける部分。 引渡しを受ける部分（　　） 引渡しを受ける時期（　　） ＜工事請負契約書第38条関係＞
21 専任指導技術者の配置について	総合評価（特別簡易型）一般競争入札（条件付）による入札※で、専任指導技術者の配置を申請し、落札者となった場合の特記事項は以下のとおりである。 ※ 入札公告において「専任指導技術者の配置を申請することができる」とされている入札に限る。 ①　契約後は、監理技術者又は主任技術者（以下「監理技術者等」という。）に加えて、配置予定技術者調書（別記様式２－２）に記載した専任指導技術者を配置し、現場代理人等の指名通知書と併せて「専任指導技術者配置届」を提出すること。 ②　専任指導技術者は専任で配置し、工事の全期間に渡り監理技術者等を指導補助すること。ただし、監理技術者等の専任が必要とされない期間は、専任指導技術者についても専任であることを要しない。 ③　病休、死亡、退職等特別な理由以外により配置予定技術者調書（別記様式２－２）に記載した専任指導技術者を配置できない場合（専任で配置すべきところを専任で配置できない場合を含む）は、工事成績評定を３点減ずるとともに、指名停止等の措置を行う場合がある。（契約締結前にあっては、契約を締結しないとともに、指名停止等の措置を行う場合がある。） また、病休、死亡、退職等特別な理由により配置予定技術者調書（別記様式２－２）に記載した専任指導技術者が工期の途中で交代した場合は、交代後の専任指導技術者について、改めて評価を行うものとし、当該評価による得点の小計が交代前の専任指導技術者の得点の小計未満となったときは、工事成績評定を２点減ずる。（上記の特別な理由以外での専任指導技術者の交代は認めない。） ④　工事完了後の監理技術者等としての施工実績及び工事成績は、監理技術者等となった技術者にのみ付与する。
22 諸経費調整について	本工事の請負額は、本工事の入札時に県が指定した次の工事（以下「指定工事」という。）の請負人が本工事ついても請負った場合には、指定工事のうち同一請負人となる工事と本工事の設計額の合計額に対し定める率によって算定した諸経費から、同一請負人となる指定工事に係る諸経費を控除した額をもって再計算し変更する。ただし、継続する工事と認められなくなった場合（本工事の落札日より前に指定工事の完了届を受理する場合）は、指定工事から除外する。なお、諸経費調整を行った工事については、現場代理人は兼務することができる。 ・○○○○○○○工事 ・○○○○○○○工事 ・○○○○○○○工事
23 住宅瑕疵担保履行法による資力確保措置について	本工事における次の棟は特定住宅瑕疵担保責任の履行の確保等に関する法律（平成19年法律第66号）に基づく資力確保措置が義務付けられている。なお、資力確保の措置については、○○○○○○○○○○○○○工事で行うものとする。 ・○○○○棟　・○○○○棟　・○○○○棟
㉔ 架空線の防護措置について	架空線の防護措置に係る費用は計上していないが、契約後、発注者、受注者及びＮＴＴの協議により必要となった場合は、設計変更の対象とする。 ただし、設計変更は、平成29年４月１日以降に防護措置をＮＴＴへ申請する工事を対象とし、これ以前に申請する工事については対象としない。 防護措置に係る協議等について、ＮＴＴへの依頼は受注者が行うこととする。また、協議は、受注者の施工計画書作成段階において行うこととする。

項目	特記事項
㉕ その他	※　下請契約における発注者の指導について ①　この契約に係る工事の的確な施工を確保するため、下請契約を締結しようとする場合は、下請契約における注文者・下請契約における受注者との合理化が図られるよう、「建設産業における生産システム合理化指針」の趣旨により、下請契約における受注者の適正な選定、合理的な下請契約の締結、請負代金支払等の適正な履行、下請における雇用管理等への指導を行い、本指針の遵守に努めるものとする。 ②　中小建設業者に対する取引条件の適正化及び資金繰りの安定化等に資するため、下請契約における注文者は、下請契約における受注者に対しては、発注者から受取った前払い金の均でん、請負代金における現金比率の改善、手形期間の短縮等請負代金支払の適正化について配慮するものとする。 ※　建設資材納入業者との契約について この契約に係る建設資材納入業者との契約に当たっては、当該業者の利益を不当に害しないよう公正な取引を確保するよう努めるものとする。 ※　ゴム製品等の品質確認等 受注者は、東洋ゴム化工品（株）、ニッタ化工品（株）（以下「同社」という。）で製造された製品や材料（建築防水資材等）を用いる場合には、同社が製造するゴム製品等に対して受注者が指定した第三者（同社と資金面・人事面で関係がない者）によって作成された品質を証明する書類を提出し、監督員の確認を得るものとする。 なお、第三者による品質証明書類を提出し、監督員の確認を得た場合であっても、後に製品不良等が判明した場合に受注者の瑕疵担保責任が免責されるものではない。 ※　建設業退職金共済組合等への加入等 ①　建設業者は、建設業退職金共済組合（以下「組合」という。）等に加入するとともに、その建設業退職金共済組合制度等の対象となる労働者について証紙を購入し、当該労働者の共済手帳に証紙を貼付するものとする。 ②　建設業者が下請契約を締結する際は、当該契約の受注者に対して、この制度の趣旨を説明し、掛金相当額を請負代金中に算入することにより、当該受注者の組合加入並びに証紙の購入及び貼付けを促進するものとする。 ③　受注者は、組合から工事現場に建設業退職金制度適用事業主の工事現場である旨を明示する標識の掲示について要請があった場合には、特別の事情がある場合を除き、これに協力をするものとする。 ※　建設業法等の遵守について ①　建設業法（ 昭和２４年法律第１００号）に違反する一括下請負、その他不適切な形態の下請契約を締結してはならない。 ②　建設業法第２６条の規定により受注者が工事現場ごとに設置しなければならない専任の主任技術者又は専任の監理技術者については、適切な資格、技術力等を有する者（工事現場に常駐して専らその職務に従事する者で、受注者と直接的かつ恒常的な雇用関係にあるものに限る）を配置するものとする。 ③　受注者が工事現場ごとに設置しなければならない専任の監理技術者は、監理技術者資格者証の交付を受けている者であって、監理技術者講習を過去５年以内に受講した者を配置するものとする。この場合において、発注者から請求があったときは、監理技術者資格者証及び監理技術者講習修了証を提示するものとする。 ④　上記①、②及び③のほか、建設業法等に抵触する行為は行なってはならない。 ※　建設業からの暴力団の排除の徹底について 工事の施工に際して、暴力団等からのあらゆる不正な要求に対し断固としてこれを拒否し、また被害に対しては、すみやかに警察に通報するとともに捜査上必要な協力を行わなければならない。 また、監督職員とも連絡を密にとり工程等被害が生じた場合は、協議を行うものとする。 ※　労働基準法の遵守 この契約に係る工事の施工にあたっては、労働基準法の趣旨に則り、労働時間について遵守するよう努めなければならない。 ※　不正軽油の排除について 本工事に伴い、ディーゼルエンジン仕様の自動車及び建設機械等を使用する場合は、規格（ＪＩＳ）に合った軽油を使用するものとする。 また、調査のため建設機械等から燃料を採取する場合には、監督職員の指示によりこれに協力しなければならない。 ※　受注者は、設計図書、仕様書に明示のない事項、その内容に疑義を生じた場合及び設計図書と工事現場の状態が一致しない時は、直ちに監督職員に連絡し、その指示を受けて施工するものとする。 ※　公共事業労務費調査に対する協力 ①　本工事が公共事業労務費調査の対象工事となった場合は、受注者は、調査票等に必要事項を正確に記入し提出する等、必要な協力を行わなければならない。また、本工事の工期経過後においても、同様とする。 ②　受注者は、調査票等を提出した事業所を事後に訪問して行う調査・指導の対象になった場合、その実施に協力しなければならない。また、本工事の工期経過後においても、同様とする。 ③　受注者は、公共事業労務費調査の対象工事となった場合に正確な調査票等の提出が行えるよう、労働基準法等に従って就業規則を作成するとともに賃金台帳を調製・保存する等、日頃より使用している現場労働者の賃金時間管理を適切に行っておかなければならない。 ④　受注者は、本工事の一部について下請契約を締結する場合は、当該下請工事の受注者（当該下請工事の一部に係る二次以降の下請負人を含む。）が③と同様の義務を負う旨を定めなければならない。 ※　受注者は、レディーミクストコンクリートを用いる場合には、コンクリートの製造、施工、試験、検査及び管理などの技術的業務を実施する能力のある技術者が常駐しており、配合設計及び品質管理等を適切に実施できる工場（全国生コンクリート品質管理監査会議の策定した統一監査基準に基づく監査に合格した工場等）の製品を用いなければならない。 ※　受注者は、本工事に係る工事監理業務を委託する場合があるので、当該業務を受注した工事監理者が業務の履行に必要な範囲で行う求めに対し、適切にこれに応じなければならない。 ※　受注者は、（公財）建設技術センター等の現場技術員が監督職員に代わり施工体制の点検や監督職員の補助を行うことがあるので、現場技術員から点検等を求められた場合には、適切にこれに応じなければならない。 ※　単品スライド条項について 単品スライド条項の鋼材費にはスクラップ費を含む。 ※　本工事現場に配置する現場代理人については、次の要件を全て満たしていなければならない。 ①　受注者と直接的かつ恒常的な雇用関係のある者。（健康保険被保険者証の写しをもって確認を行う。） ②　建設業法（昭和２４年法律第１００号）第７条第２号又は第１５条第２号に規定する営業所の専任技術者でないこと。 ※　ダンプトラック等の適正な使用について 当該工事にかかる土砂等の運搬が運送契約によって行われるときは、正規の運転免許を受けた者の車両に限って使用するものとする。 ※　ダンプトラック等による過積載の防止について ①　工事用資機材等の積載超過のないようにすること。 ②　過積載を行っている資材納入業者から資材を購入しないこと。 ③　ダンプカーのさし枠装着車等による違法運行は行わないこと。

（A3=A1縮小50%）

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査	図面番号 A 6
図面名	津山市共通特記仕様書１ NONE				
一級建築士事務所（有）芦田設計	県知事登録第１２１５３号	一級建築士 登録第 ９９０５３ 号 芦田圀廣			

項　　目	特　　記　　事　　項
25 コンクリートの構造体強度補正等の適用期間について	

	打込みから材齢28日までの予想平均気温の範囲（普通ポルトランドセメント、混合セメントのA種）		暑中コンクリートの適用期間	寒中コンクリートの適用期間
	8℃以上	0℃以上8℃未満	25℃超	
	構造体強度補正値（S）(N/mm2)		構造体強度補正値（S）(N/mm2)	
	3	6	6	
岡山市（旧市域）	2月25日 ～11月26日	11月27日～ 2月24日	7月1日 ～ 9月12日	
岡山市（旧御津町）	3月11日 ～11月10日	11月11日～ 3月10日	7月12日 ～ 9月1日	12月21日～ 2月28日
岡山市（旧建部町）	3月12日 ～11月9日	11月10日～ 3月11日	7月13日 ～ 8月31日	12月21日～ 2月28日
岡山市（旧瀬戸町）	2月26日 ～11月26日	11月27日～ 2月25日	7月1日 ～ 9月12日	
岡山市（旧灘崎町）	2月27日 ～ 12月1日	12月2日 ～ 2月26日	7月8日 ～ 9月13日	
倉敷市（旧市域）	3月2日 ～11月22日	11月23日～ 3月1日	7月4日 ～ 9月9日	1月21日 ～ 1月31日
倉敷市（旧船穂町）	3月2日 ～11月22日	11月23日～ 3月1日	7月5日 ～ 9月8日	1月21日 ～ 1月31日
倉敷市（旧真備町）	3月2日 ～11月21日	11月22日～ 3月1日	7月5日 ～ 9月8日	1月21日 ～ 1月31日
津山市（旧市域）	3月11日 ～ 11月9日	11月10日～ 3月10日	7月15日 ～ 9月1日	12月21日～ 2月28日
津山市（旧加茂町）	3月16日 ～ 11月5日	11月6日 ～ 3月15日	7月22日 ～ 8月22日	12月11日～ 3月10日
津山市（旧阿波村）	3月21日 ～10月31日	11月1日 ～ 3月20日		12月1日 ～ 3月10日
津山市（旧勝北町）	3月14日 ～ 11月7日	11月8日 ～ 3月13日	7月20日 ～ 8月26日	12月11日～ 2月28日
津山市（旧久米町）	3月12日 ～ 11月8日	11月9日 ～ 3月11日	7月17日 ～ 8月30日	12月21日～ 2月28日
玉野市	2月27日 ～ 12月1日	12月2日 ～ 2月26日	7月9日 ～ 9月12日	
笠岡市	3月3日 ～11月21日	11月22日～ 3月2日	7月5日 ～ 9月9日	1月21日 ～ 2月10日
井原市（旧市域）	3月4日 ～11月20日	11月21日～ 3月3日	7月7日 ～ 9月8日	1月21日 ～ 2月10日
井原市（旧美星町）	3月16日 ～ 11月4日	11月5日 ～ 3月15日	7月22日 ～ 8月22日	12月11日～ 3月10日
井原市（旧芳井町）	3月5日 ～11月19日	11月20日～ 3月4日	7月7日 ～ 9月8日	1月11日 ～ 2月10日
総社市（旧市域）	3月2日 ～11月21日	11月22日～ 3月1日	7月5日 ～ 9月8日	1月21日 ～ 1月31日
総社市（旧山手村）	3月2日 ～11月21日	11月22日～ 3月1日	7月5日 ～ 9月8日	1月21日 ～ 1月31日
総社市（旧清音村）	3月2日 ～11月21日	11月22日～ 3月1日	7月5日 ～ 9月8日	1月21日 ～ 1月31日
高梁市（旧市域）	3月9日 ～11月11日	11月12日～ 3月8日	7月10日 ～ 9月3日	12月21日～ 2月28日
高梁市（旧有漢町）	3月12日 ～ 11月8日	11月9日 ～ 3月11日	7月15日 ～ 8月30日	12月11日～ 2月28日
高梁市（旧成羽町）	3月10日 ～11月10日	11月11日～ 3月9日	7月12日 ～ 9月1日	12月21日～ 2月28日
高梁市（旧川上町）	3月11日 ～ 11月9日	11月10日～ 3月10日	7月13日 ～ 9月1日	12月21日～ 2月28日
高梁市（旧備中町）	3月11日 ～11月10日	11月11日～ 3月10日	7月12日 ～ 9月1日	12月21日～ 2月28日
新見市（旧市域のうち千屋、千屋実、千屋花見及び千屋井原を除く）	3月15日 ～ 11月7日	11月8日 ～ 3月14日	7月22日 ～ 8月21日	12月21日～ 2月28日
新見市（旧市域のうち千屋、千屋実、千屋花見及び千屋井原）	3月27日 ～10月25日	1月31日 ～ 3月26日 10月26日～ 12月27日		12月1日 ～ 3月20日
新見市（旧大佐町）	3月23日 ～10月30日	10月31日～ 3月22日		12月1日 ～ 3月10日
新見市（旧神郷町）	3月17日 ～ 11月5日	11月6日 ～ 3月16日	7月26日 ～ 8月15日	12月21日～ 3月10日
新見市（旧哲多町）	3月16日 ～ 11月6日	11月7日 ～ 3月15日	7月23日 ～ 8月20日	12月21日～ 3月10日
新見市（旧哲西町）	3月20日 ～ 11月2日	11月3日 ～ 3月19日		12月21日～ 3月10日
備前市（旧市域）	3月7日 ～11月20日	11月21日～ 3月6日	7月11日 ～ 9月7日	1月11日 ～ 2月10日
備前市（旧日生町）	3月7日 ～11月20日	11月21日～ 3月6日	7月11日 ～ 9月7日	1月11日 ～ 2月10日
備前市（旧吉永町）	3月12日 ～11月10日	11月11日～ 3月11日	7月15日 ～ 8月30日	12月21日～ 2月28日
瀬戸内市（旧牛窓町）	3月7日 ～11月20日	11月21日～ 3月6日	7月12日 ～ 9月6日	1月11日 ～ 2月10日
瀬戸内市（旧邑久町）	3月7日 ～11月20日	11月21日～ 3月6日	7月11日 ～ 9月7日	1月11日 ～ 2月10日
瀬戸内市（旧長船町）	3月7日 ～11月20日	11月21日～ 3月6日	7月11日 ～ 9月7日	1月11日 ～ 2月10日
赤磐市（旧山陽町）	2月26日 ～11月26日	11月27日～ 2月25日	7月1日 ～ 9月12日	
赤磐市（旧赤坂町）	3月11日 ～11月10日	11月11日～ 3月10日	7月12日 ～ 9月1日	12月21日～ 2月28日
赤磐市（旧熊山町）	3月11日 ～11月11日	11月12日～ 3月10日	7月13日 ～ 8月31日	12月21日～ 2月20日
赤磐市（旧吉井町）	3月12日 ～11月10日	11月11日～ 3月11日	7月15日 ～ 8月30日	12月21日～ 2月28日
真庭市（旧北房町）	3月15日 ～ 11月7日	11月8日 ～ 3月14日	7月21日 ～ 8月22日	12月11日～ 2月28日
真庭市（旧勝山町）	3月15日 ～ 11月6日	11月7日 ～ 3月14日	7月18日 ～ 8月27日	12月11日～ 2月28日
真庭市（旧落合町）	3月13日 ～ 11月8日	11月9日 ～ 3月12日	7月16日 ～ 8月29日	12月11日～ 2月28日
真庭市（旧湯原町）	3月24日 ～ 11月1日	11月2日 ～ 3月23日		12月11日～ 3月10日
真庭市（旧久世町）	3月14日 ～ 11月7日	11月8日 ～ 3月13日	7月17日 ～ 8月28日	12月11日～ 2月28日
真庭市（旧美甘村）	3月21日 ～10月31日	11月1日 ～ 3月20日	7月28日 ～ 8月11日	12月1日 ～ 3月10日
真庭市（旧川上村）	3月27日 ～10月28日	1月28日 ～ 3月26日 10月29日～ 1月1日		12月1日 ～ 3月20日
真庭市（旧八束村）	3月26日 ～10月29日	1月24日 ～ 3月25日 10月30日～ 1月4日		12月1日 ～ 3月20日
真庭市（旧中和村）	3月27日 ～10月28日	1月28日 ～ 3月26日 10月29日～ 1月1日		12月1日 ～ 3月20日

項　　目	特　　記　　事　　項

	打込みから材齢28日までの予想平均気温の範囲（普通ポルトランドセメント、混合セメントのA種）		暑中コンクリートの適用期間	寒中コンクリートの適用期間
	8℃以上	0℃以上8℃未満	25℃超	
	構造体強度補正値（S）(N/mm2)		構造体強度補正値（S）(N/mm2)	
	3	6	6	
美作市（旧勝田町）	3月13日 ～ 11月7日	11月8日 ～ 3月12日	7月18日 ～ 8月28日	12月11日～ 2月28日
美作市（旧大原町）	3月16日 ～ 11月5日	11月6日 ～ 3月15日	7月23日 ～ 8月20日	12月11日～ 3月10日
美作市（旧東粟倉村）	3月19日 ～ 11月3日	11月4日 ～ 3月18日	7月26日 ～ 8月15日	12月11日～ 3月10日
美作市（旧美作町）	3月12日 ～ 11月9日	11月10日～ 3月11日	7月15日 ～ 8月30日	12月21日～ 2月28日
美作市（旧作東町）	3月15日 ～ 11月6日	11月7日 ～ 3月14日	7月20日 ～ 8月26日	12月11日～ 2月28日
美作市（旧英田町）	3月12日 ～11月10日	11月11日～ 3月11日	7月16日 ～ 8月29日	12月21日～ 2月28日
浅口市（旧金光町）	3月3日 ～11月21日	11月22日～ 3月2日	7月5日 ～ 9月9日	1月21日 ～ 2月10日
浅口市（旧鴨方町）	3月4日 ～11月21日	11月22日～ 3月3日	7月6日 ～ 9月9日	1月21日 ～ 2月10日
浅口市（旧寄島町）	3月3日 ～11月21日	11月22日～ 3月2日	7月5日 ～ 9月9日	1月21日 ～ 2月10日
和気町（旧町域）	3月11日 ～11月10日	11月11日～ 3月10日	7月13日 ～ 8月31日	12月21日～ 2月20日
和気町（旧佐伯町）	3月11日 ～11月10日	11月11日～ 3月10日	7月13日 ～ 8月31日	12月21日～ 2月20日
早島町	3月2日 ～11月22日	11月23日～ 3月1日	7月5日 ～ 9月8日	1月21日 ～ 1月31日
里庄町	3月4日 ～11月21日	11月22日～ 3月3日	7月6日 ～ 9月9日	1月21日 ～ 2月10日
矢掛町	3月4日 ～11月21日	11月22日～ 3月3日	7月6日 ～ 9月9日	1月21日 ～ 2月10日
新庄村	3月26日 ～10月26日	1月27日 ～ 3月25日 10月27日～ 12月31日		12月1日 ～ 3月20日
鏡野町（旧町域）	3月12日 ～ 11月8日	11月9日 ～ 3月11日	7月17日 ～ 8月30日	12月21日～ 2月28日
鏡野町（旧富村）	3月20日 ～10月31日	11月1日 ～ 3月19日	7月28日 ～ 8月11日	12月1日 ～ 3月10日
鏡野町（旧奥津町）	3月16日 ～ 11月5日	11月6日 ～ 3月15日	7月23日 ～ 8月23日	12月11日～ 3月10日
鏡野町（旧上齋原村）	3月27日 ～10月28日	1月30日 ～ 3月26日 10月29日～ 12月30日		12月1日 ～ 3月20日
勝央町	3月12日 ～ 11月9日	11月10日～ 3月11日	7月16日 ～ 8月29日	12月21日～ 2月28日
奈義町	3月16日 ～ 11月5日	11月6日 ～ 3月15日	7月22日 ～ 8月22日	12月11日～ 3月10日
西粟倉村	3月19日 ～ 11月3日	11月4日 ～ 3月18日	7月27日 ～ 8月12日	12月11日～ 3月10日
久米南町	3月14日 ～ 11月8日	11月9日 ～ 3月13日	7月17日 ～ 8月28日	12月11日～ 2月28日
美咲町（旧中央町）	3月12日 ～ 11月8日	11月9日 ～ 3月11日	7月17日 ～ 8月30日	12月21日～ 2月28日
美咲町（旧旭町）	3月13日 ～ 11月8日	11月9日 ～ 3月12日	7月15日 ～ 8月30日	12月11日～ 2月28日
美咲町（旧柵原町）	3月10日 ～11月10日	11月11日～ 3月9日	7月13日 ～ 9月2日	12月21日～ 2月20日
吉備中央町（旧加茂川町）	3月14日 ～ 11月7日	11月8日 ～ 3月13日	7月17日 ～ 8月28日	12月11日～ 2月28日
吉備中央町（旧賀陽町）	3月15日 ～ 11月5日	11月6日 ～ 3月14日	7月20日 ～ 8月24日	12月11日～ 2月28日

（A3=A1縮小50%）

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査
図面名	津山市共通特記仕様書2　NONE			

一級建築士事務所　県知事登録第１２１５３号
（有）　戸　田　設　計

一級建築士　登録第　９９０５３　号　戸田國廣

図面番号　A　7

■　津山市建築工事施工管理業務報告要領

第１節　　総　　則

（目的）

１．　この要領は、津山市が建築工事を請負人に施工させる場合における
　　請負人の　施工管理業務報告の取り扱いについて定めることを
　　目的とする。

第２節　　施工前の提出書類

２．	施工計画書		着工前　提出
３．	下請負人選定一覧届出書	（津山市様式）	着工前　提出
４．	施工体制台帳		着工前　提出
５．	下請負の相手方及び内容（累積表）		着工前　提出
６．	工事作業所災害防止協議会兼施工体系図		着工前　提出
７．	施工体制台帳【工事担当技術者台帳】		着工前　提出
８．	下請負業者編成表		着工前　提出
９．	建設業法・雇用改善法等に基づく届出書（変更届）		着工前　提出
１０．	主要資材購入先一覧届出書	（津山市様式）	着工前　提出
１１．	工程表		着工前　提出
１２．	工事費内訳明細書		着工前　提出
１３．	コリンズの登録	（500万円以上の工事）	登録完了後速やかに提出
２５．	建設廃棄物処理計画書	（津山市様式）	着工前　提出

第３節　　使用材料の承諾

１４．	**使用材料承諾願**		随時提出
（１）	建築主要資材	（津山市様式）	
（２）	電気設備主要資材	（津山市様式）	
（３）	機械設備主要資材	（津山市様式）	
１５．	資材検収簿	（津山市様式）	随時提出

第４節　　工事日報・工事進捗状況報告書・議事録の提出

１６．	工事日報	（津山市様式）	1週間毎に提出（指定日）
１７．	工事進捗状況報告書	（津山市様式）	1ヶ月毎に提出（月初め）
１８．	打ち合わせ議事録	（津山市様式）	随時提出

第５節　　施工要領書・施工図・承諾図の提出

１９．	施工要領書	随時提出
２０．	施工図、原寸図	随時提出
２１．	承　諾　図	随時提出

（１）　承諾指定日を明記して提出し、承諾済図の交付を受けて施工すること。

（２）　竣工時に施工要領書、施工図、承諾図のデータを提出すること。施工要領書はWord又はExcel形式、施工図等はJWW及びPDF形式とする。

第６節　　試験報告書の提出

２２．　試　験　報　告　書　　隋　時　提　出

（１）　地耐力試験

~~（２）　杭打ち試験~~

（３）　鉄筋圧接試験又は超音波探傷試験

（４）　コンクリート配合設計書

（５）　コンクリートスランプ試験

（６）　コンクリート圧縮破壊試験（調合管理用、標準養生、２８日）

（７）　鉄骨溶接部非破壊検査

（８）　木材含水検査・木材原寸検査

~~（９）　骨材塩分、泥分含有量試験　（鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造200㎡を超える新築工事）~~

~~（１０）　防水水張り試験　（屋上、水槽等　48ｈ）~~

（１１）　配管圧力試験

（１２）　機械運転試験

（１３）　照度分布測定

（１４）　絶縁抵抗試験

（１５）　ＶＯＣ測定試験

（１６）　六価クロム溶出試験（地盤改良事業がある場合）

（１７）　その他必要なもの　（津山市建築工事検査基準による）

第７節　　工事写真の作成

２３．　工事写真

（１）　着工前写真　　カラー

（２）　工程写真　　カラー

１．　スケール、撮影箇所を明示すること。また地下埋設物、配管類は必ずＧＬを基準にしたスケールを明示した写真とすること。
　　看板、使用材料等の文字を撮影する場合は、印刷時に文字が読める解像度とすること。

（３）　工事完成写真　　カラーＥ版、及びjpegデータ

１．　外部４面、各内２面以上（対角線撮影）　　※撮影箇所、方向を明記すること。

（４）　竣工写真　　カラー８つ切り（１組２０枚）

１．　外部６面、主要室内、夜景を建築写真専門家によって撮影すること。

２．　撮影データ（ＪＰＥＧ）をＣＤ－ＲＯＭに収録して提出すること。

第８節　　検査願申請書の提出

２４．　検査願い申請書　　（津山市様式）　　検査前３日提出

第９節　　産業廃棄物書類の提出

２５．	建設廃棄物処理計画書　（津山市様式）	着工前　提出
２６．	マニフェストＥ票の写し	竣工検査前３日までに提出
２７．	建設廃棄物処理実績報告書　（津山市様式）	竣工検査前３日までに提出
２８．	ＣＯＢＲＩＳ又は建設リサイクル報告様式（国土交通省）	

第１０節　　竣工調書の作成

２９．　竣工調書の様式

（１）　黒表紙製本（表紙に工事名称、工事年度を白文字打ち込みとする）　◎は必ず収録することとする。

（２）　収録する調書はタイプ印刷とすること。

（３）　提出期日（竣工後すみやかに提出すること）

３０．　竣工調書に収録するもの

◎（１）　建築物概要

１．　工事名称　　６．　請負金額

２．　工事場所　　７．　施工者

３．　用途地域及び地区　　８．　構造、階数、各階主要用途

４．　設計者　　９．　建築面積、延べ面積、各階床面積

５．　着工年月日、竣工年月日　　１０．　設備

提出期日（竣工後すみやかに提出すること。）

（２）　着工前届出書類目録　（目録のみ収録　別冊作成可）

（３）　使用材料承諾願一覧目録　（目録のみ収録　別冊作成可）

（４）　資材検収簿提出一覧目録　（目録のみ収録　別冊作成可）

（５）　工事日報目録　（目録のみ収録　別冊作成可）

（６）　施工要領書目録　（目録のみ収録　別冊作成可）

（７）　施工図・承諾図目録　（目録のみ収録　別冊作成可）

（８）　竣工図書目録　（目録のみ収録　別冊作成可）

◎（９）　保証書目録

１．　責任施工を指定した工事

２．　機器等で必要と認めたもの

３．　その他必要と認めたもの

◎（１０）　官公署許認可証

◎（１１）　試験成績書目録　（目録のみ収録　別冊作成可）

◎（１２）　錠目録

◎（１３）　予備材料納入目録

◎（１４）　工具納入目録

◎（１５）　各工事施工者及び資材、機器製造業者一覧表

◎（１６）　資材色彩シート一覧表

（１７）　建物・設備機器の取り扱い説明書　（目録のみ収録　別冊作成可）

（１８）　工事写真目録　（目録のみ収録　別冊作成可）

（１９）　建設廃棄物書類目録　（目録のみ収録　別冊作成可）

第１１節　　竣工図書の作成

３１．　竣工図書の内容

１．　縮小版（Ａ３）黒表紙製本　（表紙に工事名称、工事年度を印刷）

２．　業者名簿、仕上表（メーカー、品番、色番号（マンセル値）を記載すること。

３２．　竣工図書の整合

１．　設計図等をＣＤ－ＲＯＭ化前に、竣工設計図として正確に図面と現場とを整合させること。

２．　設計図の仕様書に基本設計者、実地設計者、施工者、協力業者の名簿を明記すること。

３．　設計図の仕上表等に使用資材のメーカー名、材料名称、カタログ番号等を記入すること。※別紙色彩シートでの代用可
　　（主要資材、換気口、建具金物、建築金物、防水等）

４．　設計図の仕上表等に塗装の決定色彩番号、特殊塗料のメーカー名、材料名
　　カタログ番号を記入すること。※別紙色彩シートでの代用可

５．　設計図の家具一覧表に取り付け家具の使用資材のメーカー名、材料名称、
　　カタログ番号、決定色彩番号を記入すること。※別紙色彩シートでの代用可

６．　設備設計図の仕様書、設備機器一覧表等に、使用資材のメーカー名、材料名称、
　　カタログ番号、機器のメーカー名、型式番号等を記入すること。※別紙色彩シートでの代用可

７．　設備設計図に埋設管様柱の設置場所を正確に記入すること。

３３．　竣工図書の審査

１．　竣工設計図作成後すみやかに津山市の審査を経てＣＤ－ＲＯＭ化すること。

３４．　ＣＤ－ＲＯＭに納めるもの。

１．　竣工図書に納めた書類

２．　施工図

３．　完成写真、完成予想図、工事写真、着工前写真

４．　構造計算書（監督員の指示による）

５．　竣工図ＣＡＤデータ　（ＪＷＷ又はＤＸＦ）

６．　竣工図ＰＤＦデータ

７．　その他必要と思われるもの。（監督員の指示による）

第１２節　　竣工時の提出物

３５．　提出物の内容

（１）　竣工調書　　２部

（２）　竣工図　　（縮小版Ａ３サイズ　黒表紙製本２部）
　　各工事施工者及び資材、機器製造業者一覧表、資材色彩シート一覧表も収録すること

（３）　工事写真　　（着工前写真２組　工程写真１組　工事完成写真２組　竣工写真２組）

（４）　ＣＤ－ＲＯＭ　　１組

(A3=A1縮小50%)

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査	図面番号 A
図面名	津山市建築工事施工管理業務報告要領　NONE				8
一級建築士事務所　県知事登録第１２１５３号 （有）　戸　田　設　計		一級建築士　登録第　９９０５３　号　芦田圓廣			

工事区分表

区分は ○ 印がついたものを適用する。 ○ 印がつかない場合は、※印のついたものを適用する。
○ 印と ※ 印がついた場合は、共に適用する。

○躯体関係

項目		建築	電気	機械	備考
1 RC造（梁・壁・床）の貫通・開口部	貫通スリーブ	・	※	※	
	貫通スリーブの補強	・	・	・	
	開口補強を要する型枠材及び取付け	・	※	※	
	開口部の補強	※	・	・	
	開口補強を要しない型枠材及び取付け	※	※	※	
	貫通孔・開口部の墨出し	・	※	※	
	スリーブ・型枠の穴埋め	・	※	※	
	不要開口部の穴埋・補修（荒埋め）	※	・	・	
	既存電気配管貫通部穴埋（荒埋め）	・	※	・	
	既存機械配管貫通部穴埋（荒埋め）	・	・	※	
	電気配管用貫通口機械はつり	・	※	・	
	機械配管用貫通口機械はつり	・	・	※	
2 S・SRC造（梁・壁・床）の貫通・開口部	S・SRC造鉄骨貫通鋼管スリーブ・補強	・	・	・	
	開口補強を要する型枠材及び取付け	・	・	・	
	開口部の補強	・	・	・	
	開口補強を要しない型枠材及び取付け	・	・	・	
	貫通スリーブ（工場施工部分）	・	・	・	
	貫通スリーブ（工場施工部分以外）	・	・	※	
	貫通孔・開口部の墨出し	・	・	※	
	スリーブ・型枠の穴埋め	・	・	※	
	予備スリーブの穴埋め	・	・	・	
	不要開口部の穴埋・補修（荒埋め）	・	・	・	
	既存電気配管貫通部穴埋（荒埋め）	・	・	・	
	既存機械配管貫通部穴埋（荒埋め）	・	・	・	
	電気配管用貫通口機械はつり	・	・	・	
	機械配管用貫通口機械はつり	・	・	※	
3 設備機器の基礎	屋上設置の基礎	・	・	・	
	屋上基礎で押さえコンクリートにアンカーしない軽微なもの	・	※	・	
	室内設置の基礎	※	・	・	
	室内設置の基礎（電気・自家発室）	※	・	・	
	受水槽基礎	・	・	・	
	屋外設置の基礎	※	※	・	
	機器取付け用アンカー・架台	・	※	※	
4 防火区画の貫通	防火区画の貫通処理	※	※	※	
5 昇降機関連	昇降路（及び機械室）の築造	・	・	・	
	昇降路内（又は機械室天井）のフック設置	・	・	・	
	ピットの防水仕上げ	・	・	・	
	各階出入口三方枠及び位置表示器・乗場ボタン取付け用開口部の仮枠穴開け	・	・	・	
	三方枠・出入口扉	・	・	・	
	乗り場敷居受け	・	・	・	
	乗り場機器取付け後の壁・床・天井仕上げ	・	・	・	
	昇降路がRC造の時の軌条・中間ビームブラケット他昇降路内の鉄部材一式	・	・	・	
	昇降路がS造の時の中間ビームブラケット受けビース、ファスナー	・	・	・	
	昇降路がS造の時のブラケット受け・中間ビーム・ファスナー以外の昇降路内の鉄部材一式	・	・	・	
	電源及び接地線工事	・	・	・	
	機械室・ピット内の点検用コンセント	・	・	・	
	煙感知器設置工事	・	・	・	
	停電時非常電源識別接点引込工事み	・	・	・	
	火災時識別リレー接点引込み工事	・	・	・	
	放送用信号線引込み工事	・	・	・	
	エレベーター監視盤への電源引込み工事	・	・	・	
	インターホン・エレベーター監視盤の昇降路外配管工事	・	・	・	
	同上配線工事	・	・	・	
	ピット点検用タラップ	・	・	・	
	機械室の配管用コンクリート及び床用防塵塗料	・	・	・	
	機械室床の機器搬入口の仮枠・補強及び復旧	・	・	・	
	機械室床のロープ用穴等の仮枠穴あけ	・	・	・	
	機械室マシンビーム受け梁設置	・	・	・	
	機械室換気設備工事	・	・	・	
	機械室照明設備工事	・	・	・	
	設備機器メンテナンス歩廊	・	・	・	

○コンクリートブロック・ＡＬＣパネル・押出成形セメント板関係

項目		建築	電気	機械	備考
1 ＡＬＣ・ＥＣＰの開口部	出入口・窓等の開口	・	・	・	
	設備用開口	・	・	・	
	上記開口補強	・	・	・	

○仕上げ関係

項目		建築	電気	機械	備考
1 軽鉄天井・壁下地	建築部材用開口部の墨出し	※	・	・	
	電気機器用開口部の墨出し	・	※	・	
	機械機器用開口部の墨出し	・	・	※	
	軽鉄の切込み	※	※	※	
	軽鉄の開口補強	※	・	・	
	補強を要しないボードの切込み	※	※	※	
	補強を要するボードの切込み及び下地の補強	※	・	・	
	リブ天井仕上げ材の機器廻り取合い	※	※	※	
2 既製間仕切り	切り込み補強	※	・	・	
	位置ボックス	・	※	※	
	衛生機具類・機器類取付要壁補強	※	・	・	
3 吊りボルト及びインサート	設備機器・器具・配管・配線・ダクト用	・	※	※	
	Ｓ造の場合設備吊りボルト用構造部材	※	・	・	
4 外壁廻り	外壁ガラリ及びダクト接続用フランジ	※	・	・	
	ウエザーカバー、ベンドキャップ	・	・	※	
	換気扇	・	・	※	
	換気扇用枠	・	・	※	
	換気扇取付用アルミパネル		・	・	
	上記開口加工		・	・	
5 湯沸室廻り	流し台	※	・	・	
	同上用水栓	・	・	※	
	吊り戸棚・コンロ台	※	・	・	
	湯沸器	・	・	※	
	既製品レンジフード換気扇	※	・	・	
	現場製作ＳＵＳフード	・	・	・	
	ミニキッチン本体	・	・	・	
	ミニキッチン用照明	・	・	・	
	ミニキッチン用換気送風機	・	・	・	
	ミニキッチン用水栓	・	・	・	
	ミニキッチン用電気温水器	・	・	・	
	ミニキッチン換気送風機用ダクト	・	・	・	
	ミニキッチン用衛生配管	・	・	・	
	ＳＵＳ製流し台（排水金物共）	※			
6 便所廻り	洗面器用カウンター	・	・	・	
	同上切込み	・	・	・	
	鏡（Ｗ６００×Ｈ８００まで）【既製品】	・	・	※	
	鏡（Ｗ６００×Ｈ８００を超えるもの）	・	・	・	
	鏡（ステンレス製）	・	・	・	
	衛生陶器及び水栓類	・	・	※	
	手すり（トイレブース内）	・	・	※	
	器具取付用壁下地補強	※	・	・	
	ペーパーホルダー	・	・	※	
	シートペーパーホルダー	・	・	※	
7 浴室廻り	ユニットバス・ユニットシャワー	※	・	・	
	同上出入口壁取合い部枠	※	・	・	
	同上用水栓	※	・	・	
	同上用換気扇	※	・	・	
	浴槽・洗い場の排水金物	※	・	・	
	洗濯機パン、洗濯機用排水金物	・	・	※	
8 事務室廻り	ドアガラリ・アンダーカット	※	・	・	
	フリーアクセスフロアの切込み及び補強	※	※	・	
	フリーアクセスフロア用マーカー	※	※	・	
9 その他	２重ピット及びトレンチのマンホール蓋	・	・	・	
	機器搬入用フック、ビーム	・	・	・	
	化粧マンホール上蓋及び蓋の仕上げ	※	※	・	
	点検口（天井・床下・壁）	※	・	・	
	排煙口等の天井仕上げ材の取付け	・	・	・	
	自動閉鎖装置を取付ける防火戸の切込み補強	・	・	・	
	消火器ＢＯＸ	※	・	・	
	消火器本体	・	・	※	
	厨房用グリーストラップ	・	・	・	
	トラフ・ピット類（蓋を含む）	・	・	・	
	上記蓋貫通配管部加工	・	・	・	
	地下各水槽躯体及び防水・マンホール・タラップ	・	・	・	
	油サービスタンク及びポンプの防油堤	・	・	・	
	フリーアクセスフロア内の防水堤	・	・	・	
	電気錠	※	※	・	
10 補修・仕上げ	不要開口部のモルタル仕上	※	・	・	
	既存電気配管貫通部モルタル仕上	・	※	・	
	既存機械配管貫通部モルタル仕上	・	・	・	
	上記（床・内壁・外壁・天井）仕上材塗り補修	※	※	・	

○屋外排水設備・外構

項目		建築	電気	機械	備考
1 雨水	屋外雨水排水設備	・	・	※	
	桝及び桝蓋	※	・	※	
	ルーフドレイン	※	・	・	
	たて樋	※	・	・	
	横引配管（たて樋から第一桝まで）	・	・	※	
2 雑排水・汚水	屋外雑排水及び屋外汚水排水設備	・	・	※	
	桝及び桝蓋	・	・	・	
	化粧マンホール上蓋及び蓋の仕上	・	・	・	
3 煙突	煙突	・	・	・	
	発電機室から煙突までの排気管	・	・	・	
	煙道接続用スリーブ	・	・	・	
4 浄化槽の躯体	現場施工形	・	・	・	
	ユニット形	・	・	※	
	土留め工事	※	・	・	
5 地下貯油槽（タンク室を設ける場合）	タンク室の躯体	・	・	・	
	タンク室の乾燥砂充填	・	・	・	
	タンク室のタンク本体及び配管	・	・	・	
	タンク室を設けない場合のタンク及び設置工事	・	・	・	
	土留め関係工事	・	・	・	
6 その他	駐車場ガソリントラップ	・	・	・	
	機械式駐車装置	・	・	・	
	駐車場管理システム	・	・	・	
	浄化槽臭突管	・	・	※	

○電気配線配管

項目		建築	電気	機械	備考
	機器付属の制御盤以降の配管配線（接地線共）	・	・	※	浄化槽自立制御盤
	機器付属品の制御盤への電源供給配管配線	・	※	・	浄化槽自立制御盤
	自動制御と動力盤との電源供給の渡り配管配線	・	※	・	
	自動扉への電源供給	・	※	・	
	自動扉キースイッチ及び配管	※	※	・	
	電動シャッター電源供給	・	※	・	
	電動シャッター操作スイッチ用位置ボックス及び配管	・	※	・	
	電動シャッター本体・操作スイッチ及びその間の配線	※	・	・	
	室内機と屋外機の渡り（連絡）配線	・	・	※	
	機器と付属操作スイッチの位置ボックスとその渡り配管	・	※	・	
	空調室内機と操作スイッチの渡り配線	・	・	※	
	換気扇と操作スイッチの操作配線	・	※	・	
	注油口内アース端子よりアース用配管配線	・	・	・	
	防火戸の連動制御器・煙感知器・吸着板・ラッチ受座の取付け	※	・	・	
	上記の配線	・	※	・	
	防火・防煙シャッター及び二次側配線	・	・	・	
	上記連動制御器・煙感知器の取付け及び配線	・	・	・	
	防煙ダンパー	・	・	・	
	上記連動制御器・煙感知器の取付け及び配線	・	・	・	
	排煙口	・	・	・	
	上記連動制御器・煙感知器の取付け及び配線	・	・	・	
	電気錠への電源供給	・	※	・	
	避雷導体間の接続工事	・	※	・	
	ガス遮断弁の操作、制御配線用配管	・	※	・	
	ガス遮断弁・ガス漏れ感知器	・	・	・	
	２４時間換気用スイッチ	・		・	
	同上取付	・	※		取付は電気工事
	警備機器及び配線				別途
	ガス給湯器のリモコンスイッチ及び配線工事	・	・	※	
	同上ボックス及び配管工事	・	※	・	

（A3=A1縮小50%）

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査
図面名	工事区分表 NONE			

一級建築士事務所 県知事登録第１２１５３号
（有） 芦 田 設 計
一級建築士 登録第 ９９０５３ 号 芦田園廣

図面番号 A 9

特　記　事　項　（特記なき限り下記とする。）

1．内装材は規制対象外（Ｆ☆☆☆☆ 大臣認定品）を使用すること。
2．天井裏は規制対象外（Ｆ☆☆☆☆）以上を使用すること。
3．その他、室内に面する部分は規制対象外（Ｆ☆☆☆☆）を使用すること。
4．柱型、梁型、下り壁の仕上げは、壁仕上げ同様とする。
5．防火上主要な間仕切壁はスラブ又は梁下に達すること。
6．グラスウール　t=50 t=100　24kg（高性能16kg）品性能以上
7．壁ボード張り出隅は、専用保護金物の上縦目用パテ処理を行う。
8．内部木部見え掛かりは全てＳＯＰ塗とする。
9．外部鉄部見え掛かりは全てＤＰ塗とする。
10．下地略号は下記による。
　Ｃ　コンクリート下地
　ＣＢ　コンクリートブロック下地
　Ｍｏ　モルタル下地
　ＬＧＳ　軽量鉄骨下地
　Ｗ　木下地（胴縁・野縁）
　Ｂ　ボード下地（合板含む）
　ＧＬ　ＧＬ工法（直貼り工法）
11．仕上略号は下記による。
　ＦＫ　繊維混入けい酸カルシウム板（0.8FK）t=5.0以上
　ＰＢ　石膏ボード(GB-R) t=12.5　石膏ボード(GB-NC) t=9.5
　化粧ＰＢ　化粧石こうボード(トラバーチン)(GB-D) t=9.5
　ＰＢＦ　強化石こうボード(GB-F) t=15.0
　ＰＦ板　押出法ポリスチレンフォーム保温板 3種b JIS A 9511 A種

12．塗装略号は下記による。
　ＥＰ　合成樹脂エマルションペイント塗り
　ＥＰ－Ｇ　つや有合成樹脂エマルションペイント塗り
　ＳＯＰ　合成樹脂調合ペイント塗り
　ＤＰ　耐候性塗料塗り
　ＷＰ　木材保護塗料塗り
　ＵＣ　ウレタン樹脂ワニス塗り
　ＣＬ　クリヤーラッカー塗り
　ＯＳ　オイルステイン塗り
　ＢＰ　防塵塗料塗り
　ＲＥ　防水形複層塗材ＲＥ（下地調整塗材Ｃ－１）
　Ｓｉ　外装薄塗材Ｓｉ（下地調整塗材Ｃ－１）

13．認定番号等は下記による。

石こうボード(GB-R)	t=12.5以上	不燃	NM-8619	
石こうボード(GB-R)	t= 9.5	準不燃	QM-9828	
防水石こうボード(GB-S)	t=12.5以上	不燃	NM-9639	
防水石こうボード(GB-S)	t= 9.5	準不燃	QM-0898	
化粧石こうボード(GB-D)(T)	t= 9.5	準不燃	QM-9842	
化粧石こうボード(GB-D)(NC)	t= 9.5	不燃	NM-0441	
強化石こうボード(GB-F)	t=12.5以上	不燃	NM-8615	
ＧＬ工法石こうボード	t=12.5	不燃	NM-8619	
ロックウール吸音板(DR)	t=12.0以上	不燃	NM-8599	
繊維混入けい酸カルシウム板(0.8FK)	t= 5.0以上	不燃	NM-8576　NM-8578	
メラミン不燃化粧板	t= 3.0	不燃	NM-2183	
不燃吸音ボード(基材)	t=25.0	不燃	NM-8610	
不燃吸音ボード(表面クロス)		不燃	NM-2131	

異種用途区画間仕切り壁ＡＬＣ版 t100縦張		１時間耐火構造 H12建設省告示第1399号
アイジー工業㈱ 断熱ヴァンドNZ35F＋内装GB-R t12.5以上		防火構造　PC030NE-0242(1)
ケイミュー㈱ シンプルシリーズ16スマートスパン柄（寒冷地用）		不燃材料　NE-0017
屋根ヨドルーフ166ハゼ＋フネンエース等		30分耐火　FP030RF-0605
紙壁張り	防火施工管理ラベル　準不燃、不燃	壁装材料NM
織物壁紙張り	防火施工管理ラベル　準不燃、不燃	壁装材料NM
ビニル壁紙	防火施工管理ラベル　準不燃	壁装材料QM
カーテン及びカーペット		防炎加工製品
屋根３０分耐火FP０３０RF-００１０（木毛セメント板等25mm以上）		

外　部　仕　上　表

名　称	仕　上　名	名　称	仕　上　名
土　間　ス　ラ　ブ	車庫部(車庫・防災倉庫・油庫)：土間スラブコンクリートt200(配筋は構造図による) 防湿シートポリエチレンフィルムt0.15(二重)敷(地中梁等際H300立下げ)　再生砕石敷t100(転圧後) 車庫部以外：土間スラブコンクリートt150(配筋は構造図による) 断熱材押出法ポリスチレンフォーム保温板３種b t25(地中梁等際H300立下げ)　防湿シートポリエチレンフィルムt0.15(二重)敷(地中梁等際H300立下げ)　再生砕石敷t100(転圧後)	事　務　所　屋　根	カラーＧＬ鋼板 t0.5縦葺き(㈱淀川製鋼所 ヨドルーフ瓦棒400同等以上)　水切りカラーＧＬ鋼板t0.5 裏貼ポリエチレンフォームt4.0(屋外屋根裏表し部のベフ貼りは不要)　ゴムアス防水シートt1.0　野地板木毛セメント板t25 軒天ＥＰ塗(素地ごしらえ(Ｂ種))0.6FK8.0底目　LGS25下地
犬　走　り （室外機及非常用発電機置場）	コンクリート金鏝押え　側面打放し補修 土間スラブコンクリートt150(配筋は構造図による) 各出隅面取(面20)	車　庫　屋　根	カラーＧＬ鋼板t0.8折半(H=166)葺き(㈱淀川製鋼所 ヨドルーフ166ハゼ同等以上)　水切りカラーＧＬ鋼板t0.5 裏貼不燃ベフt4.0(屋外屋根裏表し部のベフ貼りは不要)
外　壁　基　礎　立　上　り	複層塗材Ｅ(透湿性)　セメント系下地調整塗材(CM-2) コンクリート打放し(A種)補修下地	軒　　樋	カラー塩ビ製スチール芯入大型雨樋 前高W165(パナソニック㈱ 大型雨といエアロアイアン前高165WIDE同等以上) ステンレス製吊り金具@600
外　壁 （一　般　部）	金属サンドイッチパネルt35(アイジー工業㈱ 断熱ヴァンドNZ35同等以上)横張 鉄骨胴縁(C-100×50×20×2.3)下地 水切りカラーＧＬ鋼板t0.5	竪　　樋	カラーＶＵ100φ ステンレス製揺み金物@1,200
外　壁 （色　付　部）	金属サイディングt16(ケイミュー㈱ シンプルシリーズ16スマートスパン柄(寒冷地用)同等以上)縦張 桧横胴縁45×18@600　鉄骨胴縁(C-100×50×20×2.3)下地 水切りカラーＧＬ鋼板t0.5	ホ　ー　ス　リ　フ　タ　ー	電動式ホースリフター(ホース収納5本×2×2列 計20本掛け)(流通産業㈱　FHD200型(分割昇降式)同等以上) ホースリフター取付用鉄骨(中間支持部鉄骨含む)全て溶融亜鉛メッキ処理(2種 HDZ55) 基礎耐圧版スラブt350金鏝押え(24N-15-20、D13@200タテヨコ共ダブル、出隅面取(面20))
外　壁 （立上りパラペット裏部）	カラーＧＬ鋼板角波サイディングt0.4(㈱淀川製鋼所 ヨドスパン1F型目地なし同等以上)縦張 透湿防水シート貼(外壁用JIS A 6111) 鉄骨胴縁(C-100×50×20×2.3)下地	竣　工　銘　板	乳白色アクリル板t3.0 W110×H150(彫込文字着色、両面テープ及び接着剤併用取付) 化粧カバー透明アクリル板t3.0 W110×H150(糸面取、ＳＵＳ化粧ビス留め)
バルコニー立上り外壁	複層塗材ＲＥ　セメント系下地調整塗材(CM-2) コンクリート打放し(A種)補修下地 サイディング取合いシーリング20*10(MS-2)	館　名　文　字	カラーステンレス製 t20(200×200(8文字)、400×400(5文字)) ＳＵＳ脚接着剤及び両面テープ取付
玄　関　ポ　ー　チ	磁器質タイル150角(屋外床用耐凍害品)、段鼻：段鼻タイル(色分け) タイルモルタル下地	構　内　舗　装	一般部密粒度アスコンアスファルト舗装 A-5-15(再生材)　不陸整正及び路床整正共 提出書類(温度管理表(温度管理時の温度数値写真添付)、出来高管理表(管理写真添付)、路床プロフローリング試験、路盤現場密度測定試験及び試験結果報告書、切取り試験及び試験結果報告書、各試験成績表) 駐車スペース区画線引き 線幅100(Ｕ型区画線、デルタマーキング)
ス　ロ　ー　プ	磁器質タイル150角(屋外床用耐凍害品)　※明度差確保 タイルモルタル下地 ステンレス製手すりH750((ナカユ業㈱ スリム目地タイプ0-40Gs-I、支柱42.7φ×t1.5同等以上))	北　側　フ　ェ　ン　ス	防風フェンス(朝日スチール工業㈱ 防風柵HP-3型遮へい率60%(溶融亜鉛メッキ仕上(HDZ40))同等以上) 基礎コンクリート打放し(A種)補修 D900×W900×H1,100@3,000(24N-18-20、主筋8-D16 H00P-D13@150、出隅面取(面20)、捨てコンクリートt50、再生砕石敷t200(転圧後)) 基礎北側土留め兼用コンクリート壁打放し(A種)補修 W160×H1,250(24N-18-20、D10@200タテヨコ共(基礎と緊結、端部筋D13、ベース筋D13@200)、出隅面取(面20)、捨てコンクリートt50、再生砕石敷t100(転圧後)) 基礎天端全面土間コンクリート W900×t150(24N-18-20、D10@200タテヨコ共(基礎と緊結)、出隅面取(面20)、再生砕石敷t150(転圧後))
玄　関　ポ　ー　チ　庇	アルミ庇 D=1,500 L=2,500(㈱共和 AD-Rステンカラー同等以上) 竪樋45角ステンカラーセット(排水管カバー共)	北・東・西側フェンス	メッシュフェンス(朝日スチール工業㈱ UN-A80S-50同等以上) 基礎コンクリート壁打放し(A種)補修(土留め兼用) W150×H930(24N-18-20、D10@200タテヨコ共(端部筋D13)、ベース筋3-D13、ベース筋D13@200、斜筋D13@200) 出隅面取(面20)、捨てコンクリートt50、再生砕石敷t100(転圧後))
事務室勝手口土間	コンクリート金鏝押え　段鼻部水切り目地切　側面打放し補修 土間スラブコンクリートt150(配筋は構造図による) 各出隅面取(面20)	隣地境排水側溝 （北側・東側・西側）	上ぶた式Ｕ形側溝（Ｕ字溝）150(捨てコンクリートt50、再生砕石敷t100(転圧後))　指定部コンクリート蓋1種150(PC1)
事務室勝手口庇	アルミ庇 D=950 L=2,000(㈱共和 AF95ステンカラー同等以上)	西南排水側溝	落ちふた式Ｕ形側溝（３種 PU3 JIS A5372)250(捨てコンクリートt50、再生砕石敷t200(転圧後))　指定部コンクリート蓋3種250(PC3) 敷地南側のみ：指定部コンクリート蓋3種250(PC3) 敷地南側のみ：スチール製グレーチング(T-25)、ノンスリップタイプ、SS400+STKR400Ｒ
食堂勝手口土間	コンクリート金鏝押え　段鼻部水切り目地切　側面打放し補修 土間スラブコンクリートt150(配筋は構造図による) 各出隅面取(面20)	構　内　溜　桝	既製品道路用溜桝500(カワノ工業㈱ 道路用溜桝本体(T-25)500A同等以上)、基礎版t100(カワノ工業㈱ ブレキャスト基礎版(500用)同等以上)、再生砕石敷t200(転圧後)) インバートコンクリート(無筋)t50以上×460×460 道路用溜桝500用グレーチング蓋(カワノ工業㈱ 道路用グレーチング溜桝ふた(T-25)500すべり止め加工固定式(普通目)同等以上)
食堂勝手口庇	アルミ庇 D=950 L=4,000(㈱共和 AF95ステンカラー同等以上)	電柱保護バリカー	コーナーアーチ型バリカー 60.5φ W600×W600×H650(㈱サンポール FAA-7UR6-650(Y)同等以上) 既製品基礎コンクリートW250×D250×H250(捨てコンクリートt50、再生砕石敷t100(転圧後))
車庫勝手口土間	コンクリート金鏝押え　段鼻部水切り目地切　側面打放し補修 土間スラブコンクリートt150(配筋は構造図による) 各出隅面取(面20)	フ　ラ　ッ　グ　ポ　ー　ル	アルミ製ロープ型旗ポール H9.00(㈱サンポール FP-9U同等以上) 基礎コンクリート打放し(A種)補修 D600×W600×H1,500(天端＝GL+300)(24N-15-20、主筋8-D16 H00P-D13@150、出隅面取(面20)、捨てコンクリートt50、再生砕石敷t200(転圧後))
車庫勝手口庇	アルミ庇 D=600 L=1,000(㈱共和 AF95ステンカラー同等以上)	ゴ　ミ　ス　ト　ッ　カ　ー	アルミ製ゴミストッカーW1,200×D600×H1,179(四国化成工業㈱ ISAP4-1212SC(サイラシ　ト共)同等以上)アンカー固定
バ　ル　コ　ニ　ー	FRP系塗膜防水(大泰化工㈱ コンパックルーフ工法　R-2同等以上)　デッキコンクリートの上防水モルタル金鏝下地 立上りコンクリート部～手すり柱脚H150 FRP系塗膜防水(大泰化工㈱ コンパックルーフ工法　R-2同等以上) 軒天ＥＰ塗(素地ごしらえ(Ｂ種))0.8FK8.0底目　LGS25下地　軒天コーナーアルミ製見切(㈱ＡＢＣ商会 アンダーライン70同等以上) 立上りコーナー保護金物 L-50×50×6.0(SUS304 t6.0 HL) HAS-1045@330溶接アンカー止　ステンレス製横引きルーフドレン75φ用(㈱カネソウ ESXG-75同等以上)　物干し金物(㈱川口技研 ZAN-0650-ST同等以上)		
バルコニー手摺	アルミ製　段笠木手摺　立格子　H=1,100 L=5,600((株)LIXIL　ベランダ手すりⅡ　一段笠木同等以上) 立上りコンクリート打放しの上塗膜防水(X-2)防滑トップコート仕上げ(アイレジン㈱ アクアコートS-11同等以上)		
外壁立上り笠木	カラーアルミ製笠木 W200(㈱ＡＢＣ商会 RD-Aタイプ(カラー)同等以上)		
小屋裏換気 ベンドキャップ	ステンレス製屋外換気口スリムタイプ150φ用(㈱ナスタ KS-8620SHD-MLG同等以上)		

※ 特記事項
・外部鉄部見え掛かり全てＤＰ塗（Ａ種）　錆止め塗（Ａ種）　素地ごしらえ（Ｃ種）
・鉄部見え隠れ全て錆止め塗（Ａ種）　素地ごしらえ（Ｃ種）

（A3=A1縮小50%）

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査	図面番号 A-10
図面名	仕上表1　NONE				
一級建築士事務所	県知事登録第１２１５３号 （有）　芦　田　設　計	一級建築士	登録第 ９９０５３ 号	芦田圓廣	

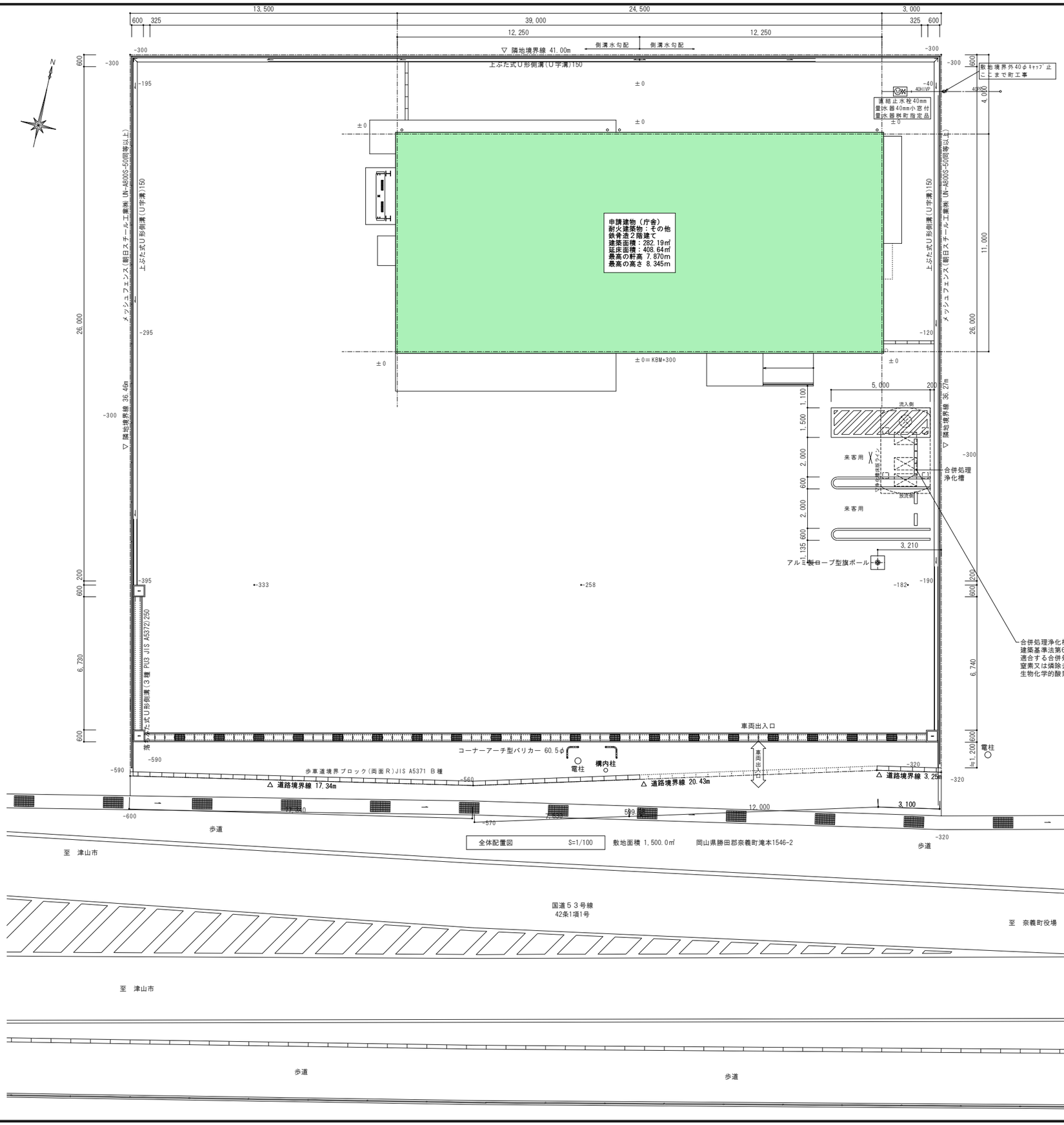
内 部 仕 上 表

階	室 名	床	下地	巾 木	高さ	壁	下地	額縁	天 井	下地	廻縁	ＣＨ	カーテンボックス	備 考	内装制限	排煙
1階	風除室	磁器質タイル150角(屋外床用耐凍害品)	タイル下モルタル	磁器質タイル150角	150	ビニルクロス貼り マグネット・画鋲両用掲示板クロス貼H1,200	GB-S12.5 LGS65 シナ合板t5.5	檜積層材ＣＬ塗t25	ビニルクロス貼り	GB-S9.5 LGS19	塩ビ(突付)	2,700		埋込式消火器ボックス(㈱ユニオン UFB-1F-2720同等以上) 掲示板周囲檜積層材見切W20×D25 ＣＬ塗(素地ごしらえ(Ｂ種)) 事務室側電気錠式自動ドア 機械設備：消火器	仕上準不燃	
1階	事務室	置敷ビニル床タイル(500×500)貼t5.0 防炎製品	樹脂製ＯＡフロアー (㈱キタイ製作所 H70S 同等以上) セルフレベリングt10	ソフト巾木	75	ビニルクロス貼り	GB-R12.5 LGS65	檜積層材ＣＬ塗t25	化粧石こうボード(GB-D)(T)t9.5張り	LGS19	塩ビ(突付)	2,700	アルミ製 W120×H80 (三洋工業㈱ サンアルピ CB-120同等以上)	突出ピクト200×200 杉田エース(㈱ ﾊﾟﾌﾞﾘｯｸｻｲﾝPU-04T同等以上) スクリーン吊フック(アズワン㈱ ﾒﾃﾞｨｯｸMF-6065S同等品以上)	仕上準不燃	自然排煙
1階	書庫	複層ビニル床タイルＦＳ貼t2.0	コンクリート金鏝	ソフト巾木	75	ビニルクロス貼り	GB-R12.5 LGS65		化粧石こうボード(GB-D)(T)t9.5張り	LGS19	塩ビ(突付)	2,400			仕上準不燃	
1階	食堂・調理室	複層ビニル床タイルＦＴ(300×300)貼t2.0	コンクリート金鏝	ソフト巾木	75	ビニルクロス貼り(不燃) メラミン不燃化粧板t3.0張り(エンド部塩ビ見切)	GB-R12.5 LGS65 GB-S12.5 LGS65	檜積層材ＣＬ塗t25	ビニルクロス貼り(不燃)	GB-R12.5 LGS19	塩ビ(突付)	2,700	アルミ製 W120×H80 (三洋工業㈱ サンアルピ CB-120同等以上)	システムキッチン2100(クリナップ㈱ コルティベーシック Ｓシリーズ 2100 加熱機器ガス同等以上) 面台(SUS t1.5加工 120×25 HL仕上(耐水合板t12.5+12.5下地)) 機械設備：洗面器	下地仕上共不燃	自然排煙
1階	ＷＣ多目的	複層ビニル床タイルＦＳ貼t2.0	コンクリート金鏝	ソフト巾木	75	化粧ケイカル板t6.0 壁内グラスウールt50 24kg(高性能16kg)品性能以上	GB-S12.5 LGS65	アルミ製額縁	ビニルクロス貼り	GB-S9.5 LGS19	塩ビ(突付)	2,500		面台(SUS t1.5加工 120×25 HL仕上(耐水合板t12.5+12.5下地)) 機械設備：洗面器、腰壁便器、手すり類	仕上準不燃	
1階	ＷＣ小	複層ビニル床タイルＦＳ貼t2.0	コンクリート金鏝	ソフト巾木	75	化粧ケイカル板t6.0 壁内グラスウールt50 24kg(高性能16kg)品性能以上	GB-S12.5 LGS65		ビニルクロス貼り	GB-S9.5 LGS19	塩ビ(突付)	2,500		面台(SUS t1.5加工 120×25 HL仕上(耐水合板t12.5+12.5下地)) 機械設備：手洗器、小便器	仕上準不燃	
1階	階段下収納	複層ビニル床タイルＦＳ貼t2.0	コンクリート金鏝	ソフト巾木	75	GB-R12.5表し	GB-R12.5 LGS65		化粧石こうボード(GB-R)t12.5張り	LGS19	塩ビ(突付)	2,400			仕上準不燃	
1階	出勤準備室	薄膜型ウレタン樹脂系防塵塗料(コーティング工法) (㈱ＡＢＣ商会 カラートップU同等以上)	コンクリート金鏝	ソフト巾木	75	ビニルクロス貼り(不燃)	GB-R12.5 LGS65		ＥＰ塗(素地ごしらえ(Ｂ種))	0.8FK6.0底目 LGS19	塩ビ(突付)	2,400		家具：防火衣ロッカー、帽子ヘルメット掛け 階段入口三方枠檜積層材ＣＬ塗t25(コーナー面取面15)	下地仕上共不燃	
1階	救急消毒室	厚膜型エポキシ樹脂系塗床(防滑工法) (㈱ＡＢＣ商会 ケミクリートＥ同等以上)	コンクリート金鏝	床仕上げ塗上げ	200	化粧ケイ酸カルシウム板t6.0張り	GB-S12.5 LGS65	アルミ製額縁	ＥＰ塗(素地ごしらえ(Ｂ種))	0.8FK6.0底目 LGS19	塩ビ(突付)	2,400		面台(SUS t1.5加工 120×25 HL仕上(耐水合板t12.5+12.5下地)) ＳＵＳ製流し(L=1500)、物干金物(㈱川口技研 ZP-104同等以上 機械設備：汚物流し、ＳＰ次亜水生成装置、洗面器、 ハンドドライヤー	下地仕上共不燃	
1階	車庫	コンクリート金鏝仕上(水勾配付)		コンクリート打放し(A種) 全面補修	200	ＥＰ塗(素地ごしらえ(Ｂ種)) 金属サイディングt16裏のみ0.8FK10.0及びLGS100下地 ＳＯＰ塗(素地ごしらえ(Ｂ種)) ＥＰ塗(素地ごしらえ(Ｂ種)合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝｼｰﾗｰ共)	0.8FK8.0両面二重張り GB-R12.5 LGS100 鉄部見え掛かり ＡＬＣt100	アルミ製額縁	ＥＰ塗(素地ごしらえ(Ｂ種))	0.8FK6.0底目 LGS19	塩ビ(突付)	5,000		消火器収納ケース(㈱ユニオン UFB-3F-307-PWH同等以上)２箇所 0.8FK10.0下部水切カラーＧＬ鋼板t0.5 機械設備：消火器、排気ダクト	下地仕上共不燃	
1階	防災倉庫	コンクリート金鏝仕上(水勾配付)		コンクリート打放し(A種) 全面補修	200	ＥＰ塗(素地ごしらえ(Ｂ種)) ＳＯＰ塗(素地ごしらえ(Ｂ種)) ＥＰ塗(素地ごしらえ(Ｂ種)合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝｼｰﾗｰ共)	0.8FK8.0両面二重張り GB-R12.5 LGS100 鉄部見え掛かり ＡＬＣt100		ＥＰ塗(素地ごしらえ(Ｂ種))	0.8FK6.0底目 LGS19	塩ビ(突付)	2,700			下地仕上共不燃	
1階	油庫	コンクリート金鏝仕上(水勾配付)		コンクリート打放し(A種) 全面補修	200	ＥＰ塗(素地ごしらえ(Ｂ種)) ＳＯＰ塗(素地ごしらえ(Ｂ種))	0.8FK8.0両面二重張り GB-R12.5 LGS100 鉄部見え掛かり		ＥＰ塗(素地ごしらえ(Ｂ種))	0.8FK6.0底目 LGS19	塩ビ(突付)	2,700		消火器収納ケース(㈱ユニオン UFB-3F-307-PWH同等以上) 釜場ピット(300×300×H300) 機械設備：消火器、少量危険物表示板	下地仕上共不燃	
階段	階段室	複層ビニル床タイルＦＳ貼t2.0	モルタル金鏝	ソフト巾木	75	ビニルクロス貼り 梁型ビニルクロス貼り 手すり壁ビニルクロス貼り	GB-R12.5 LGS65 GB-R12.5 LGS19 GB-R12.5 LGS100		ビニルクロス貼り 天井裏グラスウールt100 24kg(高性能16kg)品性能以上	GB-S9.5 LGS19	塩ビ(突付)	2,700		階段すべり止め(ナカ工業㈱ S-37L同等以上) 階段手すり(ナカ工業㈱ スリム目地タイプ0-34Vsl同等以上) 手すり壁天端檜積層材ＣＬ塗t25(天端及びコーナー面取面15)	仕上準不燃	
2階	仮眠室 1～6	畳敷きt55	構造用合板t28.0 木床組	檜畳寄せ		ビニルクロス貼り	GB-R12.5 LGS65	檜積層材ＣＬ塗t25	化粧石こうボード(GB-D)(T)t9.5張り 天井裏グラスウールt100 24kg(高性能16kg)品性能以上	LGS19	塩ビ(突付)	2,240		家具：布団収納棚 桧上り框 ２－ＵＣ塗(W100×H120) 一部梁型コーナーガード(ナカ工業㈱ ｾﾌﾃｨｰｺｰﾅｰCI同等以上) 柱(6箇所)背割部電気BOX埋込後パテ処理(BOX及配線は電気設備)	仕上準不燃	自然排煙
2階	ロッカー スペース	複層ビニル床タイルＦＳ貼t2.0	コンクリート金鏝	ソフト巾木	75	ビニルクロス貼り	GB-R12.5 LGS65	檜積層材ＣＬ塗t25	ビニルクロス貼り 天井裏グラスウールt100 24kg(高性能16kg)品性能以上	GB-S9.5 LGS19	塩ビ(突付)	2,700			仕上準不燃	自然排煙
2階	仮眠室７	複層ビニル床タイルＦＳ貼t2.0	コンクリート金鏝	ソフト巾木	75	ビニルクロス貼り	GB-R12.5 LGS65 一部エアコン取付用 ラワン合板t12 W900×H600 1.0箇所	檜積層材ＣＬ塗t25	化粧石こうボード(GB-D)(T)t9.5張り 天井裏グラスウールt100 24kg(高性能16kg)品性能以上	LGS19	塩ビ(突付)	2,700	アルミ製 W120×H80 (三洋工業㈱ サンアルピ CB-120同等以上)		仕上準不燃	自然排煙
2階	仮眠室７ ＳＷ脱衣 洗濯スペース	複層ビニル床タイルＦＳ貼t2.0	コンクリート金鏝	ソフト巾木	75	ビニルクロス貼り 化粧ケイカルt6.0張り(エンド部塩ビ見切)	GB-S12.5 LGS65 GB-S12.5 LGS65		化粧石こうボード(GB-D)(T)t9.5張り 天井裏グラスウールt100 24kg(高性能16kg)品性能以上	LGS19	塩ビ(突付)	2,700		面台(SUS t1.5加工 120×25 HL仕上(耐水合板t12.5+12.5下地))	仕上準不燃	
2階	仮眠室７入口 ＷＣ	複層ビニル床タイルＦＳ貼t2.0	コンクリート金鏝	ソフト巾木	75	化粧ケイカルt6.0 壁内グラスウールt50 24kg(高性能16kg)品性能以上	GB-S12.5 LGS65		ビニルクロス貼り 天井裏グラスウールt100 24kg(高性能16kg)品性能以上	GB-S9.5 LGS19	塩ビ(突付)	2,500		機械設備：腰掛便器、コンパクト洗面化粧台	仕上準不燃	
2階	仮眠室７ ＳＷ	シャワーユニット0812 (ＴＯＴＯ㈱ ０８１２Ｌタイプ同等以上)												シャワーユニット0812 (ＴＯＴＯ㈱ ０８１２Ｌタイプ同等以上)		
2階	ホール	複層ビニル床タイルＦＳ貼t2.0	コンクリート金鏝	ソフト巾木	75	ビニルクロス貼り	GB-R12.5 LGS65		ビニルクロス貼り 天井裏グラスウールt100 24kg(高性能16kg)品性能以上	GB-S9.5 LGS19	塩ビ(突付)	2,700		仮眠室７前カーテンレール(シングル)	仕上準不燃	
2階	ＷＣ	複層ビニル床タイルＦＳ貼t2.0	コンクリート金鏝	ソフト巾木	75	化粧ケイカルt6.0張り 壁内グラスウールt50 24kg(高性能16kg)品性能以上	GB-S12.5 LGS65		ビニルクロス貼り 天井裏グラスウールt100 24kg(高性能16kg)品性能以上	GB-S9.5 LGS19	塩ビ(突付)	2,500		面台(SUS t1.5加工 120×25 HL仕上(耐水合板t12.5+12.5下地)) トイレブースt40(小松ウオール工業㈱ TB-GP CL 巾木同等以上) ＳＫ内金物(SUS25φ(Ｓカン5箇所)、雑巾掛けL300 SUS5.0φ) 機械設備：洗面器、腰壁便器、小便器	仕上準不燃	
2階	洗面・洗濯室	複層ビニル床タイルＦＳ貼t2.0	コンクリート金鏝	ソフト巾木	75	ビニルクロス貼り	GB-S12.5 LGS65	檜積層材ＣＬ塗t25	ビニルクロス貼り 天井裏グラスウールt100 24kg(高性能16kg)品性能以上	GB-S9.5 LGS19	塩ビ(突付)	2,500		面台(SUS t1.5加工 120×25 HL仕上(耐水合板t12.5+12.5下地)) 家具：洗面用具収納棚 機械設備：洗面化粧台	仕上準不燃	
2階	倉庫	複層ビニル床タイルＦＳ貼t2.0	コンクリート金鏝	ソフト巾木	75	ビニルクロス貼り(不燃)	GB-R12.5 LGS65 一部エアコン取付用 ラワン合板t12 W850×H550 1.0箇所	檜積層材ＣＬ塗t25	化粧石こうボード(GB-D)(NC)t9.5不燃NM-0441 天井裏グラスウールt100 24kg(高性能16kg)品性能以上	LGS19	塩ビ(突付)	2,700		梁型コーナーガード(ナカ工業㈱ ｾﾌﾃｨｰｺｰﾅｰCI同等以上)	下地仕上共不燃	
2階	脱衣所	クッションフロアＫＳ貼t1.8 踏込部複層ビニル床タイルＦＳ貼t2.0	ラワン合板t5.5 パーティクルボードt20 プラ木レン3A コンクリート金鏝	ソフト巾木	75	ビニルクロス貼り	GB-S12.5 LGS65		ビニルクロス貼り 天井裏グラスウールt100 24kg(高性能16kg)品性能以上	GB-S9.5 LGS19	塩ビ(突付)	2,400 (踏込 2,500)		上り框(SUS t1.5加工 W50×H100 HL仕上)	仕上準不燃	
2階	浴室	ユニットバス1616 (ＴＯＴＯ㈱ サザナＨＳシリーズＮタイプ同等以上)												ユニットバス1616 (ＴＯＴＯ㈱ サザナＨＳシリーズＮタイプ同等以上)		

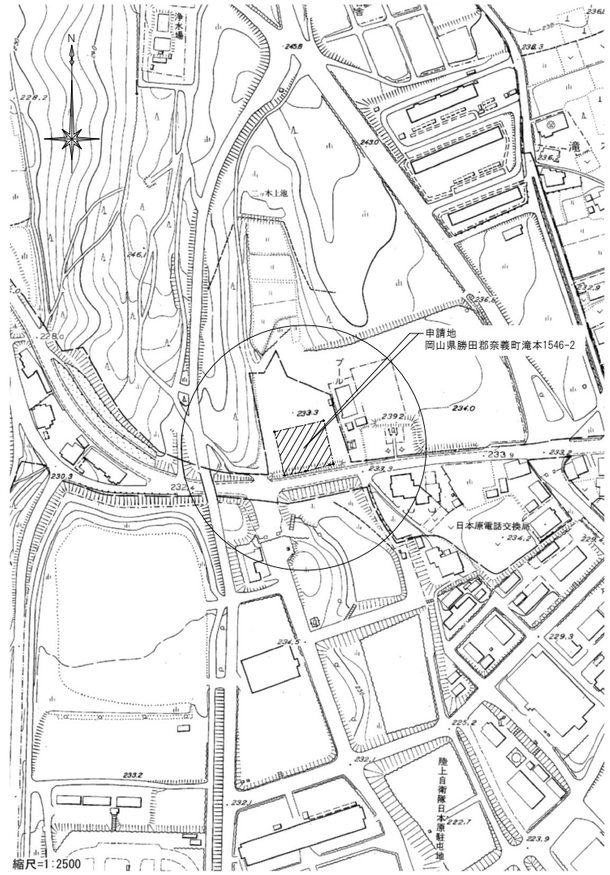
※ 特記事項
・特記なき限り塗装種別は(Ｂ種) 素地ごしらえ(Ｂ種)共
・内部鉄部見え掛かり全てＳＯＰ塗(Ｂ種) 錆止め塗(Ｂ種) 素地ごしらえ(Ｃ種)
・鉄部見え隠れ全て錆止め塗(Ｂ種) 素地ごしらえ(Ｃ種)

(A3=A1縮小50%)

工事名 津山圏域消防組合日本原分署新築工事		計画	設計	審査
図面名 仕上表２ NONE				
一級建築士事務所 県知事登録第１２１５３号 (有) 芦 田 設 計	一級建築士 登録第 ９９０５３ 号 芦田圀廣			図面番号 A 11



全体配置図　S=1/100　敷地面積 1,500.0㎡　岡山県勝田郡奈義町滝本1546-2



付近見取図　S=1/2,500　岡山県勝田郡奈義町滝本1546-2

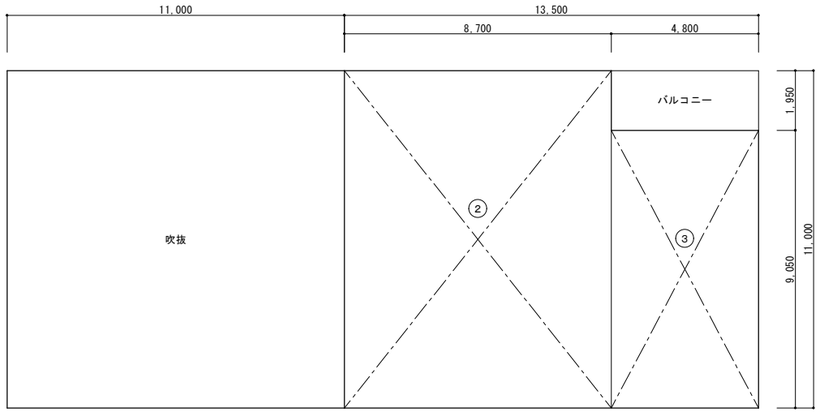
合併処理浄化槽 25人槽(ﾌｼﾞｸﾘｰﾝCEN I-25P同等以上)
建築基準法第68条の10第1項の規定に基づき、同法施行令第136条の2の11に掲げる一連の規定に
適合する合併処理 流量調整に嫌気濾床、担体流動ばっ気及び沈殿濾過を組み合わせた方式
窒素又は燐除去機能を有する高度処理浄化槽の内、放流水の
生物化学的酸素要求量10mg/L以下、総窒素濃度10mg/L以下、浮遊物質量10mg/L以下の機能を有するもの。

設計概要	
工事名称	津山圏域消防組合日本原分署新築工事
工事場所	岡山県勝田郡奈義町滝本1546-2
主要用途	08330(消防分署)
工事種別	新築
敷地面積	1,500.0㎡
用途地域	都市計画区域外
防火地域	指定なし
建築面積	282.19㎡
延床面積	408.64㎡
建蔽率	18.82%
容積率	27.25%
構造・規模	鉄骨造２階建て
基礎	柱状改良杭（ＳＳコラム工法） GBRC 性能証明 第12-07号 改2 スラリー系機械攪拌式深層混合処理
最高の軒高	7.870m
最高の高さ	8.345m

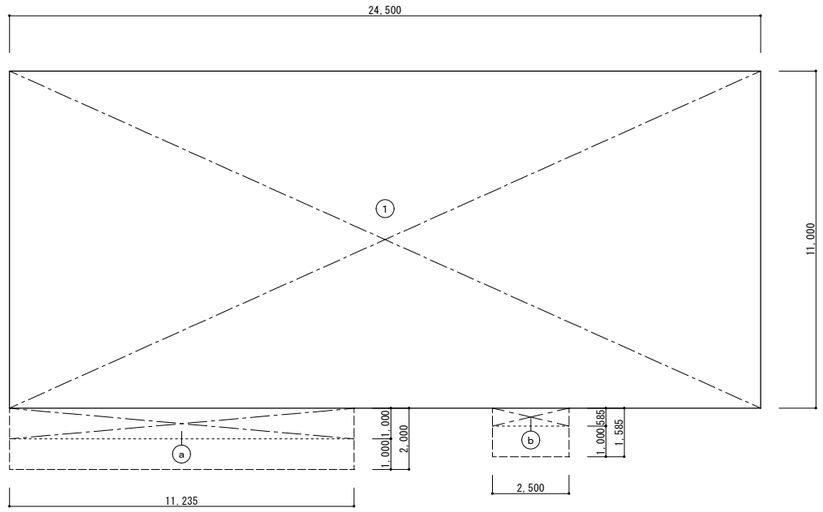
(A3=A1縮小50%)

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査	図面番号 A 12
図面名	付近見取図・全体配置図　S=1/2,500・1/100				
一級建築士事務所	県知事登録第１２１５３号 （有）　芦　田　設　計	一級建築士	登録第 ９９０５３ 号	芦田國廣	

■建築面積・床面積　求積図・面積表



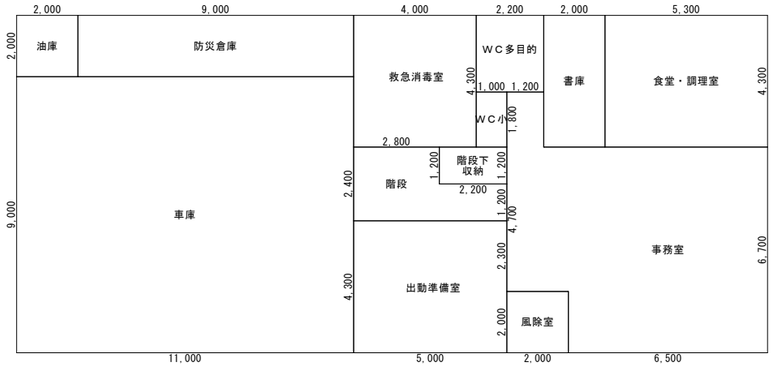
２階求積図　　S=1/100



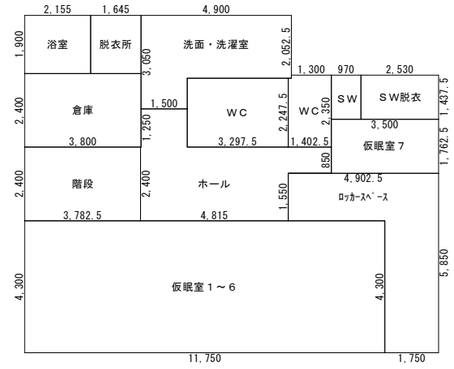
１階求積図　　S=1/100

■計算式			■建築面積	
①	24.500*11.000	269.5000 ㎡	① ＋ ⓐ ＋ ⓑ	282.1975 ㎡
②	8.700*11.000	95.7000 ㎡	∴	282.19 ㎡
③	4.800*9.050	43.4400 ㎡	■床面積	
			１階床面積	
ⓐ	2.500*0.585	1.4625 ㎡	①	269.5000 ㎡
ⓑ	11.235*1.000	11.2350 ㎡	∴	269.50 ㎡
			２階床面積	
			② ＋ ③	139.1400 ㎡
			∴	139.14 ㎡
			合　計	408.64 ㎡

■室別求積図



１階室別求積図　　S=1/100



２階室別求積図　　S=1/100

■居室の採光・換気・排煙の検討

階	室　名	室面積		採光無窓の検討　Ａ／２０ 必要採光面積	採光無窓の検討　Ａ／２０ 有効採光面積	換気無窓の検討　Ａ／２０ 必要換気面積	換気無窓の検討　Ａ／２０ 有効換気面積	排煙無窓の検討　Ａ／５０ 必要排煙面積	排煙無窓の検討　Ａ／５０ 有効排煙面積
1	事務室	6.500*6.700 = 43.550 2.000*4.700 = 9.400 1.200*1.800 = 2.160	55.11 ㎡	2.75 ㎡	AW3　1.80*1.65*3　= 8.910㎡ ≦ 8.91 ㎡　∴ ＯＫ	2.75 ㎡	AW3　0.90*1.65*3　= 4.455㎡ ≦ 4.45 ㎡　∴ ＯＫ	1.10 ㎡	AW3　0.90*0.67*3　= 1.809㎡ ≦ 1.80 ㎡　∴ ＯＫ
	食堂・調理室	5.300*4.300	22.79 ㎡	1.13 ㎡	AW3　1.80*1.65　= 2.970㎡ ≦ 2.97 ㎡　∴ ＯＫ	1.13 ㎡	AW3　0.90*1.65　= 1.485㎡ ≦ 1.48 ㎡　∴ ＯＫ	0.45 ㎡	AW3　0.90*0.67　= 0.603㎡ ≦ 0.60 ㎡　∴ ＯＫ
2	仮眠室１～６	11.750*4.300	50.52 ㎡	2.52 ㎡	AW7上　0.60*1.12*6　= 4.032㎡ ≦ 4.03 ㎡　∴ ＯＫ	2.52 ㎡	AW7上　0.60*1.12*6　= 4.032㎡ ≦ 4.03 ㎡　∴ ＯＫ	1.01 ㎡	AW7上　0.60*0.64*6　= 2.304㎡ ≦ 2.30 ㎡　∴ ＯＫ
	仮眠室７	3.500*1.7625	6.16 ㎡	0.30 ㎡	AW5　1.50*1.37　= 2.055㎡ ≦ 2.05 ㎡　∴ ＯＫ	0.30 ㎡	AW5　0.75*1.37　= 1.027㎡ ≦ 1.02 ㎡　∴ ＯＫ	0.12 ㎡	AW5　0.75*0.62　= 0.465㎡ ≦ 0.46 ㎡　∴ ＯＫ

■消防無窓の検討

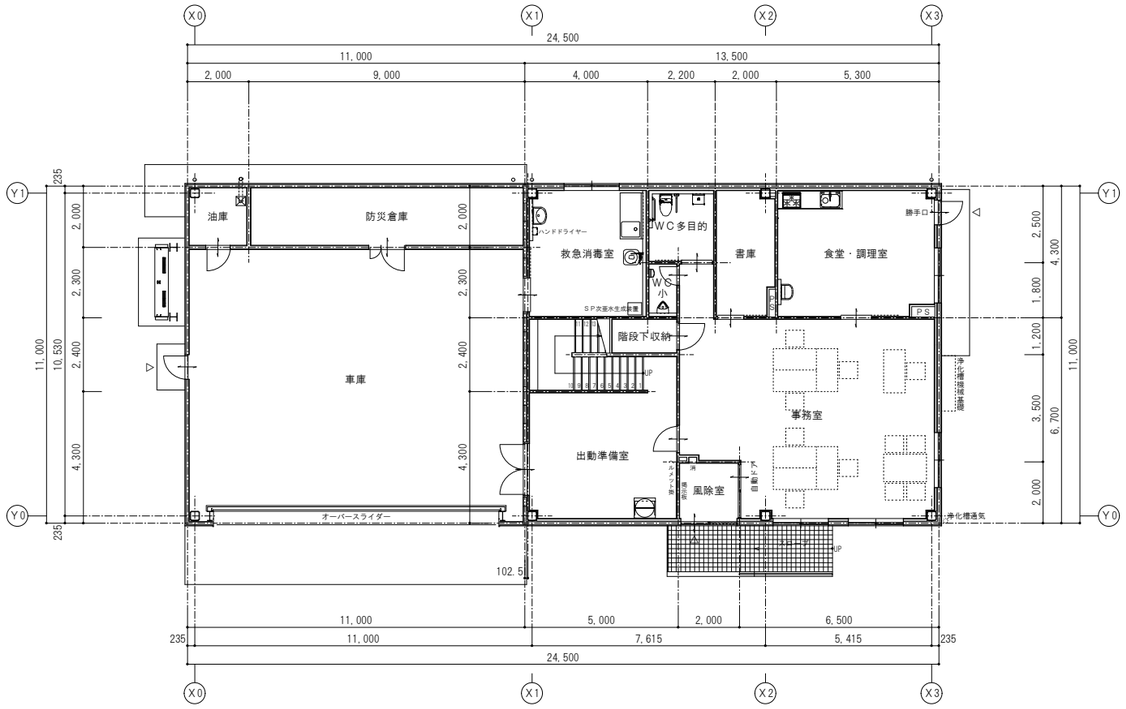
階	符　号	形　式	ガラス種類	床からの高さ	有効開口寸法	有効開口面積	備　考
1	AD-1,2,5	片開き戸	FL3.0+A6+F4.0	±0	0.800*1.940*3ヶ所	4.65 ㎡	直径１ｍ以上の円が内接することができる開口部 又は幅 0.75m以上高さ1.2m以上の開口部
	AW-1	引違窓	FL3.0+A6+F4.0	+920	0.900*1.300	1.17 ㎡	
	AW-3	引違窓	FL3.0+A6+FL3.0	+920	0.900*1.650*4ヶ所	5.94 ㎡	
	必要開口面積		階床面積	269.50 ㎡ / 30 =	8.98 ㎡ ≦	11.76 ㎡	
2	AD-6	片引きドア	FL3.0+A6+F4.0	+300	0.850*2.100	1.78 ㎡	直径１ｍ以上の円が内接することができる開口部 又は幅 0.75m以上高さ1.2m以上の開口部
	AW-5	引違窓	FL3.0+A6+FL3.0	+1,150	0.750*1.370	1.02 ㎡	直径１ｍ以上の円が内接することができる開口部 又は幅 0.75m以上高さ1.2m以上の開口部
	AW-7	片開き窓	FL3.0+A6+F4.0	+960	0.600*1.120*6ヶ所	4.03 ㎡	
	必要開口面積		階床面積	139.14 ㎡ / 30 =	4.63 ㎡ ≦	6.83 ㎡	

■関係法令チェック

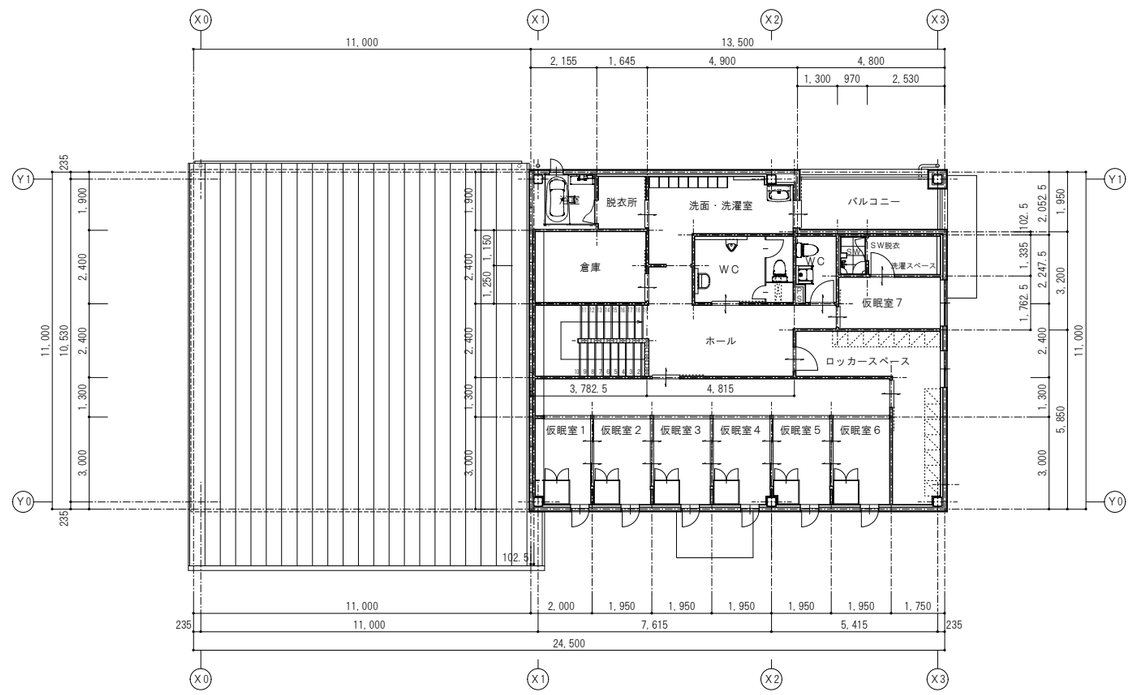
条　文	
建令112条第12項	防火区画：ALC厚100（軽量気泡コンクリート製パネル）耐火構造　法第2条第7号（平成12年建設省告示第1399号）
異種用途区画	防火戸：特定防火設備（常時閉鎖式）　※建具表参照
	防火区画を貫通する配管：両側１ｍを不燃材で造り，すき間を不燃材で埋める。
	防火区画を貫通する配電管：両側１ｍを不燃材で造り，すき間を不燃材で埋める。
建令114条	
界壁・防火条主要な間仕切	必要なし
建法35条	仮眠室が令116条の2　1項二号に該当しない
	令126条の2　1項五号の規定に該当するため排煙設備なし
建法35条の2	
内装制限	１階　食堂・調理室，出動準備室，救急消毒室，車庫，防災倉庫，油庫，２階　倉庫：天井・壁　準不燃以上　※仕上表参照
	その他：天井・壁　仕上準不燃以上　※仕上表参照

(A3=A1縮小50%)

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査	図面番号 A／13
図面名	建築面積・床面積　求積図・面積表，法チェック図 S=1/100				
一級建築士事務所 県知事登録第１２１５３号 （有）芦田設計		一級建築士 登録第９９０５３号 芦田圀廣			



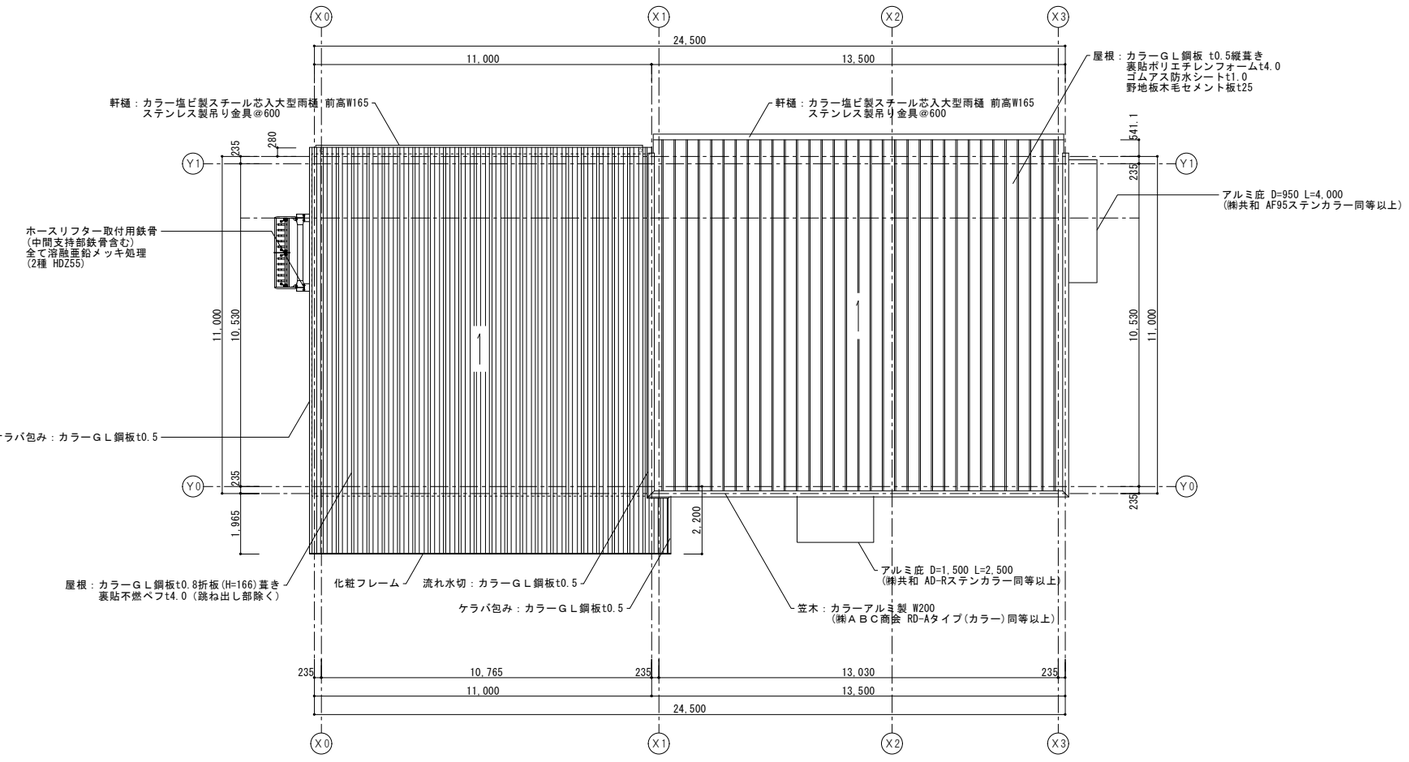
1階平面図　S=1/100



2階平面図　S=1/100

(A3=A1縮小50%)

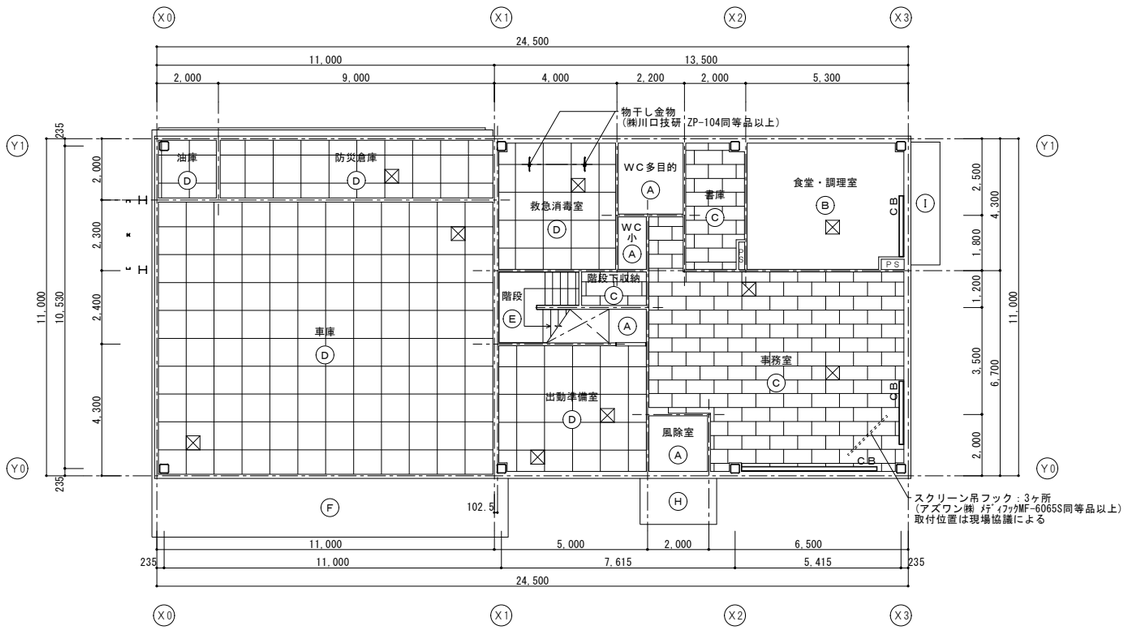
工事名 津山圏域消防組合日本原分署新築工事		計画	設計	審査	図面番号 A
図面名 1階平面図・2階平面図　S=1/100					14
一級建築士事務所 県知事登録第12153号 (有) 戸田設計	一級建築士 登録第 99053 号 戸田圀廣				



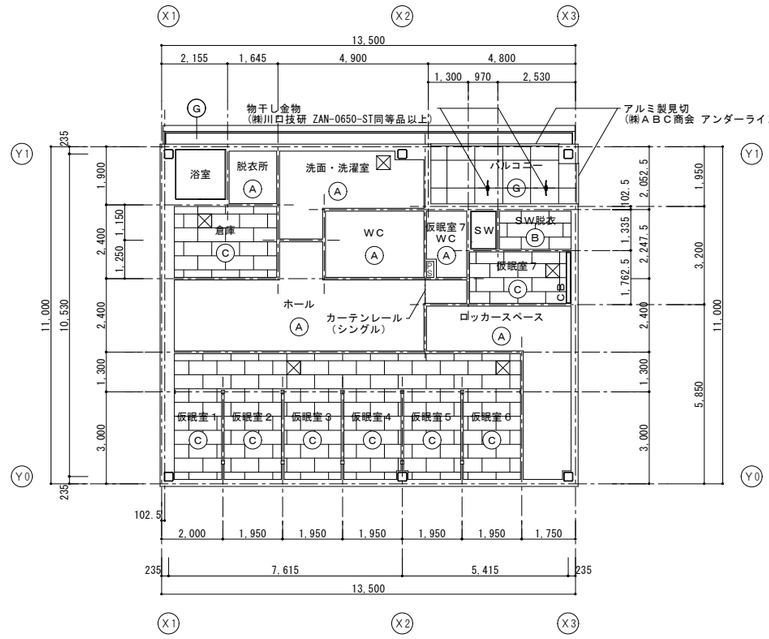
屋根伏図　　S=1/100

(A3=A1縮小50%)

工事名 津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査	図面番号	A
図面名 屋根伏図 S=1/100					15
一級建築士事務所 県知事登録第１２１５３号 (有) 芦田設計	一級建築士 登録第 ９９０５３ 号 芦田圀廣				



1階天井伏図　　S=1/100



2階天井伏図　　S=1/100

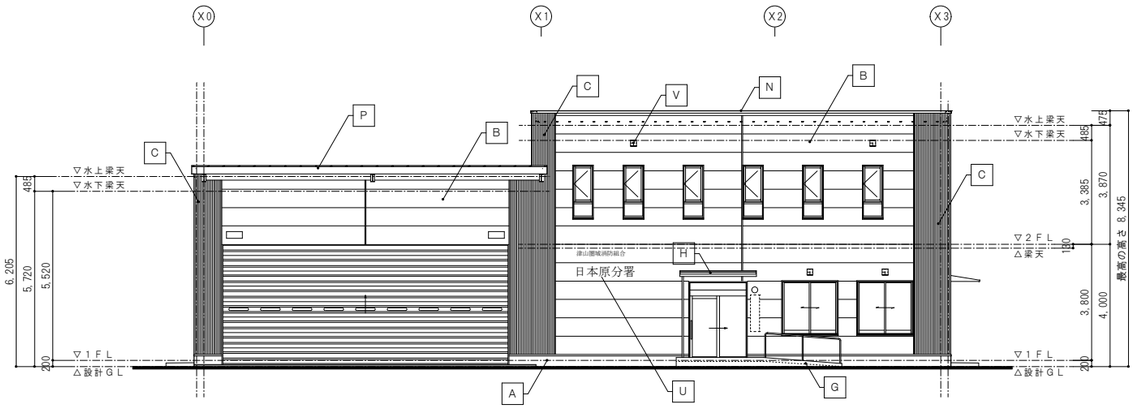
記　号	仕　上
Ⓐ	ビニルクロス貼　GB-S9.5　LGS19 廻縁：塩ビ(突付)
Ⓑ	ビニルクロス貼(不燃)　GB-R12.5　LGS19 廻縁：塩ビ(突付)
Ⓒ	化粧石こうボード(GB-D)(T)t9.5張　LGS19 廻縁：塩ビ(突付)
Ⓓ	ＥＰ塗(素地ごしらえ(Ｂ種))　0.8FK6.0底目　LGS19 廻縁：塩ビ(突付)
Ⓔ	階段下表し　サビ止のまま
Ⓕ	折板裏表し 外部鉄部見え掛かり：ＤＰ塗(Ａ種)　錆止め塗(Ａ種)　素地ごしらえ(Ｃ種)
Ⓖ	ＥＰ塗(素地ごしらえ(Ｂ種))　0.8FK8.0底目　LGS25
Ⓗ	アルミ庇 D=1,500 L=2,500 (㈱共和 AF95ステンカラー同等品以上)
Ⓘ	アルミ庇 D=950 L=4,000 (㈱共和 AF95ステンカラー同等品以上)
⊠	天井点検口450角　目地タイプ：14ヶ所
ＣＢ	カーテンボックス：アルミ製 W120×H80 (三洋工業㈱ サンアルビCB-120同等品以上)

(A3=A1縮小50%)

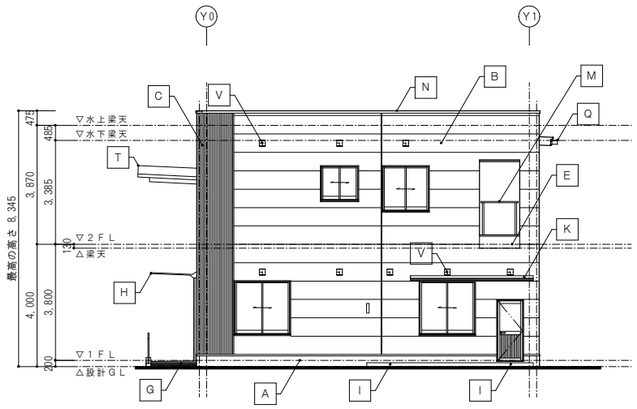
工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事		計	設	審
図面名	1階天井伏図・2階天井伏図　S=1/100		画	計	査
一級建築士事務所 (有) 芦田設計	県知事登録第12153号	一級建築士 登録第 99053 号 芦田圀廣			

図面番号 A-16

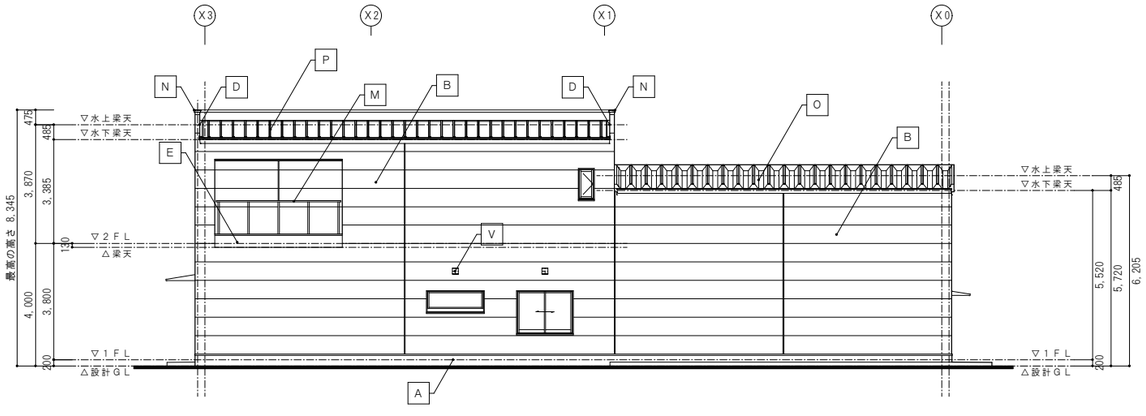
記号	適用箇所	仕上内容	記号	適用箇所	仕上内容	記号	適用箇所	仕上内容
A	外壁基礎立上り	複層塗材E(透湿性)　セメント系下地調整塗材(CM-2) コンクリート打放し(A種)補修下地	J	事務室勝手口庇	アルミ庇 D=950 L=2,000(㈱共和 AF95ステンカラー同等以上)	S	ホースリフター	電動式ホースリフター(ホース収納5本×2×2列 計20本掛け)(流通産業㈱　FHD200型(分割昇降式)同等以上) ホースリフター取付用鉄骨(中間支持部鉄骨含む)全て溶融亜鉛メッキ処理(2種 HDZ55) 基礎耐圧版スラブt350金網押え(24N-15-20、D13@200タテヨコ共ダブル、出隅面取(面20))
B	外壁（一般部）	金属サンドイッチパネルt35(アイジー工業㈱ 断熱ヴァンドNZ35同等以上)横張 鉄骨胴縁(C-100×50×20×2.3)下地 水切りカラーＧＬ鋼板t0.5	K	食堂勝手口庇	アルミ庇 D=950 L=4,000(㈱共和 AF95ステンカラー同等以上)	T	竣工銘板	乳白色アクリル板t3.0 W110×H150(彫込文字着色、両面テープ及び接着剤併用取付) 化粧カバー透明アクリル板t3.0 W110×H150(糸面取、ＳＵＳ化粧ビス留め)
C	外壁（色付部）	金属サイディングt16(ケイミュー㈱ シンプルシリーズ16スマートスパン柄(寒冷地用)同等以上)縦張 桧横胴縁45×18@600　鉄骨胴縁(C-100×50×20×2.3)下地 水切りカラーＧＬ鋼板t0.5	L	車庫勝手口庇	アルミ庇 D=600 L=1,000(㈱共和 AF95ステンカラー同等以上)	U	館名文字	カラーステンレス製 t20(200×200(8文字)、400×400(5文字)) ＳＵＳ脚接着剤及び両面テープ取付
D	外壁（立上りパラペット裏部）	カラーＧＬ鋼板角波サイディングt0.4(㈱淀川製鋼所 ヨドスパン1F型目地なし同等以上)縦張 透湿防水シート貼(外壁用JIS A 6111) 鉄骨胴縁(C-100×50×20×2.3)下地	M	バルコニー手摺	アルミ製　段笠木手摺　立格子　H=1,100　L=5,600((株)LIXIL　ベランダ手すりⅡ　一段笠木同等以上) 立上りコンクリート打放しの上塗膜防水(X-2)防滑トップコート仕上げ(アイレジン㈱ アクアコートS-11同等以上)	V	小屋裏換気ベンドキャップ	ステンレス製屋外換気口スリムタイプ150φ用(㈱ナスタ KS-8620SHD-MLG同等以上)　18.0箇所
E	バルコニー立上り外壁	複層塗材ＲＥ　セメント系下地調整塗材(CM-2) コンクリート打放し(A種)補修下地 サイディング取合いシーリング20*10(MS-2)	N	外壁立上り笠木	カラーアルミ製笠木 W200(㈱ＡＢＣ商会 RD-Aタイプ(カラー)同等以上)			
F	玄関ポーチ	磁器質タイル150角(屋外床用耐凍害品)、段鼻：段鼻タイル(色分け) タイル下モルタル下地	O	庁舎屋根	カラーＧＬ鋼板 t0.5縦葺き(㈱淀川製鋼所 ヨドルーフ瓦棒400同等以上)　水切りカラーＧＬ鋼板t0.5 裏貼ポリエチレンフォームt4.0(屋外屋根裏表し部のベフ貼りは不要)　ゴムアス防水シートt1.0　野地板木毛セメント板t25 野地板木毛セメント板t25			
G	スロープ	磁器質タイル150角(屋外床用耐凍害品)　※明度差確保 タイル下モルタル下地 ステンレス製手すりH750((ナカエ産㈱ スリム目地タイプO-40Gsl、支柱42.7φ×t1.5同等以上))	P	車庫屋根	カラーＧＬ鋼板t0.8折半(H=166)葺き(㈱淀川製鋼所 ヨドルーフ166ハゼ同等以上)　水切りカラーＧＬ鋼板t0.5 裏貼不燃ベフt4.0(屋外屋根裏表し部のベフ貼りは不要)			
H	玄関ポーチ庇	アルミ庇 D=1,500 L=2,500(㈱共和 AD-Rステンカラー同等以上) 竪樋45角ステンカラーセット(排水管カバー共)	Q	軒樋	カラー塩ビ製スチール芯入大型雨樋 前高W165(パナソニック㈱ 大型雨といエアロアイアン前高165WIDE同等以上) ステンレス製吊り金具@600			
I	勝手口土間	コンクリート金鏝押え　段鼻部水切り目地切　側面打放し補修 各出隅面取(面20)	R	竪樋	カラーＶＵ100φ ステンレス製掴み金物@1,200		その他（共通事項）	外部鉄部見え掛かり全てＤＰ塗(Ａ種)　錆止め塗(Ａ種)　素地ごしらえ(Ｃ種) 鉄部見え隠れ全て錆止め塗(Ａ種)　素地ごしらえ(Ｃ種)



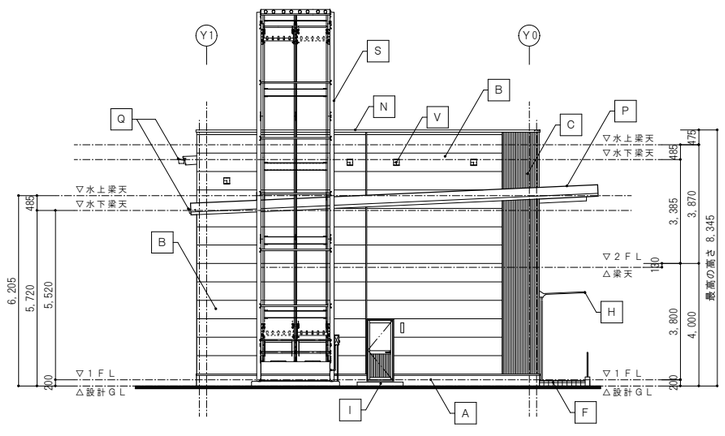
南側立面図　S=1/100



東側立面図　S=1/100



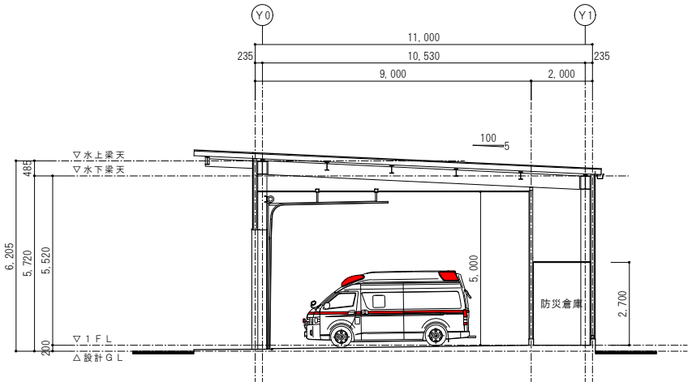
北側立面図　S=1/100



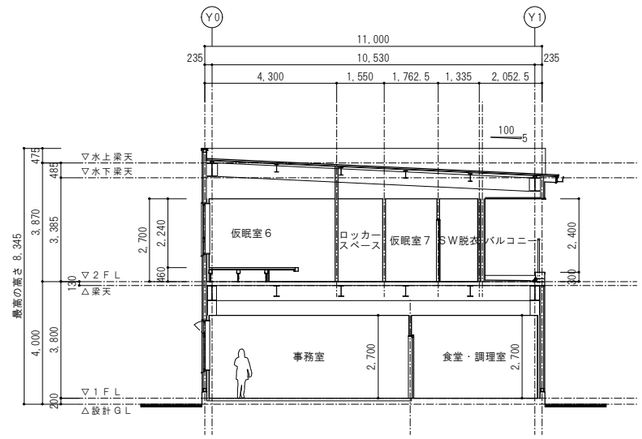
西側立面図　S=1/100

（A3=A1縮小50%）

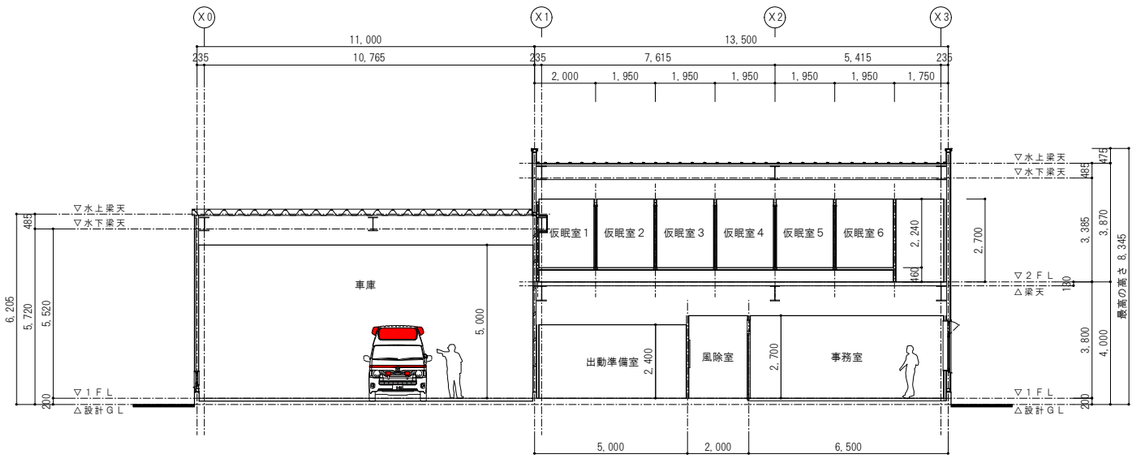
工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査	図面番号 A / 17
図面名	立面図　S=1/100				
一級建築士事務所 (有)戸田設計	県知事登録第１２１５３号	一級建築士	登録第９９０５３号	戸田國廣	



車庫部Y軸断面図　S=1/100



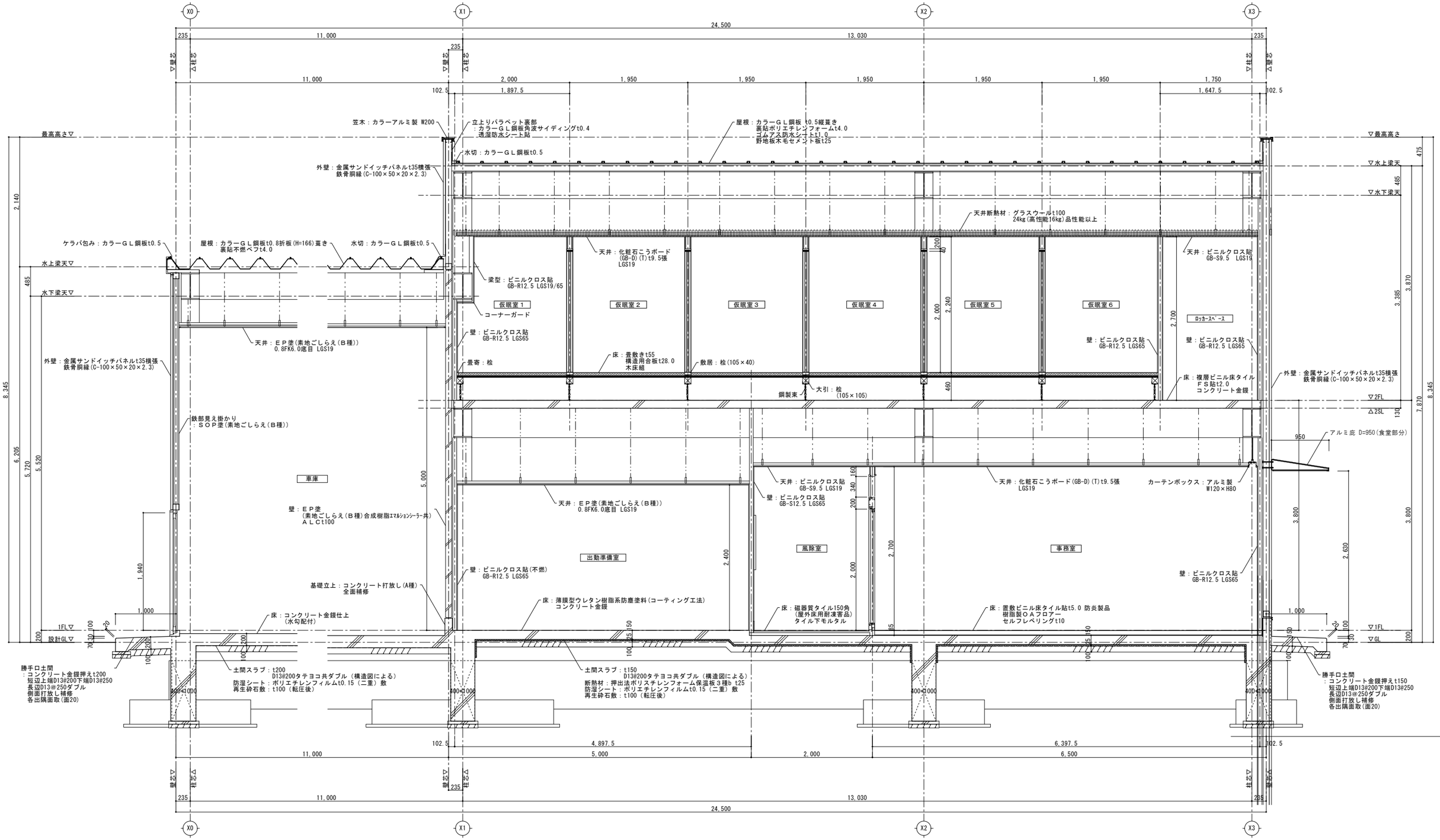
庁舎部Y軸断面図　S=1/100



X軸断面図　S=1/100

(A3=A1縮小50%)

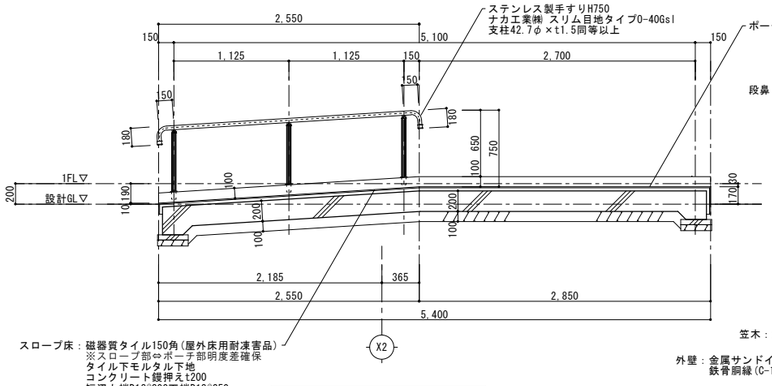
工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査	図面番号 A-18
図面名	断面図　S=1/100				
一級建築士事務所	県知事登録第１２１５３号 （有）戸田設計	一級建築士	登録第 ９９０５３ 号	戸田圀廣	



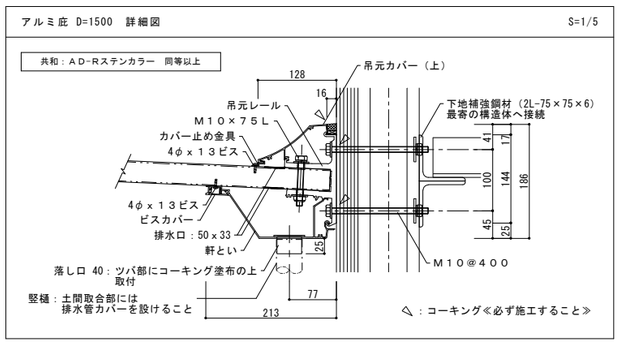
(A3=A1縮小50%)

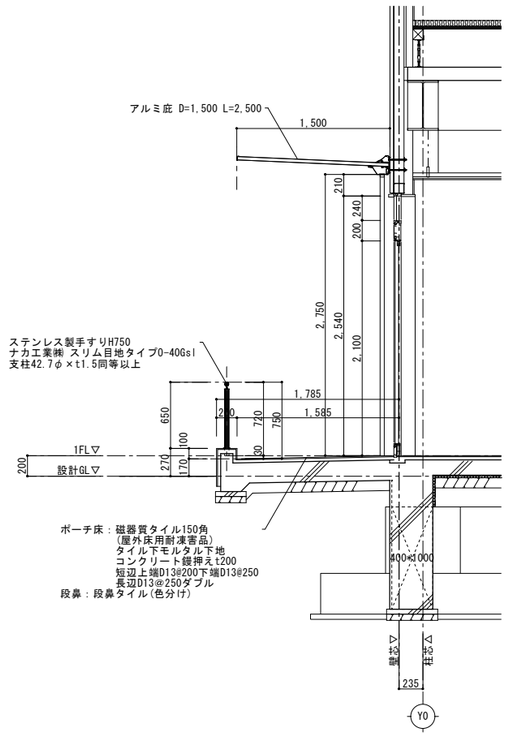
工事名 津山圏域消防組合日本原分署新築工事		計画	設計	審査
図面名 断面詳細図1	S=1/30			
一級建築士事務所 県知事登録第１２１５３号 （有） 芦 田 設 計		一級建築士 登録第 ９９０５３ 号 芦田圏廣		

図面番号 A 19

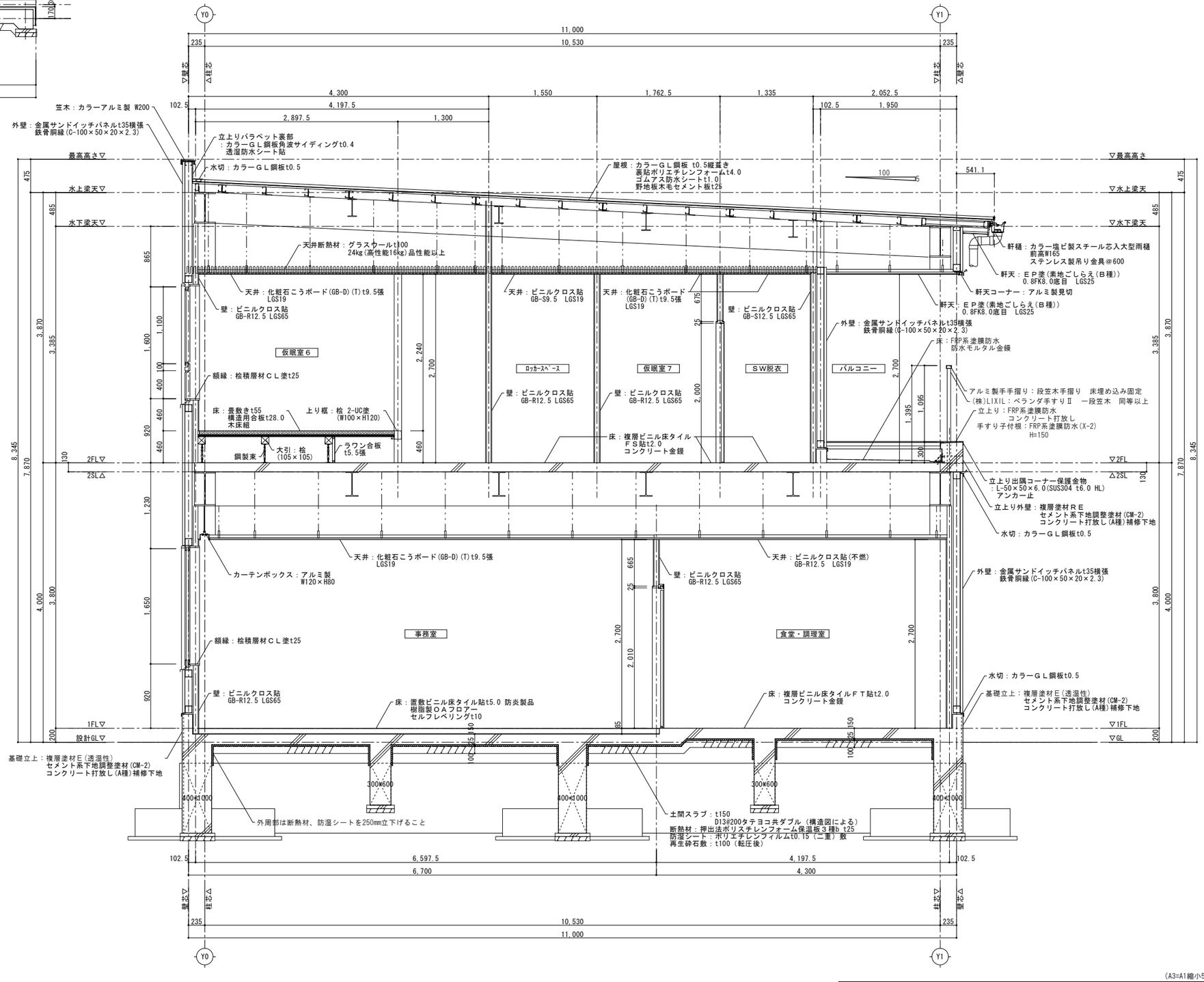


スロープ断面詳細図（水下） S=1/30



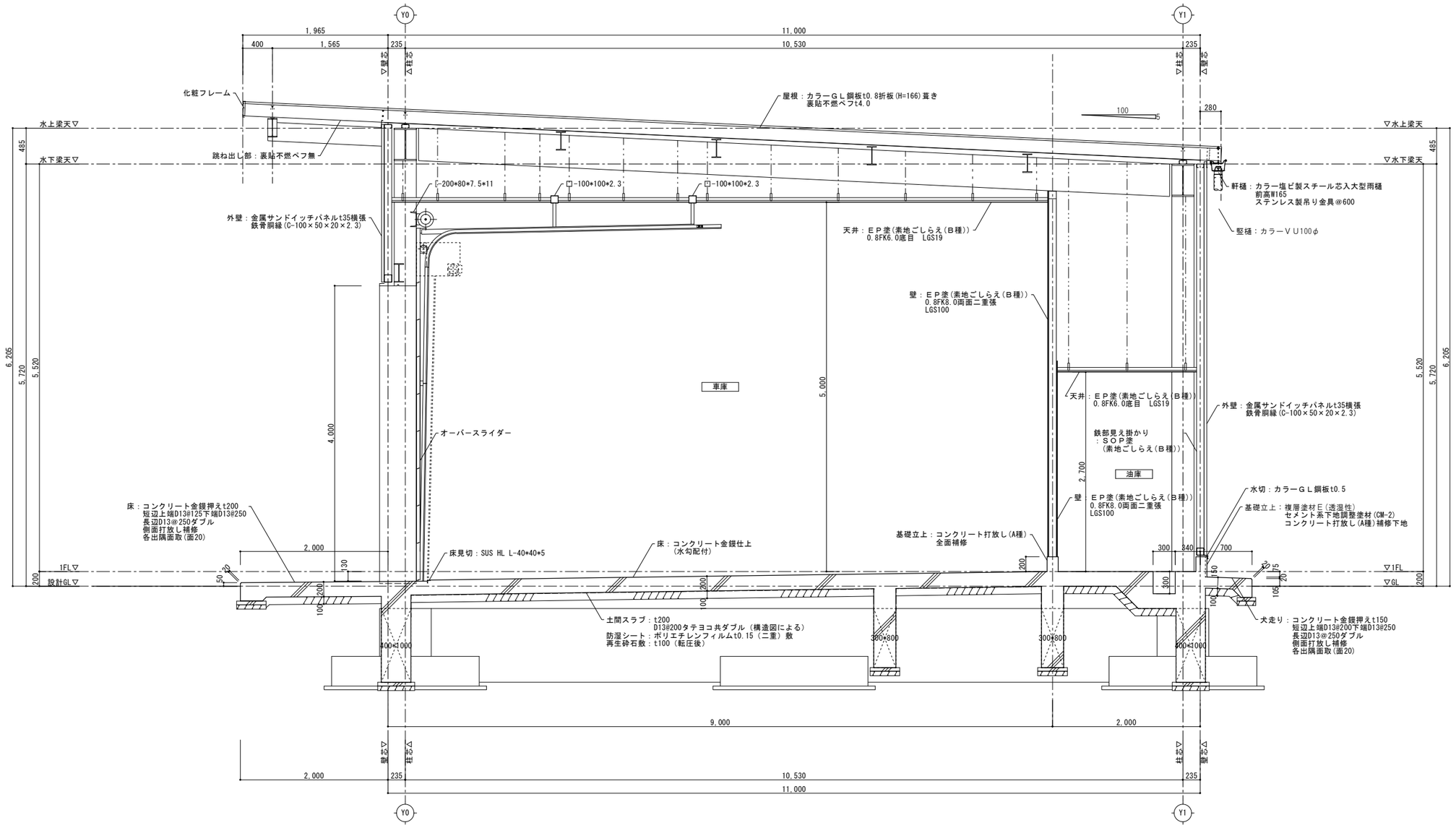


ポーチ断面詳細図 S=1/30



(A3=A1縮小50%)

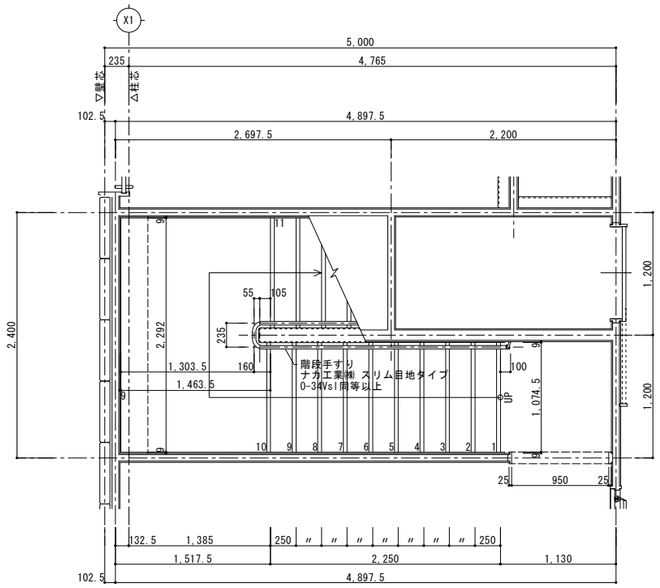
工事名 津山圏域消防組合日本原分署新築工事		計画	設計	審査	図面番号 A／20
図面名 断面詳細図２ S=1/30					
一級建築士事務所 県知事登録第１２１５３号 （有） 戸 田 設 計	一級建築士 登録第 ９９０５３ 号 戸田圀廣				



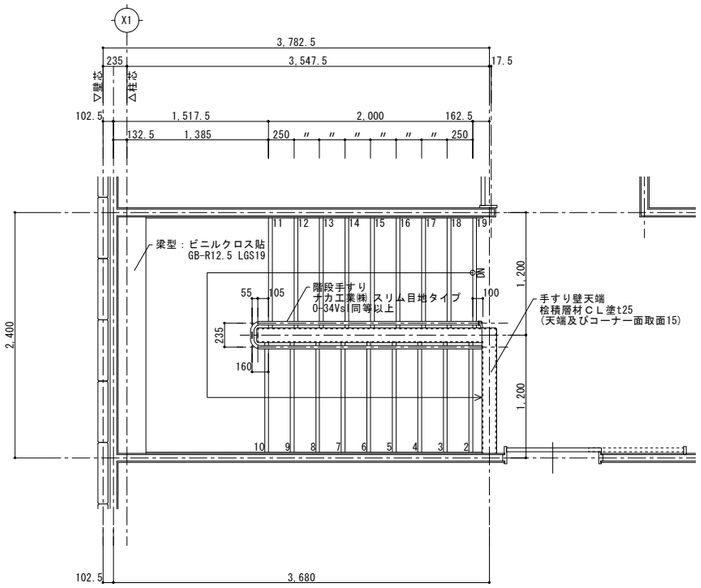
(A3=A1縮小50%)

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事		計	設	審
図面名	断面詳細図３ S=1/30		画	計	査
一級建築士事務所 (有) 芦田設計	県知事登録第１２１５３号	一級建築士 登録第 ９９０５３ 号 芦田圀廣			

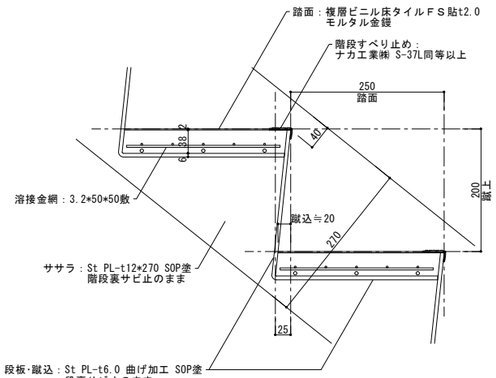
図面番号 A 21



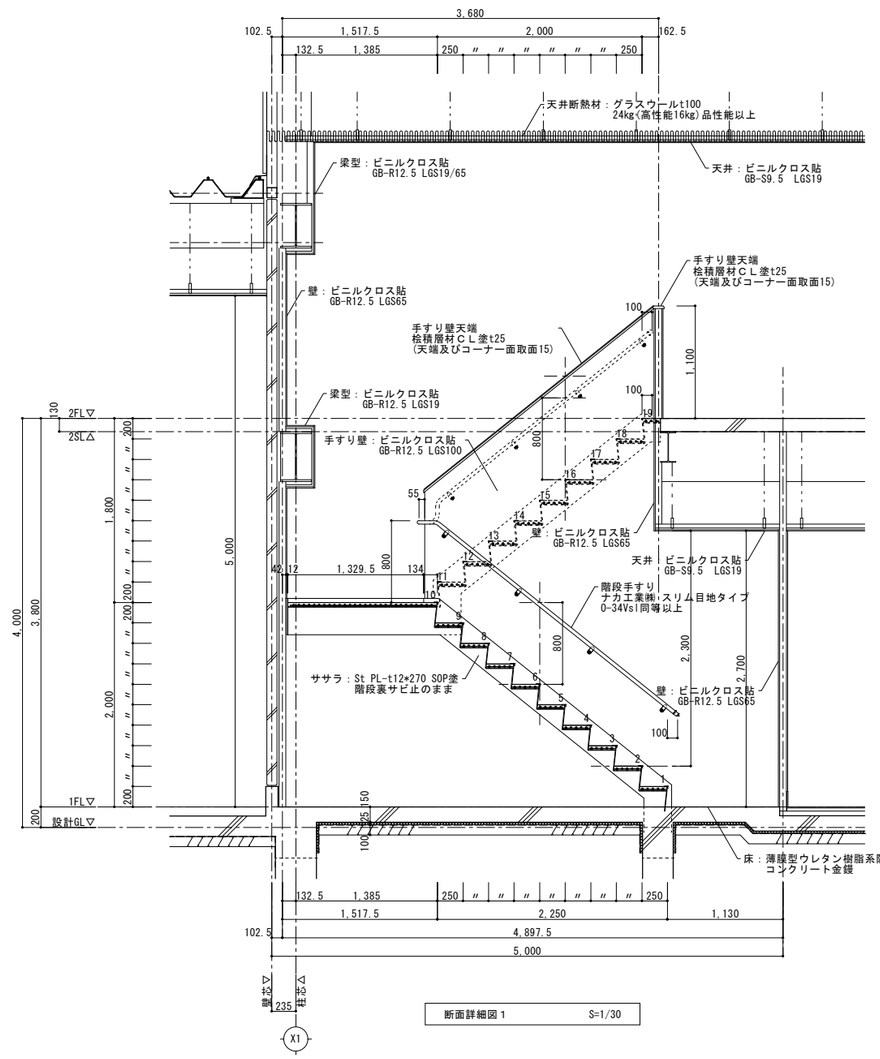
１階平面詳細図　　S=1/30



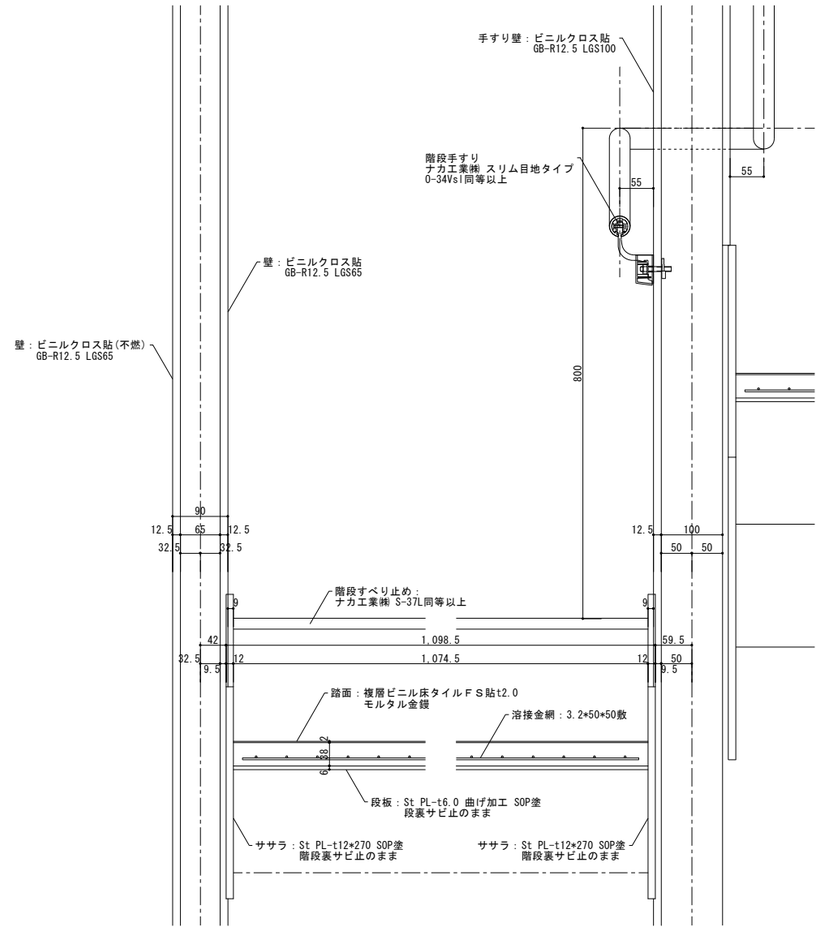
２階平面詳細図　　S=1/30



部分詳細図１　　S=1/5



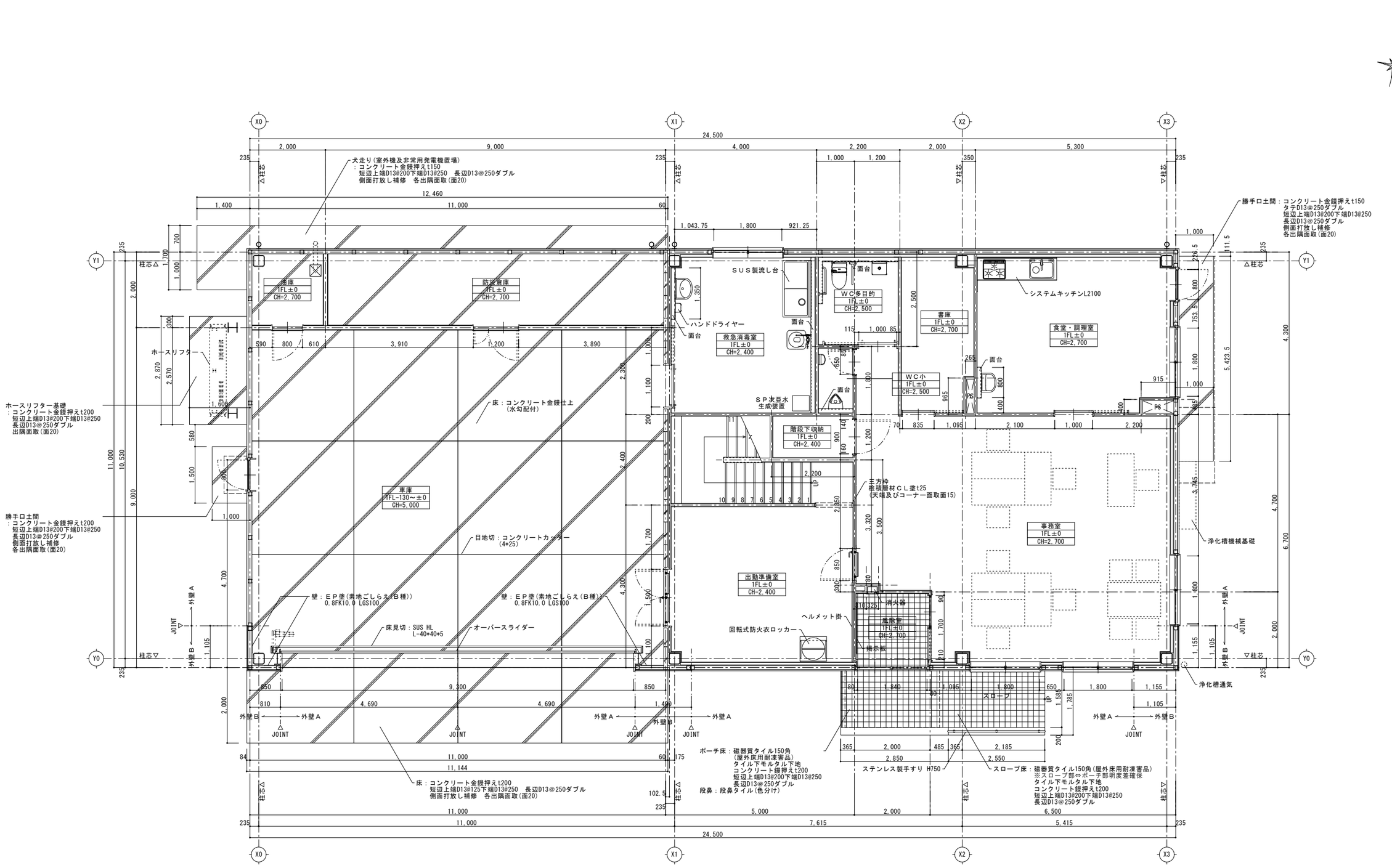
断面詳細図１　　S=1/30



部分詳細図２　　S=1/5

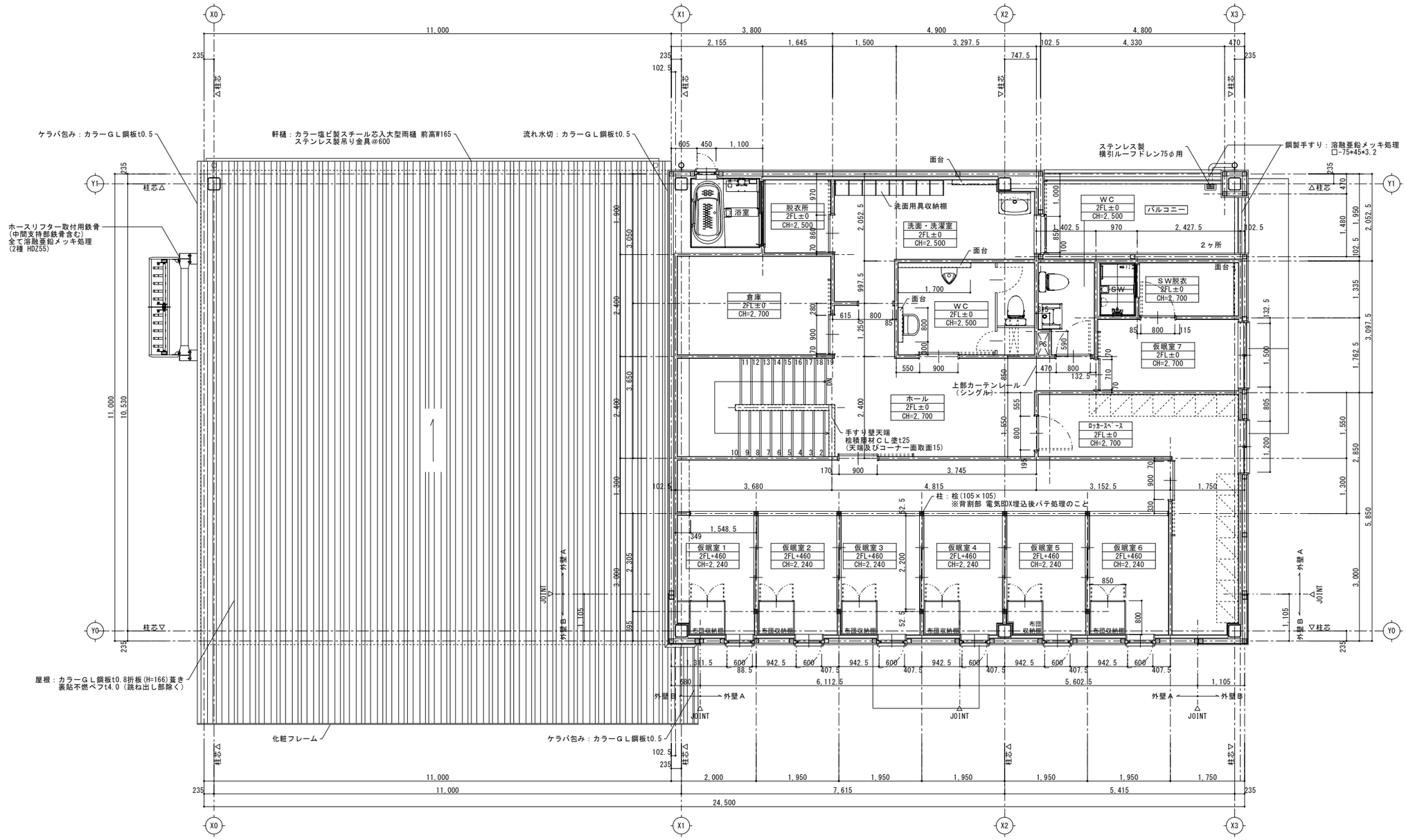
(A3=A1縮小50%)

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計	設	審	図面番号 A 22
図面名	階段詳細図　S=1/5, 1/30	画	計	査	
一級建築士事務所 県知事登録第１２１５３号 （有） 芦 田 設 計		一級建築士 登録第 ９９０５３ 号 芦田圀廣			



(A3=A1縮小50%)

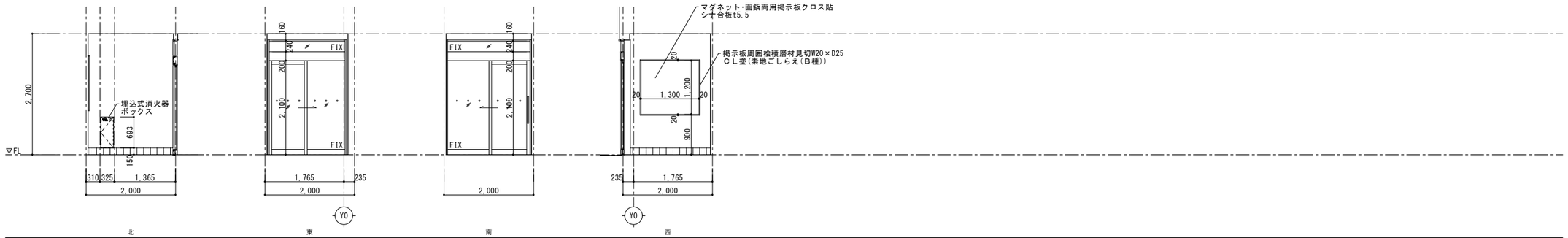
工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計	設	審	図面番号 A
図面名	1階平面詳細図　S=1/50	画	計	査	23
一級建築士事務所	県知事登録第１２１５３号 (有)　芦　田　設　計	一級建築士	登録第	９９０５３ 号	芦田圏廣



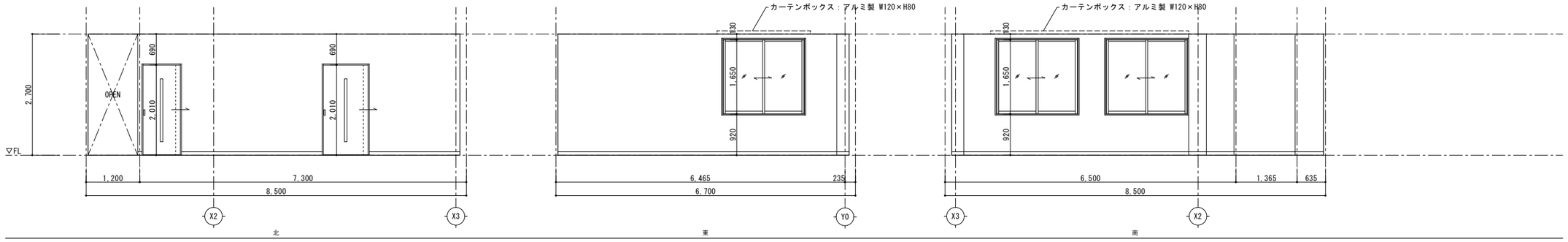
(A3=A1縮小50%)

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査	図面番号 A / 24
図面名	2階平面詳細図 S=1/50				
一級建築士事務所 (有) 芦田設計	県知事登録第１２１５３号	一級建築士	登録第 ９９０５３ 号	芦田圀廣	

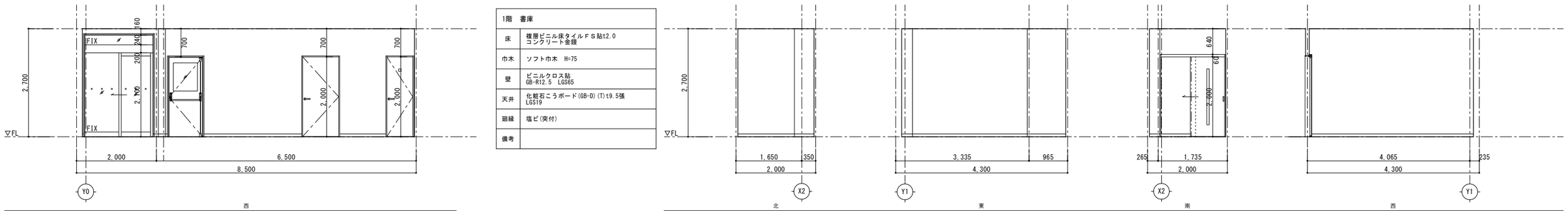
1階　風除室	
床	磁器質タイル150角(屋外床用耐凍害品) タイル下モルタル
巾木	磁器質タイル150角　H=150
壁	ビニルクロス貼　GB-S12.5　LGS65 マグネット・画鋲両用掲示板クロス貼H1,200 シナ合板t5.5
天井	ビニルクロス貼 GB-S9.5　LGS19
廻縁	塩ビ(突付)
備考	



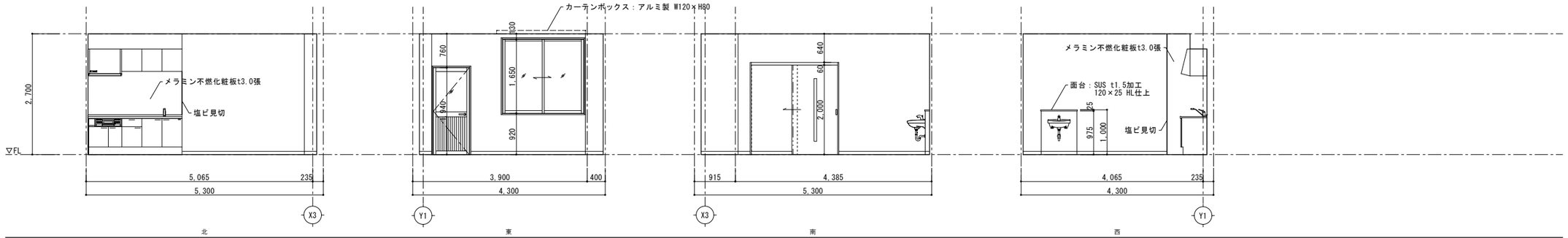
1階　事務室	
床	置敷ビニル床タイル貼t5.0　防炎製品 樹脂製ＯＡフロアー セルフレベリングt10
巾木	ソフト巾木　H=75
壁	ビニルクロス貼 GB-R12.5　LGS65
天井	化粧石こうボード(GB-D)(T)t9.5張 LGS19
廻縁	塩ビ(突付)
備考	カーテンボックス：アルミ製 W120×H80 スクリーン吊フック：3ヶ所



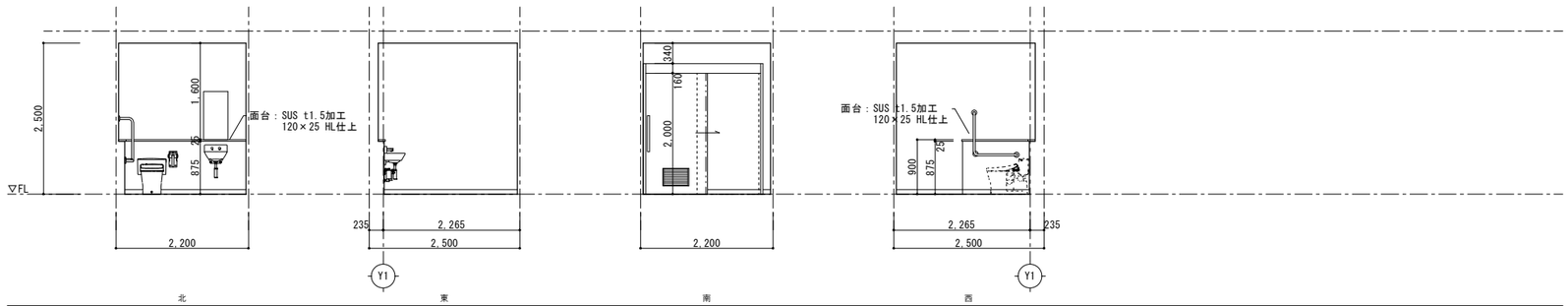
1階　書庫	
床	複層ビニル床タイルＦＳ貼t2.0 コンクリート金鏝
巾木	ソフト巾木　H=75
壁	ビニルクロス貼 GB-R12.5　LGS65
天井	化粧石こうボード(GB-D)(T)t9.5張 LGS19
廻縁	塩ビ(突付)
備考	



1階　食堂・調理室	
床	複層ビニル床タイルＦＴ貼t2.0 コンクリート金鏝
巾木	ソフト巾木　H=75
壁	ビニルクロス貼(不燃)　GB-R12.5　LGS65 メラミン不燃化粧板t3.0張 (エンド部塩ビ見切)GB-S12.5　LGS65
天井	ビニルクロス貼(不燃) GB-R12.5　LGS19
廻縁	塩ビ(突付)
備考	カーテンボックス：アルミ製 W120×H80



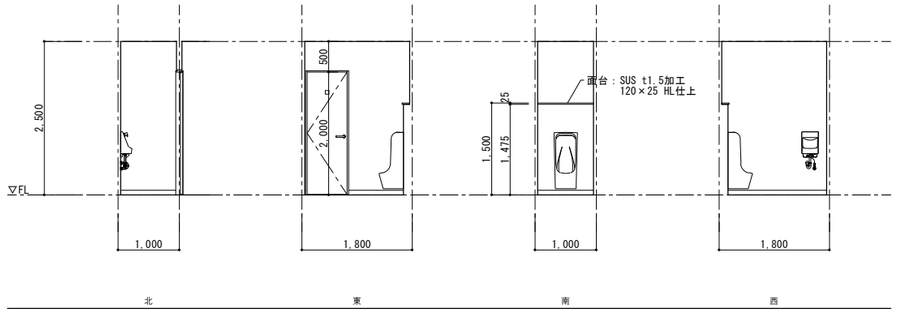
1階　ＷＣ多目的	
床	複層ビニル床タイルＦＳ貼t2.0 コンクリート金鏝
巾木	ソフト巾木　H=75
壁	化粧ケイカル板t6.0張 GB-S12.5　LGS65
天井	ビニルクロス貼 GB-S9.5　LGS19
廻縁	塩ビ(突付)
備考	



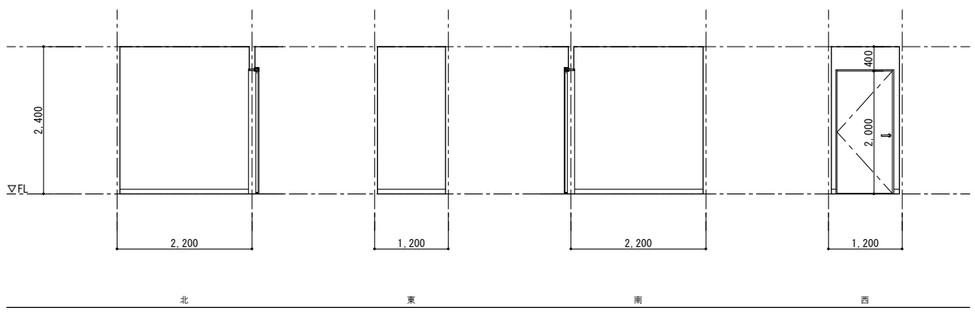
(A3=A1縮小50%)

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査	図面番号
図面名	展開図1　S=1/50				A
一級建築士事務所　県知事登録第１２１５３号 （有）　芦　田　設　計		一級建築士　登録第　９９０５３　号　芦田圀廣			25

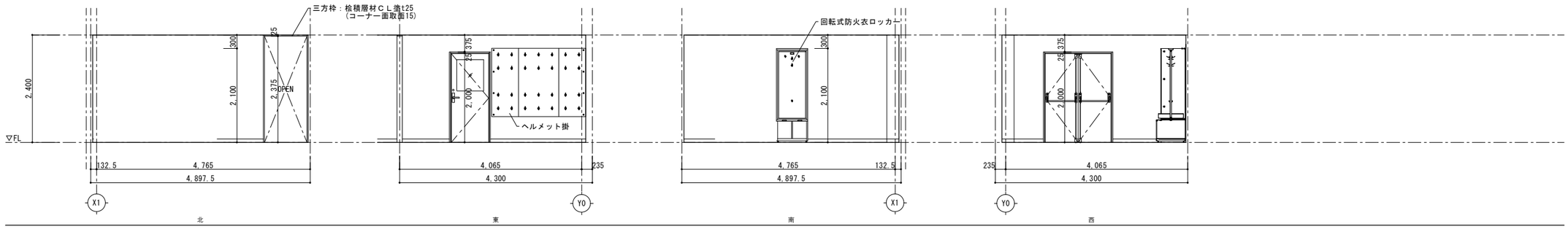
1階　WC小	
床	複層ビニル床タイルＦＳ貼t2.0 コンクリート金鏝
巾木	ソフト巾木　H=75
壁	化粧ケイカル板t6.0張 GB-S12.5　LGS65
天井	ビニルクロス貼 GB-S9.5　LGS19
廻縁	塩ビ(突付)
備考	



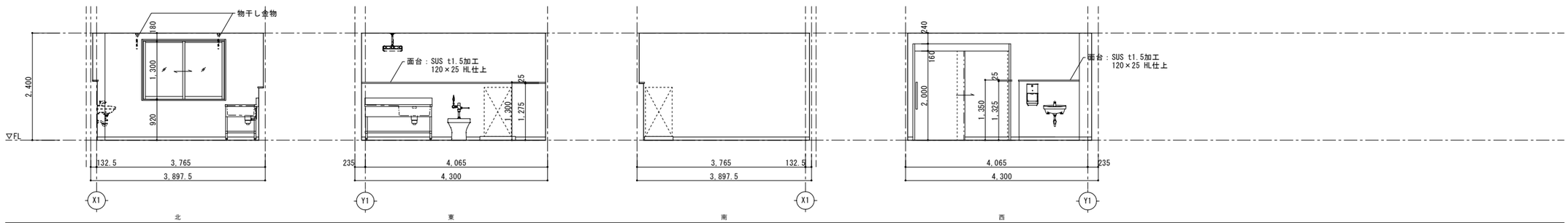
1階　階段下収納	
床	複層ビニル床タイルＦＳ貼t2.0 コンクリート金鏝
巾木	ソフト巾木　H=75
壁	GB-R12.5表し　LGS65
天井	化粧石こうボード(GB-D)(T)t9.5張 LGS19
廻縁	塩ビ(突付)
備考	



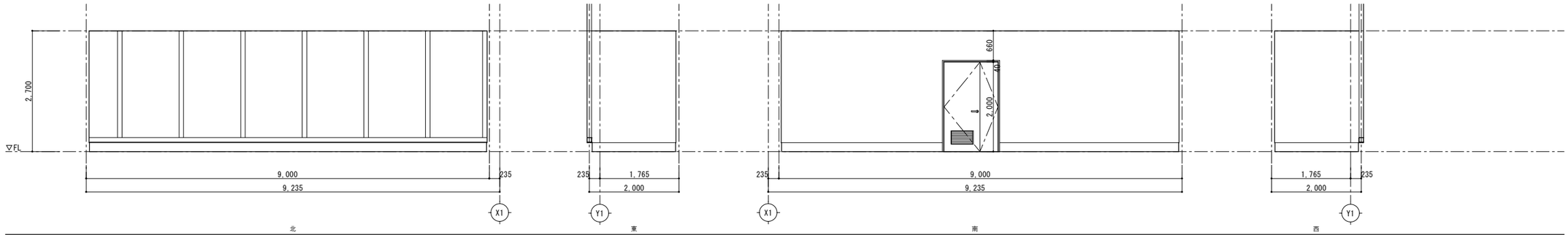
1階　出動準備室	
床	薄膜型ウレタン樹脂系防塵塗料 (コーティングエ法) コンクリート金鏝
巾木	ソフト巾木　H=75
壁	ビニルクロス貼(不燃) GB-R12.5　LGS65
天井	ＥＰ塗(素地ごしらえ(Ｂ種)) 0.8FK6.0底目　LGS19
廻縁	塩ビ(突付)
備考	



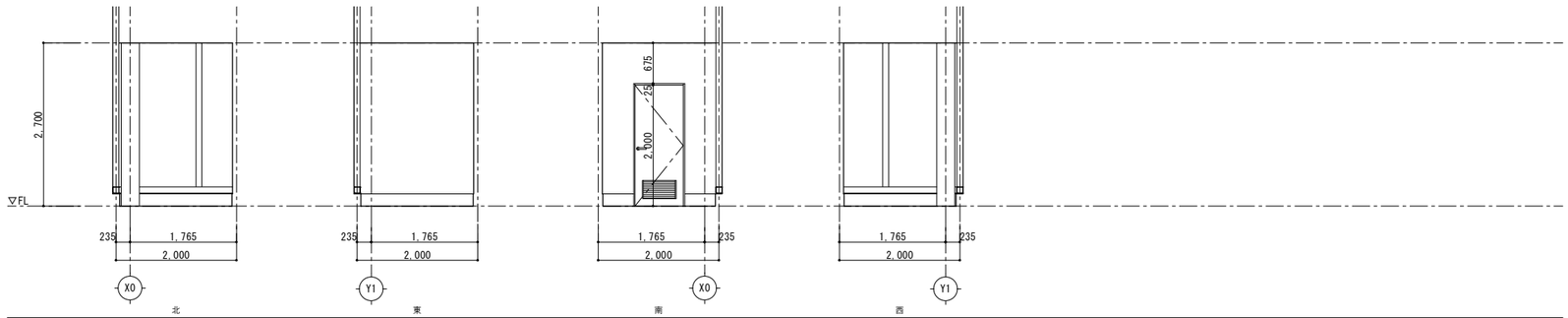
1階　救急消毒室	
床	厚膜型エポキシ樹脂系塗床(防滑工法) コンクリート金鏝
巾木	床仕上げ塗土　H=200
壁	化粧ケイ酸カルシウム板t6.0張 GB-S12.5　LGS65
天井	ＥＰ塗(素地ごしらえ(Ｂ種)) 0.8FK6.0底目　LGS19
廻縁	塩ビ(突付)
備考	物干し金物



1階　防災倉庫	
床	コンクリート金鏝仕上(水勾配付)
巾木	コンクリート打放し(A種) 全面補修　H=200
壁	ＥＰ塗(素地ごしらえ(Ｂ種)) 0.8FK8.0両面二重張　LGS100 ＳＯＰ塗(素地ごしらえ(Ｂ種))鉄部見掛り ＥＰ塗 (素地ごしらえ(Ｂ種)合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝｼｰﾗｰ共) ＡＬＣt100
天井	ＥＰ塗(素地ごしらえ(Ｂ種)) 0.8FK6.0底目　LGS19
廻縁	塩ビ(突付)
備考	



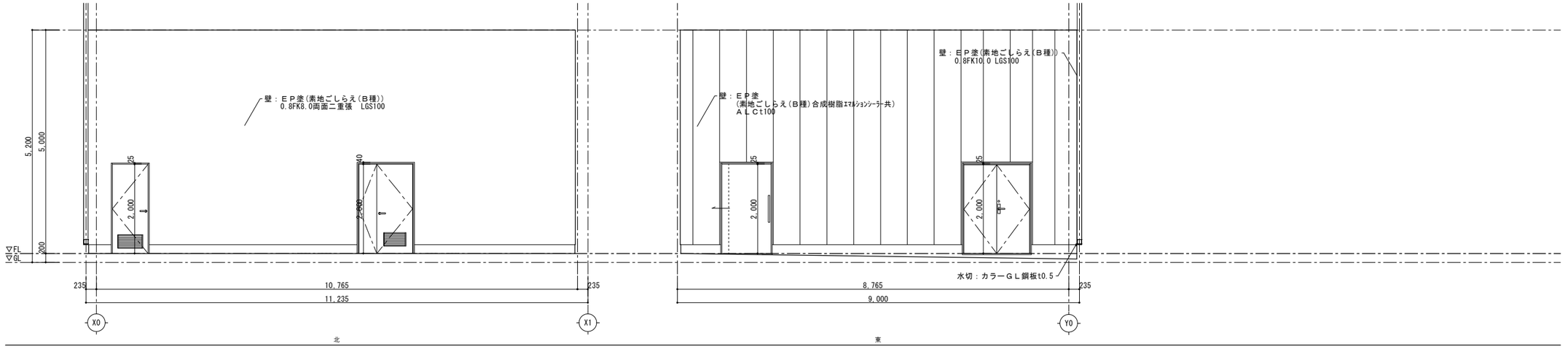
1階　油庫	
床	コンクリート金鏝仕上(水勾配付)
巾木	コンクリート打放し(A種) 全面補修　H=200
壁	ＥＰ塗(素地ごしらえ(Ｂ種)) 0.8FK8.0両面二重張　LGS100 ＳＯＰ塗(素地ごしらえ(Ｂ種))鉄部見掛り
天井	ＥＰ塗(素地ごしらえ(Ｂ種)) 0.8FK6.0底目　LGS19
廻縁	塩ビ(突付)
備考	

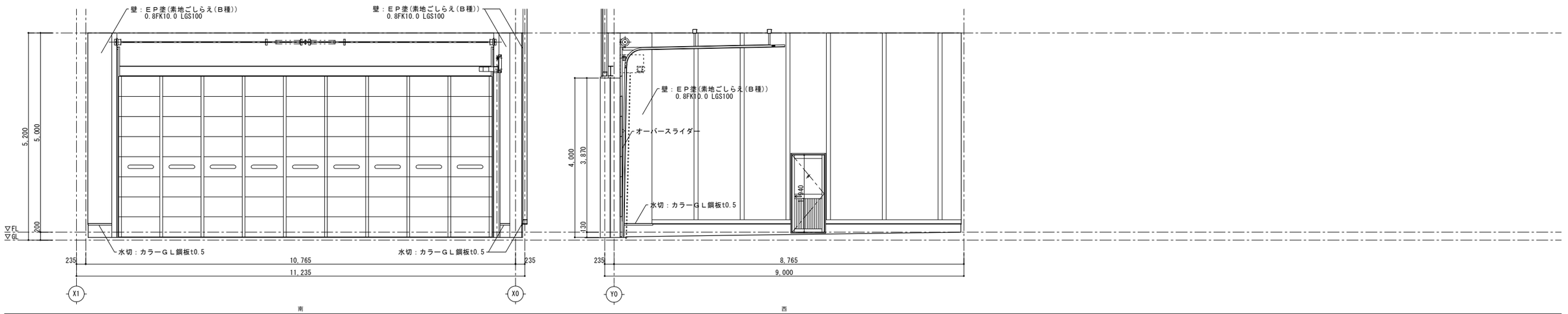


(A3=A1縮小50%)

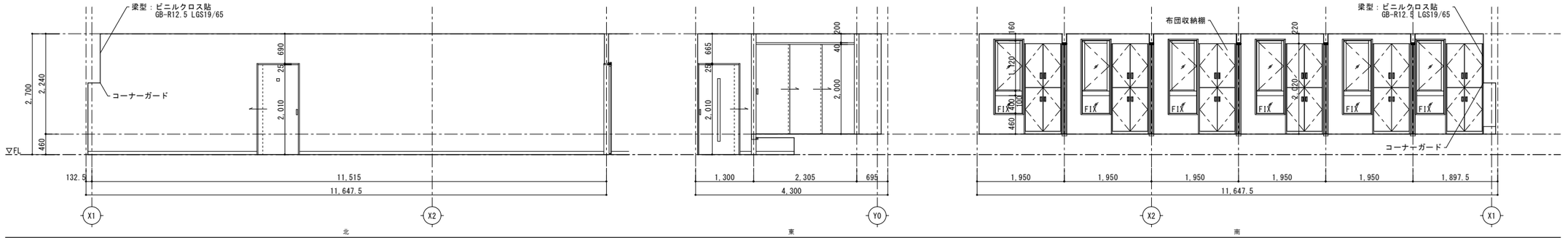
工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査	図面番号
図面名	展開図2　S=1/50				A-26
一級建築士事務所（有）芦田設計	県知事登録第１２１５３号	一級建築士	登録第９９０５３号	芦田圀廣	

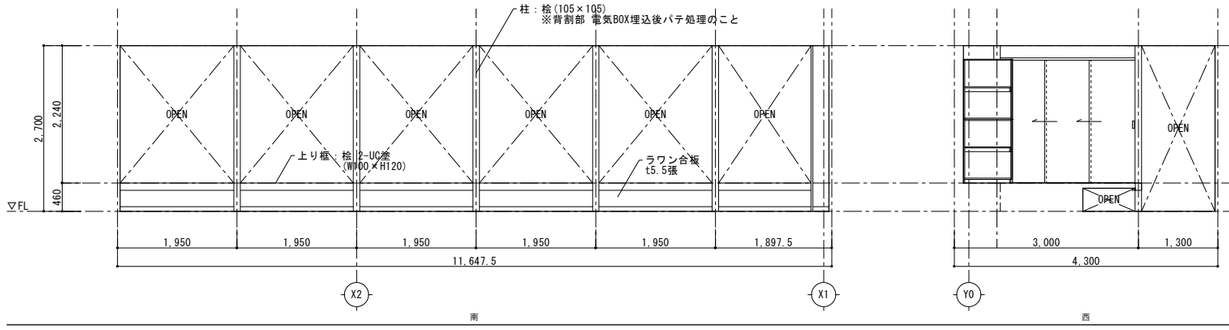
1階　車庫	
床	コンクリート金鏝仕上(水勾配付)
巾木	コンクリート打放し(A種) 全面補修　H=200
壁	ＥＰ塗(素地ごしらえ(Ｂ種)) 0.8FK8.0両面二重張　LGS100 ＥＰ塗(素地ごしらえ(Ｂ種)) 0.8FK10.0 LGS100 ＳＯＰ塗(素地ごしらえ(Ｂ種))鉄部見掛り ＥＰ塗 (素地ごしらえ(Ｂ種)合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝｼｰﾗｰ共) ＡＬＣt100
天井	ＥＰ塗(素地ごしらえ(Ｂ種)) 0.8FK6.0底目　LGS19
廻縁	塩ビ(突付)
備考	





2階　仮眠室１～６	
床	畳敷きt55　構造用合板t28.0 木床組
巾木	檜畳寄せ
壁	ビニルクロス貼 GB-R12.5 LGS65
天井	化粧石こうボード(GB-D)(T)t9.5張 LGS19
廻縁	塩ビ(突付)
備考	梁型：ビニルクロス貼　GB-R12.5 LGS19/65 コーナーガード 柱背割部：電気BOX埋込後パテ処理 (BOX及配線は電気設備工事)

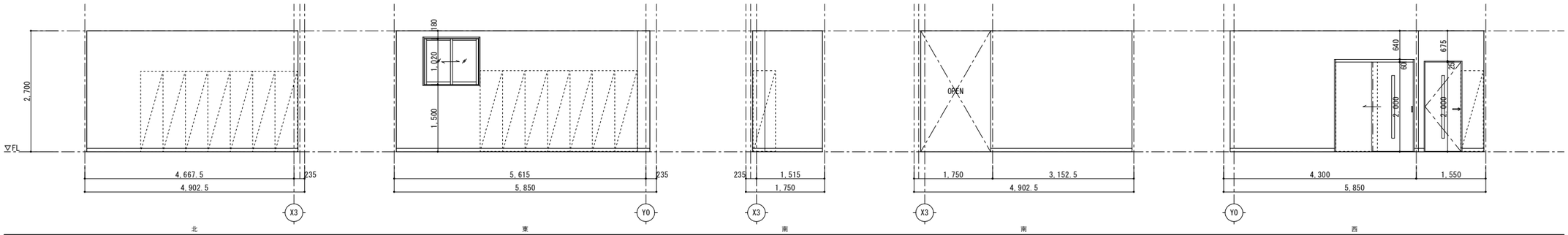




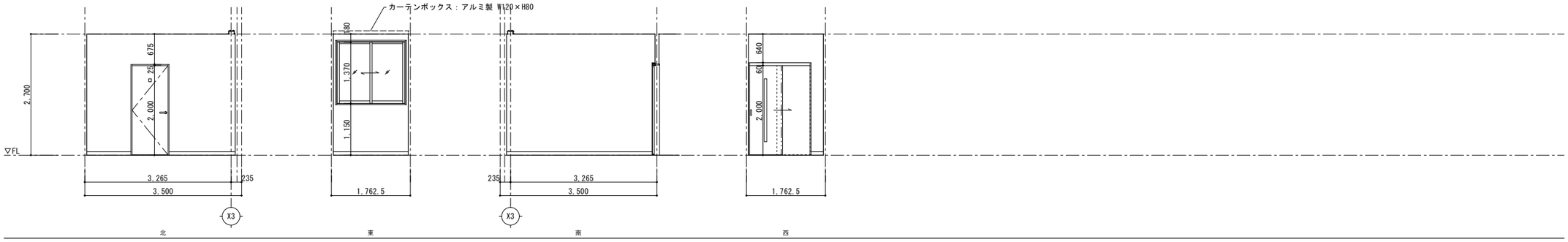
(A3=A1縮小50%)

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査	図面番号
図面名	展開図３　S=1/50				A-27
一級建築士事務所	県知事登録第１２１５３号 （有）　芦　田　設　計	一級建築士	登録第　９９０５３　号	芦田圀廣	

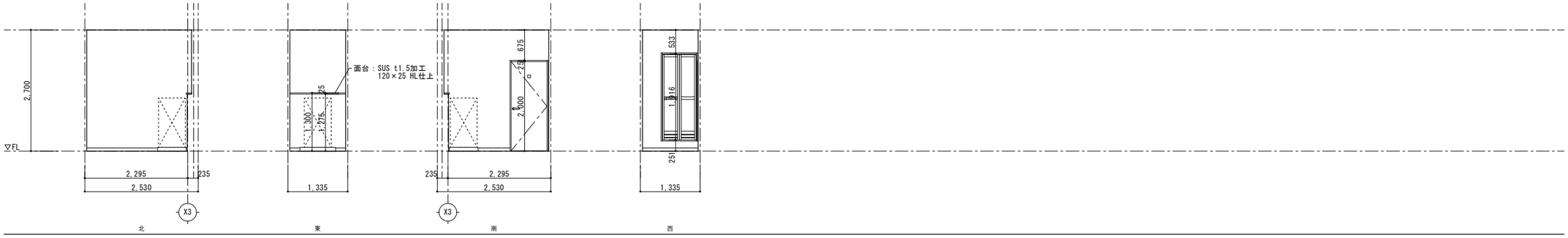
２階　ロッカースペース	
床	複層ビニル床タイルＦＳ貼t2.0 コンクリート金鏝
巾木	ソフト巾木　H=75
壁	ビニルクロス貼 GB-R12.5　LGS65
天井	ビニルクロス貼 GB-S9.5　LGS19
廻縁	塩ビ(突付)
備考	



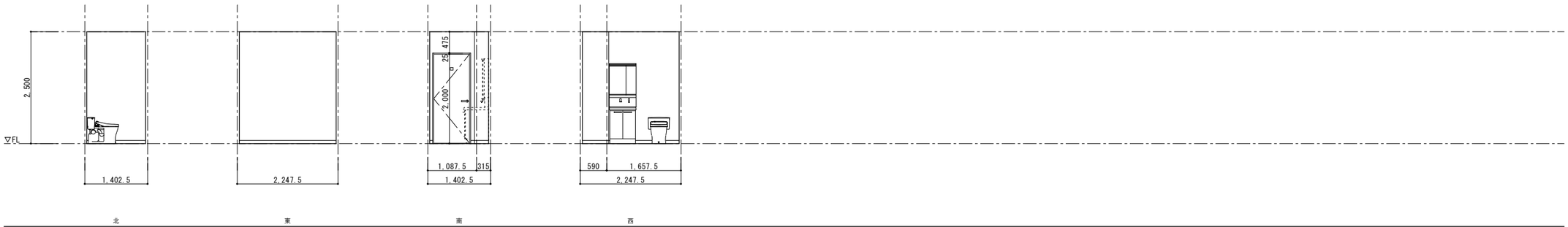
２階　仮眠室７	
床	複層ビニル床タイルＦＳ貼t2.0 コンクリート金鏝
巾木	ソフト巾木　H=75
壁	ビニルクロス貼 GB-R12.5　LGS65
天井	ビニルクロス貼　GB-R12.5　LGS65 一部エアコン取付用　ラワン合板t12 W900×H600 1.0箇所
廻縁	塩ビ(突付)
備考	カーテンボックス：アルミ製 W120×H80



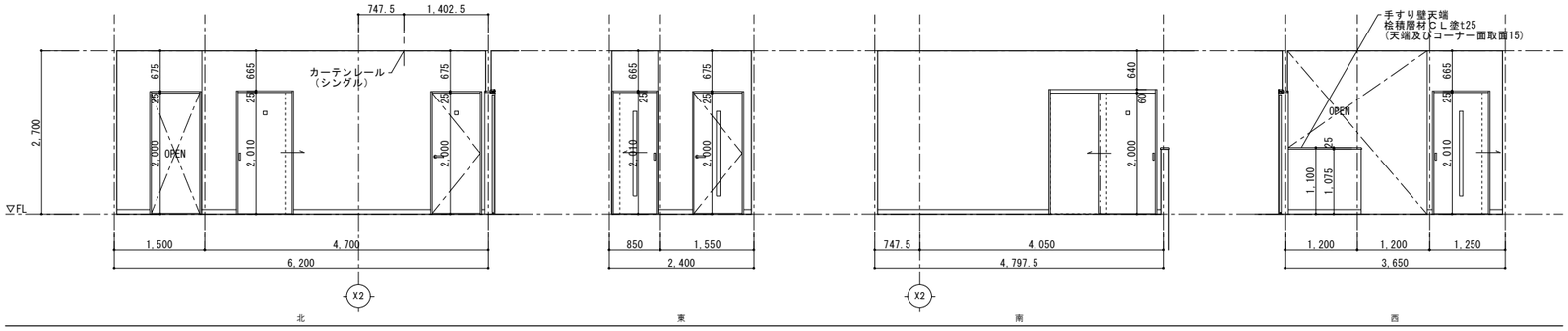
２階　仮眠室７　ＳＷ脱衣	
床	複層ビニル床タイルＦＳ貼t2.0 コンクリート金鏝
巾木	ソフト巾木　H=75
壁	ビニルクロス貼　GB-S12.5　LGS65 化粧ケイカル板t6.0張(ｴﾝﾄﾞ部塩ビ見切) GB-S12.5　LGS65
天井	化粧石こうボード(GB-D)(T)t9.5張 LGS19
廻縁	塩ビ(突付)
備考	



２階　仮眠室７　ＷＣ	
床	複層ビニル床タイルＦＳ貼t2.0 コンクリート金鏝
巾木	ソフト巾木　H=75
壁	化粧ケイカル板t6.0張 GB-S12.5　LGS65
天井	ビニルクロス貼 GB-S9.5　LGS19
廻縁	塩ビ(突付)
備考	



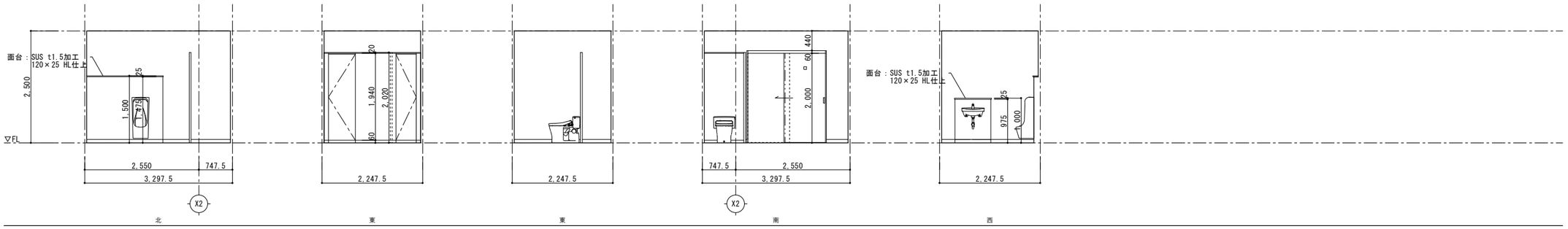
２階　ホール	
床	複層ビニル床タイルＦＳ貼t2.0 コンクリート金鏝
巾木	ソフト巾木　H=75
壁	ビニルクロス貼 GB-R12.5　LGS65
天井	ビニルクロス貼 GB-S9.5　LGS19
廻縁	塩ビ(突付)
備考	カーテンレール(シングル)



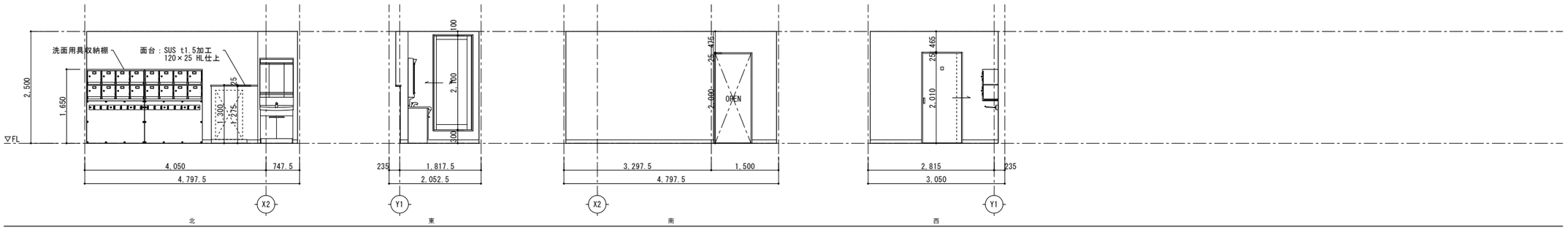
(A3=A1縮小50%)

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査	図面番号
図面名	展開図4　S=1/50				A-28
一級建築士事務所 (有)芦田設計	県知事登録第１２１５３号	一級建築士	登録第９９０５３号	芦田圀廣	

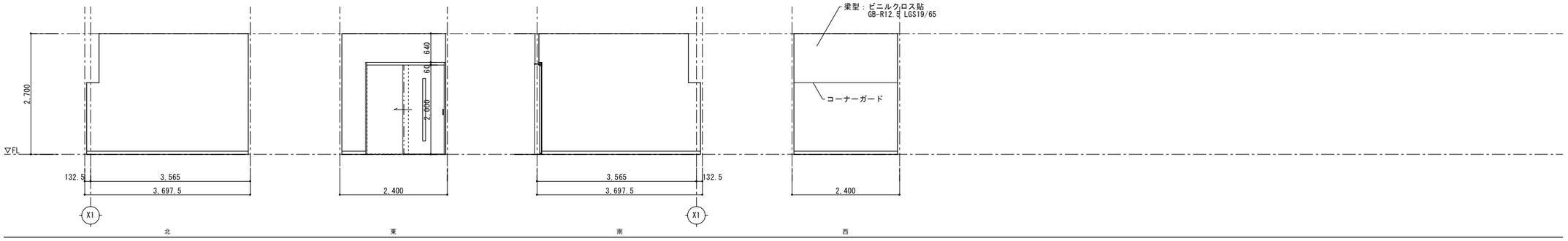
２階　WC	
床	複層ビニル床タイルＦＳ貼t2.0 コンクリート金鏝
巾木	ソフト巾木　H=75
壁	化粧ケイカル板t6.0張 GB-S12.5　LGS65
天井	ビニルクロス貼 GB-S9.5　LGS19
廻縁	塩ビ(突付)
備考	



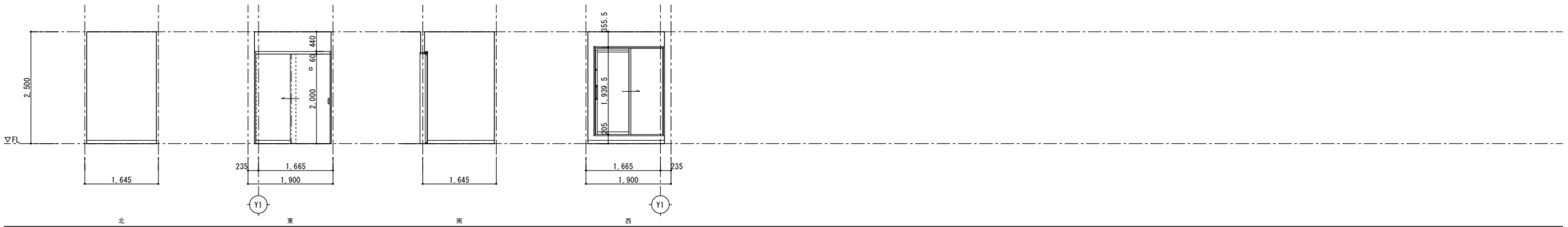
２階　洗面・洗濯室	
床	複層ビニル床タイルＦＳ貼t2.0 コンクリート金鏝
巾木	ソフト巾木　H=75
壁	ビニルクロス貼 GB-S12.5　LGS65
天井	ビニルクロス貼 GB-S9.5　LGS19
廻縁	塩ビ(突付)
備考	



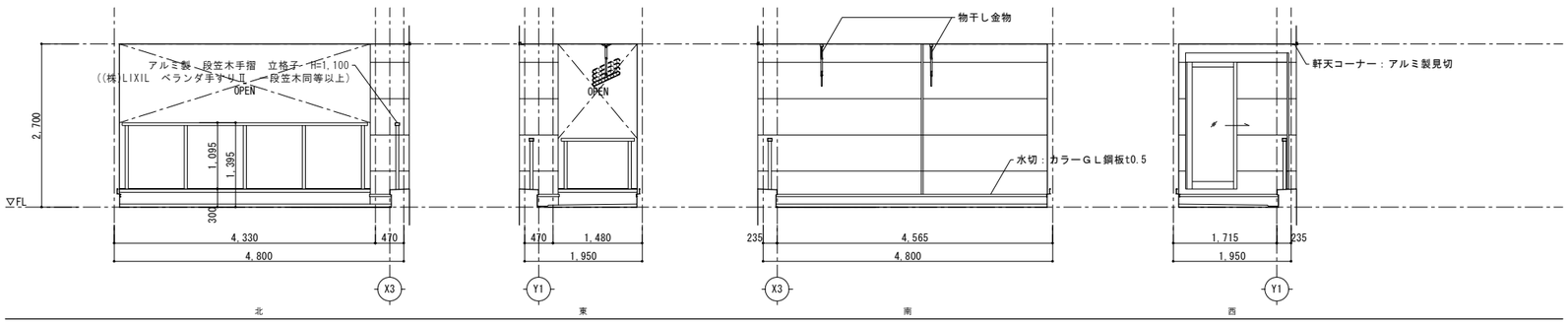
２階　倉庫	
床	複層ビニル床タイルＦＳ貼t2.0 コンクリート金鏝
巾木	ソフト巾木　H=75
壁	ビニクロス貼(不燃)　GB-R12.5　LGS65 一部エアコン取付用　ラワン合板t12 W900×H600 1.0箇所
天井	化粧石こうボード(GB-D)(NC)t9.5 不燃NM-0441　LGS19
廻縁	塩ビ(突付)
備考	梁型：ビニルクロス貼　GB-R12.5 LGS19/65 コーナーガード



２階　脱衣所	
床	クッションフロアＫＳ貼t1.8 ラワン合板t5.5　パーティクルボードt20 踏込部複層ビニル床タイルＦＳ貼t2.0 プラホレン3A　コンクリート金鏝
巾木	ソフト巾木　H=75
壁	ビニルクロス貼 GB-S12.5　LGS65
天井	ビニルクロス貼 GB-S9.5　LGS19
廻縁	塩ビ(突付)
備考	

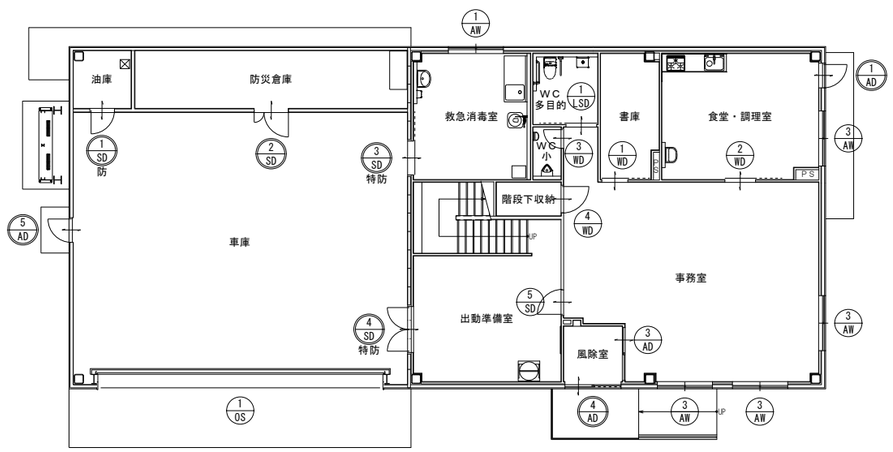


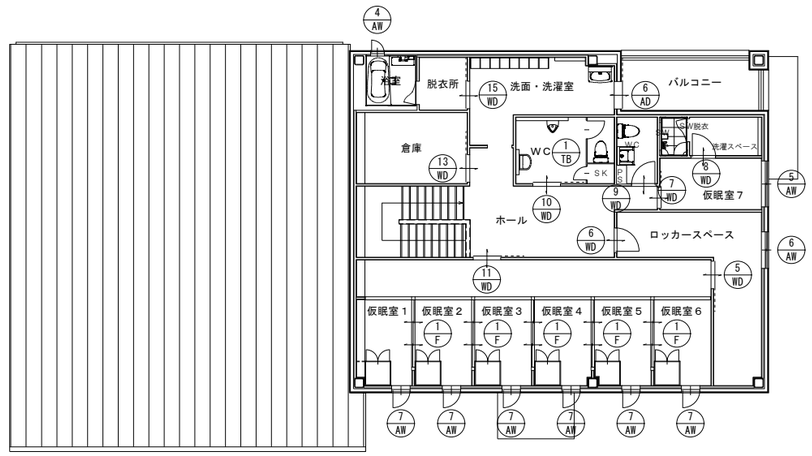
２階　バルコニー	
床	FRP系塗膜防水(X-2) デッキコンクリートの上 防水モルタル金鏝下地
立上	FRP系塗膜防水
壁	金属サンドイッチパネルt35　横張 鉄骨胴縁(C-100×50×20×2.3)下地
軒天	ＥＰ塗(素地ごしらえ(Ｂ種)) 0.8FK8.0底目　LGS25
廻縁	カラーＧＬ鋼板t0.5
備考	物干し金物



(A3=A1縮小50%)

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査	図面番号
図面名	展開図5　S=1/50				A-29
一級建築士事務所（有）芦田設計　県知事登録第１２１５３号		一級建築士　登録第９９０５３号　芦田圀廣			





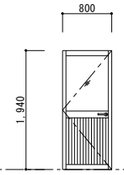
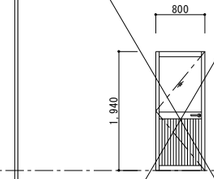
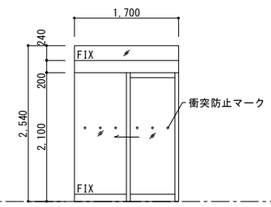
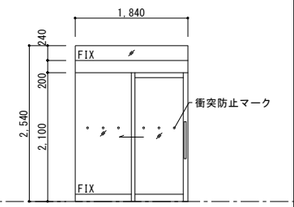
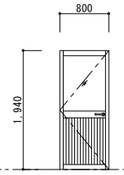
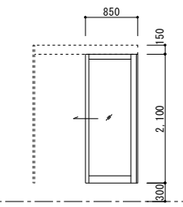
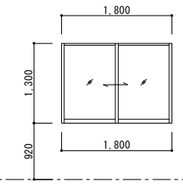
１階建具リスト　S=1/100

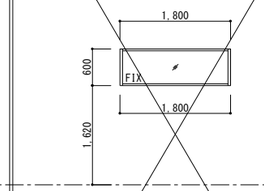
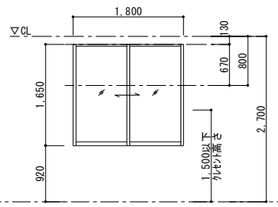
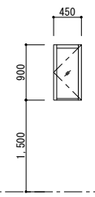
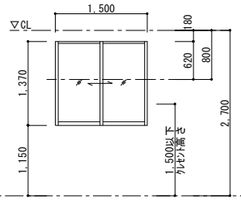
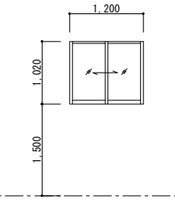
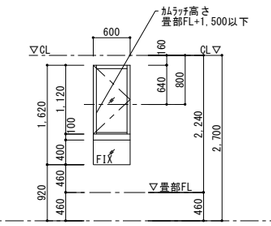
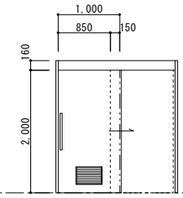
**
**　：マスターキー製作範囲を示す

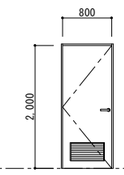
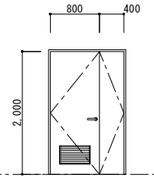
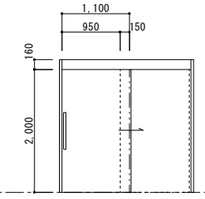
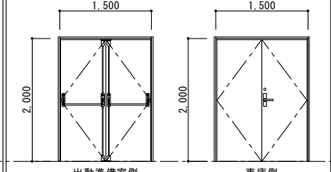
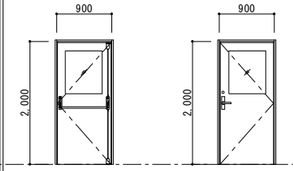
２階建具リスト　S=1/100

(A3=A1縮小50%)

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査	図面番号 A / 30
図面名	建具リスト　S=1/100				
一級建築士事務所 県知事登録第１２１５３号 （有）戸田設計		一級建築士 登録第 ９９０５３ 号 芦田圀廣			

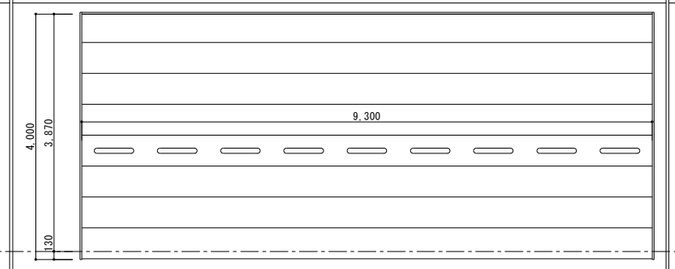
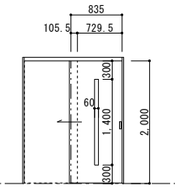
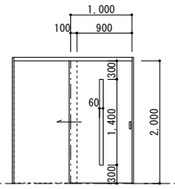
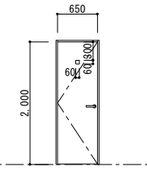
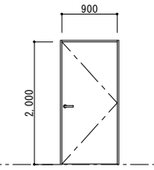
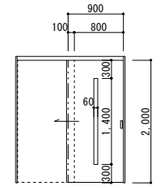
符　号	1 AD 片開き戸	2 AD 片開き戸	3 AD 片引き自動ドア＋FIX　段窓	4 AD 片引きドア（自閉）＋FIX　段窓	5 AD 片開き戸	6 AD 片引きドア（自閉）	1 AW 引違窓
使用箇所	食堂・調理室	事務室	風除室	風除室	車庫	バルコニー	救急消毒室
個　数	1	1	1	1	1	1	1
姿　図 寸　法							
見　込	70	70	100	70	70	80	70
材　質	アルミ	アルミ	アルミ	アルミ	アルミ	アルミ	アルミ
仕上・塗装	ステンカラー	ステンカラー	ステンカラー	ステンカラー	ステンカラー	ステンカラー	ステンカラー
硝　子	FL3.0+A6+F4.0	FL3.0+A6+F4.0	TG5.0	TG5.0	FL3.0+A6+F4.0	FL3.0+A6+F4.0	FL3.0+A6+F4.0
金　物	AP，外部三方アルミ額縁，水切，DC（ストップ付） SUS沓摺，標準金物一式	AP，外部三方アルミ額縁，水切，DC（ストップ付） SUS沓摺，標準金物一式	AP，外部三方アルミ額縁，エンジン装置（外付） タッチ式スイッチ，標準金物一式	AP，外部三方アルミ額縁，自閉装置，標準金物一式	AP，外部三方アルミ額縁，水切，DC（ストップ付） SUS沓摺，標準金物一式	AP，内部三方アルミ枠，水切，SUS沓摺，標準金物一式	AP，外部三方アルミ額縁，水切，標準金物一式
網　戸	-	-	-	-	-	-	可動網戸（SUSメッシュ）
錠・引手	レバーハンドル本締シリンダー錠（ST付）	レバーハンドル本締シリンダー錠（ST付）	電気錠（倡号にてフランス落としでロック），電気錠操作盤	シリンダー下框錠（ST付），SUS製引棒（L600）	レバーハンドル電気錠（ST付），ドア取手部電池式テンキー マジカルテンキーユニット，制御盤	引戸錠	クレセント
備　考	RC枠	RC枠	RC枠，ﾄﾞﾘｰﾑ EOD DC-552 同等品以上（手動開錠装置付）	RC枠	RC枠	RC枠	RC枠

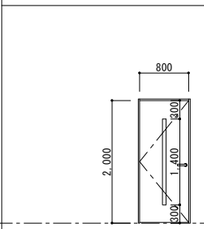
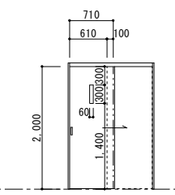
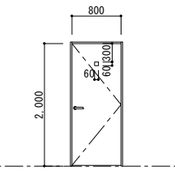
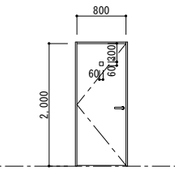
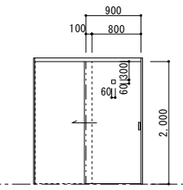
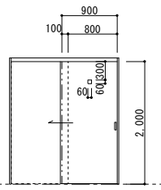
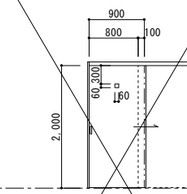
符　号	2 AW FIX窓	3 AW 引違窓	4 AW 片開き窓	5 AW 引違窓	6 AW 引違窓	7 AW FIX＋片開き段窓	1 LSD 片引き戸
使用箇所	ＷＣ多目的	事務室，食堂・調理室	浴室	仮眠室７	ロッカースペース	仮眠室１～６	ＷＣ多目的
個　数	1	4	1	1	1	6	1
姿　図 寸　法							
見　込	70	70	70	70	70	70	扉：40，枠：110/195
材　質	アルミ	アルミ	アルミ	アルミ	アルミ	アルミ	溶融亜鉛メッキ鋼板　扉：t0.6，枠：t1.6
仕上・塗装	ステンカラー	ステンカラー	ステンカラー	ステンカラー	ステンカラー	ステンカラー	メラミン焼付塗装（指定色）
硝　子	FL3.0+A6+F4.0	FL3.0+A6+FL3.0	FL3.0+A6+F4.0	FL3.0+A6+FL3.0	FL3.0+A6+F4.0	FL3.0+A6+FFL3.0	F4.0
金　物	AP，外部三方アルミ額縁，水切，標準金物一式	AP，外部三方アルミ額縁，水切，標準金物一式	AP，外部三方アルミ額縁，水切，標準金物一式	AP，外部三方アルミ額縁，水切，標準金物一式	AP，外部三方アルミ額縁，水切，標準金物一式	AP，外部三方アルミ額縁，水切，標準金物一式	SUS沓摺，自閉装置，ガイドローラー アルミ製ガラリ（400*260）
網　戸	-	可動網戸（SUSメッシュ）	開き網戸（SUSメッシュ）	可動網戸（SUSメッシュ）	可動網戸（SUSメッシュ）	開き網戸（SUSメッシュ）	-
錠・引手	-	クレセント	カムラッチ	クレセント	クレセント	カムラッチ	表示錠（非常解錠付），SUS製引棒（L600）
備　考	RC枠	RC枠	RC枠	RC枠	RC枠	RC枠	

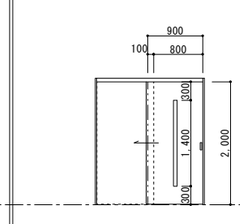
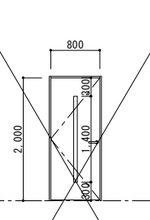
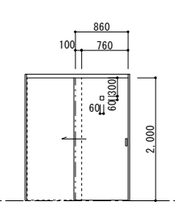
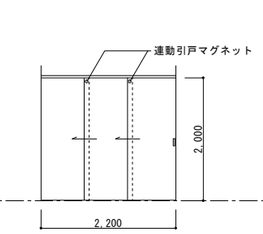
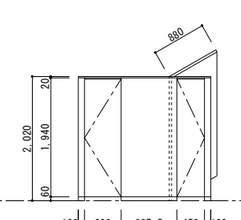
符　号	1 SD 片開き戸	2 SD 親子戸	3 SD 片引き戸	4 SD 両開き戸	5 SD 両開き戸
使用箇所	油庫	防災倉庫	救急消毒室	出動準備室	出動準備室
個　数	1	1	1	1	1
姿　図 寸　法					
見　込	扉：40，枠：155	扉：40，枠：155/240	扉：40，枠：220/305	扉：40，枠：220	扉：40，枠：110
材　質	溶融亜鉛メッキ鋼板 t1.6	溶融亜鉛メッキ鋼板 t1.6	溶融亜鉛メッキ鋼板 t1.6	溶融亜鉛メッキ鋼板 t1.6	溶融亜鉛メッキ鋼板 t1.6
仕上・塗装	メラミン焼付塗装（指定色）	メラミン焼付塗装（指定色）	メラミン焼付塗装（指定色）	メラミン焼付塗装（指定色）	メラミン焼付塗装（指定色）
硝　子	-	-	-	-	TG5.0
金　物	SUS丁番（3枚吊），SUS沓摺，DC（ストップ無） スチール製ガラリ（シャッター付）	SUS丁番（3枚吊），SUS沓摺，DC（ストップ無） スチール製ガラリ	SUS沓摺，自閉装置，ガイドローラー（S付）	SUS丁番（3枚吊），SUS沓摺，DC（ストップ無）	SUS丁番（3枚吊），SUS沓摺，DC（ストップ無）
網　戸	-	-	-	-	-
錠・引手	レバーハンドル本締シリンダー錠（ST付）	レバーハンドル本締シリンダー錠（ST付）	SUS製引棒（L600）	パニックドアハンドル　シリンダー・レバーハンドル付 片側2点締まり（UNION：PH787-20W　同等品）	パニックドアハンドル　シリンダー・レバーハンドル付 片側2点締まり（UNION：PH787-20W　同等品）
備　考	防火設備　H12建告第1369号		特定防火設備（常時閉鎖式）　H12建告第1369号	特定防火設備（常時閉鎖式）　H12建告第1369号	常時閉鎖式

（A3=A1縮小50%）

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査	図面番号 A 31
図面名	建具表1　S=1/50				
一級建築士事務所	（有）戸田設計　県知事登録第１２１５３号	一級建築士	登録第 ９９０５３ 号	芦田圀廣	

符　号	① OS 電動オーバースライダー（ハイリフト型）	① WD 片引き戸	② WD 片引き戸	③ WD 片開き戸	④ WD 片開き戸	⑤ WD 片引き戸
使用箇所	車庫	書庫	食堂・調理室	ＷＣ小	階段下収納	ロッカースペース
個　数	1	1	1	1	1	1
姿　図 寸　法						
見　込	－	扉：36，枠：116/168	扉：36，枠：116/168	扉：36，枠：116	扉：36，枠：116	扉：36，枠：116/168
材　質	アルミ	ポリ合板フラッシュ　小口：CL塗	ポリ合板フラッシュ　小口：CL塗	ポリ合板フラッシュ　小口：CL塗	ポリ合板フラッシュ　小口：CL塗	ポリ合板フラッシュ　小口：CL塗
仕上・塗装	標準色	－	－	－	－	－
硝　子	明かり窓（アクリル t3.0）	F4.0	F4.0	F4.0	－	F4.0
金　物	電動装置，開閉スイッチ，リモコン３個付，障害物検知装置，埋込型スイッチボックス，手動式開閉チェーン，SUS三方枠 開信号無電圧（2C-0.75）を出勤指令卓から開閉器へ送る	自閉ソフトクローザー，ガイドローラー，SUS溶摺	自閉ソフトクローザー，ガイドローラー，SUS溶摺	SUS丁番（3枚吊），DC（ストップ付），戸当たり	SUS丁番（3枚吊），DC（ストップ付），戸当たり	自閉ソフトクローザー，ガイドローラー，SUS溶摺
網　戸	－	－	－	－	－	－
錠・引手	－	木製押棒 L=300	木製押棒 L=300	レバーハンドル表示錠	レバーハンドル空錠	木製押棒 L=300
備　考						

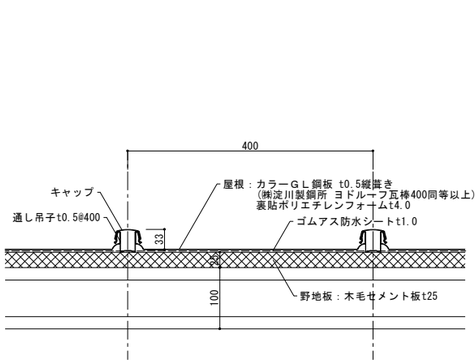
符　号	⑥ WD 片開き戸	⑦ WD 片引き戸	⑧ WD 片開き戸	⑨ WD 片開き戸	⑩ WD 片引き戸	⑪ WD 片引き戸	⑫ WD 片引き戸
使用箇所	ロッカースペース	仮眠室７	ＳＷ脱衣	仮眠室７入口ＷＣ	ＷＣ	ホール	ホール
個　数	1	1	1	1	1	1	1
姿　図 寸　法							
見　込	扉：36，枠：116	扉：36，枠：116/168	扉：36，枠：116	扉：36，枠：116	扉：36，枠：116/168	扉：36，枠：116/168	扉：36，枠：116/168
材　質	ポリ合板フラッシュ　小口：CL塗	ポリ合板フラッシュ　小口：CL塗	ポリ合板フラッシュ　小口：CL塗	ポリ合板フラッシュ　小口：CL塗	ポリ合板フラッシュ　小口：CL塗	ポリ合板フラッシュ　小口：CL塗	ポリ合板フラッシュ　小口：CL塗
仕上・塗装	－	－	－	－	－	－	－
硝　子	F4.0	F4.0	F4.0	F4.0	F4.0	F4.0	F4.0
金　物	SUS丁番（3枚吊），DC（ストップ付），戸当たり	自閉ソフトクローザー，ガイドローラー	SUS丁番（3枚吊），DC（ストップ付），戸当たり	SUS丁番（3枚吊），DC（ストップ付），戸当たり	自閉ソフトクローザー，ガイドローラー，SUS溶摺	自閉ソフトクローザー，ガイドローラー	自閉ソフトクローザー，ガイドローラー
網　戸	－	－	－	－	－	－	－
錠・引手	レバーハンドル空錠	シリンダー本締錠（ST付），木製押棒 L=300	レバーハンドル表示錠	レバーハンドル表示錠	木製押棒 L=300	木製押棒 L=300	木製押棒 L=300
備　考							

符　号	⑬ WD 片引き戸	⑭ WD 片開き戸	⑮ WD 片引き戸	① F 3枚連動引戸	① TB トイレブース
使用箇所	倉庫	洗面・洗濯室	脱衣所	仮眠室１～５	ＷＣ
個　数	1	1	1	5	1
姿　図 寸　法					
見　込	扉：36，枠：116/168	扉：36，枠：116	扉：36，枠：116/168	扉：30，枠：100	40
材　質	ポリ合板フラッシュ　小口：CL塗	ポリ合板フラッシュ　小口：CL塗	ポリ合板フラッシュ　小口：CL塗	ポリ合板フラッシュ　小口：CL塗	高圧メラミン化粧板フラッシュ
仕上・塗装	－	－	－	－	－
硝　子	F4.0	F4.0	F4.0	－	－
金　物	自閉ソフトクローザー，ガイドローラー	SUS丁番（3枚吊），DC（ストップ付），戸当たり	自閉ソフトクローザー，ガイドローラー，SUS溶摺	3枚連動引戸金物，床付ガイド，ガイドピース エンドクッション，連動引戸マグネット	グレビティヒンジ（中心吊）指詰め防止タイプ，SUS巾木戸当り
網　戸	－	－	－	－	－
錠・引手	シリンダー本締錠（ST付），木製押棒 L=300	レバーハンドル空錠	木製押棒 L=300	SUS舟底引手	スライドボルト（非常解錠付）
備　考					

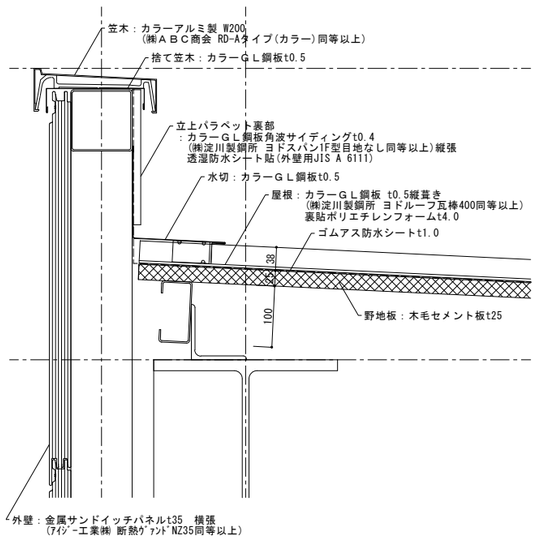
（A3=A1縮小50%）

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査	図面番号 A
図面名	建具表２　S=1/50				
一級建築士事務所 県知事登録第１２１５３号 （有）　芦　田　設　計		一級建築士　登録第　９９０５３　号　芦田圀廣			32

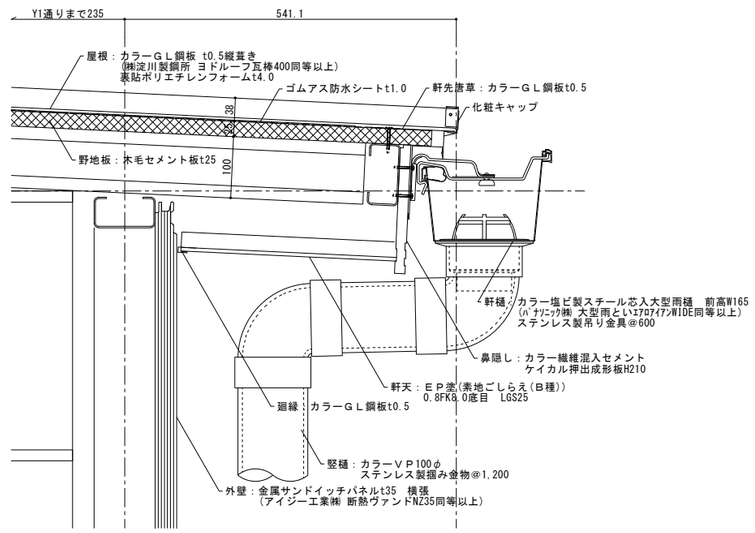
庁舎屋根：カラーＧＬ鋼板 t0.5縦葺き　平部　詳細図　S=1/5



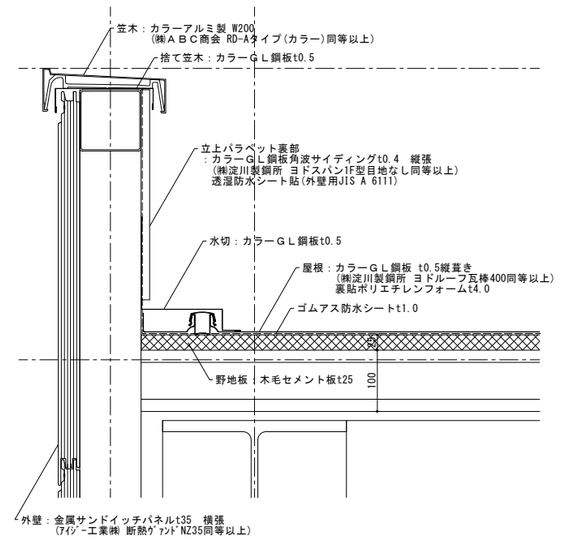
庁舎屋根：カラーＧＬ鋼板 t0.5縦葺き　水上パラペット　詳細図　S=1/5



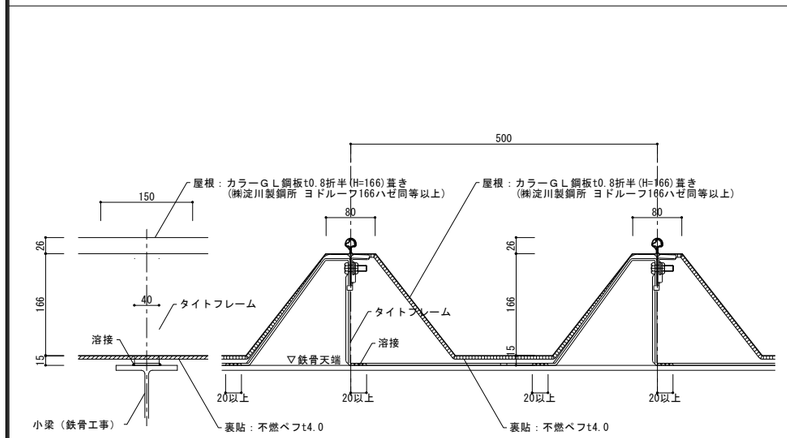
庁舎屋根：カラーＧＬ鋼板 t0.5縦葺き　軒先　詳細図　S=1/5



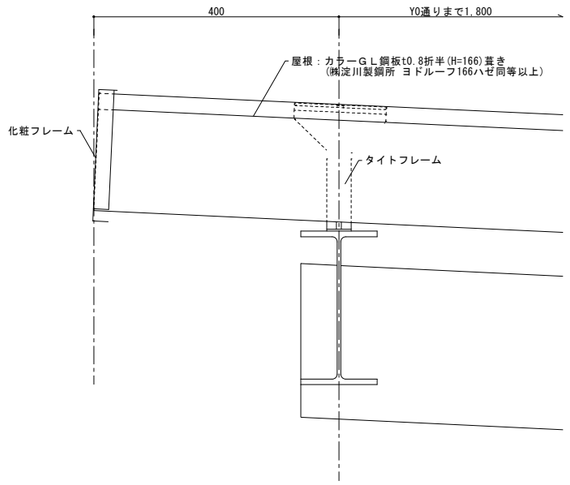
庁舎屋根：カラーＧＬ鋼板 t0.5縦葺き　ケラバパラペット　詳細図　S=1/5



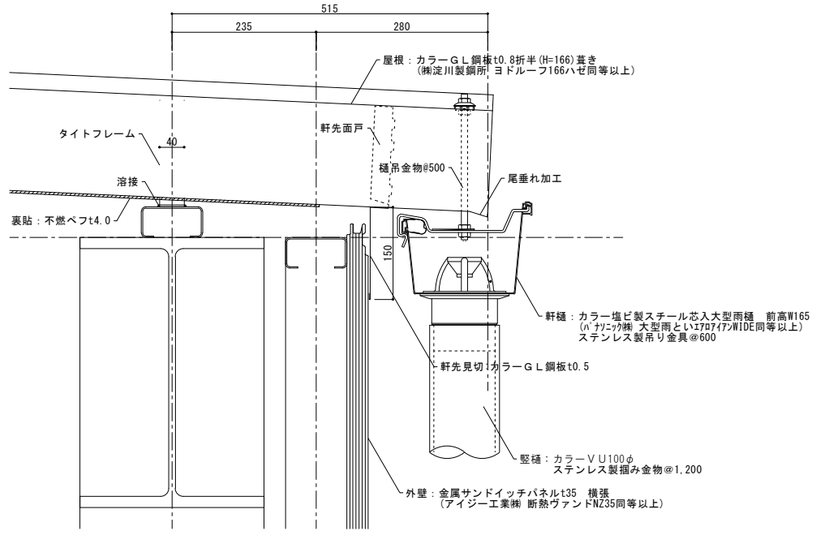
車庫屋根：カラーＧＬ鋼板t0.8折半(H=166)葺き　平部　詳細図　S=1/5



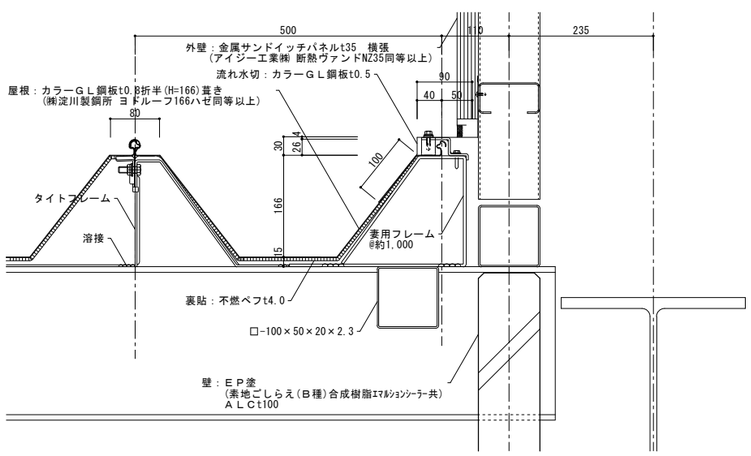
車庫屋根：カラーＧＬ鋼板t0.8折半(H=166)葺き　水上　詳細図　S=1/5



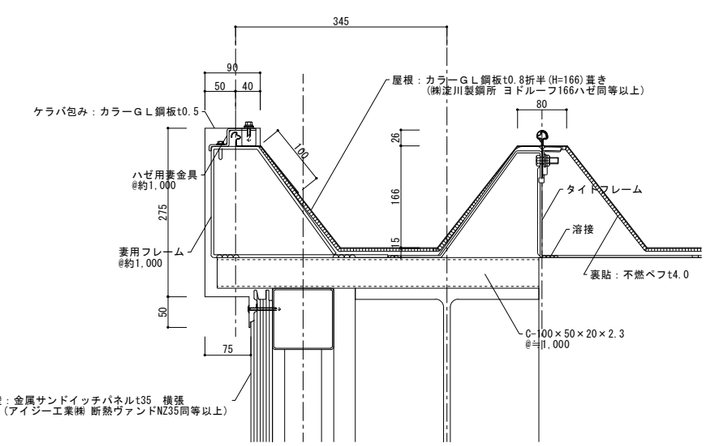
車庫屋根：カラーＧＬ鋼板t0.8折半(H=166)葺き　軒先　詳細図　S=1/5



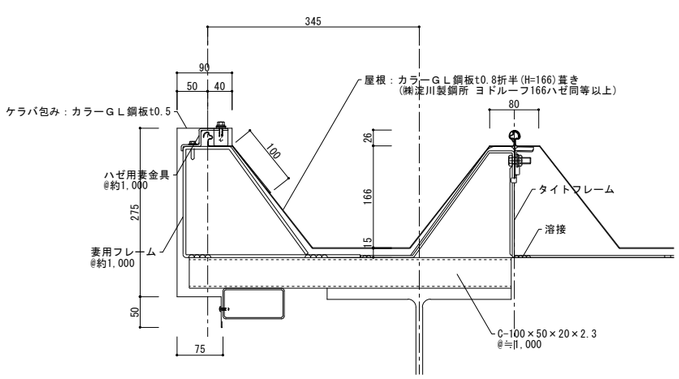
車庫屋根：カラーＧＬ鋼板t0.8折半(H=166)葺き　流れ　壁取合部　詳細図　S=1/5



車庫屋根：カラーＧＬ鋼板t0.8折半(H=166)葺き　ケラバ　壁取合部　詳細図　S=1/5



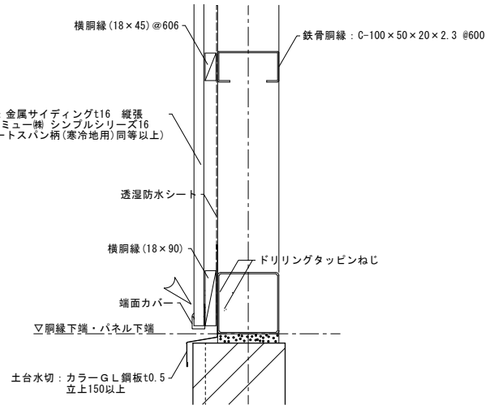
車庫屋根：カラーＧＬ鋼板t0.8折半(H=166)葺き　ケラバ　はね出し部　詳細図　S=1/5



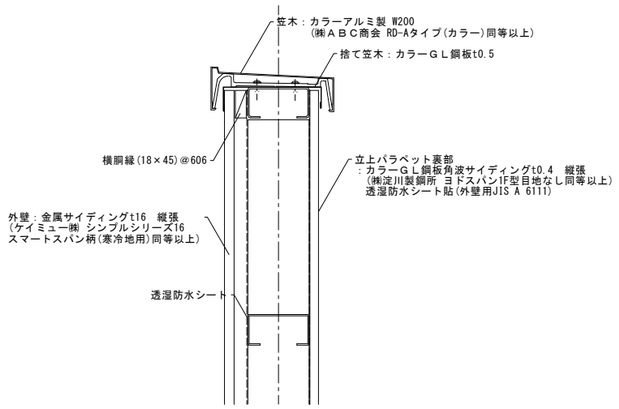
(A3=A1縮小50%)

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査	図面番号 A-33
図面名	部分詳細図1　S=1/5				
一級建築士事務所 (有) 芦田設計	県知事登録第１２１５３号	一級建築士	登録第 ９９０５３ 号	芦田圀廣	

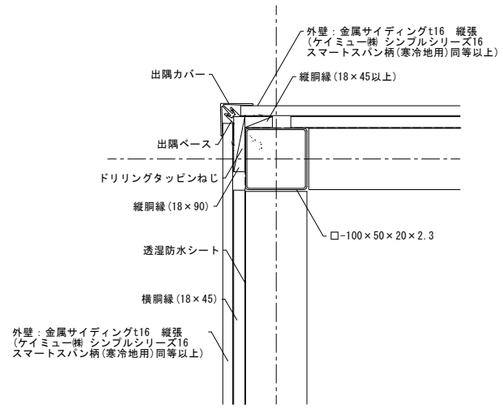
外壁(色付部)：金属サイディングt16　縦張　土台水切　詳細図　S=1/5



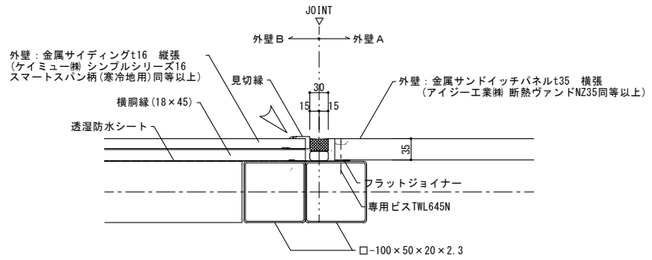
外壁(色付部)：金属サイディングt16　縦張　笠木　詳細図　S=1/5



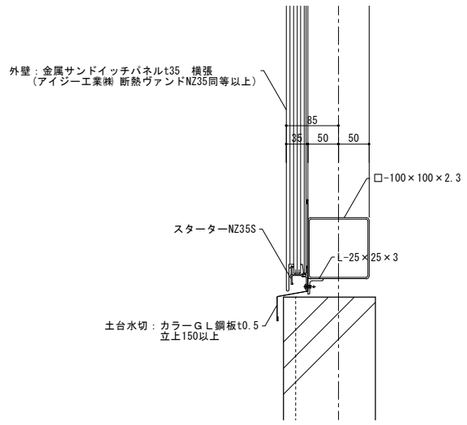
外壁(色付部)：金属サイディングt16　縦張　出隅　詳細図　S=1/5



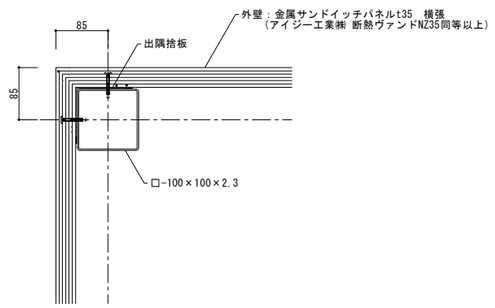
外壁(色付部)，外壁(一般部)　ジョイント　詳細図　S=1/5



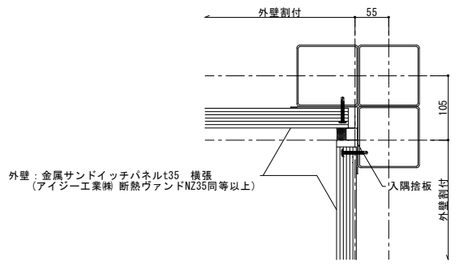
外壁(一般部)：金属サンドイッチパネルt35　横張　土台水切　詳細図　S=1/5



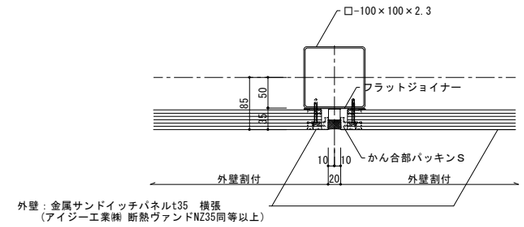
外壁(一般部)：金属サンドイッチパネルt35　横張　出隅　詳細図　S=1/5



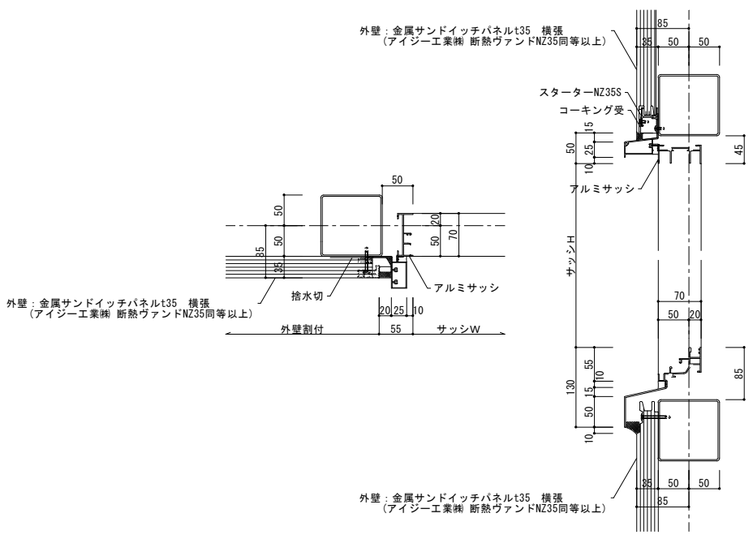
外壁(一般部)：金属サンドイッチパネルt35　横張　入隅　詳細図　S=1/5



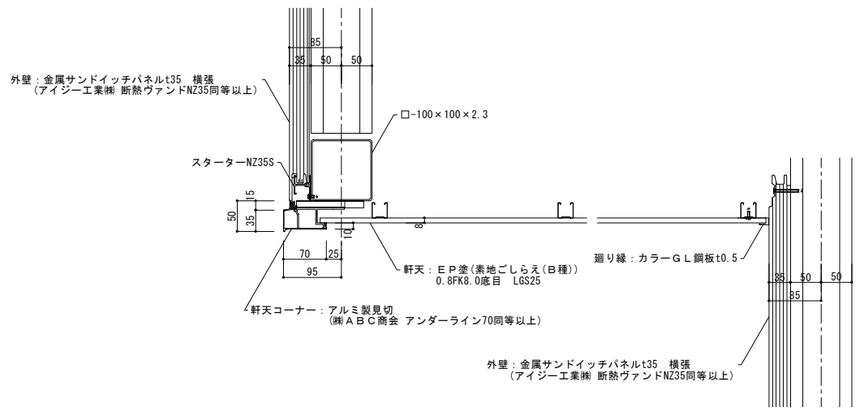
外壁(一般部)：金属サンドイッチパネルt35　横張　ジョイント　詳細図　S=1/5



外壁(一般部)：金属サンドイッチパネルt35　横張　開口部　詳細図　S=1/5



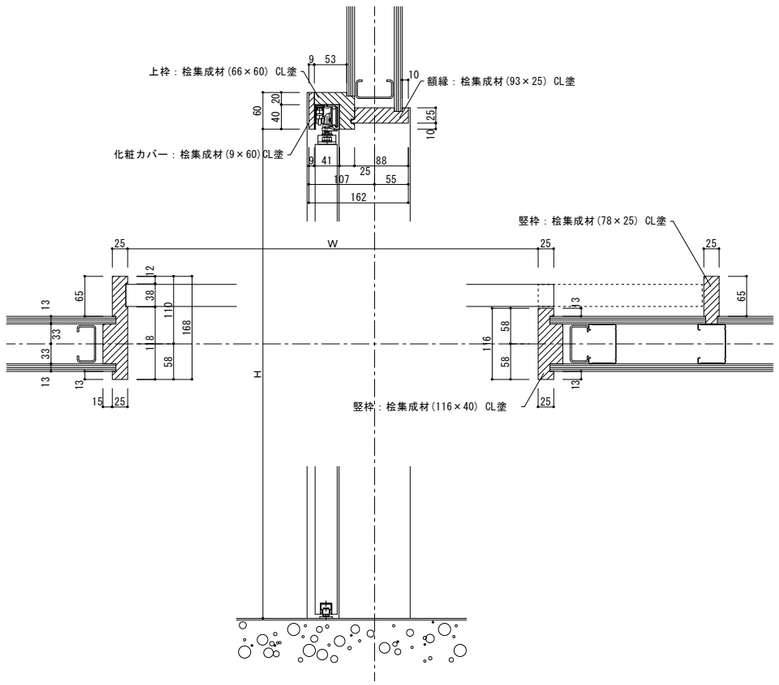
バルコニー　軒天　詳細図　S=1/5



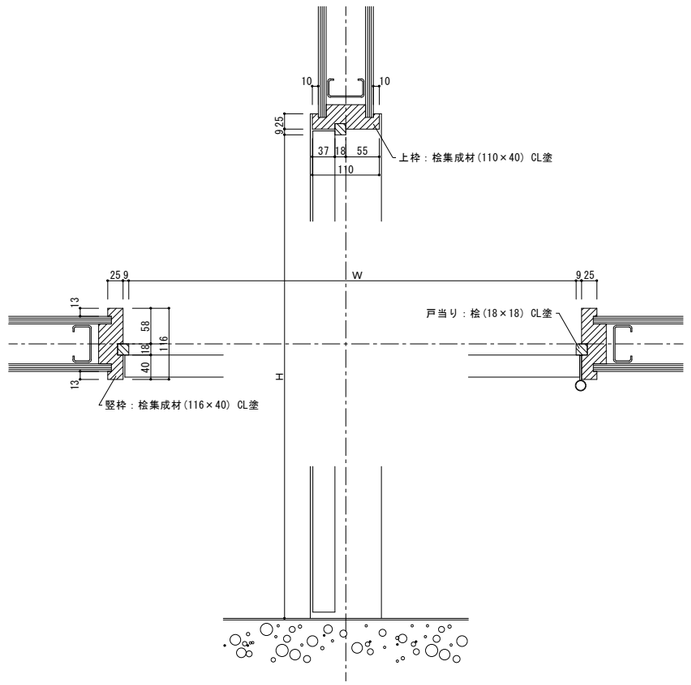
(A3=A1縮小50%)

工事名　津山圏域消防組合日本原分署新築工事		計	設	審	図面番号 A-34
図面名　部分詳細図2　S=1/5		画	計	査	
一級建築士事務所　県知事登録第１２１５３号 （有）　芦　田　設　計	一級建築士　登録第　９９０５３　号　芦田圀廣				

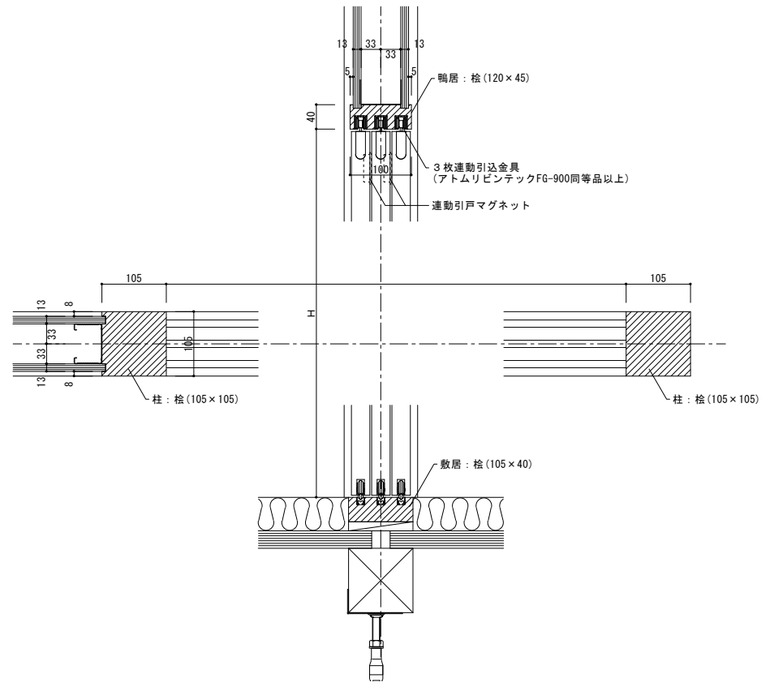
木製片引戸　詳細図　S=1/5



木製片開き戸　詳細図　S=1/5

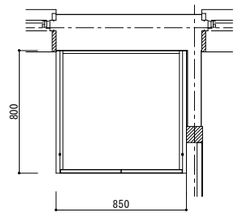


木製３枚連動引戸　詳細図　S=1/5

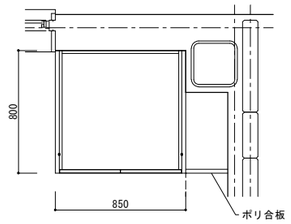


K-1　布団収納棚（２階　仮眠室２～６：５ヶ所，仮眠室１：１ヶ所）　S=1/20

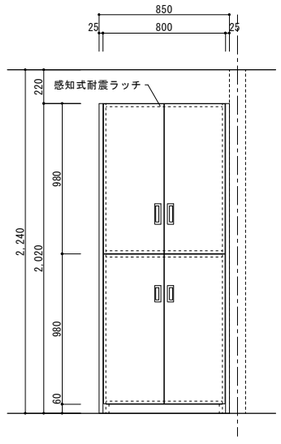
外　　装	ポリ合板
内　　装	ポリ合板
天　　板	ナラ集成材(UC塗装品)
底　　板	ポリ合板
棚板・幕板	ポリ合板
木　　口	セーフティエッジｔ2
金　　物	スライド丁番
	通気孔付取手(ABS樹脂)
	感知式耐震ラッチ(上部扉)
備　　考	



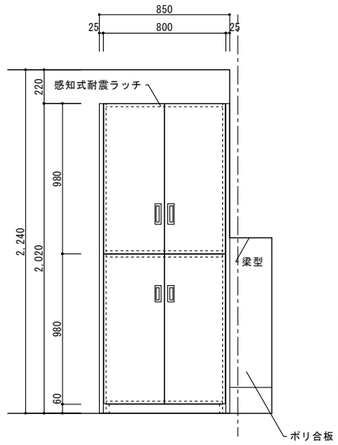
仮眠室２～６　平面図



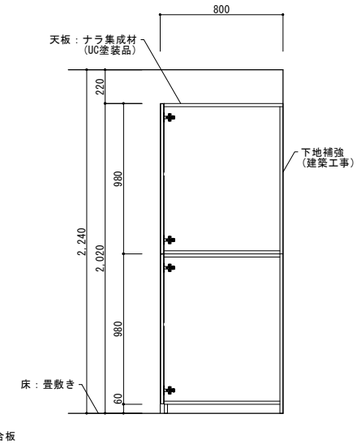
仮眠室１　平面図



仮眠室２～６　正面図



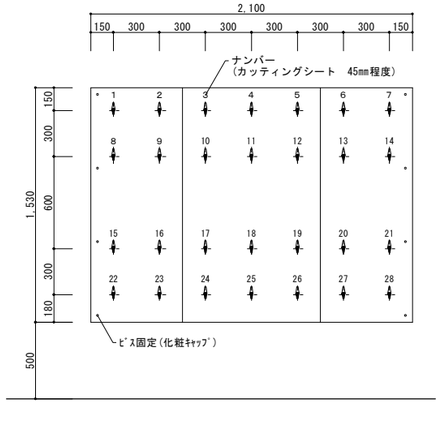
仮眠室１　正面図



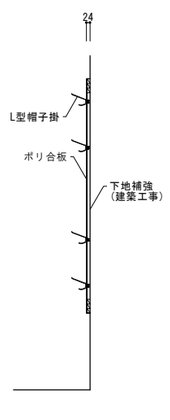
断面図

K-2　帽子・ヘルメット掛(フック12ヶ)　（１階　出動準備室：１ヶ所）　S=1/20

表 面 材	ポリ合板
木　　口	ポリ合板
金　　物	杉田エース SUS L型帽子掛(28ヶ)
備　　考	



正面図



断面図

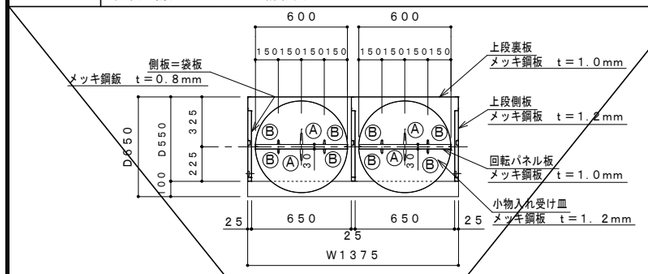
(A3=A1縮小50%)

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査	図面番号 A
図面名	建具枠，造作家具詳細図　S=1/5，1/20				35

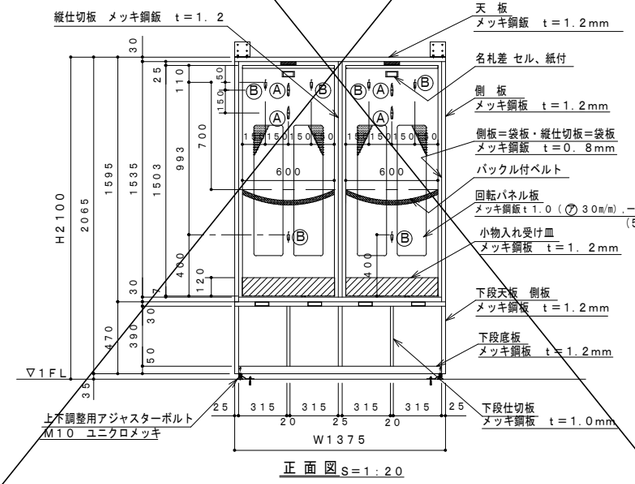
一級建築士事務所　県知事登録第１２１５３号
（有）　芦　田　設　計

一級建築士　登録第　９９０５３　号　芦田圀廣

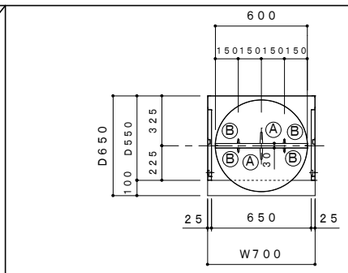
回転式防火衣ロッカー　詳細図



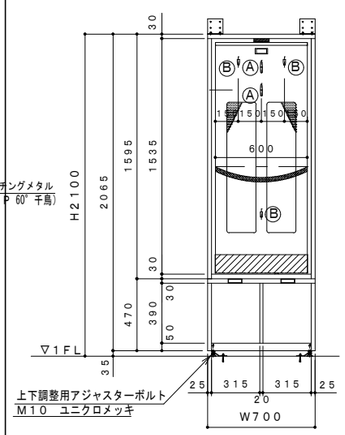
平 面 図 S＝1：20



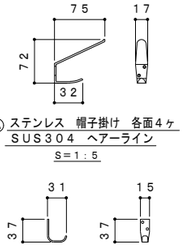
正 面 図 S＝1：20

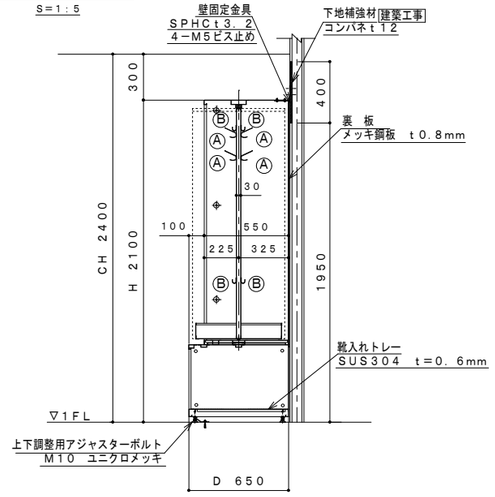


平 面 図 S＝1：20



正 面 図 S＝1：20





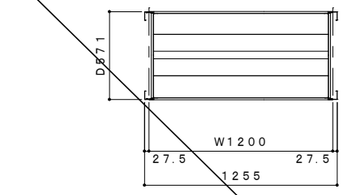
断 面 図 S＝1：20

○ 回転式防火衣ロッカー　詳細図
※2連式（4人用）
寸　法：W1375×H2100×D650
塗　装：粉体焼付塗装
製作台数　3 台

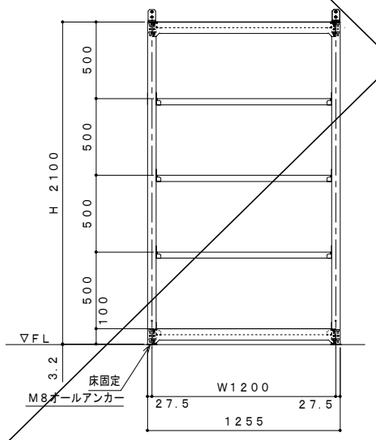
※1連式（2人用）
寸　法：W　700×H2100×D650
塗　装：粉体焼付塗装
製作台数　1 台

ホース収納棚（中量棚）　詳細図

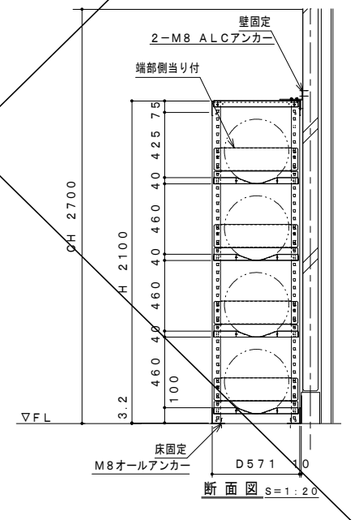
ホース収納棚（中量棚）	
積載荷重	300kg／段
塗　装	粉体塗装（35~40μm）　サンプレー
サイズ	W1200×H2100×D571　1台
棚段数	有効4段（天地5段）



平 面 図 S＝1：20

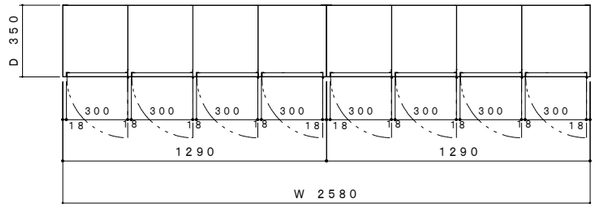


正 面 図 S＝1：20

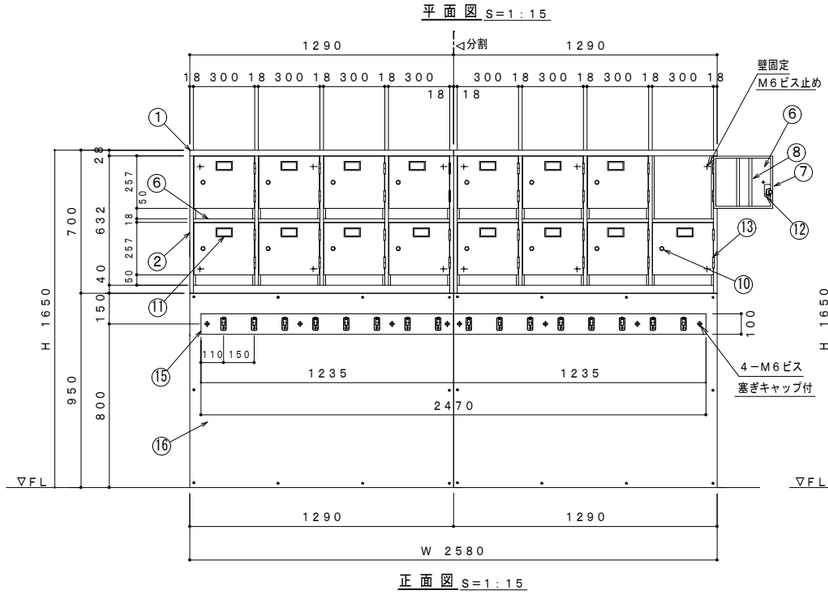


断 面 図 S＝1：20

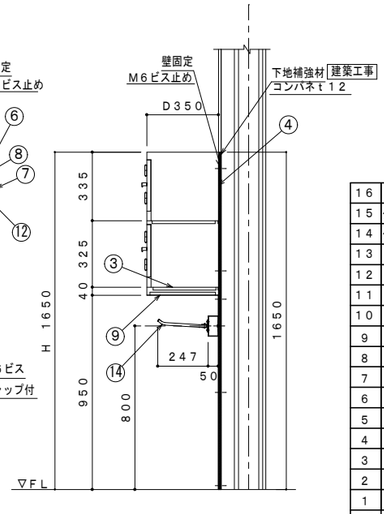
洗面用具収納棚　詳細図



平 面 図 S＝1：15



正 面 図 S＝1：15



断 面 図 S＝1：15

○ 洗面用具収納棚（8列×2段）
寸　法：W2580×H1650×D350
塗　装：粉体焼付塗装
製作台数　1 台

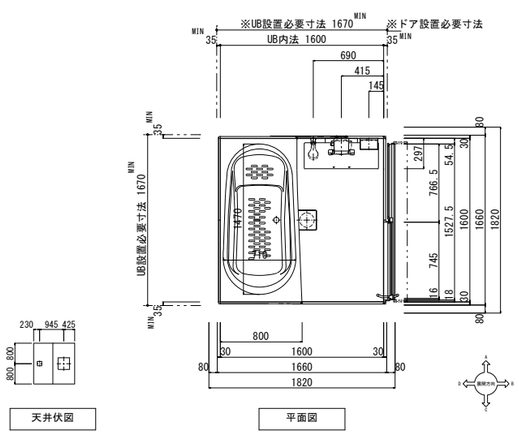
番号	部品名	数量	材質
16	露受け裏板	2	SECC 0.8t　4辺ヘミング加工
15	タオル掛け受座	2	スチール角パイプ 100×50×2.3
14	タオル掛け金具	16	ステンレス　充填ゴム製 HM-250V同等品
13	蝶　番	32	SPCC 1.6t
12	ラッチ	16	合成樹脂
11	名札差	16	合成樹脂
10	ツマミ	16	合成樹脂
9	底貼板	2	SECC 0.8t
8	扉補強	16	SECC 0.8t
7	扉　板	16	SECC 0.8t
6	横中仕切板	8	SECC 0.8t
5	縦中仕切板	6	SECC 0.8t
4	裏　板	2	SECC 0.8t
3	底　板	2	SECC 0.8t
2	側　板	4	SECC 0.8t
1	天　板	2	SECC 0.8t

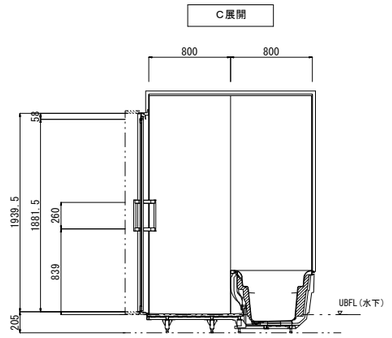
(A3=A1縮小50%)

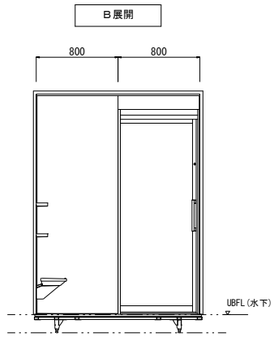
工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査	図面番号 A
図面名	鋼製家具詳細図　S=1/5, 1/15, 1/20				36

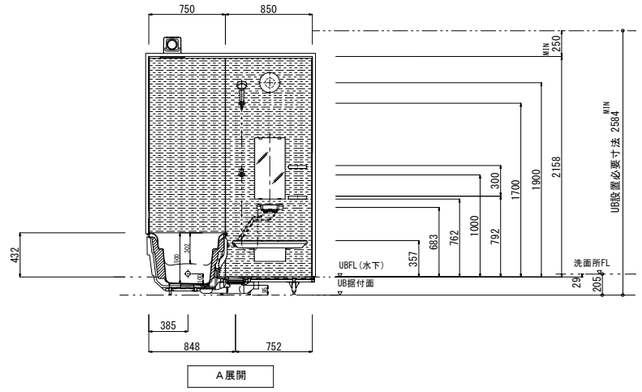
一級建築士事務所　県知事登録第12153号
（有）　芦　田　設　計
一級建築士　登録第　99053　号　芦田圀廣

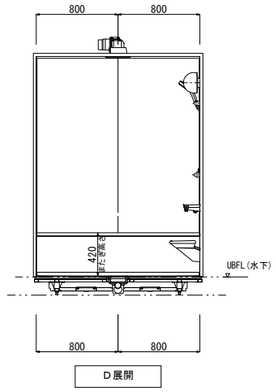
浴室　ユニットバス　詳細図（ＴＯＴＯ：サザナ　ＨＳシリーズ　Ｎタイプ同等品以上）　S=1/30





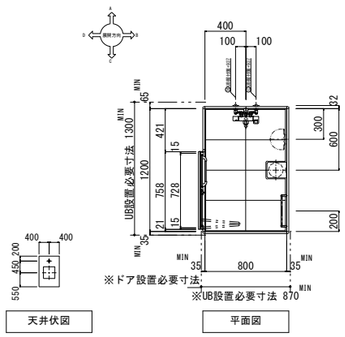


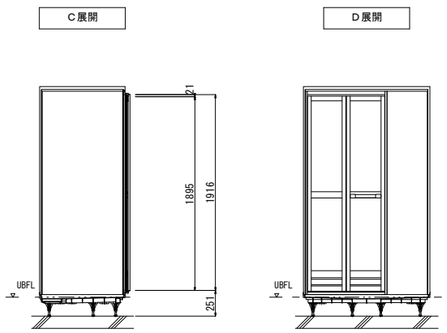


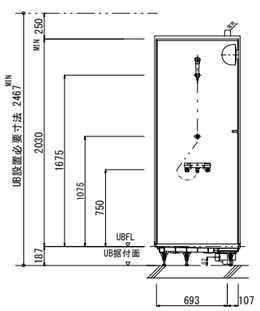


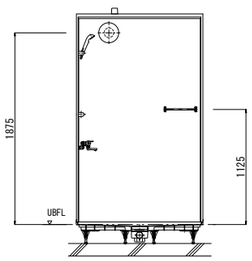
		HSV1616UN　フラット床　コロガシ			
	名　称	仕様・寸法	色・柄	特記事項	備　考
*	天井パネル	化粧鋼板複合パネル（モール式） 点検口口４５０（絞り点検口・落下防止用紐付）	ホワイト		ＨＤＨＮＳ
	壁パネル	ＨＱパネル	プリエホワイト		
	正面アクセントパネル	ＨＱパネル	プリエピンク		
*	床パネル	カラリ床	ライトグレー		ＣＦＦ０２ ＣＸＡ０１
*	ド　ア　枠	アルミアルマイト処理	シルバー	（付枠用取付ネジＵＢ支給， ネジ取付および付枠別途）	ＨＤＨＮＳ
*	ドアパネル	片引戸（スッキリドア） 面材：型板ステレン板　戸袋パネル：アルミ複合板 Ｗ＝８００（有効開口幅　６９０．５mm）Ｈ＝２０００	シルバー 面材：半透明		ＨＤＨＮＳ
*	浴槽	ラウンド浴槽　ＦＲＰバス（ステップ付） 追焚用　φ５０開口 ゴム栓 断熱防水パン付	ホワイト エプロン：ホワイト		ＣＸＡ０１ ＹＡＡ８１
*	浴槽追焚加工	コントローラ取付用補強木　Ｗ２２５×Ｈ１００（同梱） フレキシブル管／２本（同梱）			ＹＡＡ８１
	ふろふた	シャッター式ふろふた	ホワイト		
	カウンター	お掃除ラクラクカウンター Ｗ＝７３０	天板：ホワイト エプロン：グレー		
	洗い場水栓	ＴＵＭ４０Ｂ１０Ｂ スッキリ水栓(ホワイトハンドル) サーモスタットシャワー金具	水栓本体：メタル調 ハンドル：ホワイト カバー：ホワイト		
	シャワーヘッド	コンフォートウエーブシャワー ホース：Ｌ＝１８００	ヘッド：ホワイト ホース：シルバー		
	シャワーハンガー	ＴＨ５５６Ｆ３Ｒ＃ＮＧ２Ｂ			
	ホースクリップ	樹脂製	グレー		
	照明	半球形照明（ＬＥＤランプ） 消費電力９Ｗ以下　６０Ｗ相当　電球色 ＶＶＦ１．６φ×２Ｃ　Ｌ＝２．０m付		（以降接続別途）	
	換気扇	AC100V 消費電力:9/11W (50/60HZ)		（以降接続別途）	
*	給水管	床下配管立上げ		（材工共別途） （配管端部仕上げＧ１／２ （ＰＦ１／２））	ＣＸＡ０１
*	給湯管	床下配管立上げ		（材工共別途） （配管端部仕上げＧ１／２ （ＰＦ１／２））	ＣＸＡ０１
*	排水トラップ	ＡＢＳ樹脂製　封水深５０mm　接続口　ＶＰ５０受口 浴槽側逆流防止機構付			ＣＸＡ０１
	排水管 排水エルボ	ＶＵ管（２０００mm）１本　末端切放し ９０度エルボ（ＤＬ５０）　３個		（以降接続別途）	
	収納棚	収納棚（着脱可能タイプ）　樹脂製　２個	ホワイト		
	鏡	お掃除ラクラク鏡 鏡長ミラー　ツメ式　Ｗ２９８×Ｈ６００			

仮眠室７　ＳＷ　シャワーユニット（ＴＯＴＯ：シャワールーム０８１２Ｌタイプ同等品以上）　S=1/30





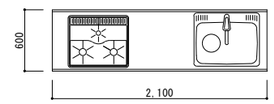


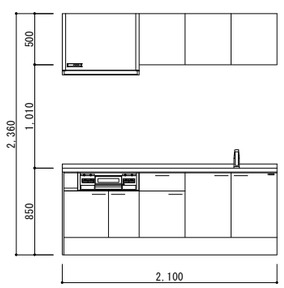


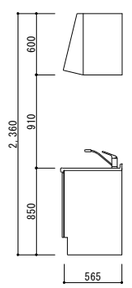
	JSV0812UL　コロガシ				
	名　称	仕様・寸法	色・柄	特記事項	備　考
	天井パネル	化粧鋼板複合パネル（モール式） 点検口口４５０（絞り点検口・落下防止用紐付・ 石膏ボード２枚貼り）	ホワイト		
	壁パネル	ＨＱパネル	ベーシスホワイト		
	床パネル	ＦＲＰ　カラリ床（単色）	ホワイト（＃ＮＷ１）		
	ド　ア　枠	アルミアルマイト処理	アイボリー	（付枠用取付ネジＵＢ支給， ネジ取付および付枠別途）	
	ドアパネル	折戸　ドア脱着機構付 面材：型板スチレン板 Ｗ＝８００（有効開口幅　６７１mm）	アイボリー 面材：半透明		
*	シャワー水栓	ＴＭＧＧ４０ＳＢＳＢ サーモスタットシャワー金具（短尺スパウト）			ＳＳＧＧＳ
*	シャワーヘッド	スプレーシャワー ホース：Ｌ＝１６００	ヘッド：ホワイトグレー ホース：ホワイトグレー		ＳＳＧＧＳ
*	シャワーハンガー	ＴＨ５５６Ｆ３Ｒ＃ＮＧ２Ｂ			ＳＳＧＧＳ
	照明	半球形照明（ＬＥＤランプ） 消費電力９Ｗ以下　６０Ｗ相当　電球色 ＶＶＦ１．６φ×２Ｃ　Ｌ＝２．０m付		（取付穴現場加工） （以降接続別途）	
	ジョイントボックス	エコノミージョイント　ＷＪ３１０７相当品		（ジョイントボックスま での配線及びジョイント ボックス内の結線別途）	
	換気グリル	ＡＢＳ樹脂　接続部外径φ９９	アイルホワイト	（以降接続別途）	
	給水エルボ	シャワー用　青銅鋳物製　接続口　Ｒｃ１／２		（以降接続別途）	
	給湯エルボ	シャワー用　青銅鋳物製　接続口　Ｒｃ１／２		（以降接続別途）	
	排水トラップ	ＡＢＳ樹脂　封水深５０mm　接続口　ＶＰ５０受口 ヘアーキャッチャー付 高圧洗浄対応		（以降接続別途）	
	タオル掛け	ステンレスパイプ　φ１３　Ｌ＝３００	ホワイト（＃ＮＷ１）		

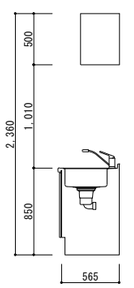
食堂・調理室　システムキッチン　詳細図（クリナップ：コルティ　ベーシックタイプ同等品以上）　S=1/30

カラーバリエーション：Ｓシリーズ
カウンター材質：ステンレス
水栓：シングルレバー混合栓
加熱機器：ホーロートップコンロ（３口）
レンジフード・カラー：深型レンジフード（シロッコファン）
カウンター高さ：８５０







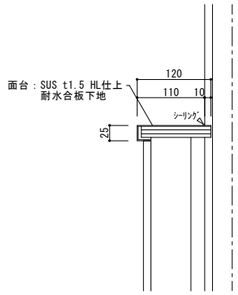


（A3=A1縮小50%）

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査	図面番号 A / 37
図面名	住設ユニット詳細図　S=1/30				
一級建築士事務所	県知事登録第１２１５３号 （有）　芦　田　設　計	一級建築士	登録第　９９０５３　号	芦田圀廣	

ライニング　詳細図　S=1/5

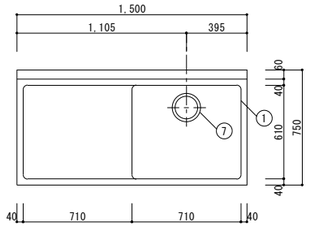
室名		L
1階	救急消毒室	4100
		1350
	ＷＣ多目的	2100+1200
	ＷＣ小	900
2階	洗面・洗濯室	1000
	ＷＣ	1700
		800
	仮眠室７	1700

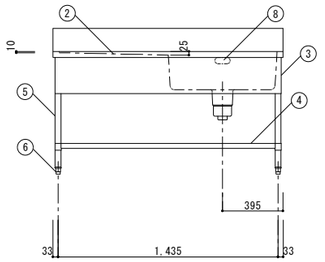


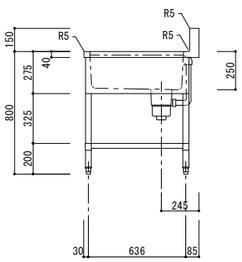
ＳＵＳ製流し台　（１階　救急消毒室：１ヶ所）　S=1/20

一層シンク：SUS304

部番	品名	材質	備考
1	トップ（シンク）	SUS304	t1.2　No.4仕上
2	水切り	SUS304	t1.2　No.4仕上
3	化粧板	SUS304	t0.6　No.4仕上
4	スノコ板	SUS304	t1.0　No.4仕上 排水口ゴムリング付
5	脚	SUS304	t1.0　φ38
6	アジャスト	SUS304	
7	排水金具	ポリプロピレン	50A φ186キングドレン
8	オーバーフロー	塩ビ	金具:SUS304
付属品	５０Ａ排水ホース　０．８ｍ		

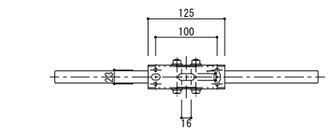


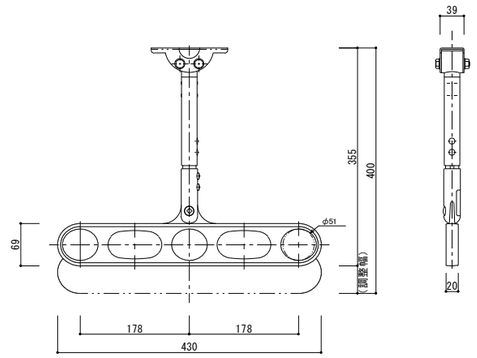




物干金物　詳細図　（１階　救急消毒室：１セット）　S=1/5

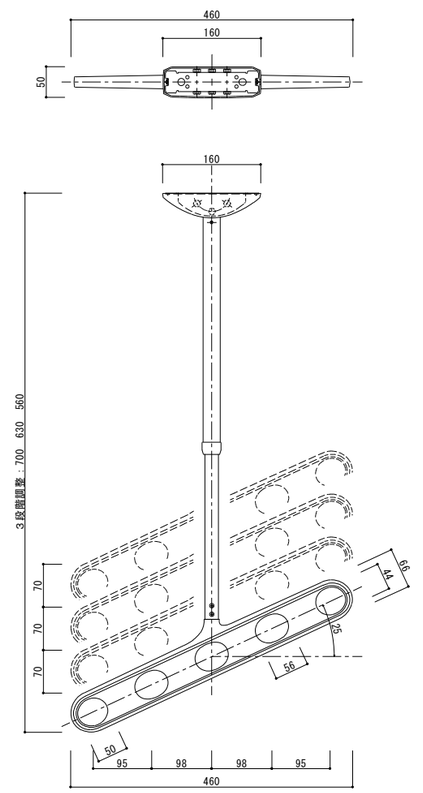
川口技研：ホスクリーン　ＺＰ－１０４型　同等品以上





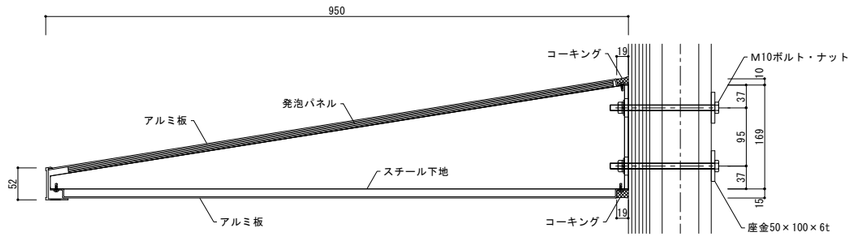
物干金物　詳細図　（２階　バルコニー：１セット）　S=1/5

川口技研：ホスクリーン　ＺＡＮ－０６５０－ＳＴ　同等品以上



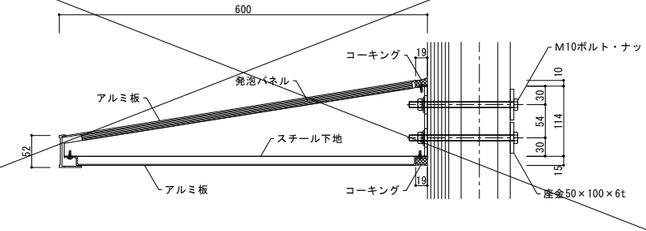
アルミ庇 D=950　詳細図　S=1/5

共和：ＡＦ９５ステンカラー　同等品以上

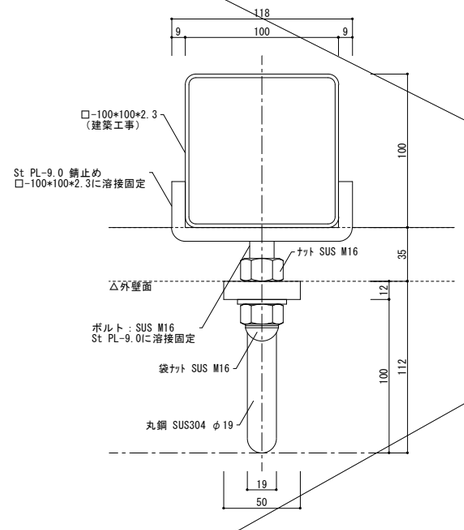


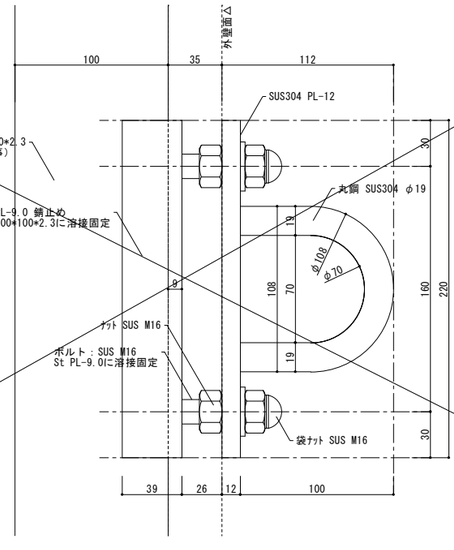
アルミ庇 D=950　詳細図　S=1/5

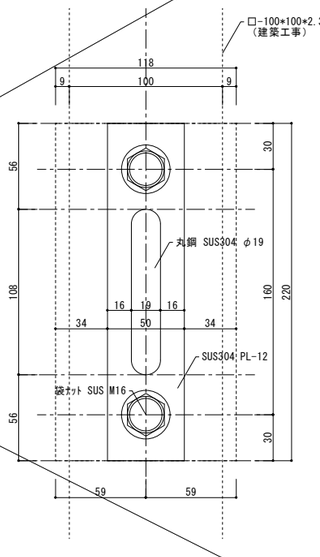
共和：ＡＦ９５ステンカラー　同等品以上



バルコニー　ロープフック　詳細図（２ヶ所）　S=1/2



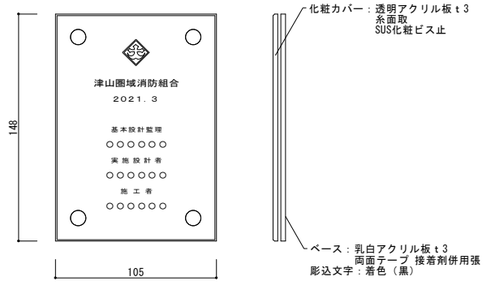




(A3=A1縮小50%)

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査	図面番号 A
図面名	雑工事詳細図１　S=1/2, 1/5, 1/20				38
一級建築士事務所（有）芦田設計	県知事登録第１２１５３号	一級建築士	登録第９９０５３号	芦田圀廣	

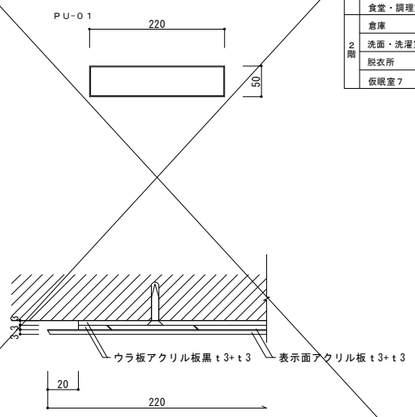
竣工銘板　詳細図（1ヶ所）　S=1/2



室名札(平)　詳細図（10ヶ所）　S=1/2，1/5

室名札(平)：杉田ｴｰｽ ﾊﾞﾌﾞﾘｯｸｻｲﾝ(220*50)　同等品以上

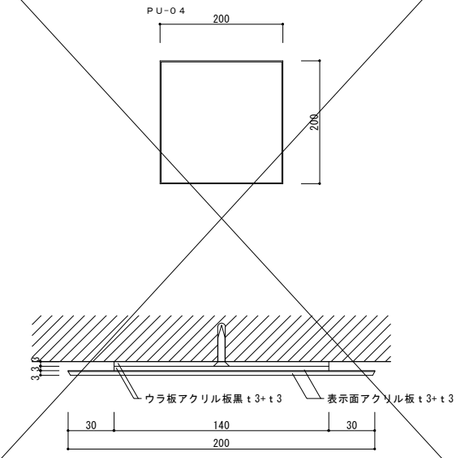
	室　名	ヶ所
1階	油庫	1
	防災倉庫	1
	救急消毒室	1
	階段下収納	1
	書庫	1
	食堂・調理室	1
2階	倉庫	1
	洗面・洗濯室	1
	脱衣所	1
	仮眠室7	1



室名札(平ピクト)　詳細図（３ヶ所）　S=1/2，1/5

室名札(平ﾋﾟｸﾄ)：杉田ｴｰｽ ﾊﾞﾌﾞﾘｯｸｻｲﾝ(200*200)　同等品以上

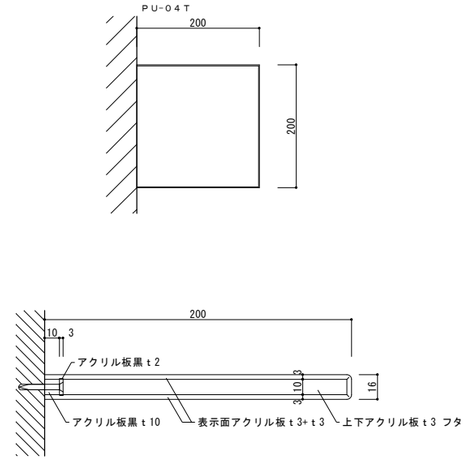
室　名	ヶ所
1階　WC小	1
2階　WC	2



室名札(突出ピクト)　詳細図（１ヶ所）　S=1/2，1/5

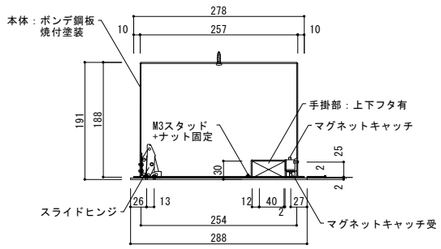
室名札(突出ﾋﾟｸﾄ)：杉田ｴｰｽ ﾊﾞﾌﾞﾘｯｸｻｲﾝ(200*200)　同等品以上

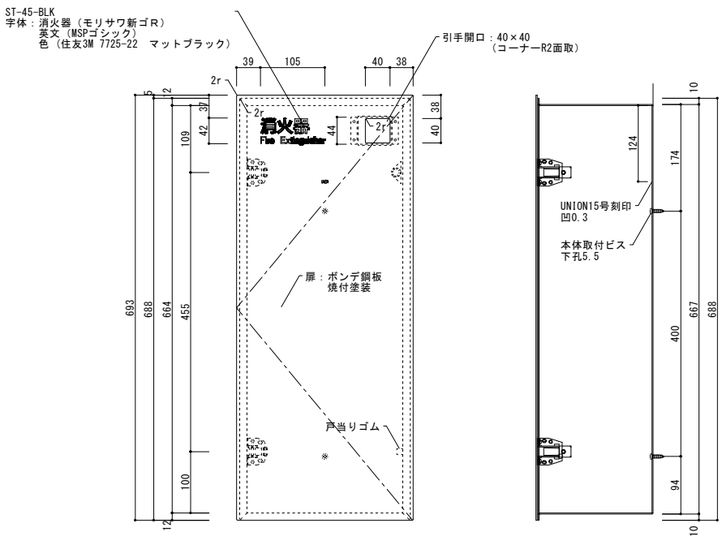
室　名	ヶ所
1階　WC多目的	1



埋込型消火器ボックス　詳細図　S=1/5

ユニオン：ＵＦＢ－１Ｆ－２７２０　同等品以上





対応シール品番　ST-45-BLK

対応ブラケット品番　BRN-0030

ボックス型ブラケット品番　BRN－0030-B

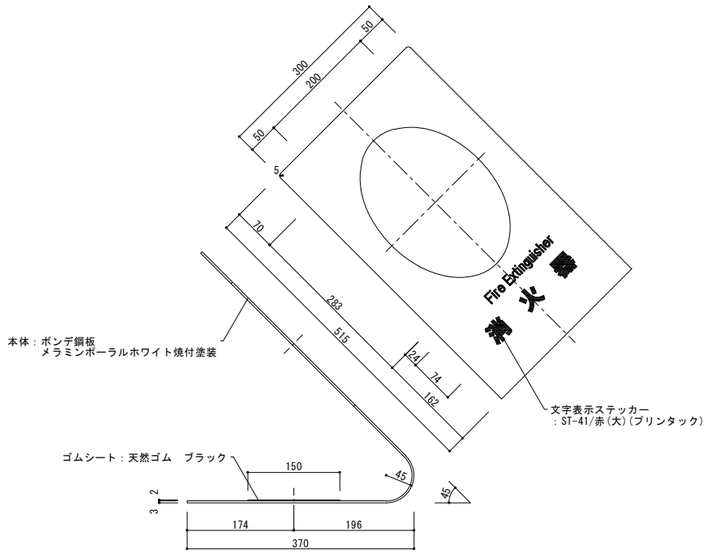
切カキ　W271×D202×H682

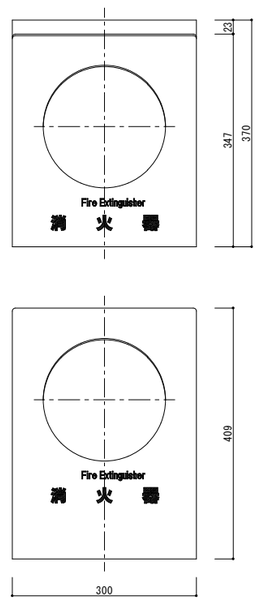
U指定色（本体、扉）：ポーラルホワイト　CN-90（2分艶）
U指定色（引手内部）：レッド　2005年C版　C05-40X(5R4/14)2分艶

表示ステッカーは製品に貼付済

床置型消火器ボックス　詳細図　S=1/5

ユニオン：ＵＦＢ－３Ｆ－３０７－ＰＷＨ　同等品以上

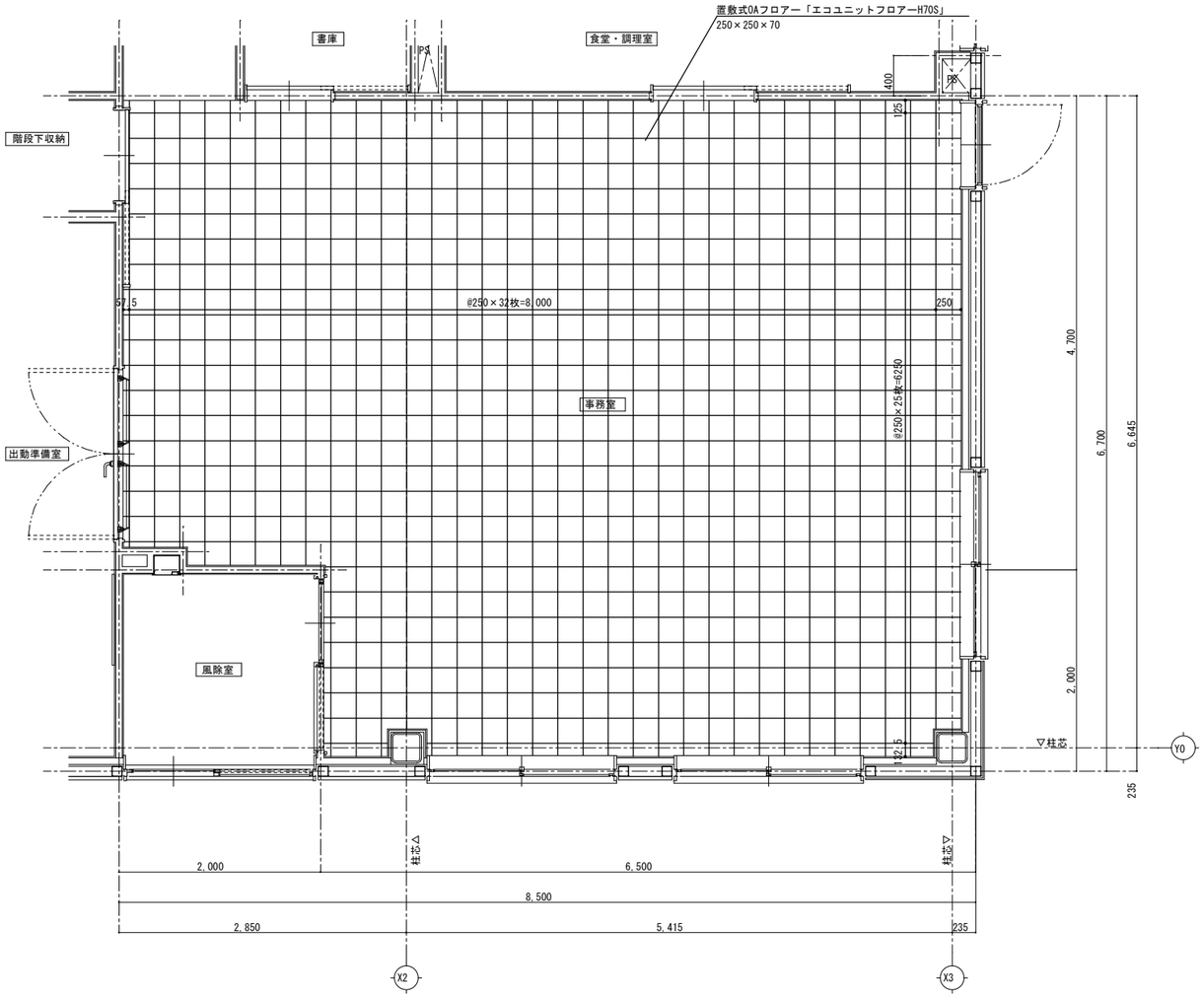




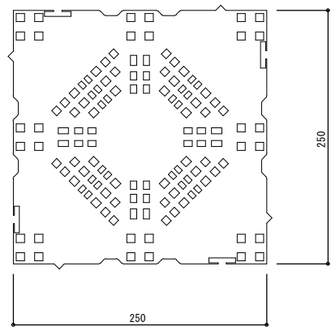
文字表示ステッカー	ST-41/赤(大) プリンタック

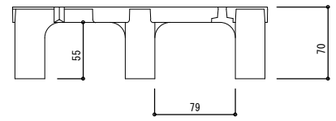
（A3=A1縮小50%）

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査	図面番号 A／39
図面名	雑工事詳細図２　S=1/2,1/5				
一級建築士事務所（有）芦田設計	県知事登録第１２１５３号	一級建築士	登録第９９０５３号	芦田圀廣	



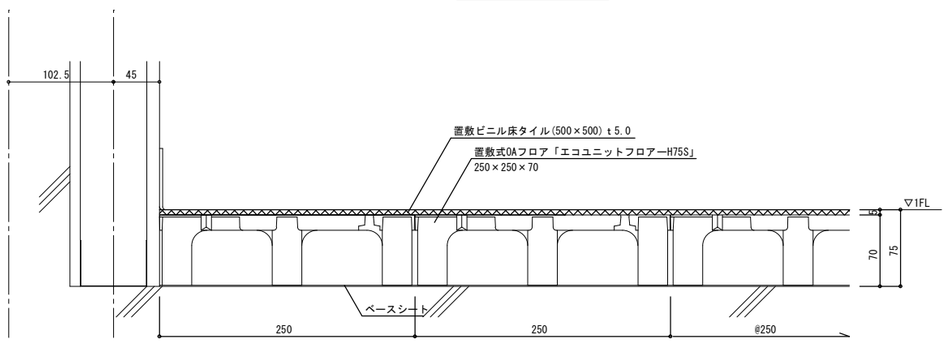
床 伏 図　　S=1/30

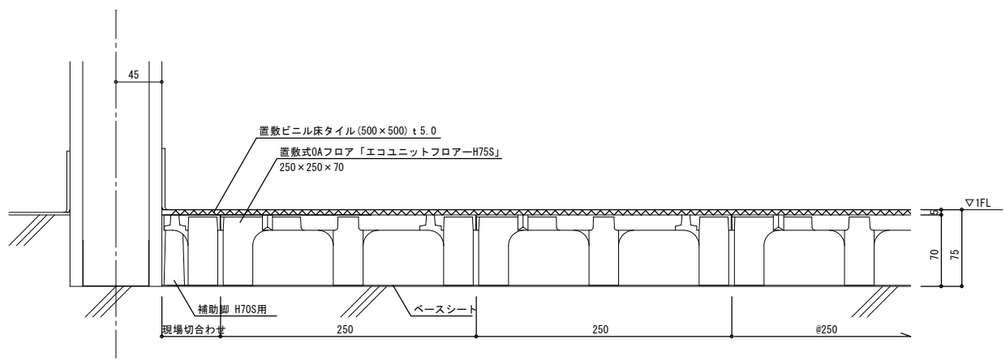




パネル詳細図　　S=1/3

エコユニットフロアーパネル H70S	
寸法	250×250×70
材質	リサイクルPP樹脂
静荷重試験	3000N荷重時の変位量≦5.0mm 残留変位量≦3.0mm 最大荷重値：4000N以上
衝撃試験	残留変位量≦3.0mm 外観損傷の異常なし
ﾛｰﾘﾝｸﾞﾛｰﾄﾞ試験	荷重値：700N 残留変位量≦3.0mm 外観損傷の異常なし
耐震性能	オモリ200kg×1.0G パネルの異常なし
	オモリ350kg×0.6G パネルの異常なし





断面詳細図　　S=1/3

(A3=A1縮小50%)

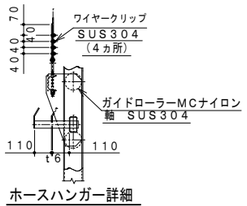
工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査	図面番号 A
図面名	OAフロアー詳細図　S=1/30・1/3				40
一級建築士事務所 県知事登録第１２１５３号 （有）芦田設計		一級建築士 登録第 ９９０５３ 号 芦田圀廣			

仕様概略

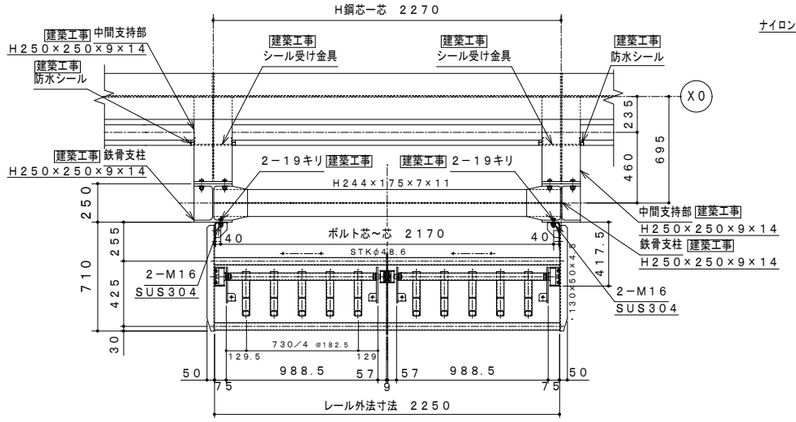
項目	仕様	各部材質及び防錆処理	
型式	FHD200（分割昇降型）	ガイドレール	耐蝕アルミ合金 A6063S-T5 ・125×65×6（両側2本） ・80×40×4（中間2本）
台数	1 基		
外形寸法	2250W×1213OH	ガイドローラ	MCナイロン 軸SUS304
ホース収容本数	5本×2×2列 計20本	レールブラケット	SS材 溶融亜鉛メッキ
巻上能力	20kg×10＝200kg／列	ホースハンガー	同 上
作動	各列単独昇降	ウインチボックス	骨格SS材溶融亜鉛ﾒｯｷ、外板SUS
昇降速度	7.8m/min 60HZ	同上内部機器	生 地 の ま ま
電動機	0.75KW ブレーキ付 2台	吊りワイヤー	2×φ6−2列 ステンレスワイヤー
電源	220V 3相 60HZ	ボルト類	ｵｰﾙｱﾝｶｰ共全てSUS304
操作回路電源	AC 24V		

建築工事
1）基礎工事
2）鉄骨工事
3）中間支持部工事

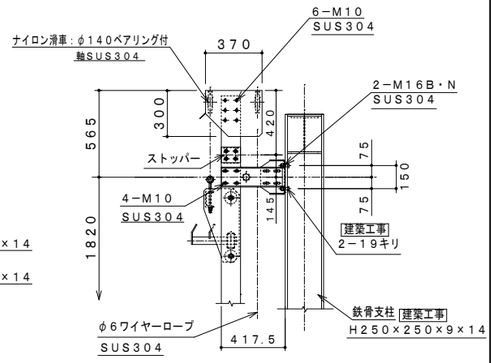
電気工事
1）1次電源工事



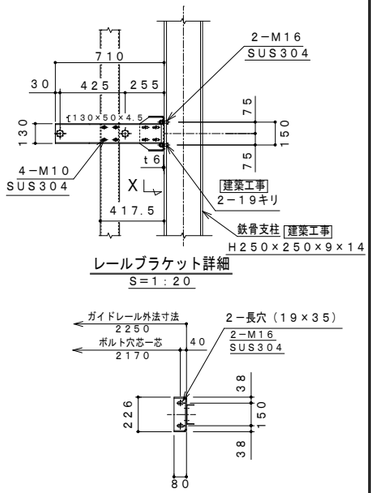
ホースハンガー詳細
S＝1：20



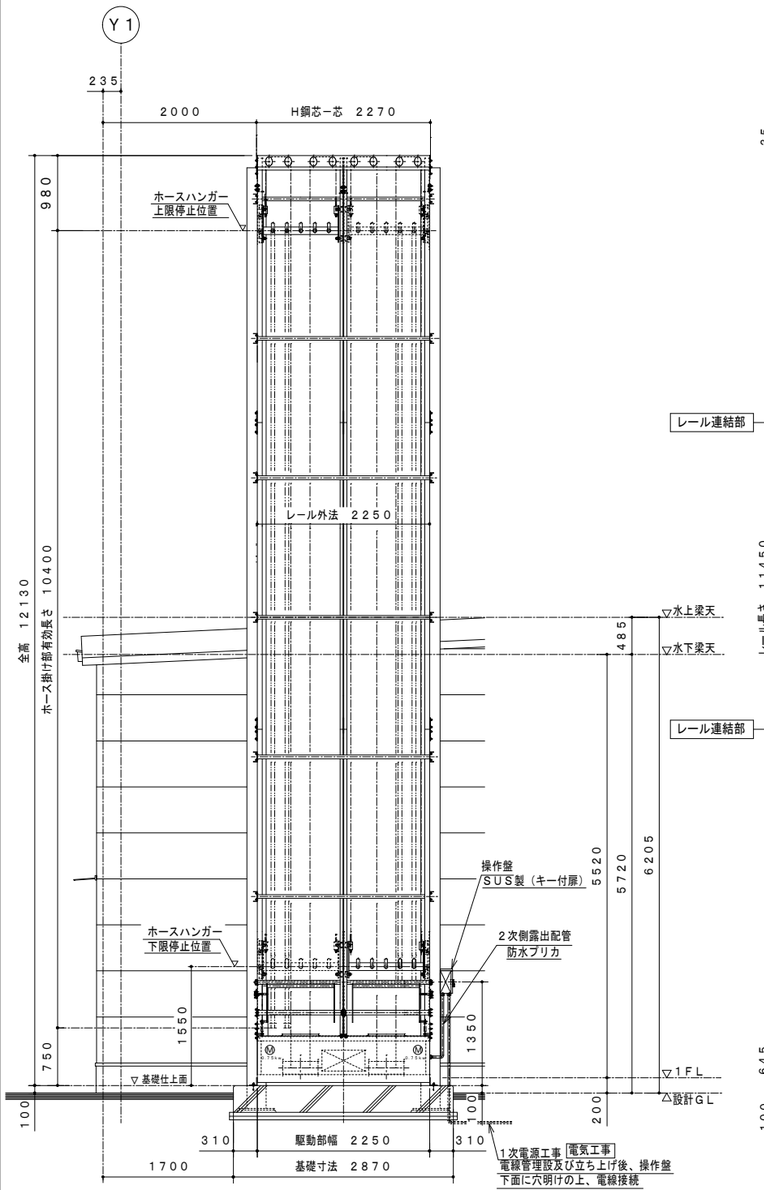
ハンガー及びレールブラケット平面 S＝1：20



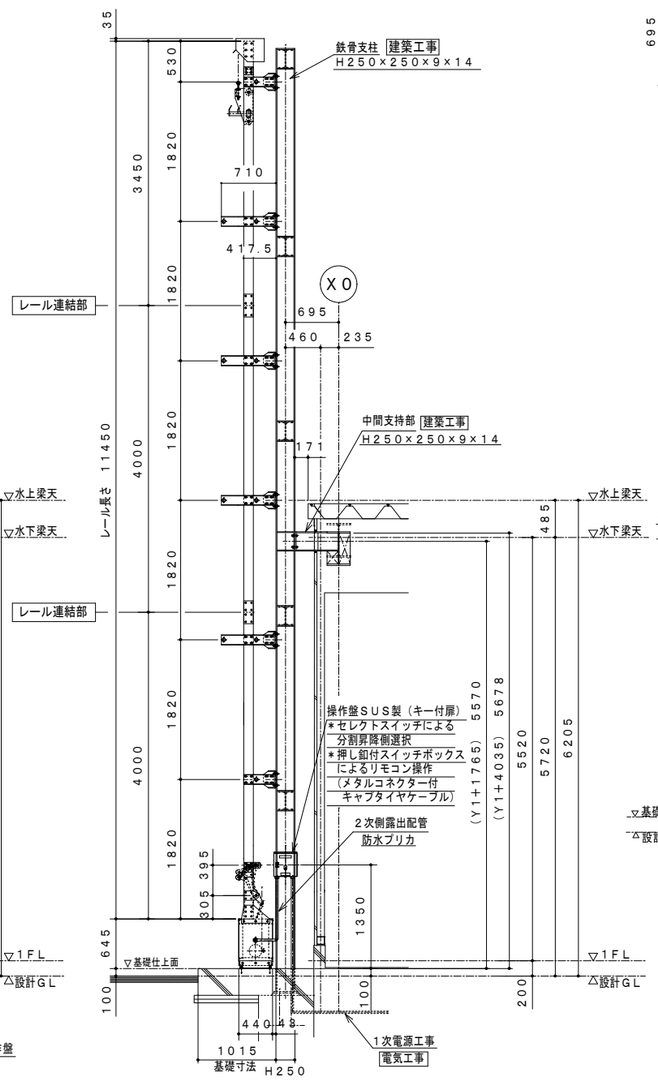
滑車ボックス詳細 S＝1：20



レールブラケット詳細
S＝1：20

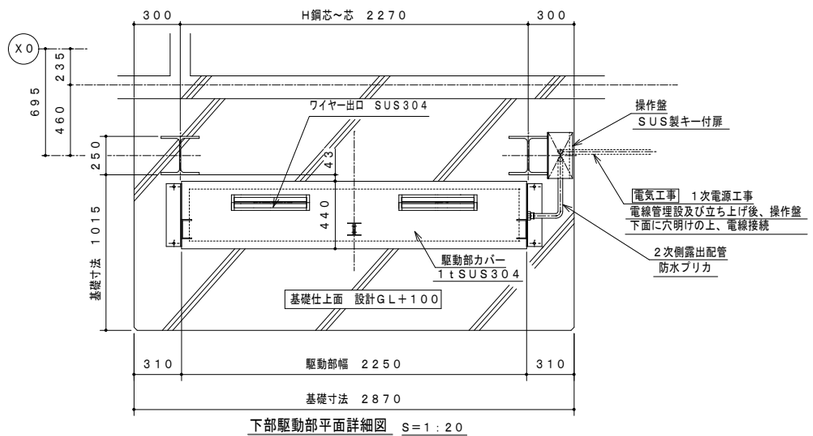


正面図



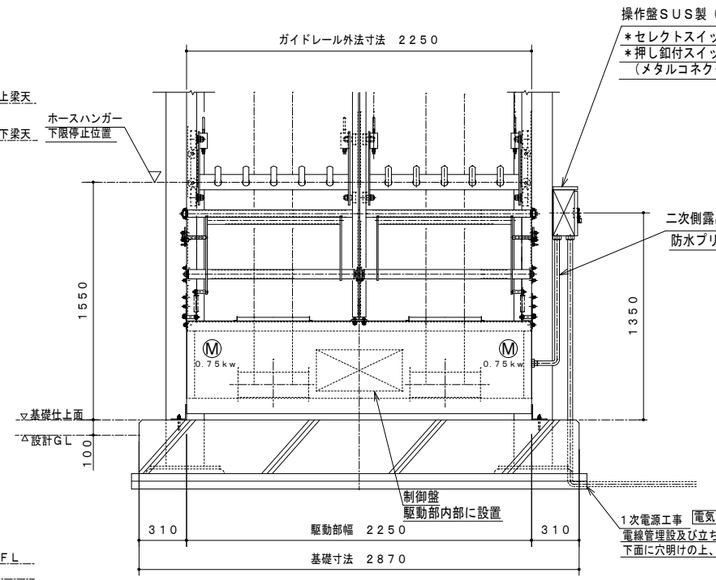
側面図

ホースリフターFHD200
組立図 S＝1：40

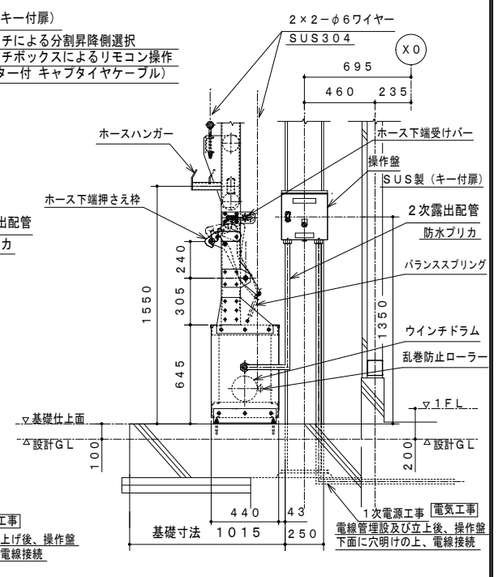


下部駆動部平面詳細図 S＝1：20

X矢視 S＝1：20



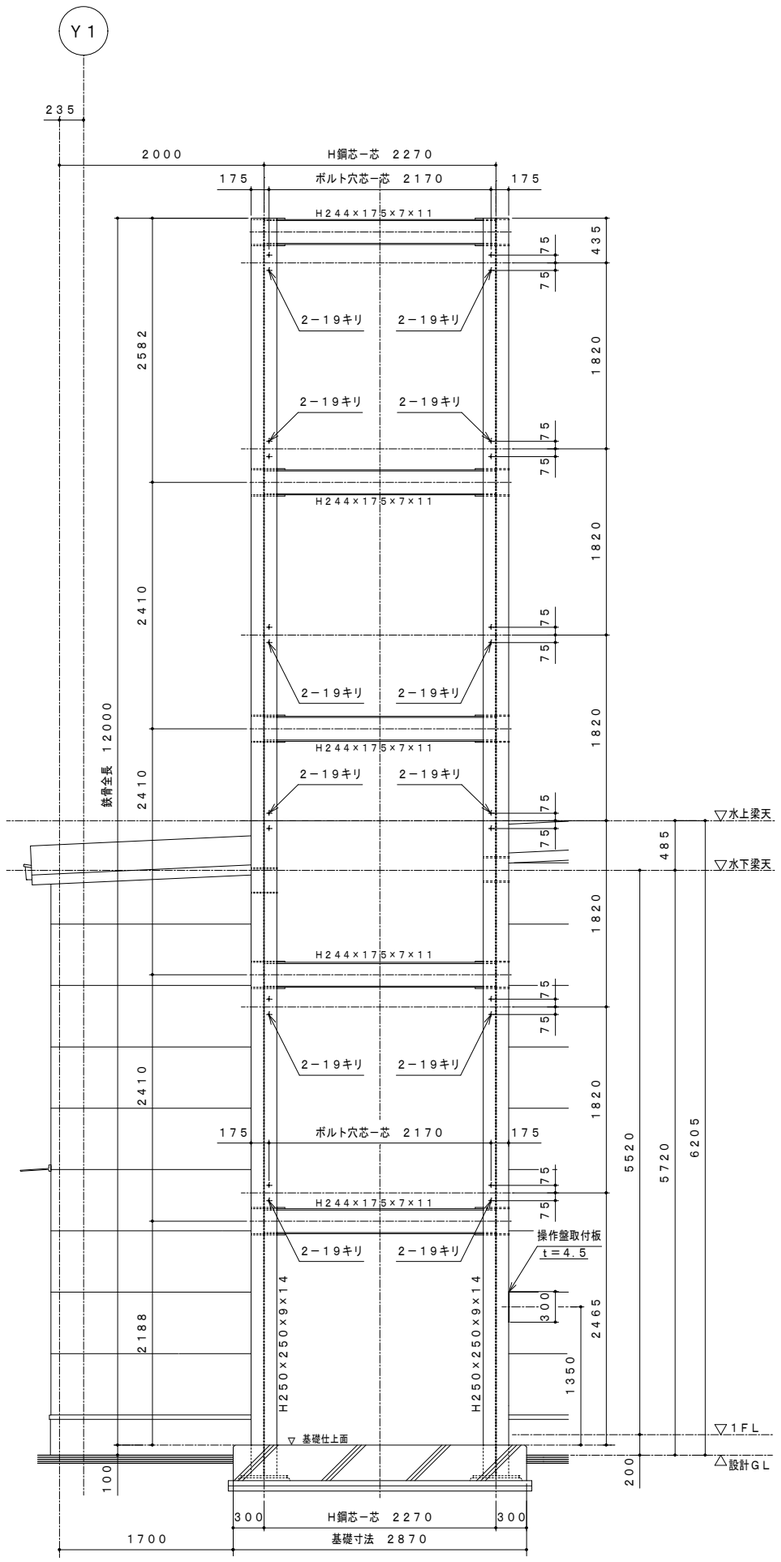
下部駆動部正面詳細図 S＝1：20



下部側面詳細図 S＝1：20

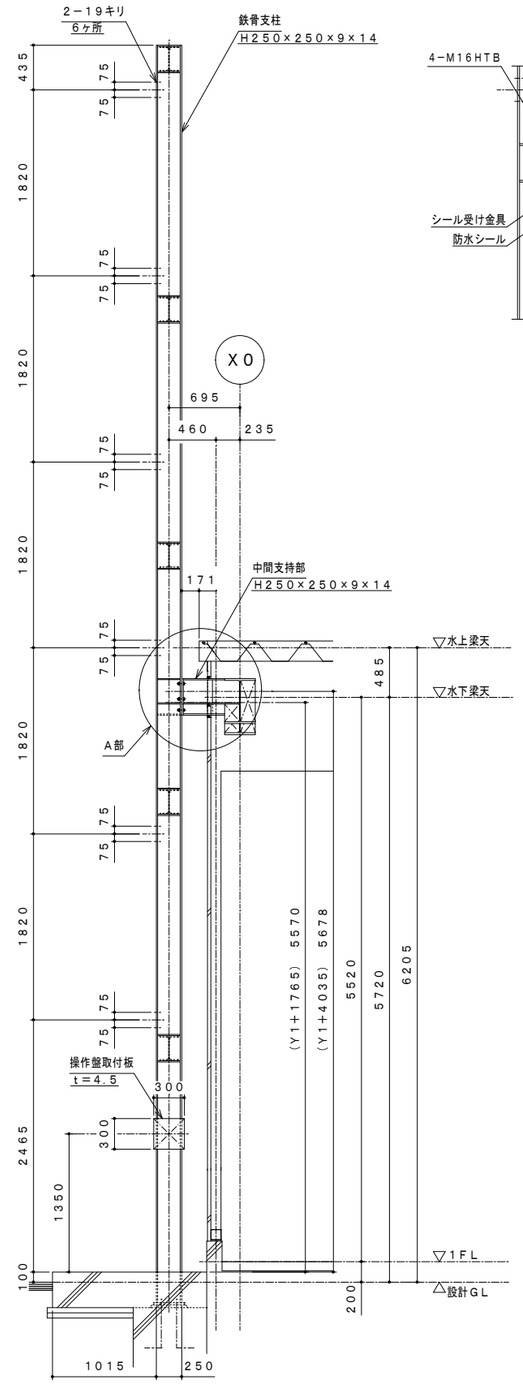
（A3=A1縮小50%）

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査	図面番号 A
図面名	ホースリフター組立及び各部詳細図 S=1/40, 1/20				41
一級建築士事務所	県知事登録第12153号 （有）戸田設計	一級建築士	登録第 99053 号	戸田圀廣	

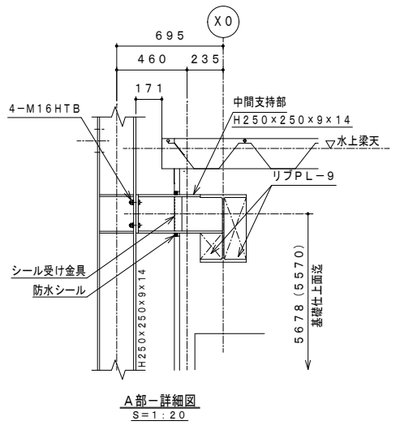


正 面 図

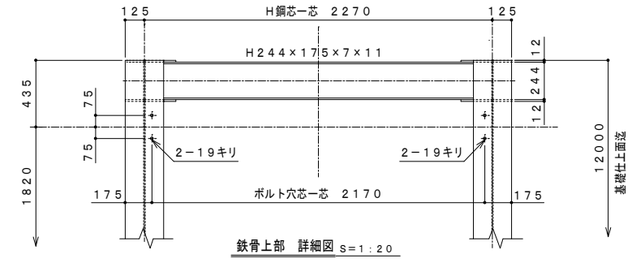
ホースリフターFHD200
鉄骨支柱穴あけ位置図 S＝1：30



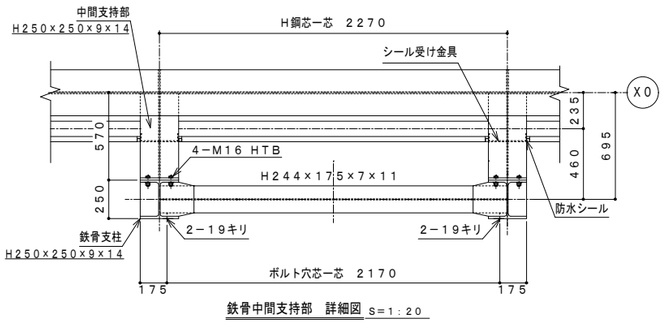
側 面 図



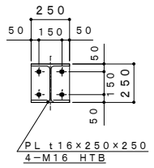
A部ー詳細図
S＝1：20



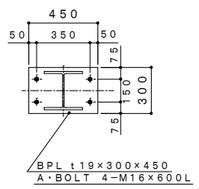
鉄骨上部 詳細図 S＝1：20



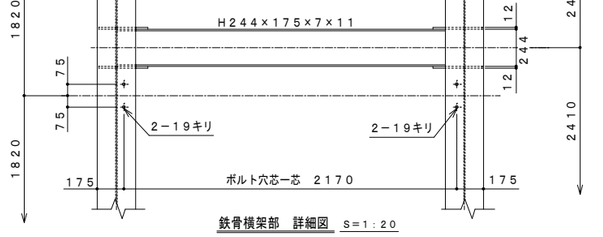
鉄骨中間支持部 詳細図 S＝1：20



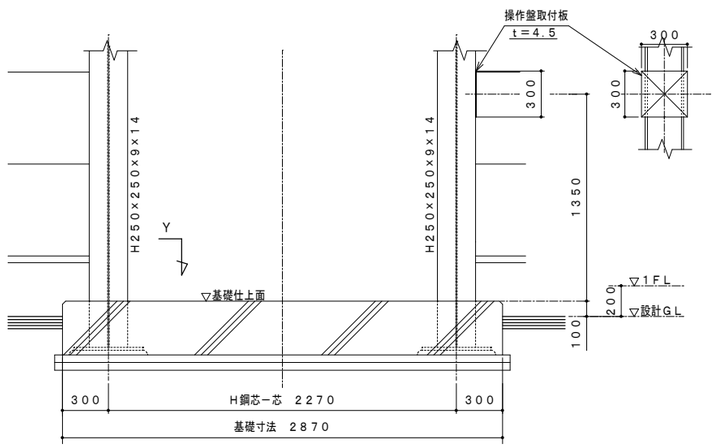
X－矢視図
S＝1：20



Y－矢視図
S＝1：20



鉄骨横架部 詳細図 S＝1：20



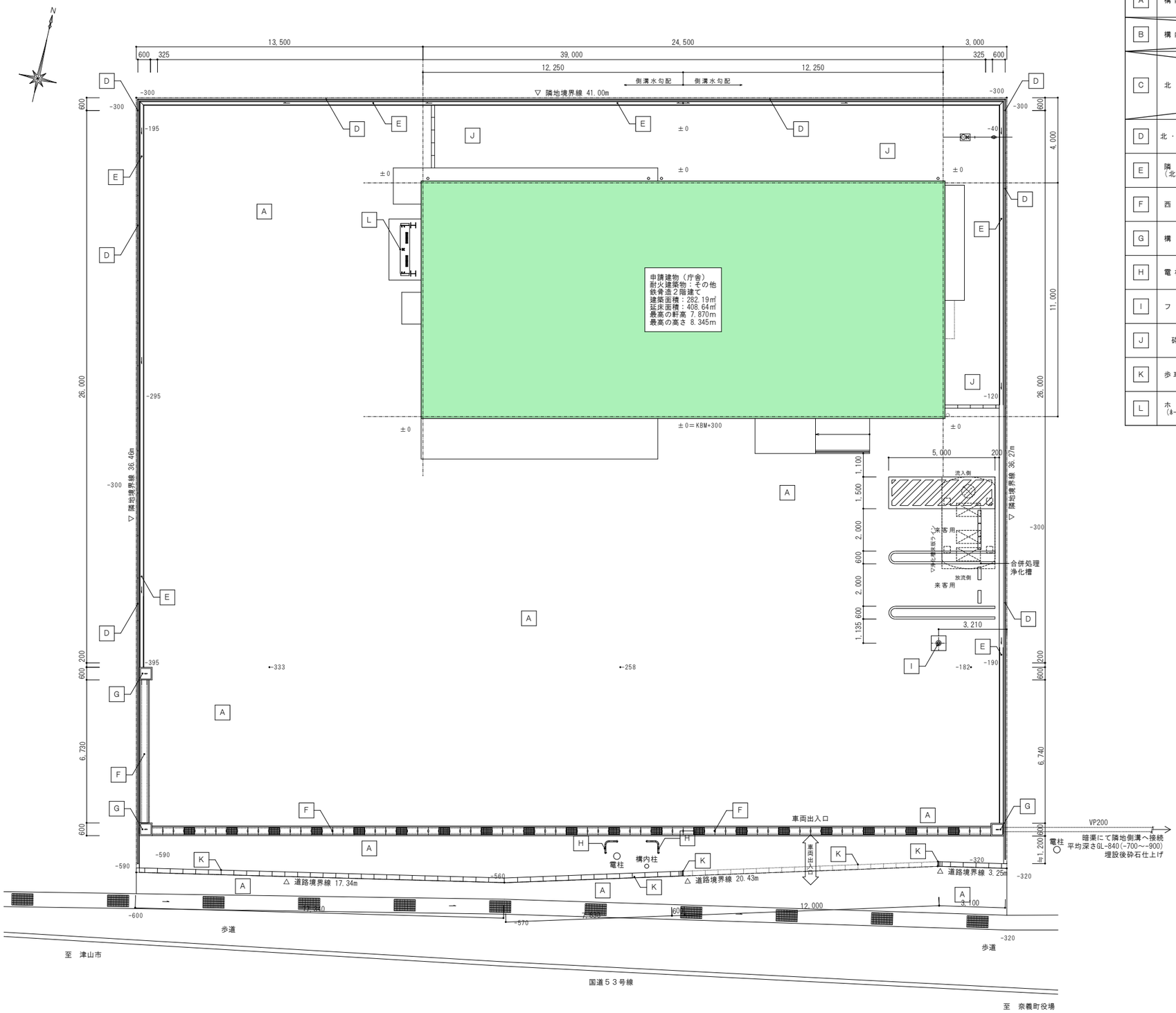
鉄骨下部 詳細図 S＝1：20

（A3=A1縮小50%）

全て 建築工事 のこと

溶融亜鉛メッキ処理のこと
2種 HDZ55

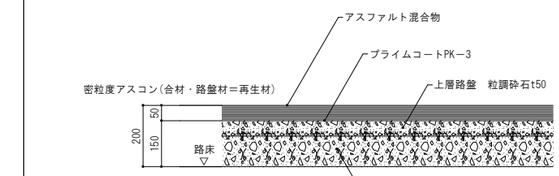
工事名 津山圏域消防組合日本原分署新築工事		計画	設計	審査	図面番号 A
図面名 ホースリフター鉄骨支柱穴あけ位置図 S=1/20, 1/30					
一級建築士事務所 県知事登録第12153号 （有） 戸田設計	一級建築士 登録第 99053 号 戸田圓廣				42



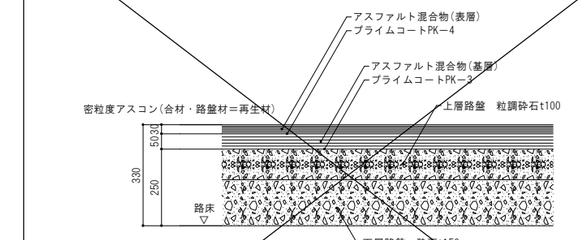
外構配置図　S=1/100　　敷地面積 1,500.0㎡　　岡山県勝田郡奈義町滝本1546-2

記号	適用箇所	仕上内容
A	構内舗装（一般部）	一般部密粒度アスコンアスファルト舗装 A-5-15(再生材)　不陸整正及び路床整正共　970㎡(Jw_win Ver7.11にて測定) （南側道路境界線と道路側溝までの間も含む） 駐車スペース区画線引き 線幅100（U型区画線、デルタマーキング、車いすマーキング） 車止めブロック(W600×D150×H100程度、再生ゴムチップ製品、アンカー固定タイプ)
B	構内舗装（車庫前）	車庫前密粒度アスコンアスファルト舗装 A-8 25(再生材)　不陸整正及び路床整正共　302㎡(Jw_win Ver7.11にて測定)
C	北側フェンス	防風フェンス(朝日スチール工業㈱ 防風柵HP-3型遮へい率60%(溶融亜鉛メッキ仕上(HDZ40))同等以上)　39.0m 基礎コンクリート打放し(A種)補修 D900×W900×H1,100(24N-18-20、主筋8-D16 H00P-D13@150、出隅面取(面20)　14.0箇所 捨てコンクリートt50、再生砕石敷t200(転圧後)) 基礎北側土留め兼用コンクリート壁打放し(A種)補修 W150×H1,250　41.0m (24N-18-20、D10@200タテヨコ共(基礎と緊結、端部筋D13、ベース筋D13@200)、出隅面取(面20) 捨てコンクリートt50、再生砕石敷t100(転圧後)) 基礎天端全面土間コンクリート W900×t150(24N-18-20、D10@200タテヨコ共(基礎と緊結)　36.6㎡ 出隅面取(面20)、再生砕石敷t150(転圧後))
D	北・東・西側フェンス	メッシュフェンス(朝日スチール工業㈱ UN-A800S-50同等以上)一部北側折返し共　112m 基礎コンクリート壁打放し(A種)補修(土留め兼用) W150×H930(24N-18-20、D10@200タテヨコ共(端部筋D13)、ベース筋3-D13、ベース筋D13@200、斜筋D13@200)　112m 出隅面取(面20)、捨てコンクリートt50、再生砕石敷t100(転圧後))
E	隣地境排水側溝（北側・東側・西側）	上ぶた式U形側溝(U字溝)150(捨てコンクリートt50、再生砕石敷t100(転圧後))　101m
F	西南排水側溝	落ちふた式U形側溝(３種 PU3 JIS A5372)250(捨てコンクリートt50、再生砕石敷t200(転圧後))　46.2m 敷地南側のみ：指定部コンクリート蓋3種250(PC3)　29.5m 敷地南側のみ：スチール製グレーチング(T-25)、ノンスリップタイプ、SS400+STKR400R　10.0m
G	構内溜桝	既製品道路用溜桝500(カワノ工業㈱ 道路用溜桝本体(T-25)500A同等以上)、インバートコンクリート(無筋)t50以上×460×460 基礎版t100(カワノ工業㈱ プレキャスト基礎版(500用)同等以上)、再生砕石敷t200(転圧後))　3.0箇所 道路用溜桝500用グレーチング蓋(カワノ工業㈱ 道路用グレーチング溜桝ふた(T-25)500すべり止め加工固定式(普通目)同等以上) 前面国道側溝への接続は機械設備にて
H	電柱保護バリカー	コーナーアーチ型バリカー 60.5φ W600×W600×H650(㈱サンポール FAA-7UR6-650(Y)同等以上)　2.0箇所 既製品基礎コンクリートW250×D250×H250(捨てコンクリートt50、再生砕石敷t100(転圧後))　4.0箇所
I	フラッグポール	アルミ製ロープ型旗ポール H9.00(㈱サンポール FP-9U同等以上)　1.0箇所 基礎コンクリート打放し(A種)補修 D600×W600×H1,500(天端=GL+300)(24N-15-20、主筋8-D16 H00P-D13@150)　1.0箇所 出隅面取(面20)、捨てコンクリートt50、再生砕石敷t200(転圧後)
J	砕石敷き	B種　t=60　転圧　コンクリート縁石=150×150×600
K	歩車道境界ブロック	歩車道境界ブロック(両面R)JIS A5371 B種　41.0m　(出入り口部分12.0mは同材片面Rを舗装天-10で埋設) 出入口両サイド歩車道境界ブロック(サイドB)　2.0箇所(1.8m) 歩車道境界ブロック基礎(調整モルタルt20、基礎コンクリートt100、再生砕石敷t100(転圧後)　41.0m
L	ホースリフター（ﾎｰｽﾘﾌﾀｰ詳細図による）	電動式ホースリフター(ホース収納5本×2×2列 計20本掛け)(流通産業㈱　FHD200型(分割昇降式)同等以上)　1.0箇所 ホースリフター取付用鉄骨(中間支持部鉄骨含む)全て溶融亜鉛メッキ処理(2種 HDZ55) 基礎耐圧版スラブt350金線押え(24N-15-20、D13@200タテヨコ共ダブル、出隅面取(面20))

外構配置図記号 A 構内舗装(一般部)詳細図　　S=1/10



外構配置図記号 B 構内舗装(車道前)詳細図　　S=1/10



※アスファルト舗装(一般部・車庫前共)における提出書類
1. 温度管理表（温度管理時の温度数値写真を添付すること。）
2. 出来高管理表（管理写真を添付すること。）
3. 路床　プロフローリング試験
4. 路盤現場密度測定試験（3箇所）及び試験結果報告書
5. 切取り試験（3箇所）及び試験結果報告書
6. 試験成績表（アスファルト抽出試験、加熱骨材フルイ分け試験等）

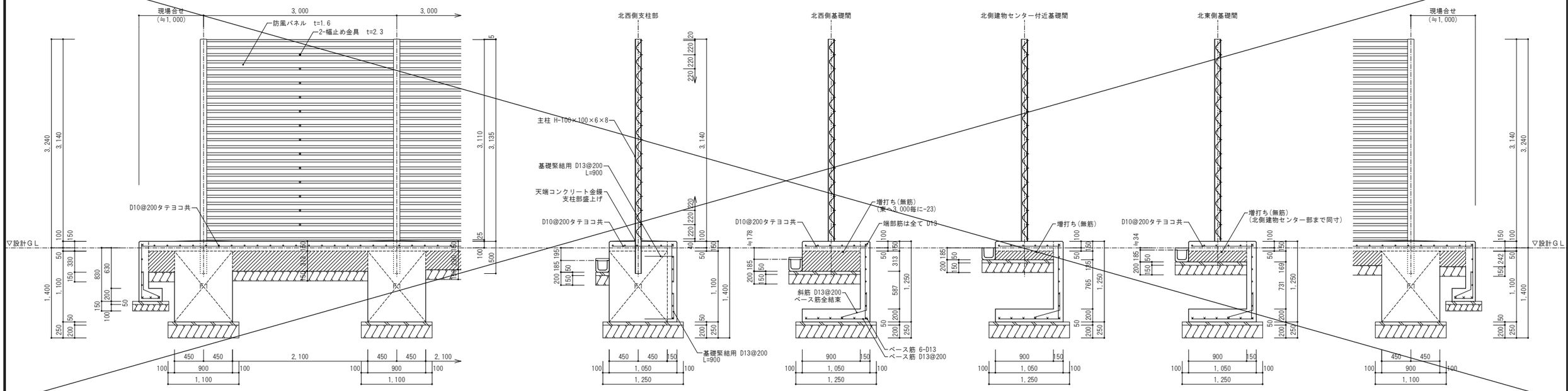
(A3=A1縮小50%)

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査	図面番号 A
図面名	外構配置図　S=1/100・1/10				
一級建築士事務所	県知事登録第１２１５３号 （有）芦田設計	一級建築士	登録第 ９９０５３ 号	芦田國廣	43

外構配置図記号 C 北側フェンス詳細図 ・ 外構配置図記号 E 隣地境排水側溝(北側)詳細図

S=1/30

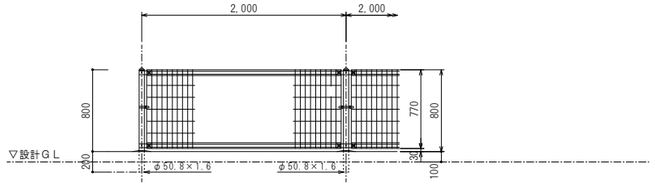
朝日スチール工業㈱ 防風柵HP-3型遮へい率60%(溶融亜鉛メッキ仕上(HDZ40))同等以上



外構配置図記号 D 北側・東側・西側フェンス詳細図 ・ 外構配置図記号 E 隣地境排水側溝(北側・東側・西側)詳細図

S=1/30

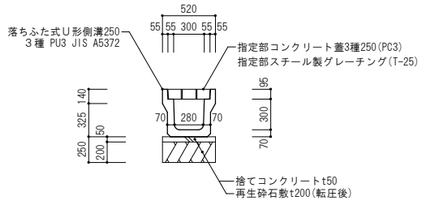
朝日スチール工業㈱ UN-A800S-50同等以上



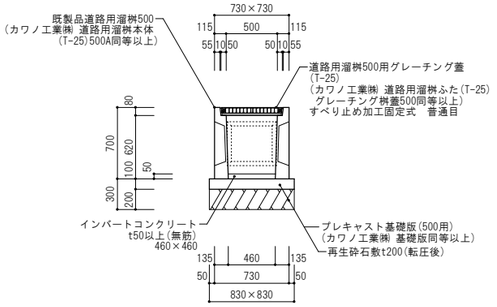
(A3=A1縮小50%)

工事名 津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査	図面番号	A
図面名 外構詳細図1 S=1/30					44
一級建築士事務所 県知事登録第12153号 (有) 芦田設計	一級建築士 登録第 99053 号 芦田圀廣				

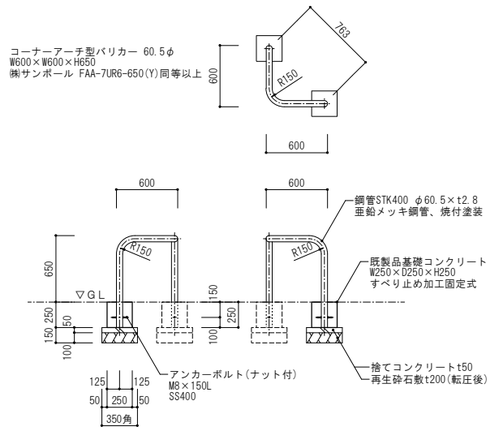
外構配置図記号 F 東西南車通行部排水側溝詳細図　S=1/30



外構配置図記号 G 構内溜桝詳細図　S=1/30

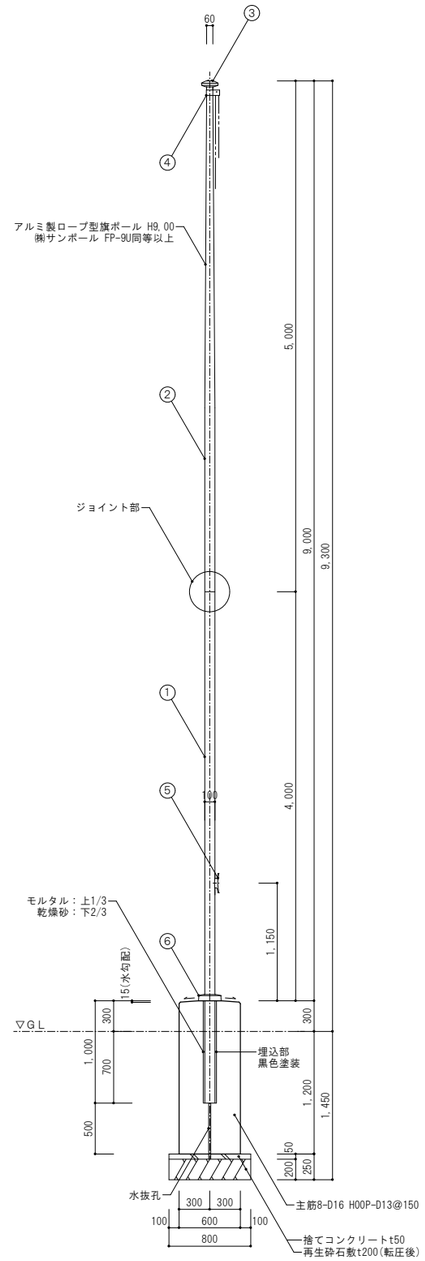


外構配置図記号 H 電柱保護バリカー詳細図　S=1/30

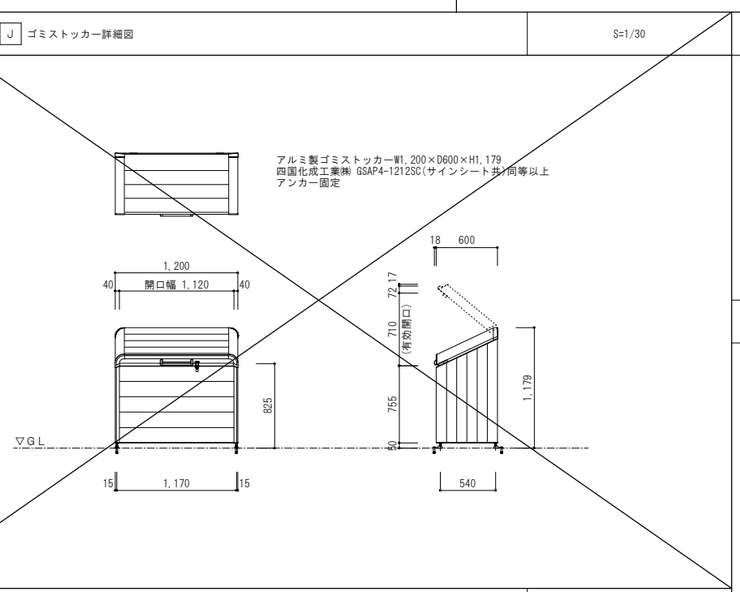


外構配置図記号 I フラッグポール詳細図　S=1/30・1/10

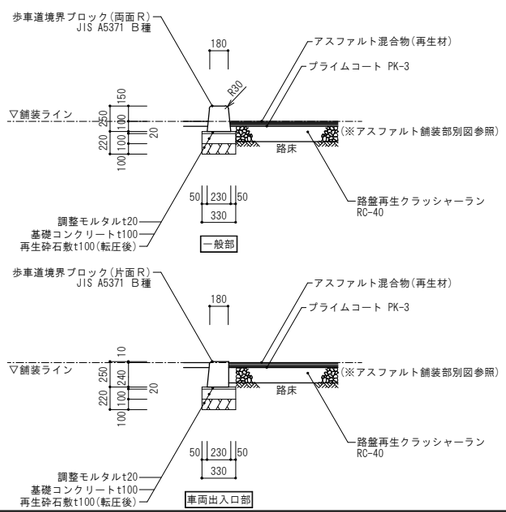
番号	品　名	数量	材　質	備　考
①	ポール（下段）	1	アルミ合金継目無管	ＹＢＺＴＤ－Ｔ８	φ100×t3.8H.L 後アルマイト処理クリアー電着塗装
②	ポール（上段）	1	アルミ合金継目無管	ＹＢＺＴＤ－Ｔ８	φ100×t2.3H.L 後アルマイト処理クリアー電着塗装
③	キャップ	1	アルミ合金／ポリプロピレン	Ａ１０５０Ｐ／ＰＰ	アルマイト処理
④	滑車ホルダー	1	アルミ合金	Ａ６０６３Ｓ－Ｔ５	焼付塗装
⑤	クリート	1	アルミ合金ダイカスト	ＡＤＣ６	バフ研磨後クリアー焼付塗装
⑥	グランドセット	1	アルミ合金ダイカスト	ＡＤＣ１２	塗装仕上げ



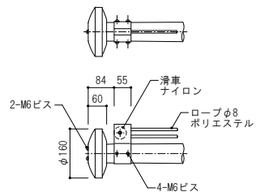
外構配置図記号 J ゴミストッカー詳細図　S=1/30



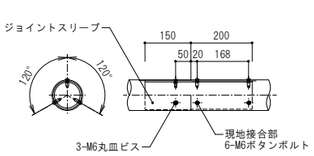
外構配置図記号 K 歩車道境界ブロック詳細図　S=1/30



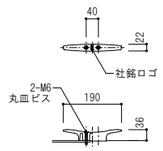
冠頭部詳細図　S=1/10



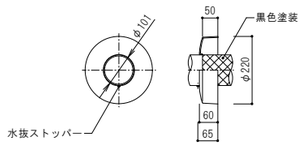
ジョイント部詳細図　S=1/10



クリート詳細図　S=1/10

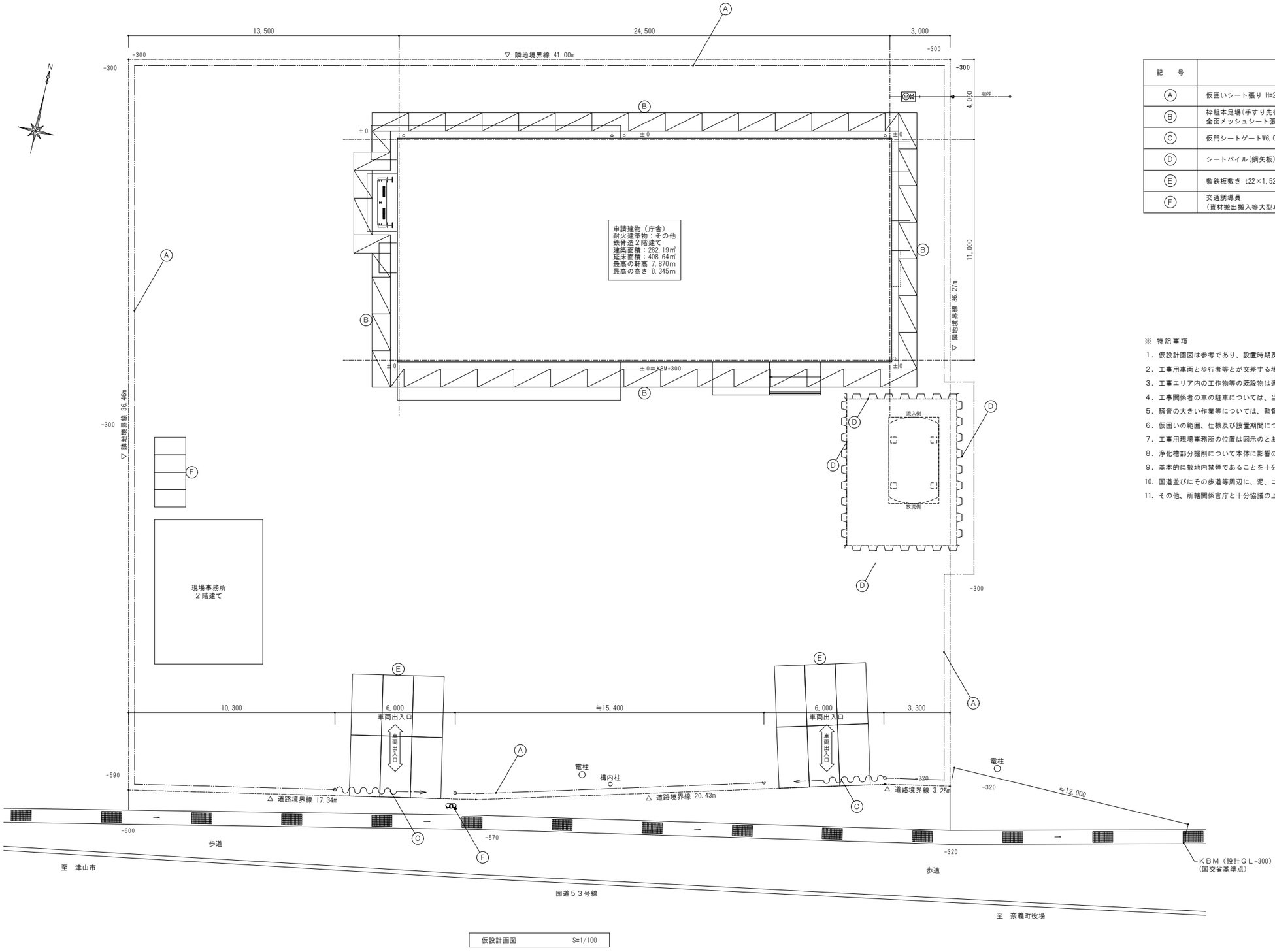


グランドセット詳細図　S=1/10



(A3=A1縮小50%)

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査	図面番号 A
図面名	外構詳細図2　S=1/30・1/10				
一級建築士事務所	県知事登録第１２１５３号 （有）芦田設計	一級建築士	登録第 ９９０５３ 号	芦田圀廣	45



記　号	仮　設　内　容
Ⓐ	仮囲いシート張り H=2,000　計140.0m
Ⓑ	枠組本足場(手すり先行方式)900 全面メッシュシート張り
Ⓒ	仮門シートゲートW6,000×H1,800　計2.0箇所
Ⓓ	シートパイル(鋼矢板)Ⅲ型　4面
Ⓔ	敷鉄板敷き t22×1,524×3,048　計12.0枚(任意)
Ⓕ	交通誘導員 (資材搬出搬入等大型車の通行時は必ず)

※ 特記事項

1. 仮設計画図は参考であり、設置時期及び範囲等については、着手前に監督員・関係者と十分協議の上、決定すること。
2. 工事用車両と歩行者等とが交差する場合は、適宜交通整理員を配置する等の安全対策を講じること。
3. 工事エリア内の工作物等の既設物は適切な養生を行い、破損した場合は速やかに現状復旧を行うこと。
4. 工事関係者の車の駐車については、当該敷地内に駐車すること。
5. 騒音の大きい作業等については、監督員・関係者と十分協議の上、調整を行うこと。
6. 仮囲いの範囲、仕様及び設置期間については、事前に監督員・関係者と協議を行うこと。
7. 工事用現場事務所の位置は図示のとおりとするが、監督員・関係者と協議の上、決定すること。
8. 浄化槽部分掘削について本体に影響の無いよう十分考慮の上、施工方法等について監督員・関係者と協議の上、決定すること。
9. 基本的に敷地内禁煙であることを十分理解し、喫煙について監督員・関係者と十分協議の上、決定すること。
10. 国道並びにその歩道等周辺に、泥、ゴミ等で汚すことのないよう十分配慮の上、施工すること。
11. その他、所轄関係官庁と十分協議の上、施工すること。

仮設計画図　S=1/100

(A3=A1縮小50%)

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事		計	設	審	図面番号 A
図面名	仮設計画図　S=1/100		画	計	査	
一級建築士事務所	県知事登録第１２１５３号 （有）　芦　田　設　計	一級建築士	登録第 ９９０５３ 号	芦田圀廣		46

新 構造設計特記仕様　その１

・修正箇所は下線を引くこと
適用は　■　印を記入する。

１．本仕様の適用範囲

（１）本仕様の適用範囲
本特記仕様および配筋標準図は、設計基準強度が 18 N/mm²以上 60 N/mm²以下のコンクリートと、JIS G 3112に規定するSD295A、SD295B、SD345、SD390およびSD490の鉄筋コンクリート用棒鋼を用いる高さが 60 m 以下の鉄筋コンクリート造、鉄骨造等建築物の設計及び工事に適用する。

（２）仕様書等の優先順位
設計図書および仕様書の優先順位は以下による。
①特記仕様
②設計図（伏図、軸組図、部材リスト、詳細図など）
③標準図（鉄筋コンクリート構造配筋標準図など）
④建築工事標準仕様書・同解説（日本建築学会）等

２．建築物の構造内容

（１）建築場所　岡山県勝田郡奈義町滝本地内

（２）工事種別
■新築　□増築　□改築　□　□

（３）構造設計一級建築士の関与　■必要　□必要としない
□　法第20条第二号（ □RC造高さ 20 m超　□S造 4 階建以上　□木造高さ 13 m超　□その他 ）
□

（４）階数
地下　階　地上　階　塔屋　階
地下　階　地上　階　塔屋　階
地下　階　地上　階　塔屋　階

（５）構造種別

構造種別	該当階等	架構特徴等
■鉄筋コンクリート造 (RC)	(基礎)　階～　階	□免震建物
□鉄骨鉄筋コンクリート造(SRC)	階～　階	□制震建物
■鉄骨造 (S)	1　階～ 2 階	□塔状建物
□		□
□		□
□		□

（６）主要用途
□事務所　□共同住宅　□病院　□店舗　□倉庫　■ 庁舎　□

（７）屋上付属物
□キュービクル　kN　□高架水槽　kN　□広告塔　kN　□煙突　m
□太陽光発電設備　□　□　□

（８）設計荷重
(a)主な積載荷重　(N/m²)

室名	床用	架構用	地震用
事務室	2900	1800	800
車庫	9500	4100	4100

(b)1次設計用地震力
Co = 0.2　Z = 0.9　Rt = 1.0　K（地下）=
(c)風荷重
地表面粗度区分　Ⅲ　基準風速　Vo = 30　m/sec
(d)雪荷重
■垂直積雪量　60　cm　□設計用雪荷重　kN/m²　□
(e)特殊の荷重及び仕上材
□エレベーター　kN　基　□受水槽　kN　□エスカレーター
□　□　□　□

（９）構造計算ルート
X方向ルート 3　－（　）　Y方向ルート 3　－（　）

(10) 一次設計時用層間変形角
X方向　1/ 200 rad　Y方向　1/ 200 rad

(11) 付帯工事
□門塀　□擁壁　□駐輪場　□機械式駐車場　□

(12) 特定天井
□有　■無

(13) 屋根、床、壁

材種	型式 厚 その他	使用箇所	仕様・構法
ALC (JIS A 5416)	厚 100	■壁 □床版	□スライド □ボルト止め
押出し成形セメント版			■ロッキング □
□ハーフPca版 □Pca版	厚	□壁 □床版	□
折 版	H= 166 厚 0.8	■屋根 □	□
特殊デッキプレート 大臣認定( )	型式 厚	□屋根 □床版	□

３．使用建築材料表・使用構造材料一覧表

（１）コンクリート（レディーミクストコンクリート JIS Q 1001, JIS Q 1011, JIS A 5308）

階	適用箇所 部位	設計基準強度 Fc = N/mm²	品質基準強度 Fq = N/mm²	スランプ cm (スランプフロー)	比重 γ= kN/m³	備考
	□柱 □壁 □ □梁 □床版 □					
	□柱 □梁 □壁 □床版 □ □					
	□柱 □梁 □壁 □床版 □ □					
	□柱 □梁 □壁 □床版 □ □					
	□柱 □梁 □壁 □床版 □ □					
2F	□柱 □梁 □壁 ■床版 □ □	21		18		
1F	■床版 □ ■基礎 ■地中梁	24		15		
	□ □					
	土間コンクリート	■ 21		18		※本仕様適用外
	捨てコンクリート	■ 18		15		※本仕様適用外

セメントの種類	■普通ポルトランドセメント □中庸熱ポルトランドセメント □低熱ポルトランドセメント □	
細骨材の種類	□ 砂 □ 山砂 □ 砕砂 □	
粗骨材の種類	□ 砂利 □ 砕石 □ □	
水の区分	■ 水道水 □ 地下水 □ 工業用水 □	
構造体コンクリート強度を保証する材齢	材齢（□28日 □56日 □91日 □ ） 養生（□標準 □現場水中 □現場封かん □ ）	
単位水量	■ 185 kg/m³ 以下 □ 175 kg/m³ 以下 □	
単位セメント量	■ 270 kg/m³ 以上 □	
混和剤	■ AE減水剤 □ 高性能減水剤 □ □ □ □	
空気量	■ 4.5 % 以下 □ 3.0 % 以下 □	
塩化物量	■ 0.3 kg/m³ 以下 □ □	
水セメント比	□ 65 % 以下 □ 50 % 以下 ■ 60%	

（２）コンクリートブロック （□ JIS A 5406）
□ A種 □ B種 □ C種 厚 □ 100 □ 120 □ 150 □ 190 使用箇所（□ □ ）

（３）鉄 筋

鉄筋	種類	使用径 mm	使用箇所	備考
異形鉄筋 (JIS G 3112)	■ SD295 A	D16以下	※構造図による	■重ね継手
	□ SD295 B			■ガス圧接継手
	■ SD345	D19～D25	※構造図による	■溶接継手
	□ SD390			□機械式継手
	□ SD490			□
	□			□機械式定着工法
高強度せん断補強筋	□ 685			□大臣認定番号
	□ 785			MSRB-
	□ 1275			
	□			
溶接金網 (JIS G 3551)	□			
	□			

注1）SD490をガス圧接する場合は施工前に試験を行うこと。
注2）各継手の使用詳細については本仕様その2の9.(2)鉄筋の項の鉄筋継手の項に■にて表示すること。

（４）鉄 骨

種類			使用箇所	現場溶接	JIS規格・認定番号等
□SN400A	□SN400B	□SN400C		□有 □無	JIS G 3136
□SN490B	■SN490C	□	ダイアフラム	□有 □無	JIS G 3136
■SS400	□SS490	□	H型鋼・鋼板類	□有 □無	JIS G 3101
□SM400A	■SM490A	□	ジャストベースベースプレート	□有 □無	JIS G 3106
■BCR295	□BCP235	□BCP325	□型鋼（柱）	□有 □無	大臣認定品 認定番号 MSTL-9021
■STKR400	□STKR490	□	補強材等	□有 □無	JIS G 3466
■SSC400	□	□	胴縁	□有 □無	JIS G 3350
■SNR400B	□	□	水平ブレース		
□	□	□			
溶接材料	□	□			JIS Z
□	□	□			

（５）ボルト等
■高力ボルト
□F10T(JIS B1186) ■S10T 大臣認定番号(MBLT-0052) （■M16、■M20、□M22、□M24、□ ）
□溶融亜鉛めっき高力ボルト F8T 大臣認定番号( ) （□M16、□M20、□M22、□M24、□ ）
□
■ボルト(JIS B1180) M　M　□ 4.8(4T) □　□
■アンカーボルト（構造用アンカーボルト） ※ボルト・アンカーボルト径、長さは構造図による。
■SS400 M　L=　mm　ナット（□シングル、□ダブル）
■ABR400 M　L=　mm　ナット（□シングル、□ダブル）（JIS B 1220）
□ M　L=　mm　ナット（□シングル、□ダブル）
□頭付スタッド(JIS B1198) ※ジャストベースアンカーボルト 国土交通大臣認定品 MSTL-0187
φ=　L=　mm　使用箇所（□柱 □大梁 □小梁）
φ=　L=　mm　使用箇所（□柱 □大梁 □小梁）

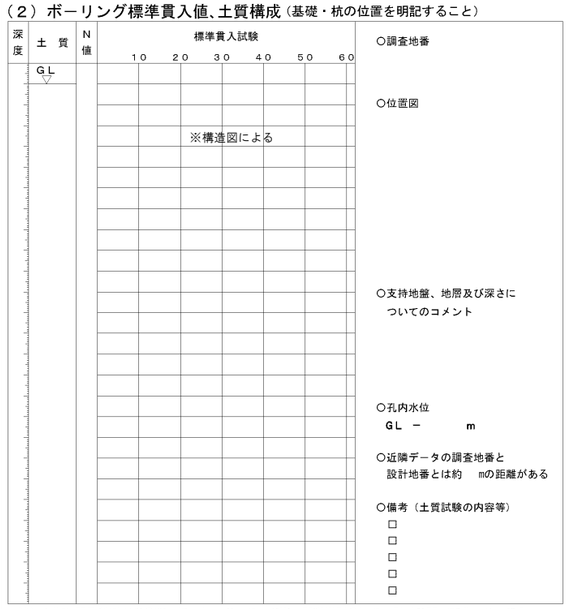
４．地　盤

（１）地盤調査資料と調査計画
■有　（■敷地内 □近隣）　□無　（調査計画 □有 □無）

調査項目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画
ボーリング調査	○		静的貫入試験			標準貫入試験	○	
水平地盤反力係数の測定	○		土質試験			物理探査		
試験堀（支持層の確認）			平板載荷試験			液状化判定	○	
スウェーデン式サウンディング			現場透水試験			ＰＳ検層		

注）上記表中の資料が有るもの、調査計画が有るものに○を記入する。

（２）ボーリング標準貫入値、土質構成（基礎・杭の位置を明記すること）



注）地盤調査及び試験杭の結果により、杭長さ、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある。

５．地業工事

（１）直接基礎　□ベタ基礎　□布基礎　■独立基礎　試験堀 □有 □無
深さ GL－　m、支持層－　、長期許容支持力度　kN/m²　載荷試験 □有 □無

（２）地盤改良　□浅層混合処理工法　□深層混合処理工法　■ SSコラム工法
深さ GL－　m、長期許容支持力度　kN/m²　載荷試験 □有 □無
注）「建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針：日本建築センター2002」を参考とする

（３）杭基礎　□支持層の想定深度分布図を作成し、杭と支持層の関係を確認する。
□施工計画書に施工時における試験杭と本杭の支持層の確認方法を明記する。
□支持層の確認結果を施工結果報告書にまとめる。

杭種	材料	施工法	備考
□場所打ち コンクリート杭	コンクリートFc N/mm²	□オールケーシング	認定
	スランプ cm以下	□リバースサーキュレーション	第　号
	セメント量 kg/m³	□アースドリル	年　月　日
	単位水量 kg/m³	□拡底杭 □拡頭・拡底杭	
		□鋼管補強杭 □	
		□深 礎 □手掘 □機械掘	

既製杭・杭種	種類	材料	施工法	備考
□ PRC	□Ⅰ種 □Ⅱ種 □Ⅲ種 □	鋼材□	□埋め込み	認定
□ PHC	□A種 □B種 □C種 □	鋼材□	□打ち込み	第　号
□ 鋼管	□	コンクリート□FC85	□	年　月　日
□ SC	□	コンクリート□FC105	□	

杭仕様　□施工計画書承認　□杭施工結果報告書
試験杭　（□有・□無）　（□打ち込み・□載荷・□孔壁測定）　本

杭径(mm)	設計支持力(kN)	杭の先端の深さ(m)	本数	特記事項

６．鉄骨工事　（施工方法等計画書）

（１）鉄骨工事は指示のない限り下記による
■ 日本建築学会「ＪＡＳＳ６ 2015年版」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」
■ 一社）日本鋼構造協会「建築鉄骨工事施工指針」
■ 鉄骨製作管理技術者登録機構「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」

（２）工事監理者の承認を必要とするもの
■製作工場　■製作要領書　■工作図　■施工計画書
■認定または登録工場（大臣認定 S H M R J グレード　都登録 T1 T2 T3 ランク）
■材料規格証明書※、または試験成績書
■鋼材　■高力ボルト　□特殊ボルト　□頭付スタッド
※一社）日本鋼構造協会「建築構造用鋼材の品質証明ガイドライン」の規格証明方法、またはミルシート。
■社内検査表　□　□

（３）工事監理者が行う検査項目
（■印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること）
□現寸検査　□組立・開先検査　■製品検査　□建方検査　□

（４）接合部の溶接は下記によること
■ 平成12年建設省告示第1464号第二号 イ、ロ
□ 鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱要綱
■ 日本建築学会「溶接工作規準、同解説Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ」
■ 日本建築学会「鉄骨工事技術指針　工事現場施工編」

（５）接合部の検査
■ 溶接部の検査（検査結果は工事監理者に報告すること）

検査箇所	検査方法		検査率又は検査数 工場自主検査	第三者受入検査	工事監理者	備考
■完全溶込み溶接部（突合せ溶接）	外観検査（※）		100 % 個	30 % 個	% 個	※平成12年建設省告示第1464号第二号による（目視及び計測）
	超音波探傷検査		100 % 個	30 % 個	% 個	
□	内質検査(注)	□硬さ試験	% 個	% 個	% 個	（注）東京都の要綱に基づき必要となる建築物の場合に実施する
		□赤温塗料塗布	% 個	% 個	% 個	
	マクロ試験・その他		個	個	個	
□	外観検査（※）		% 個	% 個	% 個	
第三者検査機関名				（都知事登録　号）		

第三者検査機関とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。

注１）現場溶接部については原則として第三者検査機関による全数検査とし、外観検査、超音波探傷検査を100%行うこと
注２）知事が定めた重大な不具合が発生した場合は、是正前に対応策を建築主事等に報告すること

■ 高力ボルトの検査（検査結果は後日工事監理者に報告すること）
軸力導入試験　□ 要　■ 否　高力ボルトすべり係数試験　□ 要　■ 否
■ 一次締め後にマーキングを行い、二次締め後そのずれを見て、共回り等の異常が無いことを確認する。
■ トルシア形高力ボルトは二次締め後、マーキングのずれとピンテールの破断を確認する。

（６）防錆塗装
■ 防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。錆止めペイントは、□JIS K 5621、□JIS K 5625、■JIS K 5674、□　（フォースター　F☆☆☆☆）を使用し、２回塗りを標準とするが、実状に応じて決定すること。
■ 現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調整は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し、２回塗りとする。

（７）耐火被覆の材料
□

７．設備関係

■ 建築設備の構造および構造体への緊結部分は、構造耐力上安全な構造方法を用いるものとする。
■ 建築設備の支持構造部および緊結金物には、錆止め等、防腐のための有効な措置を講じること。
■ 建築物に設ける屋上からの突出する水槽・煙突・その他これらに類するものは、風圧・地震力等に対して構造耐力上主要な部分に緊結され、安全であること。
■ 煙突は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを５ｃｍ以上とした鉄筋コンクリート造とすること。
■ 設備配管は、地震時等の建物変形に追従できること。また、地震力等に対して適切に支持されていること。
■ 設備機器の架台及び基礎については、風圧・地震力等に対して構造耐力上安全であること。
■ エレベーター・エスカレーターの駆動装置等は、構造体に安全に緊結されていること。
また、地震時の層間変形に追従できること。
■ 特記以外の梁貫通孔は原則として設けない。
■ 床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの１／３以下とし管の間隔を管径の３倍以上かつ５ｃｍ以上を原則とする。
□
□

８．その他

■ 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
■ 各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
■ 必要に応じて記録写真を撮り保管すること。

構造設計：西 伸介
一級建築士 第228668号、構造設計一級建築士 第2849号
有限会社 西建築設計事務所、一級建築士事務所 岡山県知事登録 第1356号

(A3=A1縮小50%)

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査	図面番号
図面名	新構造設計特記仕様　その１				S / 1
一級建築士事務所 県知事登録第１２１５３号 （有）芦田設計		一級建築士 登録第 ９９０５３ 号 芦田國廣			

新 構造設計特記仕様　その２

※修正箇所は下線を引くこと
適用は　■　印を記入する。

９．鉄筋コンクリート工事

（１）コンクリート

鉄筋コンクリート工事の施工に関しては記載無きは、JASS 5 2015 による。

(a) コンクリートの仕様

本仕様書では、JASS 5に規定する普通骨材を用いた一般仕様のコンクリートを「普通コンクリート」と定義し、表9.1に示す様に設計基準強度が36N/mm²以下のコンクリートについてはJASS5の3節～11節を適用し、36N/mm²を超えるコンクリートについてはJASS5の17節（高強度コンクリート）を適用する。また、設計基準強度もしくは品質基準強度と構造体強度補正値から定める調合管理強度以上とし、発注するレディーミクストコンクリートの呼び強度が表9.2に示すJIS規格外となる場合は、法第37条の大臣認定を受けた製品を用いる必要がある。
軽量コンクリートについてはJASS 5の14節によること。

表9.1　コンクリート圧縮強度(N/mm²)に応じた仕様書の使い分け

設計基準強度 Fc	18	21	24	27	30	33	36	39	42	45	48	51	54	57	60
JASS 5での区分	普通コンクリート							高強度コンクリート							

表9.2　レディーミクストコンクリートのJIS規格品

調合管理強度(N/mm²)	21	24	27	30	33	36	39	42	45	48	51	54	57	60	60超
呼び強度（JIS規格品）	21	24	27	30	33	36	40	42	45	50	55	55	60	60	※

※印は規格外

(b) 品質と施工

■ 構造体の計画供用期間の級は特記による。特記が無い場合は標準とする。
■標準　□長期　□超長期

■ コンクリートは JIS A 5308（レディーミクストコンクリート） に適合するJIS認証工場の製品とする。

■ 設計基準強度が 36 N/mm²を超えるコンクリートを扱うレディーミクストコンクリート工場は、「高強度コンクリート」の製品認証を受けているか、建築基準法第37条第二号によって国土交通大臣が指定建築材料として認定した高強度コンクリートの製造工場とする。

■ レディーミクストコンクリート工場および高強度コンクリートを打設する施工現場には、コンクリート主任技士またはコンクリート技士、あるいはこれらと同等以上の知識経験を有すると認められる技術者が常駐していなければならない。

■ 施工者は、工事に先立ち、コンクリートの調合・製造計画、施工計画、品質管理計画書を作成し、工事監理者の承認を得ること。

■ フレッシュコンクリートの流動性は、スランプまたはスランプフローで表し、設計基準強度が 36 N/mm²以下 33 N/mm²以上の場合スランプ21cm以下、33 N/mm²未満の場合スランプ18cm以下とし設計基準強度が36 N/mm²超 45 N/mm²未満の場合はスランプ 21 cm以下またはスランプフロー 50 cm以下、設計基準強度が 45 N/mm²以上の場合はスランプ 23 cm以下またはスランプフロー 60 cm以下とし、特記による。

■ コンクリートに含まれる塩化物量は、塩化物イオン量として 0.3 kg/m³以下とする。

■ コンクリートの練混ぜから打込み終了までの時間は、原則として120分を限度とする。

■ コンクリート打込み時の自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。

■ 打継ぎ部は構造的に影響の少ない位置を選び打継ぎ処理を行い、打込み前に十分な水湿しを行う。

■ 打込み後の湿潤養生の期間は、セメントの種類および設計基準強度に応じて3日以上とする。

(c) 調合および構造体コンクリート強度

ｉ）高強度コンクリート

□ 調合強度を定めるための基準とする材齢は、特記による。特記のない場合は 28日とする。

□ 構造体コンクリート強度を保証する材齢は、特記による。特記のない場合は 91日とする。

□ 構造体コンクリート強度は、次の①または②を満足するものとする。
① 標準養生した供試体による場合、調合強度を定めるための基準とする材齢において調合管理強度以上とする。
② 構造体温度養生した供試体による場合、構造体コンクリート強度を保証する材齢において設計基準強度に 3 N/mm²加えた値以上とする。

□ 調合管理強度は、以下による。

$_{H}F_{m} = F_{c} + {}_{m}S_{n}$ (N/mm²)

$_{H}F_{m}$ ： 高強度コンクリートの調合管理強度　(N/mm²)
F_{c} ： コンクリートの設計基準強度　(N/mm²)
$_{m}S_{n}$ ： 高強度コンクリートの構造体強度補正値で JASS 5 による。

□ 調合強度は標準養生供試体の圧縮強度で表すものとし、下記の両式を満足するように定める。

$_{H}F \geqq {}_{H}F_{m} + 1.73\sigma_{H}$　(N/mm²)
$_{H}F \geqq 0.85\ {}_{H}F_{m} + 3\sigma_{H}$　(N/mm²)

$_{H}F$ ： 高強度コンクリートの調合強度　(N/mm²)
σ_{H} ： 高強度コンクリートの圧縮強度の標準偏差　(N/mm²)　で、レディーミクストコンクリート工場の実績による。実績がない場合は、0.1(F_{c}+$_{m}S_{n}$)とする。

ii）普通コンクリート

■ 調合を定めるための基準とする材齢は、原則として 28日とする。

■ 構造体コンクリート強度は表9.3を満足すれば合格とする。

表9.3　構造体コンクリートの圧縮強度の判定基準

供試体の養生方法	試験材齢(1)	判定基準
標準養生(2)	28 日	X ≧ Fm
コ　ア	91 日	X ≧ Fq

ただし、X ： 1回の試験における3個の供試体の圧縮強度の平均値 (N/mm²)
Fm: コンクリートの調合管理強度 (N/mm²)
Fq: コンクリートの品質基準強度 (N/mm²)

[注] (1) 早い材齢において試験を行い、合否判定基準を満たした場合は、合格とする。
(2) 工事監理者の承認を得て、供試体成型後、翌日までは20±10℃の日光および風が直接当らない箇所で、乾燥しないように養生して保管することができる。

＊ 標準養生供試体の代わりにあらかじめ準備した現場水中養生供試体によることができる。その場合の判定基準は材齢28日までの平均気温が20℃以上の場合は、3個の供試体の圧縮強度の平均値が調合管理強度以上であり、平均気温が20℃未満の場合は、3個の供試体の圧縮強度の平均値から 3 N/mm²を減じた値が品質基準強度以上であれば合格とする。

＊ コア供試体の代わりにあらかじめ準備した現場封かん養生供試体によることができる。その場合の判定基準は材齢28日を超え91日以内のn日において3個の供試体の圧縮強度の平均値から 3 N/mm²を減じた値が品質基準強度以上であれば合格とする。

■ 調合管理強度は、以下による。

$F_{m} = F_{q} + {}_{m}S_{n}$ (N/mm²)

F_{m} ： コンクリートの調合管理強度　(N/mm²)
F_{q} ： コンクリートの品質基準強度　(N/mm²)
$_{m}S_{n}$ ： 標準養生した供試体の材齢 m 日における圧縮強度と構造体コンクリートの n 日における圧縮強度の差による構造体強度補正値　(N/mm²)

■ 調合強度は標準養生した供試体の材齢 m 日における圧縮強度で表すものとし、下記の両式を満足するように定める。調合強度を定める材齢 m 日は、原則として 28 日とする。

$F \geqq F_{m} + 1.73\sigma$　(N/mm²)
$F \geqq 0.85\ F_{m} + 3\sigma$　(N/mm²)

F ： コンクリートの調合強度 (N/mm²)
σ ： 使用するコンクリートの圧縮強度の標準偏差 (N/mm²) で、レディミクストコンクリート工場の実績による。実績のない場合は 2.5N/mm²、または 0.1Fm の大きい方の値とする。

(d) 検査

■ フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で（一財）国土開発技術センターの技術評価を受けた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真（カラー）を保管し、工事監理者の承認を得る。測定検査の回数は、通常の場合 1 日 1 回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて３回行い、その平均値を試験値とする。

■ スランプの許容差は普通コンクリートの場合、スランプが 8cm以上18cm以下の場合±2.5cm、21cmの場合±1.5cm（呼び強度27以上で高性能AE減水剤を使用する場合は±2cm）とする。
高強度コンクリートの場合は、スランプが 18cm以下の場合±2.5cm、21cm以上の場合±2cmとし、スランプフローの許容差は、目標スランプフローが 50cm以下の時は±7.5cm、50cmを超える時は±10cmとする。

■ 使用するコンクリートの圧縮強度試験は、普通コンクリートでは標準養生を行った供試体を用いて材齢 28日で行い、1回の試験は、打込み工区ごと、打込み日ごと、かつ 150m³またはその端数ごとに 3個の供試体を用いて行う。 3回の試験で 1検査ロットを構成する。
高強度コンクリートでは、打込み日かつ 300m³ごとに検査ロットを構成して行う。1検査ロットにおける試験回数は 3回とする。検査は適当な間隔をあけた任意の 3台のトラックアジテータから採取した合計 9個の供試体による試験結果を用いて行う。検査に用いる供試体の養生方法は標準養生とする。

■ 構造体コンクリートの圧縮強度の検査は普通コンクリートでは、打込み工区ごと、打込み日ごと、かつ 150m³またはその端数ごとに 1回行う。 1回の試験には適当な間隔をおいた 3台の運搬車から 1個ずつ採取した合計 3個の供試体を用いる。
高強度コンクリートでは打込み日、打込み工区かつ 300m³ごとに行う。検査には適当な間隔をあけた任意の 3台のトラックアジテータから採取した合計 9個の供試体を用いる。検査に用いる供試体の養生方法は標準養生または構造体温度養生とする。

■ 使用するコンクリートの圧縮強度の判定は、JASS5による。
構造体コンクリートの圧縮強度の判定は、(c)調合および構造体コンクリート強度による。

□ コンクリートの試験は、「建築物の工事における試験および検査に関する東京都取扱要綱」第4条の試験機関で行うこと。
試験・検査機関名　（都知事登録　　号）
代行業者名　（登録番号　　号）
代行業者とは、試験・検査に伴う業務を代行するものを言う。

（２）鉄　筋

(a) 施工

■ 鉄筋はJIS G 3112（鉄筋コンクリート用棒鋼）に適合するものを用いる。溶接金網および鉄筋格子は、JIS G 3551（溶接金網および鉄筋格子）に適合するものを用いる。

□ 高強度せん断補強筋は、技術評価を取得し、建築基準法第37条の材料認定を受けたものを用いる。

■ 鉄筋の加工寸法、形状、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「新 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)～(3)」による。

■ 鉄筋の継手は重ね継手、ガス圧接継手、機械式継手または溶接継手によることとし、鉄筋径と使用箇所を定め特記による。

表9.4　鉄筋の継手

鉄筋継手工法	継手の位置等の設計条件による仕様・等級				鉄筋の径	使用箇所
	(1) 引張力最小部位	(2) (1)以外の部位 (注)				
		A 級	B 級	SA級		
■ 重ね継手	標準図による				■ D（16）以下	※構造図による
■ 圧接継手	■ 告示1463号第2項各号	□			■ D（19）以上	※構造図による
■ 溶接継手	■ 告示1463号第3項各号	□	□		□ D（　）以上	
□ 機械式継手	□ 告示1463号第4項各号	□	□	□	□ D（　）以上	

注）(1)以外の部位に設ける継手は、平成12年告示第1463号ただし書きに基づき、日本鉄筋継手協会、日本建築センター等の認定・評定等を取得した継手工法の等級で、構造計算にあたって『鉄筋継手使用基準（建築物の構造関係技術基準解説書 2015）』によって検討した部材の条件・仕様によること。

■ 機械式継手および圧接継手および溶接継手は（公社）日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書」による他、所要の品質が得られるようにエ事計画および工事管理計画を定めて、工事監理者の承認を受ける。

■ ガス圧接の施工は、強風時または降雨時には原則として作業を行わない。ただし、風除け・覆いなどの設備をした場合には、工事監理者の承認を得て作業を行うことができる。

■ 圧接技量資格者は、（公社）日本鉄筋継手協会によって認証された技量適格性証明書を工事監理者に提出し、承認を受ける。

□ 機械式鉄筋定着工法に用いる定着板には信頼できる機関による性能証明書等を取得した定着金物を用いる。

(b) 検査

継手部の検査方法

各継手工法ごとの検査は平12建告1463号による他、具体的な検査方法は、（公社）日本鉄筋継手協会の仕様書を参照のこと。

表9.5　継手の検査

鉄筋継手工法	検査の種類	検査数量	試験方法
圧接継手	■ 外観検査	全般	目視又は計測
	■ 超音波探傷検査	抜取り1検査ロット当たり（30）箇所又は（　）%	JIS Z 3062:2014による
	□ 引張試験による検査	抜取り1検査ロット当たり（　）箇所又は（　）%	JIS Z 3120:2014による
溶接継手	■ 外観検査	全般	目視又は計測
	■ 超音波探傷検査	抜取り1検査ロット当たり（30）箇所又は（　）%	JRJS 0005:2017による
	□ 引張試験による検査	抜取り1検査ロット当たり（　）箇所又は（　）%	JIS Z 2241:2011による
機械式継手	□ 外観検査	全般	目視又は計測
	□ 超音波測定検査	抜取り1検査ロット当たり（　）箇所又は（　）%	JRJS 0003:2017による
	□ 引張試験による検査	抜取り1検査ロット当たり（　）箇所又は（　）%	JIS Z 2241:2011による

注）1 抜取り１検査ロットは、同一作業班が同一日に作業した継手箇所で200箇所程度とする。
注）2 ガス圧接部分の検査を超音波探傷検査によって行う場合、最初の数ロットについては引張試験も併用し、1回の引張試験は 5本以上とする。

□ 鉄筋の継手の試験・検査は、「要綱」第4条の試験機関、又は第8条の検査機関で行うこと。
試験・検査機関名　（都知事登録　　号）

（３）かぶり厚さ

■ 最小かぶり厚さは、表9.6に規定する設計かぶり厚さを10mm減じた値とする。

■ 設計かぶり厚さは、コンクリート打込み時の変形・移動などを考慮して、最小かぶり厚さが確保されるように、部位・部材ごとに定めるものとし、表9.6以上の値とする。

表9.6　設計かぶり厚さ（単位：mm）

構造体の計画供用期間の級		標準・長期		超長期	
部材の種類		屋　内	屋　外(2)	屋　内	屋　外(2)
構造部材	柱・梁・耐力壁	40	50	40	50
	床スラブ・屋根スラブ	30	40	40	50
非構造部材	構造部材と同等の耐久性を要求する部材	30	40	40	50
	計画供用期間中に維持保全を行う部材(1)	30	40	(30)	(40)
直接土に接する柱・梁・壁・床および布基礎の立上り部分、擁壁の壁部分		50			
基礎、擁壁の基礎・底盤		70			

注）(1) 計画供用期間の級が超長期で計画供用期間中に維持保全を行う部材では、維持保全の周期に応じて定める。
(2) 計画供用期間の級が標準、長期および超長期で、耐久性上有効な仕上げを施す場合は、屋外側では設計かぶり厚さを 10mm減じることができる。

■ 完成した構造体の各部位における最外側鉄筋のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

□ コンクリート構造体に誘発目地・施工目地などを設ける場合は、建築基準法施行令第79条に規定する数値を満足し、構造耐力上必要な断面寸法を確保し、防水上および耐久性上有効な措置を講じれば上記によらなくても良い。

（４）型　枠

■ 型枠および支保工の存置期間は、昭63年建告第1655号に基づき下表による。

表9.7　型枠存置日数　　昭和46年建設省告示第110号（昭和63年改正建設省告示第1655号）

種類		せき板				支柱		
部位		基礎、梁側、柱、壁		スラブ下、梁下		スラブ下		梁下
セメントの種類 / 存置期間の平均気温		早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント 普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種
コンクリートの材令（日）	15℃以上	2	3	4	6	8	17	28
	5℃～15℃	3	5	6	10	12	25	28
	5℃未満	5	8	10	16	15	28	28
コンクリートの圧縮強度		※ 5.0N/mm²		設計基準強度の50%		設計基準強度の		
						85%		100%

※　JASS 5では普通コンクリートの場合計画供用期間の級が標準にあっては 5 N/mm² 以上、長期及び超長期の場合は 10 N/mm² 以上、また高強度コンクリートの場合は 10 N/mm² 以上。
注）1 片持ち梁、庇、スパン 9.0m以上の梁下は、工事監理者の承認による。
注）2 大梁の支柱の盛替えは行わない。また、その他の梁の場合も原則として行わない。
注）3 支柱の盛替えは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。
注）4 盛替え後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。
注）5 支柱の盛替えは、小梁が終ってからスラブを行う。一時に全部の支柱を取り払って盛替えをしてはならない。
注）6 直上階に著しく大きい積載荷重がある場合においては、支柱（大梁の支柱を除く）の盛替えを行わないこと。
注）7 支柱の盛替えは、養生中のコンクリートに有害な影響をもたらすおそれのある振動または衝撃を与えないように行うこと。

構造設計：西 伸介
一級建築士 第228668号、構造設計一級建築士 第2849号
有限会社 西建築設計事務所、一級建築士事務所 岡山県知事登録 第1356号

(A3=A1縮小50%)

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査	図面番号 S／2
図面名	新構造設計特記仕様　その２				
一級建築士事務所	県知事登録第１２１５３号 （有）芦田設計	一級建築士	登録第９９０５３号	芦田國廣	

新 鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

※修正箇所は下線を引くこと

１．一般事項

（１）構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。

（２）記号

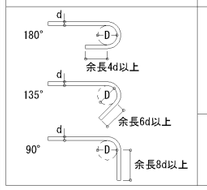
d･･･異形棒鋼の呼び名に用いた数値（径）　　D･･･部材の成、又は鉄筋内法直径

@･･･間隔　　r･･･半径　　℄ ･･･中心線　　ℓ_o･･･部分間の内法距離　　ｈｏ･･･部材間の内法高さ

ＳＴ･･･あばら筋　　ＨＯＯＰ･･･帯筋　　Ｓ.ＨＯＯＰ･･･補強帯筋

２．鉄筋加工

（１）鉄筋の折り曲げ加工

図	折り曲げ角度	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折り曲げ内法直径(D)
	180° 135° 90°	SD295A SD295B SD345	D16以下	3d以上
			D19～D41	4d以上
		SD390	D41以下	5d以上
	90°	SD490	D25以下	
			D29～D41	6d以上

［注］（１） dは呼び名に用いた数値とする。

（２） スパイラル筋の重ね継手部に90°フックを用いる場合は、余長は12d以上とする。

（３） 片持スラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フックまたは135°フックを用いる場合は、余長は4d以上とする。

（４） スラブ筋、壁筋には、溶接金網を除いて丸鋼を使用しない。

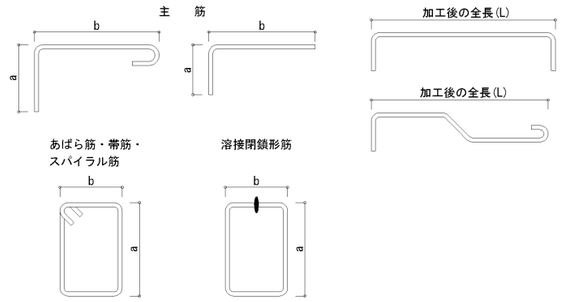
（５） 折り曲げ内法直径を上表の数値よりも小さくする場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い支障ないことを確認した上で、工事監理者の承認を得る。

（６） SD490の鉄筋を90°を超える曲げ角度で折り曲げ加工する場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い、支障ないことを確認した上で、工事監理者の承認を得る。

（２）加工寸法の許容差　(mm)

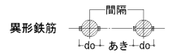
項目			符号	許容差
各加工寸法(1)	主筋	D25以下	a，b	± 15
		D29以上D41以下	a，b	± 20
	あばら筋・帯筋・スパイラル筋		a，b	± 5
加工後の全長			L	± 20

［注］（１） 各加工寸法及び加工後の全長の測り方の例を下図に示す。



（３）鉄筋のあき

異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上、粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25mmのうち最も大きい値。



（４）鉄筋のフック

a～eに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。

a. あばら筋、帯筋、および幅止メ筋

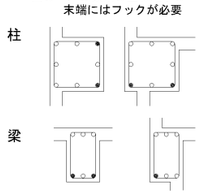
b. 煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）

c. 柱、梁(基礎梁は除く)の出すみ部分
　および下端の両端にある場合の鉄筋(右図参照)

d. 単純梁の下端筋

e. その他、本配筋標準に記載する箇所

図の●印の鉄筋の重ね継手の末端にはフックが必要



（５）定着長さ

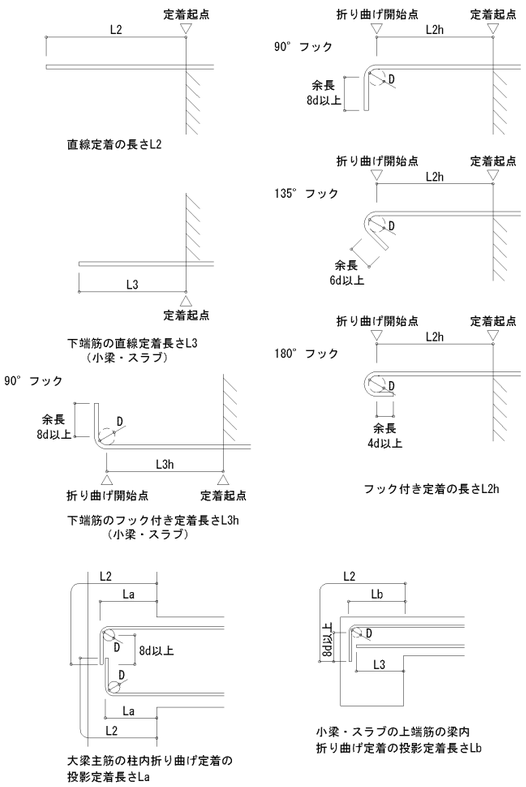
鉄筋種別	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²)	定着の長さ 一般 L2（フックなし）	L2h（フックあり）	La(3)	Lb	小梁下端筋 L3（フックなし）	L3h（フックあり）	スラブ下端筋 L3（フックなし）
SD295A SD295B	18	40d	30d	20d	15d	20d	10d	10d かつ 150以上
	21	35d	25d	15d	15d			
	24～27	30d	20d	15d	15d			
	30～36	30d	20d	15d	15d			
	39～45	25d	15d	15d	15d			
	48～60	25d	15d	15d	15d			
SD345	18	40d	30d	20d	20d			
	21	35d	25d	20d	20d			
	24～27	35d	25d	20d	15d			
	30～36	30d	20d	15d	15d			
	39～45	30d	20d	15d	15d			
	48～60	25d	15d	15d	15d			
SD390	21	40d	30d	20d	20d			
	24～27	40d	30d	20d	20d			
	30～36	35d	25d	20d	15d			
	39～45	35d	25d	15d	15d			
	48～60	30d	20d	15d	15d			
SD490	24～27	45d	35d	25d	—	—	—	—
	30～36	40d	30d	25d	—			
	39～45	40d	30d	20d	—			
	48～60	35d	25d	20d	—			

［注］（１） フック付き鉄筋の定着長さL2hは、定着起点から鉄筋の折り曲げ開始点までの距離とし、折り曲げ開始点以降のフック部は定着長さに含まない。

（２） フック部の折り曲げ内法直径D及び余長は、「鉄筋の折り曲げ加工」の表による。

（３） 梁主筋を柱へ定着する場合、水平定着長さがL2h確保できない場合は折り曲げ定着とし、全定着長をL2以上とするとともに、水平投影長さをLa以上とし、余長を8d以上とする。
尚、Laの値は原則として柱せいの3/4倍以上とする。

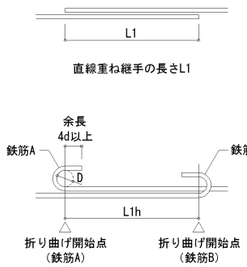
（４）耐圧スラブの下端筋の定着長は一般定着L2とする。



（６）継手

■重ね継手

鉄筋種別	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²)	重ね継手長さ L1（フックなし）	L1h（フックあり）
SD295A SD295B	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24～27	35d	25d
	30～36	35d	25d
	39～45	30d	20d
	48～60	30d	20d
SD345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24～27	40d	30d
	30～36	35d	25d
	39～45	35d	25d
	48～60	30d	20d
SD390	21	50d	35d
	24～27	45d	35d
	30～36	40d	30d
	39～45	40d	30d
	48～60	35d	25d
SD490	24～27	55d	40d
	30～36	50d	35d
	39～45	45d	35d
	48～60	40d	30d



［注］（１） 表中のdは、異形鉄筋の呼び名の数値を表し、丸鋼には適用しない。

（２） 直径の異なる鉄筋相互の重ね継手の長さは、細い方のdによる。

（３） フック付き重ね継手の長さは、鉄筋相互の折り曲げ開始点間の距離とし、折り曲げ開始点以降のフック部は継手長さに含まない。

■継手に関する注意点

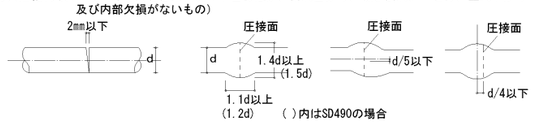
１．継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする。

２．D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない。

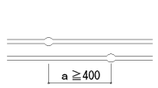
３．鉄筋径dの差が7㎜を超える場合は、圧接としてはならない。

４．ガス圧接継手の形状、および継手の配置は下図による。

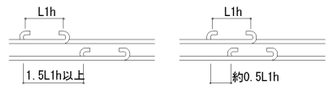
・ガス圧接形状（平成12年建設省告示1463号下図のほか、折れ曲がり、焼き割れ、へこみ、垂れ下がり及び内部欠損がないもの）



・圧接継手



・重ね継手（下図のいずれかとする）フックなしの場合はL1hはL1



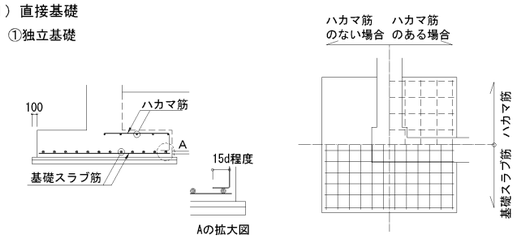
５．溶接継手および機械式継手を用いる場合は、信頼できる機関の評定等を受けたA級継手工法とする。

６．非破壊検査は工事監理者が承諾した信頼できる検査機関で行うこと。

３．杭・基礎　（配筋については地震力等の水平力等を考慮して別途検討すること）

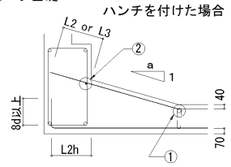
（１）直接基礎

①独立基礎



②ベタ基礎

ハンチを付けた場合（ａ≧3）



１．耐圧版鉄筋の継手位置は床スラブにならう
　但し上筋と下筋を読みかえる

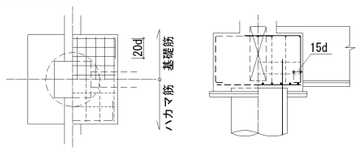
２．① の鉄筋はスラブ主筋の径以上とする

３．② の鉄筋はD13以上

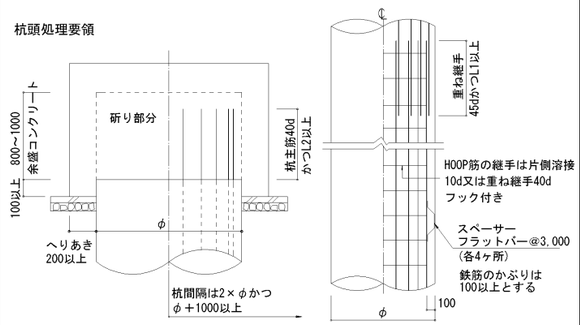
４．埋戻し土のある場合は40を70とする

（２）杭基礎

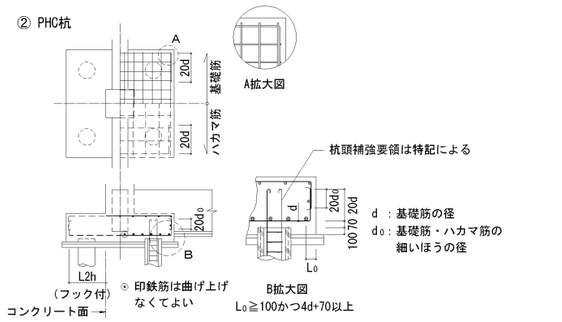
① 場所打ち杭



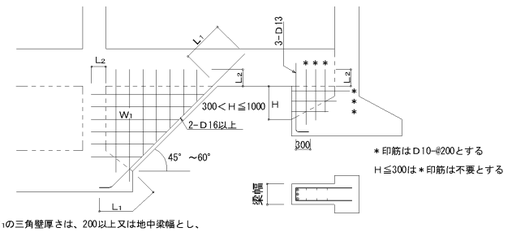
杭頭処理要領



② PHC杭



（３）基礎接合部の補強



構造設計：西 伸介

一級建築士 第228668号、構造設計一級建築士 第2849号

有限会社 西建築設計事務所、一級建築士事務所 岡山県知事登録 第1356号

(A3=A1縮小50%)

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査	図面番号 S / 3
図面名	新鉄筋コンクリート造配筋標準図（１）				
一級建築士事務所 (有) 芦田設計	県知事登録第１２１５３号	一級建築士 登録第 ９９０５３ 号 芦田圀廣			

新 鉄筋コンクリート構造配筋標準図（2）

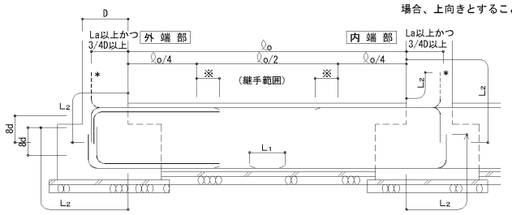
※修正箇所は下線を引くこと

4．地中梁

（1）独立基礎、杭基礎の場合（定着、継手）

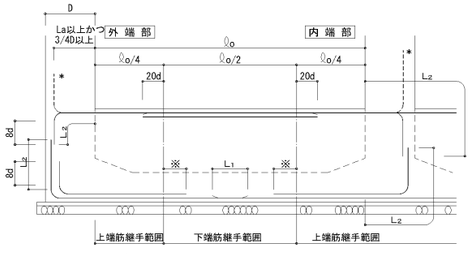
（長期荷重が支配的な場合の継手は6.(2)大梁継手位置とする。）

＊上端主筋の定着は、やむをえない場合、上向きとすることができる。



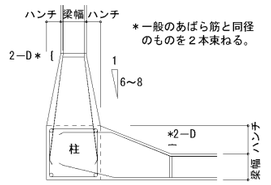
※主筋のカットオフ長さは lo/4 + 15dを基本とし、特別な長さを要する部分は6.大梁の項の表6-1による。

（2）布基礎、べた基礎の場合（定着、継手）



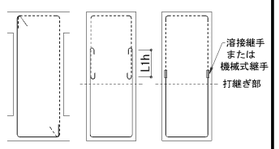
※主筋のカットオフ長さは lo/4 + 15dを基本とし、特別な長さを要する部分は6.大梁の項の表6-1による。

（3）水平ハンチの場合のあばら筋加工要領



＊一般のあばら筋と同径のものを２本束ねる。

（4）せいの高い梁のあばら筋加工要領図

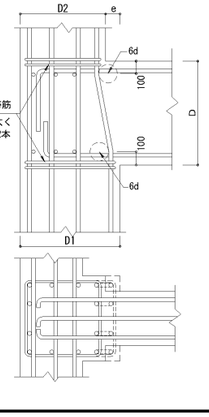


［注］（イ）で、 を使用してよいが、
は使用してはいけない。

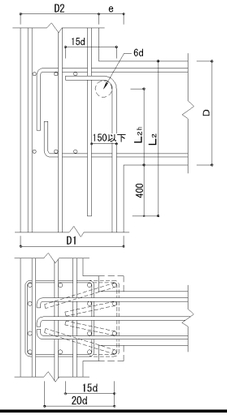
（ロ）では、あばら筋の継手は180°フック付きとする。

（6）絞り

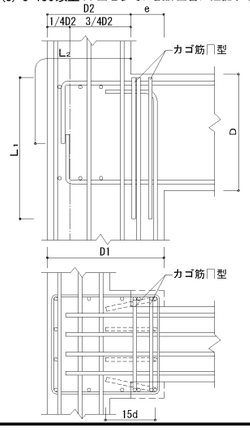
(a) e≦D/6かつ150



(b) 150≧e＞D/6

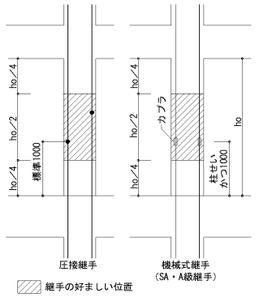


(c) e=150以上（下図を参考に設計図書に追記する。）



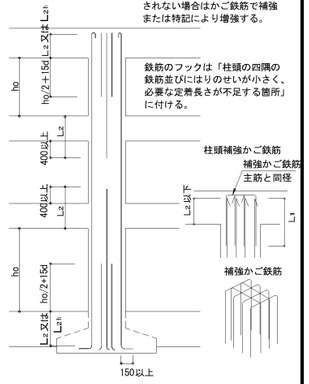
5．柱

（1）柱主筋の継手位置

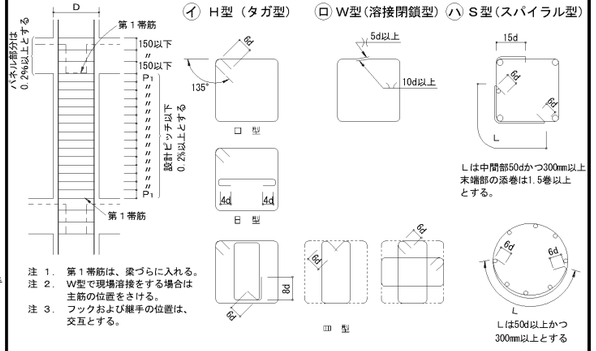


（2）柱主筋の定着

柱、梁の定着L2又はL2h以上が確保されない場合はかご鉄筋で補強または特記により増強する。



（3）帯　筋

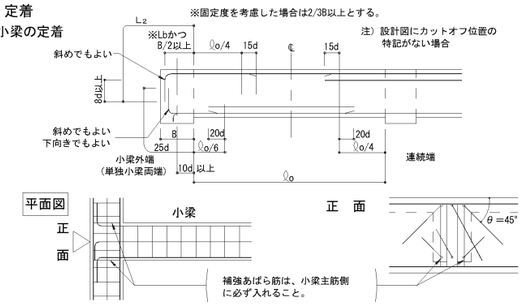

D
第１帯筋
150以下
〃
150以下
〃
〃
〃

新 鉄筋コンクリート構造配筋標準図（3）

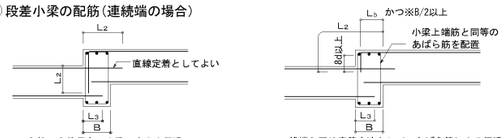
7．小梁、片持梁

（1）定着

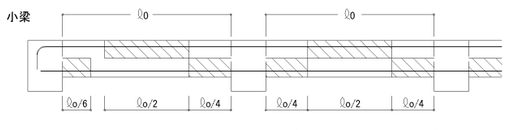
ⓐ 小梁の定着



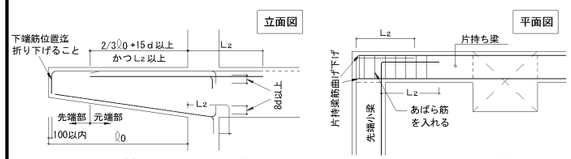
ⓑ 段差小梁の配筋（連続端の場合）

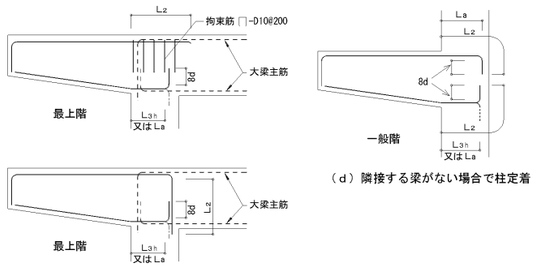


ⓒ 小梁筋の継手位置



ⓓ 片持梁の定着　注）上端筋の柱内への定着は3/4D以上とすること。

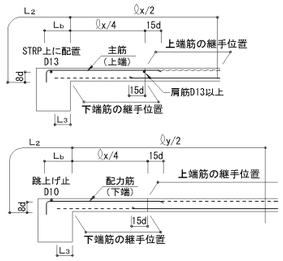




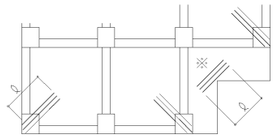
8．床　　版

（1）定着および継手

一般床スラブ（四辺固定）



（2）屋根スラブの補強

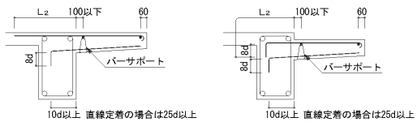


ⓐ 補強筋は各3−D13又はスラブ主筋の同一径で ℓ0＝1500とし、上端筋の上に配筋する。配筋の際かぶり厚に注意すること。

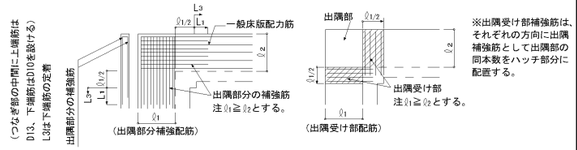
ⓑ ※の個所（入隅）は各階補強する。

（3）片持床スラブ定着及び出隅部補強

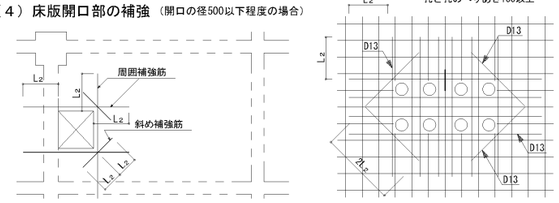
ⓐ 片持床スラブ定着



ⓑ 片持スラブ出隅部補強　注）出隅部の補強筋は、計算により算出する。



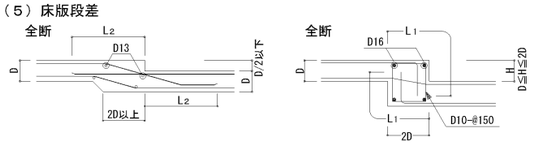
（4）床版開口部の補強（開口の径500以下程度の場合）



床版厚さD	周　囲	斜　め
D≦150	各2−D13	各1−D13
150＜D≦300	各2−D13	各2−D13
300＜D≦500	各2−D19	各2−D16

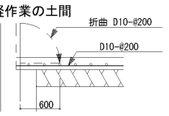
注）設備の小開口が連続してあく場合は縦、横、斜補強筋とは別に開口によって切断される鉄筋と同じ鉄筋を開口をさけて補強する。

（5）床版段差

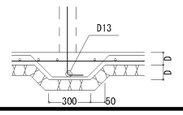


（6）土間コンクリート

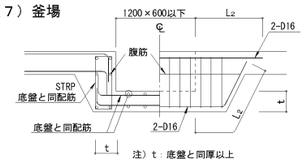
ⓐ 軽作業の土間



ⓑ 間仕切壁との交叉部



（7）釜場



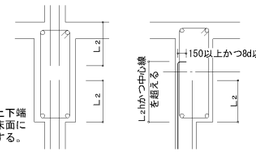
（8）打継ぎ補強（ダメ穴打断面について）

- 設計配筋間隔の1/2ピッチ　長さ２L1以上
- 無筋部分D10−@200　長さ800以上

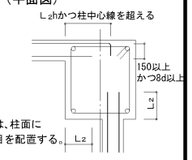
9．壁

（1）定着

ⓐ 梁に

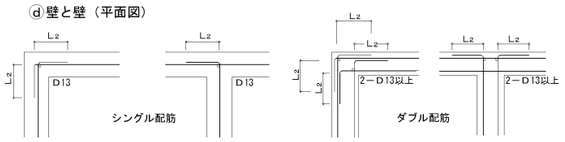


ⓑ 柱に（平面図）



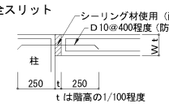
ⓒ 床に（非耐力壁とスラブが取り合う場合）

ⓓ 壁と壁（平面図）

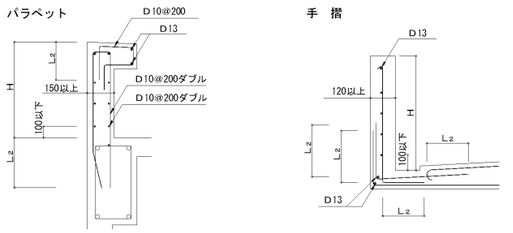


（2）スリット部（設計図に記入のあるとき）

完全スリット



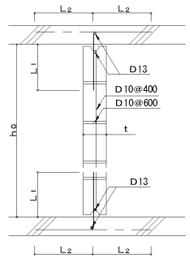
（3）手摺、パラペット



（但し、H＞８００以上の場合、設計図による）

（4）コンクリートブロック帳壁

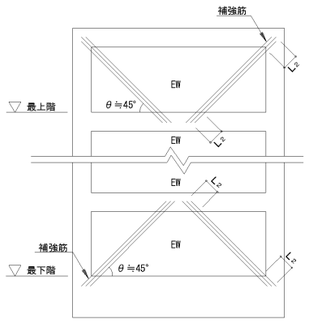
一般の場合



注）ｈo≦25ｔかつ3500以下とする。但し直交方向25ｔ以内に壁、又は柱がある場合は除く
注）ｈはコンクリートブロック段数調整寸法とする。但し、200≦ｈ≦400
注）継手部は必ずモルタルを充填すること

（5）耐震壁端部の納まり

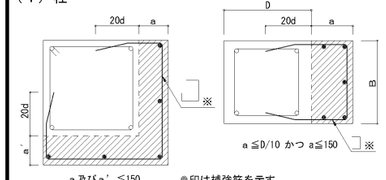
（6）連層耐震壁乾燥収縮の補強筋



注）補強筋はEW150の場合3−D13@100シングル
EW180～200の場合4−D13@100シングル
EW250以上の場合4−D16@100ダブルとする。

10．柱、梁増打コンクリート補強（増打するときは事前に設計者、及び工事監理者と打合せのこと）

（1）柱



- ハッチ部分は増打コンクリートを示す。
- ハッチ部分の面積 A cm²

補強タテ筋	
A＜500	500≦A＜1000
3−D16	4−D16

- 150以上の増打ちは図示による。
- 増打ち50以下は補強なし。
- ※柱HOOPと同径、同ピッチとする。

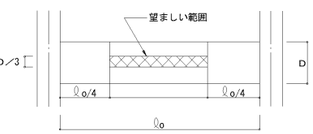
（2）梁

- 補強筋は、梁主筋の１段落し径（Ｄ１６以上）とする。
- あばら補強筋は、梁と同径、同ピッチとする。
- 腹筋Ｄ10ピッチは、梁の腹筋と合せる。
- B≧400の場合は補強筋を３本とする。
- 梁下端増打コンクリートの場合も上端増打コンクリート補強と同様とする。
- ハッチ部分は増打コンクリートを示す。
- 150以上の増打ちは図示による。
- 増打ち50以下は補強なし。

11．梁貫通孔補強　（開口補強筋については計算により確認すること）

（1）設置可能範囲

梁端部（スパンℓ／１０以内かつ２Ｄ以内）は原則として避ける



貫通孔が連続して間隔等が取れない場合は設計者又は工事監理者と打合せのこと。

（2）既製品（指定条件と異なる場合は、設計者又は工事監理者と打合せのこと）

口製品名

施工前に計算書を提出し、承認を得ること。

設計時に使用する評価取得品については計算書を提出する事。

（A3=A1縮小50%）

構造設計：西 伸介
一級建築士 第228668号、構造設計一級建築士 第2849号
有限会社 西建築設計事務所、一級建築士事務所 岡山県知事登録 第1356号

工事名 津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査	図面番号 S／5
図面名 新鉄筋コンクリート造配筋標準図（3）				
一級建築士事務所 県知事登録第１２１５３号 （有）芦田設計	一級建築士 登録第９９０５３号 芦田圀廣			

鉄 骨 構 造 標 準 図 （1）

※修正箇所は下線を引くこと

1．一般事項

（1）材料及び検査

(a) 新構造設計特記仕様その1による。
(b) 本標準図はベースプレートを除き鋼材の厚さが40mm以下の工事に適用する。
但し、ベースプレートの厚さは除く。
(c) 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法・精度及びその他の検査結果を添付する。

（2）工作一般

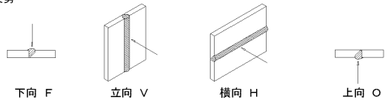
(a) 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監理者の承認を得る。
(b) 鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による。
(c) 高張力鋼の歪み矯正は、冷間矯正とする。

（3）高力ボルト接合

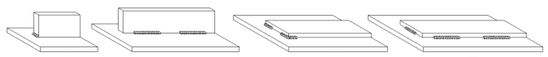
(a) 本締めに使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない。
(b) 高力ボルトの摩擦面の処理は黒皮などを座金外径２倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、一様にさびを発生させた状態とする。但しショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面荒さが、50μm Rz以上である場合は、さびの発生は要しない。
(c) 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく整備されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分に密着するよう注意して行う。

（4）溶接接合

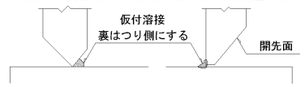
(a) 平成12年建設省告示第1464号第二号イ、ロによる、溶接部の性能、溶着金属の性能を満足すること。
(b) 溶接技能者
溶接技能者は施工する溶接に適応するJISZ3801(手溶接)又はJISZ3841(半自動溶接)の溶接術検定試験に合格し引続き、半年以上溶接に従事している者とする。
(c) 溶接機器
(イ) 交流アーク溶接機 300A～500A　(ニ) 炭酸ガスアーク半自動溶接機
(ロ) アークエアーガウジング機(直流)　(ホ) 溶接電流を測定する電流計
(ハ) セルフシールドアーク溶接機　(ヘ) 溶接棒乾燥器
(d) 溶接方法
被覆アーク溶接(アーク手溶接、MC、MP)　ガスシールドアーク溶接(半自動溶接、GC、GP)
セルフシールドアーク溶接（半自動溶接、NGC）　アークエアーガウジング（AAG）
(e) 溶接姿勢



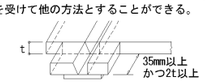
(f) 組立溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う。
(イ) 仮付位置
組立溶接は溶接の始,終端,隅角部など強度上,工作上,問題となり易い箇所は避ける。



(ロ) 完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する。



(g) 溶接施工
(イ) エンドタブ
・完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける。
・エンドタブの材質は,母材と同質とする。但し、鉄骨製作に十分な実績があり、かつ溶接部の品質が十分確保できると判断される場合には監理者の承認を受けて他の方法とすることができる。
・エンドタブの長さは、MC:35mm以上
NGC,GC:40mm以上とし特記のない場合は、
溶接終了後、母材より10mm程度残し切断して、
グラインダー仕上げとする。



・プレス鋼板タブ、固形タブ使用については、資料を提出し設計者、又は工事監理者の承認を得る。
(ロ) 裏当て金
材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で6mm、半自動溶接で9mm以上、巾は25mm以上を原則とする。
但し、溶接性能が確認できれば監理者の承認を得て変更することができる。
(ハ) スカラップ半径はr1=30～35mmとr2=10mmのダブルアールとする。
但し梁成が D=150mm未満の場合のスカラップはr1=20mmとする。

(ホ) 裏はつり
規準図の溶接においてＡＡＧと記載のある部分は全て、アークエアガウジングを行った上で、部材に確認マークを付ける。
(ヘ) 現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、開先部を傷めない様に養生を行う

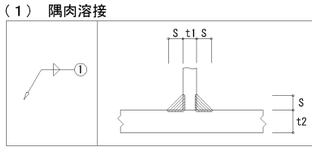
（5） 塗 装

コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない。

2．溶接規準図

（注）f:余盛　G:ルート間隔　R:フェース　S:脚長　（単位mm）

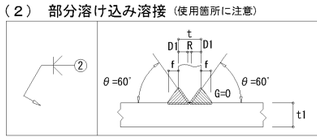
（1） 隅肉溶接



t≦16				
t	7以下	8～10	11～13	14～16
S	6	7	10	12

・但し片面溶接の場合はS=tとする。
・tはt1,t2の小なる方とする。
余盛は(1+0.1S)mm以下とする。
・軸力が加わる場合のSは母材と同厚とすることが望ましい。

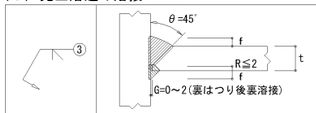
（2） 部分溶け込み溶接（使用箇所に注意）



R≦2
t/4 ≦ f ≦ 10
t≦t1

t	16<t≦40
溶接姿勢	F.V

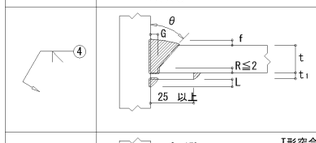
（3） 完全溶込み溶接（平継手　T形継手）



t/4 ≦ f ≦ 10

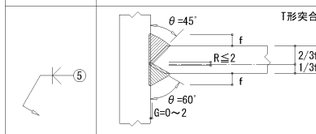
t	6≦t≦40
溶接姿勢	F.V

◦AAG



t/4 ≦ f ≦ 10

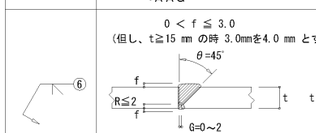
	MC	NGC			GC			
t mm	θ	G	t1	L	θ	G	t1	L
6≦t<12	45°	6	6	5	45°	6	6	5
12≦t≦16	35°	9	9	8	45°	6	9	8
16≦t≦40	35°	9	9	8	35°	9	9	8
溶接姿勢	F.V							



t/4 ≦ f ≦ 10

のど厚t mm	余盛の高さmm
t≦4	1
4<t≦12	2
12<t≦19	3
19<t≦40	4
溶接姿勢	F.V

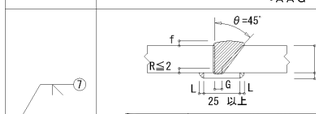
◦AAG



0 < f ≦ 3.0
(但し、t≧15 mm の時 3.0mmを4.0 mm とする)
t2/4 ≦ a ≦ 10
(平継手で板厚が異なる時)

t	6<t≦40
溶接姿勢	F.V

◦AAG

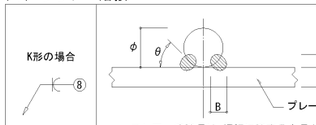


0 < f ≦ 3.0
(但し、t≧15 mm の時3.0mmを4.0mmとする)

	MC	NGC			GC			
t mm	θ	G	t1	L	θ	G	t1	L
6<t<12	45°	6	6	5	45°	6	6	5
12≦t≦19	35°	9	9	5	45°	6	9	5
19<t≦40	35°	9	9	8	35°	9	9	8
溶接姿勢	F.V							

（4） フレアー溶接

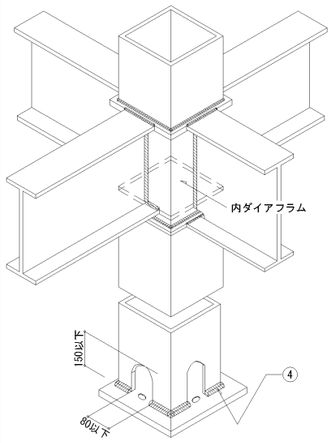
K形の場合



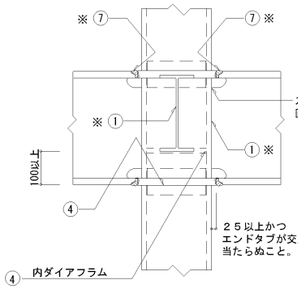
寸法 (mm)		
φ	B	S
9	7	4
13	8	4.5
16	9	5
19	10	6
22	11	7
25	12	8

・フレアー溶接長は,鋼板に接する全長とする。
・9 mm～16 mmは1パス以上,19 mm以上は2パス以上とする。
溶接棒角度θは30°～40°とする。

●BOX型（通しダイアフラムの場合）

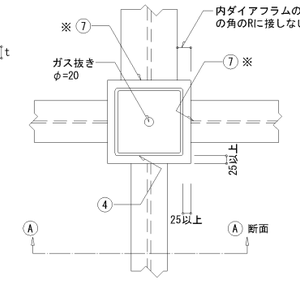


Ⓐ－Ⓐ 断面図



⑦ ※ はりフランジは、通しダイアフラムの厚み(t)の内部で溶接すること。

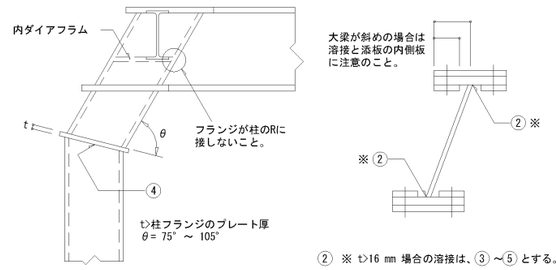
平面詳細



① ※ t>16 mm 場合の溶接は、②・又は③～⑤とする。

ダイアフラム厚は、接合する梁の最大厚の２サイズアップ以上とする。
< 柱材料:BCR295,BCP325を使用する場合 >
ダイアフラムは、柱フランジ厚 16 mm未満の場合 SN490C　SN490B
柱フランジ厚 16 mm以上の場合 SN490C　を使用する。

● 柱が途中で折れる場合、及び梁せいが異なる場合



② ※ t>16 mm 場合の溶接は、③～⑤とする。

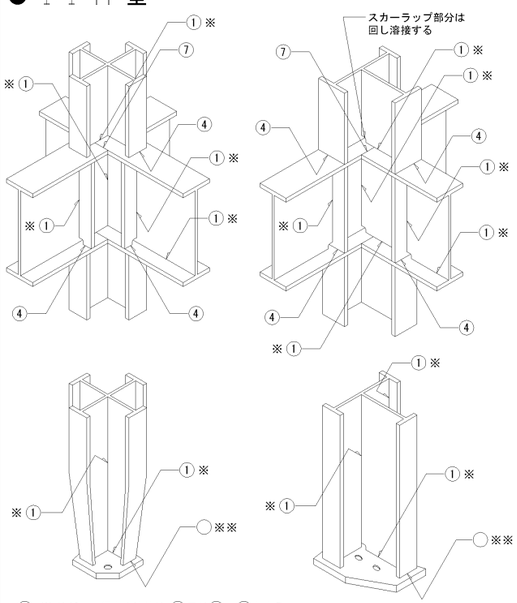
●鋼材種別による溶接条件

溶接材料と入熱量・パス間温度

鋼材の種類	溶 接 材 料	入熱(kJ/cm)	パス間温度(℃)
400N/mm² 級鋼	JIS Z 3312 YGW-11、15 YGW-18、19 JIS Z 3315 YGA-50W、50P	40 以下	350 以下
490N/mm² 級鋼	JIS Z 3312 YGW-11、15 YGW-18、19 JIS Z 3315 YGA-50W、50P	40 〃 30 〃 40 〃 40 〃	350 〃 250 〃 350 〃 350 〃

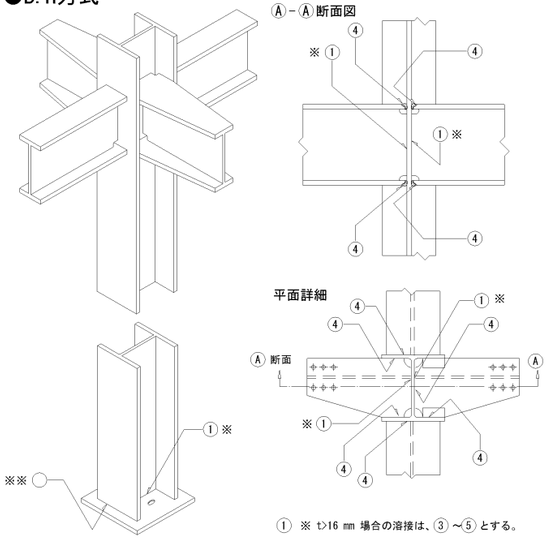
注）STKR,BCR,BCP材はJIS Z 3312、のみ使用可
「新構造設計特記仕様その1 6.鉄骨工事(2)口認定または登録工場」のグレード別に定められた適用範囲と溶接条件制限事項による。

● ⊢ ⊢ ⊢ 型



① ※ t>16 mm 場合の溶接は、②又は③～⑤とする。
○ ※※ 印は設計者が記入すること。

●B.H方式



① ※ t>16 mm 場合の溶接は、③～⑤とする。

構造設計：西 伸介
一級建築士 第228668号、構造設計一級建築士 第2849号
有限会社 西建築設計事務所、一級建築士事務所 岡山県知事登録 第1356号

(A3=A1縮小50%)

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査	図面番号 S
図面名	鉄骨構造標準図(1)				
一級建築士事務所 (有) 芦田設計	県知事登録第12153号	一級建築士 登録第 99053 号 芦田國廣			6

鉄 骨 構 造 標 準 図（2）

※修正箇所は下線を引くこと

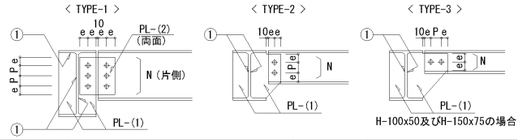
3．継手規準図，その他

（1）高力ボルト、ボルト、アンカーボルトのピッチ (P)　ボルト穴径・最小縁端距離　(mm)

呼び径 d		ボルト穴径	最小縁端距離 (e) (1)	(2)	(3)	(2)(3)の標準	ピッチ (P) 最小	標準
高力ボルト	M16	18	40	28	22	40	40	60
	M20	22	50	34	26	40	50	60
	M22	24	55	38	28	40	55	60
	M24	26	60	44	32	45	60	70
アンカーボルト（）内はボルトを示す	M16	21 (16.5)		28	22	(40)	(40)	(60)
	M20	25 (20.5)		34	26	(40)	(50)	(60)
	M22	27 (22.5)		38	28	(40)	(55)	(60)
	M24	29 (24.5)		44	32	(45)	(60)	(70)
	M27	32		49	36			
	M30	35		54	40			
	M30を超える	呼び径＋5		9d/5	4d/3			

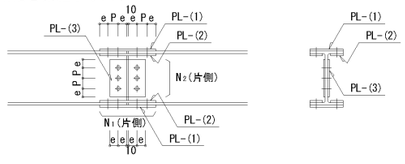
〔注〕(1) 引張材の接合部で応力方向にボルトが3本以上並ばない場合の応力方向の縁端距離。
(2) せん断縁・手動ガス切断縁の場合の縁端距離。
(3) 圧延縁・自動ガス切断縁・のこ引き縁・機械仕上縁の場合の縁端距離。

（2）ピン接合梁継手リスト　※構造図による



符号	タイプ	部　材	PL-(1)	PL-(2)	N - 径
	3	H－125・60・6･8	6		2－M16
	3	H－150・75・5･7	6		2－M16
	2	H－175・90・5･8	6		2－M16
	2	H－200・100・5.5･8	6		2－M16
	2	H－250・125・6･9	6		3－M16
	2	H－300・150・6.5･9	9		3－M20
	2	H－350・175・7･11	9		4－M20
	1	H－350・175・7･11	9	6	4－M20
	2	H－400・200・8･13	9		5－M20
	1	H－400・200・8･13	9	9	4－M20

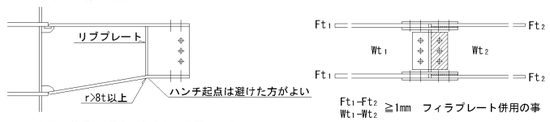
（3）剛接合梁継手リスト　(SCSS-H97による)



〔注〕端部をBHとする場合の部材は設計図による。

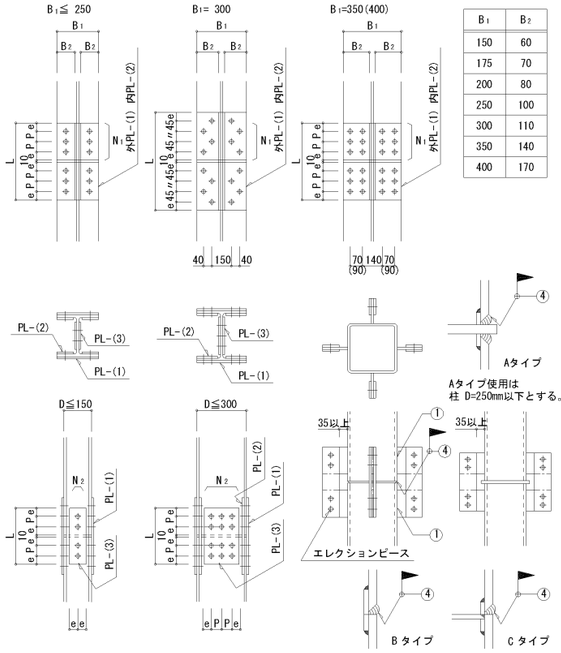
符 号	部　材	フランジ PL-(1)	PL-(2)	N_1- 径	ウエブ PL-(3)	N_2- 径
	※構造図による					

（4） ハンチ部の継手



ハンチ勾配は普通1:4程度であるが構造図による。
r：半径　t：板厚

（5）柱継手リスト



B_1	B_2
150	60
175	70
200	80
250	100
300	110
350	140
400	170

注）現場溶接は原則として超音波探傷試験を100%行う。

符 号	部　材	フランジ PL-(1)	PL-(2)	N_1- 径	ウエブ PL-(3)	N_2- 径

（6）ターンバックルブレース　(JIS規格品とする ･･･ JIS A 5540 ･･･ 2008 / 5541 ･･･ 2008)

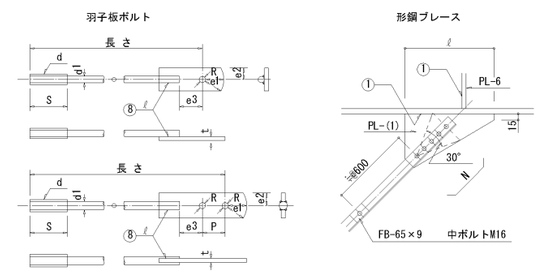
(a) 羽子板ボルト

ねじの呼び (d)			M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24
軸径 dl	最　大		10.83	12.66	14.66	16.33	18.33	20.33	22.00
	最　小		10.59	12.41	14.41	16.07	18.07	20.07	21.69
調整ねじの長さ		S	100	115	125	140	150	165	175
取付けボルト穴径 許容差 +0，-0.5 mm		R	17.0	17.0	17.0	21.5	21.5	23.5	21.5
はしあき(最小)	(2)	e1	40	40	45	50	50	55	50
切板製	へりあき (最小) (1)	e2	28	28	28	34	34	38	38
	板　厚	t	6	6	6	9	9	9	9
平鋼製	へりあき (最小) (1)	e2	25.0	25.0	25.0	32.5	32.5	37.5	37.5
	板　厚	t	6	6	6	9	9	9	9
ボルト端から取付ボルト穴芯のあき (最小)		e3	52	52	59	66	66	73	70
溶接長さ(最小)		W	40	50	55	60	75	85	85
(2) 取付ボルト	種　類		JIS B 1186　2種高力ボルト(F10T)　(3)						
	ねじの呼び		M16	M16	M16	M20	M20	M22	M20
	本　数		1	1	1	1	1	1	2

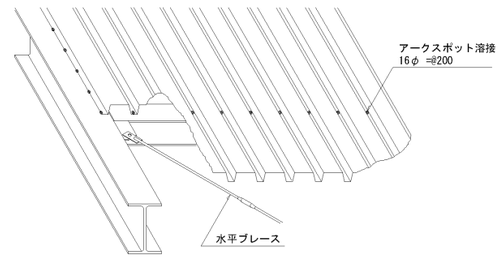
〔注〕(1) e1,e2が確保されていれば形状は自由でよい。
(2) 羽子板とガセットプレートの場合は表に示す取付けボルトを使用し、一面せん断(支圧)接合とする。
(3) 溶融亜鉛めっき製品では、JIS B 1186 に規定する 1 種 F8TAに準じるものを使用する。

(b) 形鋼ブレース

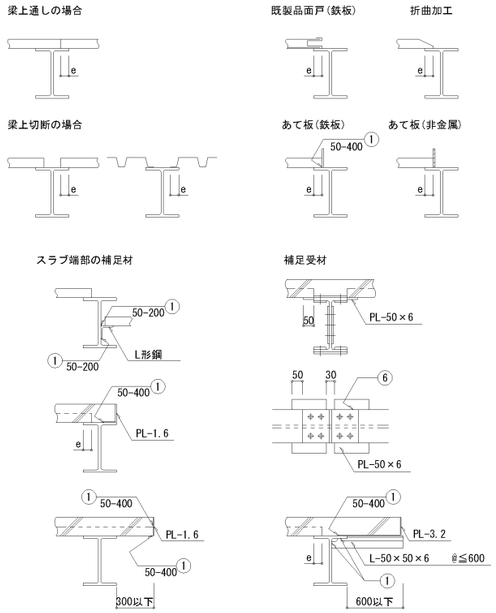
符 号	部　材	PL-(1)	N - 径	ℓ



（7）デッキプレート（床剛性を考慮する合成床，合成梁のときは構造図参照）

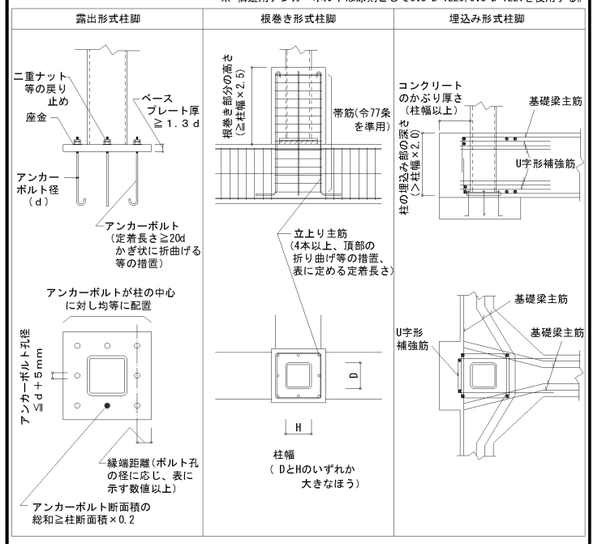


受梁へのかかり寸法及端部処理　　e ： 長手方向で50mm以上、幅方向で30mm以上とする。
且つ、各メーカーの仕様による。



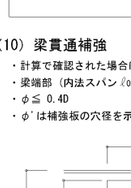
（8）柱脚

注）許容応力度計算を行わなかった場合の構造形式
※ 構造用アンカーボルトは原則としてJIS B 1220,JIS B 1221を使用する。



（9）頭付きスタッド（ JIS B 1198 - 2011 ）

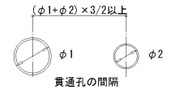
スタッド材の標準形状・寸法

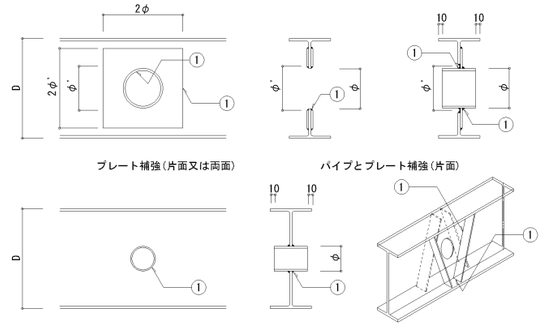


形状 呼び名	軸径 d mm	スタッド材 頭径 D mm	頭高さ T mm	呼び長さ L mm
φ13 mm	13	25	8	□80　□100　□120　□
φ16 mm	16	29	8	□80　□100　□120　□
φ19 mm	19	32	10	□80　□100　□120　□150　□
φ22 mm	22	35	10	□80　□100　□120　□150　□
φ25 mm	25	41	12	□120　□150　□170　□

（10）梁貫通補強

・計算で確認された場合は下図の位置，寸法及び補強方法によらなくて良い。
・梁端部（内法スパン/0の1/10以内かつ、2D以内）は避ける。
・φ'≦ 0.4D
・φ'は補強板の穴径を示す。





プレート補強の板厚

スリーブ径	補　強　板
φ≦ 0.15D	補強板不要
φ≦ D/4	Web板厚以上（片面）
φ≦ D/3	Web板厚x1.2倍以上（片面）
φ≦ 0.4D	Web板厚以上（両面）

構造設計：西 伸介
一級建築士 第228668号、構造設計一級建築士 第2849号
有限会社 西建築設計事務所、一級建築士事務所 岡山県知事登録 第1356号

(A3=A1縮小50%)

工事名　津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査	図面番号 S 7
図面名　鉄骨構造標準図(2)				
一級建築士事務所 県知事登録第12153号 (有) 芦田設計	一級建築士 登録第 99053 号 芦田圀廣			

ＱＬデッキ合成スラブ設計・施工標準 ＪＦＥ建材株式会社

ＱＬデッキ合成スラブの設計・施工は、(社)日本建築学会「各種合成構造設計指針・同解説」「鉄骨工事技術指針」「建築工事標準仕様書・同解説 JASS6鉄筋コンクリート工事及びJASS6鉄骨工事」、(社)日本鉄鋼連盟「デッキプレート床構造設計・施工規準-2004」、合成スラブ工業会「合成スラブの設計・施工マニュアル」、ＱＬデッキ設計マニュアル・同施工マニュアルによる。

設　　計

材料／デッキプレート　[ISO 9001認証取得]

デッキプレート種類		板厚(mm)	表　面　処　理
ＱＬデッキ ■ＱＬ９９－５０ □ＱＬ９９－７５	端部加工 ■エンボ有り □無し	■1.2 □1.6	□裏面防錆処理(一次塗装) ＱＬプライマー(P) ■亜鉛めっき [■Z12 □Z27] □ZAM(高耐食溶融めっき鋼板) [□K27 □K35] □無し( )
ＱＬセルラー	□ＧＫＸ－５０ □ＧＫＸ－７５	□1.2 □1.6	亜鉛めっき Z27限定
材　質	ＪＩＳＧ３３５２に定めるSDP1T、SDP2、SDP2G		

材料／コンクリート

種　　類	■普通コンクリート　□軽量コンクリート(Ⅰ種　□2種)
設計基準強度	□18　■21　□(　　)N/mm
厚さ(ＱＬデッキ山上)	□60 □70 ■80 □85 □90 □95 □100 □(　mm)

材料／溶接金網・異形鉄筋

□溶接金網	ＪＩＳＧ３５５１	□φ6-150×150 □φ6-100×100
■異形鉄筋	ＪＩＳＧ３１１２、３１１７	■Ｄ10－@200 □(　　)

接　　合

■焼抜き栓溶接	下記焼抜き栓溶接の項による
□打込み鋲	接合箇所は特記による
□頭付きスタッド JIS B 1198	□φ16　各長さ・ピッチは特記による
□そ　の　他	

耐　　火

	1 時 間	2 時 間
連続支持	□ＦＰ０６０ＦＬ－９０９５	□ＦＰ１２０ＦＬ－９１０７
単純支持	□ＦＰ０６０ＦＬ－９１０１	□ＦＰ１２０ＦＬ－９１１３
その他 □指定なし	□(　　)	□(　　)

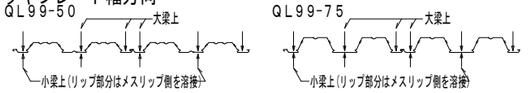
特　　記

支保工有無 ■無　□有	その他：

上欄内の採用項目に□を記して下さい。

焼抜き栓溶接

デッキプレート幅方向



デッキプレートスパン方向

「ＱＬデッキ設計マニュアル」に基づいて決定する。

$Aw = \frac{1.5Qa}{Qb} \times 1000mm$ かつ600mm 以下

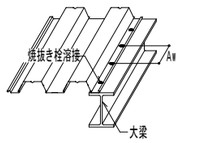
Qa：焼抜き栓溶接１個当たりの長期許容せん断力（N）

Qb：設計最大せん断力(N/m)

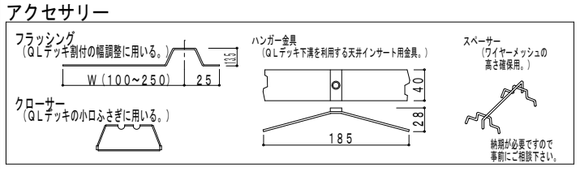
板厚	Qa (N)
1.2	4,900
1.6	7,350(SPW)、6,860(A.P.W)

Aw：焼抜き栓溶接ピッチ

Aw＝（デッキ長さ方向 600 ，デッキ幅方向 200 ）mm



アクセサリー



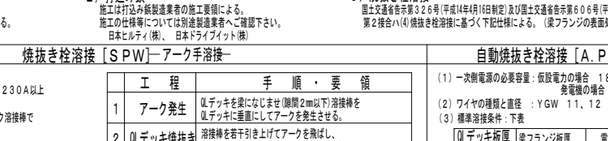
耐　火　仕　様

【連続支持合成スラブ】

支持梁：鉄骨(S)梁 及び 大梁：鉄筋コンクリート(RC)梁又は鉄骨鉄筋コンクリート(SRC)梁、小梁：鉄骨(S)梁

コンクリート：設計基準強度18N/mm²以上の普通コンクリート、及び、軽量コンクリート(1種・2種)

耐火時間	コンクリート種類	品名	支持スパン	コンクリート厚さ		溶接金網又は異形鉄筋(D10-@200)	
床、1時間耐火 FP060FL-9095	普通コンクリート	QL99-50	3.0m 以下	80mm 以上		φ6-150x150	算出式 注5)A 参照
		QL99-75	3.4m 以下				算出式 注5)B 参照
			3.6m 以下	90mm 以上		φ6-100x100	4,400N/m²以下 注1)
	軽量コンクリート	QL99-50	3.0m 以下	80mm 以上		φ6-150x150	算出式 注5)A 参照
		QL99-75	3.4m 以下				算出式 注5)B 参照
床、2時間耐火 FP120FL-9107	普通コンクリート	QL99-50	2.7m 以下	95mm 以上		φ6-100x100	算出式 注5)A 参照
		QL99-75	3.4m 以下	90mm 以上			算出式 注5)B 参照
			3.6m 以下	95mm 以上		D10-@200	5,400N/m²以下 注1)
	軽量コンクリート	QL99-50	2.7m 以下	85mm 以上		φ6-100x100	算出式 注5)A 参照
		QL99-75	3.4m 以下				算出式 注5)B 参照
			3.6m 以下	90mm 以上		D10-@200	5,400N/m²以下 注1)



【単純支持合成スラブ】

支持梁：鉄骨(S)梁

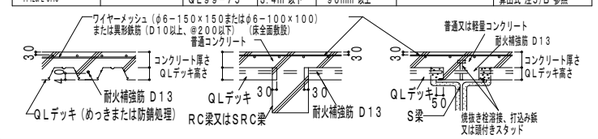
耐火補強筋：Ｄ13（デッキプレート各溝@300）

耐火時間	コンクリート種類	品名	支持スパン	コンクリート厚さ		溶接金網又は異形鉄筋(D10-@200)	
床、1時間耐火 FP060FL-9101	普通コンクリート	QL99-50	2.7m 以下	80mm 以上		φ6-150x150	算出式 注5)A 参照
		QL99-75	3.4m 以下				算出式 注5)B 参照
	軽量コンクリート	QL99-50	2.7m 以下				算出式 注5)A 参照
		QL99-75	3.4m 以下				算出式 注5)B 参照
床、2時間耐火 FP120FL-9113	普通コンクリート	QL99-50	2.7m 以下	95mm 以上		φ6-100x100	算出式 注5)A 参照
		QL99-75	3.4m 以下	90mm 以上			算出式 注5)B 参照
	軽量コンクリート	QL99-50	2.7m 以下	85mm 以上			算出式 注5)A 参照
		QL99-75	3.4m 以下				算出式 注5)B 参照

支持梁：鉄筋コンクリート(RC)梁又は鉄骨鉄筋コンクリート(SRC)梁の場合　コンクリート：設計基準強度18N/mm²以上の普通コンクリート

耐火補強筋　：Ｄ13（デッキプレート各溝@300）

耐火時間	コンクリート種類	品名	支持スパン	コンクリート厚さ		溶接金網又は異形鉄筋(D10-@200)	
床、1時間耐火 FP060FL-9101	普通コンクリート	QL99-50	2.7m 以下	80mm 以上		φ6-150x150	算出式 注5)A 参照
		QL99-75	3.4m 以下				算出式 注5)B 参照
床、2時間耐火 FP120FL-9113	普通コンクリート	QL99-50	2.7m 以下	95mm 以上		φ6-100x100	算出式 注5)A 参照
		QL99-75	3.4m 以下	90mm 以上			算出式 注5)B 参照



注1）スパンとは鉄骨梁の場合デッキプレートを支持する梁の中心間距離、鉄筋コンクリート梁の場合梁内法寸法をいう。
注2）スパンが3.4mを超える場合は、合成スラブと梁とは頭付きスタッド（軸径16mm以上、ピッチ300mm以下）で結合する。
注3）鉄骨梁の場合、梁との接合は焼抜き栓溶接、打込み鋲、または頭付きスタッドを用いる。
注4）梁の耐火被覆　梁に1、2または3時間の耐火性能が要求される場合は、それらに応じ耐火被覆を施す。
注5）許容積載荷重W　算出式

ℓ：支持スパン（m）

[A] QL99-50	[B] QL99-75
$W=5,400\times\left(\frac{2.7}{\ell}\right)^2$ から9,800 N/m 以下	$W=5,400\times\left(\frac{3.4}{\ell}\right)^2$ から9,800 N/m 以下

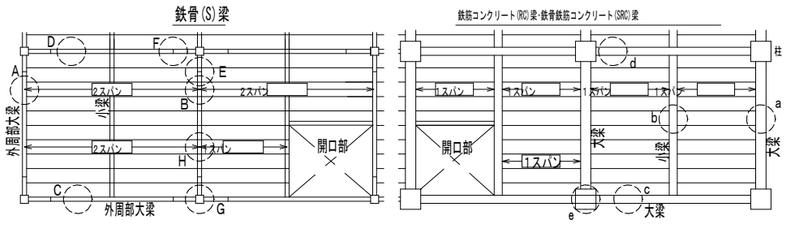
※許容積載荷重は、床にかかる全荷重(仕上げ荷重も含む)から床荷重(デッキプレートとコンクリートの自重)を差し引いた値を示します。

付帯条件

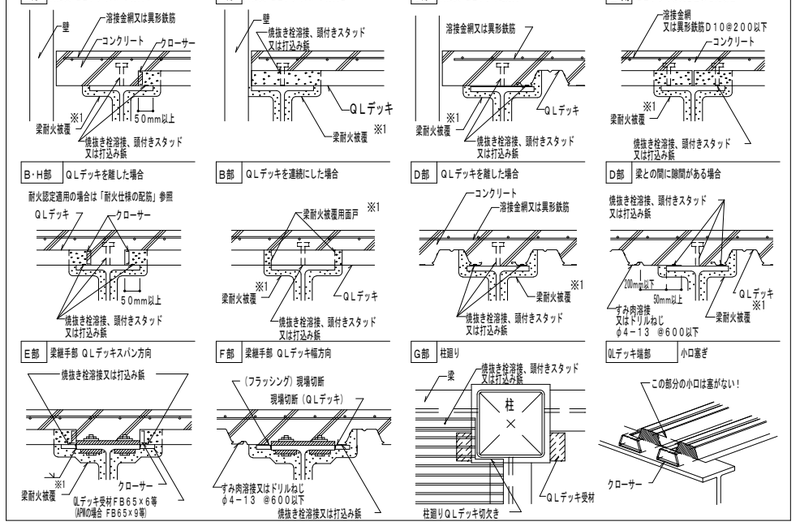
連続支持合成スラブの場合、デッキプレートは2スパン以上にわたって連続的に小ばり等によって、ほぼ等間隔に支持されるものとする。

標　　準　　納　　ま　　り

図中※1は、梁に1、2または3時間の耐火性能が要求される場合のみ適用。　※2はＱＬデッキ耐火認定を適用する場合に必要。

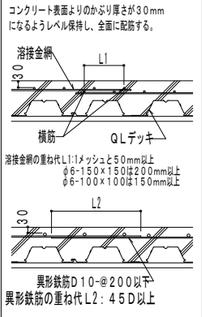


デッキプレートと梁の納まり〔S梁〕



スラブの配筋

コンクリート表面よりのかぶり厚さが30mmになるようレベル保持し、全面に配筋する。

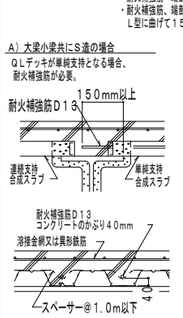


耐火仕様の配筋

ＱＬデッキが単純支持となる場合、耐火補強筋を配筋する。配筋はＪＡＳＳ５鉄筋コンクリート工事による。
・耐火補強筋・端部補強筋が必要な場合、ＱＬデッキの各溝中央部にかぶり40mmで配筋する。
・耐火補強筋、端部補強筋共、梁へ150mm以上定着させる。梁上で定着が150mmとれない場合は、L型に曲げて150mm以上を確保する。

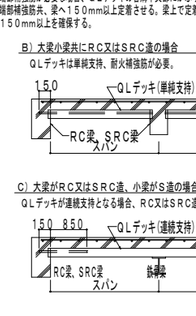
A）大梁小梁共にS造の場合

ＱＬデッキが単純支持となる場合、耐火補強筋が必要。



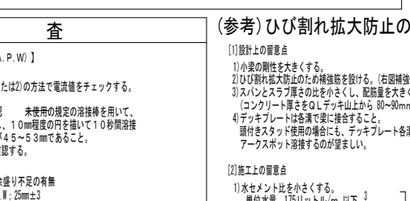
B）大梁小梁共にRC又はSRC造の場合

ＱＬデッキは単純支持、耐火補強筋が必要。

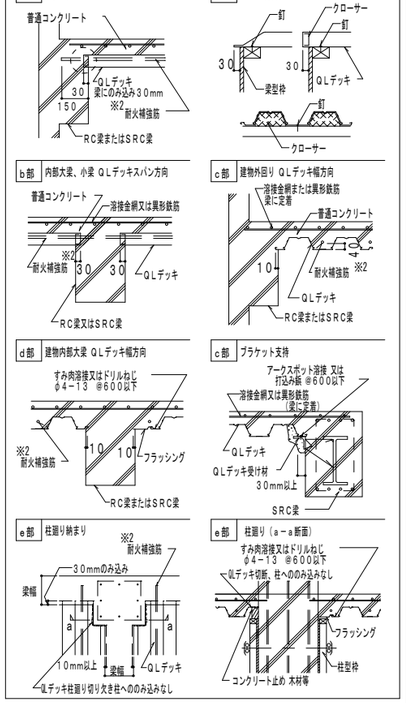


C）大梁がRC又はSRC造、小梁がS造の場合

ＱＬデッキが連続支持となる場合、RC又はSRC造の大梁部位では端部補強筋を配筋する。



デッキプレートと梁の納まり〔RC・SRC梁〕



開口部補強案

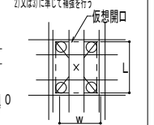
1）開口が150程度の場合

A)開口間隔2×開口径

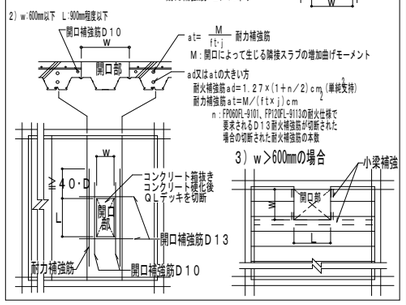
B)開口間隔<3×開口径

C)開口が連続している場合

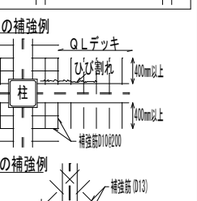
連続する開口の開口径(仮想開口)と見なし、その開口部の大きさにより、A)又はB)に準じて補強を行う



2）w≦600mm以下 L≦900mm程度以下



3）w＞600mmの場合



施工

施工順序

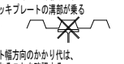
墨出し
↓
敷込み仮止め溶接
↓
ＱＬデッキと梁との接合
1）頭付きスタッド
2）打込み鋲
3）焼抜き栓溶接
↓
溶接金網敷込み
↓
コンクリート打設
↓
検　査

敷　込　み

鉄骨梁の場合

1）墨出し線に合わせて1枚目のデッキプレートを仮止め溶接した後、順次適当な枚数(5～10枚)ごとに仮止め溶接する。

2）各大梁上にデッキプレートの溝部が乗るように敷込む。



デッキプレート幅方向のかかり代は、50mm以上あることを確認する。(頭付きスタッドの場合は30mm以上)

3）デッキプレート長手方向の大梁のかかり代は、50mm以上あることを確認する。

RC梁またはSRC梁の場合

1）デッキプレートは梁型枠に釘止めする。

2）デッキプレートの梁型枠へのみ込み代が幅方向10mm以上、長手方向が30mmあることを確認する。

デッキプレートと梁との接合

1）頭付きスタッド
施工は、JASS6「鉄骨工事」による。
デッキプレートと梁とはアークスポット溶接等で接合する。

2）打込み鋲
施工は打込み鋲製造業者の施工要領による。
施工の仕様等については製造製造業者へご確認下さい。
日本ヒルティ(株)、　日本ドライブイット(株)

3）焼抜き栓溶接
国土交通省告示第326号(平成14年4月16日制定)及び国土交通省告示第606号(平成19年5月20日改正)の第2接合ハ(4)焼抜き栓溶接に基づく下記仕様による。(梁フランジの表面処理条件：黒皮または一般錆止め塗装)

焼抜き栓溶接［ＳＰＷ］―アーク手溶接―

(1) 溶接機
交流アーク溶接機 AW250A以上　エンジン溶接機 230A以上

(2) 溶接棒
JIS Z 3211のE4316、E4916 に定める低水素系被覆アーク溶接棒で棒径4mmのもの

(3) 標準溶接条件

梁フランジ板厚	溶接電流
6～9mm未満	190～230A(標準210A)
9mm以上	190～230A(標準210A)

(4) 溶接工の資格
JIS Z 3801、JIS Z 3841 における基本級の有資格者

(5) 手順・要領
右の1～4の順に行う。

	工　程	手　順　・　要　領
1	アーク発生	ＱＬデッキを梁になじませ(隙間2mm以下)溶接棒をＱＬデッキに垂直にしてアークを発生させる。
2	ＱＬデッキ焼抜き	溶接棒を若干引き上げてアークを飛ばし、径10mm弱で"の"の字を描いてＱＬデッキを焼抜く。
3	押し込み・溶着	溶接棒を梁上まで押し込み、焼抜きの内側をなぞるように円中央へ2～3回転しながら溶着。
4	整　形	溶着金属を整え、中央部でそっと溶接棒を引き上げる。スラグを除去して仕上がりを確認。

溶接時間の目安：電流値210A(標準)の場合8秒程度

自動焼抜き栓溶接［A.P.W］―CO₂アークスポット溶接―

(1) 一次側電源の必要容量：仮設電力の場合　18KVA以上　3相　200V
発電機の場合　35KVA以上　3相　200V

(2) ワイヤの種類と直径　：YGW　11、12　φ1.2mm

(3) 標準溶接条件：下表

ＱＬデッキ板厚	梁フランジ板厚	電流(A)	電圧(V)	アークタイム(秒)
1.2mm	6～9mm未満	300～320	33～35	3.0～4.0×1度打ち
	9mm以上	300～320	33～35	3.0～4.0×2度打ち
1.6mm	6～9mm未満	300～320	34～36	3.5～4.5×1度打ち
	9mm以上	300～320	34～36	4.0～4.5×2度打ち

注1．デッキプレート　板厚1.2、1.6mm　表面条件：Z12、Z27、裏面塗装
2．CO₂ ガス流量：20リットル/分以上

検　　査

【焼抜き栓溶接（SPW）及び自動焼抜き栓溶接（A.P.W）】

□事前検査

SPW：適正な溶接を行うため下記1)または2)の方法で電流値をチェックする。
1) 検査材での計測
2) 溶接棒の消費量さによる確認　　未使用の規定の溶接棒を用いて、アーク長さを約3mmに保持し、10mm程度の円を描いて10秒間溶接した時の溶接棒の消費量さが4.5～5.3mmであること。

A.P.W：試し溶接を行って溶接径を確認する。

□溶接後の外観検査
1) 溶接箇所の確認　2) 焼き切れ、余盛り不足の有無
3) 標準余盛り径　SPW：18mm以上　A.P.W：25mm±3

□不良部の補修
SPW の場合：スラグ除去後、ＱＬデッキプレートを密着させて再溶接する。
不良合箇所に溶着金属を流し込む要領で補修。
A.P.Wの場合：重ね溶接して補修する。

【そ　の　他】
(1) ＱＬデッキ母材上のみ合状況　(2) 溶接金網の敷込み状況　(3) 開口部の補強状況

(参考)ひび割れ拡大防止のための留意事項

[1]設計上の留意点
1) 小梁の剛性を大きくする。
2) ひび割れ拡大防止のため補強筋を設ける。(右図補強例参照)
3) スパンとスラブ厚さの比を小さくし、配筋量を大きくする。
(コンクリート厚さをＱＬデッキ山上から80～90mmと厚くする。)
4) デッキプレートは各溝で梁に接合すること。
頭付きスタッド使用の場合にも、デッキプレート各溝全てをアークスポット溶接するのが望ましい。

[2]施工上の留意点
1) 水セメント比を小さくする。
単位水量　175リットル/m³ 以下
ベースコンクリートスランプ　10cm　スランプ 15cm
高性能ＡＥ減水剤
2) 溶接金網の位置－かぶり厚さ30mm－を確保する。(補強筋は溶接金網より下に配筋する)
3) コンクリート打込み後1週間は躯体作業を行わない。歩行程度は可。
4) 打込み後初期に は散水や養生シート等で湿潤養生を行う。
直射日光が当たる屋上は、散水養生は必須。
5) 打込み後4～7日間はスラブに振動や荷重を加えないようにし、充分な養生期間を設ける。

太梁上の補強例

柱廻りの補強例

構造設計：西　伸介
一級建築士 第228668号、構造設計一級建築士 第2849号
有限会社 西建築設計事務所、一級建築士事務所 岡山県知事登録 第1356号

(A3=A1縮小50%)

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計 審査
図面名	ＱＬデッキ合成スラブ設計・施工標準		図面番号 S 8
一級建築士事務所	県知事登録第１２１５３号 (有)青田設計	一級建築士	登録第 ９９０５３ 号 芦田圀廣

ジャスト ベース（ ＪＥＩ型）柱脚工法設計施工標準図
（ 角形鋼管仕様）

（財）日本建築センターＢＣＪ評定－ＳＴ０１５３－０６（平成２５年１２月２０日付）

適用条件

●柱材：角形鋼管（Ｆ値 235N/mm2） ～ STKR400, BCP235, SHC400B・C
（Ｆ値 295N/mm2） ～ BCR295
（Ｆ値 325N/mm2） ～ STKR490, BCP325, SHC490B・C
●基礎コンクリート 普通コンクリート （21・24N/mm2） 以上
●鉄筋 ： 異形鉄筋 SD295A(D10～D16)
SD345 (D19～D25)

設計施工

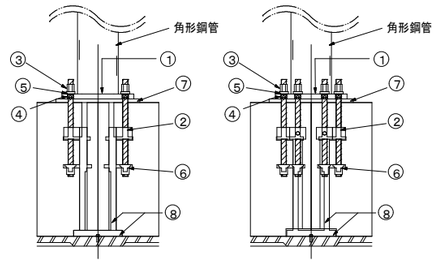
●柱脚の選定 ： 別冊「ジャストベースカタログ」により設計者が選定する。
●柱脚の溶接 ： 別冊「工事製作管理要領書」により鉄骨工場にて溶接施工を行う。
●現場施工 ： 別冊「ジャストベース施工ガイド」によりジャストベース認定施工業者が行う。

資料番号：ＪＢ（ＪＥＩ）－０１－０６

コト ブキ技研工業株式会社
広 島 TEL 0823-70-0721 FAX 0823-70-0722

1．柱脚構成部材及び基礎廻り標準図

1．1 構成部材



〈４本アンカーボルトタイプ〉 〈８本アンカーボルトタイプ〉

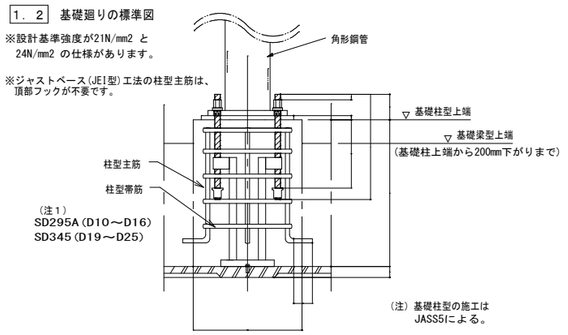
① ベースプレート
② アンカーボルト
③ ロックナット及び緩み止めクサビ
④ ジャストリング
⑤ 座金
⑥ 定着ナット及び緩み止めクサビ
⑦ 無収縮モルタル
⑧ フレーム部材（テンプレート含む）

注：１２本アンカーボルトタイプ図は省略

1．2 基礎廻りの標準図

※設計基準強度が21N/mm2 と 24N/mm2 の仕様があります。

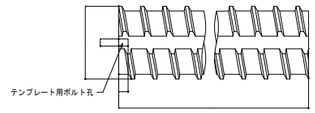
※ジャストベース(JEI型)工法の柱型主筋は、頂部フックが不要です。



（注）基礎柱型の施工はJASS5による。

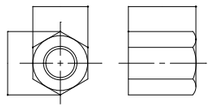
2．アンカーボルト・ロックナット・定着ナット・座金・ジャストリング

2．1 アンカーボルト（材質：ＳＤ３９０・ＳＤ４９０）



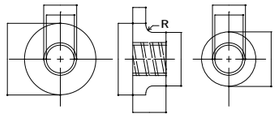
呼 径	D	L	d1	l1
D29 (SD490)	32.4	660	M8	20
D35 (SD390)	38.7	720	M8	20
D35 (SD490)	38.7	725	M8	20
D38 (SD490)	42.7	785	M8	20
D41 (SD490)	46.2	870, 970	M8	20

2．2 ロックナット（材質：Ｓ４５Ｃ 熱処理Ｈ）



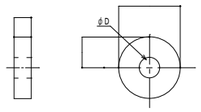
呼 径	B	C	L
D29	43	49.7	56
D35	53	61.2	64
D38	57	65.8	64
D41	64	73.9	64

2．3 定着ナット（材質：Ｓ４５Ｃ又はＦＣＤ４５０－１０）



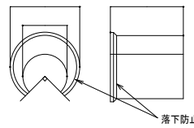
呼 径	A1	A2	B	H	c	d	R
D29	62	49.7	10	56	34.3	28.9	5
D35	74	61.2	10	64	41.2	35.0	5
D38	82	65.8	10	64	44.9	38.1	8
D41	88	73.9	10	72	48.2	41.2	7

2．4 座金（材質：ＳＳ４００）



呼 径	W1	P1	t	φD
D29	74	37	22	34
D35	88	44	22	41
D38	94	47	25	45
D41	100	50	28	48

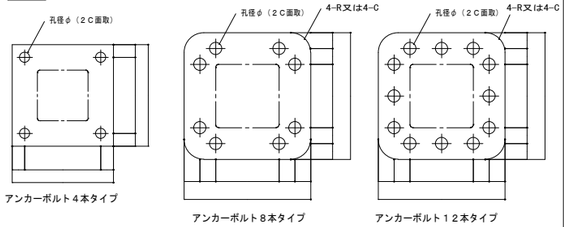
2．5 ジャストリング（材質：Ｓ２５Ｃ）



呼び名	外リング D	外リング d	内リング D	内リング d	H
D29	49.0	41.3	40.6	32.9	28
D35	59.0	49.6	48.8	39.2	32.45
D38	64.0	54.0	53.3	43.2	45
D41	69.0	58.2	57.5	46.7	55

3．ベースプレート

3．1 ベースプレート（材質：ＳＭ４９０Ａ）



アンカーボルト４本タイプ　アンカーボルト８本タイプ　アンカーボルト１２本タイプ

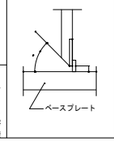
ｼﾞｬｽﾄﾍﾞｰｽ 記 号	タイプ	t	A	a	b	c	d	φ	R又はC
J150-09	4本	28	300	45	210	—	—	50	—
J175-09	4本	28	325	45	235	—	—	50	—
J200-09	4本	32	350	45	260	—	—	50	—
J200-12	4本	32	380	55	270	—	—	60	—
J250-09	4本	36	430	55	320	—	—	60	—
J250-12	4本	40	440	55	330	—	—	60	—
J250-16	8本	36	480	55	—	75	220	60	80
J300-09	8本	32	490	45	—	65	270	50	50
J300-12	8本	36	530	55	—	75	270	60	80
J300-16	8本	45	540	55	—	75	280	60	80
J300-19	8本	50	540	55	—	75	280	60	80
J350-12	8本	40	580	55	—	75	320	60	80
J350-16	8本	45	600	60	—	85	310	65	80
J350-19	8本	55	630	60	—	85	340	65	80
J350-22	8本	55	630	65	—	85	330	70	80
J400-12	8本	45	630	55	—	75	370	60	80
J400-16	8本	55	690	60	—	85	400	65	80
J400-19	8本	60	690	65	—	85	390	70	80
J400-22	12本	60	700	60	—	85	410	65	80
J450-16	12本	50	700	60	—	85	410	65	80
J450-19	12本	55	720	65	—	85	420	70	80
J450-22	12本	60	750	65	—	85	450	70	80
J500-19	12本	60	790	65	—	85	490	70	80
J500-22	12本	65	840	65	—	85	540	70	80
J550-19	12本	65	880	65	—	95	560	70	80
J550-22	12本	70	950	65	—	95	630	70	80

4．溶接施工

4．1 溶 接

●角型鋼管のベースプレートへの溶接は突合せ溶接とする。
開先条件はＪＡＳＳ６に準じ下表による。

■溶接方法（突合せ溶接） 突合せ溶接の開先標準

種類	図	柱部材の適用板厚（mm）	ルート間隔 G（mm） 標準値	ルート間隔 G（mm） 許容差	ルート面 R（mm） 標準値	ルート面 R（mm） 許容差	開先角度 α1（度） 標準値	開先角度 α1（度） 許容差	溶接姿勢
被覆アーク溶接		６以上	7 — 9	−2 , +∞	2	−2 , +1	45 — 35	−2.5 , +∞	F H V
ガスシールドアーク溶接		６以上	6 — 7	−2 , +∞	2	−2 , +1	45 — 35	−2.5 , +∞	F H V

4．2 溶接部の検査

●超音波探傷試験とし、合否の判定は日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷基準・同解説」による。

5．現場施工

特記以外は元請建設会社の施工とする。

5．1 捨てコンクリート地業（元請施工）

●基礎柱型下部の捨てコンクリートは厚さ８０mm以上とし、上面をコテで平滑に仕上げる。上面レベルのチェックを行う。

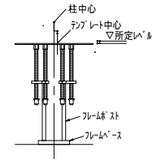
5．2 フレーム及びアンカーボルトの設置（※１）

①フレームベース設置：柱中心線地墨に対し、平面位置を調整する。レベル調整用ボルトでフレームベースを水平にする。

②アンカーボルト設置：フレームポスト上部の部材にアンカー調整ボルトにて固定し垂直を確認する。

③テンプレート設置 ：テンプレートをアンカーボルトに上部からボルトにて固定し、テンプレート中心線を、柱中心地墨に調整後、フレームベースをホールインアンカーで固定する。

④定着ナット緩み止め措置 ：定着ナットをアンカーボルト下部位置に取り付け、アンカーボルトと定着ナットの隙間に鋼製クサビを打ち込む。



許容誤差	
	−5≦e1≦5
	−5≦e2≦5

5．3 基礎柱型配筋及びコンクリート打設（元請施工）

5．4 鉄骨柱の建入れ（元請施工）

5．5 ジャストリング設置及びロックナット本締め（元請施工）

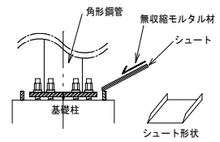
●ジャストリングを全数設置し、レンチ等でロックナットを本締めする。トルク値は３００Ｎ・ｍとする。

5．6 緩み止めクサビの設置（元請施工）

●鋼製クサビをロックナットとアンカーボルトの隙間に全数セットし、打ち込む。

5．7 無収縮モルタル注入

①無収縮モルタル用型枠施工（元請施工）
②基礎コンクリート清掃・水洗いの後、無収縮モルタルをシュートにより一方向から注入する。（※１）



※１：現場施工及び施工管理は、ジャストベース施工技術委員会が認定した有資格者が行う。

ジャストベース（JEI型）柱脚工法（角形鋼管）標準仕様一覧表

適用（○印）	ｼﾞｬｽﾄﾍﾞｰｽ 記 号	サイズ	適用角形鋼管 F=235N/mm2	適用角形鋼管 F=295N/mm2	適用角形鋼管 F=325N/mm2	柱脚構成部材 アンカーボルト n-φ×L	材質	h	ベースプレート t×A×A	座金 t×W1	RC基礎柱型 寸法(mm) C×D	H	主筋（注1）	帯筋（注1）	設計基準強度 (N/mm)²	柱脚回転剛性 kN・m/rad	備考
	J150-09	150×150	6・9	6・8・9・12	——	4-D29×660	SD490	165	28×300×300	22×74	460×460	550	8-D10	D10 @ 150	21	11,000	
	J175-09	175×175	6・9	6・8・9・12	——	4-D29×660	SD490	165	28×325×325	22×74	480×480	550	8-D13	D10 @ 150	21	14,700	
	J200-09	200×200	6・8・9・12	6・8・9	——	4-D29×660	SD490	165	32×350×350	22×74	520×520	600	8-D13	D10 @ 150	21	19,800	
	J200-12		6・8・9・12	6・8・9・12	6・8・9	4-D35×720	SD390	175	32×380×380	22×88	540×540	600	8-D16	D10 @ 150	21	27,800	
	J250-09	250×250	6・8・9	6・8・9	——	4-D35×720	SD390	175	36×430×430	22×88	620×620	600	8-D16	D13 @ 150	21	43,800	
	J250-12		6・8・9・12	6・8・9・12	6・8・9	4-D35×725	SD490	180	40×440×440	22×88	620×620	600	8-D16	D13 @ 150	21	47,700	
	J250-16		6・8・9・12・14・16	6・8・9・12・14・16	6・8・9・12	8-D35×720	SD390	175	36×480×480	22×88	630×630	600	12-D19	D13 @ 150	21	61,600	
	J300-09	300×300	6・8・9・(12)	6・8・9	——	8-D29×660	SD490	165	32×490×490	22×74	680×680	600	8-D16	D13 @ 150	21	64,700	
○	J300-12		6・8・9・12・(14)・(16)	6・8・9・12	6・8・9	8-D35×720	SD390	175	36×530×530	22×88	700×700	600	8-D19	D13 @ 150	21	89,600	
○	J300-16		6・8・9・12・14・16・19	6・8・9・12・14・16	6・8・9・12	8-D35×720	SD390	185	45×540×540	22×88	730×730	600	8-D22	D13 @ 150	21	96,500	
	J300-19		6・8・9・12・14・16・19	6・8・9・12・14・16・19	6・8・9・12・14・(16)	8-D35×725	SD490	190	50×540×540	22×88	730×730	600	12-D22	D13 @ 150	21	102,000	
	J350-12	350×350	9・12・(14)・(16)	9・12	9	8-D35×720	SD390	185	40×580×580	22×88	780×780	700	12-D22	D13 @ 100 又は D16 @ 150	21	125,000	
	J350-16		9・12・14・16・19・(22)	9・12・14・16	9・12	8-D38×785	SD490	200	45×600×600	25×94	800×800	750	12-D25	D13 @ 100 又は D16 @ 150	21	149,000	
	J350-19		9・12・14・16・19・22	9・12・14・16・19	9・12・14・(16)	8-D38×785	SD490	200	55×630×630	25×94	800×800	750	12-D25	D13 @ 100 又は D16 @ 150	21	165,000	
	J350-22		9・12・14・16・19・22	9・12・14・16・19・22	9・12・14・16・(19)	8-D41×870	SD490	205	55×630×630	28×100	800×800	800	20-D22	D13 @ 100 又は D16 @ 150	21	170,000	
	J400-12	400×400	9・12	9・12	9	8-D35×725	SD490	190	45×630×630	22×88	850×850	800	12-D22	D13 @ 100 又は D16 @ 150	21	177,000	
	J400-16		9・12・14・16・19	9・12・14・16	9・12	8-D38×785	SD490	200	55×690×690	25×94	870×870	800	12-D25	D13 @ 100 又は D16 @ 150	21	218,000	
	J400-19		9・12・14・16・19・22・(25)	9・12・14・16・19	9・12・(14)・(16)	8-D41×870	SD490	205	60×690×690	28×100	900×900	800	12-D22	D13 @ 100 又は D16 @ 150	21	232,000	
	J400-22		9・12・14・16・19・22・25	9・12・14・16・19・22	9・12・14・16・(19)	12-D38×785	SD490	200	60×700×700	25×94	900×900	800	16-D25	D13 @ 100 又は D16 @ 150	21	258,000	
	J450-16	450×450	9・12・14・16・19	9・12・14・16	9・12	12-D38×785	SD490	200	50×700×700	25×94	940×940	800	16-D22	D13 @ 100 又は D16 @ 150	21	296,000	
	J450-19		9・12・14・16・19・22・(25)	9・12・14・16・19	9・12・(14)・(16)	12-D41×870	SD490	205	55×720×720	28×100	940×940	800	16-D25	D13 @ 100 又は D16 @ 150	21	319,000	
	J450-22		9・12・14・16・19・22・25	9・12・14・16・19・22	9・12・14・16・(19)	12-D41×870	SD490	205	60×750×750	28×100	980×980	800	20-D25	D13 @ 100 又は D16 @ 150	21	339,000	
	J500-19	500×500	9・12・14・16・19・22・(25)	9・12・14・16・19	9・12・14・16	12-D41×870	SD490	205	60×790×790	28×100	1,020×1,020	800	20-D25	D13 @ 100 又は D16 @ 150	21	422,000	
	J500-22		9・12・14・16・19・22・25	9・12・14・16・19・22	9・12・14・16・(19)	12-D41×970	SD490	215	65×840×840	28×100	1,050×1,050	850	24-D25	D16 @ 100	21	427,000	
	J550-19	550×550	9・12・14・16・19・22・(25)	9・12・14・16・19	9・12・(14)・(16)	12-D41×970	SD490	215	65×880×880	28×100	1,100×1,100	850	24-D25	D16 @ 100	24	537,000	
	J550-22		9・12・14・16・19・22・25	9・12・14・16・19・22	9・12・14・16・(19)	12-D41×970	SD490	215	70×950×950	28×100	1,150×1,150	850	24-D25	D16 @ 100	24	557,000	

※（）内は、ＳＴＫＲでは不可

構造設計：西 伸介
一級建築士 第228668号、構造設計一級建築士 第2849号
有限会社 西建築設計事務所、一級建築士事務所 岡山県知事登録 第1356号

（A3=A1縮小50%）

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査	図面番号
図面名	ジャストベース（JEI型）柱脚工法設計施工標準図（角形鋼管仕様）				S 9

一級建築士事務所 県知事登録第１２１５３号 （有） 芦 田 設 計
一級建築士 登録第 ９９０５３ 号 芦田國廣

2015.4 改訂

ＳＳコラム工法特記仕様書

1.　工法概要

本工法はセメント系固化材を固化材液として現地地盤に注入し、共回り防止翼の左右両端に、円柱状の鋼棒を装着した撹拌装置を用いて混合撹拌することによりソイルセメントコラムを形成する工法である。

2.　特記事項

（１）コラム径　φ＝1000㎜

（２）掘削深度　GL-5.50m～6.50m
（掘削長が変更となる場合には管理者と協議しトルク計にて確認を行う。）

（３）設計基準強度　Ｆｃ＝800kN/㎡

（４）本工事工法は、一般財団法人 日本建築総合試験所で証明された建築技術性能証明取得工法とする。

3.　室内配合試験

（１）固化材　　セメント系固化材又は、セメントを使用する。

（２）室内配合強度の設定と配合量　　本施工にあたり、原則として事前に現地土を採取し、室内配合試験を実施しなければならない。
また、配合量は所定の配合強度が得られる配合量を想定し、その配合を中心として貧配合のもの１種類、富配合のもの１種類の合計３種類程度設定する。
六価クロム溶出試験を行い、基準値以下であることを確認する。

室内配合強度　　Ｘｌ＝Ｘｆ / αｆｌ

Ｘｌ　：　室内配合強度（kN/㎡）
Ｘｆ　：　配合強度（kN/㎡）
（ Ｘｆ ＝ αｔ × Ｆｃ ）
αｔ　：　割増し係数（右表より）
Ｆｃ　：　設計基準強度（kN/㎡）
αｆｌ　：　現場/室内強度比

変動係数	抜取ヶ所数（N）	1	2	3	4～6	7～8	9以上
25%	割増係数（αt）	2.163	1.918	1.815	1.719	1.651	1.594

※　変動係数を想定し、7項に規定する抜き取りヶ所数N、合格確率80%とした上表を用いて設定する。

（３）小規模建築物における室内配合試験　　本工法を小規模建築物に適用する場合に限り、「SSコラム工法施工管理マニュアル」Ⅱ-12Pの条件に基づき室内配合試験を省略することができる。
※特異土質対応の固化材を使用し強度発現が見られない場合は工法変更する場合がある

4.　施工計画書

本工事に先立ち、施工計画書を監督員に提出する。施工計画書には次の事項を明記する。

（１）工事概要　（２）工事場所　（３）工法概要　（４）施工概要　（５）使用固化材
（６）作業計画　（７）施工管理　（８）配合計画　（９）品質管理　（10）安全衛生管理

5.　施工

（１）固化材液の充填方法は、掘削時充填方法とする。

（２）掘削速度1.0m/分、引き上げ速度1.0m/分以下とする。

（３）施工手順は以下の通りとする。

1. コラムの中心位置を出し、その位置に撹拌ロッドの中心がくるように機械をセットする。
2. セットが完了したら撹拌ロッドを回転し、規定の速度で掘削を開始する。
3. 所定の位置まで来たら固化材液を撹拌ロッド先端より注入しながら掘削撹拌を行う。
4. 掘削が完了したら固化材液の注入をやめ、撹拌ロッドを掘削時と正逆回転し50ｃｍ以上練り返しを行う。
5. 逆回転で再撹拌しながら引き上げる。

6.　施工管理

（１）コラムの鉛直度　　改良機本体の傾斜計で管理する。

（２）固化材液の作製　　水の計量：計量計又は水管計で計測する。
固化材の計量：袋数又は重量計で計測する。

（３）固化材吐出量　　流量計で計測し記録する。

（４）掘削深度　　深度計で計測し記録する。

（５）掘削速度　　速度計計測し記録する。

（６）支持層強度　　トルク計で測定し記録する。

7.　現場強度管理試験

（１）調査ヶ所数　　施工後のコラムより下表の採取ヶ所数に準じて強度管理試験用のコア採取を行うことし、採取したコアの材齢28日における圧縮強度試験結果が下式をクリアしなければならない。
また、合否の判定は、Ｎ箇所（抜取個数）の一軸圧縮強さの平均値ＸＮと合格判定値ＸＬの大小関係を比較する事で行う。

供試体の採取方法		
改良長	採取位置	
	頭部コア	深度コア
	採取方法：モールドコア	採取方法：ボーリングコア ：モールドコア
2m以下の場合	50コラムにつき1ヶ所以上	1検査対象群につき1ヶ所以上
2m以上の場合	100コラムにつき1本以上	

＊頭部コア試験は1ヶ所（1本のコラム）あたり3個のコア採取を基本とする。

＊深度コア試験については1ヶ所（1本）以上のボーリングコアを実施することとし、その他はモールドコア試験により代用できるものとする。

（２）合格判定　　ＸＮ ≧ ＸＬ ＝ Ｆｃ ＋ ｋａ ・ σｄ

ＸＮ　：　Ｎ箇所の一軸圧縮強さの平均値　（kN/㎡）
ＸＬ　：　合格判定値　（kN/㎡）
Ｆｃ　：　設計基準強度　（kN/㎡）
ｋａ　：　合格判定係数（下表による）(kN/㎡)
Ｎ　：　検査対象層の抜取箇所数
σｄ　：　設計で想定したコア強度の標準偏差
σｄ ＝ Ｖｄ ・ ｑｕｄ　（KN/㎡）
ｑｕｄ　：　想定した一軸圧縮強さ（kN/㎡）
Ｖｄ　：　変動係数

抜取箇所数（N）	1	2	3	4～6	7～8	9以上
合格判定係数（ka）	1.9	1.7	1.6	1.5	1.4	1.3

※　品質に支障があった場合の処理　　品質に支障があった場合は、監理者と協議し適切な判断を下す。

（３）小規模建築物における現場強度管理試験　　本工法を小規模建築物に適用する場合には、「SSコラム工法施工管理マニュアル」Ⅱ-28Pの品質検査方法により、品質検査を行ってよいものとする。

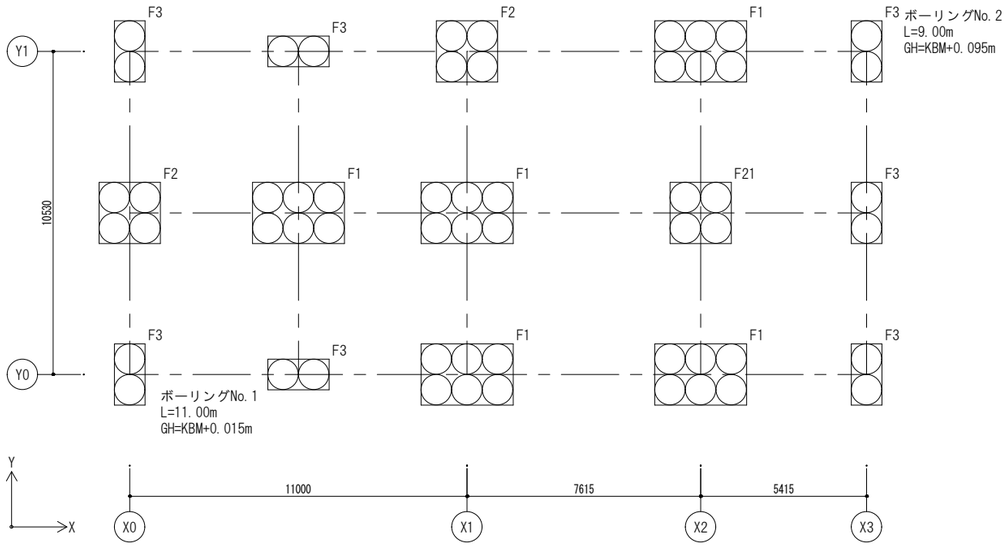
8.　施工報告書

工事完了後、次の事項について報告書をまとめ、監督員に提出する。

（１）コラム配置図及び番号　（２）施工年月日　（３）コラム径　（４）掘削長　（５）掘削深度
（６）固化材の使用量　（７）品質管理試験結果

構造設計：西 伸介
一級建築士 第228668号、構造設計一級建築士 第2849号
有限会社 西建築設計事務所、一級建築士事務所 岡山県知事登録 第1356号

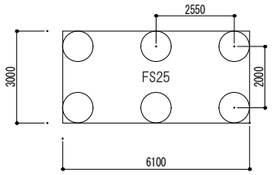
(A3=A1縮小50%)
工事名　津山圏域消防組合日本原分署新築工事　　計画　設計　審査
図面名　SSコラム工法特記仕様書
一級建築士事務所 県知事登録第１２１５３号 （有）芦田設計
一級建築士 登録第 ９９０５３ 号 芦田圀廣
図面番号 S 10



杭　基礎　伏図

柱状改良天端：GL-1400

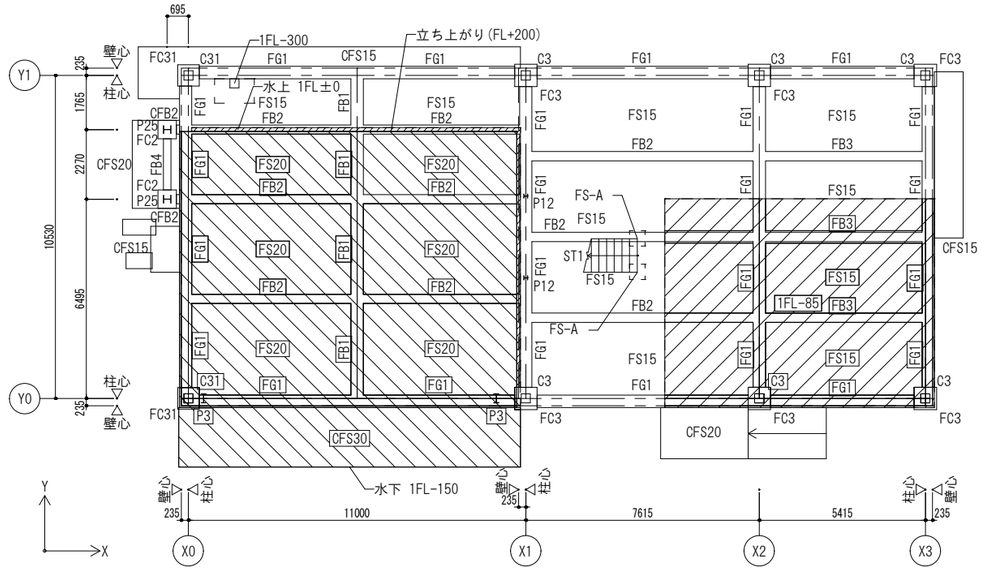
SSコラム工法
認定　：GBRC 性能証明　第 12-07号　改2
工法　：スラリー系機械攪拌式深層混合処理工法（改定2)
コラム径　：Φ=1000
設計基準強度　：Fc=800kN/㎡
掘削長　：5. 5m～6. 50m
杭本数　：56本



浄化槽　杭　基礎　伏図

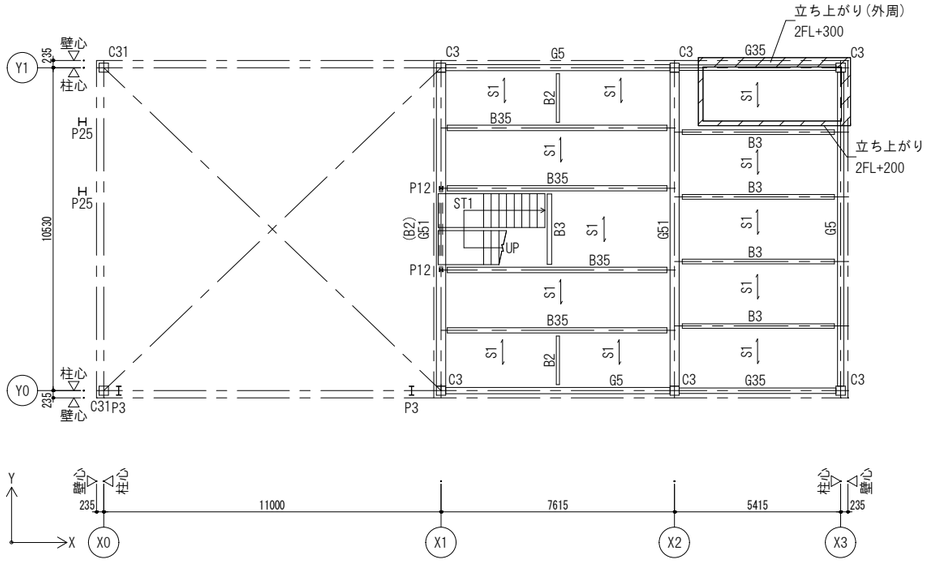
柱状改良天端：GL-2890

SSコラム工法
認定　：GBRC 性能証明　第 12-07号　改2
工法　：スラリー系機械攪拌式深層混合処理工法（改定2)
コラム径　：Φ=1000
設計基準強度　：Fc=600kN/m2
掘削長　：2. 55m
杭本数　：6本



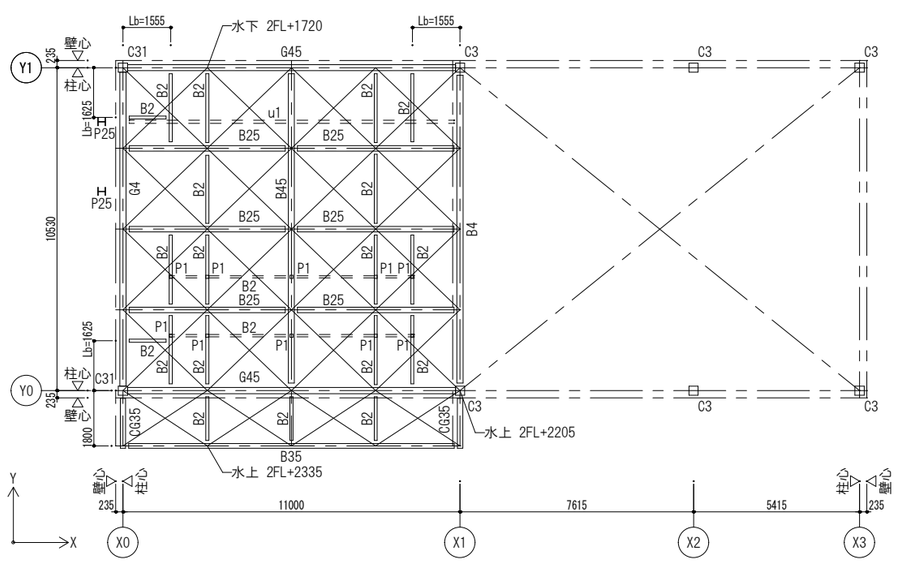
1階床　伏図

床版天端：1FL±0
地中梁天端：1FL-500
1FL-85
水上：1FL±0
水下：1FL-150



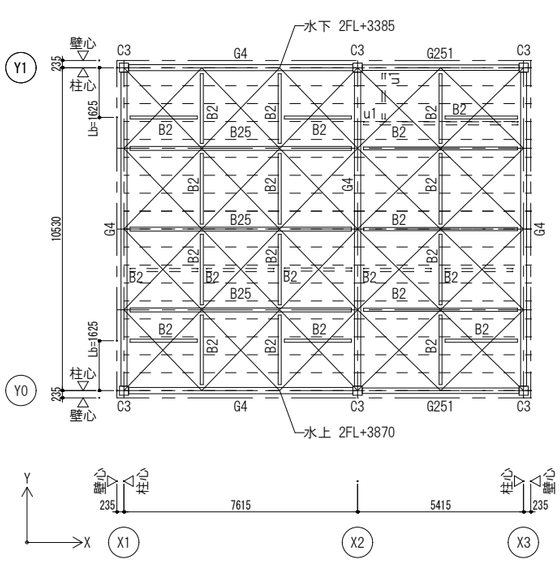
2階　伏図

2FL=1FL+3800
コンクリート天端：2FL±0
鉄骨天端：2FL-130



屋根　伏図

水上 2FL+2335
水下 2FL+1720
屋根は折板屋根 R1



屋根　伏図

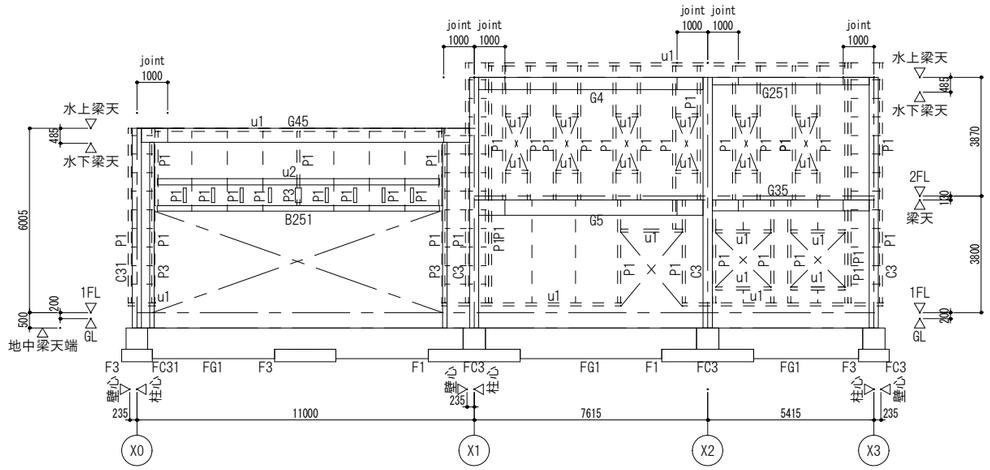
水上 2FL+3870
水下 2FL+3385
破線は母屋　C-100×50×20×2. 3@606

構造設計：西 伸介
一級建築士 第228668号、構造設計一級建築士 第2849号
有限会社 西建築設計事務所、一級建築士事務所 岡山県知事登録 第1356号

特記事項
屋根ブレースは M-16 とする。

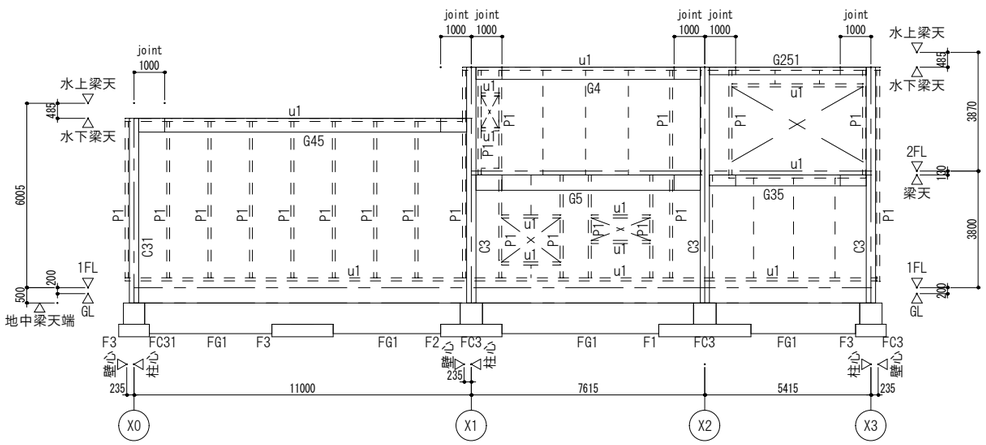
(A3=A1縮小50%)

工事名　津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査	図面番号 S
図面名　伏図　S=1/100				
一級建築士事務所　県知事登録第１２１５３号　(有)　青　田　設　計	一級建築士　登録第　９９０５３　号　芦田國廣			11

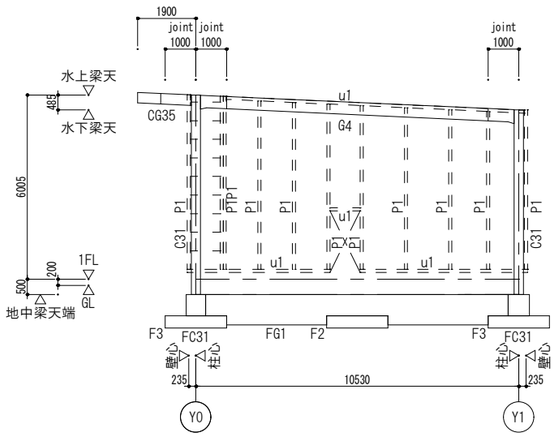


Y0 通り　軸組図

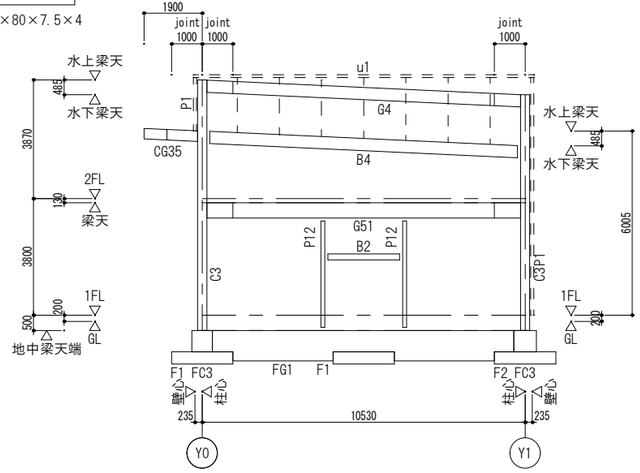
u2は C200×80×7.5×4



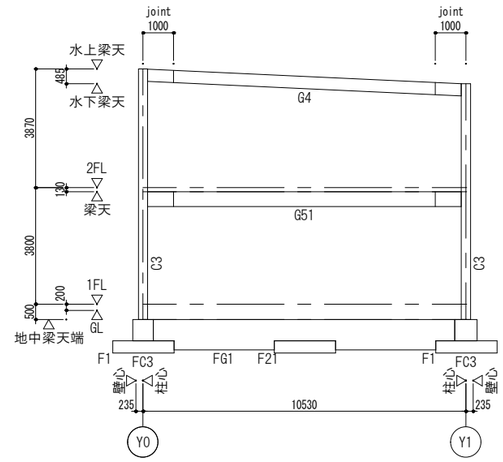
Y1 通り　軸組図



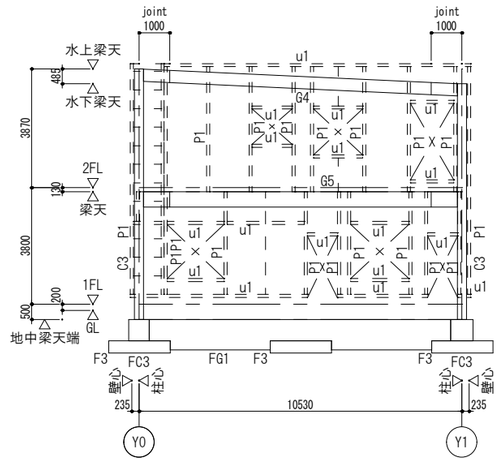
X0 通り　軸組図



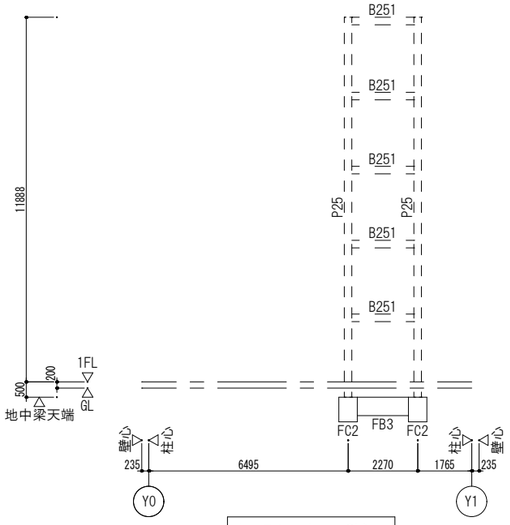
X1 通り　軸組図



X2 通り　軸組図

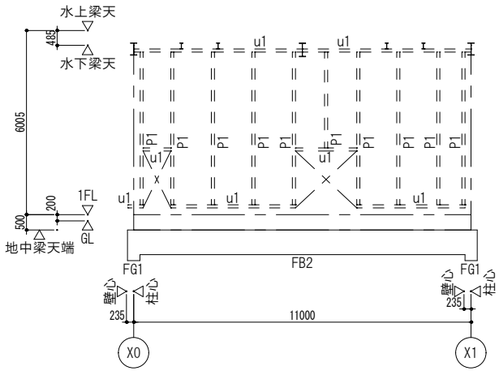


X3 通り　軸組図



ホースリフター　軸組図

詳細は A-40 , A41 による



Y0+6495　軸組図

KBM=GL-300
No. 1
KBM+0.015

土質名	層厚	上端	下端
礫混り粘土質砂	1.78	0	1.78
礫混り砂質粘土	3.00	1.78	4.78
有機質粘土	1.10	4.78	5.88
風化泥岩	5.08	5.88	10.96

N値: 10 20 30 40 50

孔内水位-2.4m

5 2 3 2 28 43 34 100 60 71 375

▽ GL=KBM+300
▽柱状改良天端 GL-1.4m
▽杭下端 GL-5.5m
▽杭下端 GL-6.5m

KBM=GL-300
No. 2
KBM+0.095

土質名	層厚	上端	下端
礫混り粘土質砂	1.9	0	1.9
礫混り砂質粘土	2.8	1.9	4.7
強風化泥岩	1.0	4.7	5.7
風化泥岩	3.2	5.7	8.9

N値: 10 20 30 40 50

孔内水位-2.5m

5 1 3 2 16 39 100 136 188

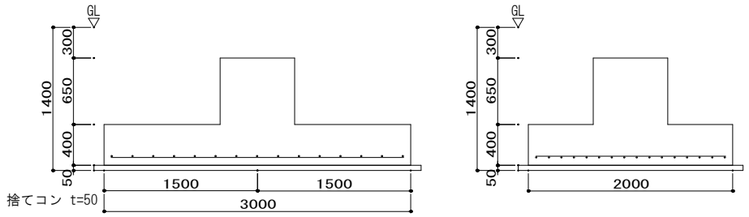
構造設計：西 伸介
一級建築士 第228668号、構造設計一級建築士 第2849号
有限会社 西建築設計事務所、一級建築士事務所 岡山県知事登録 第1356号

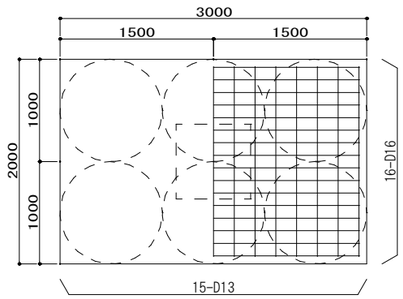
特記事項
縦向き破線は縦胴縁 C-100×50×20×2.3@1500
横向き破線は横胴縁 C-100×50×20×2.3@606
U1はC-100×100×2.3

(A3=A1縮小50%)

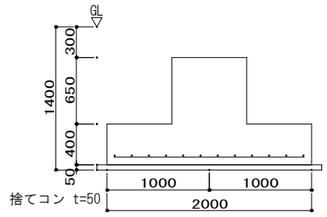
工事名 津山圏域消防組合日本原分署新築工事		計画	設計	審査
図面名 軸組図 S=1/100				図面番号 S / 12
一級建築士事務所 県知事登録第12153号 (有) 芦田設計	一級建築士 登録第 99053 号 芦田圀廣			

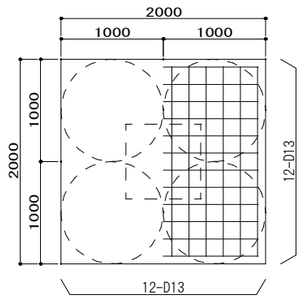
F1



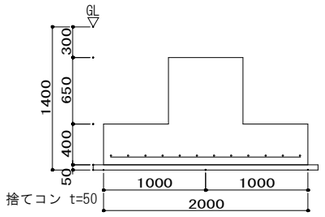


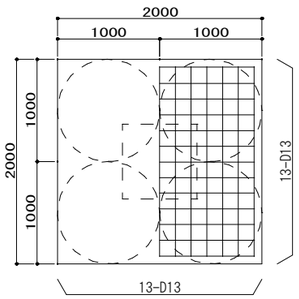
F2



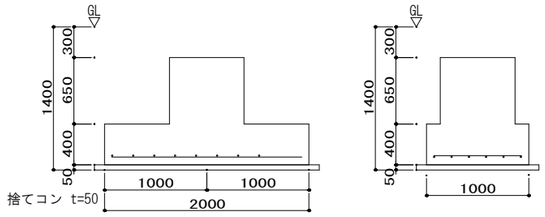


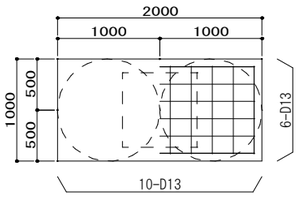
F21



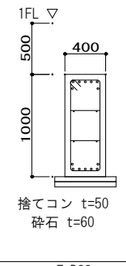
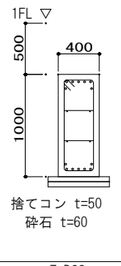
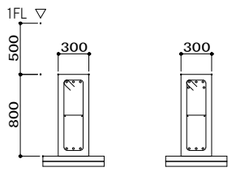
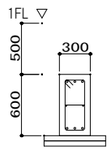
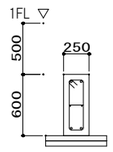
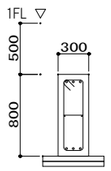


F3

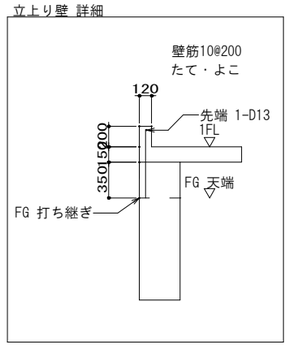




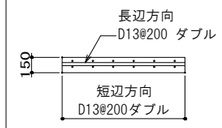
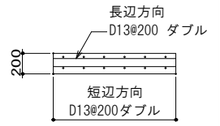
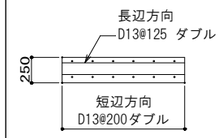
地中梁　断面リスト

記号	FG1	FB1	FB2		FB3	FB4	CFB2
位置	全断面	全断面	外端・中央	内端	全断面	全断面	全断面
断面							
上端筋	7-D22	7-D22	3-D22	5-D22	3-D22	2-D22	3-D22
下端筋	7-D22	7-D22	3-D22	3-D22	3-D22	2-D22	3-D22
あばら筋	2-D13@150	2-D13@150	2-D10@200	2-D10@200	2-D10@200	2-D10@200	2-D10@200
腹筋	4-D10	4-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10
幅止め筋	D10@200	D10@200	D10@200	D10@200	D10@200	D10@200	D10@200

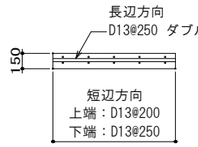
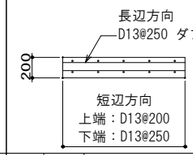
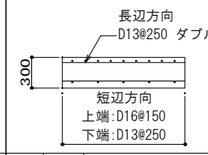
立上り壁 詳細

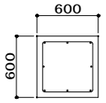


床版　断面リスト

FS15			FS20			FS25		
短辺 断面			短辺 断面			短辺 断面		
								
短辺	上端	D13@200	短辺	上端	D13@200	短辺	上端	D13@200
方向	下端	D13@200	方向	下端	D13@200	方向	下端	D13@200
長辺	上端	D13@200	長辺	上端	D13@200	長辺	上端	D13@125
方向	下端	D13@200	方向	下端	D13@200	方向	下端	D13@125

片持ち床版　断面リスト

CFS15			CFS20			CFS30		
短辺 断面			短辺 断面			短辺 断面		
								
短辺	上端	D13@200	短辺	上端	D13@200	短辺	上端	D16@150
方向	下端	D13@250	方向	下端	D13@250	方向	下端	D13@250
長辺	上端	D13@250	長辺	上端	D13@250	長辺	上端	D13@250
方向	下端	D13@250	方向	下端	D13@250	方向	下端	D13@250

FC2	
	
寸法	600×600
主筋	6-D13
HOOP	D10@100

構造設計：西 伸介
一級建築士 第228668号、構造設計一級建築士 第2849号
有限会社 西建築設計事務所、一級建築士事務所 岡山県知事登録 第1356号

(A3=A1縮小50%)

津山圏域消防組合日本原分署新築工事

図面名 断面リスト1　S=1/30

計画 設計 審査

図面番号 S

一級建築士事務所 県知事登録第12153号
(有) 芦田設計

一級建築士 登録第 99053 号 芦田圀廣

13

柱　断面リスト

記号	階	断面	材質、規格
C3	2 1	□-300×300×16	BCR295, MSTL-9021
C31	1	□-300×300×12	

大梁　断面リスト

記号	断面	材質、規格
G51	H-488×300×11×18	SS400, JIS G 3101
G5	H-500×200×10×16	
G45	H-450×200×9×14	
G4	H-400×200×8×13	
G35	H-350×175×7×11	
G251	H-244×175×7×11	

小梁　断面リスト

記号	断面	材質、規格
B45	H-450×200×9×14	SS400, JIS G 3101
B4	H-400×200×8×13	
B35	H-350×175×7×11	
B3	H-300×150×6.5×9	
B25	H-250×125×6×9	
B2	H-200×100×5.5×8	

片持ち梁　断面リスト

記号	断面	材質、規格
CG35	H-350×175×7×11	SS400, JIS G 3101

支柱　断面リスト

記号	断面	材質、規格
P1	□-100×100×2.3	STKR 400
P12	H-125×125×6.5×9	SS400, JIS G 3101
P25	H-250×250×9×14	
P3	H-300×150×7×11	

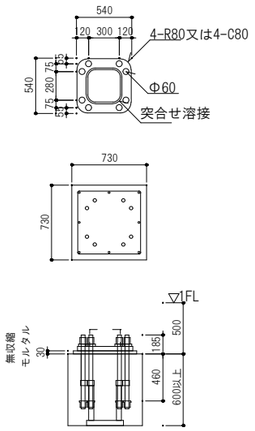
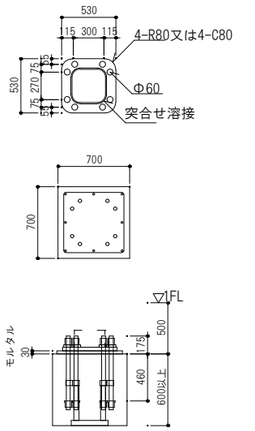
鉄骨階段　断面リスト

記号	ささら	段板
ST1	PL-12×270	PL-6

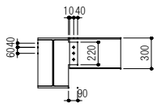
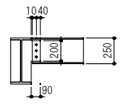
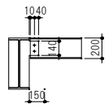
屋根ブレース　断面リスト

記号	断面	材質、規格
M16	1-M16	SNR400B, JIS A5540

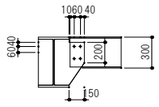
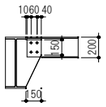
基礎柱・柱脚　リスト

FC3　ジャストベース　J300-16			FC31　ジャストベース　J300-12		
					
ベースプレート	540x540x45　(SM490A)		ベースプレート	530x530x36　(SM490A)	
アンカーボルト	8-D35　(SD390)　L=720		アンカーボルト	8-D35　(SD390)　L=720	
柱型	B×D	730*730	柱型	B×D	700*700
	主　筋	8-D22 (SD345)		主　筋	8-D19 (SD345)
	帯　筋	D13@150 (SD295A)		帯　筋	D13@150 (SD295A)

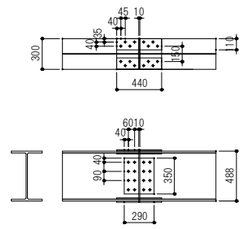
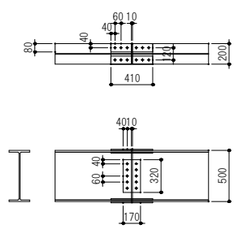
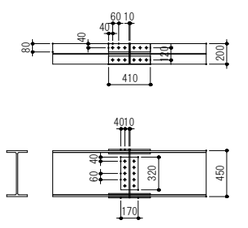
仕口リスト

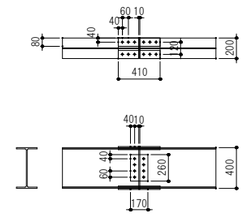
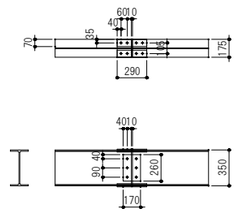
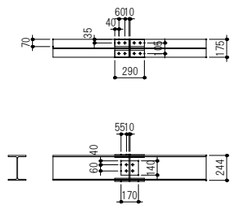
部材	B45　H-450×200×9×18	B4　H-400×200×8×13	B35　H-350×175×7×11
接合部			
接合部材	G45	C3	G51, CG35
プレート	G. PL　PL-9　HTB 6-M20	G. PL　PL-9　HTB 5-M20	G. PL　PL-9　HTB 4-M20
部材	B3　H-300×150×6.5×9	B25　H-250×125×6×9	B2　H-200×100×5.5×8
接合部			
接合部材	G51, B35	G45, B45, G4, B4	G5, G45, G4, B4, B35, B25, B2
プレート	G. PL　PL-9　HTB 3-M20	G. PL　PL-9　HTB 3-M20	G. PL　PL-9　HTB 2-M20

仕口リスト(横補剛材)

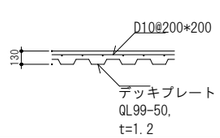
部材	B3　H-300×150×6.5×9	B2　H-200×100×5.5×8
接合部		
接合部材	G5	G5, G45, G4
プレート	G. PL　PL-9　HTB 4-M20	G. PL　PL-9　HTB 4-M20

継ぎ手リスト

G51　H-488×300×11×18			G5　H-500×200×10×16			G45　H-450×200×9×14		
								
フランジ	2-SPL-12×300×440 4-SPL-12×110×440	HTB 32-M20	フランジ	2-SPL-12×200×410 4-SPL-12×80×410	HTB 24-M20	フランジ	2-SPL-12×200×410 4-SPL-12×80×410	HTB 24-M20
ウェブ	2-SPL-12×350×290	HTB 16-M20	ウェブ	2-SPL-9×320×170	HTB 10-M20	ウェブ	2-SPL-9×320×170	HTB 10-M20

G4　H-400×200×8×13			G35　H-350×175×7×11			G251　H-244×175×7×11		
								
フランジ	2-SPL-9×200×410 4-SPL-9×80×410	HTB 24-M20	フランジ	2-SPL-9×175×290 4-SPL-9×70×290	HTB 16-M20	フランジ	2-SPL-9×175×290 4-SPL-9×70×290	HTB 16-M20
ウェブ	2-SPL-9×260×170	HTB 8-M20	ウェブ	2-SPL-6×260×170	HTB 6-M20	ウェブ	2-SPL-9×140×170	HTB 4-M20

デッキスラブ　断面図

記号	S1
位置	短辺断面
断面	
山上コンクリート厚さ	80mm
デッキプレート	QL99-50, t=1.2
ひび割れ防止筋	D10@200×200

仕口 詳細図リスト

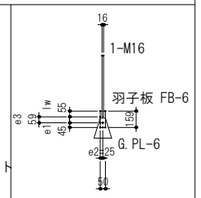
M16：1-M16, ターンバックル付き
JIS 規格品耐震ブレース JIS A 5540 を使用する。

ねじの呼び　：1-M16
溶接長さ　：lw≧55

羽子板　：FB-6

取り付けボルト孔径：R=17
端あき　：e1≧45
縁あき　：e2≧25
ボルト端から取り付けボルト孔芯のあき　：e3≧59

ガセットプレート：PL-6
取り付けボルト：HTB 1-M16

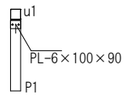


構造設計：西 伸介
一級建築士 第228668号、構造設計一級建築士 第2849号
有限会社 西建築設計事務所、一級建築士事務所 岡山県知事登録 第1356号

(A3=A1縮小50%)

津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査	図面番号 S
図面名　断面リスト2　S=1/30				
一級建築士事務所　県知事登録第12153号　(有)　芦　田　設　計	一級建築士　登録第　99053　号　芦田圀廣			14

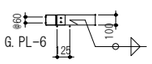
間柱　接合部

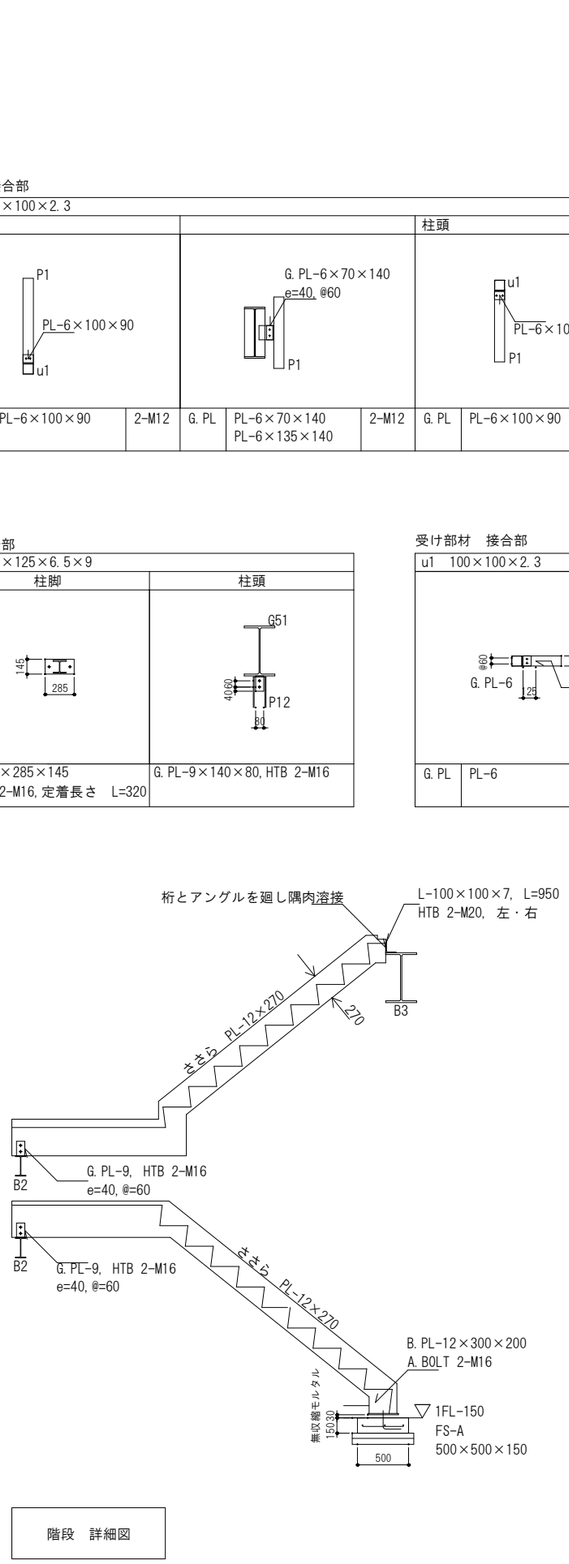
P1　100×100×2.3								
柱脚						柱頭		
								
G. PL	PL-6×100×90	2-M12	G. PL	PL-6×70×140 PL-6×135×140	2-M12	G. PL	PL-6×100×90	2-M12

支柱接合部

P12　125×125×6.5×9	
柱脚	柱頭
B. PL-19×285×145 A. Bolt 2-M16, 定着長さ　L=320	G. PL-9×140×80, HTB 2-M16

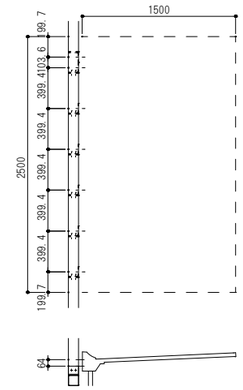
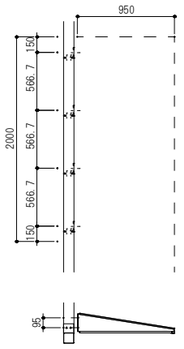
受け部材　接合部

u1　100×100×2.3		
		
G. PL	PL-6	2-M12

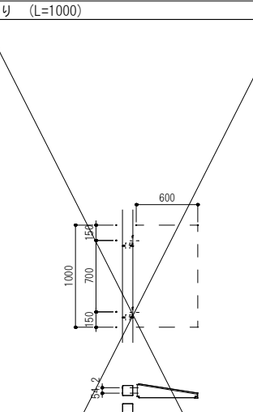
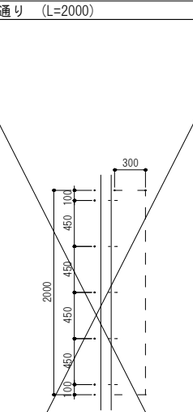


階段　詳細図

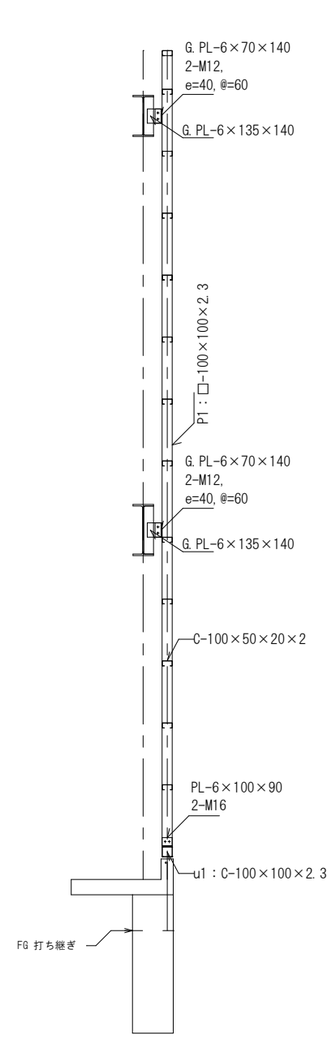
庇　接合部

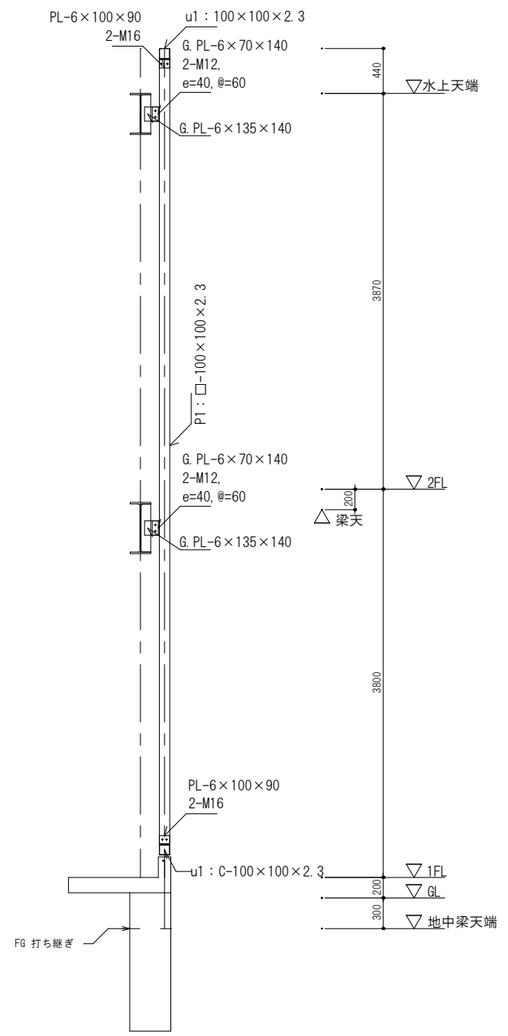
AD R	AF 95
Y0通り　(L=2500)	X3通り　(L=6000, 4000)
	

取り付け部材		L-100×100×7		取り付け部材		L-100×100×7	L=2000
ボルト間隔	端部	199.7	14-M10	ボルト間隔	端部	150	当たり
	中央	399.4			中央	566.7	8-M10

AF 95	AF 93
X0通り　(L=1000)	Y0通り, Y1通り　(L=2000)
	

取り付け部材		L-100×100×7		取り付け部材		□-100×100×2.3	
ボルト間隔	端部	150	4-M10	ボルト間隔	端部	100	10-M8
	中央	700			中央	450	





構造設計：西 伸介
一級建築士 第228668号、構造設計一級建築士 第2849号
有限会社 西建築設計事務所、一級建築士事務所 岡山県知事登録 第1356号

(A3=A1縮小50%)

津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査	図面番号
図面名　断面リスト3　S=1/30				S
一級建築士事務所　県知事登録第12153号　(有)　芦　田　設　計	一級建築士　登録第　99053　号　芦田圀廣			15

電気設備工事特記仕様書

Ⅰ．工事概要

工事名称	津山圏域消防組合日本原分署　新築工事
工事場所	岡山県勝田郡奈義町滝本１５４６－２
敷地面積	１，５００．００㎡

棟名称／構造	庁舎　棟、Ｓ造	棟、　造	棟、　造	棟、　造
施工条件（改修）	○無人・有人改修	・無人　・有人	・無人　・有人	・無人　・有人
床面積（㎡）１階	２６９．５０㎡			
２階	１３９．１４㎡			
階				
階				
階				
小計	４０８．６４㎡			
合計	４０８．６４㎡			
建築面積	２８２．１９㎡			
消防法施行令別表第一の区分	１５項			

建ぺい率（指定率）	１８．８２％（　６０％）	容積率（指定率）	２７．２４％（２００％）
用途地域	都市計画区域外	防火地域	

工事範囲	別途工事
・建築主体工事	消防指令システム機器
・外構工事	自家発電装置移設工事
・電気設備工事	
・機械設備工事	

工事種目　（　印の○でものが対象工事種目）

建物別及び屋外 ＼ 工事種別 ／ 工事種目	工事種別				
					屋外
○電灯設備	新設一式				
○動力設備	新設一式				
・電熱設備					
・雷保護設備					
・受変電設備					
・電力貯蔵設備					
○発電設備	配線のみ新設一式			機器移設据付は別途工事	
○構内情報通信網設備	配線のみ新設一式			機器移設据付は別途工事	
○ＵＰＳ設備	電源配線新設一式			機器移設据付は別途工事	
・情報表示設備					
・映像・音響設備					
○拡声設備	新設一式				
・誘導支援設備					
○テレビ共同受信設備	新設一式				
○監視カメラ設備	配線のみ新設一式			機器移設据付は別途工事	
○電気錠設備	配線のみ新設一式			機器設置工事は建築工事	
・防犯・入退室管理設備					
○火災報知設備	新設一式				
○防災無線設備	配線のみ新設一式			機器移設据付は別途工事	
・医療関係設備					
○構内配電線路	新設一式				
○構内通信線路	新設一式				
・テレビ電波障害防除設備					
○機械設備工事	機械設備工事の部による				
○建築工事	建築工事の部による				

Ⅱ．工事仕様

① 共通仕様

1）特記仕様及び図面に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部の標準仕様等のうち、○印の付いたものによる。

○公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）（平成２８年版）（以下、「標準仕様書」という。）

○公共建築改修工事標準仕様書（電気設備工事編）（平成２８年版）」（以下、「改修標準仕様書」という。）

○公共建築設備工事標準図（電気設備工事編）（平成２８年版）（以下「標準図」という。）

2）機械設備工事及び建築工事を本工事に含む場合、機械設備工事及び建築工事はそれぞれの特記仕様書を適用する。

② 特記仕様

1）項目は、番号に○印の付いたものを適用する。

2）特記事項のうち選択する事項は○印の付いたものを適用する。

○印のつかない場合は、※印のついたものを適用する。

○印と※印のついた場合は共に適用する。

区分	項目	特記事項
一般共通事項	① 材料・機材の品質等	1）　本工事に使用する　　材料・　機材等は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。 2）　別表－１に示す機材等の製造業者等は次の　から　すべての事項を満たすものとし、この証明となる資料又は外部機関が発行する品質及び性能等が評価されたことを示す書面を提出して監督職員の承認を受ける。ただし、製造業者等名が記載されているものは、証明となる資料等の提出を省略することができる。 ①　品質及び性能に関する試験データを整備していること。 ②　生産施設及び品質の管理を適切に行っていること。 ③　安定的な供給が可能であること。 ④　法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること。 ⑤　製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。 ⑥　販売、保守等の営業体制を整えていること。
	② 環境への配慮	1）本工事において、国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（平成１２年法律第１００号）に基づく、「環境物品等の調達の推進に関する基本方針（平成２９年２月７日閣議決定）」（以下グリーン購入法基本方針という。）による特定調達品目の判断基準等を満たす環境物品等を選択するよう努める。 なお、本工事において使用する機材のうち、設計図書で定めのあるものについてはグリーン購入法基本方針による。 2）建物内部に使用する建築材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の　から　恐れたす もの とする。 ①　合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、ＭＤＦ、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、　断熱材、　塗料、仕上塗材は、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しない又は発散が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。 ②　接着剤及び塗料はトルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。 ③　接着剤は可塑剤（フタル酸ジｎ－ブチル及びフタル酸ジ－２－エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を除く）が添加されてない材料を使用する。 ④　の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類等は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しない、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。

一般共通事項	③ 室内空気中の化学物質の濃度測定	室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレンの濃度を測定し、監督職員に提出する。 測定はパッシブ型採取機器により行う。 測定時期　　・工事着手前　・施工終了後 測定対象室　・図示 測定箇所数　・図示
	④ 電気保安技術者	電気保安技術者は、監督職員の指示に従い、電気工作物の保安の業務を行うものとする。
	⑤ 電気工事士	最大電力５００ｋＷ以上の場合においても、第一種電気工事士により施工を行う。
	⑥ 工事用電力、水、その他	本工事に必要な工事用電力、水及び諸手続きなどの費用は、すべて受注者の負担とする。
	７．監督職員事務所	本工事で設置する。位置、規模及び仕上げの程度、備品等の種類は現場説明書による。
	⑧ 受注者事務所その他	構内につくることが（　※できる　・できない）
	９．　足場	「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙１「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における２の（２）手すり据え置き方式又は（３）手すり先行専用足場方式により行う。 ・内部足場（・Ｅ種　・Ｆ種　・Ｇ種） ・外部足場（・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種　・Ｆ種）
	１０．　施工条件	・施工ができない日等 ※指定なし　・指定あり（別添「学校行事に伴う施工ができない日等（予定）」に基づき監督職員と協議するものとする。）
	１１．　施工調査	※施工に先立ち、改修工事関連部分（施工部位により既存性能を損なうおそれのある部分）の事前確認を行い監督職員に報告書を提出する。 ・既存設備システムの事前調査を行い監督職員に報告書を提出する。事前調査計画書を調査を行う前に監督職員に提出する。 既存設備システム（・　　・　　）
	⑫ 発生材の分析及び処理	1）引渡しを要するもの。　※無　・有 （・金属類　・盤類　・電線、ケーブル　・　　） 引き渡しを要するもの以外は構外搬出適切処理とする。 2）特別管理産業廃棄物　※無　・有 （・ＰＣＢ使用機器　・アスベスト含有設備資機材　・　　） 撤去予定機器の微量ＰＣＢ分析結果　※無　・有 撤去する変圧器等は製造年、品番等を確認し微量ＰＣＢ分析の要否を判定する。 3）再生資源化を図るもの　※無　・有（・蛍光管　・小形二次電池　　） 4）上記以外　　・無　※有
	１３．はつり工事における非破壊検査	はつり、穴あけ及びあと施工アンカー等の施工にあたり、埋設物の事前調査を行う。 施工場所を探査機により探査し、鉄筋及び配管類の位置に墨出しを行う。 放射線透過検査については監督職員の指示によるものとし、検査費は別途とする。
	⑭ 建設発生土の処理	※構内指示の場所に散きならし ・構内指定場所に堆積 ・構外搬出適切処理
	⑮ 完成写真	撮影場所及び撮影枚数は監督職員との協議による。
	⑯ 完成図等	1）完成図 ※二つ折り製本（※Ａ１版　部　・Ａ３版　２　部） ・既存完成図（ＣＡＤデータ含む）の修正を行う（間仕切等を現状に合せて修正する） 原図　※普通紙　・トレーシングペーパー　・不要 2）施工図 施工図の著作権に係わる当該建築物に限る使用権は、発注者に移譲するものとする。
	⑰ 保全に関する資料	※提出要（※２部　・　部）　・提出不要
	⑱ 電線類	1）ＥＭ電線類で規格等の定めのないものは、ハロゲン及び鉛を含まない材料で構成されたものとする。 2）通信ケーブルでＪＣＳ規格にない対数のケーブルはＪＣＳ規格に準じたものとする。 3）盤内配線にはＥＭ電線を使用する。ただし、製造者標準品と特記したものは除く。
	⑲ 耐震措置	設備機器の固定は次によるほか、「建築設備耐震設計・施工指針　２０１４年版」（独立行政法人建築研究所監修）による。 1）設計用水平地震力は、機器重量［ｋＮ］に、地域係数、　※１．０・０．９・０．８とし、次の示す設計用標準水平震度を乗じたものとする。 設計用標準水平震度

設置場所	機器種別	・　特定の施設		○　一般の施設	
		重要機器	一般機器	重要機器	一般機器
上層階　注1）屋上及び塔屋	機器	２．０	１．５	１．５	１．０
	防振支持の機器	２．０	２．０	２．０	１．５
	水槽類	２．０	１．５	１．５	１．０
中間階	機器	１．５	１．０	１．０	０．６
	防振支持の機器	１．５	１．５	１．５	１．０
	水槽類	１．５	１．０	１．０	０．６
地下及び１階	機器	１．０	０．６	０．６	０．４
	防振支持の機器	１．０	１．０	１．０	０．６
	水槽類	１．５	１．０	１．０	０．６

・上層階とは２～６階建の場合は最上階、７～９階建の場合は上層２階、１０～１２階建の場合は上層３階、１３階建以上の場合は上層４階とする。
・中間階とは地階、１階を除く各階で上層階に該当しないもの。
・重要機器は次のものを示す。（水槽類には燃料小出槽を含む。）
・配電盤　・非常用発電装置　・交換機　・直流電源装置・交流無停電電源装置
・交換機　・火災報知受信機　・中央監視装置　・通信総合盤　・
2）設計用鉛直地震力は設計用水平地震力の１／２とし、水平地震力と同時に働くものとする。

一般共通事項	⑳ あと施工アンカー	1）施工後確認試験　※行う　・行わない 試験方法　引張試験機による引張試験 確認強度　対象機器ごとのアンカーボルト１本に作用する引抜き力以上 試験箇所数　１施工単位に対し１本以上 対象機器　（・配電盤　○発電装置　・直流電源装置　・　　）

電灯設備	㉑ フラッシプレートの材質	○金属製（ステンレス、新金属も含む）　・樹脂製（使用場所　　）
	㉒ カバープレートの用途別表示	シール等を貼付する。（非常用電源系統は赤色表示する）
	㉓ 電線本数・管路等	分電盤、制御盤、端子盤などの２次側以降の配線経路、電線太さ、電線本数、管径などは監督職員の承認を受けて変更してもさしつかえない。
	㉔ 露出配管の塗装（付属品を含む）	塗装する部分　○屋室（　車庫内　　）　・廊下　・屋上、屋側　・屋外 ・機械室　・
	㉕ プルボックスの塗装	ステンレス製プルボックスの塗装 ※有（メーカ指定色又は指定色仕上）　○無（素地仕上）
	㉖ 屋上・屋側の支持金物等	ステンレス製または鋼材に溶融亜鉛メッキを施したものとする。
	㉗ 接地種	接地種の材料は次による。

	接地の種類	記号	接地抵抗値	接地種
・	共同接地	ＥＡ・Ｄ	１０Ω以下	ＥＢ（Ｄ＝１４又は＝４０）×３連－２組
・	共同接地	ＥＡ・Ｃ・Ｄ	１０Ω以下	ＥＢ（Ｄ＝１４又は＝４０）×３連－２組
・	Ａ種	ＥＡ	１０Ω以下	ＥＢ（Ｄ＝１４又は＝４０）×３連－２組
・	Ｂ　種	ＥＢ	９Ω以下	ＥＢ（Ｄ＝１４又は＝４０）×２連－２組
・	Ｃ　種	ＥＣ	１０Ω以下	ＥＢ（Ｄ＝１４又は＝４０）×３連－２組
○	Ｄ　種	ＥＤ	１００Ω以下	ＥＢ（Ｄ＝１４又は＝４０）×１
・	高圧避雷器	ＥＬＨ	１０Ω以下	ＥＢ（Ｄ＝１４又は＝４０）×３連－２組
・	交換機用	Ｅｔ	１０Ω以下	ＥＢ（Ｄ＝１４又は＝４０）×３連－１組
・	通信用	ＥＡｔ	１０Ω以下	ＥＢ（Ｄ＝１４又は＝４０）×３連－２組
○	通信用	ＥＤｔ及びＥＤａ	１００Ω以下	ＥＢ（Ｄ＝１４又は＝４０）×１
・	電話引込口の保安器用	ＥＬｔ	１００Ω以下	ＥＢ（Ｄ＝１４又は＝４０）×１
・	測定用	Ｅ０	――	ＥＢ（Ｄ＝１０又は＝３０）×１

（連結の場合、ＥＢはＤ＝１４　Ｌ＝１５００　又は　Ｗ＝４０　Ｌ＝１２００とする）
（単独の場合、ＥＢはＤ＝１４　Ｌ＝１５００　又は　Ｗ＝４０　Ｌ＝１２００とする）
（測定用の場合、ＥＢはＤ＝１０　Ｌ＝１５００　又は　Ｗ＝３０　Ｌ＝１２００とする）

電灯設備	㉘ 工事安全計画書	建設工事公衆災害防止対策要綱及び建築工事安全施工技術指針を参考に、工事安全計画書を作成し、監督職員に提出する。
	㉙ 他工事との取合い	図面に記載されていない工事区分は、別紙工事区分表による。
	㉚ 天井仕上げ区分	（　）書きの室名は直天井を示し、その他は二重天井を示す。
	㉛ 適用区分	建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。 1）風圧力 風速（Ｖｏ＝　３０　　）、地表面粗度区分（　Ⅲ　　） 2）積雪荷重 建設省告示第１４５５号に掲げる区域　別表（　　）
	① 照明器具	1）蛍光ランプ及びＬＥＤの光源色は別図面に指定がある場合を除き下記による。 蛍光ランプ及びＬＥＤの光源色　（※昼白色　・電球色） 2）Ｈｆ形蛍光灯器具の定格入力電圧はユニバーサル電圧（１００Ｖ～２４２Ｖ）に対応するものとする。
	② 照明の照度測定	照度測定方法は「日本工業規格（ＪＩＳ）」に則り行う
	３．非常用照明の照度測定	設置した各部屋２箇所以上とし、測定箇所は監督職員の指示による
	④ 照明制御の照度測定等	明るさセンサーによる照度制御を行う部屋は照度測定を行い、測定表を監督職員に提出する。なお、測定箇所は監督職員の指示による。 照度測定時期　　１００％点灯時（※夜間　・　） 調光制御点灯時（※夜間　・昼間）
	５．照度センサ設定器	納入数　※１個　・　個
	６．多重伝送リモコンアドレス送信器	納入数　※１個　・　個
	７．非常照明・誘導灯自己点検送信器	納入数　※１個　・　個

動力設備	１．インバータ装置の規約効率	三相可変速運転用インバータ装置の規約効率は次の数値以上とする。

電動機出力（ｋＷ）	0.4	0.75	1.5	2.2	3.7	5.5	7.5	11	15	18.5	22	30	37	45 ～ 75
運転効率（％）	86.0	88.5	92.0	93.0	94.0	94.0	94.5	94.5	95.0	95.5	95.5	95.5	95.5	95.5

備考（１）規約効率はＪＥＭ－ＴＲ２４５「汎用インバータの規約効率」により算出した値とする。
（２）規約効率はＪＩＳＣ４２１２「高効率低圧三相かご形誘導電動機」の定格電圧２００Ｖ、ＩＰ４Ｘ、６種、５０Ｈｚの電動機を駆動したときの値とする。

構内交換設備	１．保安器用接地	※本工事　・別途工事
	２．壁付き電話機との接続	※モジュラージャック　・電話用プレート
	３．電話機への配線	卓上電話機１台につき次のものを見込む。 ○ボタン電話機　ＥＭ－ＢＴＩＥＥ　０．４　－２Ｐ　（※１５ｍ　・　　） ・一般電話機　ＥＭ－ＴＩＥＦ　０．６５－２Ｃ　（※１５ｍ　・　　） ・多機能電話機　ＥＭ－ＢＴＩＥＥ　０．４　－２Ｐ　（※１５ｍ　・　　） ・ＩＰ電話機　ＥＭ－ＵＴＰ　０．５　－４Ｐ　（※１５ｍ　・　　）
	① 施工方法	埋設深さ　特記なきは地表面（舗装がある場合は舗装下面）から３００ｍｍ以上とする。 建物引込み部の地盤変位等への対応 想定沈下量（・０．２ｍ以下　・０．６ｍ以下　・１．０ｍ以下） コンクリート製埋設標は影込み表示のものを用いる。
	② 地中箱	蓋の記号表示　鋳型流込み（・電力　○電気　・　　） ハンドホール内のケーブル支持等は、マンホールに準じて行う。 アスファルト舗装面に使用するハンドホール及び鉄蓋は、アスファルト舗装用とする。
	３．高圧負荷開閉器	・開鋳形（重耐塩形）　・地絡継電器付（※方向性　・無方向性） ※制御盤までの制御ケーブルを付属すること。
	４．高圧ケーブルの端末部	高圧ケーブルの両端部にシースの縮み対策（熱収縮テープによるシースずれ止め対策等）を行う。
	５．高圧ケーブルの屋外端末処理	・一般形　・耐塩形
	⑥ 標識シート	・高圧　○低圧幹線　○外灯
	⑦ 照明用ポール	照明用ポールには配線用遮断器（トリップ機能なし）又はカットアウトスイッチ（素通しヒューズ）を内蔵する。ただし、ガーデンライトは除く。

構内通信線路	① 施工方法	埋設深さ　特記なきは地表面（舗装がある場合は舗装下面）から３００ｍｍ以上とする。 建物引込み部の地盤変位等への対応 想定沈下量（・０．２ｍ以下　・０．６ｍ以下　・１．０ｍ以下）
	２．　地中箱	蓋の記号表示　鋳型流込み（・通信　・　　） ハンドホール内のケーブル支持等は、マンホールに準じて行う。 アスファルト舗装面に使用するハンドホール及び鉄蓋は、アスファルト舗装用とする。
	③ 標識シート	・データ回線　○電話　・ＣＡＴＶ
テレビ電波受信障害調査	① 調査仕様	図面に記載されていない事項は、すべて（社）日本ＣＡＴＶ技術協会の「建造物によるテレビ受信障害調査要領」及び「建造物によるテレビ受信障害調査要領（地上デジタル放送）」の最新版により調査を行い、（社）日本ＣＡＴＶ技術協会の技術審査を受けること。
	② テレビ電波受信障害調査時期	・事前　・中間　・事後
	③ 受信する受信波及び地点数	中継局：　波：　地点 中継局：　波：　地点
	④ 報告書	提出部数　・事前　３部　・中間　部　・事後　３部

その他	① 機器取付高	機器取付高は下記を標準とする。ただし、天井高３ｍ以上の場合及び機器の使用に支障がある場合は監督職員と協議する。

	名称	測点	取付高（mm）
動力設備	取引用計器	地上～窓中心	１，８００～２，０００
	引込開閉器	地上～中心	１，８００～２，２００
照明	分電盤	床上～中心	１，５００（上端１，９００以下）
	スイッチ	〃	１，３００
	〃（多機能トイレ）	〃	１，１００
	コンセント（一般）	〃	３００
	〃（和室）	〃	１５０
	〃（台上）	台上～中心	１５０
	〃（土間）	床上～中心	８００～１，３００
	〃（車椅子用）	〃	９００
	コンセント（電気室・発電機室）	床上～中心	８００
	ブラケット（一般）	〃	２，１００～２，３００
	〃（誘導）	〃	２，０００～２，５００
	〃（鏡上）	鏡上端～中心	１５０
動力	壁掛形制御盤	床上～中心	１，５００（上端１，９００以下）
	手元開閉器	〃	１，５００
	操作スイッチ	〃	１，３００
構内交換	端子盤	床上～下端	３００
	保安器箱	天井下～上端	２００
	壁付アウトレット	床上～中心	３００
	〃（和室）	〃	１５０
	壁付電話機	〃	１，３００
構内配線	壁掛形親時計	床上～中心	１，５００（上端１，９００以下）
	子時計	床上～中心	天井高×０．９
誘導	壁掛形スピーカ	床上～中心	天井高×０．９
	壁付アッテネータ	床上～中心	１，３００

	名称	測点	取付高（mm）
誘導	表示盤	床上～中心	天井高×０．９
	壁付発信器	〃	１，３００
	ベル、ブザー、チャイム	〃	２，３００
	受付押ボタン（一般）	〃	１，３００
	電源箱	床上～下端	３００
放送			
誘導表示	外部受付用インターホン（子機）	標準図による	
	壁付インターホン（上記以外）	床上～中心	１，３００
	壁付押ボタン（多機能トイレ）	〃	９００
	壁付押ボタン（多機能トイレ）床転倒時用	〃	４００
テレビ共同受信	機器収容箱	天井下～上端	２００
	直列ユニット	床上～中心	３００
	〃（和室）	〃	１５０
火災報知	受信機・副受信機	床上～操作部	８００～１，５００
	機器収容箱	〃	８００～１，５００
	発信機	床上～中心	８００～１，５００
	ベル	天井下～上端	２００
	表示灯	〃	２００
ガス漏知	ガス漏れ中継器	天井下～中心	３００
	検知器（都市ガス）	天井下～下端	３００
	〃（ＬＰガス）	床上～上端	３００

② 配線図記号その他

1）ＥＥＦ１．６－２Ｃ×２は、ＥＥＦ１．６－４Ｃを使用してもよい。

2）ＥＭケーブルの表記は警報用及び同軸ケーブルを除き「ＥＭ－」を省略する。

別表－１「　外部機関等による評価済み機材表」

機材等	製造業者等名
蛍光灯器具（防爆照明器具及び防災用照明器具を除く）	
ＬＥＤ照明器具（一般屋内に限る）	
照明制御装置	
可変速運転用インバータ装置	
分電盤	
制御盤	
キュービクル式配電盤	
高圧スイッチギヤ（ＣＷ形）	
高圧スイッチギヤ（ＰＷ形）	
高圧交流遮断器	
高圧進相コンデンサ	
高圧限流ヒューズ	
高圧負荷開閉器	
高圧変圧器（特定機器）	
交流無停電電源装置	
太陽光発電装置（パワーコンディショナ及び系統連系保護装置）	
監視カメラ装置	
中央監視制御装置（監視制御装置）	

３．負担金等（消費税抜き）

（・本工事　・別途工事）　円

（・本工事　・別途工事）　円

（A3＝A1縮小50％）

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査	図面番号 E 01
図面名	電気設備特記仕様書　S=N S				
一級建築士事務所　県知事登録第１２１５３号（有）芦田設計		一級建築士　登録第　９９０５３　号　芦田國廣			

■　津山市電気設備工事施工管理業務報告要領

第１節　　総　　則

（目的）

1.　この要領は、津山市が電気設備工事を請負人に施工させる場合における
請負人の　施工管理業務報告の取り扱いについて定めることを目的とする。

第２節　　施工前の提出書類

2.	施工計画書		着工前　提出
3.	下請負人選定一覧届出書	（津山市様式）	着工前　提出
4.	施工体制台帳		着工前　提出
5.	下請負の相手方及び内容（累積表）		着工前　提出
6.	工事作業所災害防止協議会兼施工体系図		着工前　提出
7.	施工体制台帳【工事担当技術者台帳】		着工前　提出
8.	下請負業者編成表		着工前　提出
9.	建設業法・雇用改善法等に基づく届出書（変更届）		着工前　提出
10.	主要資材購入先一覧届出書	（津山市様式）	着工前　提出
11.	工程表		着工前　提出
12.	工事費内訳明細書		着工前　提出
13.	ｺﾘﾝｽﾞの登録　（500万円以上の工事）		登録完了後速やかに提出

第３節　　使用材料の承諾

14.	**使用材料承諾願**		随時提出
	（１）	建築主要資材　（津山市様式）	
	（２）	電気設備主要資材　（津山市様式）	
	（３）	機械設備主要資材　（津山市様式）	
15.	資材検収簿	（津山市様式）	随時提出

第４節　　工事日報・工事進捗状況報告書・議事録の提出

16.	工事日報	（津山市様式）	1週間毎に提出（指定日）
17.	工事進捗状況報告書	（津山市様式）	1ヶ月毎に提出（月初め）
18.	打ち合わせ議事録	（津山市様式）	随時提出

第５節　　施工要領書・施工図・承諾図の提出

19.	施工要領書	随時提出
20.	施工図、原寸図	随時提出
21.	承　諾　図	随時提出

（１）　承諾指定日を明記して提出し、承諾済図の交付を受けて施工すること。

（２）　竣工時に施工要領書、施工図、承諾図のデータを提出すること。施工要領書はＷｏｒｄまたはＥｘｃｅｌ形式、施工図等はＪＷＷ及びＰＤＦ形式とする。

第６節　　試験報告書の提出

22.	試　験　報　告　書	隋　時　提　出
（１）	接地抵抗測定試験成績表（受変電設備・動力設備・電灯設備・自家発電設備）	
（２）	絶縁抵抗測定試験成績表（受変電設備・動力設備・電灯設備・自家発電設備）	
（３）	絶縁耐力試験成績表（受変電設備・動力設備・自家発電設備）	
（４）	コンセント極性・電圧値測定記録	
（５）	動作試験（受変電設備・計装設備・動力設備・電灯設備・自家発電設備・弱電設備・自火報設備）	
（６）	照度分布成績表（電灯設備）	
（７）	総合動作試験成績表（計装設備・弱電設備・自火報設備）	
（８）	継電器試験成績表（受変電設備・自家発電設備）	
（９）	ループ試験成績表（計装設備）	
（１０）	耐圧・機密試験成績表（自家発電設備）	
（１１）	保護装置試験成績表（自家発電設備）	
（１２）	調速機試験成績表（自家発電設備）	
（１３）	騒音測定試験成績表（自家発電設備）	
（１４）	負荷試験成績表（自家発電設備）	
（１５）	振動測定試験成績表（自家発電設備）	
（１６）	耐電圧試験（受変電設備・動力設備・電灯設備）	
（１７）	ＬＡＮ試験成績表	
（１８）	その他必要なもの　（津山市建築工事検査基準による）	

第７節　　工事写真の作成

23.　工事写真

（１）　着工前写真　　カラー

（２）　工程写真　　カラー

１．　スケール、撮影箇所を明示すること。また地下埋設物、配管類は必ず
ＧＬを基準にしたスケールを明示した写真とすること。

（３）　工事完成写真　　カラーＥ版

１．　外部４面、各内２面以上（対角線撮影）

（４）　竣工写真　　カラー８つ切り（１組２０枚）

１．　外部６面、主要室内、夜景を建築写真専門家によって撮影すること。

２．　撮影データ（ＪＰＥＧ）をＣＤ－ＲＯＭに収録して提出すること。

第８節　　検査願申請書の提出

24.	検査願い申請書	（津山市様式）	検査前３日提出

第９節　　産業廃棄物書類の提出

25.	建設廃棄物処理計画書　（津山市様式）	着工前　提出
26.	マニフェストＥ票の写し	竣工検査前３日までに提出
27.	建設廃棄物処理実績報告書　（津山市様式）	竣工検査前３日までに提出
28.	ＣＯＢＲＩＳ又は建設リサイクル報告様式（国土交通省）	

第１０節　　竣工調書の作成

29.　竣工調書の様式

（１）　黒表紙製本（表紙に工事名称、工事年度を白文字打ち込みとする）　◎は必ず収録することとする。

（２）　収録する調書はタイプ印刷とすること。

（３）　提出期日（竣工後すみやかに提出すること）

30.　竣工調書に収録するもの

◎（１）　建築物概要

１．　工事名称　　６．　請負金額

２．　工事場所　　７．　施工者

３．　用途地域及び地区　　８．　構造、階数、各階主要用途

４．　設計者　　９．　建築面積、延べ面積、各階床面積

５．　着工年月日、竣工年月日　　１０．　設備

提出期日（竣工後すみやかに提出すること。）

（２）　着工前届出書類目録　（目録のみ収録　別冊作成可）

（３）　使用材料承諾願一覧目録　（目録のみ収録　別冊作成可）

（４）　資材検収簿提出一覧目録　（目録のみ収録　別冊作成可）

（５）　工事日報目録　（目録のみ収録　別冊作成可）

（６）　施工要領書目録　（目録のみ収録　別冊作成可）

（７）　施工図・承諾図目録　（目録のみ収録　別冊作成可）

（８）　竣工図書目録　（目録のみ収録　別冊作成可）

◎（９）　保証書目録

１．　責任施工を指定した工事

２．　機器等で必要とみとめたもの

３．　その他必要と認めたもの

◎（１０）　官公署許認可証

◎（１１）　試験成績書目録　（目録のみ収録　別冊作成可）

◎（１２）　錠目録

◎（１３）　予備材料納入目録

◎（１４）　工具納入目録

◎（１５）　各工事施工者及び資材、機器製造業者一覧表

◎（１６）　資材色彩シート一覧表

（１７）　建物・設備機器の取り扱い説明書　（目録のみ収録　別冊作成可）

（１８）　工事写真目録　（目録のみ収録　別冊作成可）

（１９）　建設廃棄物書類目録　（目録のみ収録　別冊作成可）

第１１節　　竣工図書の作成

31.　竣工図書の内容

１．　縮小版（Ａ３）黒表紙製本　（表紙に工事名称、工事年度を印刷）

２．　業者名簿、仕上表（メーカー、品番、色番号（マンセル値）を記載すること。

32.　竣工図書の整合

１．　設計図等をＣＤ－ＲＯＭ化前に、竣工設計図として正確に図面と現場とを整合させること。

２．　設計図の仕様書に基本設計者、実地設計者、施工者、協力業者の名簿を明記すること。

３．　設計図の仕上表等に使用資材のメーカー名、材料名称、カタログ番号等を記入すること。
（主要資材、換気口、建具金物、建築金物、防水等）

４．　設計図の仕上表等に塗装の決定色彩番号、特殊塗料のメーカー名、材料名
カタログ番号を記入すること。

５．　設計図の家具一覧表に取り付け家具の使用資材のメーカー名、材料名称、
カタログ番号、決定色彩番号を記入すること。

６．　設備設計図の仕様書、設備機器一覧表等に、使用資材のメーカー名、材料名称、
カタログ番号、機器のメーカー名、型式番号等を記入すること。

７．　設備設計図に埋設管標柱の設置場所を正確に記入すること。

33.　竣工図書の審査

１．　竣工設計図作成後すみやかに津山市の審査を経てＣＤ－ＲＯＭ化すること。

34.　ＣＤ－ＲＯＭに納めるもの。

１．　竣工図書に納めた書類

２．　施工図

３．　完成写真、完成予想図、工事写真、着工前写真

４．　竣工図ＣＡＤデータ　（ＪＷＷ又はＤＸＦ）

５．　竣工図ＰＤＦデータ

６．　その他必要と思われるもの。（監督員の指示による）

第１２節　　竣工時の提出物

35.　提出物の内容

（１）　竣工調書　　２部

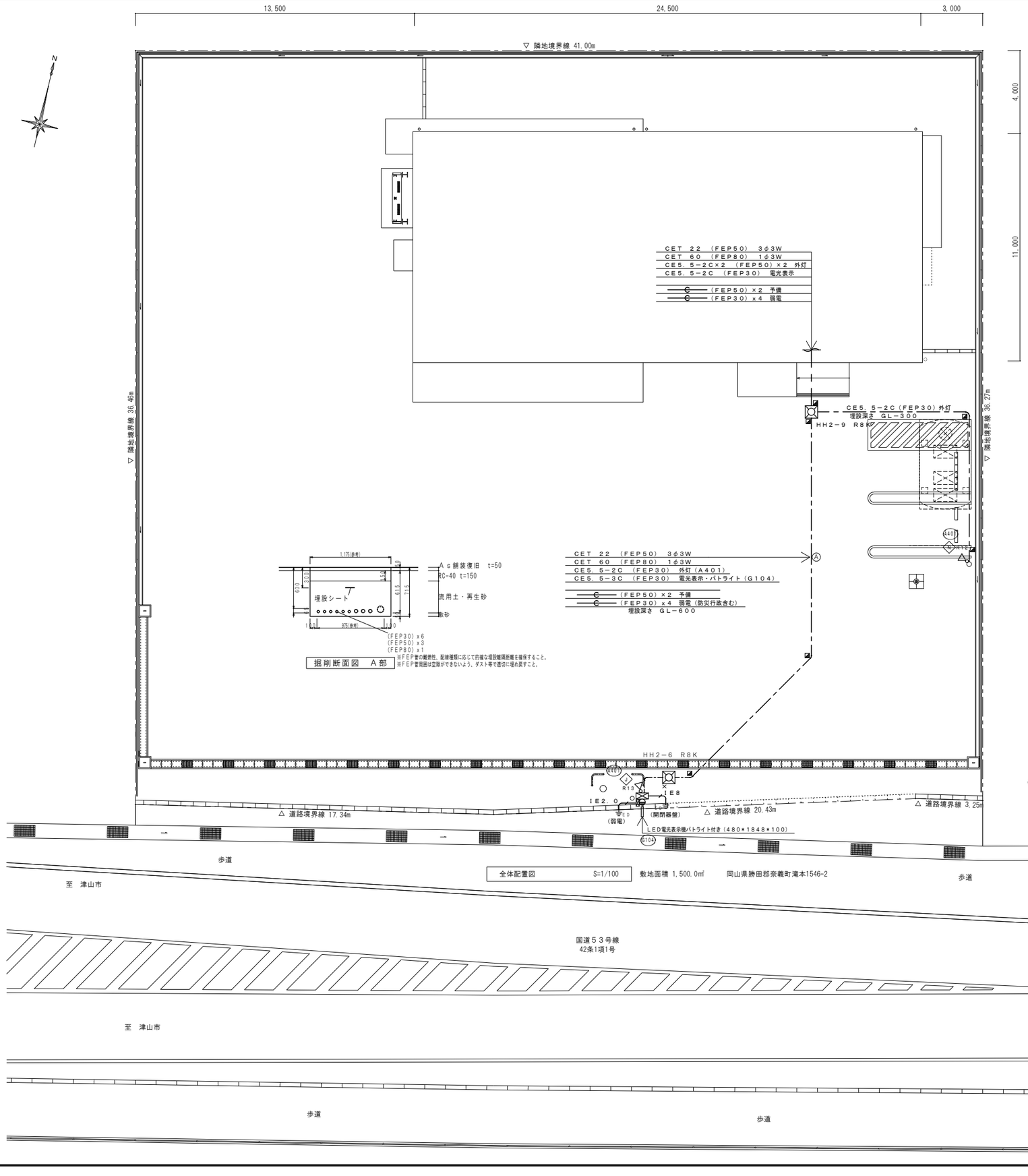
（２）　竣工図書　　（縮小版Ａ３サイズ　黒表紙製本２部）
各工事施工者及び資材、機器製造業者一覧表。資材色彩シート一覧表も収録すること

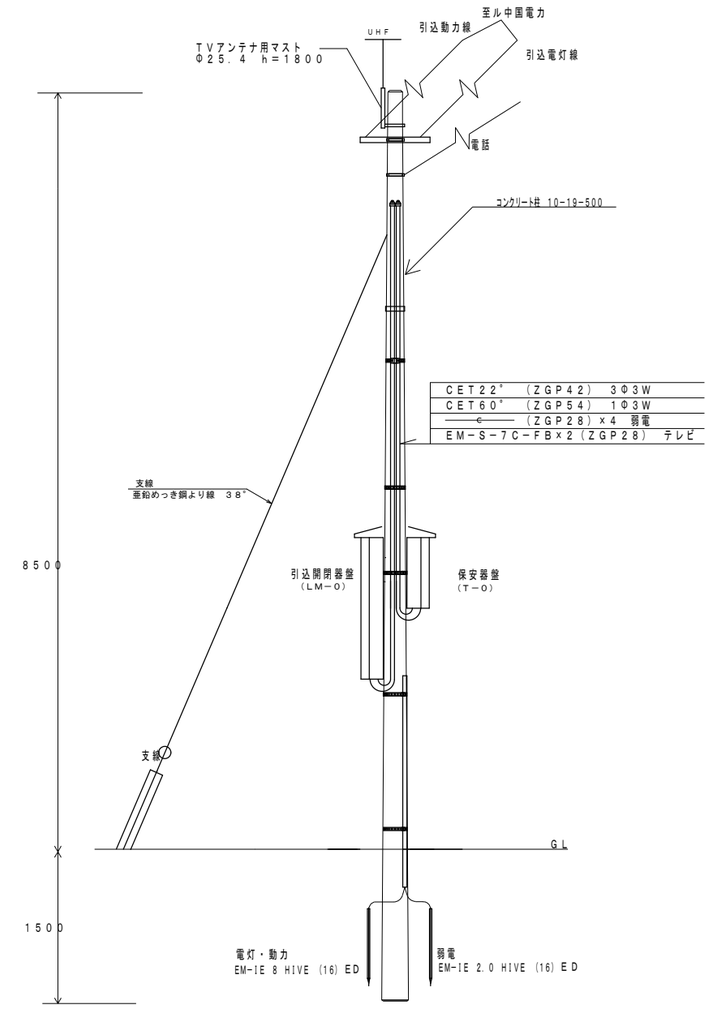
（３）　工事写真　　（着工前写真２組　工程写真１組　工事完成写真２組　竣工写真２組）

（４）　ＣＤ－ＲＯＭ　　１組

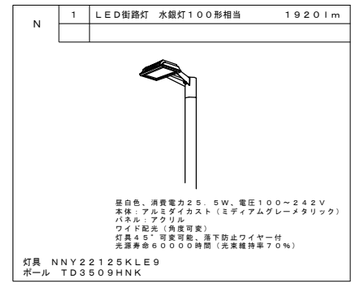
（A3=A1縮小50%）

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査	図面番号 E／02
図面名	津山市電気設備工事施工管理業務報告要領				
一級建築士事務所　県知事登録第１２１５３号　（有）　戸　田　設　計		一級建築士　登録第　９９０５３　号　戸田國廣			





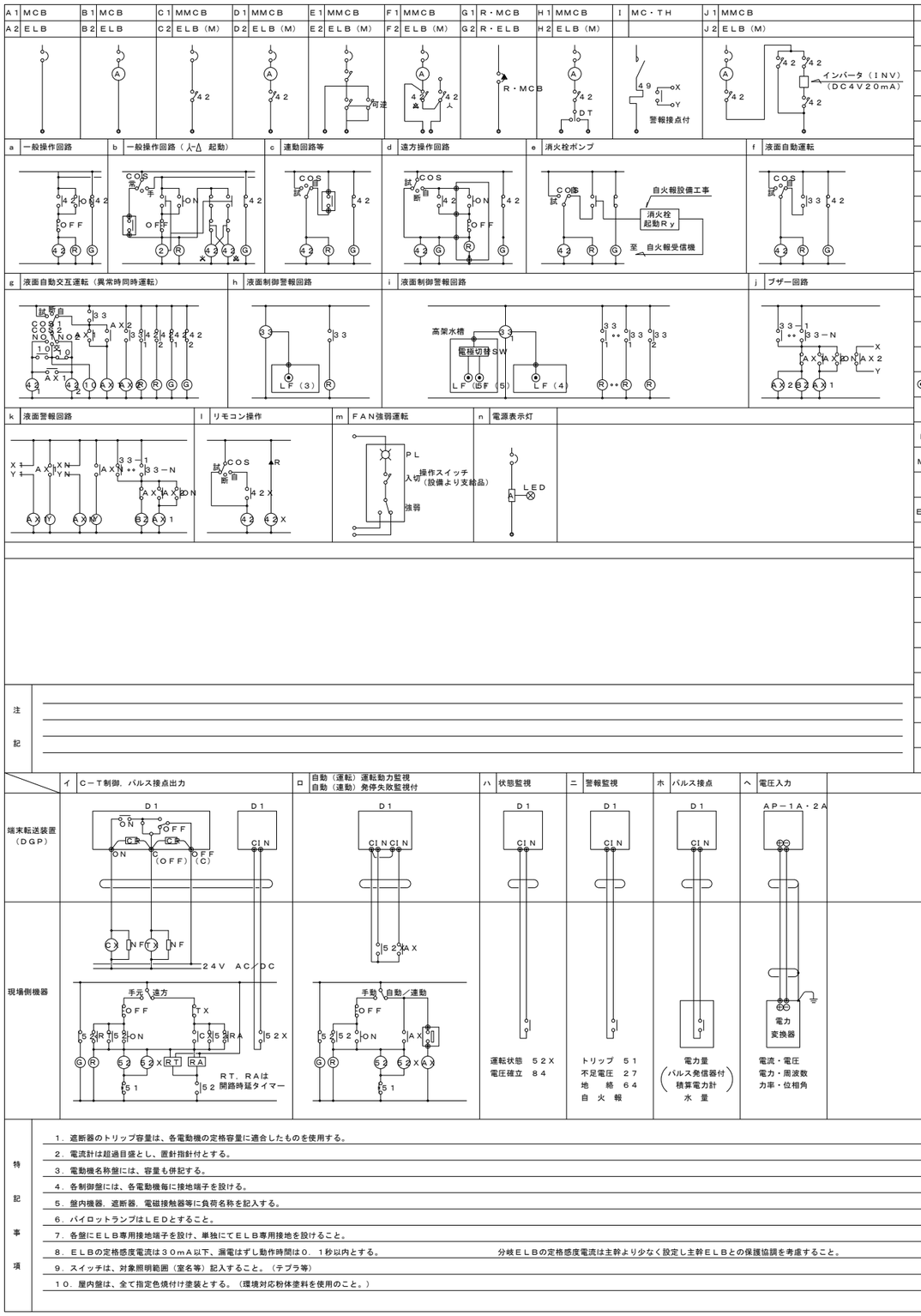
引込柱参考詳細図



(A3=A1縮0.50%)

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査	図面番号 E/03
図面名	全体配置図・屋外設備図 S=1/30,1/100				
一級建築士事務所 (有) 戸田設計	県知事登録第12153号	一級建築士 登録第 99053 号 戸田國廣			

標準結線図



Ⓐ	電流計（2．5級）
42	電磁接触器
②	時延継電器
FR	フリッカ継電器
AX	補助継電器
10	自動交互継電器
33	液面制御継電器
32	ブ ザ ー
Ⓡ	（赤）運転表示灯
Ⓖ	（緑）停止表示灯
Ⓞ	（橙）故障表示灯
Ⓨ	（黄）液面警報表示灯
Ⓦ	（白）電源表示灯
⊙LF	電極棒（傍記数字は本数）
◎	外部配線用端子
MCB	配線用遮断器
MMCB	電動機保護用配線用遮断器
ELB	漏電遮断器
ELB（M）	電動機保護用漏電遮断器
FS	フロートスイッチ
COS	切替スイッチ
DT	双投式スイッチ
PB	押釦スイッチ
f	フューズ

特記事項

1．遮断器のトリップ容量は、各電動機の定格容量に適合したものを使用する。
2．電流計は超過目盛とし、置針指針付とする。
3．電動機名称盤には、容量も併記する。
4．各制御盤には、各電動機毎に接地端子を設ける。
5．盤内機器，遮断器，電磁接触器等に負荷名称を記入する。
6．パイロットランプはＬＥＤとすること。
7．各盤にＥＬＢ専用接地端子を設け、単独にてＥＬＢ専用接地を設けること。
8．ＥＬＢの定格感度電流は３０ｍＡ以下、漏電はずし動作時間は０．１秒以内とする。　分岐ＥＬＢの定格感度電流は主幹より少なく設定し主幹ＥＬＢとの保護協調を考慮すること。
9．スイッチは、対象照明範囲（室名等）記入すること。（テプラ等）
10．屋内盤は、全て指定色焼付け塗装とする。（環境対応粉体塗料を使用のこと。）

動力盤リスト

漏電ブレーカーの感度電流は手元開閉器と協調を考慮すること

盤名称 / 盤形状	幹線番号 / 合計容量	動力番号	機器名称	容量（KW） 機械	建築	生産	(AF)	(AT)	電圧 3φ(V)	設置階	制御 INV	結線記号	現場盤 発停	状態	警報	警報盤 発停	状態	警報	連動 及び インターロック	配線サイズ	備考
LM－1																					
LM－0より 3φ3W	MCCB 3P 100／100																				
		M1	ホースリフター		0.75	x2		50	20	200			A2							専用制御盤	EM－CE5．5sq－4C	SC 30μF
		M2	車庫排気ファン		0.549			50	10	200			A2－a							発停押釦車庫内取付	EM－CE3．5sq－4C	SC 20μF
		PAC1	事務室エアコン ACP－1	2.54				50	30	200			A2								EM－CE5．5sq－4C	
		PAC2	食堂・調理室エアコン ACP－2	1.39				50	20	200			A2								EM－CE5．5sq－4C	
		PAC3	出勤準備室エアコン ACP－3	0.79				50	20	200			A2								EM－CE5．5sq－4C	
		PAC3	救急消毒室エアコン ACP－3	0.79				50	20	200			A2								EM－CE5．5sq－4C	
		PAC4	仮眠室1～3エアコン ACP－4	1.46				50	20	200			A2								EM－CE5．5sq－4C	
		PAC4	仮眠室3～6エアコン ACP－4	1.46				50	20	200			A2								EM－CE5．5sq－4C	
		ヨビ						50	20	200			A2									
			合計	8.43	2.049																

（A3＝A1縮小50%）

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計	設	審
図面名	分電盤結線図　動力	画	計	査
一級建築士事務所（有）戸田設計	県知事登録第１２１５３号	一級建築士　登録第　９９０５３　号　戸田國廣		図面番号 E／04

分電盤リスト

盤名称 幹線番号 盤形状	電気方式 主開閉器 結線番号 合計容量	回路番号	電圧（V）	分岐（AF／AT）	MCB	ELB	負荷名称	容量（VA）	附属機器 リモコンリレー 1P	リモコンリレー 2P	ターミナルユニット T／U	伝送ユニット	タイマー	マグネットスイッチ	備考
引込	屋外防水型														
LM−0	（SUS製、ヘアーライン仕上げ、t1.5以上）														
1φ3W	WH CET 60	L1	200／100	3P 225／150	○		LM−1								
3φ3W	WH CET 22	M1	200	3P 100／100	○		LM−1								
E（D）															
LM−1	屋内自立型 （上部ダクト付）														
		G	100	2P 50／50A	○		非常用回路	5,000							非常用発電機送り
LM−0より 1φ3W															
L1		火	100	2P 50／20A	○		火災警報器	50							2階仮置
CET 60															
	MCCB 3P 225AF／125A 中性欠相保護付	A401	200	2P 50／20A		○	屋外照明	127.5	1	2			1	2	ソーラータイマー2回路ON、OFF 手動操作SW ON−OFF
		A201	200	2P 50／20A		○	仮設室 7AC	750							
		A202	200	2P 50／20A		○	2階倉庫 AC用予備	750							2階倉庫天井止め
		A203	200	2P 50／30A		○	遠隔し室IHコンロ	2,500							
		A101	100	2P 50／20A	○		事務室・玄関照明	467		4	1				
		A102	100	2P 50／20A	○		食堂、調理室・倉庫・WC他照明	435							
		A103	100	2P 50／20A	○		緊急誘導灯・非常・防災倉庫他照明	357							
		A104	100	2P 50／20A	○		非色照明	2.2		1					
		A105	100	2P 50／20A		○	外壁照明（ブラケット）	180					1	1	年間プログラムタイマユニット
		A106	100	2P 50／20A	○		2階照明	268							
		A201	100	2P 50／20A	○		自動ドアー	40							
		A202	100	2P 50／20A	○		事務室コンセント1	300							
		A203	100	2P 50／20A	○		事務室コンセント2	300							
		A204	100	2P 50／20A	○		事務室コンセント3	300							
		A205	100	2P 50／20A	○		事務室コンセント4	450							
		A206	100	2P 50／20A	○		風除室コンセント	300							
		A207	100	2P 50／20A		○	食堂・調理室コンセント1	300							
		A208	100	2P 50／20A		○	食堂・調理室コンセント2	300							
		A209	100	2P 50／20A		○	食堂・調理室コンセント3	1,000							
		A210	100	2P 50／20A		○	食堂・調理室コンセント4	700							
		A211	100	2P 50／20A	○		倉庫コンセント	300							
		A212	100	2P 50／20A		○	WC多目的便所コンセント	950							
		A213	100	2P 50／20A		○	WC小コンセント	800							
		A214	100	2P 50／20A		○	出動準備室一般コンセント1	300							
		A215	100	2P 50／20A		○	出動準備室一般コンセント2	300							
		A216	100	2P 50／20A		○	救急消毒室コンセント1	1,350							
		A217	100	2P 50／20A		○	救急消毒室次亜水コンセント	400							
		A218	100	2P 50／20A		○	救急消毒室コンセント2	500							
		A219	100	2P 50／20A		○	車庫コンセント1	300							
		A220	100	2P 50／20A		○	車庫コンセント2	300							
		A221	100	2P 50／20A		○	車庫コンセント3	300							
		A222	100	2P 50／20A		○	防災倉庫コンセント4	300							
		A223	100	2P 50／20A	○		仮眠室1～3コンセント	450							
		A224	100	2P 50／20A	○		仮眠室4～6コンセント	450							
		A225	100	2P 50／20A	○		仮眠室通路コンセント	300							
		A226	100	2P 50／20A	○		ロッカー室コンセント	450							
		A227	100	2P 50／20A	○		仮眠室7コンセント	300							
		A228	100	2P 50／20A	○		倉庫コンセント	300							
		A229	100	2P 50／20A		○	ホール・洗面・脱衣コンセント	450							
		A230	100	2P 50／20A		○	WCコンセント1	300							
		A231	100	2P 50／20A		○	WCコンセント2	650							
		A232	100	2P 50／20A		○	WCコンセント3	800							
		A233	100	2P 50／20A		○	SW脱衣コンセント	1,000							
		A234	100	2P 50／20A		○	洗面・脱衣室コンセント	1,000							
		A235	100	2P 50／20A		○	ベランダコンセント	150							
		A236	100	2P 50／20A		○	車庫右屋外コンセント	150							
		A237	100	2P 50／20A		○	東・北壁面屋外コンセント	450							
		A238	100	2P 50／20A		○	西・北壁面屋外コンセント	450							
		A239	100	2P 50／20A		○	ベランダコンセント	100							
		A240	100	2P 50／20A		○	ベランダ給湯コンセント	100							
		A241	100	2P 50／20A		○	天井暖房換気扇	1000							
E（D）			100	2P 50／20A	○		複合盤電源1	150							
E（D）			100	2P 50／20A	○		複合盤電源2	150							
ELB（D）			100	2P 50／20A	○		予備								
			100	2P 50／20A	○		予備								
			100	2P 50／20A	○		予備								伝送ユニット＋リモコンスイッチ32L＋パターン・グループスイッチ
			100	2P 50／20A	○		予備								ソーラータイマー（2回路型）・WRT3224K（4接点入力・外部遠動制御用）
							100v計	20,987							
							200v計	4,128							

盤名称 幹線番号 盤形状	電気方式 主開閉器 結線番号 合計容量	回路番号	電圧（V）	分岐（AF／AT）	MCB	ELB	負荷名称	容量（VA）	附属機器 リモコンリレー 1P	リモコンリレー 2P	ターミナルユニット T／U	伝送ユニット	タイマー	マグネットスイッチ	備考
発電機より 1φ2W G1															
CED 22	MCCB 2P 50AF／50AT	U	100	2P 50／30A	○		UPS電源	3,000							出勤指令卓UPS送り
		G101	100	2P 50／20A		○	事務室・出勤準備室 東面 照明	562.1		5	1				
		G102	100	2P 50／20A		○	ロッカー室手洗・通路 廊下・仮眠室7 照明	172.2		5	2				
		G103	100	2P 50／20A		○	仮眠室1～6照明	139.5		6	1				
		G104	100	2P 50／20A		○	車庫前・電光表示・バトライト	472.4		2	1		1		OFFタイマー（5min）
		G105	100	2P 50／20A		○	事務室フロアコンセント1	150							
		G106	100	2P 50／20A		○	事務室フロアコンセント2	300							
		G107	100	2P 50／20A		○	事務室フロアコンセント3	300							
		G108	100	2P 50／20A		○	出勤指令者1	150							
		G109	100	2P 50／20A		○	出勤指令者2	150							
		G110	100	2P 50／20A		○	出勤指令者3	150							
		G111	100	2P 50／20A		○	シャッター	200							
		G112	100	2P 50／20A		○	複合盤	150					1		
			100	2P 50／20A		○	リモコントランス	50							
			100	2P 50／20A		○	予備								
			100	2P 50／20A		○	予備								
			100	2P 50／20A		○	予備								
							計	2,778.8							

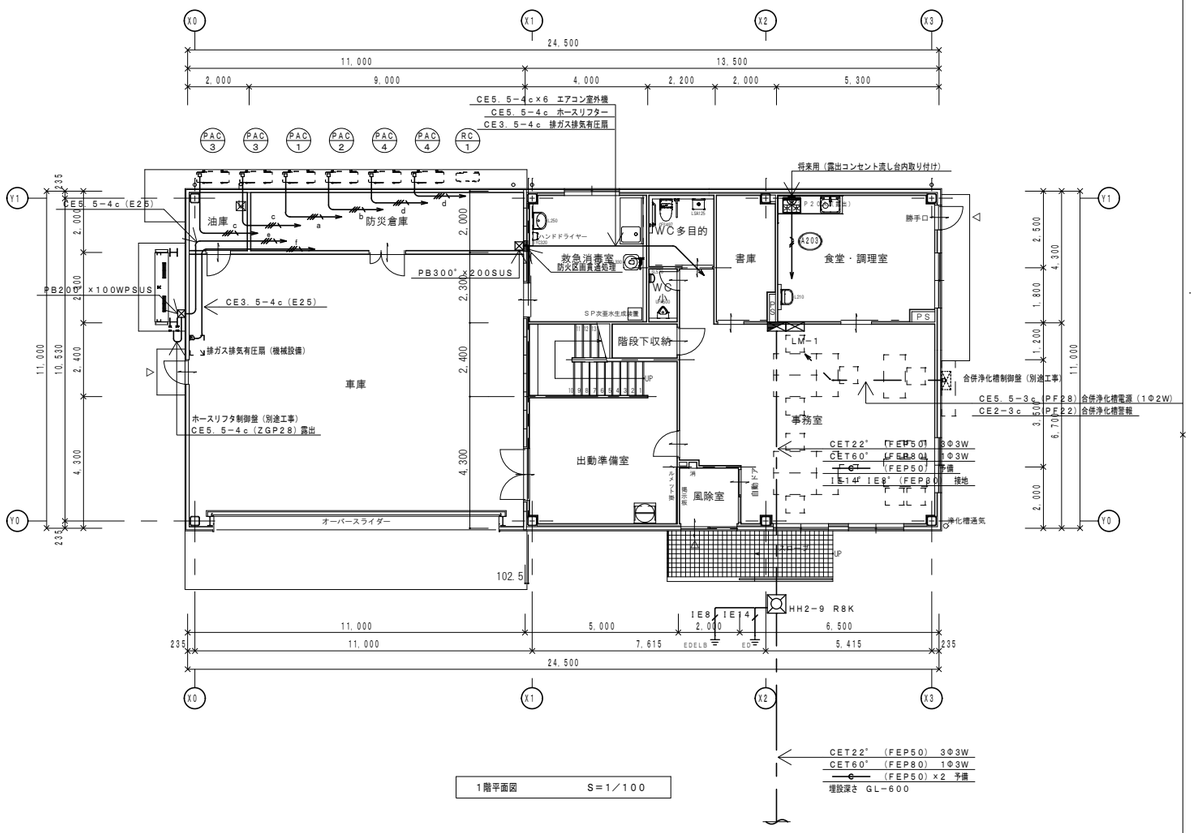
照明点灯パターン（グループ・個別運用）

通常運用	リモコンスイッチにより 個別点灯
非常時手動運用	出動準備室ML（リモコンスイッチ）により 設定ヵ所一斉点灯
緊急指令時運用	出動指令卓信号により 設定ヵ所一斉点灯 屋外表示看板・バトライト点灯 TM設定時間（5分程度）で消灯
停電時運用 （発電機運転）	G1電源回路照明 個別・一斉点灯

セレクタスイッチ 24L （LM−1組込）

（A3＝A1縮小50%）

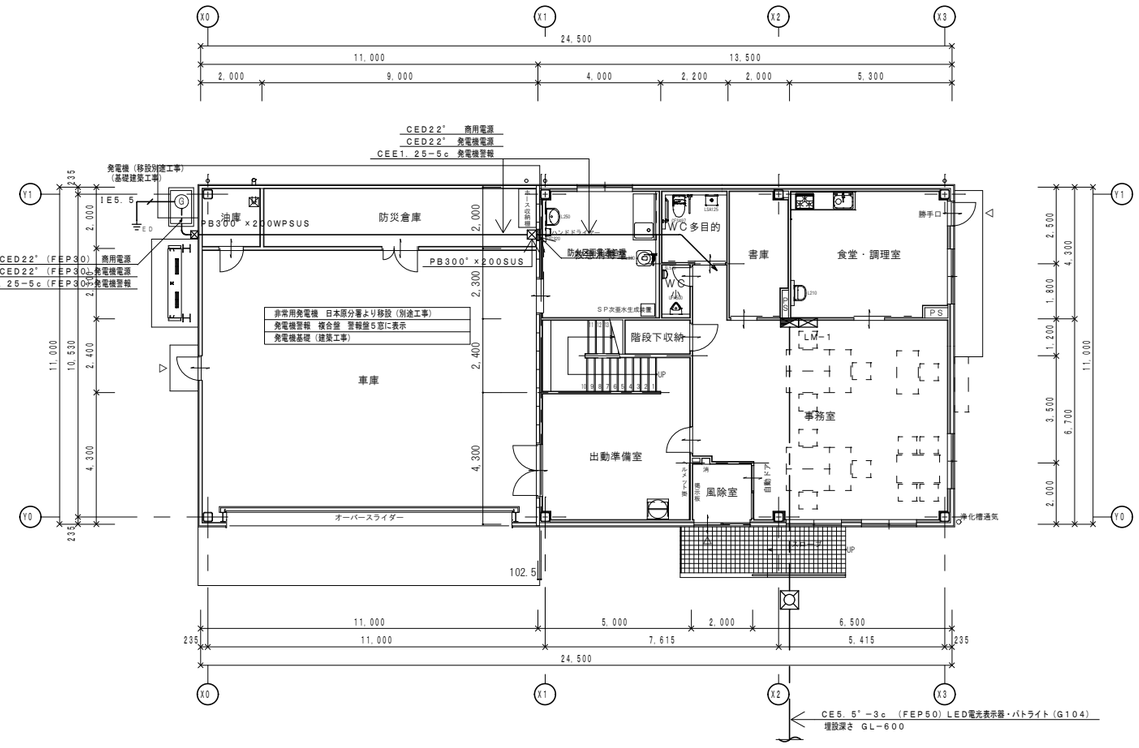
工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査
図面名	分電盤結線図 電灯			
一級建築士事務所（有）戸田設計	県知事登録第12153号	一級建築士 登録第 99053 号 戸田國廣		図面番号 E 05



1階平面図　　S＝1／100

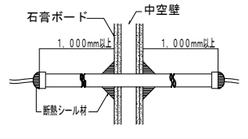
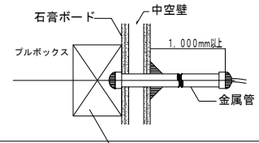
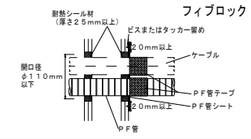
動力負荷機器一覧

	表示No	設置場所	機器電圧	電源容量	台 数	ケーブルサイズ	露出立上（配管）
a	PAC－1	1階事務所	3Φ200V	2．54kW	1	EMCE5．5’－4c	共巻き
b	PAC－2	1階食堂・調理室	3Φ200V	1．39kW	1	EMCE5．5’－4c	共巻き
c	PAC－3	1階出動準備室 緊急消毒室	3Φ200V	0．79kW	2	EMCE5．5’－4c	共巻き
d	PAC－4	2階仮眠室通路	3Φ200V	1．46kW	2	EMCE5．5’－4c	共巻き
e	ホースリフター	車庫横壁外	3Φ200V	0．75kW×2	1	EMCE5．5’－4c	E25
f	排気ファン	車庫	3Φ200V	0．549kW	1	EMCE3．5’－4c	E25
p	RC－1	2階仮眠室7	1Φ200V	0．75kW	1	EMCE3．5’－3c	共巻き
				8．43kW			



1階平面図　　S＝1／100

注記：防火壁区画処理箇所及び仕様を下記に示す。
ケーブル壁１６０φ以下用防火区画処理剤
国土交通大臣認定番号：ＰＳ０６０ＷＬ－０００００　（壁用）

区　画　貫　通　処　理　凡　例		
防火区画及び関係法令による区画貫通は、令１２９条の２の５第１項７号の規定による区画貫通措置を施すこと		
ＲＣ壁・中空壁（金属管貫通）		中空壁（ケーブル・ＰＦ管貫通）
建築基準法：施行令第１２９条の２の５第１項第７号イ	建築基準法：施行令第１１２条第１５項	ＰＳＯ６０ＷＬ－０３７１、ＫＫ１９－１４５号の場合
		

ロックウール
（充填密度１５０ｋｇ／リッポウメートル以上）

（A3=A1縮小50%）

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査
図面名	１階　幹線・動力設備平面図　S=1/100			
一級建築士事務所　県知事登録第１２１５３号 （有）　戸　田　設　計	一級建築士　登録第　９９０５３　号　戸田國廣			図面番号 E／06

照 明 器 具 姿 図

※記入の型番と同等とする。

A
- G　LSS9－4－23 ＋ガード　FK41534

Hf32w×1タイプ　2500lm

XLX420AENTLE9

B

LSS9－4－48

Hf32w×2タイプ　5200lm

XLX450AENTLE9

C
- 2　Hf　32－2相当　防湿型W150　4940lm

LEDベースライト直付型　40w形

XLW422AENZLE9
XLW452AENZLE9

D
- 1　LSS6－4－48
- 2

Hf32w×2タイプ　5070lm

XLX450SENTLE9

E

LED直付型　40w形
- Hf　32－2相当　コーナーライト

Hf32w×2タイプ　6900lm

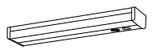
XLX460CENTLE9

F
- 1　LRS1－13LE9　1695lm
- 2　LRS1－17LE9　2075lm

XND1561WNLE9
XND2061WNLE9

G

LEDキッチンライト　20形蛍光灯1灯器具相当



LGB52094LE1

H

LED安全増防爆型　吊下型　2750　lm

【灯具】NNF41310　LE9
【パイプ】FK70310
【吊具】FP21400

XLJ4100LE9

I

LEDポーチライト　60形電球1灯器具相当

人感センサー付、段調光、明るさセンサ付

LGWC80290LE1

J

LEDスポットライト　HF　250w形相当

NNY24921LE9

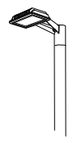
K

壁直付型　LED赤色表示灯

NNF20298K

N

LED街路灯　水銀灯100形相当　1920lm



昼白色、消費電力25．5W、電圧100～242V
本体：アルミダイカスト（ミディアムグレーメタリック）
パネル：アクリル
ワイド配光（角度可変）　基礎共
灯具45°可変可能、落下防止ワイヤー付
光源寿命60000時間（光束維持率70%）

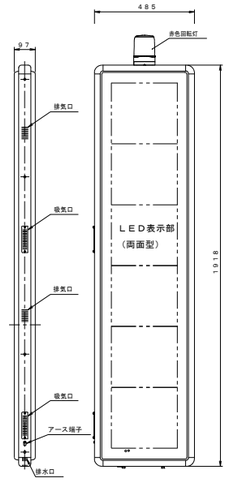
灯具　NNY22125KLE9
ポール　TD3509HNK

O

iDシリーズ直付型20形　Dスタイル　W150

XLX200AENJLE9

P
- LED電光表示機　両面表示
- 取付コンクリート柱　本工事



（A3=A1縮小50%）

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計	設	審	図面番号 E／07
図面名	照明器具姿図	画	計	査	
一級建築士事務所　県知事登録第12153号 （有）　芦　田　設　計		一級建築士　登録第　99053　号　芦田國廣			

油庫	
照明器具番号	数量
H	1

緊急消毒室	
照明器具番号	数量
C2	4

書　庫	
照明器具番号	数量
A	2

食堂・調理室	
照明器具番号	数量
B	6
G	1

事務所前・東外壁	
照明器具番号	数量
I	3

防災倉庫	
照明器具番号	数量
AG	3

WC多目的・WC小	
照明器具番号	数量
F1	3

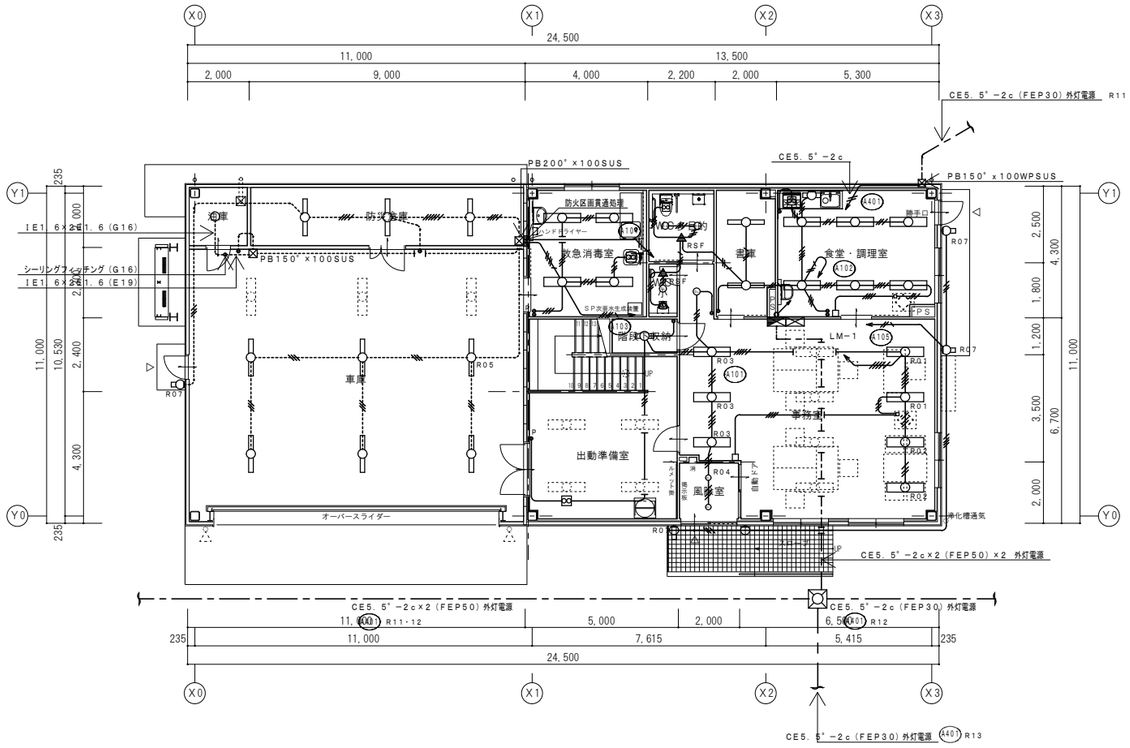
事務室・風除室	
照明器具番号	数量
D	7
F1	1
F2	2

西外壁	
照明器具番号	数量
I	1

車庫・外部	
照明器具番号	数量
A	6
J	2

階段下収納・階段室	
照明器具番号	数量
O	1
F1	1

玄関	
照明器具番号	数量
K	1

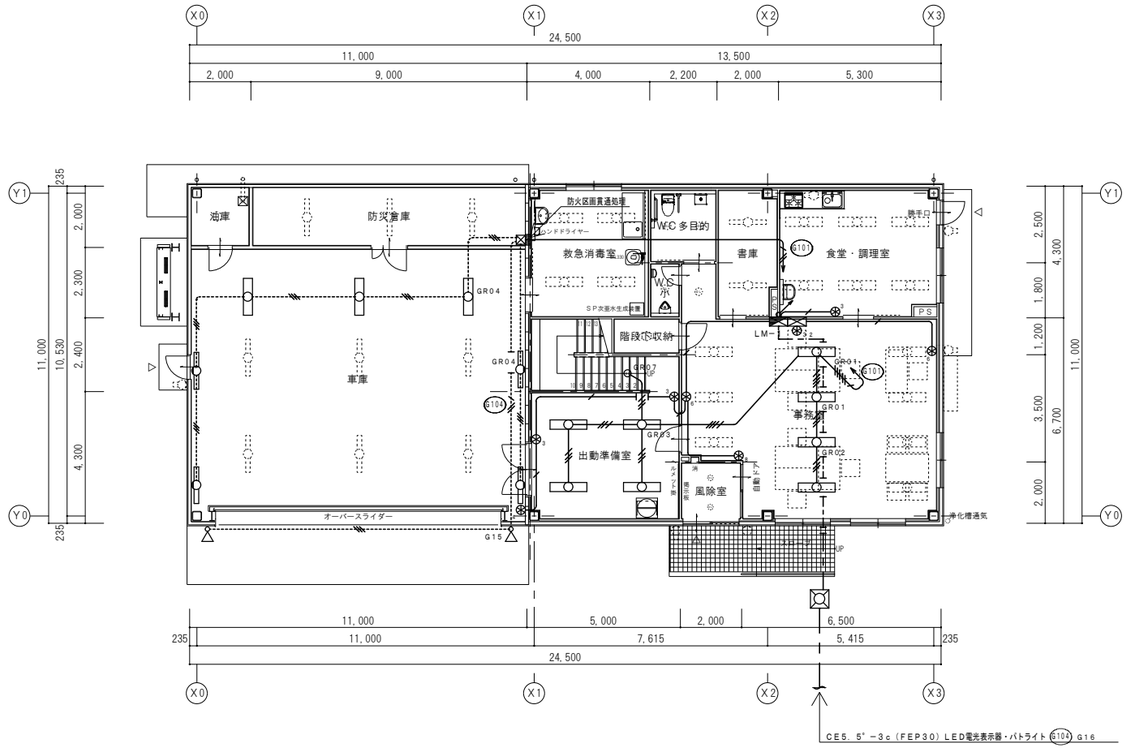


1階平面図　　S＝1／100

車庫	
照明器具番号	数量
D	3
E	4

出勤準備室	
照明器具番号	数量
B	4

事務室	
照明器具番号	数量
D	4



1階平面図　　S＝1／100

仮眠室1～6リモコンスイッチ配線立下げは、柱清加工（建築工事）内に配線する、埋戻し（建築工事）

配線凡例

注　記		
特記なき配管・配線は、下記の通りとする。		
天井内は隠蔽配線とし、壁内配線は電線管にて保護すること。		
———	EM−EEF 1.6−2c	PF（16）
——/———	EM−EEF 1.6−3c	PF（16）
——//———	EM−EEF 1.6−2c×2	PF（16）
——//———	EM−EEF 1.6−2c+3c	PF（22）
——//———	EM−EEF 1.6−3c×2	PF（22）
——/———	EM−EEF 2.0−2c	PF（16）
——/———	EM−EEF 2.0−3c	PF（16）
——//———	EM−EEF 2.0−2c+1.6−2c	PF（22）
——//———	EM−EEF 2.0−2c+1.6−3c	PF（22）
——//———	EM−EEF 2.0−3c+1.6−3c	PF（22）
——//———	EM−EEF 2.0−3c+1.6−2c×2	PF（22）
——/———	EM−AE 1.2−2c	PF（16）
------------	EM−IE 1.6×2	E（19）
------/------	EM−IE 1.6×3	E（19）
------//------	EM−IE 1.6×4	E（19）
蛍光灯型照明器具・屋外取り付け型照明器具配線は、接地が必要　条数記入		

記号凡例

注　記		
特記なきシンボルは、下記の通りとする。		
●	SW 1P15A （ネーム）	金属プレート
●P	SW 1P15APL（ネーム）	金属プレート
●T	SW 浴室換気 4h切換	金属プレート
▲RS	人感センサー親器	
▲RS	人感センサー子器 換気連動	
▲RSF	人感センサー親器 換気連動	
□	ロスナイスイッチ（機械設備支給品）	

記号凡例

注　記		
特記なきシンボルは、下記の通りとする。		
●ML	リモコンスイッチ 一斉 オン	金属プレート
●L	リモコンスイッチ	金属プレート
⊗	リモコンスイッチ 複数	金属プレート

仮眠室1～6リモコンスイッチ取付は、柱加工（建築工事）内に取付する。
金属プレートは、可動間仕切り用金属プレート（WN3851）を使用すること。
取付高さ、スイッチ大きさ等、建築工事担当者とよく打合せすること。

（A3＝A1縮小50%）

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計	設	審	図面番号
図面名	1階　電灯設備平面図　S=1/100	画	計	査	E 08
一級建築士事務所　県知事登録第12153号 （有）戸田設計		一級建築士　登録第　99053　号　戸田國廣			

脱衣所	
照明器具番号	数量
F2	1

洗面・洗濯室	
照明器具番号	数量
A	2

バルコニー	
照明器具番号	数量
F2	2

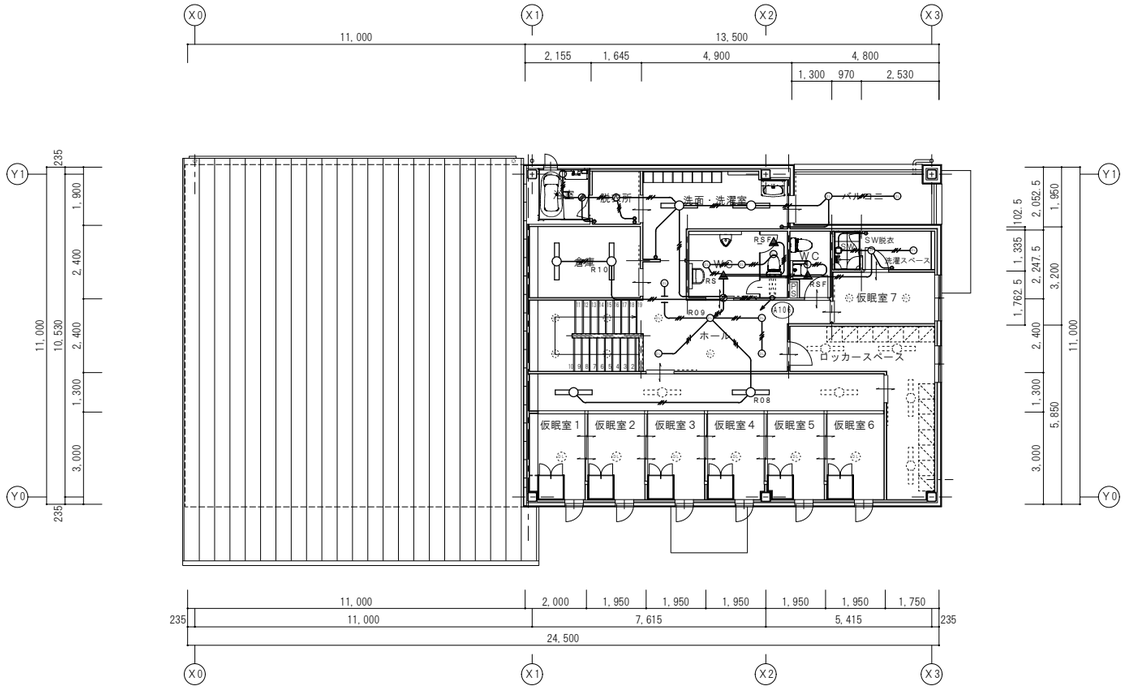
倉庫	
照明器具番号	数量
A	2

WC・WC小	
照明器具番号	数量
F1	3
F2	1

SW脱衣洗濯	
照明器具番号	数量
F2	2

仮眠室通路	
照明器具番号	数量
A	2

ホール	
照明器具番号	数量
F1	5



2階平面図　　S＝1／100

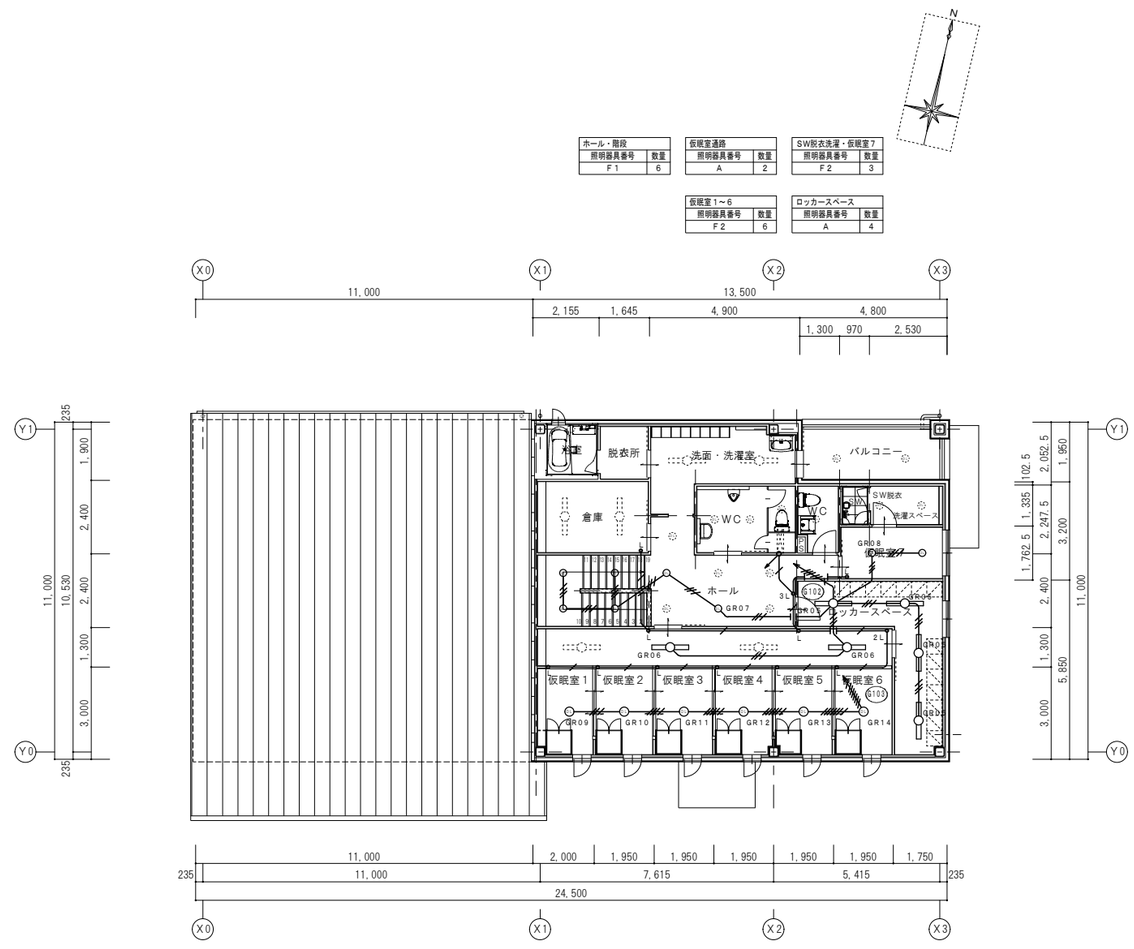
ホール・階段	
照明器具番号	数量
F1	6

仮眠室通路	
照明器具番号	数量
A	2

SW脱衣洗濯・仮眠室7	
照明器具番号	数量
F2	3

仮眠室1～6	
照明器具番号	数量
F2	6

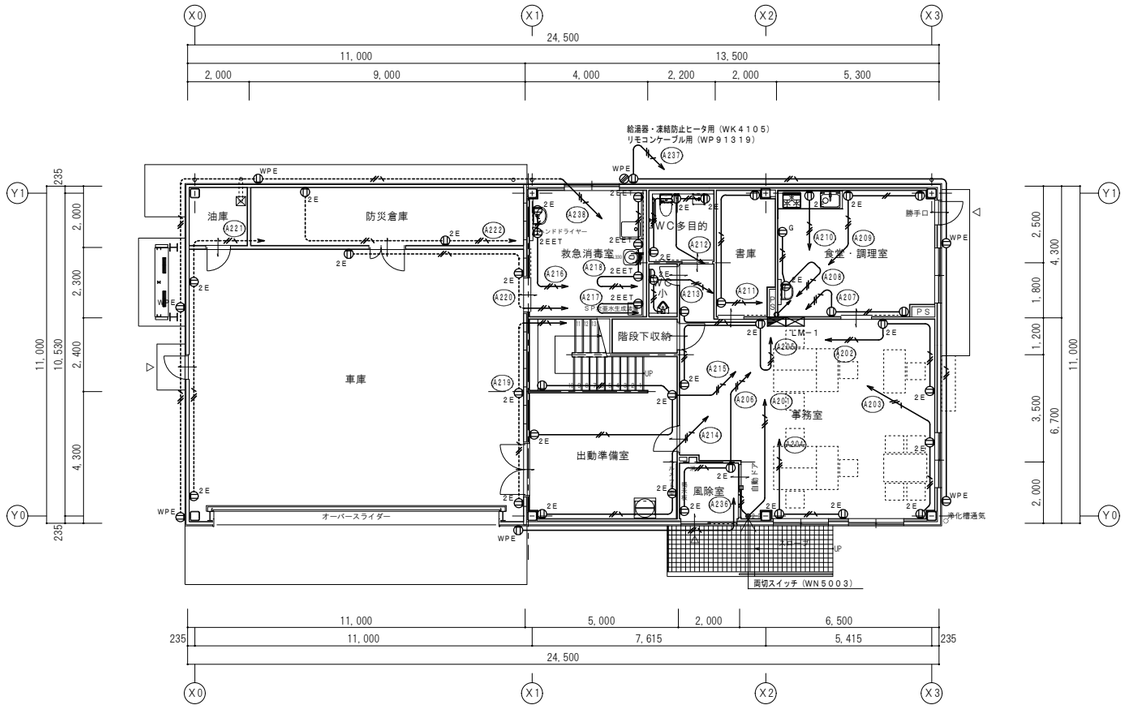
ロッカースペース	
照明器具番号	数量
A	4



2階平面図　　S＝1／100

(A3=A1縮小50%)

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査	図面番号
図面名	2階　電灯設備平面図　S=1/100				E／09
一級建築士事務所　県知事登録第１２１５３号　(有)　戸　田　設　計		一級建築士　登録第　９９０５３　号　戸田國廣			



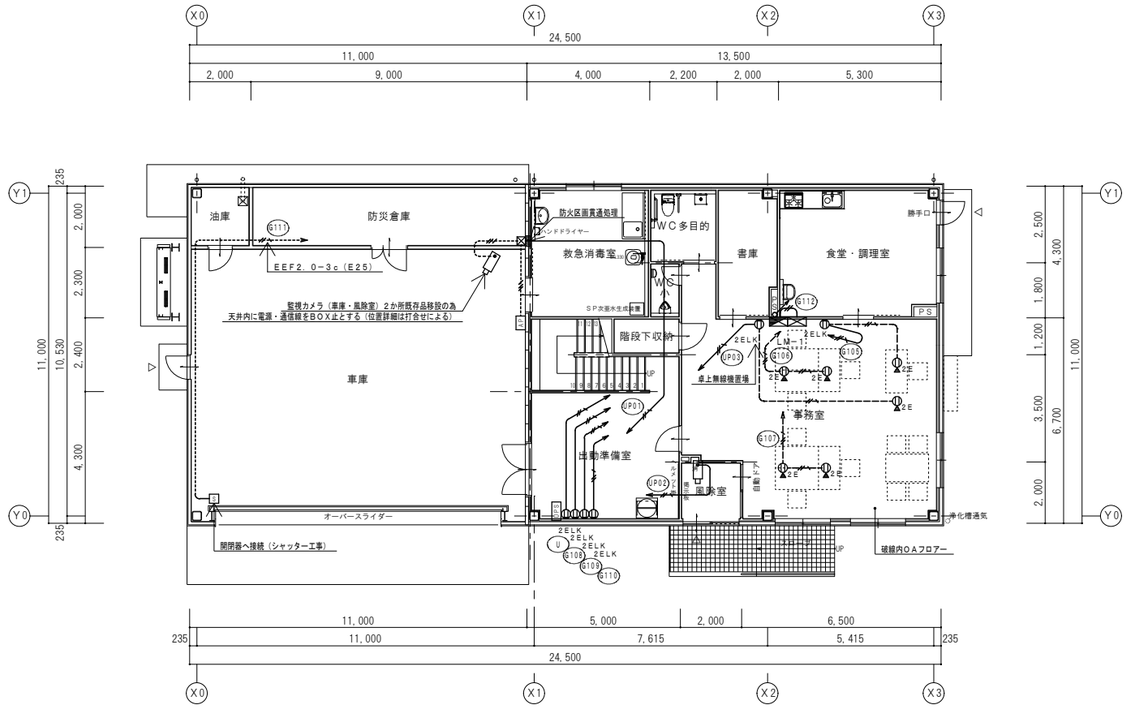
1階平面図　　S＝1／100

配線凡例

注　記		
特記なき配管・配線は、下記の通りとする。		
天井内は隠蔽配線とし、壁内配線は電線管にて保護すること。		
———	EM−EEF　1．6−2c	PF（16）
———//———	EM−EEF　1．6−3c	PF（16）
———//———	EM−EEF　2．0−2c	PF（16）
———//1———	EM−EEF　2．0−3c	PF（16）
- - -//- - -	EM−EEF　1．6−3c	PF（16）
- - -//1- - -	EM−EEF　2．0−3c	PF（16）

記号凡例

注　記			
特記なきシンボルは、下記の通りとする。			
2E	CO　2P15Ax2	金属プレート	
G	CO　2P15AELKx3抜け止	金属プレート	LPGガス感知器用
2E	CO　2P15AELKx2抜け止	金属プレート	
2EET	CO　2P15AELKx2+ET抜け止	金属プレート	
WPE	CO　2P15AE+ET	防水型	
S	CO　2P15Ax1	金属プレート	可動間仕切り用
仮据室1～6　立下げ配線は、建築工事により（埋木）隠蔽する。			



1階平面図　　S＝1／100

G＊＊　非常電源回路
U＊＊　UPS電源回路

配線凡例

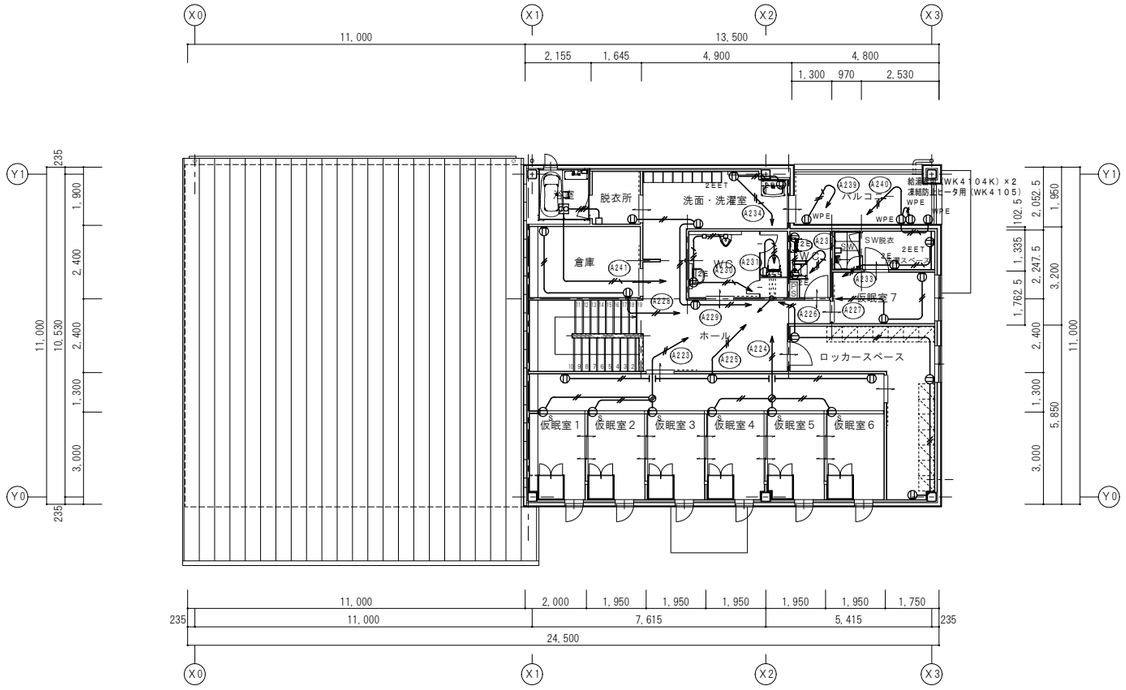
注　記		
特記なき配管・配線は、下記の通りとする。		
天井内は隠蔽配線とし、壁内配線は電線管にて保護すること。		
———	EM−EEF　1．6−2c	PF（16）
———//———	EM−EEF　1．6−3c	PF（16）
———//———	EM−EEF　2．0−2c	PF（16）
———//1———	EM−EEF　2．0−3c	PF（16）
·····//1·····	EM−EEF　2．0−3c	E（25）
———AE	EM−AE　1．2−2c	PF（16）
———AE	EM−AE　1．2−2c	PF（16）

記号凡例

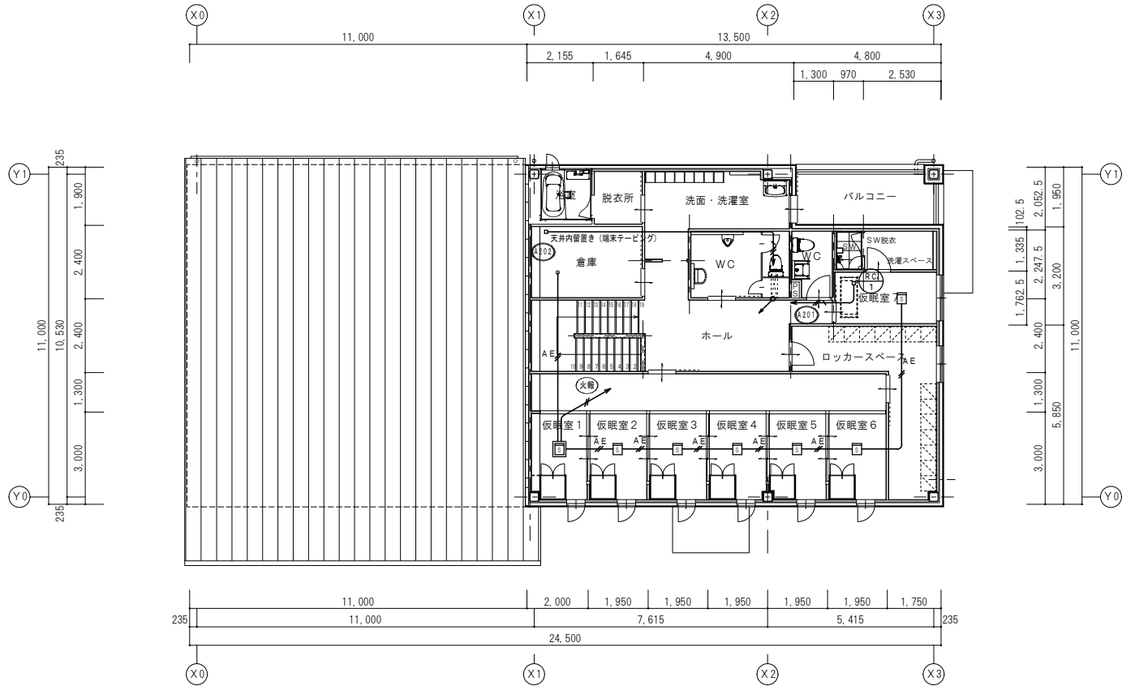
注　記		
特記なきシンボルは、下記の通りとする。		
2ELK	CO　2P15AELKx2　赤色	金属プレート
2E	CO　2P15AExz	OAフロア用
	住宅用火災警報器　親器	消防設置届（消火器共）
	住宅用火災警報器　子器	
	監視カメラ　（別途工事）	
AP	アクセスポイント（別途工事）	
	非常呼び出し鈴	
	廊下表示灯	
	復帰ボタン	

（A3＝A1縮小50%）

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査	図面番号 E／10
図面名	1階　コンセント設備平面図　S=1/100				
一級建築士事務所　県知事登録第１２１５３号 （有）　戸　田　設　計		一級建築士　登録第　９９０５３　号　戸田國廣			



2階平面図　　S＝1／100

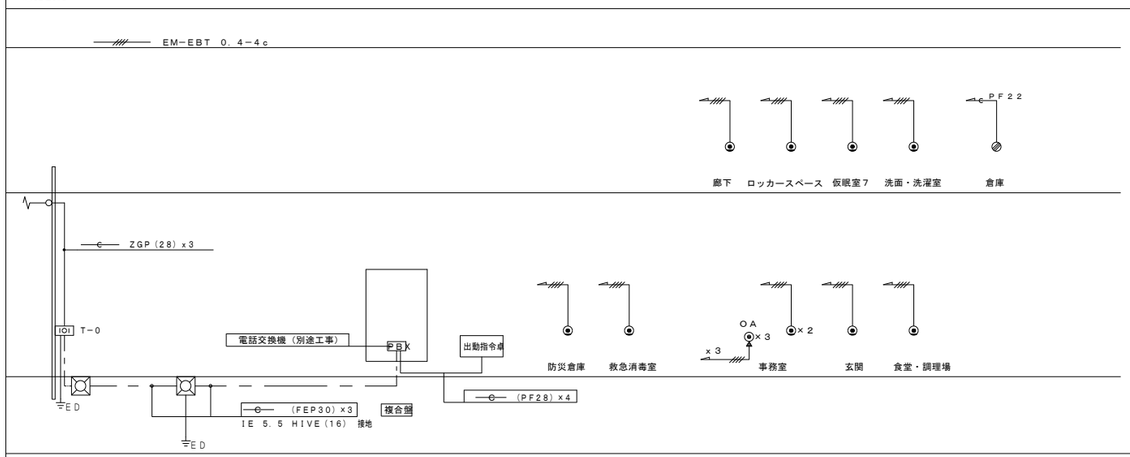


2階平面図　　S＝1／100

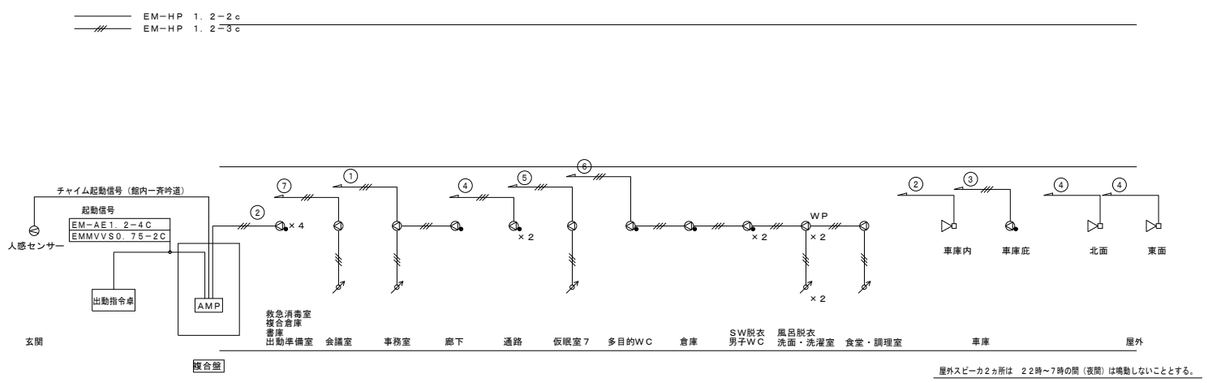
(A3=A1縮小50%)

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事		計画	設計	審査
図面名	2階　コンセント設備平面図　S=1/100				
一級建築士事務所　県知事登録第１２１５３号 （有）　戸　田　設　計		一級建築士　登録第　９９０５３　号　戸田國廣			図面番号 E／11

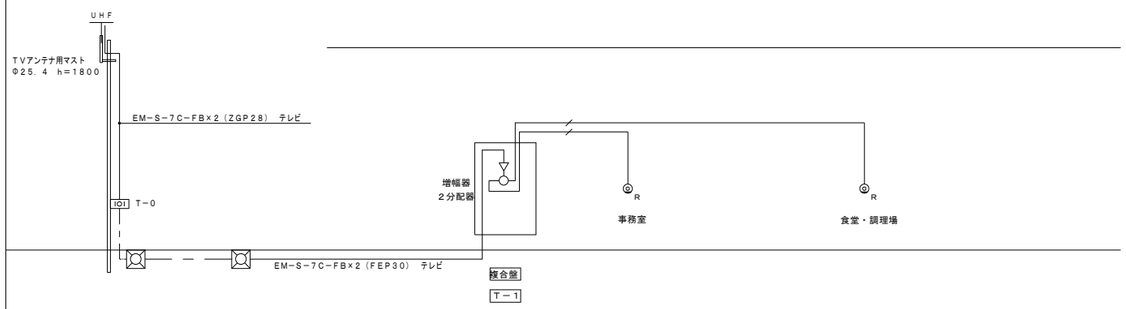
電話設備



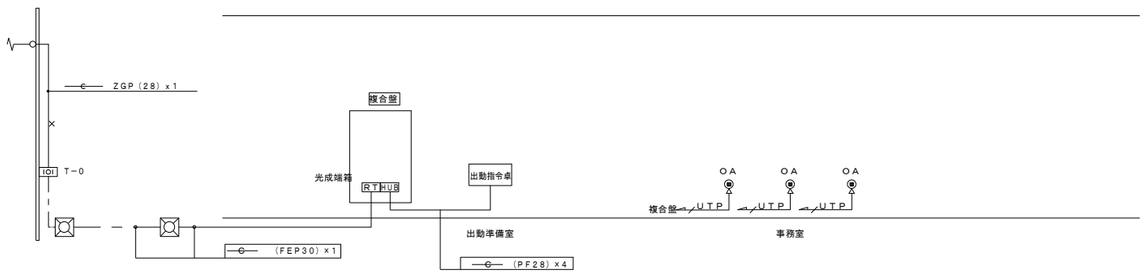
放送設備



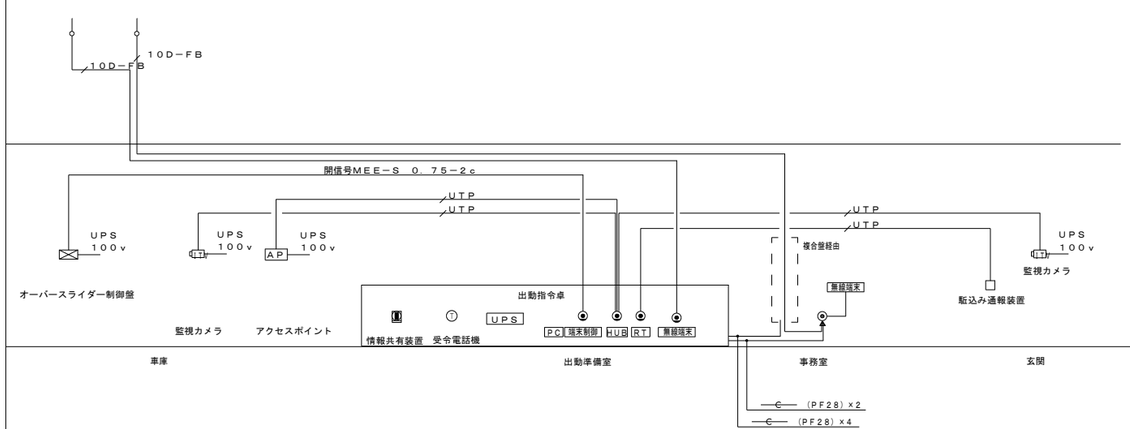
テレビ共聴設備



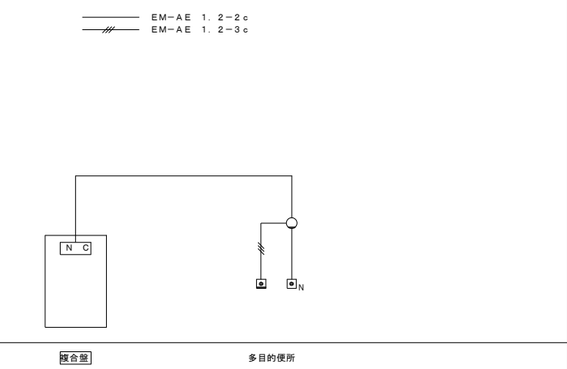
情報設備



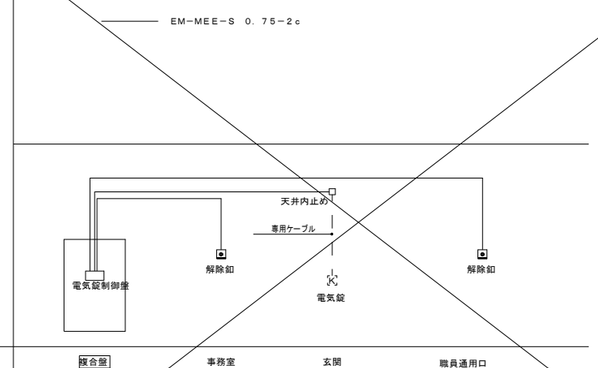
消防通信システム設備



呼出設備（多目的便所）



電気錠

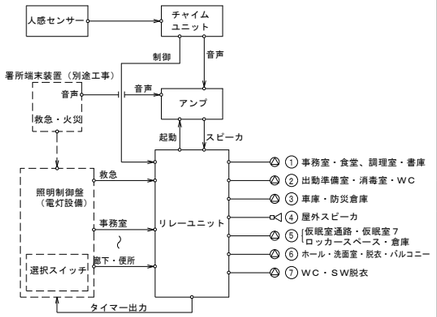


（A3=A1縮小50%）

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事		計	設	審	図面番号 E 12
図面名	弱電設備系統図 S=N S		画	計	査	
一級建築士事務所 県知事登録第12153号 （有）芦田設計		一級建築士 登録第 99053 号 芦田國廣				

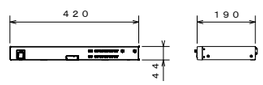
放送設備

システムブロック図



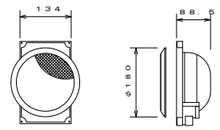
1．「救急・火災」入力時は一斉放送とする
2．「救急・火災」入力時（７：００～２２：００）は一斉放送とする
3．「救急・火災」入力時（２２：００～７：００）は、事務室・車庫等と選択された部屋のみ放送される
　　選択は照明制御盤にて行い、照明を点灯させる部屋に連動し放送可能とする
4．「救急・火災」入力時でも（２２：００～７：００）は、屋外スピーカは鳴動させない。
5．人感センサー起動時は、チャイムユニットより一斉放送とする。

チャイムユニット（事務室総合盤内組込）



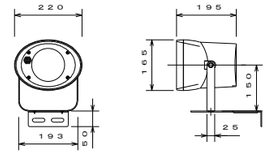
電　源	ＡＣ１００Ｖ　５０／６０Ｈｚ、ＤＣ２４Ｖ
記録メディア	ＳＤ／ＳＤＨＣメモリーカード
内蔵音源	８曲固定
	（ウエストミンスターの鐘、コールサイン他）
ＳＤメモリーカード再生音源	２曲（ユーザーオリジナル音源使用可能）
制御入力	内蔵音源再生×８、ＳＤ音源再生×２
制御出力	動作中出力×１
その他（付加機能）	ライン入力（内蔵・ＳＤ音源ミキシング機能付き）
備　考	ＡＶライトグレー（マンセルＮ８近似色）
	ラックマウント金具、ＳＤカード（５１２ＭＢ）共

天井埋込スピーカ　１Ｗ



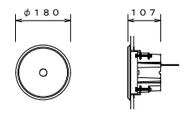
定格入力	6W、3W、1W
入力インピーダンス	１．６７ｋΩ、３．３ｋΩ、１０ｋΩ
周波数特性	１２０Ｈｚ～１５ｋＨｚ
出力音圧レベル	９４ｄＢ（１ｍ、１Ｗ）
使用スピーカ	１２ｃｍコーンスピーカ
パネル	アルミパンチング

ホーン型コーンスピーカ



定格入力	６Ｗ
入力インピーダンス	１．７ｋΩ、３．３ｋΩ、１０ｋΩ
周波数特性	１５０Ｈｚ～１３ｋＨｚ
出力音圧レベル	９６ｄＢ（１ｍ／１Ｗ）

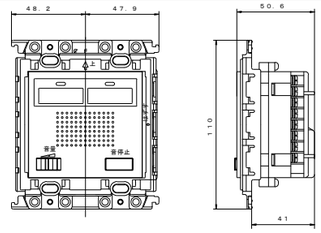
天井埋込スピーカ（防滴型）



定格入力	３Ｗ（３．３ｋΩ）
出力音圧レベル	８９ｄＢ（１Ｗ／１ｍ）
周波数特性	１５０Ｈｚ～２０ｋＨｚ（－２０ｄＢ）
使用スピーカー	８ｃｍコーンスピーカー
仕上げ	ＡＢＳ樹脂
パネル	アルミパンチング
保護等級	ＩＰＸ２（ＪＩＳ　Ｃ　０９２０）

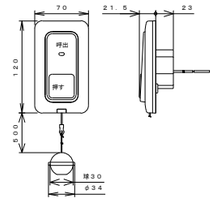
トイレ呼出設備

呼出表示器　（２窓用）　WQ４３０２K

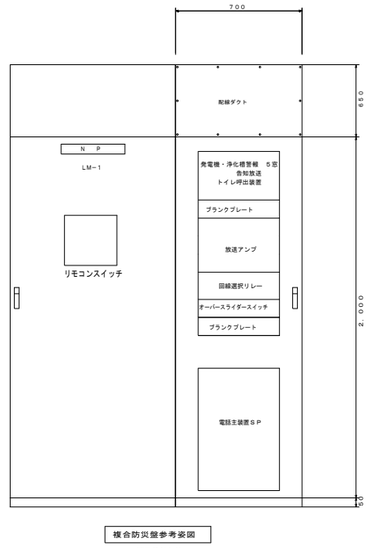


定格	電源電圧　　ＡＣ１００Ｖ　５０／６０Ｈｚ
	消費電力　待機時：　３Ｗ以下　　最大時：５．５Ｗ以下
形状	埋込型（適合ボックス　　２個用スイッチボックス（深型　　））

呼出ボタン　（引きひも付　）　WS６６７７２



	埋込プルスイッチ付押釦スイッチ（ＯＮ保持・微少電流対応形）
	（パイロットランプ・防沫形プレート・リード線付）
定　格	微少電流形（３０ｍＡ　１２Ｖ）



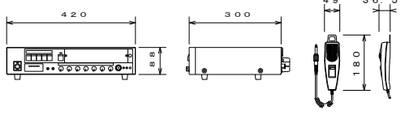
複合防災盤参考姿図

端子盤部収納

記　号	電話設備	テレビ共聴設備	情報設備	備　考
Ｔ−０	保安器１０Ｐｒ	光成端箱ＳＰ		屋外引込柱取付 ＳＵＳ製
Ｔ−１	ＴＢ　５０Ｐｒ	素通し Ｄ−７７２×１	ＨＵＢ８ポート スペース	露出コンセント×１

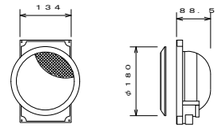
複合盤取付（収納）機器			
機　　器	数量		
アンプ	1	表面取付	機器本工事
リレーユニット	1	表面取付	機器本工事
チャイムユニット	1	表面取付	機器本工事
トイレ呼び出し装置	1	表面取付	機器本工事
警報表示　５窓	1	表面取付	機器本工事
オーバースライダー緊急開放スイッチ	1	表面取付	機器別途
ＨＵＢ　８Ｐ	1	内部に収容	機器本工事
電話主装置	1	内部に収容	機器別途
ＴＶ　増幅器	1	内部に収容	機器本工事
４分配器	1	内部に収容	機器本工事
告知放送スピーカ	1	上部ダクト内に先成端箱・機器取付	機器別途
Ｔ−１	1	内部に収容	機器本工事
露出コンセント　２Ｐ１５ＡＥｘ２	2	一般電源	機器本工事
露出コンセント　２Ｐ１５ＡＥｘ２	2	非常電源	機器本工事

放送用アンプ（事務室総合盤内組込）



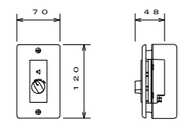
電　源	ＡＣ１００Ｖ　５０／６０Ｈｚ　約４９Ｗ
定格出力	６０Ｗ
周波数特性	５０Ｈｚ～２０ｋＨｚ
入　力	マイク×３、ライン×２、ページング、チャイム
出　力	スピーカ（５局＋一斉）、ライン、録音
機　能	音声ミュート　２回路
マイクロホン	接話型ダイナミックマイク含む

天井埋込スピーカ（ＡＴＴ付）１Ｗ



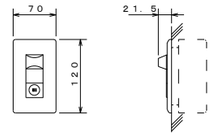
定格入力	6W、3W、1W
入力インピーダンス	１．６７ｋΩ、３．３ｋΩ、１０ｋΩ
周波数特性	１２０Ｈｚ～１５ｋＨｚ
出力音圧レベル	９４ｄＢ（１ｍ、１Ｗ）
使用スピーカ	１２ｃｍコーンスピーカ
パネル	アルミパンチング
ＡＴＴ減衰量	０ｄＢ、－６ｄＢ、－１２ｄＢ、ＯＦＦ

アッテネータ



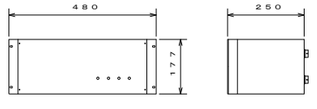
入力容量	０．５Ｗ～６Ｗ
入力インピーダンス	２０ｋΩ～１．６７ｋΩ
音量調整	５段階
パネル	新金属
適合ボックス	ＪＩＳ１個口用スイッチボックス

表示灯（ブザー付）



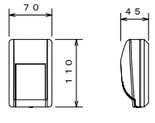
取付方法	壁埋込型
表示灯	ＬＥＤ（赤）
ブザー音圧	７５ｄＢ（１ｍ）
プレート	ＡＢＳ樹脂
適合ボックス	ＪＩＳ１個用スイッチボックス（カバー付）

リレーユニット（事務室総合盤内組込）



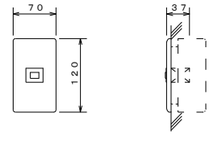
制御入力	アンプ本体／リモコンマイク／外部制御入力
制御回路	火災／救急及び仮眠室切替信号
スピーカ入力	１回路
スピーカ出力	２０回路
夜間切替	２４時間タイマー内臓

人感センサー



検出方式	パッシブインフラレッド方式
電源電圧	ＤＣ１０～１８Ｖ（極性なし）
消費電流	２５ｍＡ以下
アラーム表示灯	赤色ＬＥＤ　警報出力時：点灯
配線接続	セルフアップ端子
質　量	約１２０ｇ
外　観	樹脂

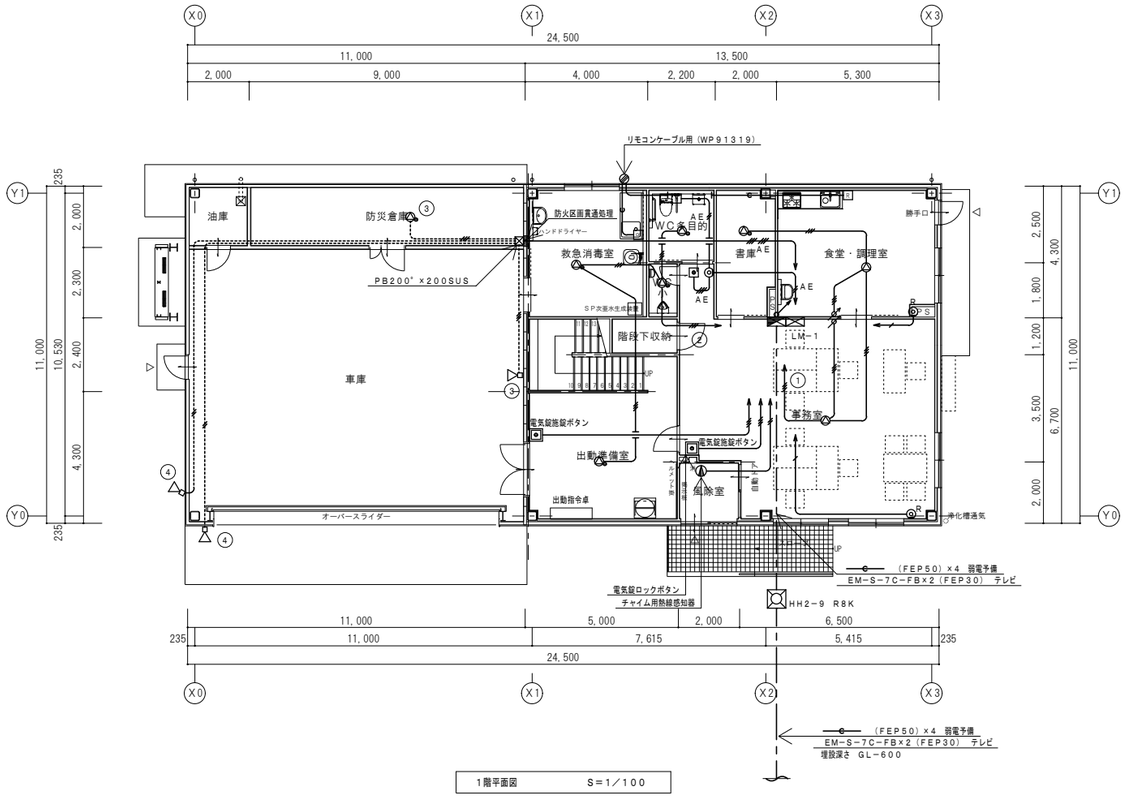
復帰ボタン



回路方式	ノンロック式、メイク接点
取付方法	埋込型
プレート	ＡＢＳ樹脂
適合ボックス	ＪＩＳ１個用スイッチボックス（カバー付）

（A3=A1縮小50%）

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事		計画	設計	審査
図面名	弱電機器姿図　S=N S				
一級建築士事務所（有）戸田設計	県知事登録第１２１５３号	一級建築士　登録第　９９０５３　号　戸田國廣			E / 13

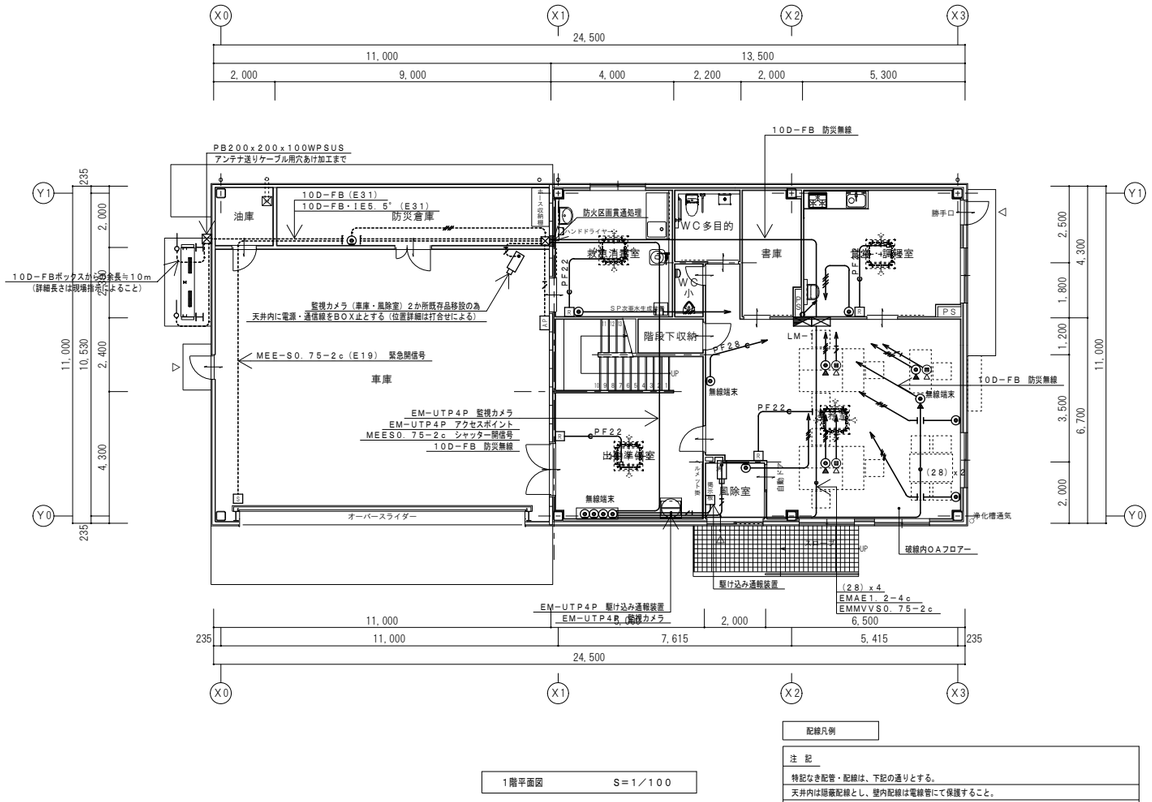


1階平面図　　S＝1／100

シンボル凡例

記号	名称・仕様	記号	名称・仕様
電話設備工事		情報設備工事	
◉	電話モジュラジャック6P4C	◉	情報コンセント 8P8C
◉	電話モジュラジャック6P4C　OAフロアー	◉	情報コンセント 8P8C　OAフロアー
TV設備工事		AP	アクセスポイント（別途工事） 収納ボックス（樹脂 w400×300×130）
R◎	直列ユニット　CS−7F−R	HUB	一般系・指令系・音声系 （別途工事）
	4分配器　複合盤内収納	監視カメラ設備工事	
	増幅器　複合盤内収納	▭	監視カメラ　別途工事
放送設備工事			
◎	天井埋込型スピーカ	□	駆け込み通報装置　別途工事
◎ WP	天井埋込型スピーカ 防滴型	▣	電気錠ロックボタン・確認灯付・参考：AVLN3（MEE−S0．75−2c至る複合盤へ）
◎	天井埋込型スピーカ Att付	◉ 無線端末	無線端末（別途工事） 壁面取り出し
▷◎	壁掛トランペットスピーカ	◉ 無線端末	無線端末（別途工事） OAフロア取り出し
	アッテネーター　V−3S　新金プレート		
◒	チャイム用熱線式感知器	▭	出動指令卓　別途工事

電気錠機器は、建具工事とする（建築工事）
情報端末・指令電話等通信系の設置位置は、津山市担当者と協議の上決定する。
屋外スピーカ2ヵ所は　22時～7時の間（夜間）は鳴動しないこととする。



1階平面図　　S＝1／100

記号凡例

注 記

特記なきシンボルは、下記の通りとする。

煙	住宅用火災警報器　親器 ┐ 消防設置届（消火器共）
煙	住宅用火災警報器　子器 ┘
▭	監視カメラ（別途工事）
AP	アクセスポイント （別途工事） 収納ボックス（樹脂 w400×300×130）
非	非常呼び出し鈴
◎	廊下表示灯
◉	復帰ボタン

配線凡例

注 記

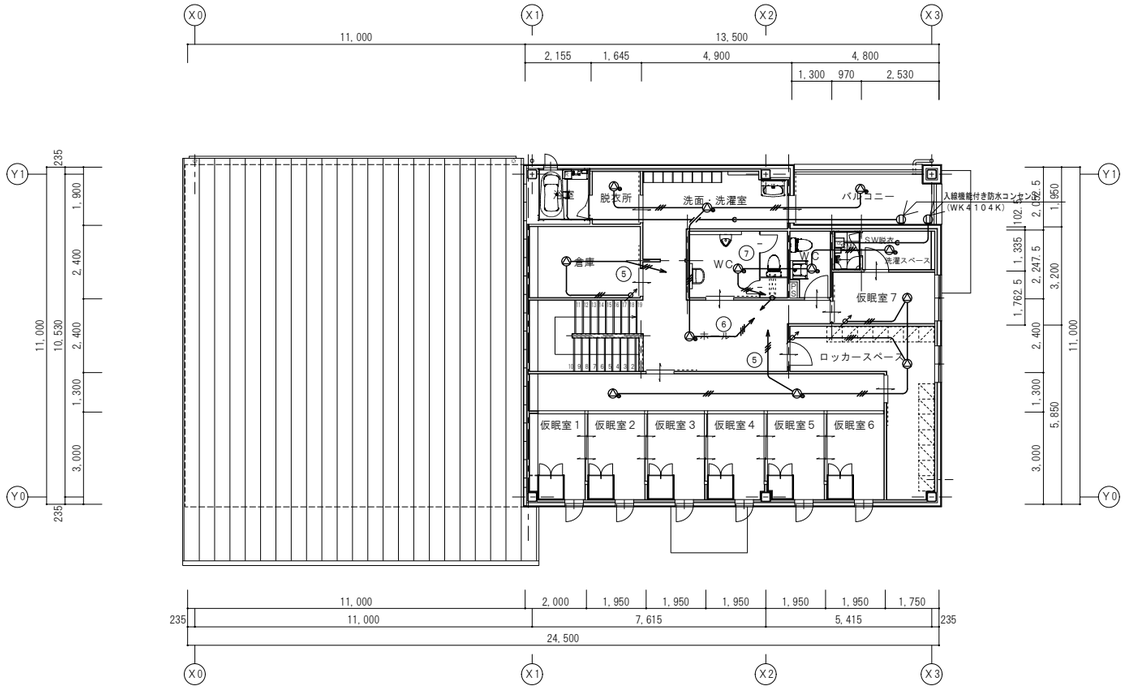
特記なき配管・配線は、下記の通りとする。
天井内は隠蔽配線とし、壁内配線は電線管にて保護すること。

電話設備工事		
―――	EM−EBT 0．4−4c	PF（16）
TV設備工事		
―――	EM−S−5C−FB	PF（16）
放送設備工事		
―――	EM−AE 1．2−2c	PF（16）
―――	EM−AE 1．2−3c	PF（16）
・・・・・	EM−AE 1．2−2c	E（19）露出
・・・・・	EM−AE 1．2−3c	E（19）露出
情報設備工事		
―――	EM−UTP 4P CAT5e	PF（16）
・・・・・	EM−UTP 4P CAT5e	E（19）露出
ケーブル色分け　一般：白　指令：黄　音声：緑		
監視カメラ設備工事　ケーブル色：白		
―――	EM−UTP 4P CAT5e	PF（16）
・・・・・	EM−UTP 4P CAT5e	E（19）露出
駆け込み通報装置　ケーブル色：緑		
―――	EM−UTP 4P CAT5e	PF（16）
車庫内 アクセスポイント　ケーブル色：黄		
―――	EM−UTP 4P CAT5e	PF（16）
・・・・・	EM−UTP 4P CAT5e	E（19）露出
放送起動信号		
――― AE	EM−AE 1．2−4c	PF（16）

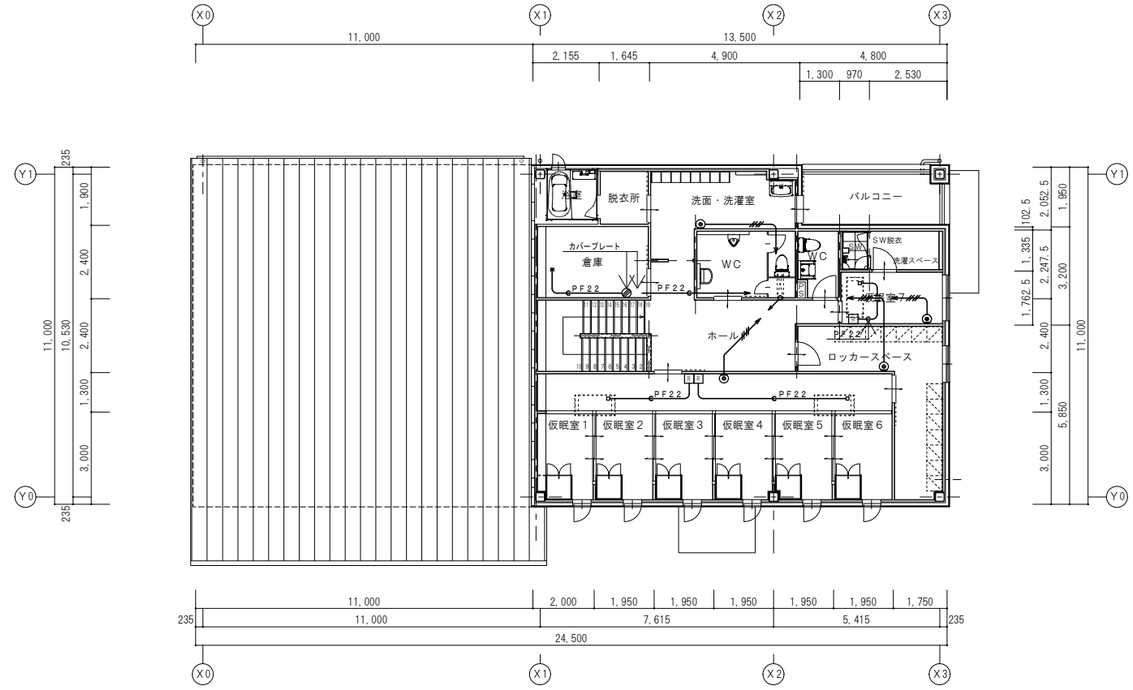
車庫内・複合倉庫の配管は、極力隠蔽すること。

（A3＝A1縮小50%）

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査	図面番号 E／14
図面名	1階　弱電設備平面図　S=1/100				
一級建築士事務所 県知事登録第12153号 （有）芦田設計		一級建築士 登録第 99053 号 芦田國廣			



2階平面図　　S＝1／100



2階平面図　　S＝1／100

(A3=A1縮小50%)

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査	図面番号 E／15
図面名	2階　弱電設備平面図　S=1/100				
一級建築士事務所　県知事登録第１２１５３号 (有)　戸　田　設　計		一級建築士　登録第　９９０５３　号　戸田國廣			

岡山県機械設備工事特記仕様書

Ⅰ.工事概要

工事名称	津山圏域消防組合日本原分署新築工事					
工事場所	岡山県勝田郡奈義町滝本1546-2					
敷地面積	1,500 ㎡					
消防法施行令別表第一区分	(15)項 駐在所					
棟名称／構造	消防分署 S造					
施工条件（改修）	新築					
床面積（㎡）	1階	269.50				
	2階	139.14				
	階					
	階					
	小計	408.64				
	合計	408.64				
建築面積（㎡）	282.19					
建ぺい率（指定率）	18.82 %（ %）	容積率（指定率）	27.24 %（ %）			
用途地域	都市計画区域外（指定無し）	防火地域	指定無し			

工事範囲		別途工事
	建築工事	
	電気設備工事	
	機械設備工事	

1．工事種目　（ ⊙ 印の付いたものを適用する）

建物及び屋外 工事種目	工事種別 消防分署				屋外
⊙ 空気調和設備	新設一式				
⊙ 換気設備	新設一式				
・排煙設備					
・自動制御設備					
⊙ 衛生器具設備	新設一式				
⊙ 給水設備	新設一式				新設一式
⊙ 排水設備	新設一式				新設一式
⊙ 給湯設備	新設一式				
⊙ 消火設備	新設一式				
⊙ ガス設備	新設一式				
⊙ 次亜水設備	新設一式				
⊙ 浄化槽設備	新設一式				
⊙ 電気設備工事	電気設備工事の部による				
⊙ 建築工事	建築工事の部による				

2．設備概要

空調設備	空気調和方式等	⊙ 空気調和 （ ・単一ダクト方式 ・各階ユニット方式 ⊙ パッケージ方式 ・ファンコイルユニット ・ダクト併用方式 ・ガスエンジンヒートポンプ方式 ）
	主要熱源機器	・鋼製ボイラー ・鋳鉄製ボイラー ・温水発生機（ ・真空式 ・無圧式） ・チリングユニット ・吸収冷温水機 ・吸収冷温水機ユニット ・空気熱源ヒートポンプユニット ⊙ パッケージ形空気調和機 ・マルチパッケージ形空気調和機 ・ガスエンジンヒートポンプ式空気調和機
換気設備		⊙ 1種換気 ・2種換気 ⊙ 3種換気
排煙設備		・機械排煙（ ・有り ・無し）適用法規（ ・建基法 ・消防法）
自動制御設備		・自動制御方式（ ・電気式 ・電子式 ・デジタル式）
衛生設備	給水方式	⊙ 水道直結方式 ・高置タンク方式 ・ポンプ直送方式 ・水道直結増圧方式
	放流先 汚水	・公共下水道 ⊙ 浄化槽
	放流先 雑排水	・公共下水道 ⊙ 浄化槽 ・側溝
	放流先 雨水	・公共下水道 ⊙ 側溝
	接続先 汚水	・既設桝
	接続先 雑排水	・既設桝 ・側溝
	接続先 雨水	・既設桝 ⊙ 側溝
	排水方式	⊙ 建物内の汚水と雑排水（ ・合流 ⊙ 分流 ） ・ポンプの排水 ・有り（ ・汚水 ・雑排水 ・湧水） ⊙ 無し
	給湯設備	⊙ 有り（ ⊙ 局所式 ・中央式） ・無し 熱源（ ・電気 ・都市ガス ⊙ 液化石油ガス ・灯油 ・A重油）
	消火設備	・屋内消火栓 ・連結送水管 ・屋外消火栓 ・スプリンクラー ・粉末消火装置 ・泡消火 ・連結散水装置 ・フード等用簡易自動消火装置 ・消防用水 ・不活性ガス消火（ ・窒素 ・窒素系 ・ ）・ハロゲン化物消火 ・無し
	ガス設備	・都市ガス 種別 （ MJ／m3N ） ⊙ 液化石油ガス
	浄化槽設備	⊙ 有り（ ⊙ 合併処理 ・小規模合併処理 ・単独処理）・無し
	雨水利用設備	・有り ⊙ 無し

Ⅱ.工事仕様

1．共通仕様

1）特記仕様及び図面に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部の標準仕様書等による。
ただし、⊙ 印の付いたものを適用する。
⊙ 公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）（平成３１年版）」（以下、「標準仕様書」という。）
⊙ 公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）（平成３１年版）」（以下、「改修標準仕様書」という。）
⊙ 公共建築設備工事標準図（機械設備工事編）（平成３１年版）」（以下、「標準図」という。）

2）電気設備工事及び建築工事を本工事に含む場合、電気設備工事及び建築工事はそれぞれの特記仕様書を適用する。
※この特記仕様書は、平成２８年版の改修標準仕様書及び標準仕様書によるものであるが、工事にあたっては平成３１年版の改修標準仕様書及び標準仕様書により施工すること。なお、質疑については、監督職員と協議すること。

2．特記仕様

1）項目は、番号に○印の付いたものを適用する。
2）特記事項のうち選択する事項は ⊙ 印の付いたものを適用する。ただし、⊙ 印のない場合は※印を適用する。
⊙ 印　※ 印の場合は両方を適用する。

区分	項目	特記事項
一般共通事項	①材料・機材の品質等	1）本工事に使用する機材・機材等は設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。 2）別表－１に示す機材等の製造業者等は次の①から⑥全ての事項を満たすものとし、この証明となる資料又は外部機関が発行する品質及び性能等が評価されたことを示す書面を提出して監督職員の承諾を受ける。ただし、製造業者等名が記載されているものは、証明となる資料等の提出を省略することができる。 ① 品質及び性能に関する試験データを整備していること。 ② 生産施設及び品質の管理を適切に行っていること。 ③ 安定的な供給が可能であること。 ④ 法令等で定める、許可、認可、認定又は免許を取得していること。 ⑤ 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。 ⑥ 販売、保守等の営業体制を整えていること。
	②環境への配慮	本工事において、国等による環境物品等の調達推進等に関する法律（平成１２年法律第１００号）に基づく、「環境物品等の調達の推進に関する基本方針（平成２９年２月７日変更閣議決定）」（以下グリーン購入法基本方針という。）による特定調達品目の判断基準等を満たす環境物品等を選択するよう努める。 なお、本工事において使用する機材のうち、設計図書で定めのあるものについてはグリーン購入法基本方針による。
	③監督職員事務所	※ 設けない ・設ける
	④電気保安技術者	適用する
	⑤技能士の適用	⊙ 配管（建築配管作業）・ 冷凍空気調和機器施工（冷凍空気調和機器施工作業） ・ 熱絶縁施工（保温保冷工事作業）・ 建築板金（ダクト板金作業）
	⑥工事用電力、水、その他	本工事に必要な工事用電力、水及び諸手続き等の費用はすべて受注者の負担とする。
	⑦工事用仮設物	構内につくることが ※ できる ・ できない
	⑧土工事	1）埋戻し土は ※ 根切り土の中の良質土 ・山砂の類 2）配管周囲の保護砂は ※ 山砂の類 3）建設発生土の処理は ⊙構外指示の場所に処分 ・構内敷ならし ・構内指示の場所に堆積
	⑨発生材の処理等	引渡しを要するもの ※ 無し ・ 有り（ ・機器類 ・ 金属配管、ダクト類 ・ ） 特別管理産業廃棄物 ※ 無し ・ 有り（ ・ 配管用保温材 ・ ） アスベスト含有設備資機材（ガスケット、パッキン、たわみ継手等）は関係法令に従い適切に処理を行う。引渡しを要するもの以外は構外に搬出適切処理とする。 フロン、臭化リチウム液、残油処理の 搬出・処分費（ ※ 本工事 ・ 別途工事）
	⑩完成図（施工図含む）	※ 提出要（請負業者提出書類一覧表による） ・ 既存完成図（ＣＡＤデータ含む）の修正（間仕切、室名等含む）を行う。 施工図等の著作権に係る当該建築物に限る使用権は、発注者に移譲するものとする。
	⑪保全に関する資料	※ 提出要（２部）
	⑫総合調整	下記項目の総合調整を行ない測定表を監督職員に提出する。 ・ 風量調整 ・ 水量調整 ・ 室内外空気の温度の測定 ・ 騒音の測定 ・ 室内気流及びじんあいの測定 ・ 測定箇所等は監督職員との協議による。
	⑬図形表示	機器類は、図示する形状及び配管等の取出し位置により、特定製造者の製品を指示、限定しない。
	⑭容量等の表示	1）機器類の能力、容量等は原則として表示された値以上とする。 2）電動機出力、燃料消費量、圧力損失等は、原則として表示された値以下とする。
	⑮機材の承諾図	機械設備工事機材承諾図様式集（平成２８年版）によるほか、監督員の指示による。
	⑯負担金等（消費税含む）	⊙ 給水引込負担金（加入負担金及び加入金等）（ ⊙ 本工事 ・ 別途）＿＿円 ・ 下水道接続負担金（受益者負担金等）（ ・ 本工事 ・ 別途）＿＿円 ⊙ 設計審査検査手数料 （ ⊙ 本工事 ・ 別途）＿＿円
	⑰電線類	1）ＥＭ電線類で規格等の定めのないものは、ハロゲン及び鉛を含まない材料で構成されたものとし、電線及びケーブルは標準仕様書第４編１．５．１表4.1.1による。 2）電線の色別は、原則として電気設備工事の工事仕様書による。
	⑱塗装	下記の部分を除き、原則として塗装（標準仕様書第２編３．２による）を行う。 亜鉛めっきされたもので、常時隠ぺいされる部分、金属電線管、鋼製架台及び支持金物類、主・各階機械室内等及び電気室内の亜鉛めっきされた露出ダクト及び露出配管、カラー亜鉛鉄板面、亜鉛めっき以外のめっき仕上げ面、樹脂コーティング等を施したアルミニウム、ステンレス、銅、溶融アルミニウム－亜鉛鉄板、合成樹脂等、特に塗装の必要を認められない面、埋設されるもの（ただし、防食塗装部分を除く） 塗装を施さない部分 ・ 箇所 ※ 倉庫 ・ 車庫 ・ 駐車場 塗装を施す部分 ・ 倉庫 ・ 書庫 ・ 車庫 ※残りネジ部及びパイレンのチャック跡部の鉄面は、さび止めペイント２回塗りを行う。
	⑲保温	空気調和設備工事、給排水衛生設備工事の保温の種別は次による。 凡例 Ｒ：ロックウール Ｇ：グラスウール Ｐ：ポリスチレンフォーム

区分	屋内露出	機械室等	天井ＰＳ内	暗渠	屋外露出	多湿箇所
・温水管、蒸気管、冷媒管	A2（ ）	B（ ）	C2（ ）	D（ ）	E2（ ）	E2（ ）
・冷媒管	A2（ ）	B（ ）	C1（ ）	D（ ）	E2（ ）	E2（ ）
⊙冷媒管（断熱材被覆銅管）	a2（G）	／	／	／	a2（G）	／
・冷水、冷温水管	A2（ ）	B（ ）	C1（ ）	D（ ）	E2（ ）	E2（ ）
・タンク（冷水、冷温水）	F2（ ）	──	──	──	──	──
・タンク（温水、蒸気、膨張、膨張）	G2（ ）	──	──	──	──	──
・ヘッダー（冷水、冷温水）	F2（ ）	──	──	──	──	──
・ヘッダー（温水、蒸気）	G2（ ）	──	──	──	──	──
・空調用ダクト	J2（ ）	I（ ）	I（ ）	I（ ）	K2（ ）	K2（ ）
⊙スパイラルダクト	02（G）	N（G）	I（G）	I（G）	P2（G）	P2（G）
・消音内張（ｻﾌﾞﾗｲﾁｬﾝﾊﾞｰ）	M（ ）	──	──	──	──	──
・消音内張（消音ﾁｬﾝﾊﾞｰ）	L（ ）	──	──	──	──	──
⊙給水管	a2（G）	b（G）	c2（G）	d（P）	e2（P）	e2（P）
⊙排水及び通気管	a2（G）	b（G）	c2（G）	／	e2（ ）	e2（ ）
⊙給湯管	a2（G）	b（G）	c2（G）	d（G）	e2（G）	e2（G）
・消火管	a2（ ）	b（ ）	c2（ ）	d（ ）	e2（ ）	e2（ ）
・鋼板製のタンク	f2（ ）	──	──	──	──	──
・貯湯タンク	g2（ ）	──	──	──	──	──
⊙厨房用排気ダクト	（R）	（R）	h（R）	h（R）	──	──
・給湯器用排気筒	（R）	（R）	h（R）	h（R）	──	──

1）燃焼熱源等機器室内の配管の保温材には、ロックウールまたはグラスウール保温材を使用する。
2）保温化粧ケースの材質
屋内 ・ 耐候性樹脂製 ・ ステンレス鋼板製
屋外 ・ 耐候性樹脂製 ・ ステンレス鋼板製 ・ 高耐蝕鋼板製（溶融亜鉛めっき）
3）多湿箇所 標準仕様書以外で多湿箇所の適用は（ ・ ）
4）全熱交換器の機器外気側ダクト（※給気側 ※排気側）は、保温（２５㎜厚）する。
5）共同溝の保温種別は（配管 ・ ダクト ・ ）とする。
※ 標準図 施Ｔ３ による。
※ 合成ゴム製（球形）・ ポリテトラフルオロエチレン製 ・ ベローズ形（ステンレス製）
※ ベローズ形 ・ スリーブ形

⑳絶縁継手	
㉑防振継手	
㉒伸縮継手	
㉓弁類	ステンレス管に使用するバルブは５０Ａ以下は青銅製、６５Ａ以上はステンレス製を使用する。
㉔埋設表示	標準仕様書によるほか図示の箇所に、標準図 機材２ による地中埋設標を設ける。
㉕支持金物・固定金具	ポンプ及び屋外設置機器・ピット内のアンカーボルト、ナットはステンレス（ＳＵＳ３０４）製とし、屋外及びピット内の配管、ダクトに使用する支持金物等はステンレス（ＳＵＳ３０４）製または、溶融亜鉛めっき仕上げとする。 溶融亜鉛めっきは （※ ２種３５ ・ ２種５０） （ ⊙ 給水 ・ ガス ・ 油）配管の変位吸収は標準図 施Ｔ５（ｃ）とする。 呼径６０Ｓｕ以下の継手は、ＳＡＳ３２２による拡管式とする。 呼径７５Ｓｕ以上の継手は ・ 溶接接合 ・ ハウジング形継手 ・ フランジ接合 図面に特記のない場合は別紙「工事区分表」による。
㉖配管の建物導入部	
㉗ステンレス鋼管の接合方法	
㉘他工事との取合い	設備機器の固定は次によるほか、「建築設備耐震設計・施工指針２０１４年版（独立行政法人建築研究所監修）による。 1）機器の据付け及び取付け 設計用水平地震力は、機器の質量（自由表面を有する水槽その他の貯槽にあっては有効質量）に、地域係数・１．０ ・０．９ ・０．８とし、次に示す設計用標準水平震度を乗じたものとする。 設計用標準水平震度

設置場所	機器種別	・特定の施設 ・重要機器	・特定の施設 ・一般機器	・一般の施設 ・重要機器	・一般の施設 ・一般機器
上層階 屋上及び塔屋	機器	２．０	１．５	１．５	１．０
	防振支持の機器	２．０	２．０	２．０	１．５
	水槽類	２．０	１．５	１．５	１．０
中間階	機器	１．５	１．０	１．０	０．６
	防振支持の機器	１．５	１．５	１．５	１．０
	水槽類	１．５	１．０	１．０	０．６
地階・１階	機器	１．０	０．６	０．６	０．４
	防振支持の機器	１．０	１．０	１．０	０．６
	水槽類	１．５	１．０	１．０	０．６

・上層階とは、２～６階建の場合は最上階、７～９階建の場合は上層２階、１０～１２階建の場合は上層３階、１３階建以上の場合は上層４階とする。
・中間階とは地階、１階を除く各階で上層階に該当しないもの。
・重要機器は次のものを示す。
・給水機器（ ） ・排水機器（ ）
・換気機器 ・空調機器 ・熱源機器 ・防災機器 ・監視制御設備
・危険物貯蔵装置 ・火を使用する設備
・避難経路上に設置する機器
2）設計用鉛直地震力は設計用水平地震力の１／２とする。
はつり工事及び穿孔作業を行う場合は、事前に非破壊検査を行い、監督職員に報告する。探査方法としては電磁誘導式を原則とする。放射線透過検査等による埋設物の調査を実施する場合、範囲は監督職員の指示により、検査費は別途とする。
・ 冷温水配管 ・ 冷却水配管 ・ ガス配管 ・
非破壊検査の適用 ※ 無し ・ 有り 抜取率は ・ 標準仕様書による ・ ＿＿％
（ ・ 放射線透過検査 ・ 浸透探査検査または磁粉探傷検査）

㉚非破壊検査	
㉛溶接配管の検査	
㉜天井仕上区分	図中（ ）書きの室名は直天井を示し、その他は二重天井を示す。
㉝工事安全計画書	建設工事公衆災害防止対策綱及び建築工事安全施工技術指針を参考に、工事安全計画書を作成し監督職員に提出する。
㉞施工条件	・ 施工ができない日等 ※指定なし ・ 指定あり（別添「学校行事に伴う施工ができない日等（予定）」に基づき監督職員と協議するものとする。）
㉟施工調査	・ 施工に先立ち、改修工事関連部分（施工部位により既存性能を損なうおそれのある部分）の事前確認を行い監督職員に報告書を提出する。 ・ 既存設備システムの事前調査を行い監督職員に報告書を提出する。事前調査計画書を調査を行う前に監督職員に提出する。 改修工事関連既存設備システム（ ・ 排水放流先 ・ ） 「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置にあたっては、同ガイドラインの別紙１「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における２の（２）手すり掴え置き方式又は（３）手すり先行専用足場方式により行う。 ・ 内部足場（ ・Ｅ種 ・Ｆ種 ・Ｇ種 ） ・ 外部足場（ ・Ａ種 ・Ｂ種 ・Ｃ種 ・Ｆ種 ）
㊱足場	
㊲撤去工事	撤去する配管、ダクト（付属品含む）の保温材は、配管・ダクト等より分離する。

空調和・換気設備	①設計用温湿度条件

	外気条件		室内（調整目標値）			
			一般系統			
	温度（DB）	湿度（WB）	温度（DB）	湿度（WB）	温度（DB）	湿度（WB）
夏季	３５．２℃	５３．７％	２８．０℃	５０ ％	℃	%
冬季	０．６℃	５４．７％	１９．０℃	４０ ％	℃	%

②冷却水管	・ 配管用炭素鋼鋼管（白管）・塩ビライニング鋼管 ・ ポリ粉体鋼管
③冷水・温水・冷温水管	・ 配管用炭素鋼鋼管（白管）・ステンレス鋼管（ＳＵＳ３０４） ・ 耐熱性ライニング鋼管（ＳＧＰＨＶＡ） ・ 塩ビライニング鋼管（ＳＧＰ ・ ＶＡ、 ・ ＶＢ） ・ ポリ粉体鋼管（ＳＧＰ ・ ＰＡ、 ・ ＰＢ）・ ステンレス鋼管（ＳＵＳ３０４）
④空調用給水管	・ 配管用炭素鋼鋼管（白管）⊙ 硬質ポリ塩化ビニル管（ＶＰ） ・ リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発砲三層管（ＲＦ－ＶＰ）
⑤空調用排水管	・ 配管用炭素鋼鋼管（白管）・ステンレス鋼管（ＳＵＳ３０４）
⑥膨張・空気抜・補給水管	・ 配管用炭素鋼鋼管（黒管）
⑦蒸気給気管	※ 配管用炭素鋼鋼管（黒管）
⑧蒸気還水管	・ 圧力配管用炭素鋼鋼管（ＳＴＧＰ３７０ 黒 Ｓch４０）・ステンレス鋼管（ＳＵＳ３０４）
⑨油・油用通気管	※ 配管用炭素鋼鋼管（黒管）
⑩冷媒管	※ 断熱材被覆銅管 ・ 断熱材被覆銅管（製造者標準品） ・ 銅管
⑪弁類	ＪＩＳ又はＪＶ（５Ｋ）とする。ただし、特記部分は１０Ｋとする。
⑫ファンコイルユニット	※ 流量調整弁 ※ 冷温水管の接続部（往・還）にはボール弁を取付ける。 ・ 定流量弁 ダイヤフラム式流量可変式 カートリッジオリフィス形）を取付ける。
⑬ダンパー	※ 床置形にはサブドレンパンを設けるものとし、材質等はドレンパンに準ずる。 1）防煙ダンパー 復帰方法：遠隔復帰式（定格入力はDC24V、0.7A以下とする。） 2）ピストンダンパー 復帰方法：遠隔式
⑭ダクト	1）※ 低圧ダクト ・ 高圧１ダクト ・ 高圧２ダクト 2）長方形ダクト ※ コーナーボルト工法（共板工法又はスライドオンフランジ工法）（長辺１５００mmを超えるものはアングルフランジ工法とする。） ・ アングルフランジ工法 3）丸ダクト ⊙ スパイラルダクト ⊙ アルミフレキダクト（機器接続部0.5m） 4）防火区画を貫通するダクトは、その貫通する部分の前後を１．５m以上の鉄板とする。標準図 施Ｔ４０ 5）厨房用ダクトの板厚は「火災予防条例準則の運用について」を適用する。
⑮吹出口・吸込口	ボックスは ※ 亜鉛鉄板製 ・ グラスウール製
⑯チャンバー等	1）シーリングディフューザーの接続は、標準図 施Ｔ４７ を参考とする。 2）接続するダクトが施工が困難な場所はフレキシブルダクトを使用してもよい。 3）線状吹出口には、長さ＋１００×３００×３００Ｈの接続チャンバーを設ける。 4）外壁に面するガラリにチャンバー等を設ける場合は、雨水等を自然に排出できるよう勾配をつける。
⑰消音内貼り	1）空調用の吹出口接続チャンバー及び図示したダクト並びにチャンバー類とする。 2）内貼りチャンバー類の寸法は、外法寸法とする。 3）吹出口接続チャンバー以外の内貼りしたチャンバーには点検口を取付ける。 点検口の大きさは、原則として４００×６００とする。
⑱グリス除去装置	・ グリスエクストラクター ・ グリスフィルター
⑲瞬間流量計	1）形式はピトー管式（コメク付）とする。 ※ 固定式 ・ 着脱式 2）下記の箇所、若しくは図示により取付ける。 ・ 冷凍機器の冷水出口 ・ 瞬間流量計 ・ 測定用タッピング ・ 冷凍機器の冷却水出口 ・ 瞬間流量計 ・ 測定用タッピング ・ ボイラー又は熱交換器の温水出口 ・ 瞬間流量計 ・ 測定用タッピング ・ 冷温水ヘッダーの往還り管 ・ 瞬間流量計 ・ 測定用タッピング ・ ユニット形空気調和機の冷温水入口 ・ 瞬間流量計 ・ 測定用タッピング
⑳定風量・変風量ユニット	・ メカニカル形 ・ 風速センサー形
㉑温度計	標準図によるほか図示した箇所及び下記の箇所に取付ける。 ・ 空気調和機、全熱交換器廻りの還気ダクト、外気ダクト及び給気ダクト 機器付属以外の温度計は ※ 工業用バイメタル式温度計 ・ ガード付きＬ形温度計 標準図によるほか図示した箇所に取付ける。
㉒圧力計	
㉓冷温水管等のエア抜き	1）エア溜まりを生ずると思われる箇所には、必要に応じて操作の容易な位置にエア抜き弁装置（ ※ 手動 ・ 自動）を設ける。 2）自動エア抜き弁装置は、標準図 施Ｔ３６（ｇ） による。 3）機械室の手動式エア抜き配管で、特記のない場合の保温範囲は原則として分岐部より２ｍとする。
㉔空調機用トラップ	トラップの形式はフロートボール式（床置型） ※ ＦＲＰ製保温型 ・
㉕鋼板製煙道	1）厚さ ※ ３．２㎜ ・ ４．５㎜ 2）煤煙濃度計 ・ 取付ける ・ 取付けない ・ 取付座を取付ける 3）煤じん量測定口（８０φ×２）を ※ 取付ける ・ 取付けない
㉖オイルサービスタンク	油面計はゲージ式（側圧式）とする。
㉗地下オイルタンク	1）据付け方法は標準図 ・ 施Ｔ３０（二重殻タンク・タンク室無し） ・ 施Ｔ３１（タンク室有り） 2）タンクの保護被覆は ・ エポキシ樹脂 ・ 強化プラスチック ・ アスファルト 3）遠隔油量指示装置（油面計は（ ・ 抵抗変化式 ・ 磁歪式）で（ ・ 屋内 ・ 屋外）より油量監視用）を取付ける。 4）基礎杭は ※ 不要 ・ 要（ ・ 本工事 ※ 別途工事） 5）土留め工事は ※ 不要 ・ 要（ ・ 本工事 ・ 別途工事）
㉘油面制御装置	1）液面制御装置の機能は下記による。 ・ 給油ポンプの起動、停止、故障 ・ 返油ポンプの起動、停止、故障 ・ ポンプ緊急停止装置 ・ 満油警報 ・ 減油警報 ・ 遠方警報接点（ ・ 満油 ・ 減油 ・ 故障） 2）返油ポンプのあるシステムでフロートスイッチの上限フロートは、通過形接点とする。
㉙油積算流量計	※ 設ける（図示した箇所に取付ける） ・ 設けない
㉚フィルター等付属品	・ 機器表特記による。 ・ 空気調和機のフィルターは、ロールの場合は１本・ユニットの場合は１セットを予備品として納入する。
㉛パッケージ空調機の能力表示	インバーター機の表示された能力は、型番で選定する。
㉜パッケージ空調機の内外遠配線	原則として冷媒管と共巻きとする。（エアコン含む）
㉝冷却塔	標準型、低騒音型、超低騒音型の規定は、日本冷却塔工業会の騒音基準値による。
㉞水質基準	空調用流体の水質基準については、日本冷凍空調工業会（冷凍空調機器水質ガイドライン）による。

排煙設備	①タクト
	②排煙口 ※ 亜鉛鉄板製 ・ 鋼板製（１．６㎜厚） ・ パネル形（ ・ 天井取付 ・ 壁取付） ・ スリット形（ ・ 天井取付 ・ 壁取付） ・ ダンパー形（ ・ 天井取付 ・ 壁取付）
	③排煙口開放及び復帰方式
	④排煙風量測定 電気式（遠隔操作 ※ 不要 ・ 要） 建築設備定期検査業務指導書（（一財）日本建築設備・昇降機センター）の排煙風量検査方法に準ずる。

自動制御設備	①中央監視制御装置 ・ 有り（構成機能は図示による） ・ 無し
	②電源装置 無停電電源装置 ・ 要（ ・本工事 ・ 別途工事） ・ 不要
	③温度調節器等 取付け高さは ※ １３００㎜ ・
	④計装工事の配線 1）屋外、屋内露出の配線は、図面に特記のない限り金属管配線とする。 ・ 天井裏ＶＶ配線は、図面に特記のない限りケーブル配線とする。 2）原則として、次の用途に使用する電線類はＥＭケーブルとし、規格は一般共通事項 ２０．電線類の規格による。（機器、盤類はこれによらなくてもよい） 用途：①電源線、接地線 ②電気式の調節器（サーモ・ヒューミ等）用電線 ③各種検出器（温度・湿度等）、操作器（バルブ・ダンパー等）における弱電信号、通信線を除く制御線

衛生器具設備	①標記板 大便器、小便器には、標記板（アクリル板に印刷可）を取付ける。
	②小便器用節水装置 ※ 洗浄水量４Ｌ／回以下 ※ 個別感知方式（電源供給方式 ※ ＡＣ１００Ｖ ・ 乾電池）
	③洗面器用自動水栓 電気供給方式 ※ ＡＣ１００Ｖ ・ 乾電池 ・ 自己給電
	④和風大便器の耐火処理 標準図 施Ｔ６６（ｂ）
	⑤衛生器具と排水管接続 ※ 標準図 施Ｔ６４ ・ 標準図 施Ｔ６５
	⑥洗浄水 ※ 市水 ・ 雑用水（ ※ 大便器 ・ ）

給水設備	①量水器 1）親メーター ※ 借用 ・ 買取り（ ・ 直読 ・ 遠隔表示） 2）子メーター ※ 買取り ・ 借用 （ ・ 直読 ・ 遠隔表示）
	②量水器桝 1）親メーター用 ※ 水道事業者の指定品 ・ 標準図 機材５７ 2）子メーター用 ※ 標準図 機材５７ ・ 水道事業者の指定品
	③配管材料 1）一般配管用 ・ 塩ビライニング鋼管（ＳＧＰ－ＶＢ、ＦＶＢ） ・ 塩ビライニング鋼管（ＳＧＰ－ＶＤ、ＦＶＤ） ⊙ ステンレス鋼管（ＳＵＳ ・ ３０４ ・ ３１６） 2）土間配管用 ⊙ 塩ビライニング鋼管（ＳＧＰ－ＶＤ、ＦＶＤ） ・ ステンレス鋼管（ＳＵＳ ・ ３０４ ・ ３１６） 3）地中配管用 ⊙ 水道用硬質ポリ塩化ビニル管（ＨＩＶＰ） ・ 塩ビライニング鋼管（ＳＧＰ－ＶＤ、ＦＶＤ） ・ 水道用ポリエチレン二層管（５０Ａ以下） ・ 水道配水用ポリエチレン管（JWWAK144）（７５～１５０Ａ） ・ ステンレス鋼管（ＳＵＳ ・ ３０４ ・ ３１６） 4）ビニル管の接合方法 ※ 接着接合 ・ ゴム輪接合 5）ゴム輪接合の場合、直管以外の継手部には離脱防止金具取付とする。 6）ポリエチレン管の接合方法 ５０Ａ以下 ※ 金属製継手 ・ 融着継手 ７５Ａ以上 ※ 融着継手 7）特記なき給水管の最小口径は２０Ａとする。 8）ステンレス鋼管を使用する場合は下記の水質の確認を行う。 電気伝導率、Ｍアルカリ度、カルシウムイオン、マグネシウムイオン、全硬度、重炭酸イオン、遊離炭酸、塩素イオン、硫酸イオン、シリカ、蒸発残留物
	④弁類 1）公営水道に直結する配管に使用するものは、ＪＩＳ又はＪＶ（１０Ｋ）とする。 2）受水タンク以降の配管に使用するものは、ＪＩＳ又はＪＶ（５Ｋ）とする。 3）給水引込部の ・ 止水栓 ・ 弁桝 は水道事業者の指定品とする。
	５保温 鋼板製、ステンレス製タンクの保温 ・ 施工する ・ 施工しない
	６定水位調整弁 ・ 標準仕様書による（付属品含む）・ 水道事業者の指定品 ・ 定流量弁を定水位調整弁の手前に設置する。
	７水栓柱 ※ 合成樹脂製 ・ ステンレス製
	⑧水栓 1）屋外の水栓は ⊙ キー式ハンドル ・ 2）台所流し用の水栓は泡沫式とする。
	９屋外設置タンクのマンホール ＦＲＰ製タンク及びステンレス製タンク（保温形）はマンホールも保温形（二重蓋含む）とする。

排水設備	①配管材料 1）屋内汚水管 ・ 排水用塩ビライニング鋼管 ⊙ 硬質ポリ塩化ビニル管（ＶＰ）（第1桝まで含む）・ コーティング鋼管 ・ 耐火二層管 ・ 耐火ＶＰ 2）屋内雑排水管 ・ 排水用塩ビライニング鋼管 ⊙ 硬質ポリ塩化ビニル管（ＶＰ）（第1桝まで含む）・ コーティング鋼管 ・ 耐火二層管 ・ 配管用炭素鋼鋼管（白管）【図示】・ カラーＶＰ【図示】 湯沸流し等の床上露出部分はビニル管（ＲＦ－ＶＰ又はＶＰ）でもよい。 3）ポンプ排水管 ・ 排水用塩ビライニング鋼管（圧送排水鋼管用ＭＤ） ・ 水道用硬質ポリ塩化ビニル管（ＶＰ） ・ 4）通気管 ・ 配管用炭素鋼鋼管（白管）⊙ 硬質ポリ塩化ビニル管（ｶﾗｰＶＰ） 5）屋外排水管 ・ 硬質ポリ塩化ビニル管（ ⊙ ＶＵ ⊙ ＶＰ）・ コンクリート管 ・ 耐火二層管 ・ 耐火ＶＰ
	②ガソリン桝集水器 ・ 工場製作品（※ ＳＵＳ製 ・ 鋳鉄製 ・ ＦＲＰ製）・ 現場施工品 ・ 耐火被覆 （ ・ 施Ｔ６６（ａ）を施工する。・ 施工しない ）

給湯設備	①配管材料 ・ 保温付被覆銅管 ・ 被覆銅管 ・ 銅管 ⊙ ステンレス鋼管 ・ 耐熱性ライニング鋼管（ＳＧＰ－ＨＶＡ） ・ 架橋ポリエチレン管 ・ ポリブデン管
	②弁類 ※ 湯沸器、給湯機廻りの付属配管等は製造業者標準品とする。 ※ ＪＩＳ又はＪＶ（５Ｋ）とする。ただし、水道直結部及び特記部分は（１０Ｋ）とする。
	３保温 給湯器の給排気筒の隠ぺい箇所は保温を行う。ｈ・（イ）・ⅮⅩ

消火設備	１消火栓弁の耐圧 ※ １０Ｋ ・ １６Ｋ
	２配管材料 1）一般配管用 ※ 配管用炭素鋼鋼管（白管）・ 圧力配管用炭素鋼鋼管 2）土間配管用 ※ 外面被覆鋼管 ・ 3）地中配管用 ※ 外面被覆鋼管 ・
	３保温 1）呼水タンクの保温 ※ 施工しない ・ 施工する 2）充水タンクの保温 ※ 施工しない ・ 施工する 3）消火配管の保温は次による。 ・ 屋内消火栓 ※ 施工しない ・ 施工する ・ スプリンクラー ※ 施工しない ・ 施工する ・ 連結送水 ※ 施工しない ・ 施工する ・ 連結散水 ※ 施工しない ・ 施工する
	４屋内消火栓箱 ・ １号消火栓箱

衛生設備機器器具一覧表

名　称	仕様・参考型式・付属品	工事区分 機器器具	取付	配管接続	数 量	備　考
＜風除室＞						
粉末消火器	ABC10型	○	○		1	
＜車　庫＞						
粉末消火器	ABC10型	○	○		2	
＜油　庫＞						
粉末消火器	ABC10型	○	○		1	
＜１階救急消毒室＞						
洗面器	L250D　T6PM1　(水栓金具は別途次亜水設備)　付属品一式	○	○	○	1	
化粧鏡	YM4560A	○	○		1	
ハンドドライヤー	TYC320W	○	○		1	AC100V
汚物流し	SKL330HNFP　付属品一式	○	○	○	1	
洗濯機パン	PWP800N2W PJ2009NW　付属品一式	○	○	○	1	
横水栓(洗濯機用)	TW11GR	○	○	○	1	
ステンレス流し		建築	建築	○	(1)	
シングルレバー混合栓	TKS05316J	○	○	○	1	
流し排水トラップ	T14AA-50	○	○	○	1	
スーパー次亜水生成装置	HSP-SR1000S	○	○	○	1	
横水栓(次亜水用)	HSP-7015　(ホーム水栓)　汚物流し付近	○	○	○	1	
横水栓(次亜水用)	HSP-7297　(自在水栓)　汚物流し用	○	○	○	1	
立水栓(次亜水用)	HPS-7299　(自在水栓)　ステンレス流し用	○	○	○	1	
自動水栓(次亜水用)	HSP-V11-H　手洗用	○	○	○	1	AC100V
＜１階ＷＣ多目的＞						
腰掛便器	CFS497BY　TCF5523AUPS　HP4307　YH702　付属品一式	○	○	○	1	ｳｫｼｭﾚｯﾄPS　AC100V
手すり	T112CL9　T110D37×3　T110D46×3	○	○		1	
手すり	T112HK7R　T110D36　T110D54	○	○		1	
洗面器	LSA125AA　付属品一式	○	○	○	1	自動水栓　AC100V
化粧鏡	YM3580AC	○	○		1	
＜１階ＷＣ小＞						
小便器	UFH500　TG600PN　付属品一式	○	○	○	1	
手洗器	LSL570APR	○	○	○	1	
化粧鏡	YM3545A	○	○		1	
＜１階食堂・調理場＞						
洗面器	L250D　TENA40A　T6PM1　付属品一式	○	○	○	1	自動水栓　AC100V
化粧鏡	YM4560A	○	○		1	
コンパクトキッチン	水栓金具、排水トラップ、コンロ共	建築	建築	○	(1)	
アングル止水栓	TL347CU	○	○	○	2	

名　称	仕様・参考型式・付属品	工事区分 機器器具	取付	配管接続	数 量	備　考
＜２階浴室＞						
ユニットバス	水栓金具、排水トラップ共	建築	建築	○	(1)	
＜２階洗面・洗濯室＞						
洗面化粧台	LDA756BER LMA752EC　付属品一式	○	○	○	1	蛍光灯
洗濯機パン	PWP800N2W PJ2009NW　付属品一式	○	○	○	1	
横水栓(洗濯機用)	TW11GR	○	○	○	1	
＜２階ＷＣ　Ｍ＞						
腰掛便器	CFS497BY　TCF586AUS　HP4307　YH702　付属品一式	○	○	○	1	ｳｫｼｭﾚｯﾄP　AC100V
小便器	UFH500　TG600PN　付属品一式	○	○	○	2	
洗面器	L210D　TENA40A　T6PM1　付属品一式	○	○	○	1	自動水栓　AC100V
化粧鏡	YM4560A	○	○		1	
＜２階ＷＣ　Ｗ＞						
腰掛便器	CFS497BY　TCF586AUS　HP4307　YH702　付属品一式	○	○	○	1	ｳｫｼｭﾚｯﾄP　AC100V
洗面化粧台	LDSWB060BAGEN1　付属品一式	○	○	○	1	蛍光灯
＜２階ＳＷ脱衣室＞						
シャワーユニット	水栓金具、排水トラップ共	建築	建築	○	(1)	
洗濯機パン	PWP800N2W PJ2009NW　付属品一式	○	○	○	1	
横水栓(洗濯機用)	TW11GR	○	○	○	1	
＜屋外＞						
ガス給湯器	給湯専用屋外壁掛設置形　16号　LPG焚き　エコジョーズ	○	○	○	1	AC100V
	リモコン、リモコンコード、配管カバー　付属品一式					
ガス給湯器	給湯専用屋外壁掛設置形　24号　LPG焚き　エコジョーズ	○	○	○	1	AC100V
	リモコン、リモコンコード、配管カバー　付属品一式					
ガスふろ給湯器	屋外壁掛設置形フルオート　24号　LPG焚き　エコジョーズ	○	○	○	1	AC100V
	循環アダプタ、リモコン、リモコンコード、配管カバー　付属品一式					
凍結防止ヒーター	給水管用	○	○		3	AC100V
散水栓	T28KUNH13　(キー式)　ボックス(B-3)共	○	○	○	3	
横水栓	T28AKUH13　(キー式　カップリング)	○	○	○	2	
不凍水栓柱	アルミ製　60φ　給水管：SUS304　吐水口：13mm　接続口径：20mm	○	○	○	2	
	呼び長：1.2m　吸気機構付　固定バンド：　給水エルボ　浸透桝セット					

※1. 工事区分の項目において、○は[本工事]とする。数量の項目の、( )書きは建築工事,別途工事若しくはそのまま再使用分を示す。

※2. 衛生器具は便宜上ＴＯＴＯ(株)の型番を採用している。

※3. 掃除口兼用ドレン、床上掃除口はツバ無しとし、取付高さは長尺ビニル床シート面に合わせる。

(A3=A1縮小50%)

工事名　津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査	図面番号	M / 02
図面名　衛生設備機器器具一覧表					
一級建築士事務所　県知事登録第１２１５３号　(有)　芦　田　設　計	一級建築士　登録第　９９０５３　号　芦田圀廣				

桝リスト(汚水系統)

記号	名 称	桝寸法	参考桝高 (mm)	参考地盤高 参考管底高 (mm)	蓋	工事区分	備 考
①	ポリプロピレン製インバート桝	100~300 90°L	400	GL± 0 GL− 400	レジコン製密閉蓋	新設	
②	塩ビ製小口径インバート桝	100~200 90°Y	410	GL± 0 GL− 410	塩ビ製蓋	新設	
③	塩ビ製小口径インバート桝	100~200 90°Y	430	GL± 0 GL− 430	塩ビ製蓋	新設	段差付
④	塩ビ製小口径インバート桝	100~200 90°Y	470	GL± 0 GL− 470	塩ビ製蓋	新設	
⑤	塩ビ製小口径インバート桝	100~200 45°L	530	GL± 0 GL− 530	塩ビ製蓋	新設	
⑥	塩ビ製小口径インバート桝	100~200 90°Y	580	GL± 0 GL− 580	塩ビ製蓋	新設	
⑦	塩ビ製小口径インバート桝	100~200 90°Y	590	GL± 0 GL− 590	塩ビ製蓋	新設	段差付
⑧	塩ビ製小口径インバート桝	100~200 45°L	680	GL± 0 GL− 680	塩ビ製蓋	新設	
⑨	ポリプロピレン製インバート桝	125~300 45°L	700	GL± 0 GL− 700	レジコン製密閉蓋	新設	
⑩	ポリプロピレン製トラップ桝	100~350 流出側T	350	GL± 0 GL− 350	レジコン製密閉蓋	新設	
⑪	ポリプロピレン製トラップ桝	100~350 流出側T	350	GL± 0 GL− 350	レジコン製密閉蓋	新設	
⑫	トラップ桝	350×350 流出側T	300	GL＋ 200 GL− 100	レジコン製密閉蓋	新設	

桝リスト(雨水系)

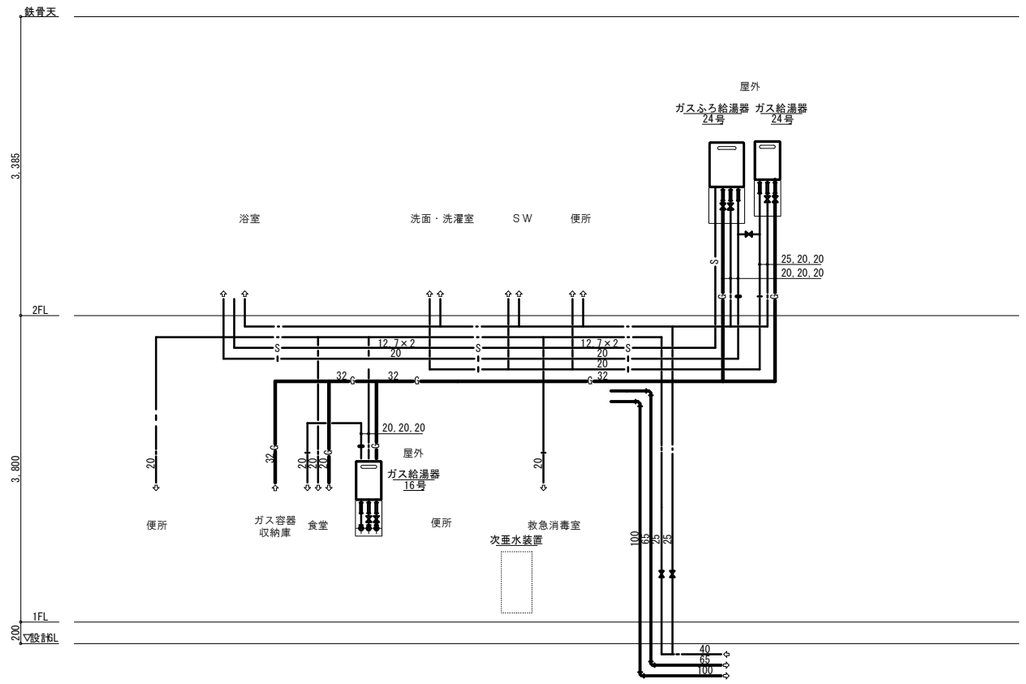
記号	名 称	桝寸法	参考桝高 (mm)	参考地盤高 参考管底高 (mm)	蓋	工事区分	備 考
⑳	ポリプロピレン製ため桝	φ300	300	GL± 0 GL− 300	耐圧レジコン製水封蓋 (T-2)	新設	
㉑	ポリプロピレン製ため桝	φ300	370	GL± 0 GL− 370	耐圧レジコン製水封蓋 (T-2)	新設	
㉒	ポリプロピレン製ため桝	φ300	370	GL± 0 GL− 420	耐圧レジコン製水封蓋 (T-2)	新設	
㉓	ポリプロピレン製ため桝	φ300	485	GL− 195 GL− 290	耐圧レジコン製水封蓋 (T-2)	新設	
㉔	ポリプロピレン製ため桝	φ300	490	GL− 295 GL− 195	耐圧レジコン製水封蓋 (T-2)	新設	
㉕	ポリプロピレン製ため桝	φ300	655	GL− 395 GL− 260	鋳鉄製防護蓋(T-8)	新設	
※ 設計GL＝59.40							

※ 埋設配管特記補足

（1） 一般事項

桝一覧表中の管底寸法等は参考寸法であり、施工にあたっては現地調査の上、早急に施工計画を立て監督員の承諾を受け施工すること。

埋設配管は、管の下端より100mm程度深く根切りをし、再生砂を敷き込み突き固めた後、管を布設し、管の周囲及び管の上端より100mm程度まで再生砂で埋戻した後、掘削土の良質土で埋戻すこと。

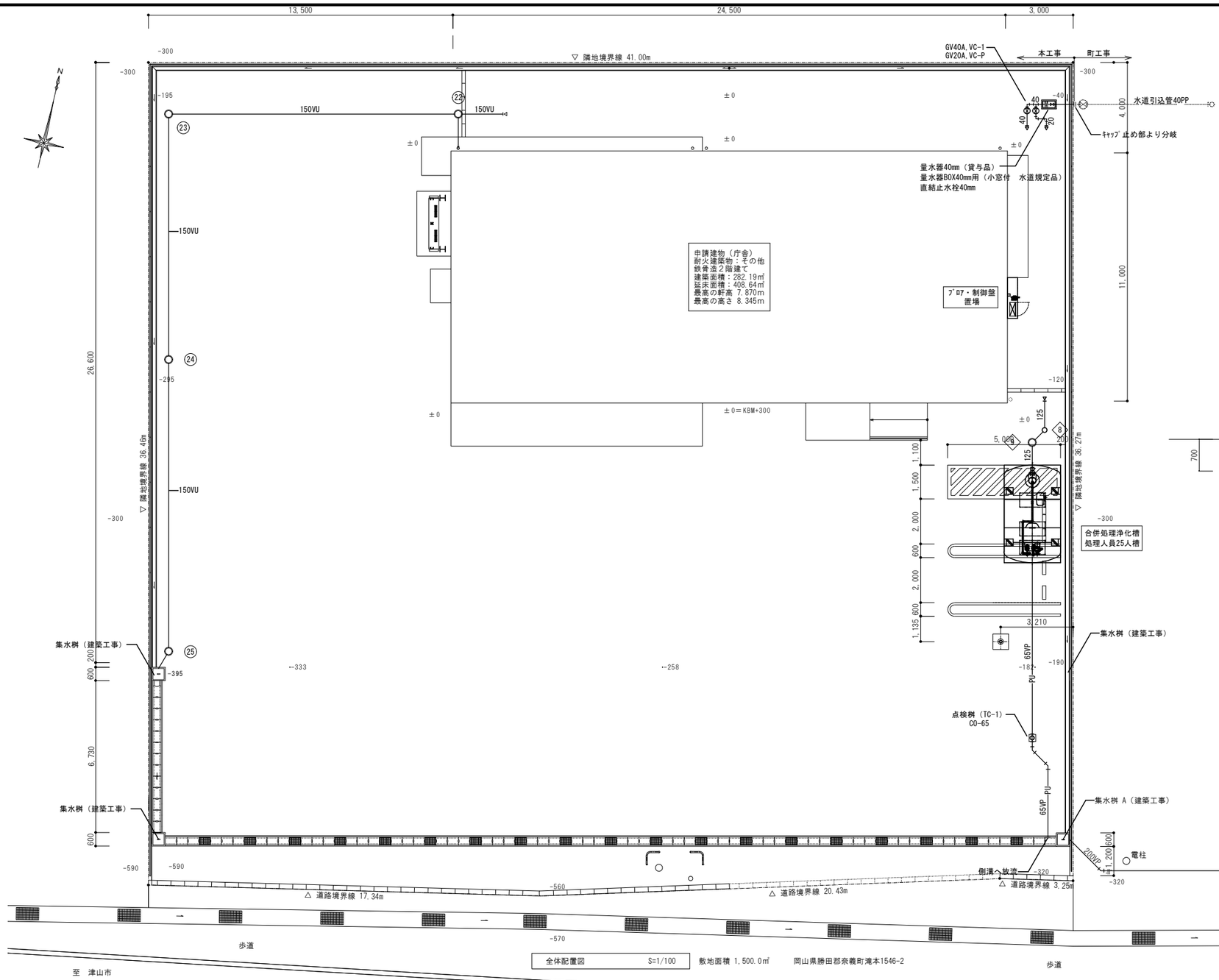


配管系統図　NOSCALE

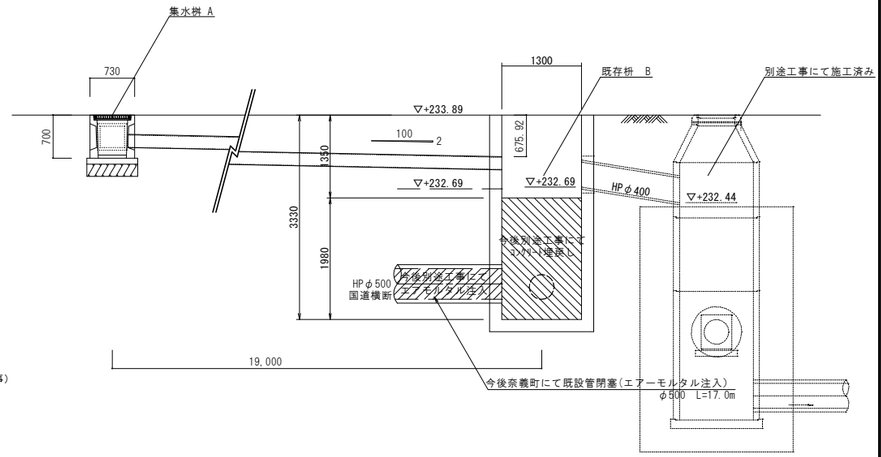
（A3=A1縮小50%）

工事名 津山圏域消防組合日本原分署新築工事		計	設	審	図面番号 M / 03
図面名 配管系統図・桝リスト　NO. SCALE		画	計	査	
一級建築士事務所 県知事登録第１２１５３号 （有） 芦 田 設 計	一級建築士 登録第 ９９０５３ 号 芦田圀廣				

設計概要	
工事名称	津山圏域消防組合日本原分署新築工事
工事場所	岡山県勝田郡奈義町滝本1546-2
主要用途	08330(消防分署)
工事種別	新築
敷地面積	1,500.0㎡
用途地域	都市計画区域外
防火地域	指定なし
建築面積	282.19㎡
延床面積	408.64㎡
建蔽率	18.82%
容積率	27.24%
構造・規模	鉄骨造２階建て
基礎	柱状改良杭（ＳＳコラム工法） GBRC 性能証明 第12-07号 改2 スラリー系機械攪拌式深層混合処理
最高の軒高	7.870m
最高の高さ	8.345m



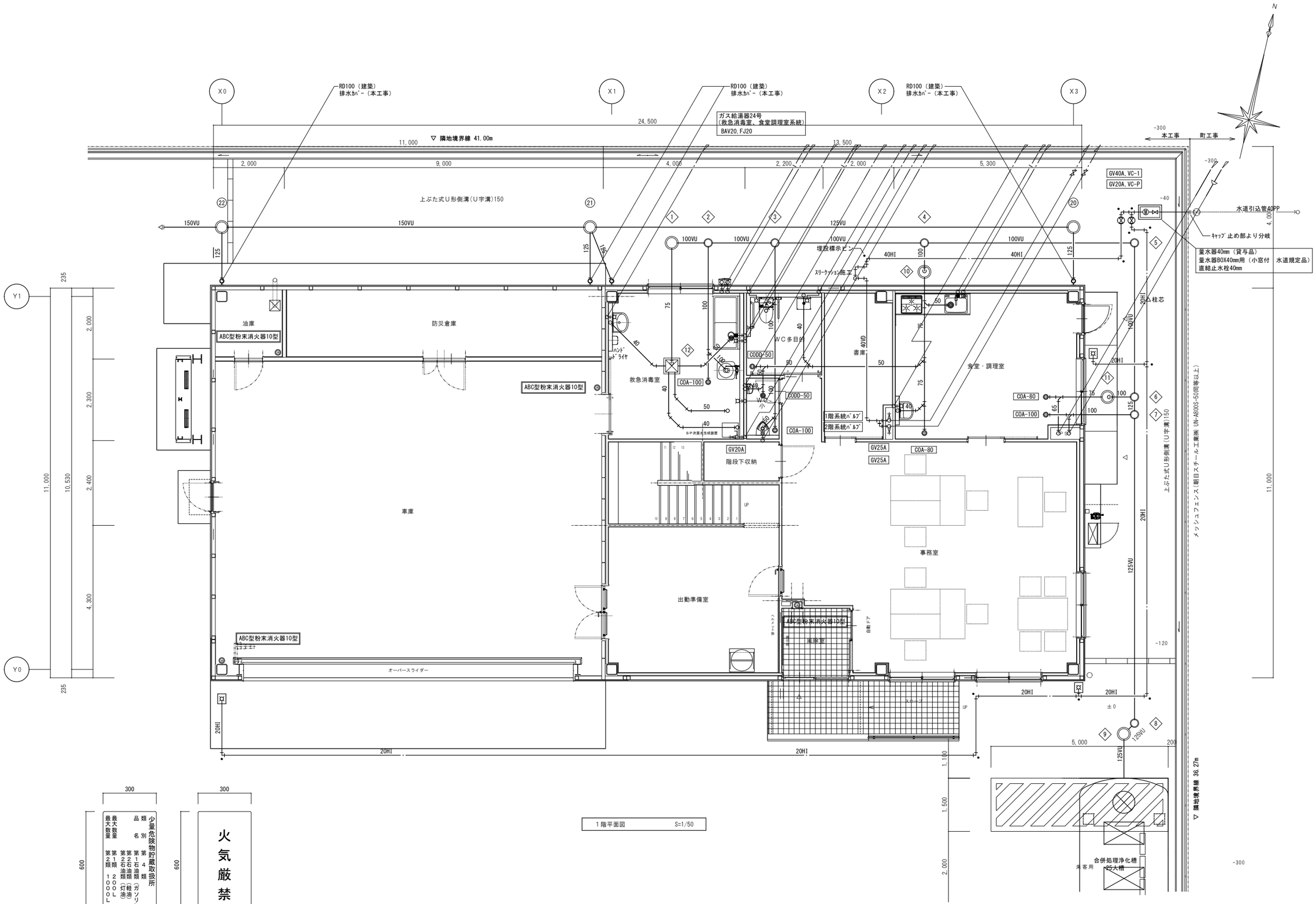
全体配置図　S=1/100　敷地面積 1,500.0㎡　岡山県勝田郡奈義町滝本1546-2



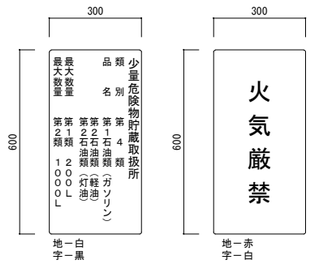
敷地外配管工事図　S=1/50

(A3=A1縮小50%)

工事名 津山圏域消防組合日本原分署新築工事		計	設	審	図面番号 M 04
図面名		画	計	査	
一級建築士事務所 県知事登録第１２１５３号 （有）戸田設計	一級建築士 登録第 ９９０５３ 号 戸田圓廣				



1階平面図　S=1/50



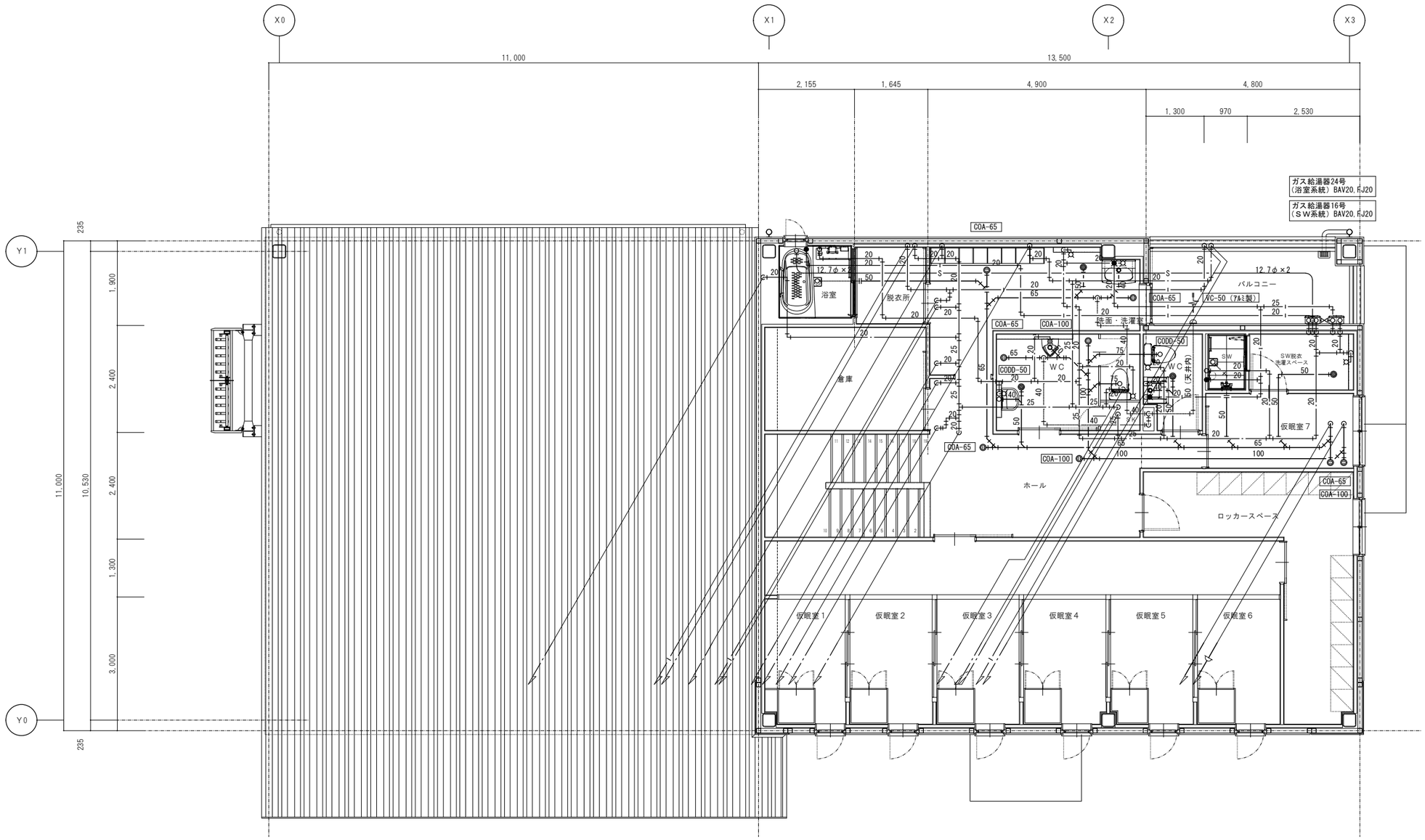
油庫　危険物標識　S=1/20

＊標識の材質はアルミ製とする。

（A3=A1縮小50%）

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査
図面名	給排水衛生設備　1階平面図　S=1/50			
一級建築士事務所	県知事登録第１２１５３号 （有）戸田設計	一級建築士	登録第９９０５３号	芦田圀廣

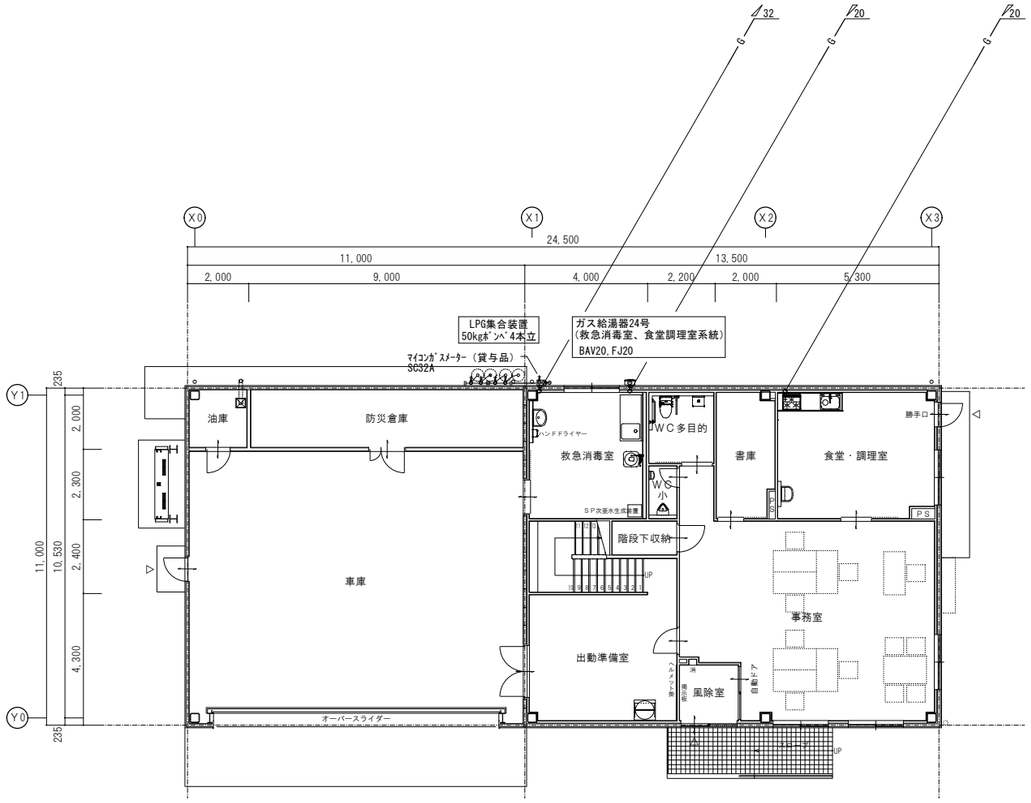
図面番号 M 05



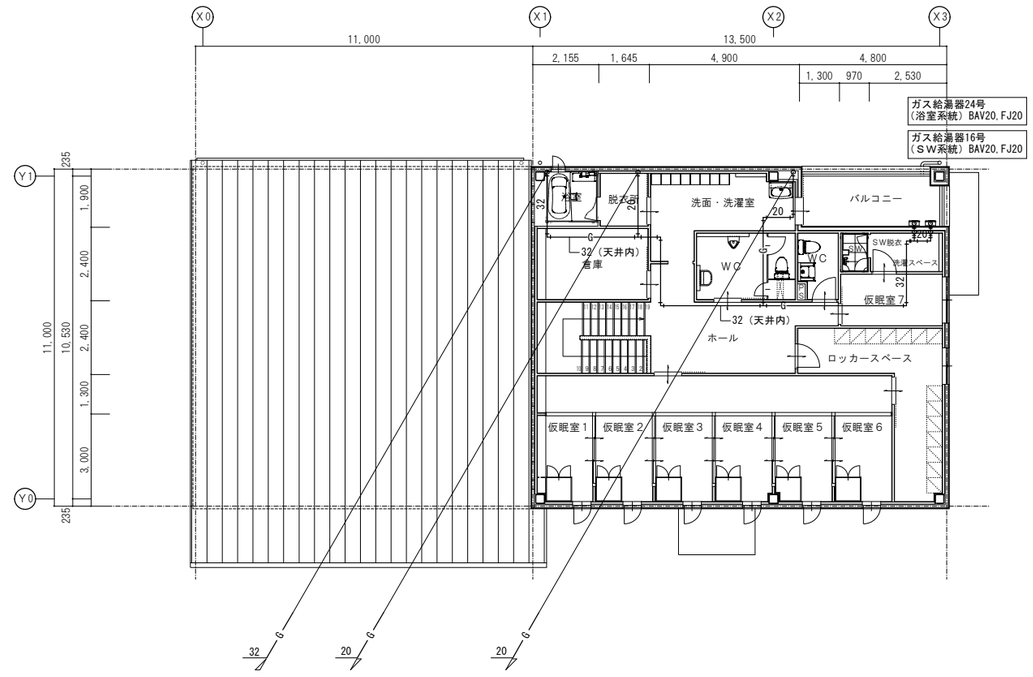
２階平面図　　S=1/50

（A3=A1縮小50%）

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査	図面番号 M 06
図面名	給排水衛生設備　２階平面図　S=1/50				
一級建築士事務所　県知事登録第１２１５３号 （有）　戸　田　設　計		一級建築士　登録第　９９０５３　号　戸田國廣			



1階平面図　　S=1/100



2階平面図　　S=1/100

ガス設備機器器具一覧表

名　称	仕様・参考型式・付属品	工事区分			数 量	備　考
		機器器具	取付	配管接続		
〈食堂・調理場〉						
ガス栓	ヒューズ付　単口　15A×9.5φ	○	○	○	1	
〈屋　外〉						
マイコンガスメーター		貸与品	○	○	(1)	
プロパンガス集合装置	50kgボンベ　4本立　標準図　施工72(b)　施工73(a)	○	○	○	1	
	固定金具：SUS製					

＊工事区分の項目に於いて、　○は【本工事】とする。数量の項目の、（　）は別途工事を示す。

(A3=A1縮小50%)

工事名　津山圏域消防組合日本原分署新築工事		計画	設計	審査	図面番号 M 07
図面名　プロパンガス設備　1・2階平面図　S=1/100					
一級建築士事務所　県知事登録第１２１５３号 （有）　芦　田　設　計	一級建築士　登録第　９９０５３　号　芦田圓廣				

記号		品名	設置場所	台数
	SR	スーパー次亜水生成装置 HSP-SR1000S	1階　消毒室 次亜水置場	1
	AW	次亜水用自動蛇口 HSP-V11-H　AC100V仕様	1階　消毒室 手洗い	1
	HW	次亜水用水栓　万能ホーム水栓 HSP-7015　　（ホースタイプ）	1階　消毒室 汚物流し付近	1
	HW	次亜水用水栓　自在水栓 HSP-7297　170・240・300	1階　消毒室 汚物流し	1
	HW	次亜水用水栓　立形自在水栓 HSP-7299　170・240・300	1階　消毒室 ステンレス流し台	1
	HW	次亜水用水栓　立形自在水栓 HSP-7299　170・220	2階 食堂・調理室	1
	BV	スーパー次亜水用バルブ U-PVC FKMφ13	次亜水栓　一次側 PS内分岐部	
	BV	スーパー次亜水用バルブ U-PVC FKMφ20	次亜水栓　一次側 PS内分岐部	

電源供給機器	電源	備考
SR	AC100V　コンセント （E付ダブルアース端子付）	1階　消毒室　次亜水置場 AC100V　66W
TP	AC100V　コンセント （E付ダブルアース端子付）	1階　消毒室　次亜水置場 AC100V　400W
AW	電池式 AC100V　コンセント（E付）	1階　消毒室　手洗い AC100V　40W
SM	AC100V　コンセント	各階　各所 AC100V　25W

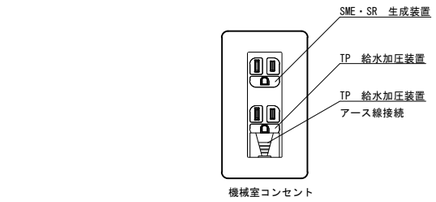
工事区分表

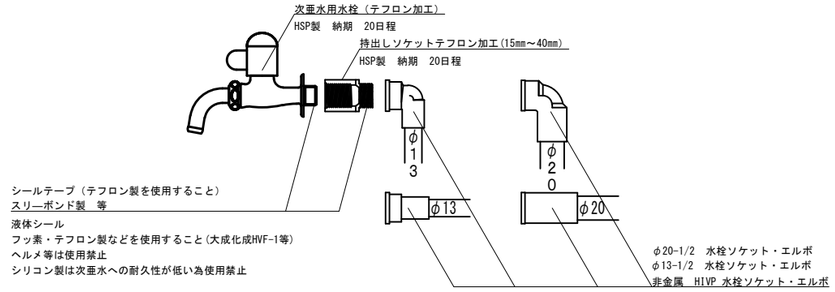
施工内容	建築	電気	衛生	HSP	他	備考
機械室内 装置一式 （取付け・接続・配管工事）				○		
機械庫内 コンクリート基礎	○					
空間消臭装置 点検口設置 （450*450）	○					
機械室室の室温調整設備 （換気扇設置等）	○					室温35°以下 次亜の気泡発生防止
機器用　電源供給工事		○				
機器間　計装線工事		○				
機械室内 給水配管工事 （給水バルブ止め）			○			給水バルブは衛生設備工事
機械室内 排水管工事			○			次亜水配管は　　HIVP 機械室・ASの排水管は　VP
配管工事（スーパー次亜水用HIVP） AS排水管工事も含む			○			
簡易保温（スーパー次亜水用HIVP）			○			
スーパー次亜水用バルブ （取付け・配管接続）				○		
スーパー次亜水用水栓 （取付け・配管接続）				○		
スーパー次亜水用自動水栓 （取付け・配管接続）				○		
試運転調整一式				○		
機器搬入一式				○		
排水トラップの テフロンコーティング				○		トラップは設備より支給 加工はＨＳＰ 加工日数14～20日
PS内　BV　定圧弁　Yストレーナー 設置			○			次亜水仕様の為 HSPより支給

注記）　1　スーパー次亜水用配管はHIVP、器具接続部はHIVP13、
継手類（水栓ソケット等）には金属でないものを使用すること。

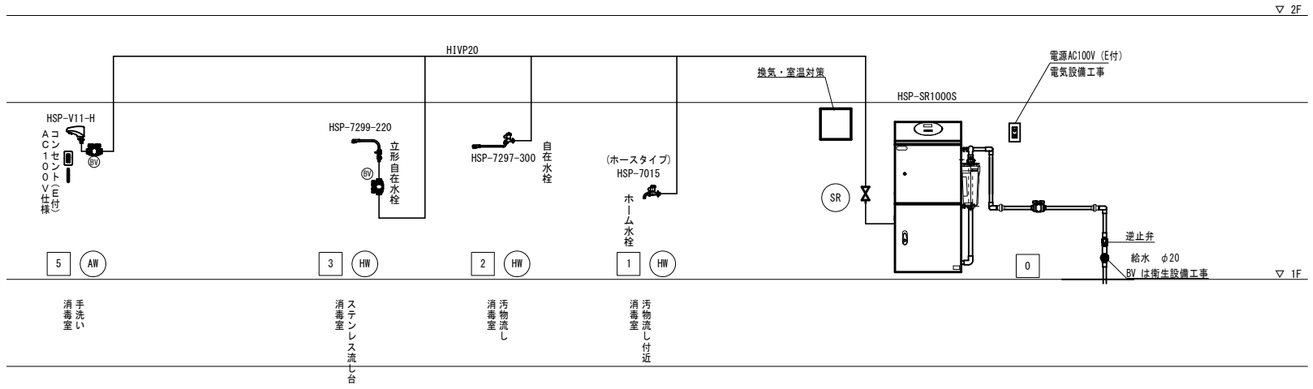
2　バルブ類はU-PVC仕様、Oリングは FKM仕様とする。

3　次亜水配管の水圧テストを実施する。給水工事と同等





衛生設備	規格	場所	備考	数
給水設備	洗濯機用水栓	1階　消毒室 次亜水置場	1000L/h以上　0.75Mpa以下 水栓は衛生設備工事	1
配水設備（次亜）	HIVP　φ20・25 HIVP　φ13	各所	非金属製品を使用 0.25Mpa～0.3Mpa以下	
配水設備（次亜）	HIVP　φ20・25 HIVP　φ13	各所	開口部　処理	
排水設備	VP　φ40 VP　φ40	1階　消毒室 次亜水置場	間接排水・検水用 床排水口	2
換気設備		1階　消毒室 次亜水置場	夏季35℃以下に 室温を保つ設備	1

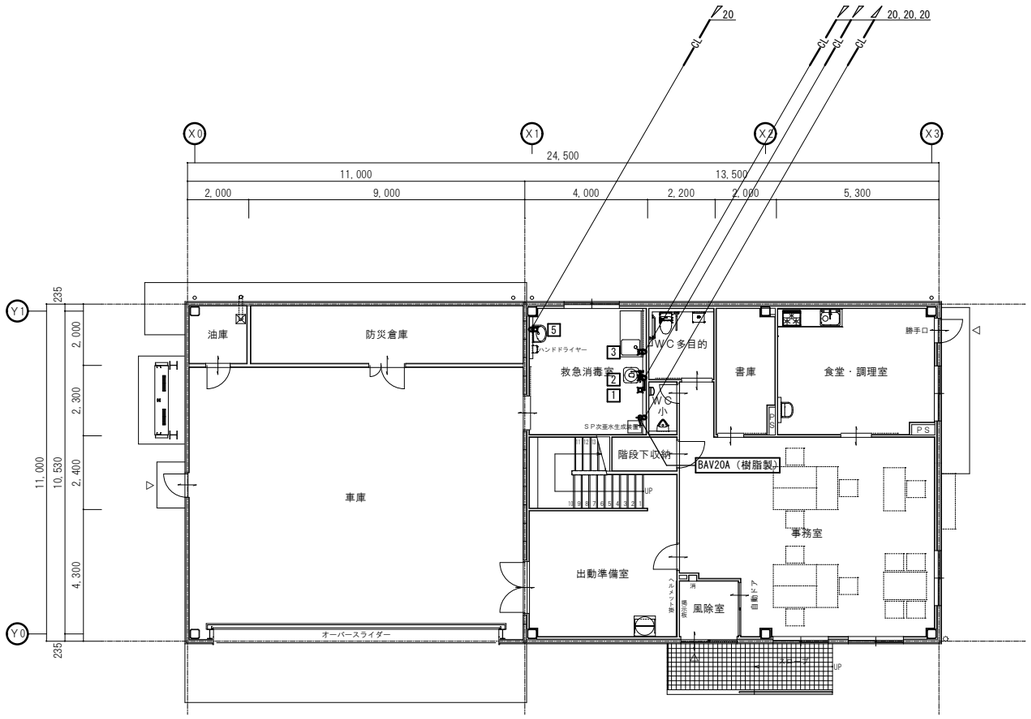


（A3=A1縮小50%）

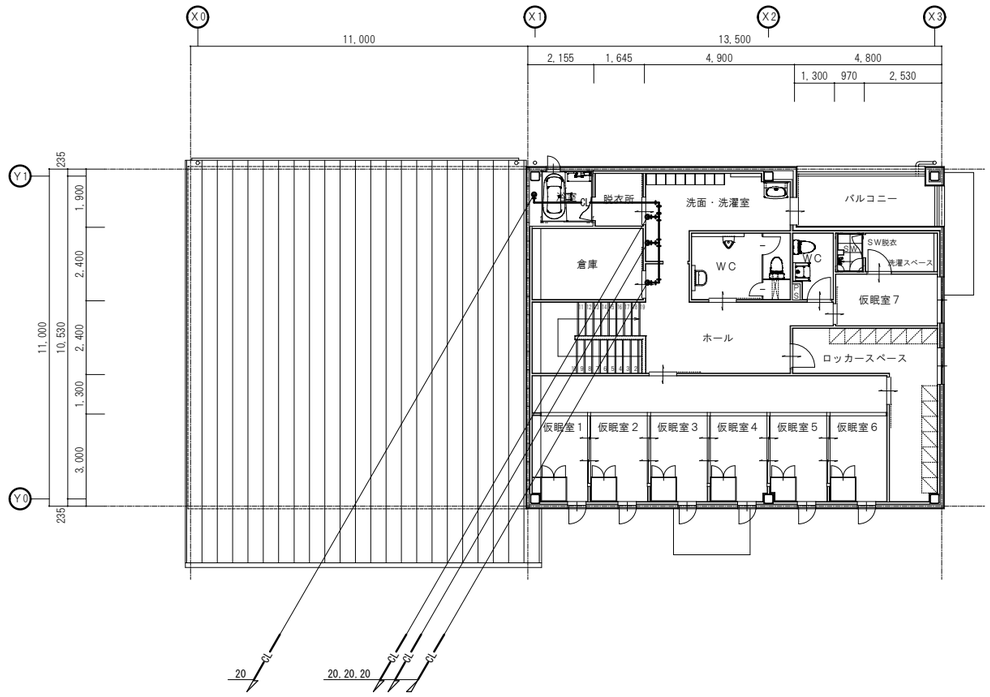
工事名　津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	書査	図面番号 M
図面名　次亜水設備　系統図　NO SCALE				08
一級建築士事務所　県知事登録第１２１５３号 （有）　芦　田　設　計	一級建築士　登録第　９９０５３　号　芦田國廣			

凡　例　　（ ○ 印の付いたものを適用する ）

	名称	記号	規格・仕様・摘要	備考
○	スーパー次亜水管	——CL——	水道用耐衝撃性硬質塩化ビニル管 JIS K 6742 (HIVP)	保温は給水管に準ずる



1階平面図　　S=1/100



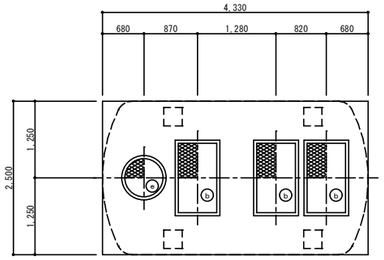
2階平面図　　S=1/100

（A3=A1縮小50%）

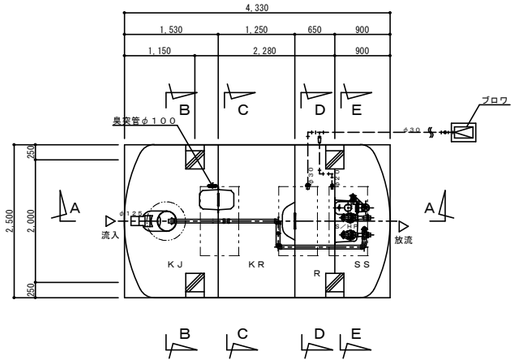
工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査	図面番号 M / 09
図面名	次亜水設備　1・2階平面図　S=1/100				
一級建築士事務所 県知事登録第12153号 （有）芦田設計		一級建築士 登録第 99053 号 芦田圓廣			

特記事項　：　以下の基準を満足する機能を有する浄化槽とする

奈義町の合併処理浄化槽等細目基準
窒素又は燐除去機能を有する高度処理浄化槽の内、放流水の 生物化学的酸素要求量10mg/L以下、総窒素濃度10mg/L以下及び 浮遊物質量10mg/L以下の機能を有するもの。

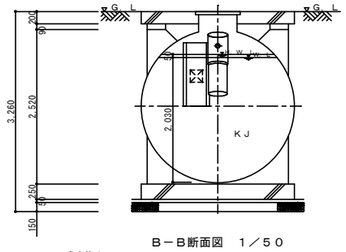


スラブ平面図　１／５０

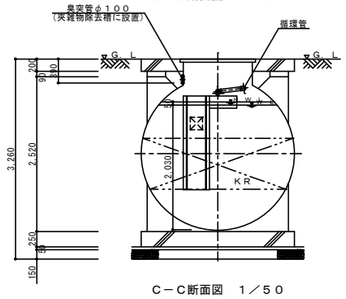


内部平面図　１／５０

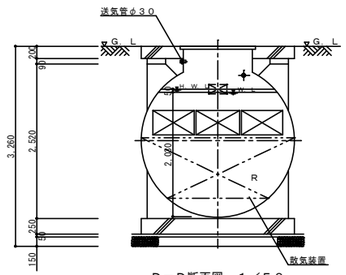
Ａ－Ａ断面図　１／５０



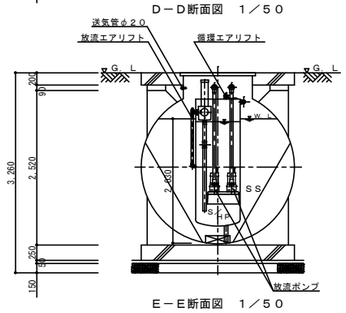
Ｂ－Ｂ断面図　１／５０



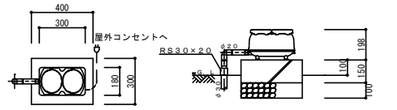
Ｃ－Ｃ断面図　１／５０



Ｄ－Ｄ断面図　１／５０



Ｅ－Ｅ断面図　１／５０



※基礎寸法は参考値とする

ブロワ基礎参考図　１／２０

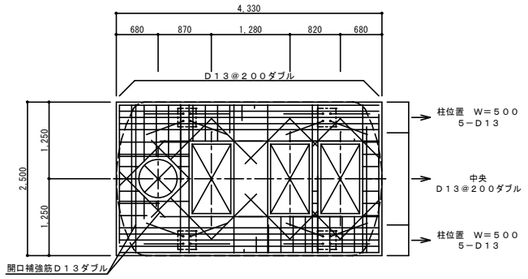
仕　様　表						
設計番号						
処理方式	接触ろ床方式					
型式名称	フジクリーン　ＣＥＮ１－２５　型（環境配慮型浄化槽）					
処理対象人員	２５人					
汚水量	５．００ｍ３／ｄ					
流入水質	ＢＯＤ２００ｍｇ／Ｌ	ＴＮ　４５ｍｇ／Ｌ	ＳＳ　１６０ｍｇ／Ｌ			
放流水質	ＢＯＤ　１０ｍｇ／Ｌ	ＴＮ　１０ｍｇ／Ｌ	ＳＳ　１０ｍｇ／Ｌ			
ＫＪ	夾雑物除去槽	有効容量	５．４２７　ｍ３			
ＫＲ	嫌気ろ床槽	有効容量	５．２８８　ｍ３			
Ｒ	接触ろ床槽	有効容量	２．６００　ｍ３			
ＳＳ	処理水槽	有効容量	１．８２６　ｍ３			
Ｓ／ＨＰ	消毒槽兼放流ポンプ槽	有効容量	０．２２３／０．１４９　ｍ３			
総容量		有効容量	１５．３６４　ｍ３			
機　器　装　置　仕　様						
嫌気ろ材	ＰＰまたはＰＥ	充填率	４６　％			
接　触　材	ＰＶＣ、ＰＰまたはＰＥ	充填率	１７　％			
好気ろ材	ＰＰまたはＰＥ	充填率	５５　％			
ブロワ	吐出量	口　径	消費電力	運転方式	台数	
	３００Ｌ／ｍｉｎ	φ２０	２３０Ｗ	連続運転	１	
放流ポンプ	吐出量	口　径	出力	運転方式	台数	
	７０Ｌ／ｍｉｎ	φ４０	１５０Ｗ	自動交互運転	２	
槽本体	ＦＲＰ					
パイプ類	ＰＶＣ、ＰＰまたはＰＥ					
消毒剤	固形塩素剤					
開　口　蓋　一　覧						
記号	呼称寸法	数　量	仕　様	材　質		
ｂ	７００×１２００	３	５００Ｋ	ＦＲＰ		
ｅ	Φ６００	１	５００Ｋ	ＦＲＰ		

配管仕様		
	露出配管（ブロワ廻り）	ＶＰ
	土中配管	φ４０以下～ＶＰ・φ５０以上～ＶＵ
	槽内配管	メーカー仕様

注１）上部は乗用車荷重とする。
注２）機器電源は単相１００Ｖ、総電力は５３０Ｗ、
　　一次側引込電気容量は２０Ａ以上とする。
注３）図中の”ＧＬ”は浄化槽位置での仕上げレベルを示す。
注４）処理槽からブロワまでの距離は１０ｍ以内とする。
注５）流入管・放流管工事は別途とする。又接続工事は浄化槽工事範囲外とする。
注６）臭突管工事は別途とする。又接続工事は浄化槽工事範囲外とする。
注７）ブロワ付近にアース付きコンセント×３を設置のこと。設置は浄化槽工事範囲外
　　とする。
注８）地耐力は６０ＫＮ／ｍ２以上必要とする。（実際の工事業者が確認後施工の事）
注９）岩掘削工事、杭工事、地盤改良工事、ウェルポイント工事は別途とする。
注１０）工事用水道使用料金（水張用水費）、工事用仮設電源は別途とする。
注１１）埋め戻しは良質土にて行うこと。
注１２）現状嵩上げ高さ：０ｍｍ、最高嵩上げ高さ：３００ｍｍまで
注１３）下記条件の場合は、浄化槽本体を補強仕様に変更する必要があります。
　　（実際の工事業者が確認後施工の事）
　　・嵩上げ高さが３００ｍｍを超える場合
　　・地下水位がＧＬ－１０００ｍｍより高い場合
注１４）荷重影響線内に注１を超える荷重がある場合、擁壁の設置等が必要になります。
注１５）実際の流入条件が設計値と異なる場合、目標処理水質が出ないことがあります。
注１６）埋め戻しの際は、300mmごとに転圧を行い、水締め・内部の水張り試験を行うこと。

（A3=A1縮小50%）

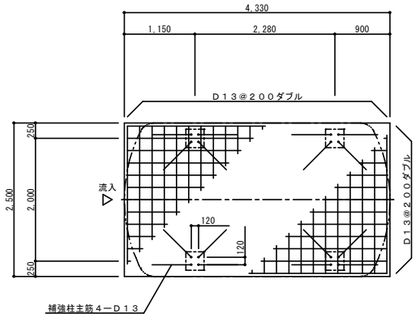
工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査	図面番号 M／10
図面名	合併処理浄化槽　設備図　S=1/50				
一級建築士事務所　県知事登録第１２１５３号 （有）　芦　田　設　計		一級建築士　登録第　９９０５３　号　芦田國廣			



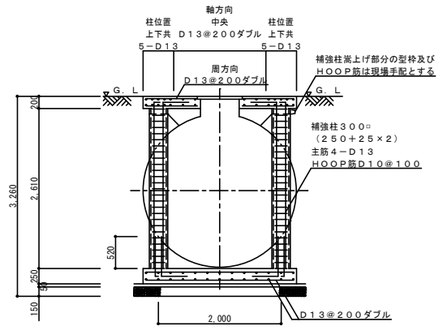
スラブ配筋図　１／５０

一　般　事　項	
コンクリート	Ｆｃ＝２１Ｎ／ｍｍ２
鉄　　筋	ＳＤ２９５Ａ
鉄筋かぶり	スラブ　４０
	ベース　６０
定着及継手	４０ｄ
地　　業	砕石又はＲＣ　４０～０

注１）上部は乗用車荷重とする。
注２）図中の「Ｇ．Ｌ」は浄化槽位置での仕上げレベルを示す。
注３）地耐力は６０ＫＮ／ｍ２以上必要とする。（実際の工事業者が確認後施工の事）



ベース配筋図　１／５０



横型槽断面配筋図　１／５０

(A3=A1縮小50%)

工事名　津山圏域消防組合日本原分署新築工事		計	設	審	図面番号 M
図面名　合併処理浄化槽　躯体図・配筋図　S=1/50		画	計	査	11
一級建築士事務所　県知事登録第１２１５３号 （有）　芦　田　設　計	一級建築士　登録第　９９０５３　号　芦田國廣				

空調設備機器一覧表

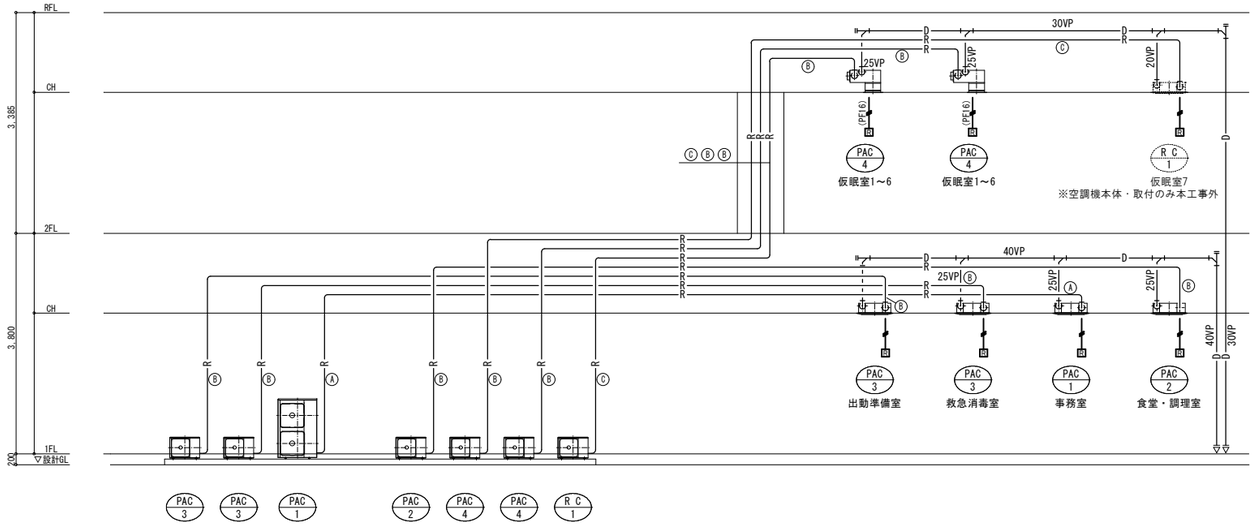
機器記号	機 器 名 称	仕様・型式・付属品	数量	備考
PAC-1	パッケージ型空調機	天井埋込カセット４方向形　　参考品型番 ： PLZ-ERMP112EEV	1	事務室
		冷 房 能 力 ：（定格）10.0 kW （最大）11.2 kW		
		暖 房 能 力 ：（定格）11.2 kW （最大）14.0 kW		
		電　　源 ： 3相 200V 60Hz		
		消 費 電 力 ：（冷房定格）2.47 kW ／（暖房定格）2.49 kW ／（暖房低温）4.95 kW		
		電動機出力 ：（圧縮機） 2.30 kW （送風機内）0.12 kW （送風機外）0.06 kW ×2		
		室内機質量 ： 30 kg　　室内機寸法 ： 840 (W) × 840 (D) × 298 (H)		
		屋外機質量 ： 87 kg　　屋外機寸法 ： 950 (W) × 330 (D) × 1,350 (H)		
		付 属 品 ： 化粧パネル、運転リモコン		
		屋外機基礎 ： 建築工事		
PAC-2	パッケージ型空調機	天井埋込カセット４方向形　　参考品型番 ： PLZ-ERMP63EEV	1	食堂
		冷 房 能 力 ：（定格） 5.6 kW （最大） 6.3 kW		
		暖 房 能 力 ：（定格） 6.3 kW （最大） 8.0 kW		
		電　　源 ： 3相 200V 60Hz		
		消 費 電 力 ：（冷房定格）1.38 kW ／（暖房定格）1.40 kW ／（暖房低温）1.95 kW		
		電動機出力 ：（圧縮機） 1.30 kW （送風機内）0.05 kW （送風機外）0.04 kW		
		室内機質量 ： 26 kg　　室内機寸法 ： 840 (W) × 840 (D) × 258 (H)		
		屋外機質量 ： 39 kg　　屋外機寸法 ： 809 (W) × 300 (D) × 630 (H)		
		付 属 品 ： 化粧パネル、運転リモコン		
		屋外機基礎 ： 建築工事		
PAC-3	パッケージ型空調機	天井埋込カセット４方向形　　参考品型番 ： PLZ-ERMP40EEV	2	救急消毒室
		冷 房 能 力 ：（定格） 3.6 kW （最大） 4.0 kW		出勤準備室
		暖 房 能 力 ：（定格） 4.0 kW （最大） 5.2 kW		
		電　　源 ： 3相 200V 60Hz		
		消 費 電 力 ：（冷房定格）0.76 kW ／（暖房定格）0.87 kW ／（暖房低温）1.47 kW		
		電動機出力 ：（圧縮機） 0.70 kW （送風機内）0.05 kW （送風機外）0.04 kW		
		室内機質量 ： 25 kg　　室内機寸法 ： 840 (W) × 840 (D) × 258 (H)		
		屋外機質量 ： 38 kg　　屋外機寸法 ： 809 (W) × 300 (D) × 630 (H)		
		付 属 品 ： 化粧パネル、運転リモコン		
		屋外機基礎 ： 建築工事		
PAC-4	パッケージ型空調機	天井埋込ビルトイン形　　参考品型番 ： PDZ-ERMP63GV	2	仮眠室1～6
		冷 房 能 力 ：（定格） 5.6 kW （最大） 6.3 kW		
		暖 房 能 力 ：（定格） 6.3 kW （最大） 8.0 kW		
		電　　源 ： 3相 200V 60Hz		
		消 費 電 力 ：（冷房定格）1.74 kW ／（暖房定格）1.65 kW ／（暖房低温）2.72 kW		
		電動機出力 ：（圧縮機） 1.30 kW （送風機内）0.12 kW （送風機外）0.04 kW		
		室内機質量 ： 44 kg　　室内機寸法 ：1100 (W) × 701 (D) × 272 (H)		
		屋外機質量 ： 39 kg　　屋外機寸法 ： 809 (W) × 300 (D) × 630 (H)		
		付 属 品 ： 吸込ハーフパネル、吸込口キャンバス、運転リモコン		
		屋外機基礎 ： 建築工事		
RC-1	ルームエアコン	天井埋込カセット１方向形　　参考品型番 ： MLZ-GX2817AS	1	仮眠室7
		冷 房 能 力 ：（定格） 2.8 kW （最大） 3.6 kW		
		暖 房 能 力 ：（定格） 4.0 kW （最大） 6.5 kW		
		電　　源 ： 1相 200V 60Hz		
		消 費 電 力 ：（冷房定格）0.69 kW ／（暖房定格）1.11 kW ／（暖房低温）2.49 kW		
		電動機出力 ：（圧縮機） 0.75 kW		
		室内機質量 ： 15 kg　　室内機寸法 ：1200 (W) × 424 (D) × 185 (H)		
		屋外機質量 ： 33 kg　　屋外機寸法 ： 800 (W) × 285 (D) × 550 (H)		
		付 属 品 ： 化粧パネル、ワイヤレスリモコン、リモコンホルダー		
		屋外機基礎 ： 建築工事		

※1. エアコンの冷房能力・暖房能力は表示された値以上とし、電動機出力は表示された値以下とする。

※2. 機器類の吊り込みには棒鋼にて振れ止め支持を施すこと。

※3. 振れ止め支持及び機器据付アンカーボルトの選定に際しては、設計用地震力に対して十分な強度を有することを計算により確認し、監督員の承諾を受けること。

※4. 空調設備は、夏期冷房運転、冬期暖房運転の試験を行い試験成績書作成のうえ報告すること。



配管系統図　　NOSCALE

(A3=A1縮小50%)

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	審査
図面名	空調設備機器一覧表・配管系統図　NO.SCALE			
一級建築士事務所 県知事登録第１２１５３号 （有） 戸田設計		一級建築士 登録第 ９９０５３ 号 戸田圀廣		図面番号 M 12

凡　例　　（ ◎ 印の付いたものを適用する ）

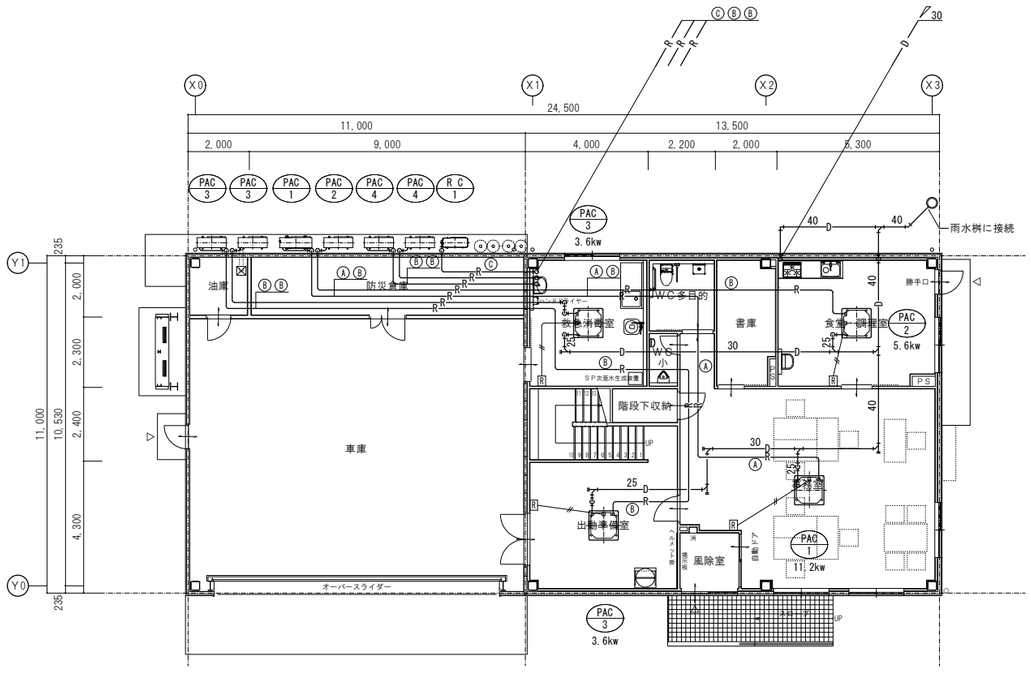
	名称	記号	施工区分	規格・仕様・摘要	備考
◎	冷 媒 管	——— R ———	（ガス管）	断熱材被覆銅管　原管 JIS H 3300　断熱材厚 20mm	製造者標準品
			（液　管）	断熱材被覆銅管　原管 JIS H 3300　断熱材厚 10mm(8mm)	
			連絡配線	電力用ケーブル　EM-CE-2.0-3C＋IE1.6	
◎	空調排水管	——— D ———	一般配管	硬質ポリ塩化ビニル管 JIS K 6741　(VP)	
◎	リモコン用ケーブル	———	天井内	通信用ケーブル EM-CEES1.25-2C	
◎	運転リモコン	R	壁内	スイッチボックス２個用	電気工事

冷媒管サイズ一覧表

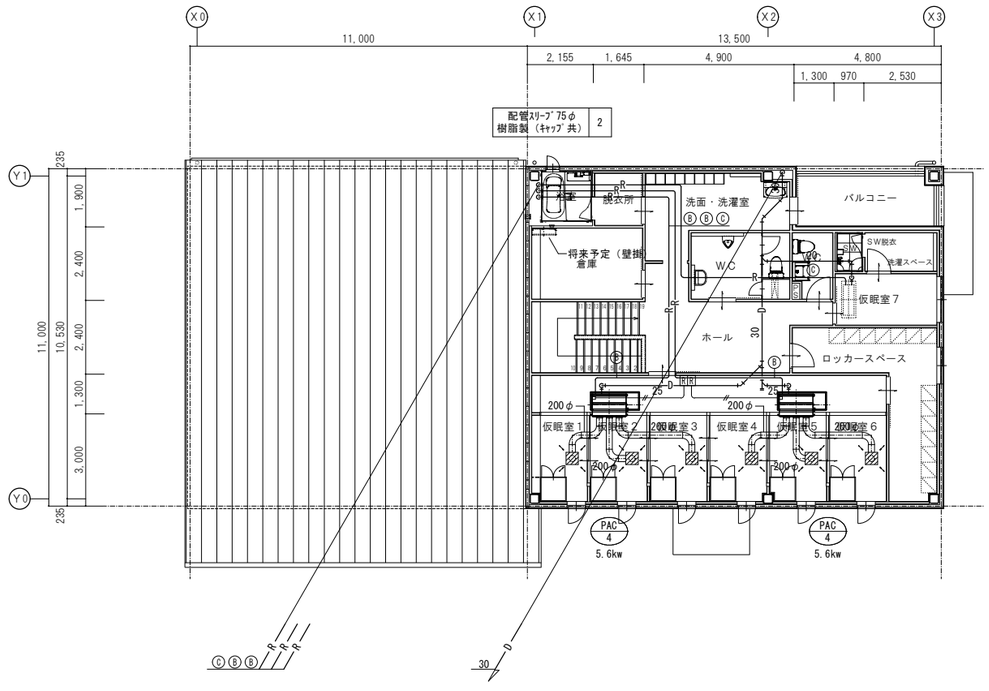
パッケージエアコン	
R1	φ 9.5＋φ6.4
	EEF-2.0-3C
R2	φ 12.7＋φ6.4
	EEF-2.0-3C
R2	φ 15.9＋φ9.5
	EEF-2.0-3C

保温仕様　　（ ◎ 印の付いたものを適用する ）

	名称	施工区分	記号	規格・仕様・摘要
◎	断熱材被覆銅管外装	屋内露出	a2・(ロ)　Ⅶ	グラスウール保温筒にて成形 ＋ 鉄線 ＋ 合成樹脂カバー２
		屋外露出	e2・(ロ)　Ⅶ	グラスウール保温筒にて成形 ＋ 鉄線 ＋ ポリエチレンフィルム ＋ ステンレス鋼板
		屋内隠蔽		
◎	空調排水管	屋内露出	a2・(ロ)　Ⅶ	グラスウール保温筒 ＋ 鉄線 ＋ 合成樹脂カバー２
		屋外露出		
		屋内隠蔽	c2・(ロ)　Ⅶ	アルミガラスクロス化粧保温筒 ＋ アルミガラスクロス粘着テープ



1階平面図　　S=1/100



2階平面図　　S=1/100

仮眠室1～6

名　称	仕　様	数量
多層コーン吹出口	E2#20（SED付）	6
吹出ボックス	400×400×250H	
	消音内貼　GW25t	

冷媒配管・配線リスト

記　号	冷媒配管	室内外機渡り配線	備　考
Ⓐ	9.52/15.88	EM-CE　2Φ-3C+IE1.6	冷媒配管共巻き
Ⓑ	6.35/12.70	EM-CE　2Φ-3C+IE1.6	冷媒配管共巻き
Ⓒ	6.35/9.52	EM-EEF 1.6-3C	冷媒配管共巻き
	ﾘﾓｺﾝ配線	EM-CEE　1.25Φ-2C	ｺﾛﾅｶﾞｼ配線

（A3=A1縮小50%）

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計	設	書	図面番号 M
図面名	空調設備　1・2階平面図　S=1/100	面	計	査	13
一級建築士事務所 県知事登録第１２１５３号 （有）芦田設計		一級建築士　登録第９９０５３号　芦田國廣			

換気設備機器一覧表

機器記号	機 器 名 称	仕様・型式・付属品	数量	備考
HEU-1	全熱交換ユニット	天井埋込カセット形(マイコン)　24H換気機能付　　参考品型番 ： LGH-N25RX3	1	1階　事務室
		風量(強) ： 260㎥/h　　機 外 静 圧 ： 120 Pa　　消 費 電 力 ： 142 W		
		風量(24H) ： 90㎥/h　　機 外 静 圧 ： 40 Pa　　消 費 電 力 ： 46 W		
		電　　源 ： 1相 100V 60Hz		
		付 属 品 ： リモコンスイッチ(微弱運転モード付)		
		給排気グリル （消音型） 100φ(PZ-N10FGP2) ×4		
		SUS製深形フード(防虫網付) φ150×2		
HEU-2	全熱交換ユニット	天井埋込カセット形　　24H換気機能付　　参考品型番 ：LGH-N25CX2	2	1階　食堂・調理室
		風量(強) ： 240㎥/h　　機 外 静 圧 ： 90 Pa　　消 費 電 力 ： 128 W		2階　仮眠室1～6
		風量(24H) ： 90㎥/h　　機 外 静 圧 ： 50 Pa　　消 費 電 力 ： 44 W		
		電　　源 ： 1相 100V 60Hz		
		付 属 品 ： 24H専用強弱コントロールスイッチ		
		SUS製深形フード(防虫網付) φ150×2		
HEU-3	全熱交換ユニット	天井埋込カセット形　　24H換気機能付　　参考品型番 ： VL-100ZS2	1	2階　仮眠室7
		風量(強) ： 50㎥/h　　機 外 静 圧 ： 60 Pa　　消 費 電 力 ： 44 W		
		風量(24H) ： 20㎥/h　　機 外 静 圧 ： 40 Pa　　消 費 電 力 ： 22 W		
		電　　源 ： 1相 100V 60Hz		
		付 属 品 ： 24H専用強弱コントロールスイッチ		
		SUS製深形フード(防虫網付) φ100×2		
FEV-1	天井埋込換気扇	サンタリータイプ　　参考品型番 ： VD-23ZB10	1	1階　救急消毒室
		風量(強) ： 420㎥/h　　機 外 静 圧 ： 120 Pa　　消 費 電 力 ： 82 W		
		風量(弱) ： 250㎥/h　　機 外 静 圧 ： 40 Pa　　消 費 電 力 ： 38 W		
		電　　源 ： 1相 100V 60Hz		
		付 属 品 ： 強弱コントロールスイッチ		
		SUS製深形フード(防虫網付) φ150		
FEV-2	天井埋込換気扇	サンタリータイプ　　参考品型番 ： VD-23ZB10	1	1階　出勤準備室
		風量(強) ： 380㎥/h　　機 外 静 圧 ： 140 Pa　　消 費 電 力 ： 82 W		
		風量(弱) ： 250㎥/h　　機 外 静 圧 ： 40 Pa　　消 費 電 力 ： 38 W		
		電　　源 ： 1相 100V 60Hz		
		付 属 品 ： 強弱コントロールスイッチ		
		SUS製深形フード(防虫網付) φ150		

機器記号	機 器 名 称	仕様・型式・付属品	数量	備考
FEV-3	天井埋込換気扇	サンタリータイプ　　参考品型番 ： VD-18ZB10	1	2階　WC
		風量(単) ： 200㎥/h　　機 外 静 圧 ： 50 Pa　　消 費 電 力 ： 30 W		
		電　　源 ： 1相 100V 60Hz		
		付 属 品 ： SUS製深形フード(防虫網付) φ150		
FEV-4	天井埋込換気扇	サンタリータイプ　　参考品型番 ： VD-15Z10	3	1階　多目的WC
		風量(単) ： 150㎥/h　　機 外 静 圧 ： 70 Pa　　消 費 電 力 ： 16 W		1階　書庫
		電　　源 ： 1相 100V 60Hz		2階　洗面・洗濯室
		付 属 品 ： SUS製深形フード(防虫網付) φ150		
FEV-5	天井埋込換気扇	サンタリータイプ　　参考品型番 ： VD-15ZP10	1	2階　WC
		風量(単) ： 100㎥/h　　機 外 静 圧 ： 70 Pa　　消 費 電 力 ： 23 W		
		電　　源 ： 1相 100V 60Hz		
		付 属 品 ： SUS製深形フード(防虫網付) φ150		
FEV-6	天井埋込換気扇	サンタリータイプ　　参考品型番 ： VD-10Z10	4	1階　WC小
		風量(単) ： 50㎥/h　　機 外 静 圧 ： 50 Pa　　消 費 電 力 ： 10 W		2階　脱衣所
		電　　源 ： 1相 100V 60Hz		2階　SW
		付 属 品 ： SUS製深形フード(防虫網付) φ100		2階　SW脱衣
FEV-7	有圧換気扇	排気専用低騒音形　　参考品型番 ： EWF-50FTA	1	1階　車庫
		風量(単) ： 6,000㎥/h　　機 外 静 圧 ： 47 Pa　　消 費 電 力 ： 540 W		
		電　　源 ： 3相 200V 60Hz		
		付 属 品 ： SUS製ウェザーカバー(防鳥網付)、風圧式シャッター、取付枠		
FV-1	ベンチレーター	風力駆動強制排気装置（ステンレス製）　　参考品型番 ： SB-105	1	1階　油庫
		付 属 品 ： 引火防止網		

※1. コントロールスイッチ類は電気設備工事に支給しその取付及び配管配線は電気設備工事とする。

※2. ベンドキャップは指定色塗装品とする。

シックハウス換気計算書

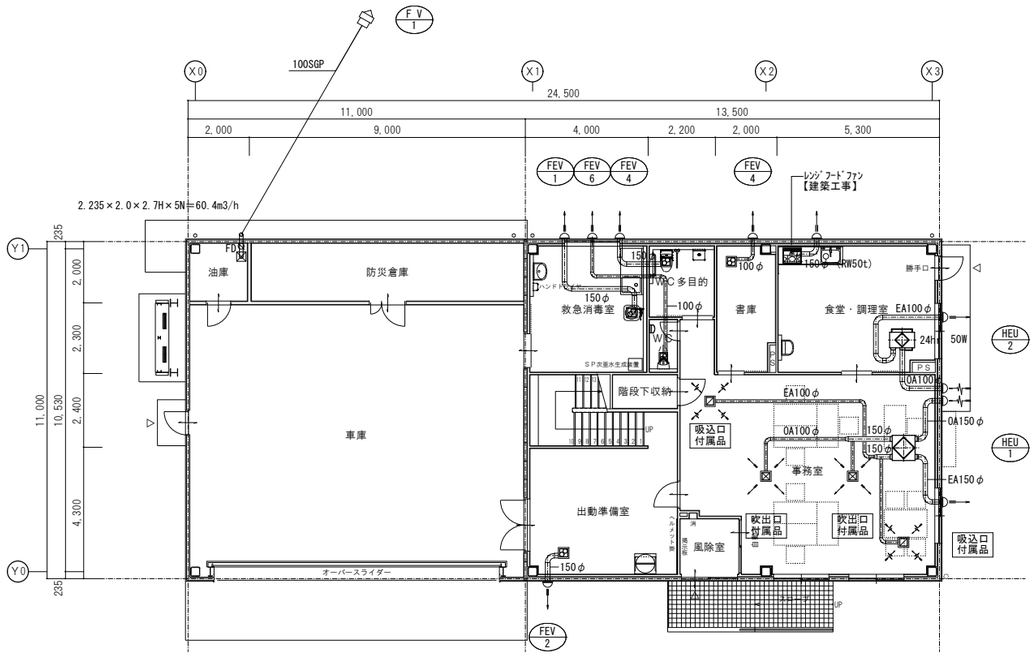
階	室　名	床面積 m2	天井高 m	室容積 m3	換気種別	換気回数 n	必要換気量 m3/h	排気機による給気量（A） m3/h	排気機による排気量（B） m3/h	備　考
1	食堂・調理室	22.79	2.70	61.533	第１種換気	0.5	30.8	90	90	HEU-2
合　計				61.533						
1	事務室	55.11	2.70	148.797	第１種換気	0.5	74.4	90	90	HEU-1
合　計				148.797						
2	仮眠室１～６・廊下	50.52	2.24	113.1648	第１種換気	0.5	56.6	90	90	HEU-2
合　計				113.1648						
2	仮眠室７	6.16	2.70	16.632	第１種換気	0.5	8.3	20	20	HEU-3
合　計				16.632						

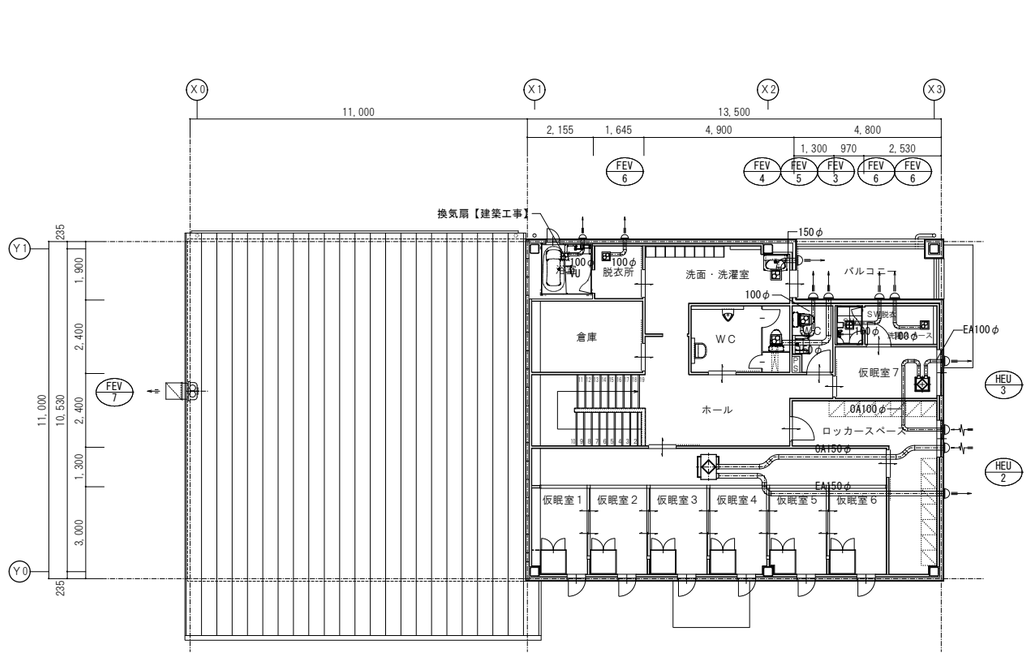
火気使用室換気計算書

階	室　名	床面積 m2	天井高 m	室容積 m3	排気ファン	器具名称	ガス種	消費量 kw	台数	合計消費量 kw	定数 kw/h	理論ｶﾞｽ消費量 m3/kwh	必要換気量 m3	設計換気量 m3
1	食堂・調理室	22.79	2.70	61.533	ﾚﾝｼﾞﾌｰﾄﾞﾌｧﾝ【建築工事】	３口コンロ	ＬＰＧ	9.1	1	9.1	30	0.93	254	400

(A3=A1縮小50%)

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	書査	図面番号 M
図面名	換気設備機器一覧表・換気計算書　NO.SCALE				14
一級建築士事務所 県知事登録第１２１５３号 （有） 芦 田 設 計		一級建築士 登録第 ９９０５３ 号 芦田圀廣			





1階平面図　S=1/100

凡　例
全熱交換ユニットのダクトは給気・排気共保温施工（GW20t）の事。

2階平面図　S=1/100

凡　例
全熱交換ユニットのダクトは給気・排気共保温施工（GW20t）の事。

(A3=A1縮小50%)

工事名	津山圏域消防組合日本原分署新築工事	計画	設計	書査	図面番号 M/15
図面名	換気設備　1・2階平面図　S=1/100				
一級建築士事務所 県知事登録第12153号 （有）芦田設計		一級建築士 登録第99053号 芦田圀廣			